千葉県教育振興財団調査報告第536集

千原台ニュータウンXV

－市原市押沼大六天遺跡（下層）－

平成18年3月

独立行政法人　都市再生機構

財団法人　千葉県教育振興財団

千原台ニュータウンXV

－市原市押沼大六天（おしぬまだいろくてん）遺跡（下層）－

序　　文

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年９月１日付で名称変更）は，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県教育振興財団調査報告第536集として，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千原台地区区画整理事業に伴って実施した市原市押沼大六天遺跡（下層）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，旧石器時代各時期の遺物集中地点が22か所検出され，この地域における旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成18年３月

財団法人千葉県教育振興財団
理事長　佐藤健太郎

凡　　例

1　本書は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社による千原台地区におけるニュータウン建設計画（土地区画整理事業）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録したのは，押沼遺跡群のうち，押沼大六天遺跡（遺跡コード219-020）・同斜面部（同219-021）・押沼林谷遺跡（同219-022）の旧石器時代（下層）資料である。千葉県市原市押沼字大六天826（現ちはら台東４丁目）ほかに所在する。調査時には３地点に分けた遺跡名を使用したが，今回の報告に当たり押沼大六天遺跡の名称に統一することとした。なお，上層については報告書を刊行済みである。

3　発掘調査から報告書刊行に至る業務は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県文化財センター（平成17年９月1日付で財団法人千葉県教育振興財団と名称変更）が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は，第１章第１節に記載した。

5　本書に記載した石器及び石材の分類を上席研究員　島立　桂が，石器の実測を整理課が，原稿執筆及び編集を上席研究員　田島　新が担当した。

6　発掘調査から報告書刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社，市原市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　周辺航空写真は，京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

8　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　　国土地理院発行　　1/25,000 地形図「蘇我」（NI-54-19-15-2）

第２・３図　昭和測量工業株式会社・日本測量株式会社調整昭和46年測量

1/500 千原台地区現況図 №１・３・６（Ⅸ-４・８・15）

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。座標値は，日本測地系である。

10　石材の色の記載については，小山正忠・竹原秀雄 1999『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社の色名を使用し，色の測定にあたっては，第一合成株式会社の土色計「SCR-1」を用いた。

11　挿図に使用した記号の用例は，次のとおりである。黒曜石及び頁岩については肉眼観察ではあるが，原産地を意識して細分した。

石器；ナイフ形石器（KN），台形石器（TP），槍先形石器・有茎尖頭器（PO），角錐状石器（KP），掻器（ES），削器（SS），彫器（GR），錐状石器（DR），楔形石器（PQ），加工痕ある剥片（RF），使用痕ある剥片（UF），石刃（BL），打製石斧（DA），局部磨製石斧（HX），礫器（PT），敲石（HS），台石（AS），剥片（FL），砕片（CH），石核（CO），原石（SM），削片（SP），細石刃核（MC），細石刃（MB）

石材；黒曜石Ａ（OBA：栃木県・高原山産），黒曜石Ｂ（OBB：信州・和田峠周辺産），黒曜石Ｄ（OBD：箱根・畑宿産），黒曜石Ｅ（OBE：伊豆半島周辺産），黒曜石Ｇ（OBG：不明），安山岩（AN），軟質の安山岩＝トロトロ石（TO），流紋岩（RH），頁岩Ａ（SHA：硬質緻密で光沢のある東北産頁岩），頁岩Ｂ（SHB：北関東産の頁岩とくに西荒川産を意識しているが，緑色のものは凝灰岩とした），頁岩Ｃ（SHC：県南嶺岡産の頁岩），頁岩Ｄ（SHD：珪化度の高い頁岩で産地不明のもの），頁岩Ｅ（SHE：上記以外の頁岩），チャート（CH），凝灰岩（TU），粘板岩（SL），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），石英（QU），瑪瑙・玉髄（CC）

礫石材；安山岩（AN），流紋岩（RH），頁岩（SH），チャート（CH），礫岩（CO），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），石英（QU），不明（UK）

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　　1　発掘調査の経緯……1
　　2　調査の方法……2
　第２節　遺跡の位置と環境……2
　　1　遺跡の位置と地形……2
　　2　押沼大六天遺跡と周辺の遺跡……2
　第３節　基本土層……6
第２章　旧石器時代……8
　第１節　調査の概要……8
　第２節　第１文化層……10
　第３節　第２文化層……180
　第４節　第３文化層……208
　第５節　第４文化層……235
　第６節　時期不明・その他……249
第３章　まとめ……251
報告書抄録……巻末

押図目次

第１図　押沼大六天遺跡周辺の旧石器時代遺跡…4
第２図　押沼大六天遺跡調査概要及び基本土層…7
第３図　押沼大六天遺跡ブロック別分布状況……9

第１文化層

第４図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（１）……11
第５図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（２）……12
第６図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（３）……13
第７図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（４）……14
第８図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（５）……15
第９図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（６）……16
第10図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（７）……17
第11図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（８）……18
第12図　Ａ５-Ａブロック出土遺物分布（９）……19
第13図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（１）……30
第14図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（２）……31
第15図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（３）……32
第16図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（４）……33
第17図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（５）……34
第18図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（６）……35
第19図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（７）……36
第20図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（８）……37
第21図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（９）……39
第22図　Ａ５-Ａブロック出土遺物（10）……40

第23図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(11) ……41
第24図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(12) ……42
第25図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(13) ……43
第26図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(14) ……44
第27図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(15) ……45
第28図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(16) ……46
第29図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(17) ……47
第30図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(18) ……48
第31図　Ａ５-Ａブロック出土遺物(19) ……49
第32図　Ｂ４-Ｃブロック出土遺物分布(１) ……54
第33図　Ｂ４-Ｃブロック出土遺物分布(２) ……55
第34図　Ｂ４-Ｃブロック出土遺物(１) ……57
第35図　Ｂ４-Ｃブロック出土遺物(２) ……58
第36図　Ｂ４-Ｃブロック出土遺物(３) ……59
第37図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物分布（１）……61
第38図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物分布（２）……61
第39図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物 ……63
第40図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(１) ……65
第41図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(２) ……66
第42図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(３) ……67
第43図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(４) ……68
第44図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(５) ……70
第45図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(６) ……71
第46図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(７) ……72
第47図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(８) ……74
第48図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(９) ……75
第49図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(10) ……76
第50図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(11) ……77
第51図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(12) ……78
第52図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(13) ……80
第53図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物分布(14) ……81
第54図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(１) ……91
第55図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(２) ……92
第56図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(３) ……94
第57図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(４) ……95
第58図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(５) ……96
第59図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(６) ……97
第60図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(７) ……98
第61図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(８) ……99
第62図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(９) ……100
第63図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(10) ……101
第64図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(11) ……102
第65図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(12) ……103
第66図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(13) ……104
第67図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(14) ……105
第68図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(15) ……106
第69図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(16) ……107
第70図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(17) ……108
第71図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(18) ……109
第72図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(19) ……110
第73図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(20) ……111
第74図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(21) ……112
第75図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(22) ……113
第76図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(23) ……114
第77図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(24) ……115
第78図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(25) ……117
第79図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(26) ……118
第80図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(27) ……119
第81図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(28) ……120
第82図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(29) ……121
第83図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(30) ……122
第84図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(31) ……123
第85図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(32) ……124
第86図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(33) ……125
第87図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(34) ……126
第88図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(35) ……127
第89図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(36) ……128
第90図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(37) ……129
第91図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(38) ……130
第92図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(39) ……131
第93図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(40) ……132
第94図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(41) ……133
第95図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(42) ……134
第96図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(43) ……135

第97図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(44)……136
第98図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(45)……137
第99図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(46)……138
第100図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(47)……139
第101図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(48)……140
第102図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(49)……141
第103図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(50)……142
第104図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(51)……143
第105図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(52)……144
第106図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(53)……145
第107図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(54)……146
第108図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(55)……148
第109図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(56)……149
第110図　Ｃ３-Ａブロック出土遺物(57)……150
第111図　Ｃ４-Ａブロック出土遺物分布(１)…155
第112図　Ｃ４-Ａブロック出土遺物分布(２)…156
第113図　Ｃ４-Ａブロック出土遺物……157
第114図　Ｄ３-Ａブロック出土遺物分布(１)…158
第115図　Ｄ３-Ａブロック出土遺物分布(２)…159
第116図　Ｄ３-Ａブロック出土遺物(１)……163
第117図　Ｄ３-Ａブロック出土遺物(２)……164
第118図　Ｄ３-Ａブロック出土遺物(３)……165
第119図　Ｄ３-Ａブロック出土遺物(４)……166
第120図　Ｄ３-Ａブロック出土遺物(５)……167
第121図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物分布(１)…168
第122図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物分布(２)…168
第123図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物……169
第124図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布(１)…170
第125図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布(２)…170
第126図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物……170
第127図　Ｄ３-Ｂブロック出土遺物分布(１)…172
第128図　Ｄ３-Ｂブロック出土遺物分布(２)…172
第129図　Ｄ３-Ｂブロック出土遺物……172
第130図　Ｄ４-Ｃブロック出土遺物分布(１)…173
第131図　Ｄ４-Ｃブロック出土遺物分布(２)…174
第132図　第１文化層ブロック外出土遺物分布…175
第133図　第１文化層ブロック外出土遺物……176
第134図　233号土坑……177
第135図　第１文化層炭化物集中地点（１）……178
第136図　第１文化層炭化物集中地点（２）……179

第２文化層

第137図　Ａ４-Ａブロック出土遺物分布(１)…181
第138図　Ａ４-Ａブロック出土遺物分布(２)…182
第139図　Ａ４-Ａブロック出土遺物(１)……184
第140図　Ａ４-Ａブロック出土遺物(２)……185
第141図　Ａ４-Ａブロック出土遺物(３)……186
第142図　Ａ４-Ａブロック出土遺物(４)……187
第143図　Ａ４-Ａブロック出土遺物(５)……188
第144図　Ａ５-Ｂブロック出土遺物分布(１)…190
第145図　Ａ５-Ｂブロック出土遺物分布(２)…190
第146図　Ａ５-Ｂブロック出土遺物……192
第147図　Ａ５-Ｃブロック出土遺物分布(１)…194
第148図　Ａ５-Ｃブロック出土遺物分布(２)…195
第149図　Ａ５-Ｃブロック出土遺物(１)……197
第150図　Ａ５-Ｃブロック出土遺物(２)……198
第151図　Ａ５-Ｄブロック出土遺物分布(１)…199
第152図　Ａ５-Ｄブロック出土遺物分布(２)…199
第153図　Ａ５-Ｄブロック出土遺物……199
第154図　Ｂ４-Ａブロック出土遺物分布(１)…201
第155図　Ｂ４-Ａブロック出土遺物分布(２)…201
第156図　Ｂ４-Ａブロック出土遺物……202
第157図　Ｂ４-Ｂブロック出土遺物分布(１)…204
第158図　Ｂ４-Ｂブロック出土遺物分布(２)…204
第159図　Ｂ４-Ｂブロック出土遺物……205
第160図　Ｃ４-Ｂブロック出土遺物分布(１)…206
第161図　Ｃ４-Ｂブロック出土遺物分布(２)…206

第３文化層

第162図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物分布(１)…209
第163図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物分布(２)…210
第164図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物分布(３)…211
第165図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物(１)……215
第166図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物(２)……216

第167図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物（３）……217
第168図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物（４）……218
第169図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物（５）……219
第170図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物（６）……220
第171図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物（７）……221
第172図　Ｂ４-Ｄブロック出土遺物（８）……223
第173図　Ｂ４-Ｅブロック出土遺物分布（１）…225
第174図　Ｂ４-Ｅブロック出土遺物分布（２）…226
第175図　Ｂ４-Ｅブロック出土遺物（１）……227
第176図　Ｂ４-Ｅブロック出土遺物（２）……228
第177図　Ｂ４-Ｅブロック出土遺物（３）……229
第178図　Ｂ４-Ｅブロック出土遺物（４）……230
第179図　Ｂ４-Ｅブロック出土遺物（５）……231

第４文化層

第180図　Ａ４-Ｂブロック出土遺物分布（１）…236
第181図　Ａ４-Ｂブロック出土遺物分布（２）…236
第182図　Ａ４-Ｂブロック出土遺物 ……237
第183図　Ｄ４-Ａブロック出土遺物分布（１）…238
第184図　Ｄ４-Ａブロック出土遺物分布（２）…238
第185図　Ｄ４-Ａブロック出土遺物分布（３）…239
第186図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物分布（１）…241
第187図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物分布（２）…242
第188図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物分布（３）…243
第189図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物分布（４）…244
第190図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物分布（５）…244
第191図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物分布（６）…245
第192図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物分布（７）…245
第193図　Ｄ４-Ｂブロック出土遺物 ……246
第194図　第４文化層ブロック外出土遺物分布…248
第195図　第４文化層ブロック外出土遺物……248

時期不明

第196図　時期不明出土遺物分布……249
第197図　時期不明出土遺物……249
第198図　時期不明炭化物集中地点……250

まとめ

第199図　ブロック別石器垂直分布グラフ（１）…253
第200図　ブロック別石器垂直分布グラフ（２）…254
第201図　ブロック別石器垂直分布グラフ（３）…255

表　目　次

第１文化層

第１表　Ａ５-Ａブロック母岩別石器組成 ……50
第２表　Ａ５-Ａブロック石材別石器組成 ……53
第３表　Ａ５-Ａブロック礫組成 ……53
第４表　Ｂ４-Ｃブロック母岩別石器組成 ……60
第５表　Ｂ４-Ｃブロック石材別石器組成 ……60
第６表　Ｃ２-Ａブロック母岩別石器組成 ……62
第７表　Ｃ２-Ａブロック石材別石器組成 ……62
第８表　Ｃ２-Ａブロック礫組成 ……62
第９表　Ｃ３-Ａブロック母岩別石器組成……151
第10表　Ｃ３-Ａブロック石材別石器組成……154
第11表　Ｃ３-Ａブロック礫組成……154
第12表　Ｃ４-Ａブロック母岩別石器組成……155
第13表　Ｃ４-Ａブロック石材別石器組成……156
第14表　Ｄ３-Ａブロック母岩別石器組成……162
第15表　Ｄ３-Ａブロック石材別石器組成……162
第16表　Ｃ２-Ｂブロック母岩別石器組成……169
第17表　Ｃ２-Ｂブロック石材別石器組成……169
第18表　Ｄ２-Ａブロック母岩別石器組成……171
第19表　Ｄ２-Ａブロック石材別石器組成……171
第20表　Ｄ３-Ｂブロック母岩別石器組成……172
第21表　Ｄ３-Ｂブロック石材別石器組成……172

第22表　Ｄ４-Ｃブロック母岩別石器組成……174
第23表　Ｄ４-Ｃブロック石材別石器組成……174

第２文化層
第24表　Ａ４-Ａブロック母岩別石器組成……188
第25表　Ａ４-Ａブロック石材別石器組成……189
第26表　Ａ５-Ｂブロック母岩別石器組成……191
第27表　Ａ５-Ｂブロック石材別石器組成……191
第28表　Ａ５-Ｂブロック礫組成……191
第29表　Ａ５-Ｃブロック母岩別石器組成……196
第30表　Ａ５-Ｃブロック石材別石器組成……196
第31表　Ａ５-Ｄブロック母岩別石器組成……200
第32表　Ａ５-Ｄブロック石材別石器組成……200
第33表　Ａ５-Ｄブロック礫組成……200
第34表　Ｂ４-Ａブロック母岩別石器組成……202
第35表　Ｂ４-Ａブロック石材別石器組成……202
第36表　Ｂ４-Ｂブロック母岩別石器組成……205
第37表　Ｂ４-Ｂブロック石材別石器組成……205
第38表　Ｂ４-Ｂブロック礫組成……205
第39表　Ｃ４-Ｂブロック母岩別石器組成……207
第40表　Ｃ４-Ｂブロック石材別石器組成……207
第41表　Ｃ４-Ｂブロック礫組成……207

第３文化層
第42表　Ｂ４-Ｄブロック母岩別石器組成……222
第43表　Ｂ４-Ｄブロック石材別石器組成……223
第44表　Ｂ４-Ｄブロック礫組成……223
第45表　Ｂ４-Ｅブロック母岩別石器組成……234
第46表　Ｂ４-Ｅブロック石材別石器組成……234

第４文化層
第47表　Ａ４-Ｂブロック母岩別石器組成……235
第48表　Ａ４-Ｂブロック石材別石器組成……237
第49表　Ｄ４-Ａブロック母岩別石器組成……239
第50表　Ｄ４-Ａブロック石材別石器組成……239
第51表　Ｄ４-Ａブロック礫組成……240
第52表　Ｄ４-Ｂブロック母岩別石器組成……242
第53表　Ｄ４-Ｂブロック石材別石器組成……243
第54表　Ｄ４-Ｂブロック礫組成……247

図版目次

カラー図版
1．第１文化層出土遺物１
2．第１文化層出土遺物２
3．第１文化層出土遺物３
4．第１文化層出土遺物４
5．第１文化層出土遺物５
6．第１文化層出土遺物６
7．第１文化層出土遺物７
8．第１文化層出土遺物８
9．第１文化層出土遺物９
10．第１文化層出土遺物10
11．第１文化層出土遺物11
12．第１文化層出土遺物12
13．第１文化層出土遺物13
14．第２文化層出土遺物１
15．第２文化層出土遺物２・第３文化層出土遺物１
16．第３文化層出土遺物２・第４文化層出土遺物・時期不明出土遺物
17．接合資料１
18．接合資料２
19．接合資料３
20．接合資料４

図版
図版１　押沼大六天遺跡周辺航空写真（1/10,000）

図版 2　土層断面，第 1 文化層遺物出土状況 1
図版 3　第 1 文化層遺物出土状況 2
図版 4　第 1 文化層遺物出土状況 3
図版 5　第 1 文化層233号土坑，
　　第 1 文化層炭化物集中地点 1
図版 6　第 1 文化層炭化物集中地点 2，
　　第 2 文化層遺物出土状況
図版 7　第 3 文化層遺物出土状況，
　　第 4 文化層遺物出土状況，
　　第 1 ～ 3 文化層石器出土状況

第1章　は　じ　め　に

第1節　調査の概要

1　発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に，住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため，千葉県教育委員会は，事業地内の用地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，記録保存については，財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

今回報告する押沼大六天遺跡・同斜面部・押沼林谷遺跡の調査は，昭和58年度と昭和59年度に行われた。また，押沼大六天遺跡（上層）及び押沼第１・第２遺跡（上層）については，すでに報告書を刊行している。

本書は押沼大六天遺跡から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので，発掘調査及び整理作業に関わる各年度の実施内容・担当者は以下のとおりである。

昭和58年度

組　織　班長　三森俊彦

担当者　押沼大六天遺跡（斜面部）　柴田龍司・金子　進

押沼大六天遺跡　柴田龍司・金子　進

押沼林谷遺跡　柴田龍司・金子　進

内　容　押沼大六天遺跡（斜面部）　下層調査対象面積　14,500㎡

押沼大六天遺跡　下層調査対象面積　8,000㎡

押沼林谷遺跡　下層調査対象面積　1,200㎡

昭和59年度

組　織　班長　古内　茂

担当者　押沼大六天遺跡　柴田龍司・金子　進

内　容　押沼大六天遺跡　下層調査対象面積　10,000㎡

平成15年度

組　織　所長　谷　旬

担当者　島立　桂

内　容　水洗・注記から接合まで

平成16年度

重点遺跡整理促進事業

組　織　課長　及川淳一

担当者　渡辺修一・大久保奈奈（整理技術員）

内　容　実測・トレースまで

平成17年度

組　織　所長　谷　旬

担当者　田島　新

内　容　素図作成から報告書刊行まで

2　調査の方法

発掘区の設定は，国家座標を基準として40ｍ×40ｍの大グリッドを設け，この中を４ｍ×４ｍの小グリッドに分割して行った。また，下層確認調査では，小グリッドをさらに４分割して２ｍ×２ｍのグリッドを設定し，調査対象面積の４％を基本として武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。

押沼大六天遺跡では，同一台地上の遺跡に対して押沼大六天遺跡，同斜面部，押沼林谷遺跡と遺跡名を分けて調査を実施した。出土遺物は，４ｍ×４ｍの小グリッドごとに１点ずつ取り上げた。

第２節　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地形

押沼大六天遺跡は，ちはら台ニュータウン造成地域の北東端，市原市ちはら台東４丁目（旧押沼字大六天826）ほかに所在し，村田川中流域北岸の茂呂支谷が樹枝状に入り組んだ最奥部の台地に位置する。千葉市街地からは東南へ12km，下総台地南部を西に向かって流れる村田川の河口からは７kmほど上流の右岸台地上で，現河川からは１kmほど離れている。西側と南側は，茂呂支谷に接しており，標高は，40ｍ～50ｍの下総台地上位面である。

2　押沼大六天遺跡と周辺の遺跡（第１図）

押沼大六天遺跡からは，旧石器時代から奈良・平安時代にかけての各種遺構が検出された。主な遺構としては，旧石器時代各時期の石器ブロック，縄文時代早期の炉穴，奈良・平安時代の集落と製鉄関連遺構などである。旧石器時代については，立川ローム層下部から上部に至る各層から約3,800点の石器・礫が出土しており，22か所のブロックを確認している。

押沼大六天遺跡を含む押沼遺跡群（１～３）は，ちはら台地区北東部端にあたり，村田川に沿って分布する旧石器時代の遺跡としては，草刈遺跡などとともに最も下流に位置する（１）。ちはら台ニュータウン事業地内において旧石器時代石器群が出土した遺跡を，村田川を遡りながらあげてみると草刈遺跡（４），草刈六之台遺跡（５），中永谷遺跡（６），川焼台遺跡（７），田川鶴牧遺跡（８），鶴牧古墳群（９），ナキノ台遺跡（10），ばあ山遺跡（11），野馬堀遺跡（12）が並ぶ。押沼遺跡群は，これらの遺跡のさらに奥に位置している。

押沼大六天遺跡では，立川ローム層Ⅸ層からⅢ層にかけて，４枚の文化層が確認され，Ⅶ層からⅨ層下部で多くのブロックが検出されている。

また，整理作業が未了のため詳細は不明であるが，押沼遺跡群の中では，押沼大六天遺跡に隣接する押沼第１遺跡Ｇ地点でⅥ層石器群，押沼第２遺跡で黒曜石や珪質頁岩による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

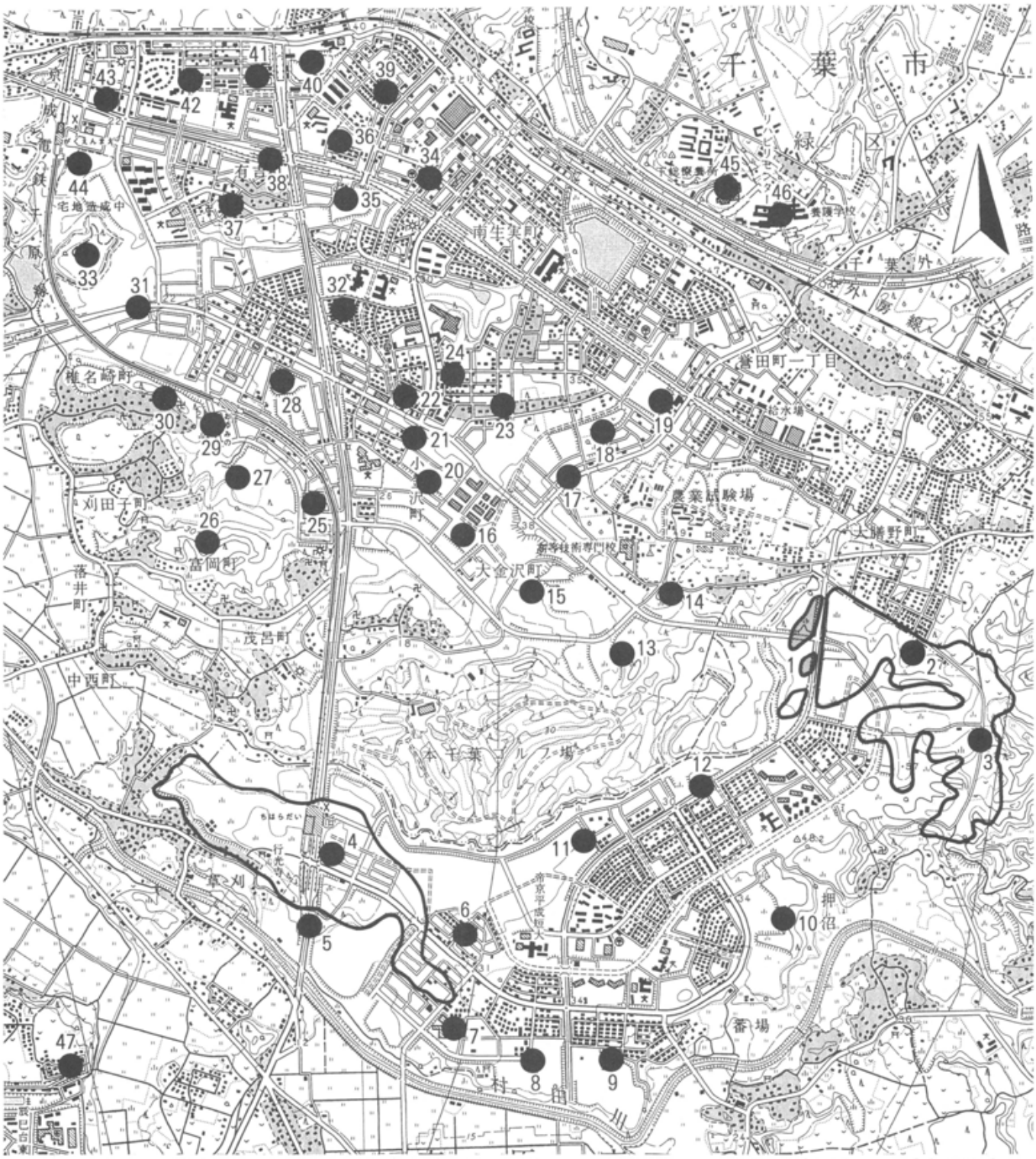
草刈遺跡では，武蔵野ローム層XI層から立川ローム層III層にかけて7枚の文化層が確認された。最も古い第1文化層は，C区の武蔵野ローム層XI層から立川ローム層X層最下部にかけて出土した県内最古の石器群である。第2文化層は，X層，IXc層で確認した3枚の文化層からは，それぞれ嶺岡産珪質頁岩の台形石器や楔形石器などに石斧が伴っている。第3文化層は，IX層下部から出土した石器群で，嶺岡産珪質頁岩の台形石器に石斧が伴う。第4文化層は，VII層からIX層上部にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されている。房総半島南部産の石材による不定型な剥片石器群を主体とし，これに遠隔地石材による石刃石器群が搬入品として存在する。この文化層は出土層位の差などから2～3時期に細分される可能性が指摘されている。第5文化層は，VII層上部からVI層にかけて出土した石器群で，3種類のブロックが存在する。①東北産頁岩による石刃石器群，②東北産と推定される頁岩と信州産黒曜石による小型の石刃石器群及び不定型な剥片石器群，③房総半島南部産と推定される石材による不定型な剥片石器群である。これらは，概ね同時期に帰属するが，若干の編年的差異が想定されている。第6文化層はハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で，武蔵野台地におけるIV層下部の石器群に対応するものと考えられている。信州産黒曜石，房総半島南部産の石材，上総丘陵砂礫層の石材などによるナイフ形石器や角錐状石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第7文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を指標とする石器群などが出土しており，3時期の時間差が想定されている。また，M区では特異な剥片剥離技術を伴っている。

草刈六之台遺跡では，立川ローム層X層からIII層にかけて7枚の文化層が確認されたが，VI層以下の資料が充実している。とくにX層，IX層下部，IX層上部で確認した3枚の文化層からは，それぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。さらにIX層下部では神津島産黒曜石による大型の台形石器，IX層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧とともに石斧用の砥石が伴っており，草刈遺跡との関係が想定される。

中永谷遺跡では立川ローム層VII層とIV層下部の資料が中心である。野馬堀遺跡ではX層，IV層，III層から剥片類が，ばあ山遺跡では石刃，槍先形石器が出土している。それ以外の遺跡については，整理作業が未了のため詳細は不明であるが，ナキノ台遺跡で多量の焼礫を伴うIV層下部の石器群及び同層の住居跡と考えられる竪穴遺構が発見されている。また，第2黒色帯下部からは石刃や刃部磨製石斧を伴う石器群が出土している。

草刈遺跡の北側では，東南部ニュータウン事業地内を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。大規模な遺跡は少ないが，一地域全体の様子を窺うことのできる貴重な資料である。以下，出土層位ごとに概観する。

X層の資料ははっきりしないが，高沢遺跡（42）ではIX層下部からX層上部で楔形石器，刃部磨製石斧に関係すると考えられる剥片を利用した加工痕ある剥片，小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石材は半数が良質の黒曜石（信州産か）で，このほか玉髄，凝灰岩，頁岩がある。IX層の資料は多くの遺跡で出土している。白鳥台遺跡（19）では安山岩製の楔形石器，剥片類に軟質砂岩による石斧用の砥石が伴っている。城ノ台遺跡（33）でも安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。環状ブロック群の一部かも知れない。鎌取遺跡（39）では安山岩による台形石器を主体とする石器群と頁岩製の石刃石器群がブロックを違えて出土している。小金沢貝塚（22），馬ノ口遺跡（34）でも台形石器を含む石器群がある。有吉城跡（37）では石斧が数点出土しているが，頻繁な刃部再生の後，楔形石器や



1　押沼大六天遺跡　2　押沼第１遺跡　3　押沼第２遺跡　4　草刈遺跡　5　草刈六之台遺跡　6　中永谷遺跡
7　川焼台遺跡　8　鶴牧遺跡　9　鶴牧古墳群　10　ナキノ台遺跡　11　ばあ山遺跡　12　野馬堀遺跡　13　バクチ穴遺跡
14　大膳野南貝塚　15　太田法師遺跡　16　ムコアラク遺跡　17　六通金山遺跡　18　六通神社南遺跡　19　白鳥台遺跡
20　御塚台遺跡　21　小金沢古墳群　22　小金沢貝塚　23　六通貝塚　24　六通遺跡　25　神明社裏遺跡　26　春日作遺跡
27　椎名崎古墳群Ｃ支群　28　椎名崎古墳群Ｂ支群　29　今台遺跡　30　椎名神社遺跡　31　椎名崎遺跡　32　木戸作遺跡
33　城ノ台遺跡　34　馬ノ口遺跡　35　有吉南貝塚　36　有吉北貝塚　37　有吉城跡　38　有吉南遺跡　39　鎌取遺跡
40　鎌取場台遺跡　41　南二重堀遺跡　42　高沢遺跡　43　有吉遺跡　44　上赤塚遺跡　45　辺田山谷遺跡　46　コロニー内遺跡
47　大厩遺跡

第１図　押沼大六天遺跡周辺の旧石器時代遺跡（1／25,000）

石核に転用されている。六通金山遺跡（17）でも刃部磨製石斧が出土している。

Ⅶ層からⅥ層では，バクチ穴遺跡（13）で高原山産と考えられる黒曜石やメノウを中心とする切出形のナイフ形石器，角錐状石器，掻器の一群があり，類例は鎌取遺跡，小金沢古墳群（21），有吉遺跡（43）などでも出土している。小金沢古墳群，鎌取場台遺跡（40）では礫群も見られる。

Ⅲ層には複数時期の石器群があるが，有吉遺跡（第４次調査）からは，旧石器時代終末期に帰属する細身の木葉形による槍先形石器のブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群にもあり，槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（16）では，樋状剥離をもつ槍先形石器がある。

細石刃石器群の出土は乏しいが，春日作遺跡（26）からは嶺岡産珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は得られていない。また，椎名崎古墳群Ｂ支群（28）でも古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

六通神社南遺跡（18）では土器出現期に帰属する大型の槍先形石器がまとまっており，石器石材の原産地推定分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。また，東南部ニュータウン北東に隣接する辺田山谷遺跡（45）では，富里市南大溜袋遺跡に代表される狭長な槍先形石器が散見される。

東南部ニュータウンでは，このほかにも，神明社裏遺跡（25）などで多数の旧石器時代資料が出土しているが，整理作業が未了のため詳細は不明である。

千原台ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1980　『千原台ニュータウンⅠ（野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他）』

（財）千葉県文化財センター　1983　『千原台ニュータウンⅡ　草刈遺跡Ａ区（第１次調査）　鶴牧古墳群・人形塚』

（財）千葉県文化財センター　1986　『千原台ニュータウンⅢ　草刈遺跡（Ｂ区）』

（財）千葉県文化財センター　1991　『千原台ニュータウンⅣ　中永谷遺跡』

（財）千葉県文化財センター　1994　『千原台ニュータウンⅥ　－草刈六之台遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅧ　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』

（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅨ　－市原市押沼第１・第２遺跡（上層）－』

（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンⅩ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』

（財）千葉県文化財センター　2005　『千原台ニュータウンⅩⅢ　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』

千葉東南部ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン６　－椎名崎遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン７　－木戸作遺跡（第２次）－』

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン８　－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』

（財）千葉県文化財センター　1980　『千葉東南部ニュータウン９　－六通遺跡・御塚台遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1982　『千葉東南部ニュータウン10　－小金沢貝塚－』

（財）千葉県文化財センター　1981　『千葉東南部ニュータウン11　－六通金山遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン12　－南二重堀遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン14　－バクチ穴遺跡・有吉遺跡（第３次）・有吉南遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1984　『千葉東南部ニュータウン15　－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1990　『千葉東南部ニュータウン17　－高沢遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1993　『千葉東南部ニュータウン18　－鎌取遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1998　『千葉東南部ニュータウン19　－千葉市有吉北貝塚１－』
（財）千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン21　－有吉遺跡（第４次）・高沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン22　－鎌取場台－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン26　－千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン27　－千葉市春日作遺跡－』
2004　『千葉東南部ニュータウン29　－千葉市バクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有吉城跡２（旧石器時代）－』
2005　『千葉東南部ニュータウン32　－千葉市小金沢古墳群２－』

第３節　基本土層

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は，土層の色調やスコリア等の内容物の記載がないため，詳細は不明だが，概ね下総台地で広く観察される基本層序と共通するものと考えられる。また，千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第２黒色帯下部中の間層（Ⅸｂ層）が確認されており，当地域の中では草刈遺跡同様，比較的良好な堆積状況を示しているといえる。立川ローム層の厚さは，斜面部で1.4ｍ，台地平坦部で1.7ｍである（第２図）。

Ⅲ層：軟質ロームで，厚さは40㎝～50㎝である。

Ⅳ層：硬質ロームである。武蔵野台地のⅣ層上部に相当する層は軟質化してⅢ層に取り込まれており，本層は武蔵野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。厚さは20㎝～30㎝である。

Ⅴ層：硬質ロームで，第１黒色帯に相当する。厚さは10㎝～20㎝ほどである。

Ⅵ層：硬質ロームで，主に火山ガラスによって構成されるＡＴ（姶良丹沢火山灰層）のブロックがまとまっている。厚さは10㎝～20㎝である。

Ⅶ層：硬質ロームで，第２黒色帯上半部に相当する。厚さは10㎝～20㎝である。

Ⅸ層：硬質ロームで，第２黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されていたり，Ⅶａ層（現在のⅦ層下部とⅨａ層），Ⅶｂ層（現在のⅨｂ層），Ⅶｃ層（現在のⅨｃ層）に区分されたりしている。整理作業の中で細分可能な場合は，以下のとおりとした。

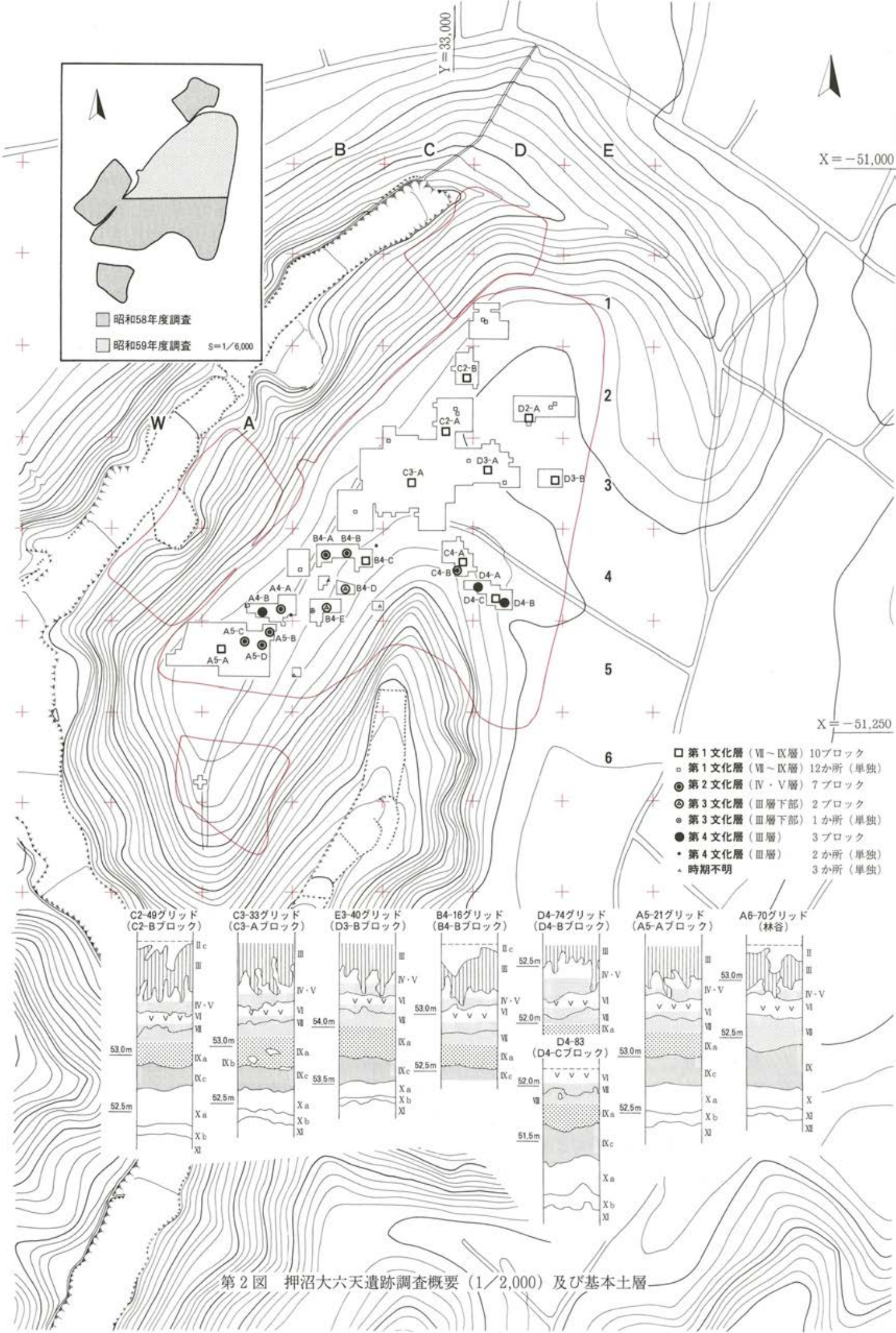
Ⅸａ層：硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の上層にあたる。厚さは20㎝～30㎝である。

Ⅸｂ層：硬質ローム層で，第２黒色帯下半部中の間層である。安定した土層ではないが，一部で確認できた。

Ⅸｃ層：硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の下層にあたる。厚さは20㎝～40㎝である。

Ⅹ層：硬質ローム層である。厚さは20㎝～40㎝である。さらに２枚に分層される地点もある。

Ⅺ層：硬質ローム層で，Ⅹ層との境界は波状をなし，不整合になっている。武蔵野ローム層最上部と考られる。



第2図　押沼大六天遺跡調査概要（1／2,000）及び基本土層

第2章　旧石器時代

第1節　調査の概要

押沼大六天遺跡では，旧石器時代（下層）調査を昭和58年度と昭和59年度に実施した。調査区の位置は，押沼遺跡群の西端にあたり，西側と南側は，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面している。

昭和58年度については，押沼大六天遺跡は8,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて1,852㎡の本調査を行った。押沼大六天遺跡（斜面部）は14,500㎡が調査対象であったが，ローム層の堆積状況が悪かったため，調査に至らなかった。押沼林谷遺跡は1,200㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，調査を終了した。

昭和59年度については，押沼大六天遺跡は10,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて3,082㎡の本調査を行った。

調査の結果，ブロック22か所と単独出土地点18か所，土坑１基，炭化物集中地点18か所を検出した（第２・３図）。本遺跡における22か所のブロックは以下のとおり，４枚の文化層に区分された。

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に包含される石器群で，石器2,512点，礫９点が10か所のブロック（A5-A，B4-C，C2-A，C3-A，C4-A，D3-A，C2-B，D2-A，D3-B，D4-Cブロック）と12か所の単独出土地点から出土した。本文化層は出土層位に幅があり，石器群の内容も一様ではないことから，２～３時期に細分される可能性もある。また，D3-44グリッドでは土坑が検出されており，隣接するD3-43グリッドからはC3-Aブロックの遺物と接合する剥片が発見されている。さらに，16か所の炭化物集中地点（C-１～C-16）が検出されている。

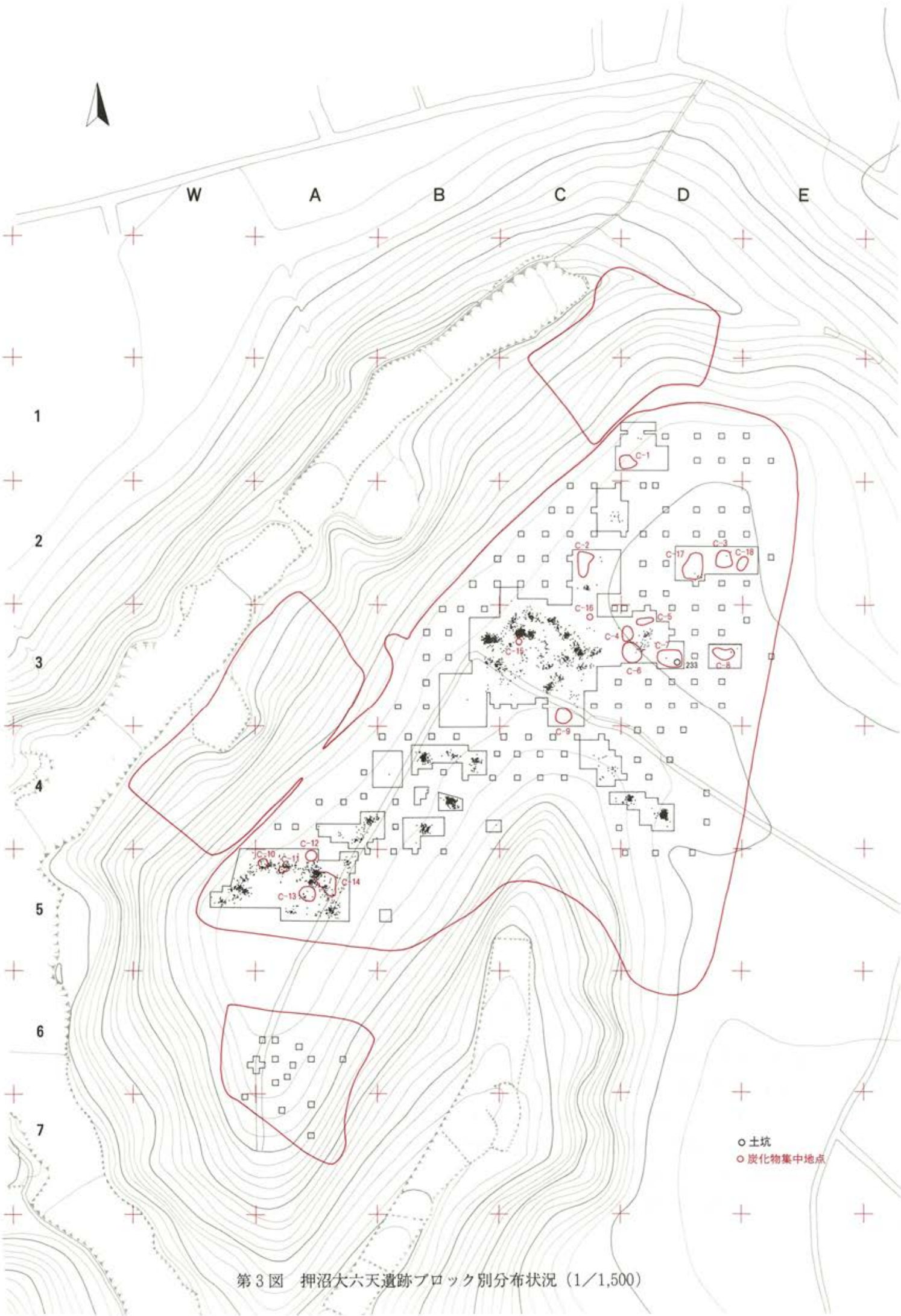
第２文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部（Ⅳ・Ⅴ層）を中心に包含される石器群で，石器451点，礫11点が７か所のブロック（A4-A，A5-B・C・D，B4-A・B，C4-Bブロック）から出土した。武蔵野台地のⅤ層ないしⅣ層下部の石器群に相当すると考えられる。また，調査時には，押沼林谷遺跡のⅤ層からⅣ層にかけて，礫片が１点出土しており，本文化層に帰属すると考えられるが，その後に紛失したため，詳細は不明である。

第３文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層下部）を中心に包含される石器群で，石器321点，礫１点が２か所のブロック（B4-D・Eブロック）と１か所の単独出土地点から出土した。武蔵野台地のⅣ層上部のいわゆる「砂川期」の石器群に相当すると考えられる。

第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で，石器147点，礫321点が３か所のブロック（A4-B，D4-A・Bブロック）と２か所の単独出土地点及び上層遺構から出土した。槍先形石器とナイフ形石器を組成する旧石器時代終末期の石器群と考えられる。本文化層はブロック間で石器群の内容に若干相違があることから，２時期に細分される可能性もある。

この他，３か所の単独出土地点，２か所の炭化部集中地点（C-17，C-18）については，出土層準が不明なため，帰属文化層を決定することができなかった。

また，単独で出土した石器の中で縄文時代草創期の有茎尖頭器については，本報告書に記載した。



第３図　押沼大六天遺跡ブロック別分布状況（1／1,500）

第２節　第１文化層

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に包含されている石器群である。A5-A，B4-C，C2-A，C3-A，C4-A，D3-A，C2-B，D2-A，D3-B，D4-Cブロックの10か所が該当する。

なお，出土層位や石器群の内容等が一様ではないことから，２～３時期に細分される可能性もあるが，B4-C・C2-A・C3-A・D3-Aにはブロック間に接合関係や母岩の共有関係があることから同時期と考えられる。また，A5-Aブロックについても，C3-Aブロックに極めて類似した母岩があり，別母岩としたが，もし同一母岩であれば，ほぼ同時期あるいは近接した時期が考えられる。他に，単独出土地点12か所，土坑１基，炭化物集中地点16か所を検出した。

１　A5-Aブロック（第４～31・199図，第１～３表，カラー図版１～３・17，図版２・７）

１）ブロックの概要

A5-Aブロックは，調査範囲南側のW5-09・19・27～29・37～39・46～48，A5-00～03・10～15・21・23～25・33～36・42～46・52～56グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

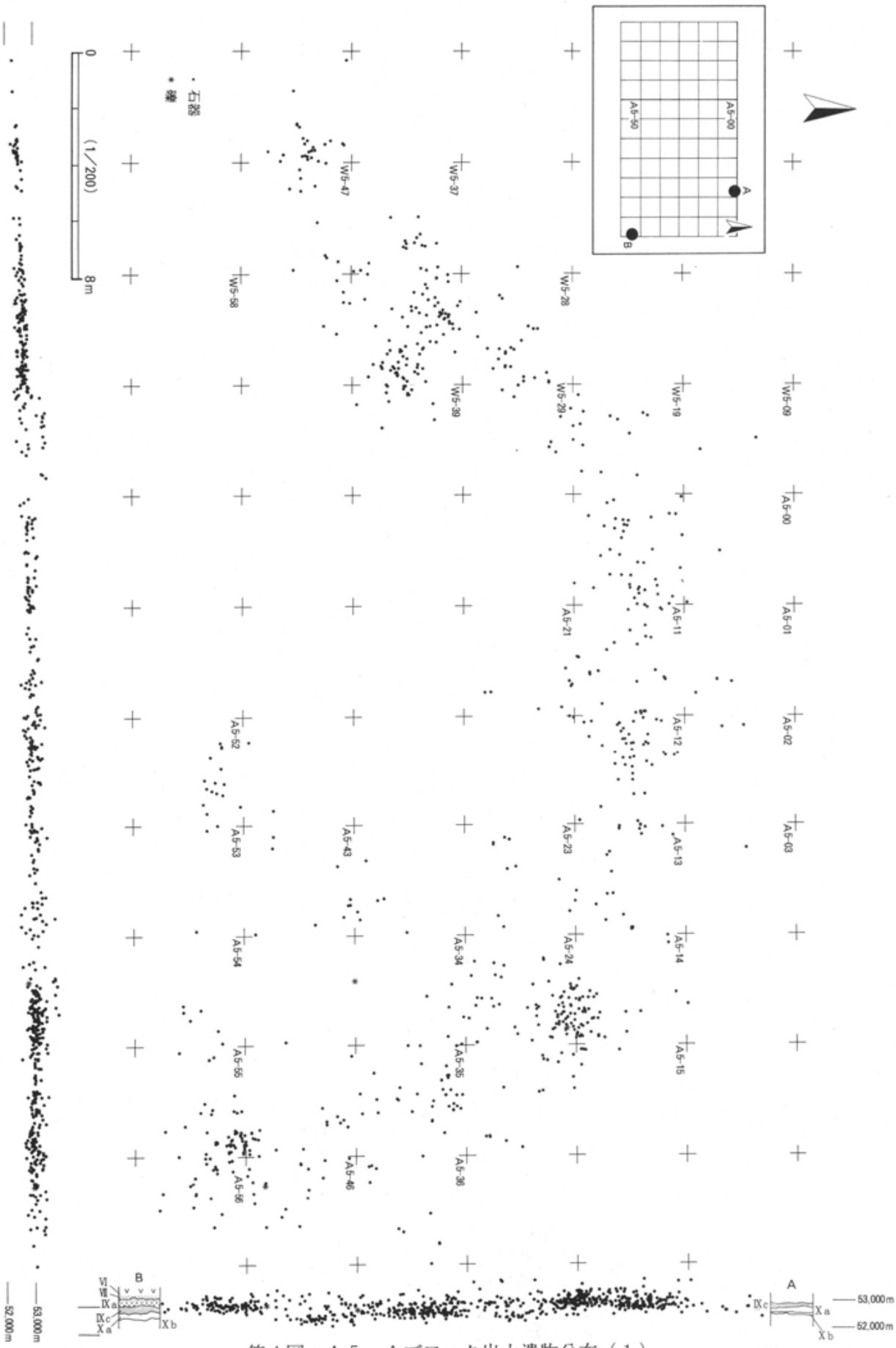
ブロックの規模と形状は，長軸43ｍ，短軸20ｍの範囲に722点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からＸｂ層にかけてで，180㎝ほどの高低差をもっているが，中心はⅨａ層からⅨｃ層で，80㎝ほどの高低差をもって包含されている（第４～12図）。

ブロックは，台形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片11点，使用痕ある剥片14点，石斧２点，敲石４点，剥片620点（607個体），砕片５点，石核57点（52個体），礫７点の合計722点（704個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ22点，黒曜石Ｂ１点，黒曜石Ｄ２点，黒曜石Ｇ４点，安山岩95点（92個体），軟質の安山岩29点（28個体），流紋岩94点（91個体），頁岩Ｂ３点（１個体），頁岩Ｃ195点（191個体），頁岩Ｄ６点，頁岩Ｅ29点，チャート39点（38個体），凝灰岩30点（29個体），砂岩45点，ホルンフェルス78点（77個体），瑪瑙・玉髄43点（42個体）である。礫石材は，流紋岩１点（１母岩；21.4ｇ），チャート１点（１母岩；15.0ｇ），砂岩５点（５母岩；229.6ｇ）で，識別率は100％である。

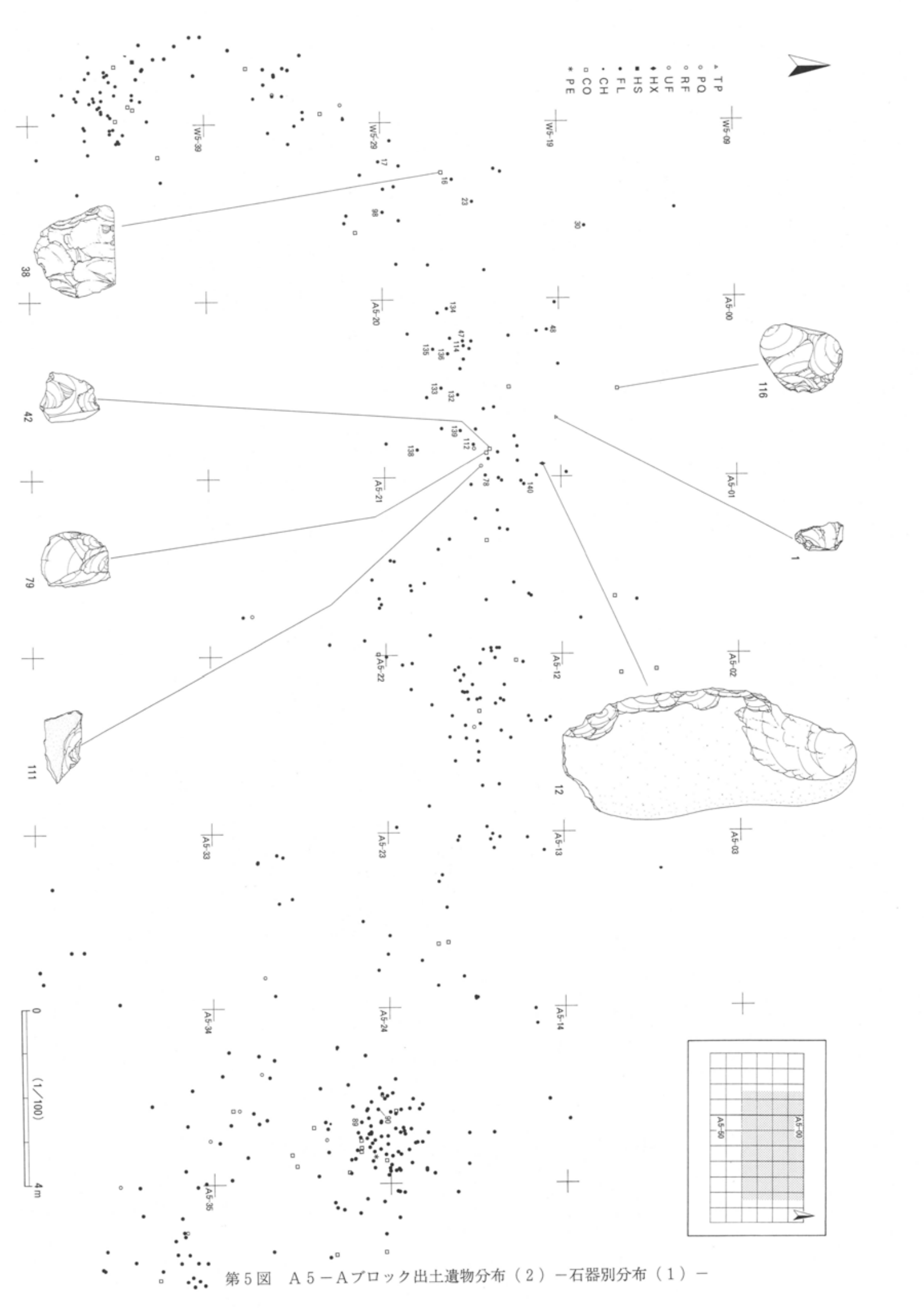
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは140母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ５母岩（A5-62～66），黒曜石Ｄ１母岩（A5-68），黒曜石Ｇ１母岩（A5-67），安山岩16母岩（A5-12～16・21～28・109・113・114），軟質の安山岩４母岩（A5-104～107），流紋岩12母岩（A5-29～35・37～39・110・112），頁岩Ｂ２母岩（A5-55・133），頁岩Ｃ22母岩（A5-11・57～61・115～122・125～128・130・137～139），頁岩Ｄ５母岩（A5-131・132・134～136），頁岩Ｅ２母岩（A5-19・20），チャート19母岩（A5-３～６・９・41～52・124・129），凝灰岩５母岩（A5-17・18・54・56・108），砂岩15母岩（A5-53・90～103），ホルンフェルス21母岩（A5-69～89），瑪瑙・玉髄10母岩（A5-１・７・８・10・141・142・144～146・150）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は69％（493/715点）である。

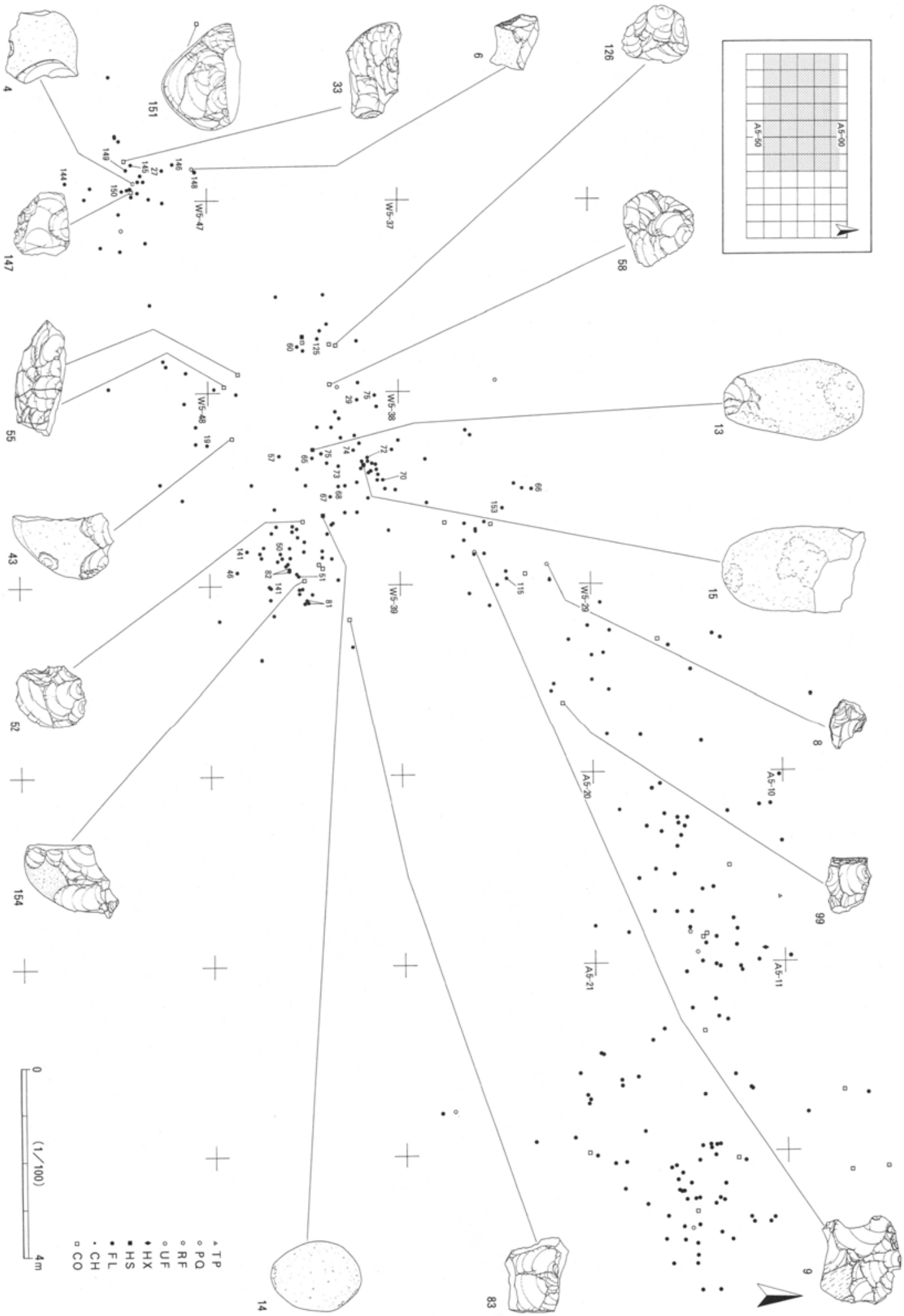
・A5-１：自然面は明黄褐色（10YR6/6）・淡黄色（2.5Y8/4）・暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）・褐灰色（10YR4/1）が混じり，内部は浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片４点（３個体），石核３点の合計７点（６個体；118.5ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片２点（20.2ｇ），Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（22.2ｇ），Ｃは剥片１点，石核１点の合計２点（34.9ｇ）である。



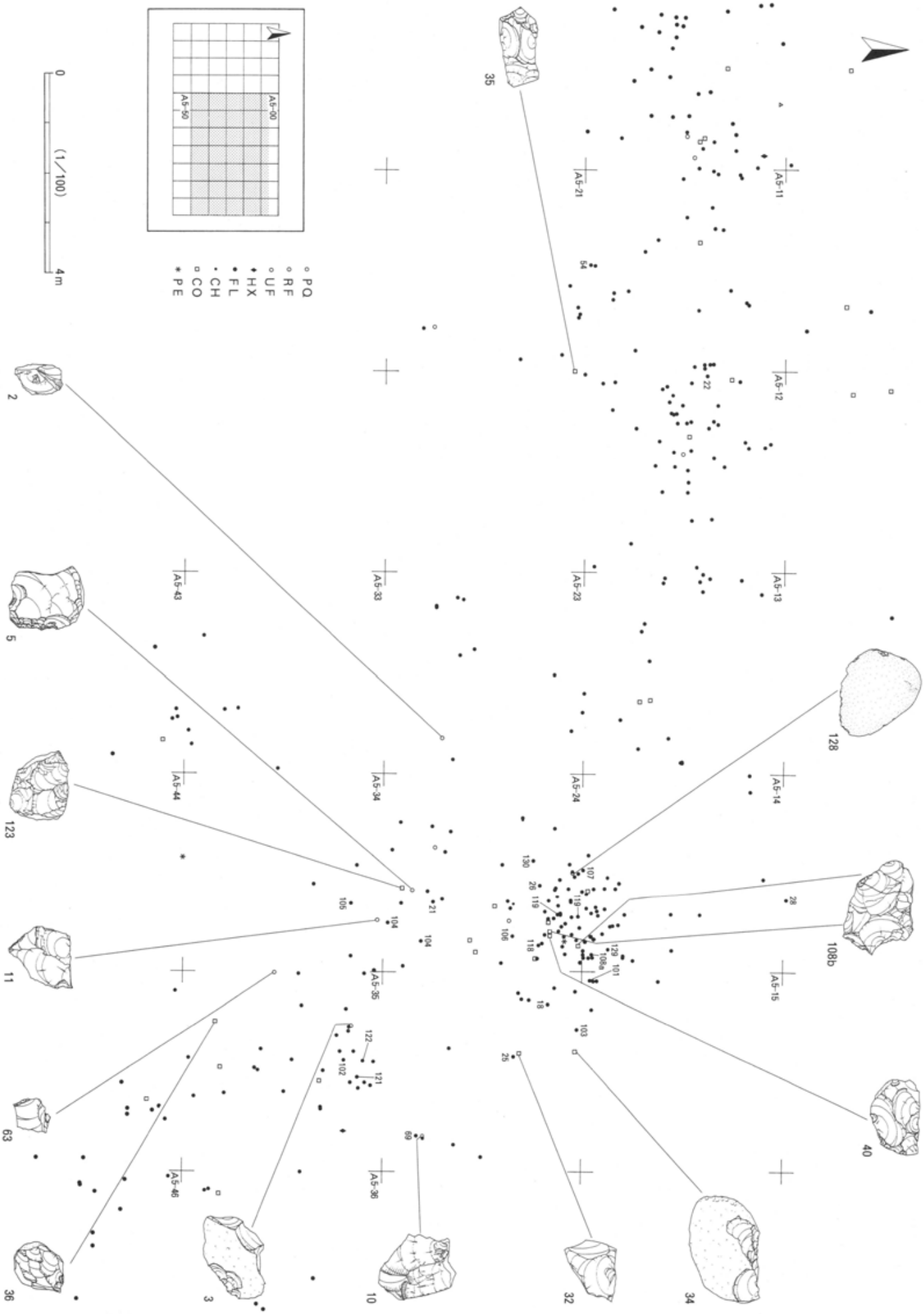
第４図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（１）



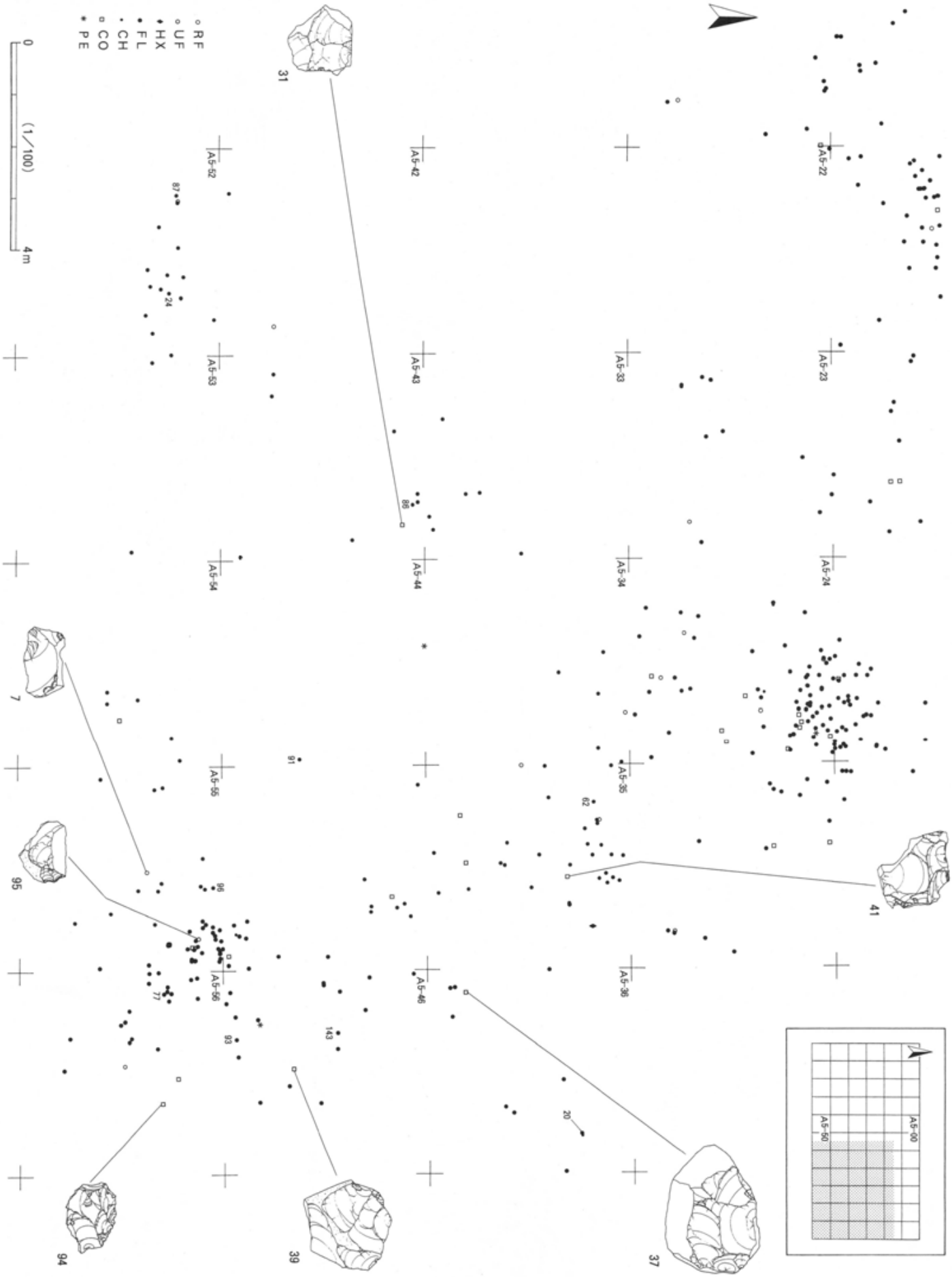
第５図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（２）－石器別分布（１）－



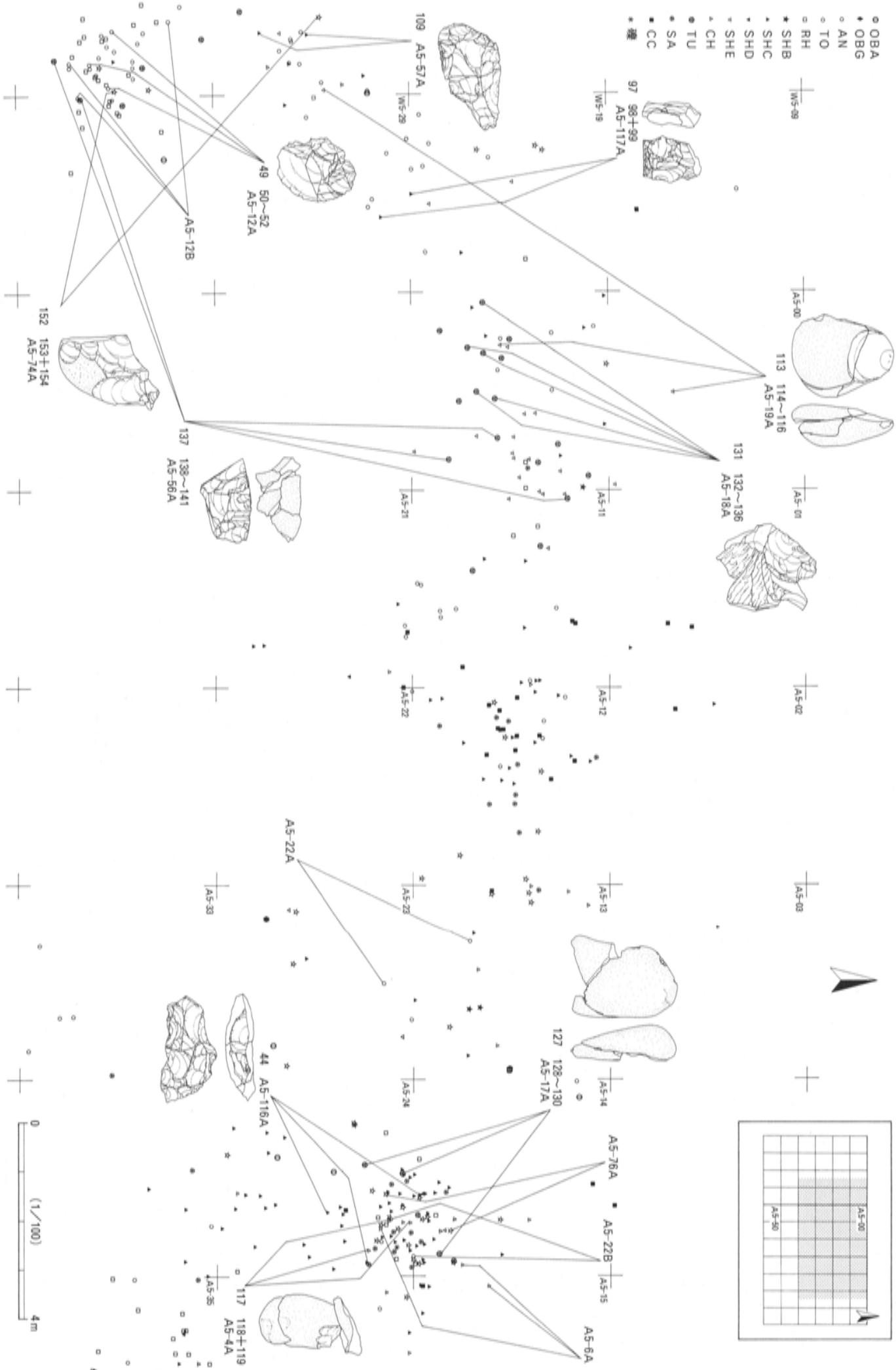
第6図　A５－Aブロック出土遺物分布（３）－石器別分布（２）－



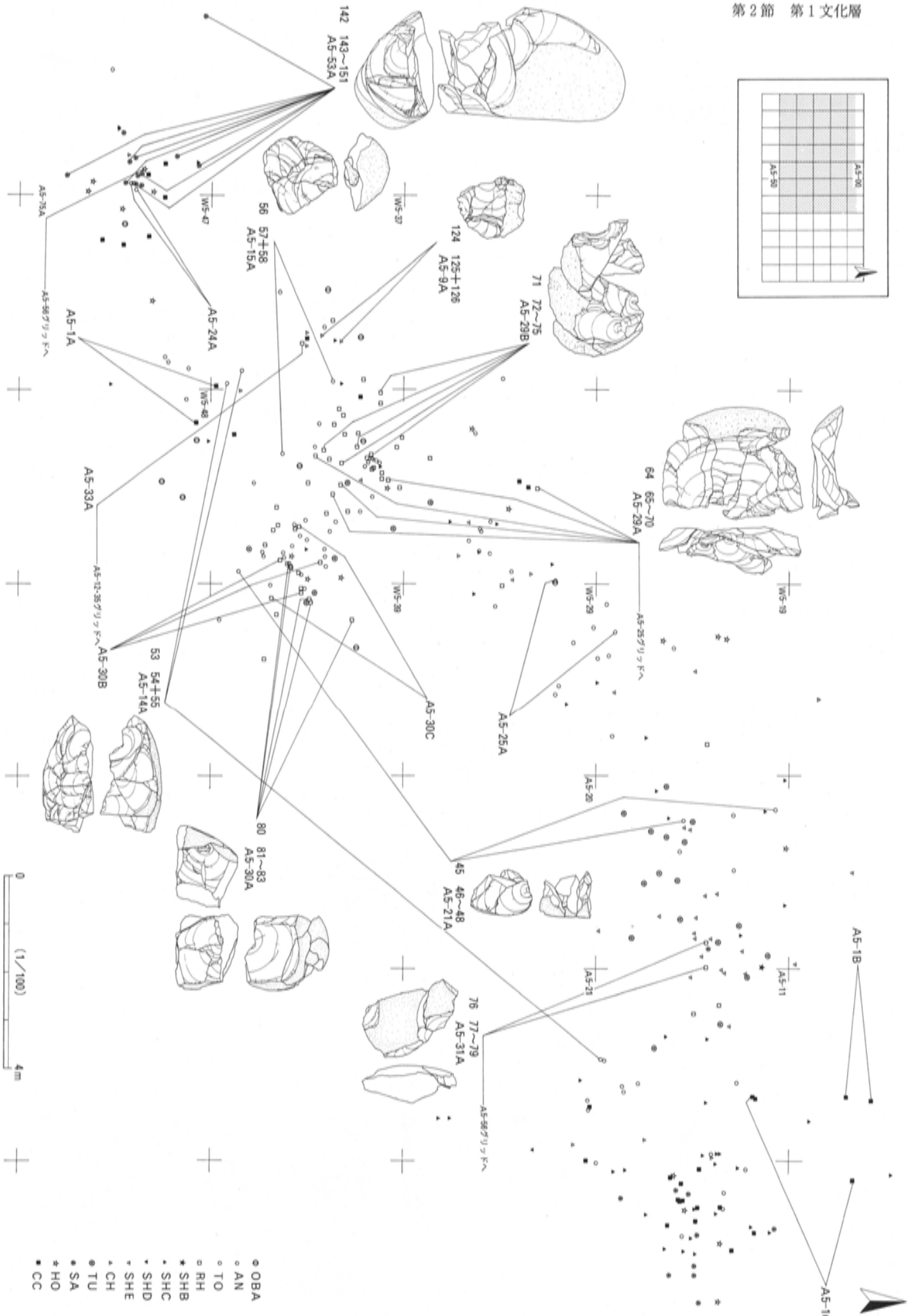
第７図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（４）－石器別分布（３）－



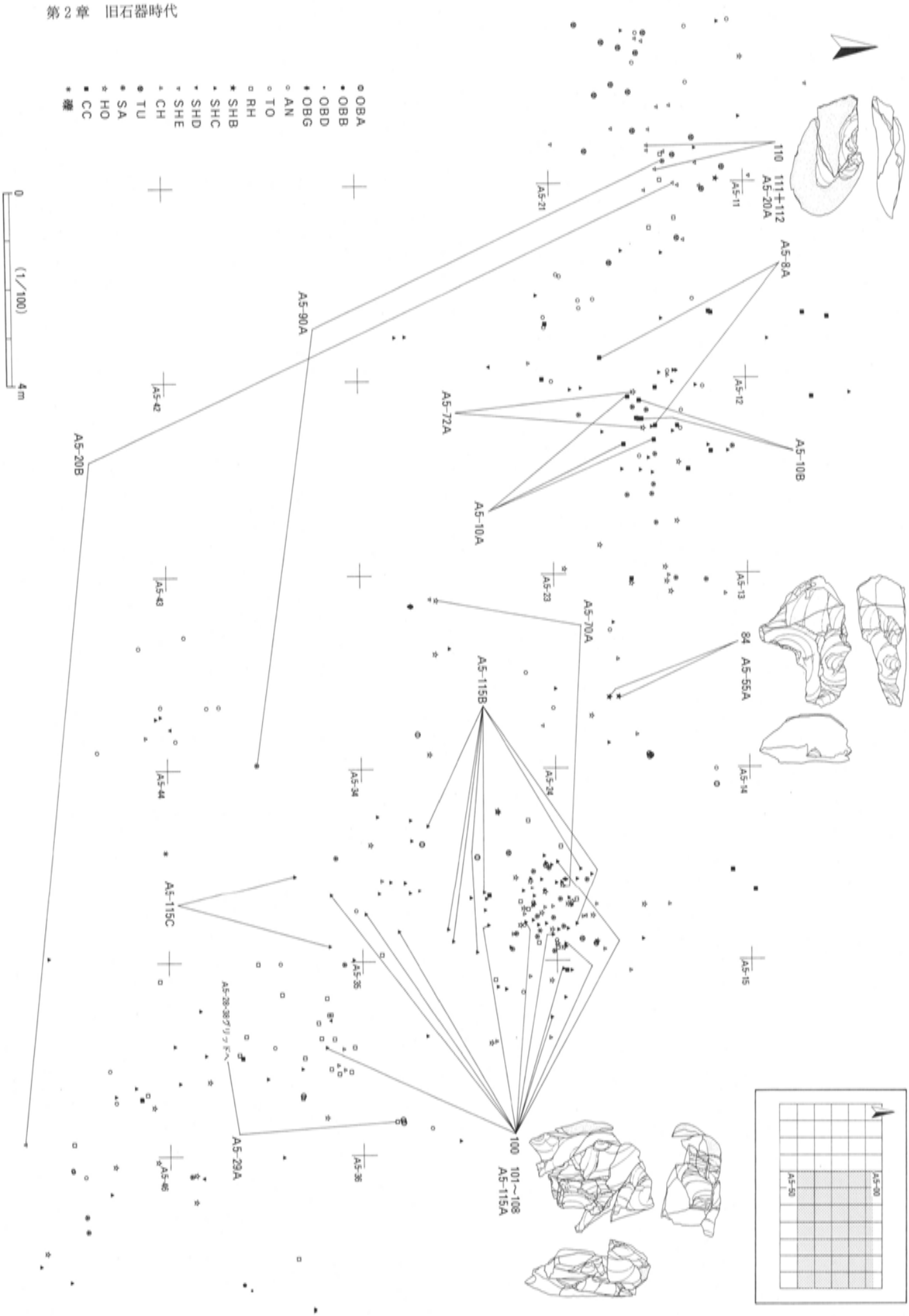
第８図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（５）－石器別分布（４）－



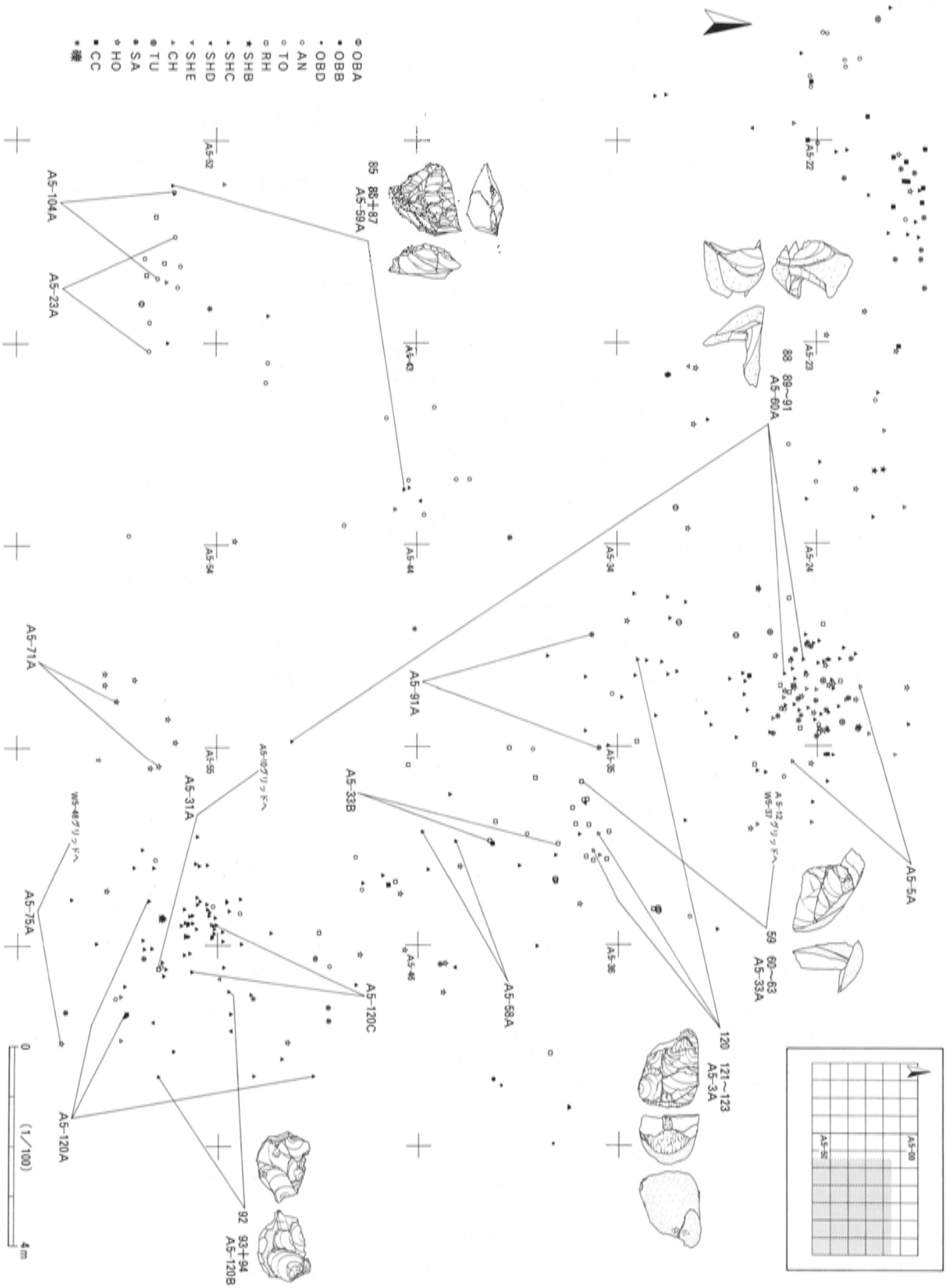
第９図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（６）－石材別分布（１）－



第10図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（７）－石材別分布（２）－



第11図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（８）－石材別分布（３）－



第12図　Ａ５－Ａブロック出土遺物分布（９）－石材別分布（４）－

・**A5-３**：自然面はオリーブ褐色（2.5Y4/6）・暗赤褐色（10R3/3）の地に黒褐色（7.5YR3/1）が混じり，内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片５点，石核１点の合計６点（52.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（47.3ｇ）である。

・**A5-４**：自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に暗緑灰色（10G4/1）が部分的に混じるチャートである。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；43.1ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；43.1ｇ）である。

・**A5-５**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰色（7.5Y4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（2.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（2.2ｇ）である。

・**A5-６**：自然面はにぶい黄褐色（10YR4/3）の地に筋が入り，内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）の地に灰色（10Y5/1）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（37.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（37.5ｇ）である。

・**A5-７**：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰黄色（2.5Y6/2），節理はにぶい褐色（7.5YR5/3）の瑪瑙・玉髄である。石核１点（17.9ｇ）の単独資料である。

・**A5-８**：自然面・内部・節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点（37.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（33.2ｇ）である。

・**A5-９**：自然面は褐色（7.5YR4/4），内部は灰色（10Y4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（37.5ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（37.5ｇ）である。

・**A5-10**：自然面は黄褐色（2.5Y5/4）・灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰色（7.5Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片14点（13個体），石核１点の合計15点（14個体；110.5ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点，石核１点の合計３点（33.6ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；1.5ｇ）である。

・**A5-11**：自然面は黒褐色（7.5YR3/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい黄褐色（10YR4/3）の地に黄灰色（2.5Y4/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点の合計２点（18.8ｇ）である。

・**A5-12**：自然面は灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片25点，石核１点の合計26点（94.9ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点，石核１点の合計３点（39.3ｇ），Ｂは剥片３点（9.6ｇ）である。

・**A5-13**：自然面及び内部は褐灰色（10YR4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片６点（39.1ｇ）である。

・**A5-14**：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片８点，石核２点（１個体）の合計10点（９個体；147.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核２点（１個体）の合計３点（２個体；66.3ｇ）である。

・**A5-15**：自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（49.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（44.8ｇ）である。

・**A5-16**：自然面は灰色（5Y4/1），内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片3点の合計4点（45.4ｇ）である。

・**A5-17**：自然面は灰オリーブ色（7.5Y5/2）の地に灰白色（10Y7/2）が部分的に混じり，内部はオリーブ灰色（10Y6/2），節理は黒褐色（7.5YR3/2），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片5点の合計6点（67.0ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片1点，剥片2点の合計3点（42.5ｇ）である。

・**A5-18**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（10Y4/1）が混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の資料，内部は灰褐色（7.5YR4/2），節理は暗赤褐色（10R3/2）の資料など母岩内での変異がある凝灰岩である。後者は，被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，剥片8点（51.3ｇ）である。接合資料は，剥片5点（39.4ｇ）である。

・**A5-19**：自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（66.4ｇ）である。接合資料は，剥片2点，石核1点の合計3点（66.4ｇ）である。

・**A5-20**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に褐灰色（5YR4/1）の斑が入り，内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片5点の合計6点（116.1ｇ）である。接合資料は，2グループあり，Ａは使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（36.7ｇ），Ｂは剥片2点（57.6ｇ）である。

・**A5-21**：自然面は灰色（10Y4/1），内部は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片3点，石核2点の合計5点（56.4ｇ）である。接合資料は，剥片3点（19.3ｇ）である。

・**A5-22**：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は黒色（N2/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片5点（4個体；39.9ｇ）である。接合資料は，2グループあり，Ａは剥片2点（1個体；14.3ｇ），Ｂは剥片2点（9.8ｇ）である。

・**A5-23**：自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片2点の合計3点（23.1ｇ）である。接合資料は，剥片2点（13.1ｇ）である。

・**A5-24**：自然面及び内部は灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；21.9ｇ）である。接合資料は，剥片2点（1個体；21.9ｇ）である。

・**A5-25**：自然面は灰色（5Y4/1），内部は灰色（10Y4/1）・青黒色（10BG1.7/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（5.4ｇ）である。接合資料は，剥片2点（5.4ｇ）である。

・**A5-26**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2）の粗いスリガラス状で，内部は灰色（7.5Y4/1）・黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（14.7ｇ）の単独資料である。

・**A5-27**：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y5/1）の安山岩である。剥片1点（3.9ｇ）の単独資料である。

・**A5-28**：自然面及び内部は褐灰色（10YR4/1）の安山岩である。石核1点（21.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-29**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい赤褐色（2.5YR4/3）の地に黒色の粒が入り，内部は灰色（5Y5/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）・灰白色（5Y7/2）の地に暗灰黄色（2.5Y4/2）が部分的に入る流紋岩である。石器群の内訳は，剥片37点（36個体；215.4ｇ）である。接合資料は，2グループあり，Ａは剥片6点（69.7ｇ），Ｂは剥片5点（4個体；67.9ｇ）である。その他に同一母岩がブロック外（グリッド不明）に1点ある。

・**A5-30**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3）・にぶい褐色（7.5YR4/3），内部は褐灰色（10YR5/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2）・灰色（N6/0）・黄褐色（2.5Y5/3）の地に石英などの結晶を含み，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい赤褐色（5YR4/3）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片18点（16個体），石核２点の合計20点（18個体；165.3ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片４点（２個体），石核１点の合計５点（３個体；88.3ｇ），Ｂは剥片２点，石核１点の合計３点（54.5ｇ），Ｃは剥片２点（22.5ｇ）である。

・**A5-31**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）・黄褐色（2.5Y5/3）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（32.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（32.0ｇ）である。

・**A5-32**：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）・黄灰色（2.5Y5/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（48.3ｇ）である。

・**A5-33**：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/4），内部は灰黄色（2.5Y6/2）の流紋岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片９点の合計10点（37.8ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片３点（20.1ｇ），Ｂは剥片２点（5.8ｇ）である。

・**A5-34**：内部は灰褐色（7.5YR5/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2），節理は暗褐色（10YR3/4）・黒褐色（2.5Y3/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片２点（4.3ｇ）である。

・**A5-35**：自然面は明黄褐色（10YR6/6），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片４点（7.3ｇ）である。

・**A5-37**：灰色（10Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の流紋岩である。石英など鉱物を含む。剥片１点（38.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-38**：灰オリーブ色（5Y5/3）の流紋岩である。石英など鉱物を含む。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・**A5-39**：褐灰色（5YR4/1）の流紋岩である。石英など鉱物を含む。剥片１点（6.5ｇ）の単独資料である。

・**A5-41**：自然面は暗灰色（N3/0）・褐色（10YR4/4）の地に黒色の筋が網目状に入り，内部は暗灰色（N3/0），節理は褐色（7.5YR4/3）のチャートである。敲石１点（79.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-42**：自然面及び内部は暗赤褐色（7.5R3/2），節理は灰褐色（5YR4/2）の地に黒色の筋が入るチャートである。石核１点（143.0ｇ）の単独資料である。

・**A5-43**：自然面は灰色（7.5Y4/1），内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1），節理は褐色（7.5YR4/3）・灰オリーブ色（5Y4/2）のチャートである。石核１点（66.3ｇ）の単独資料である。

・**A5-44**：自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・オリーブ黒色（10Y3/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3），節理は黄褐色（2.5Y5/4）のチャートである。石核１点（40.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-45**：自然面は褐色（7.5YR4/3）・灰色（10Y4/1）が混じり，内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰色（10Y4/1）が混じり，節理は褐色（7.5YR4/3）のチャートである。剥片１点（38.7ｇ）の単独資料である。

・**A5-46**：自然面及び内部は暗赤褐色（7.5R3/3）のチャートである。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・**A5-47**：内部はオリーブ黒色（10Y3/2），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）のチャートである。剥片1点（3.1g）の単独資料である。

・**A5-48**：自然面及び内部は暗灰色（N3/0）のチャートである。剥片1点（3.5g）の単独資料である。

・**A5-49**：自然面はオリーブ黒色（7.5Y3/1），内部及び節理は灰色（7.5Y4/1）のチャートである。剥片1点（6.5g）の単独資料である。

・**A5-50**：内部は暗灰色（N3/0），節理は灰色（5Y4/1）のチャートである。剥片1点（1.6g）の単独資料である。

・**A5-51**：自然面は暗オリーブ灰色（2.5GY3/1），内部は暗灰色（N3/0），新鮮な面は黒色（N1.5/0）のチャートである。石核1点（26.1g）の単独資料である。

・**A5-52**：自然面は暗オリーブ灰色（5GY3/1），内部は暗灰色（N3/0）のチャートである。加工痕ある剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・**A5-53**：自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面はオリーブ黒色（7.5Y3/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片7点，石核2点の合計9点（887.4g）である。接合資料は，剥片7点，石核2点の合計9点（887.4g）である。

・**A5-54**：自然面及び内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1），節理は黒褐色（7.5YR3/2）の凝灰岩である。石斧1点（1268.7g）の単独資料である。

・**A5-55**：内部はにぶい赤褐色（2.5YR4/4）・にぶい黄橙色（10YR7/3）の地に灰褐色（7.5YR4/2）が部分的に混じり，新鮮な面は灰黄褐色（10YR5/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石核2点（1個体；76.4g）である。接合資料は，石核2点（1個体；76.4g）である。

・**A5-56**：自然面は黒褐色（7.5Y3/2），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の資料，自然面は暗赤灰色（5R3/1），内部は黒褐色（5YR3/1）の資料など母岩内での変異がある凝灰岩である。後者は，被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，剥片7点（6個体；31.9g）である。接合資料は，剥片5点（4個体；26.5g）である。

・**A5-57**：自然面は褐色（10YR4/4），内部は灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y4/1）・褐色（7.5YR4/4）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核2点の合計4点（66.9g）である。接合資料は，石核2点（44.6g）である。

・**A5-58**：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に灰オリーブ色（5Y5/2）・暗灰色（N3/0）が部分的に混じり，節理はにぶい赤褐色（2.5YR4/4）・暗灰色（N3/0）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（39.1g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（39.1g）である。

・**A5-59**：黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（22.8g）である。接合資料は，剥片2点（22.9g）である。

・**A5-60**：自然面は灰黄褐色（10YR4/2）・暗赤褐色（2.5YR3/2），内部はにぶい黄褐色（10YR4/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点（22.8g）である。接合資料は，剥片3点（17.1g）である。

・**A5-61**：自然面はにぶい黄褐色（10YR4/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じり，内部は灰黄色（2.5Y6/2）・灰色（5Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩

である。石器群の内訳は，剥片３点（9.1ｇ）である。

・**A5-62**：黒色不透明の黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（4.6ｇ）である。

・**A5-63**：黒灰色不透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（4.0ｇ）である。

・**A5-64**：黒灰色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（1.7ｇ）である。

・**A5-65**：自然面及び内部は淡黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（2.2ｇ）である。

・**A5-66**：黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（15.8ｇ）である。

・**A5-67**：黒灰色の地に黒色の縞が入る黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。産地は不明である。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・**A5-68**：淡黒色透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。箱根・畑宿産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（0.4ｇ）である。

・**A5-69**：内部は灰白色（5Y7/2）・灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗緑灰色（5G3/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点（3.5ｇ）である。

・**A5-70**：自然面は灰色（5Y4/1），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片８点（７個体；72.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；1.9ｇ）である。

・**A5-71**：灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（44.3ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（43.7ｇ）である。

・**A5-72**：自然面は灰色（5Y4/1）の地にオリーブ黒色（5Y3/1）が部分的に混じり，内部は灰色（N4/0）・黄灰色（2.5Y6/1）・黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（27.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（26.3ｇ）である。

・**A5-73**：自然面は暗赤褐色（5YR3/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点（42.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点（16.0ｇ）である。

・**A5-74**：自然面及び内部は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（105.1ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（105.1ｇ）である。

・**A5-75**：自然面及び内部は灰色（5Y4/1）で，きな粉をまぶしたようなホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（31.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（31.8ｇ）である。

・**A5-76**：自然面及び内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片７点（19.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（6.9ｇ）である。

・**A5-77**：自然面及び内部はオリーブ黒色（7.5Y3/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（18.7ｇ）である。

・**A5-78**：自然面及び内部は灰オリーブ色（7.5Y4/1）の地に灰色（7.5Y6/1）が部分的に入るホルンフェ

ルスである。石器群の内訳は，剥片2点（18.7g）である。

・**A5-79**：自然面及び内部はオリーブ黒色（5Y3/1）のホルンフェルスである。剥片1点（29.5g）の単独資料である。

・**A5-80**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y4/1），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3）の地に自然面及び内部がにぶい黄色（2.5Y6/3）の砂質部が混じるホルンフェルスである。剥片1点（46.6g）の単独資料である。

・**A5-81**：自然面は黄褐色（2.5Y5/4），内部は灰色（10Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。剥片1点（15.6g）の単独資料である。

・**A5-82**：自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗青灰色（5PB3/1）のホルンフェルスである。剥片1点（19.5g）の単独資料である。

・**A5-83**：自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。剥片1点（36.0g）の単独資料である。

・**A5-84**：自然面及び内部はオリーブ黒色（5GY2/1）のホルンフェルスである。石斧1点（4.4g）の単独資料である。

・**A5-85**：自然面及び内部は灰色（10Y4/1），節理は暗赤灰色（7.5R3/1）のホルンフェルスである。剥片1点（56.7g）の単独資料である。

・**A5-86**：自然面及び内部は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石核1点（64.6g）の単独資料である。

・**A5-87**：自然面及び内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。剥片1点（6.8g）の単独資料である。

・**A5-88**：自然面は黒色（N2/0），内部は灰色（10Y4/1）・明褐灰色（7.5YR7/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（34.6g）である。

・**A5-89**：自然面は灰色（10Y4/1），内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）・オリーブ灰色（5GY6/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片3点，石核1点の合計4点（124.8g）である。

・**A5-90**：灰オリーブ色（5Y4/2）・オリーブ黒色（5Y3/1）が混じる砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（59.5g）である。接合資料は，剥片2点（59.5g）である。

・**A5-91**：自然面及び内部は浅黄色（5Y7/4），節理は黄褐色（2.5Y5/4）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片4点（13.8g）である。接合資料は，剥片2点（12.8g）である。

・**A5-92**：自然面及び内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片4点（33.2g）である。

・**A5-93**：自然面は暗赤褐色（2.5YR3/2），内部は灰色（5Y5/1），節理は暗褐色（10YR3/4）の地に暗灰色（N3/0）が部分的に混じる砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（12.8g）である。

・**A5-94**：自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），節理は赤褐色（5YR4/6）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（50.5g）である。

・**A5-95**：自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（25.5g）である。

・**A5-96**：自然面はオリーブ黄色（5Y6/3），内部は灰色（10Y5/1）の砂岩である。剥片1点（31.7g）の

単独資料である。

・**A5-97**：自然面は灰色（10Y6/1）の地ににぶい黄褐色（10YR4/3）が混じり，内部は灰色（7.5Y4/1）の砂岩である。加工痕ある剥片１点（22.2ｇ）の単独資料である。

・**A5-98**：にぶい黄色（2.5Y6/4）・黄褐色（2.5Y5/4）の砂岩である。剥片１点（5.5ｇ）の単独資料である。

・**A5-99**：自然面はにぶい赤褐色（2.5YR4/3），内部は灰色（10Y5/1）の砂岩である。剥片１点（4.9ｇ）の単独資料である。

・**A5-100**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰色（10Y4/1），節理は明黄褐色（2.5Y6/6）の砂岩である。剥片１点（5.6ｇ）の単独資料である。

・**A5-101**：灰色（7.5Y4/1）の砂岩である。剥片１点（4.9ｇ）の単独資料である。

・**A5-102**：自然面及び内部は暗灰色（N3/0），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）の砂岩である。剥片１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・**A5-103**：灰色（10Y4/1）の砂岩である。剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

・**A5-104**：自然面は明黄褐色（2.5Y7/6）・褐色（7.5YR4/6），内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片７点（６個体；17.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；6.6ｇ）である。

・**A5-105**：自然面は褐色（7.5YR4/6）・淡黄色（2.5Y8/3），内部は灰白色（5Y7/1）・灰白色（7.5Y8/1），新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片12点（57.0ｇ）である。

・**A5-106**：内部は灰白色（5Y7/1）・灰白色（7.5Y8/1），新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片５点（11.2ｇ）である。

・**A5-107**：自然面及び内部は灰白色（5Y7/2）の軟質の安山岩である。剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・**A5-108**：自然面は灰オリーブ色（5Y4/2）・暗赤灰色（7.5R3/1），内部はオリーブ灰色（10Y5/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片３点（5.9ｇ）である。

・**A5-109**：自然面は明黄褐色（10YR6/6），内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2）で鉱物を多数含み，節理は明褐色（7.5YR5/6）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（34.2ｇ）である。

・**A5-110**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/4）の地に褐色（7.5YR4/6）が部分的に混じり，内部は褐灰色（7.5YR6/1），節理は灰オリーブ色（7.5Y4/2）の流紋岩である。剥片１点（37.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-112**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（7.5Y5/1）の流紋岩である。敲石１点（70.1ｇ）の単独資料である。

・**A5-113**：自然面は灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰色（5Y6/1）の安山岩である。敲石１点（189.7ｇ）の単独資料である。

・**A5-114**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4）・褐灰色（10YR4/1），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）の安山岩である。敲石１点（139.8ｇ）の単独資料である。

・**A5-115**：自然面は褐色（7.5YR4/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3）・黄灰色（2.5Y5/1）の資料，自然面及び内部は暗赤褐色（7.5R3/2），節理は明褐色（7.5YR5/6）の資料など母岩内での変異のある嶺岡産頁岩である。後者は，被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点，剥片24点

(23個体)，石核5点（4個体）の合計31点（29個体；218.2g）である。接合資料は，3グループあり，Aは剥片9点（8個体)，石核2点（1個体）の合計11点（9個体；102.8g)，Bは剥片5点，石核2点の合計7点（57.4g)，Cは剥片2点（8.1g）である。

・**A5-116**：自然面は褐色（7.5YR4/4)，内部は褐色（7.5YR4/4）・黄灰色（2.5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石核3点（1個体；28.4g）である。接合資料は，石核3点（1個体；28.4g）である。

・**A5-117**：自然面は暗赤色（7.5R3/4)，内部は黄褐色（2.5Y5/3）・黄灰色（2.5Y4/1）・暗赤色（7.5R3/4）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（14.2g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（14.2g）である。

・**A5-118**：自然面はオリーブ褐色（2.5Y4/3)，内部はオリーブ褐色（2.5Y4/3）・黄褐色（2.5Y5/4）・灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（34.0g）である。

・**A5-119**：自然面は褐色（5YR4/4)，内部は黄灰色（5Y5/1）・灰白色（2.5Y7/1）の地ににぶい黄橙色（10YR7/4）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（24.2g）である。

・**A5-120**：自然面は灰オリーブ色（7.5Y4/2）・褐色（7.5YR4/4)，内部は黄灰色（2.5Y5/1）・灰色（5Y4/1)，節理は褐色（7.5YR4/4）・暗赤褐色（7.5R3/2）の資料，自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3)，内部は灰色（5Y5/1）の地に青黒色（5PB2/1）・暗赤灰色（5PB4/1）が部分的に混じる資料，自然面及び内部は暗赤褐色（7.5R3/2）の資料など母岩内での変異のある嶺岡産頁岩である。最後の資料は，被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片21点（20個体)，石核4点の合計27点（26個体；195.8g）である。接合資料は，3グループあり，Aは剥片3点（11.9g)，Bは剥片1点，石核1点の合計2点（23.3g)，Cは剥片2点（1個体；5.5g）である。Cの2点の内の1点が変色しており，被熱による可能性がある。

・**A5-121**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2)，内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・灰色（10Y4/1）の地に黒色（10Y2/1）の筋が入る嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（11.7g）である。

・**A5-122**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2）の地にオリーブ黒色（5Y3/1）の筋が入る嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（8.8g）である。

・**A5-124**：内部は灰色（10Y4/1）・黒色（10Y2/1）・灰白色（10Y7/1）が混じり，節理は黄褐色（2.5Y5/4）のチャートである。石器群の内訳は，剥片2点（5.5g）である。

・**A5-125**：内部は灰色（7.5Y5/1）・にぶい褐色（7.5YR5/4）・黄褐色（10YR5/6)，節理は暗赤褐色（5YR3/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片2点，石核1点の合計4点（64.4g）である。

・**A5-126**：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/4)，内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y5/1）が混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（29.7g）の単独資料である。

・**A5-127**：自然面は褐色（10YR4/6)，内部は黄灰色（2.5Y5/1）・黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石核1点（41.7g）の単独資料である。

・**A5-128**：自然面はにぶい黄褐色（10YR4/3)，内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・褐色（10YR4/4）の地に粒が入る嶺岡産頁岩である。石核1点（18.0g）の単独資料である。

・**A5-129**：自然面は灰色（5Y4/1）・にぶい黄褐色（10YR4/3），内部は暗灰色（N3/0）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）が混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のチャートである。石核１点（57.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-130**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・にぶい黄褐色（10YR4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.3ｇ）の単独資料である。

・**A5-131**：自然面は黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/3），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。石核１点（226.3ｇ）の単独資料である。

・**A5-132**：自然面は褐色（7.5YR4/3）・褐色（7.5YR4/6），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄褐色（10YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（15.1ｇ）の単独資料である。

・**A5-133**：内部はオリーブ褐色（2.5Y4/4）・灰色（7.5Y4/1）の地に毛細血管状に筋が入り，新鮮な面はオリーブ灰色（5GY5/1）の北関東産頁岩である。剥片１点（13.0ｇ）の単独資料である。

・**A5-134**：自然面は灰オリーブ色（5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）で石英粒を含み，節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（12.8ｇ）の単独資料である。

・**A5-135**：自然面は褐色（10YR4/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・黒褐色（2.5Y3/2）・褐色（10YR4/6）の地に褐色（10YR4/6）の筋が入る硬質緻密な頁岩である。剥片１点（4.9ｇ）の単独資料である。

・**A5-136**：自然面は褐色（10YR4/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰黄色（2.5Y6/2），節理は明褐色（7.5YR5/6）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-137**：自然面は暗褐色（7.5YR3/4），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地に暗灰色（N3/0）が部分的に入る嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.6ｇ）の単独資料である。

・**A5-138**：自然面は褐色（7.5YR4/4），内部は黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-139**：暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・**A5-141**：自然面はにぶい黄橙色（10YR7/2），内部は赤褐色（5YR4/8）・浅黄色（2.5Y7/4），節理は淡黄色（2.5Y8/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片４点（39.5ｇ）である。

・**A5-142**：にぶい黄色（2.5Y6/3）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（6.7ｇ）である。

・**A5-144**：褐灰色（10YR5/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に暗赤褐色（2.5YR3/2）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・**A5-145**：自然面は褐色（7.5YR4/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（5.4ｇ）の単独資料である。

・**A5-146**：自然面は明黄褐色（10YR7/6）・橙色（7.5YR6/6），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（2.5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。石核１点（39.1ｇ）の単独資料である。

・**A5-150**：にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に筋と点紋が入る瑪瑙・玉髄で，C3-Aブロックの**C3-76**母岩に極めて類似している。もし，両ブロックの母岩が同一母岩とすれば，C3-Aブロックとほぼ同時期あるいは近接した時期が考えられる。剥片１点（8.1ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の剥片10点・砕片１点の合計11点（5.0ｇ），信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片１点（0.1ｇ），産地不明の黒曜石の剥片３点（0.9ｇ），安山岩の剥片21点（48.5ｇ），軟質の安山岩の剥片４点（0.9ｇ），流紋岩の剥片11点（23.9ｇ），嶺岡産頁岩の台形

石器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片２点，剥片82点，砕片２点，石核３点の合計92点（307.8ｇ），硬質緻密な頁岩の剥片１点（1.3ｇ），頁岩の楔形石器１点，剥片18点，石核１点の合計20点（68.4ｇ），チャートの剥片８点（54.7ｇ），凝灰岩の剥片５点（7.0ｇ），砂岩の剥片12点（9.9ｇ），ホルンフェルスの剥片25点，砕片１点の合計26点（44.2ｇ），瑪瑙・玉髄の剥片６点，砕片１点の合計７点（8.5ｇ）がある。

３）出土遺物（第13～18図，第19図41～43）

１は嶺岡産頁岩による台形石器である。横長剥片を横位に用い，基部に細かい調整加工を行っている。２は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。裏面側の頭部から左側縁にかけて調整加工を行っている。また，左側面の切断面は意図的なものか不明だが，あるいは台形石器かもしれない。表面の剥離面はポジティブな面である。３は流紋岩による，４は砂岩による５・６は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。３は両面の末端，４は裏面左側縁から末端，５は右側縁，６は左側縁に調整加工を行っている。３～５は削器としても良いかもしれない。７～９は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。７は裏面の右側縁から上部にかけて刃こぼれが見られる。正面右側面の直角に近い細かい剥離痕は，調整加工の可能性がある。８は末端に，９は右側縁と末端に刃こぼれが見られるが，９は偶発的なものの可能性がある。10は栃木県高原山産の黒曜石による，11は安山岩による使用痕ある剥片である。10は右側縁に，11は末端に刃こぼれが見られる。12は凝灰岩による石斧である。大型で細長い断面三角形の礫を素材として，表面の左側縁から末端及び裏面の右側縁から末端にかけて，調整加工を行っている。特に研磨痕や摩耗痕は見られない。未製品あるいは石核とすべきかもしれない。13～15は両端を中心に敲打痕が見られる敲石であるが，13を除いて敲打痕については顕著ではない。13・15は安山岩，14は流紋岩である。16～30は不定型な剥片である。16・17は安山岩，18は軟質の安山岩，19～22は嶺岡産頁岩，23は頁岩，24はチャート，25・26はホルンフェルス，27～30は瑪瑙・玉髄である。31～43は石核である。31～37は90度の打面転移によって不定型な剥片を剥離している。31～34はチャート，35は瑪瑙・玉髄，36は嶺岡産頁岩，37は硬質緻密な頁岩である。38～40は求心的な剥離作業によって不定型な剥片を剥離している。38・39はホルンフェルス，40は安山岩である。41～43は片面ないし両面の一部に加撃して不定型な剥片を剥離している。41は嶺岡産頁岩，42は頁岩，43は瑪瑙・玉髄である。

４）接合資料とその関連資料（第19図44～48，第20～31図）

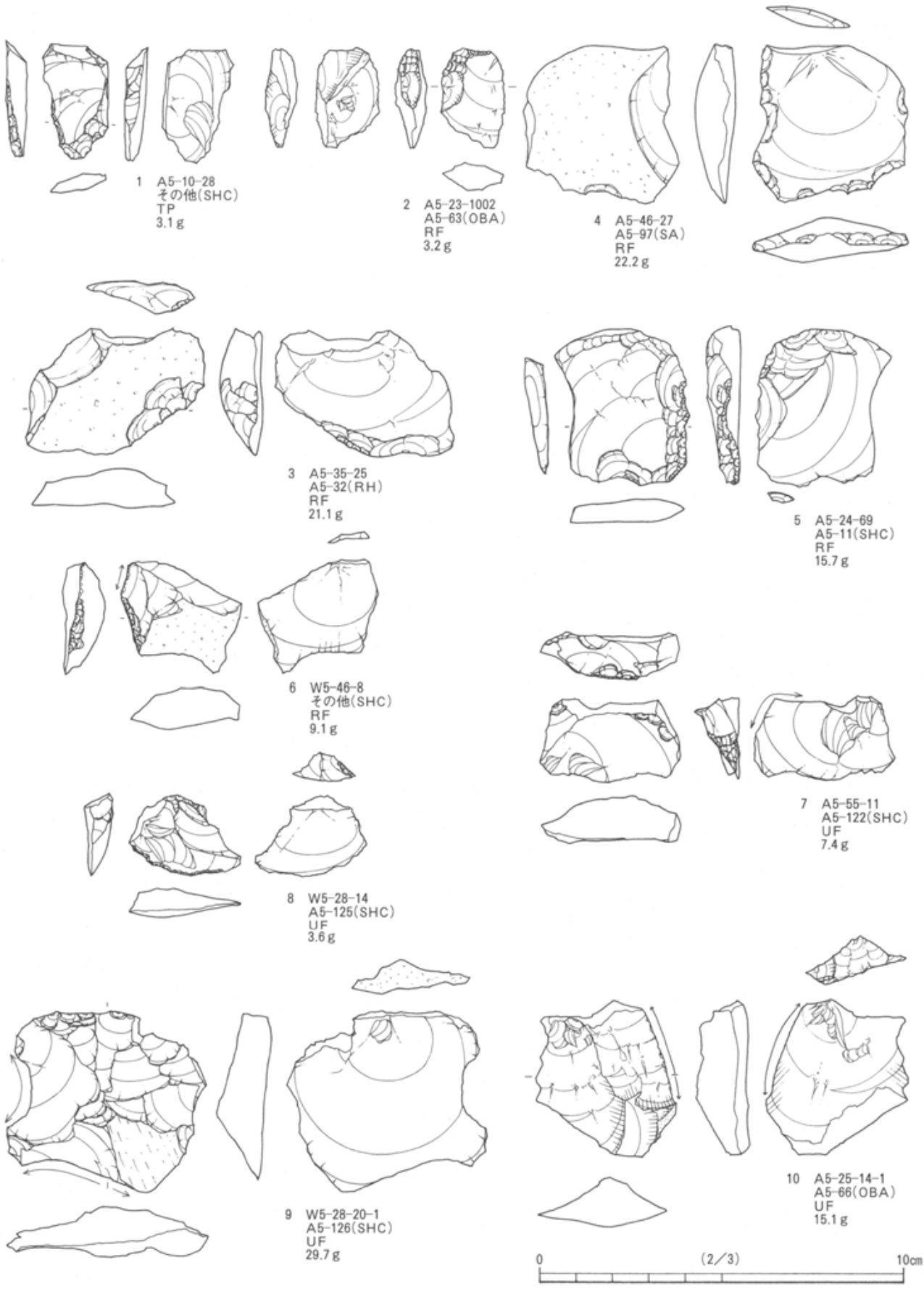
・**A5-116（第19図44）**　褐色（7.5YR4/4）などの嶺岡産頁岩である。石核３点（１個体）で構成される。石核３点が接合して１個体となる。自然面を打面として，求心的な剥離作業を行っている。

・**A5-21（第19図45～48）**　灰色（N4/0）の安山岩である。剥片３点，石核２点の合計５点で構成される。45は剥片３点（46～48）の接合資料である。46→47→48の順に上方向から剥離している。

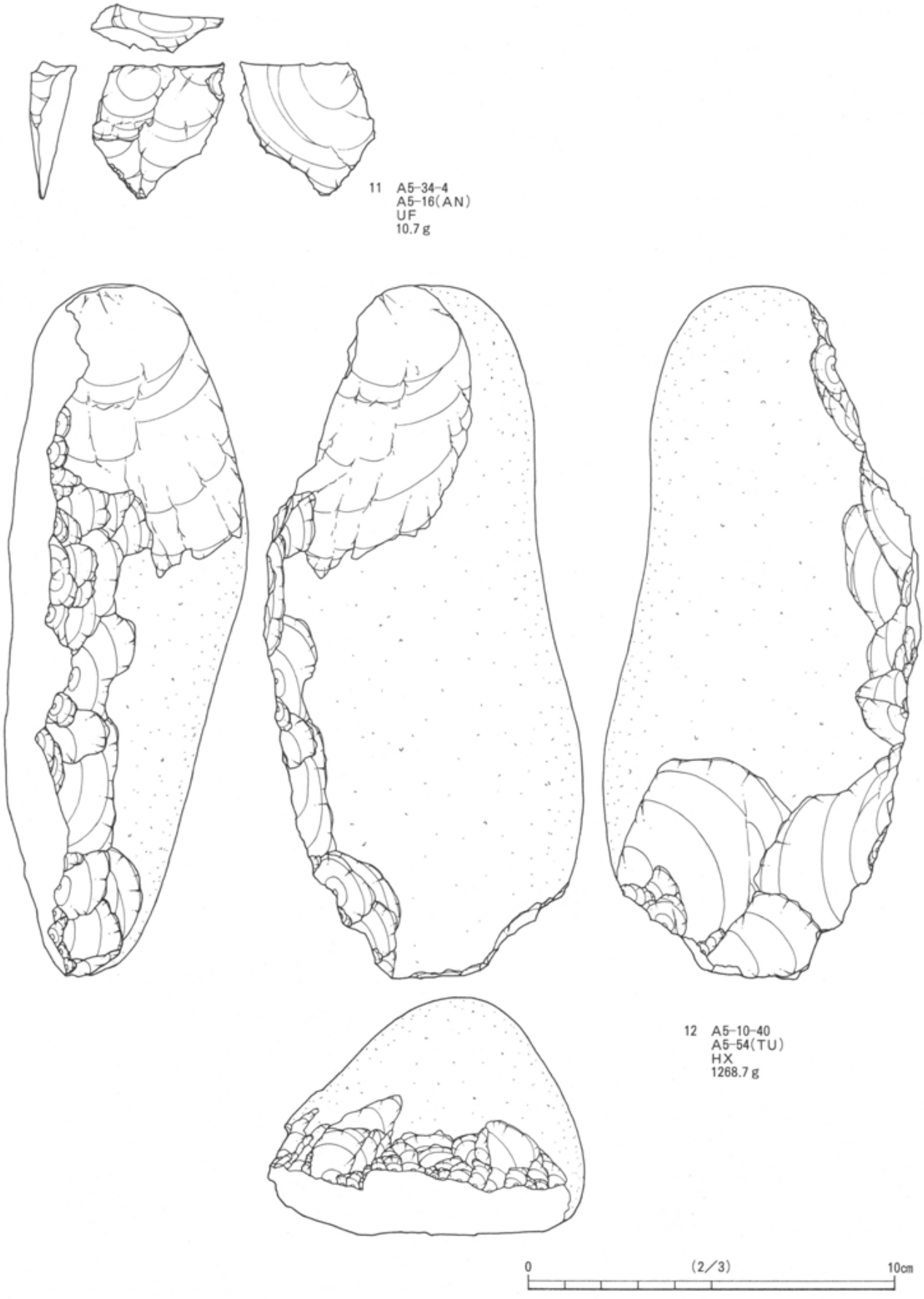
・**A5-12（第20図49～52）**　灰色（7.5Y4/1）の安山岩である。剥片25点，石核１点の合計26点で構成される。接合資料は，２グループある。A（49）は剥片２点（50・51），石核１点（52）の接合資料である。比較的厚い剥片を素材とし，自然面を打面として，50→51の順に求心的な剥離作業を行っている。

・**A5-14（第20図53～55）**　黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。剥片８点，石核２点（１個体）の合計10点（９個体）で構成される。53は剥片１点（54），石核２点（１個体；55）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を剥離している。

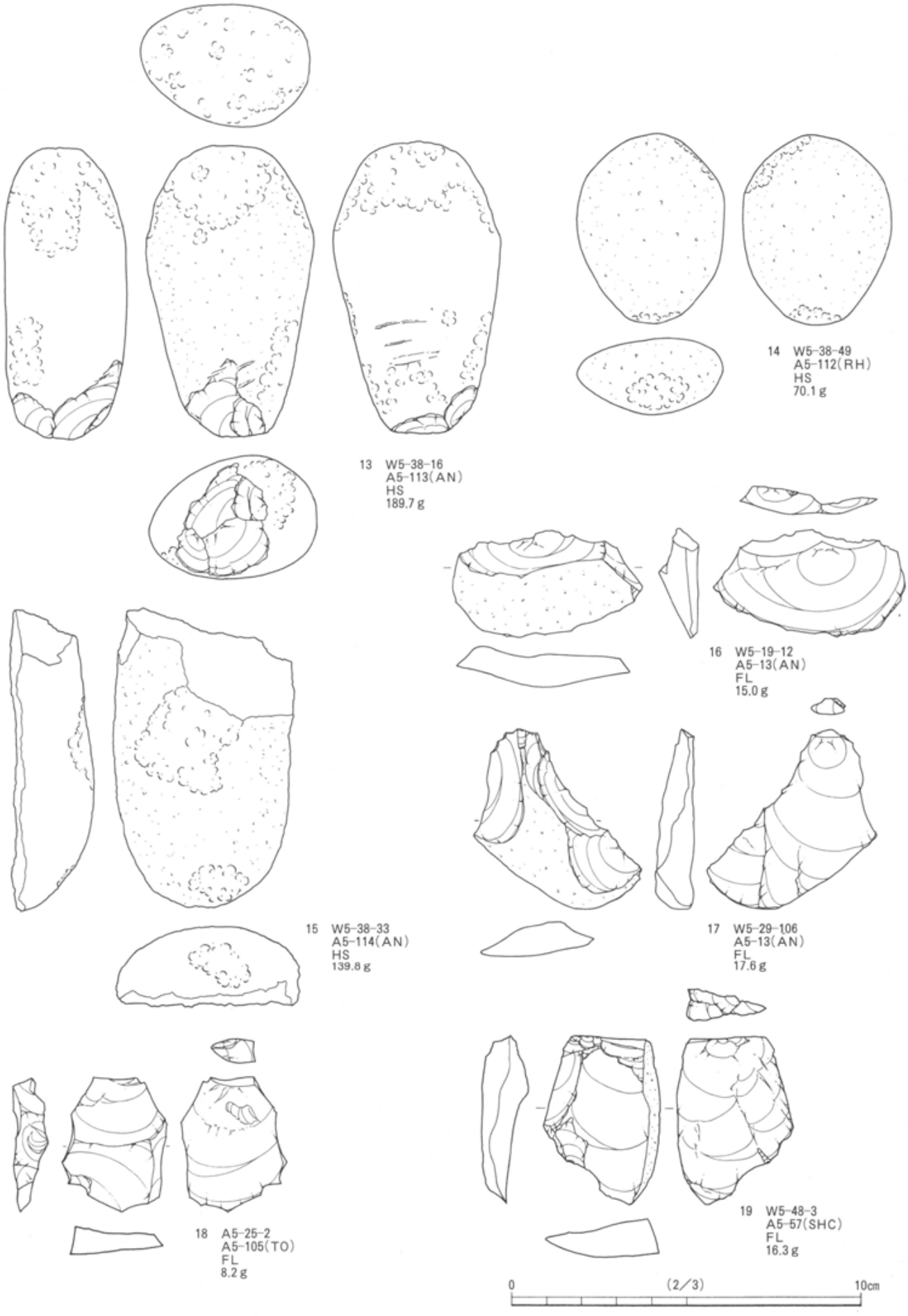
・**A5-15（第20図56～58）**　灰色（5Y5/1）の安山岩である。剥片３点，石核１点の合計４点で構成され



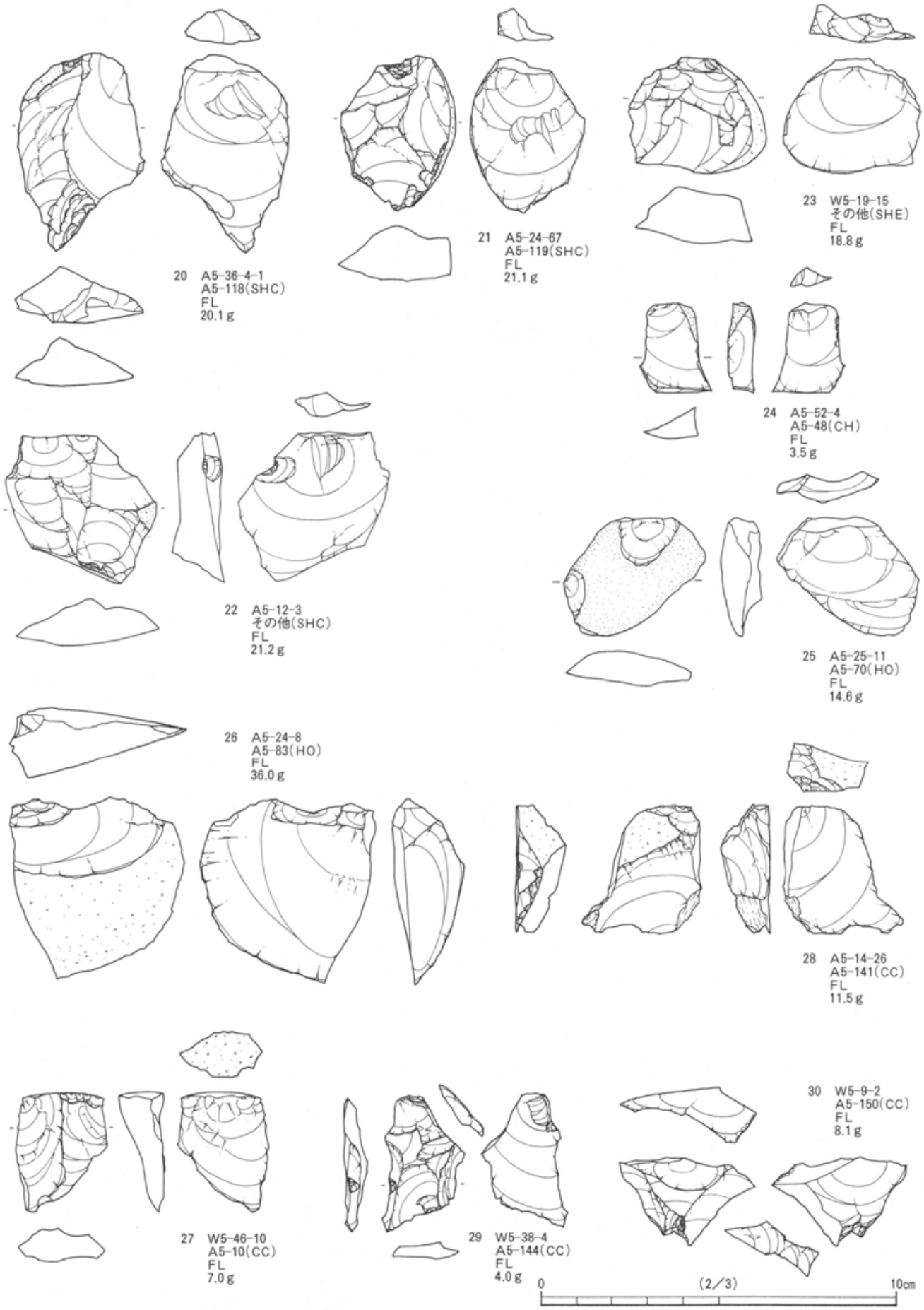
第13図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（１）



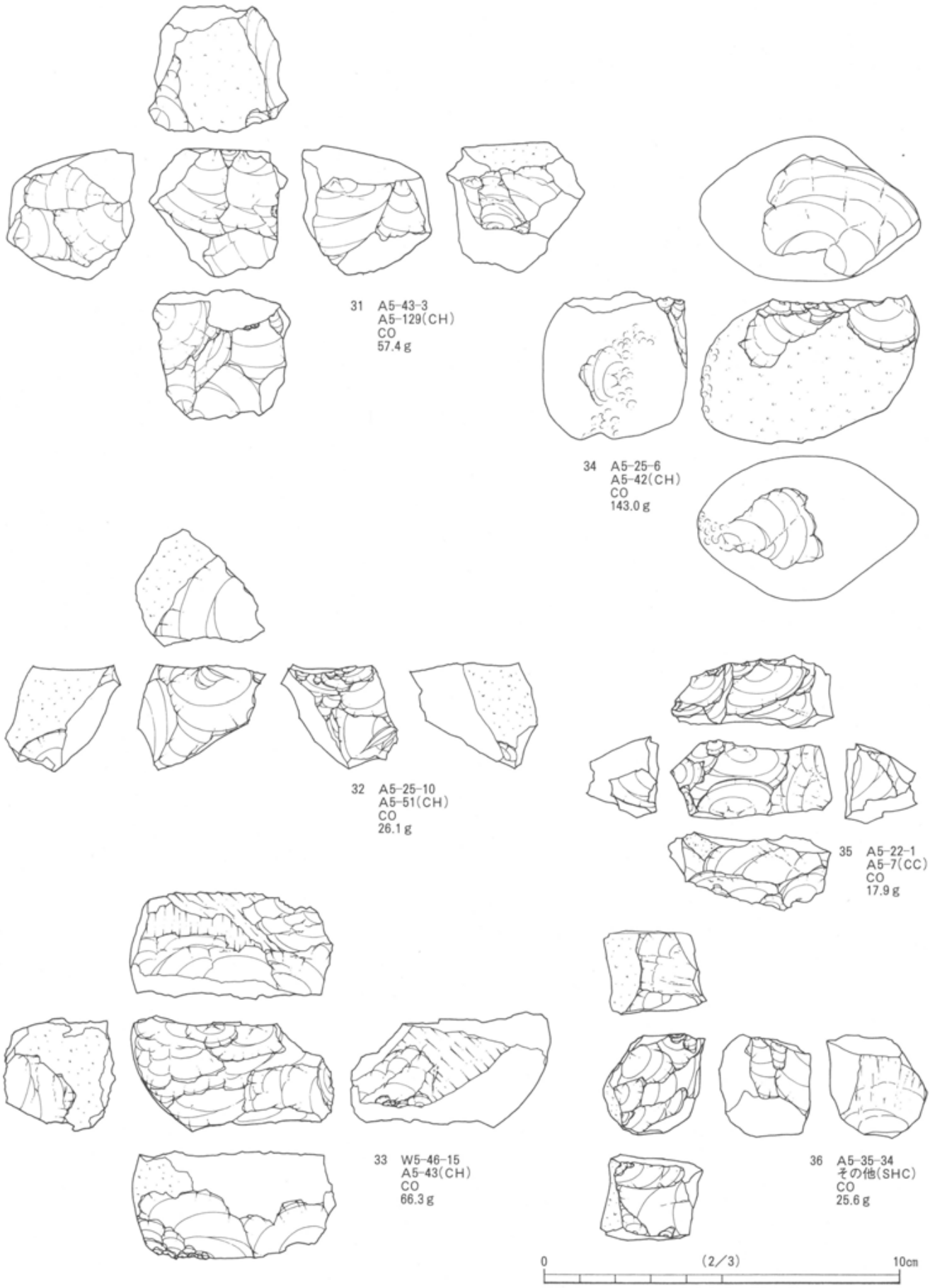
第14図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（２）



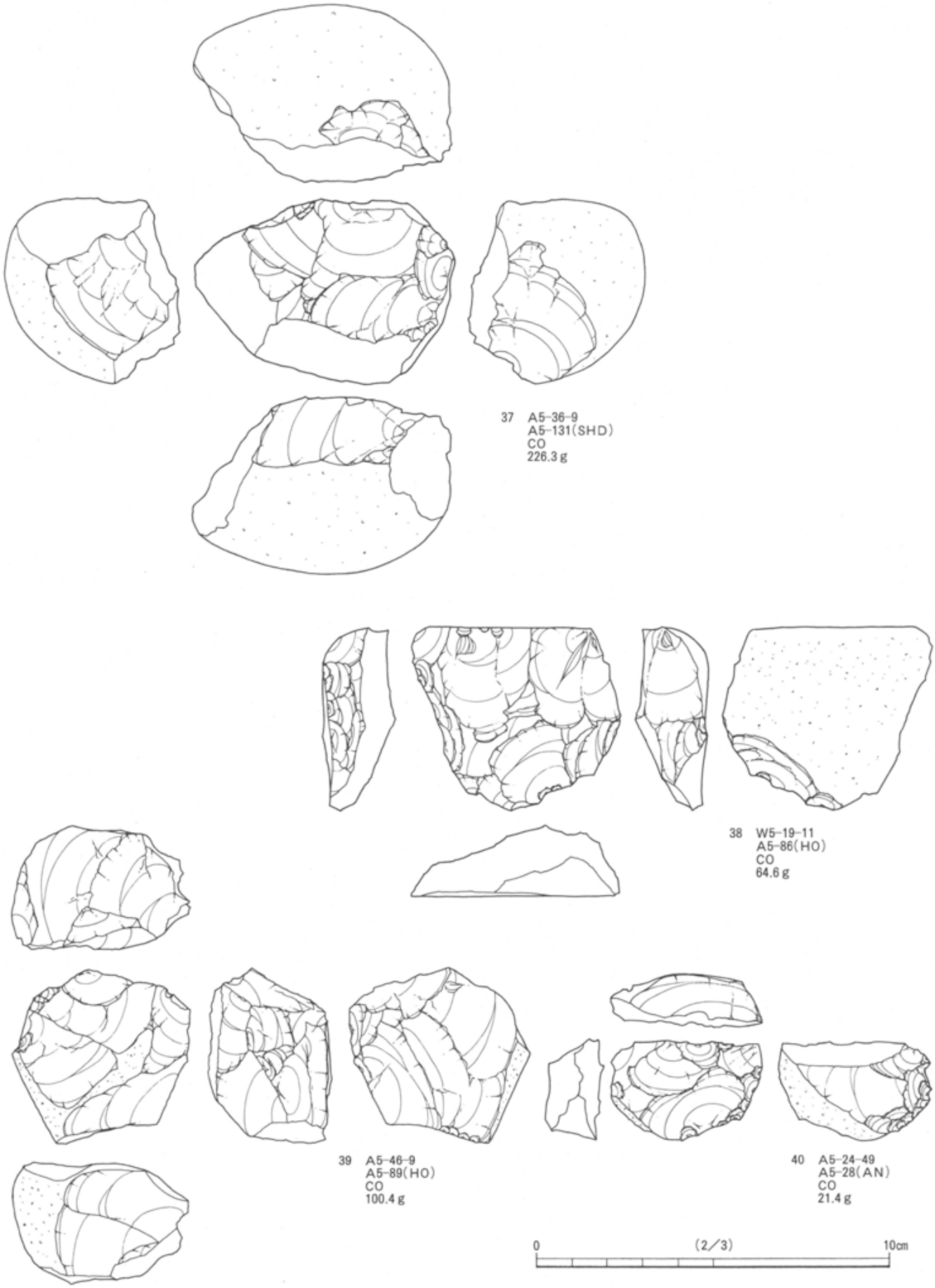
第15図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（３）



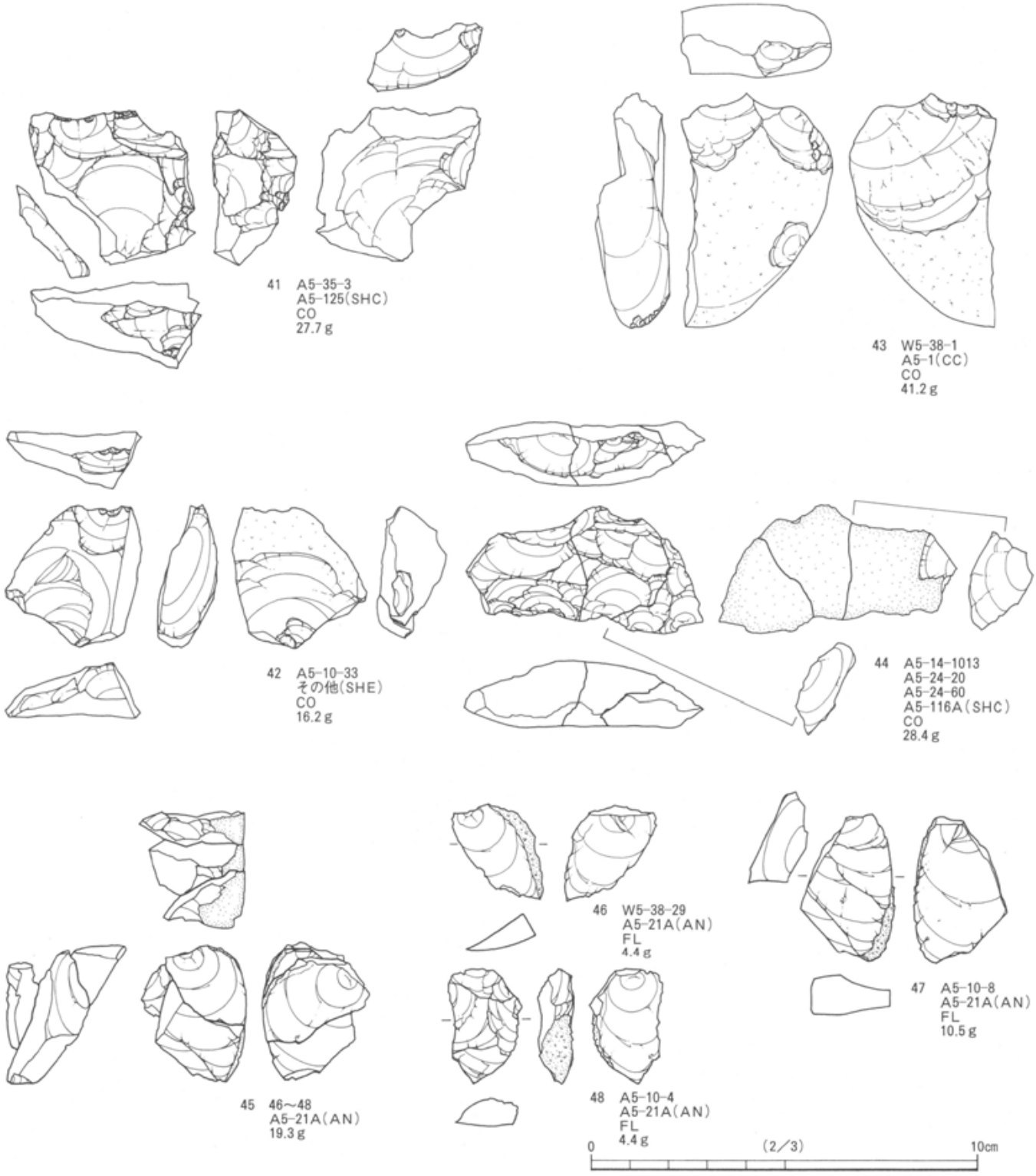
第16図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（４）



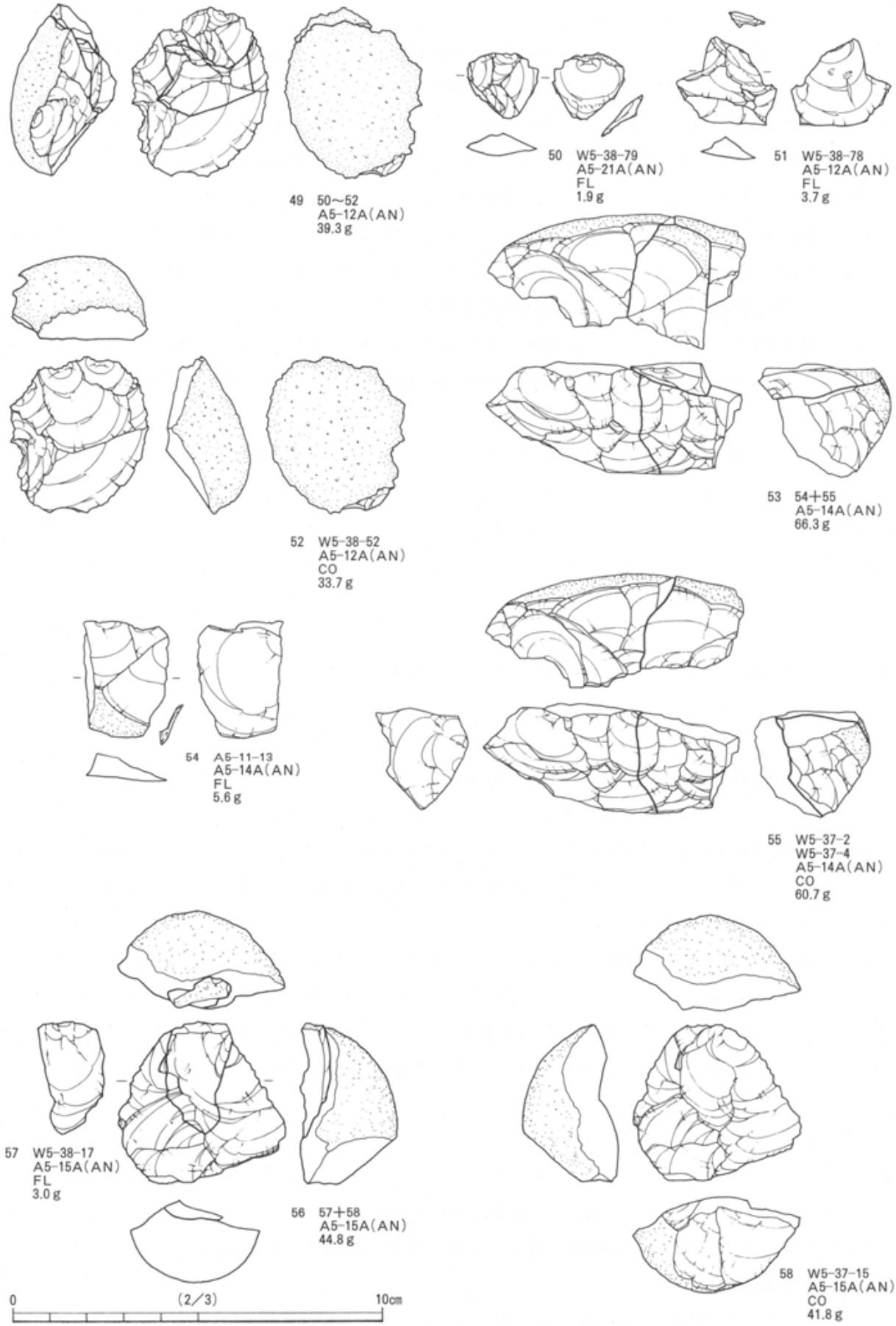
第17図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（５）



第18図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（６）



第19図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（７）



第20図　A５－Aブロック出土遺物（８）

構成される。109は石核２点（109ａ・109ｂ）の接合資料である。元々は，求心的な剥離作業により，不定型な剥片を生産していた個体である。109ｂは破損後も剥離作業を続けている。

・A5-20（第27図110～112）　灰オリーブ色（5Y5/2）の頁岩である。使用痕ある剥片１点，剥片５点の合計６点で構成される。接合資料は，２グループある。A（110）は使用痕ある剥片１点（111），剥片１点（112）の接合資料である。111は表面の左側縁及び裏面の右側面に刃こぼれが見られる。

・A5-19（第27図113～116）　浅黄色（2.5Y7/3）の頁岩である。剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。113は剥片２点（114・115），石核１点（116）の接合資料である。小型で不定型な扁平礫を素材として，求心的な剥離作業により，不定型な剥片を生産している。

・A5-４（第28図117～119）　にぶい黄褐色（10YR5/4）などのチャートである。剥片３点（２個体）で構成される。117は剥片３点（２個体；118・119）の接合資料である。118を剥離した面を打面として，119を剥離している。

・A5-３（第28図120～123）　にぶい黄色（2.5Y6/3）などのチャートである。剥片５点，石核１点の合計６点で構成される。120は剥片２点（121・122），石核１点（123）の接合資料である。礫を素材として，概ね180度の打面転移を行いながら，不定型な剥片を生産している。

・A5-９（第28図124～126）　灰色（10Y4/1）のチャートである。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。124は剥片１点（125），石核１点（126）の接合資料である。求心的な剥離作業により，不定型な剥片を生産している。

・A5-17（第29図127～130）　オリーブ灰色（10Y6/2）の凝灰岩である。使用痕ある剥片１点，剥片５点の合計６点で構成される。127は使用痕ある剥片１点（128），剥片２点（129・130）の接合資料である。礫を素材として，128～130を剥離している。128は頭部を除いて，ほぼ全周に刃こぼれが見られる。

・A5-18（第29図131～136）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの凝灰岩である。剥片８点で構成される。131は剥片５点（132～136）の接合資料である。ほぼ上方向から132～136を剥離している。

・A5-56（第29図137～141）　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの凝灰岩である。剥片７点（６個体）で構成される。137は剥片５点（４個体；138～141）の接合資料である。自然面を打面として，138→139，140，141の順に不定型な剥片を剥離している。

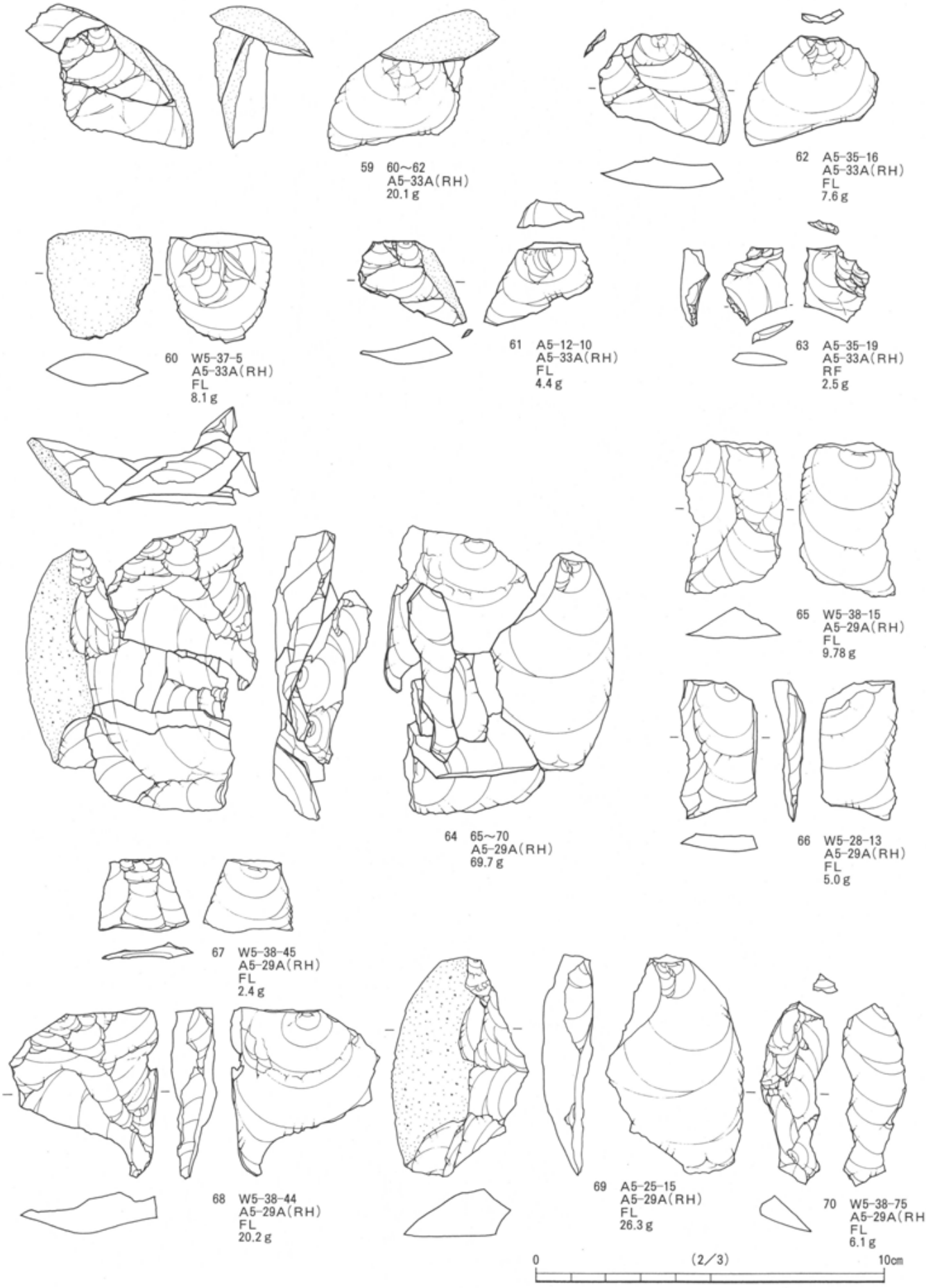
・A5-53（第30図，第31図147～151）　灰色（7.5Y4/1）の砂岩である。剥片７点，石核２点の合計９点で構成される。142は剥片７点（143～146・148～150），石核２点（147・151）の接合資料である。断面が二等辺三角形の比較的大型の礫の底辺側に打面を作りながら，143～147→148，149→150の順に正面から裏面に向かって，不定型な剥片を剥離している。147は剥離後も，裏面側に求心的な剥離作業を行っている。

・A5-74（第31図152～154）　灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。152は剥片１点（153），石核１点（154）の接合資料である。拳大の楕円礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，153など不定型な剥片を剥離している。

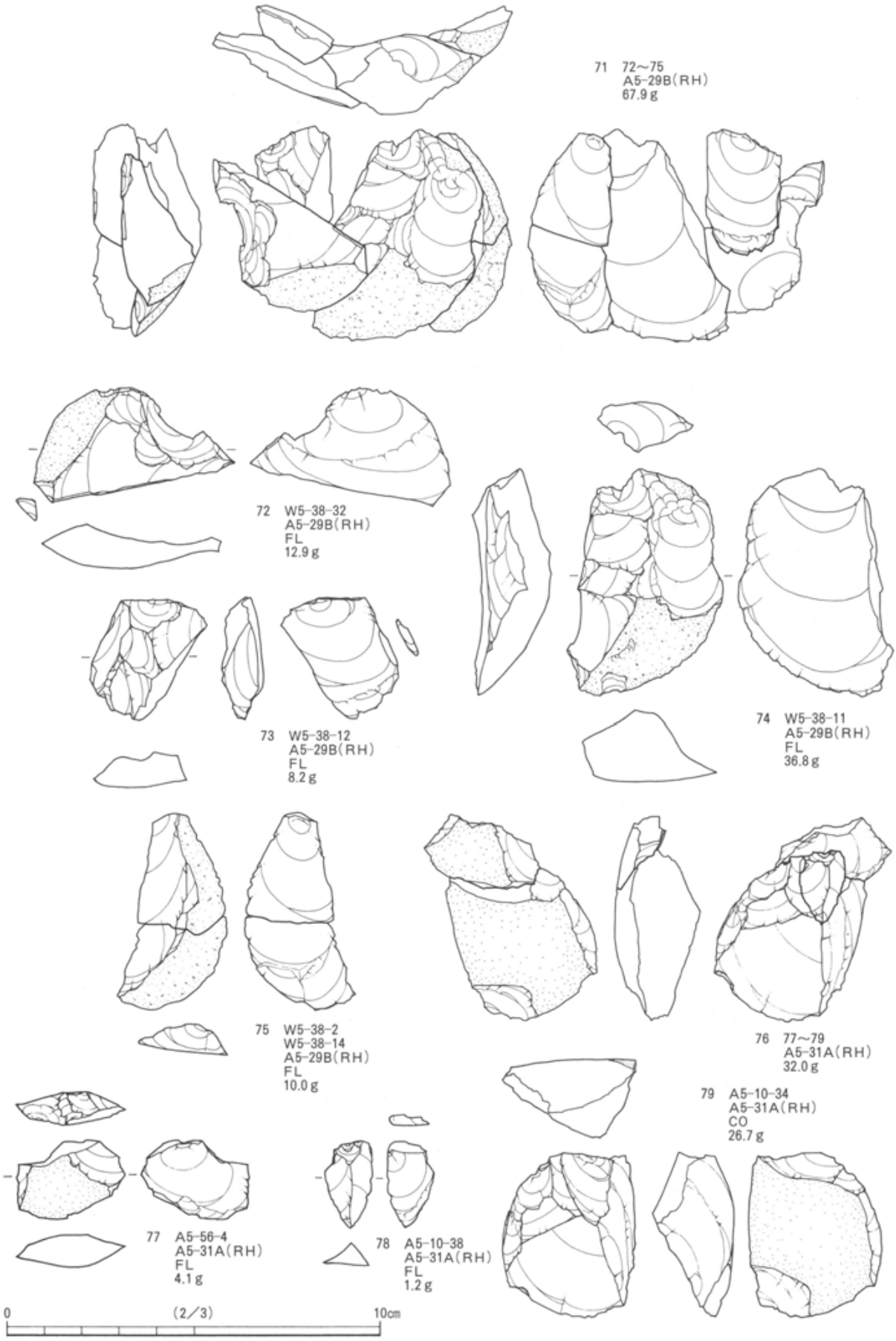
２　B4-Cブロック（第32～36・199図，第４・５表，カラー図版３・17，図版３）

１）ブロックの概要

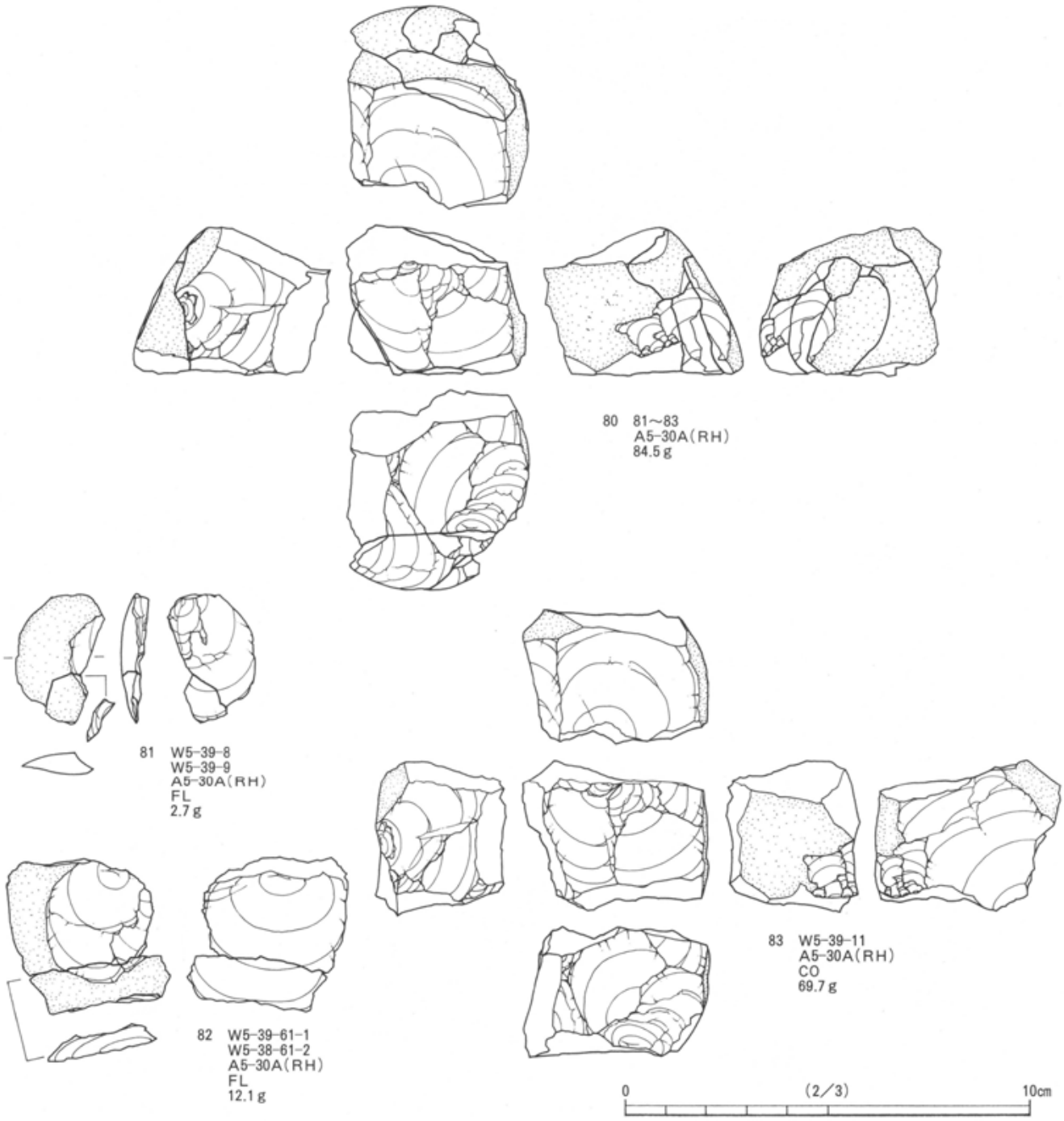
B4-Cブロックは，調査範囲南側のB4-27・28・37・38グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地の縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10ｍである。



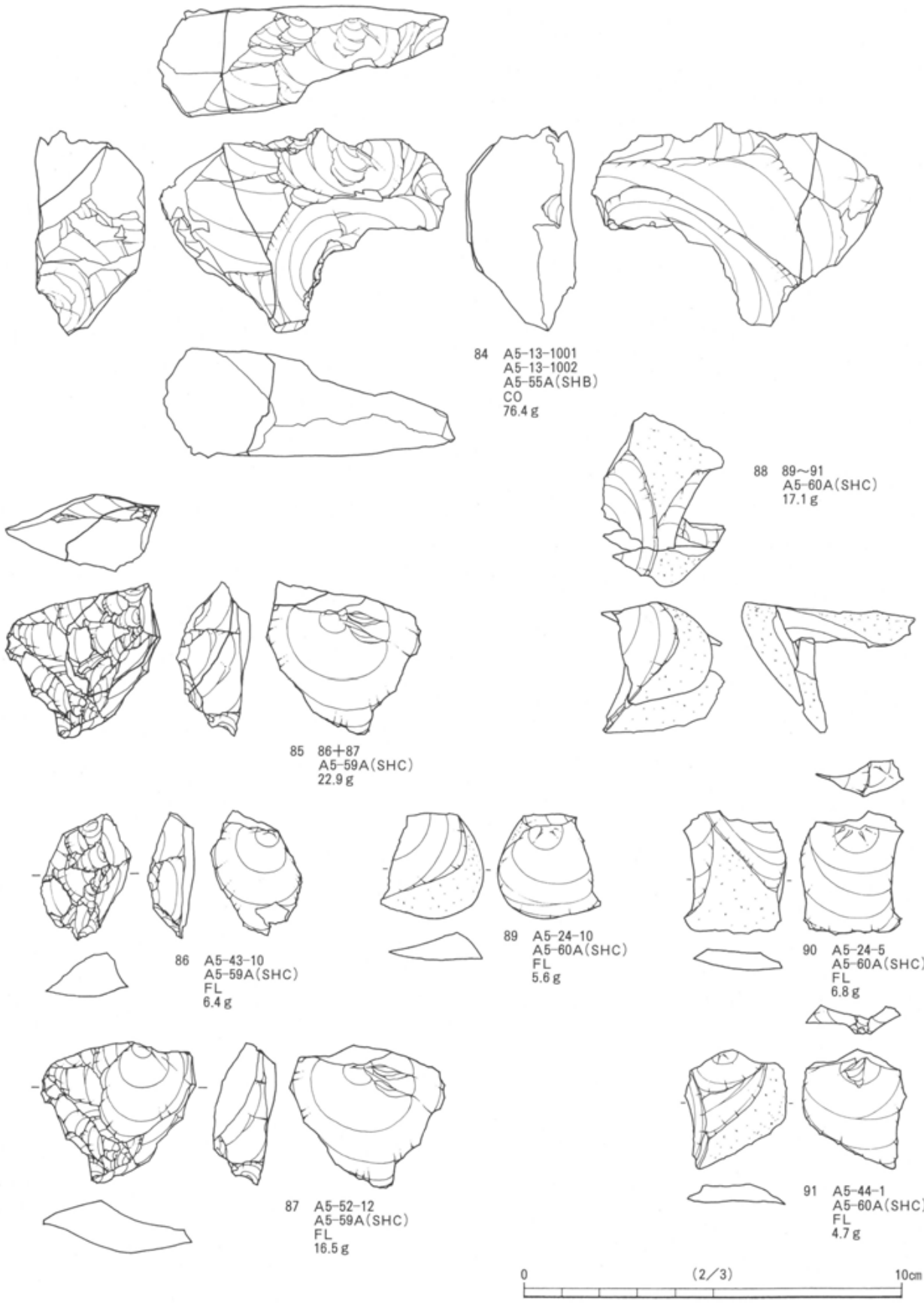
第21図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（９）



第22図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（10）



第23図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（11）



第24図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（12）

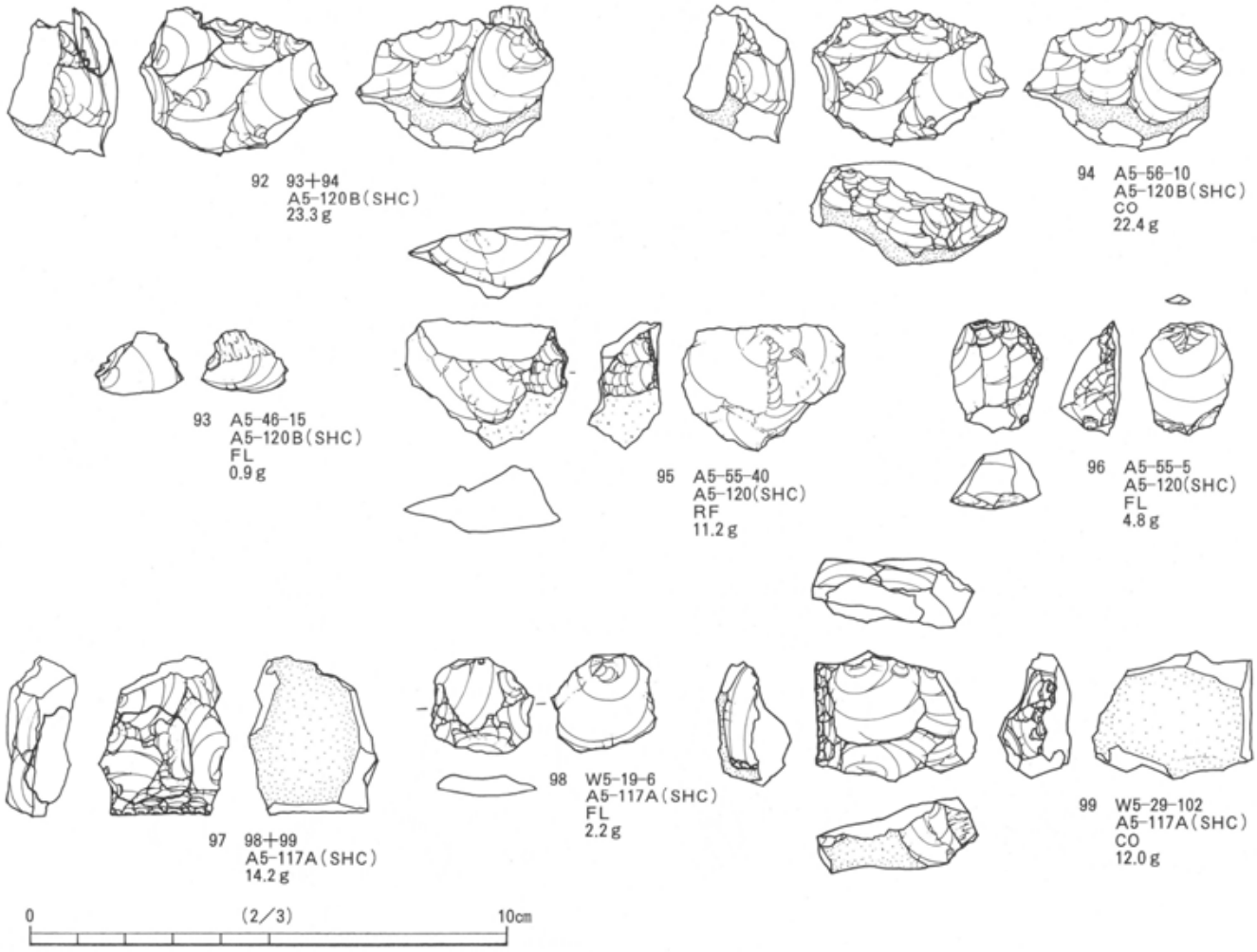
される。124は剥片１点（125），石核１点（126）の接合資料である。求心的な剥離作業により，不定型な剥片を生産している。

・**A5-17（第29図127～130）**　オリーブ灰色（10Y6/2）の凝灰岩である。使用痕ある剥片１点，剥片５点の合計６点で構成される。127は使用痕ある剥片１点（128），剥片２点（129・130）の接合資料である。礫を素材として，128～130を剥離している。128は頭部を除いて，ほぼ全周に刃こぼれが見られる。

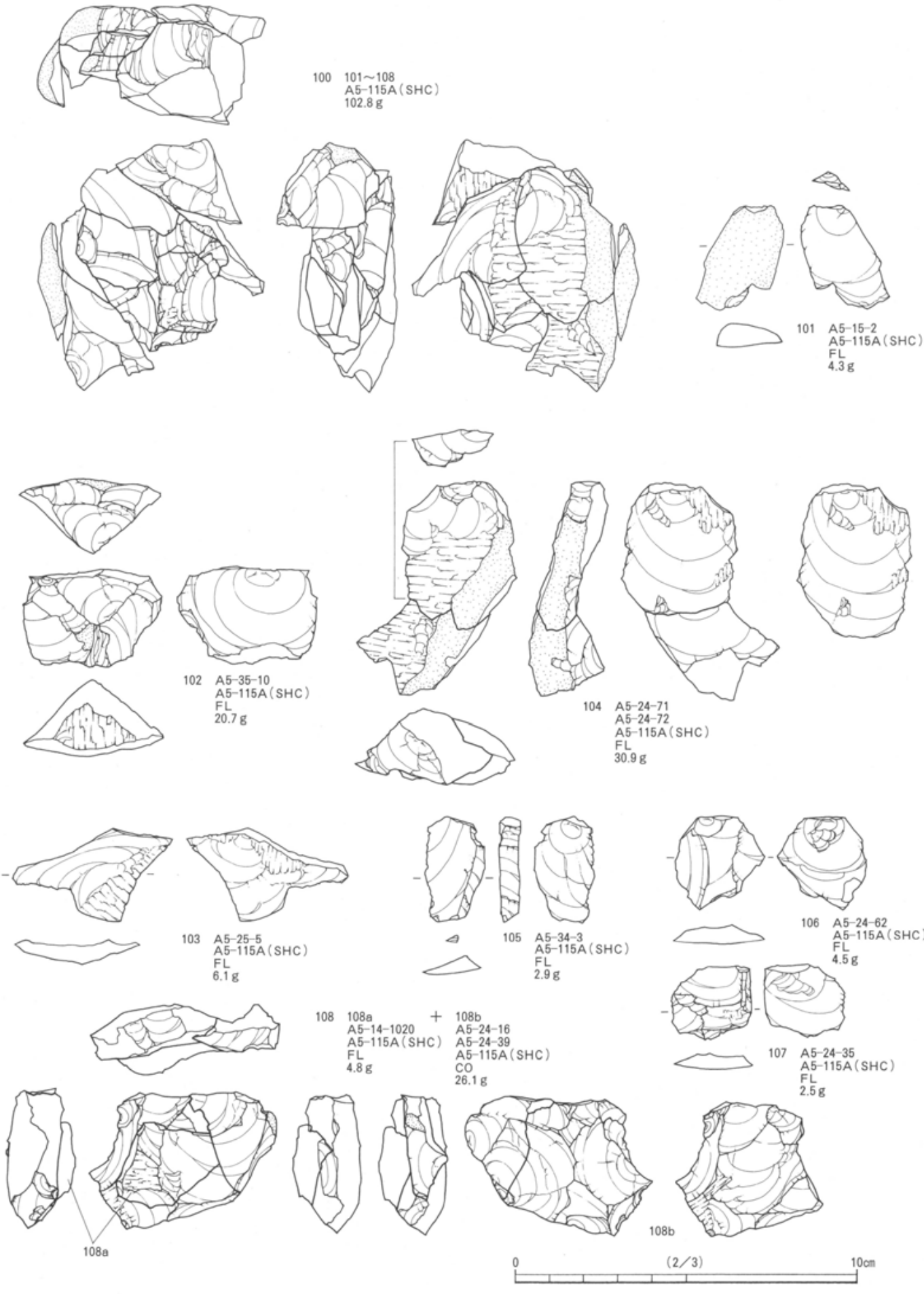
・**A5-18（第29図131～136）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などの凝灰岩である。剥片８点で構成される。131は剥片５点（132～136）の接合資料である。ほぼ上方向から132～136を剥離している。

・**A5-56（第29図137～141）**　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの凝灰岩である。剥片７点（６個体）で構成される。137は剥片５点（４個体；138～141）の接合資料である。自然面を打面として，138→139，140，141の順に不定型な剥片を剥離している。

・**A5-53（第30図，第31図147～151）**　灰色（7.5Y4/1）の砂岩である。剥片７点，石核２点の合計９点で構成される。142は剥片７点（143～146・148～150），石核２点（147・151）の接合資料である。断面が二等辺三角形の比較的大型の礫の底辺側に打面を作りながら，143～147→148，149→150の順に正面から裏面に向かって，不定型な剥片を剥離している。147は剥離後も，裏面側に求心的な剥離作業を行っている。



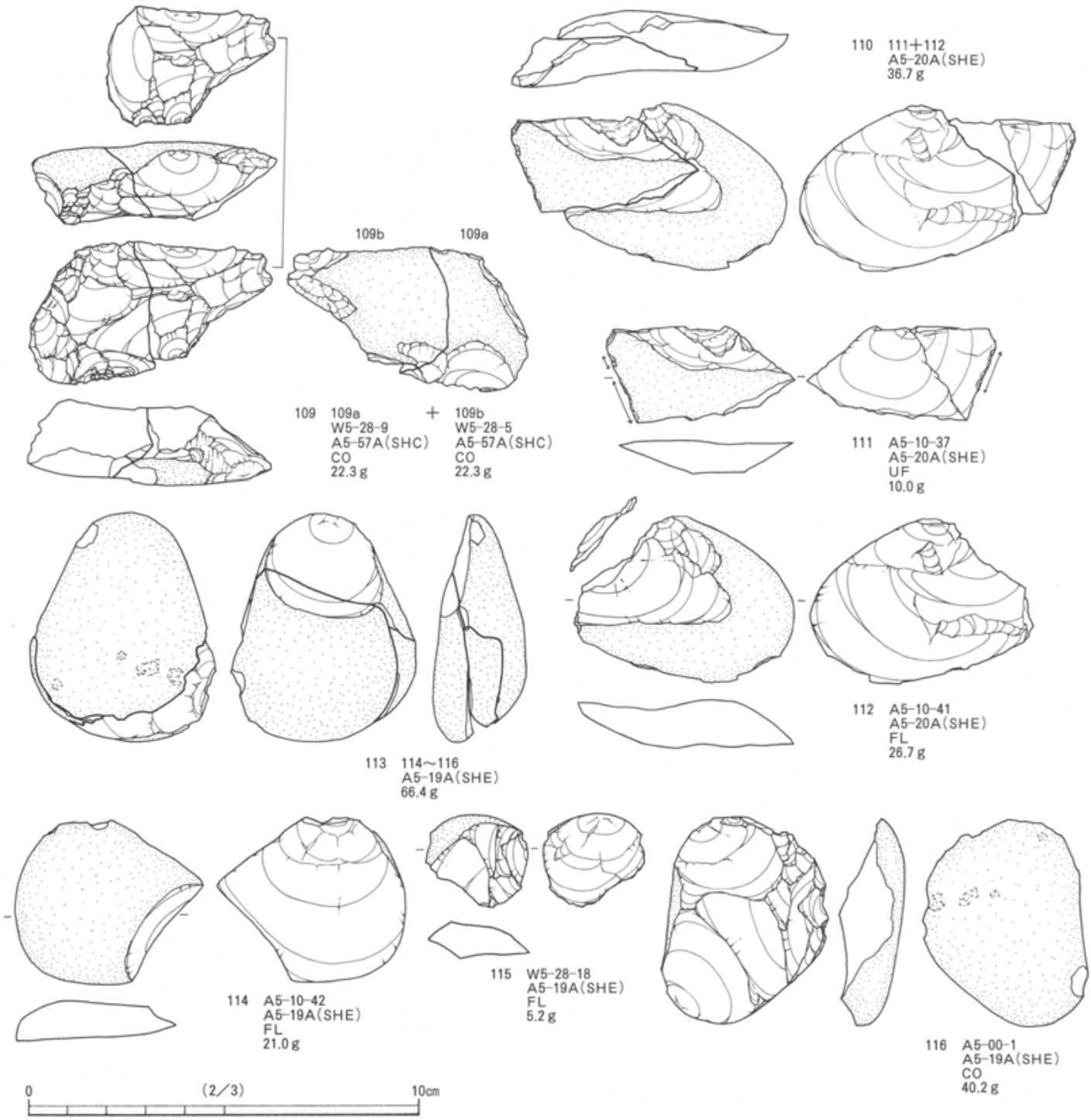
第25図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（13）



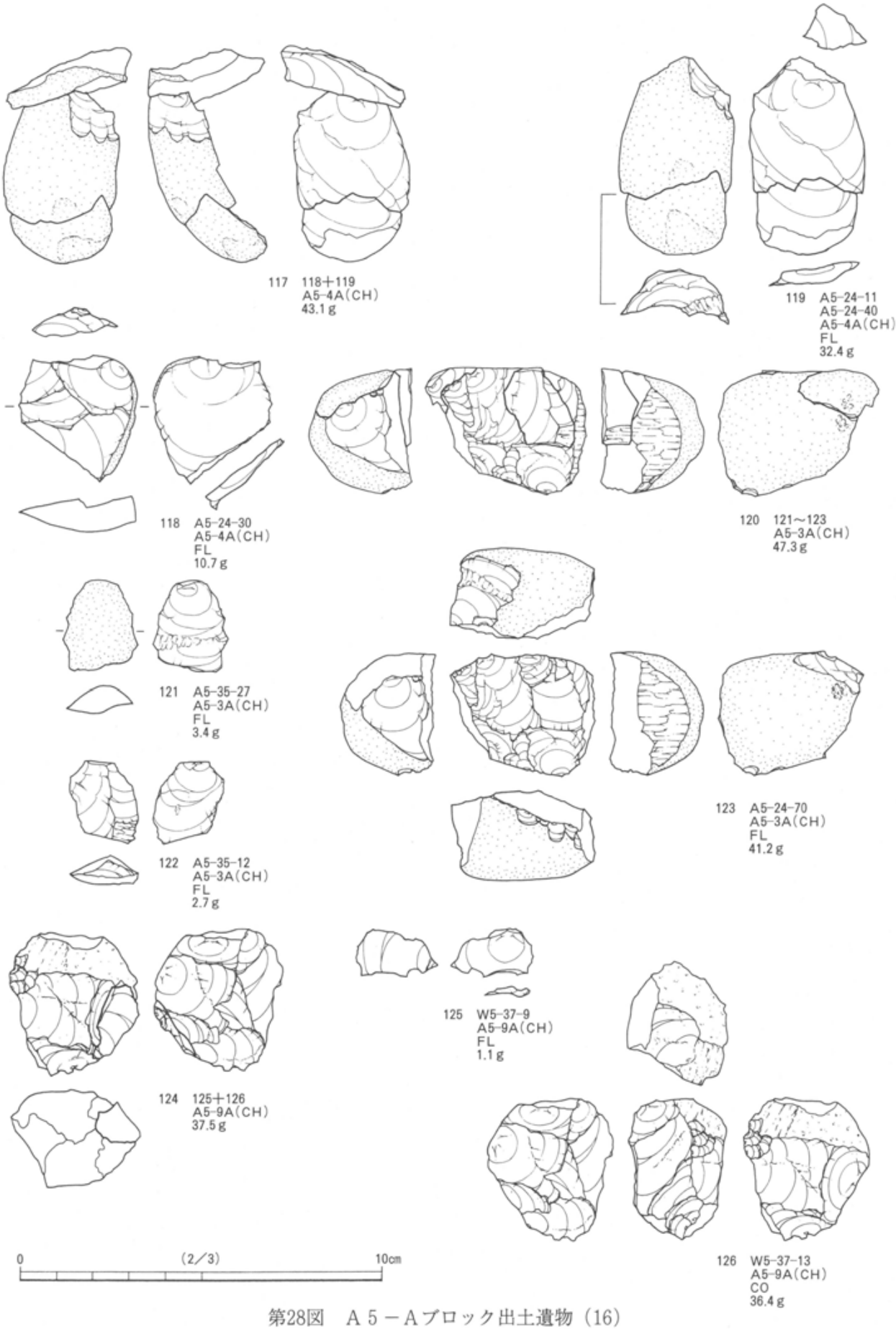
第26図　A５－Aブロック出土遺物（14）

される。124は剥片１点（125），石核１点（126）の接合資料である。求心的な剥離作業により，不定型な剥片を生産している。

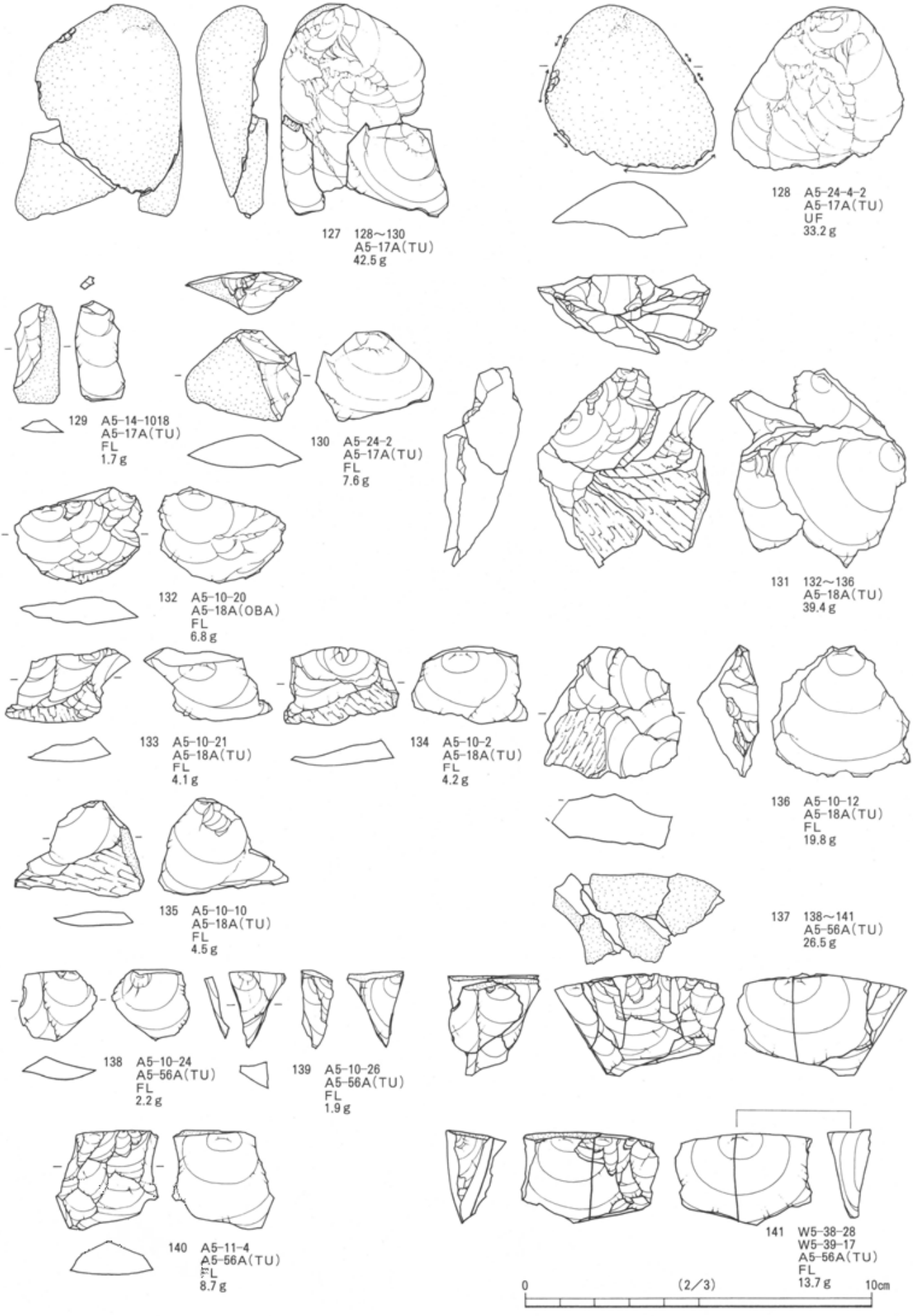
・A5-17（第29図127～130） オリーブ灰色（10Y6/2）の凝灰岩である。使用痕ある剥片１点，剥片５点の合計６点で構成される。127は使用痕ある剥片１点（128），剥片２点（129・130）の接合資料である。礫を素材として，128～130を剥離している。128は頭部を除いて，ほぼ全周に刃こぼれが見られる。



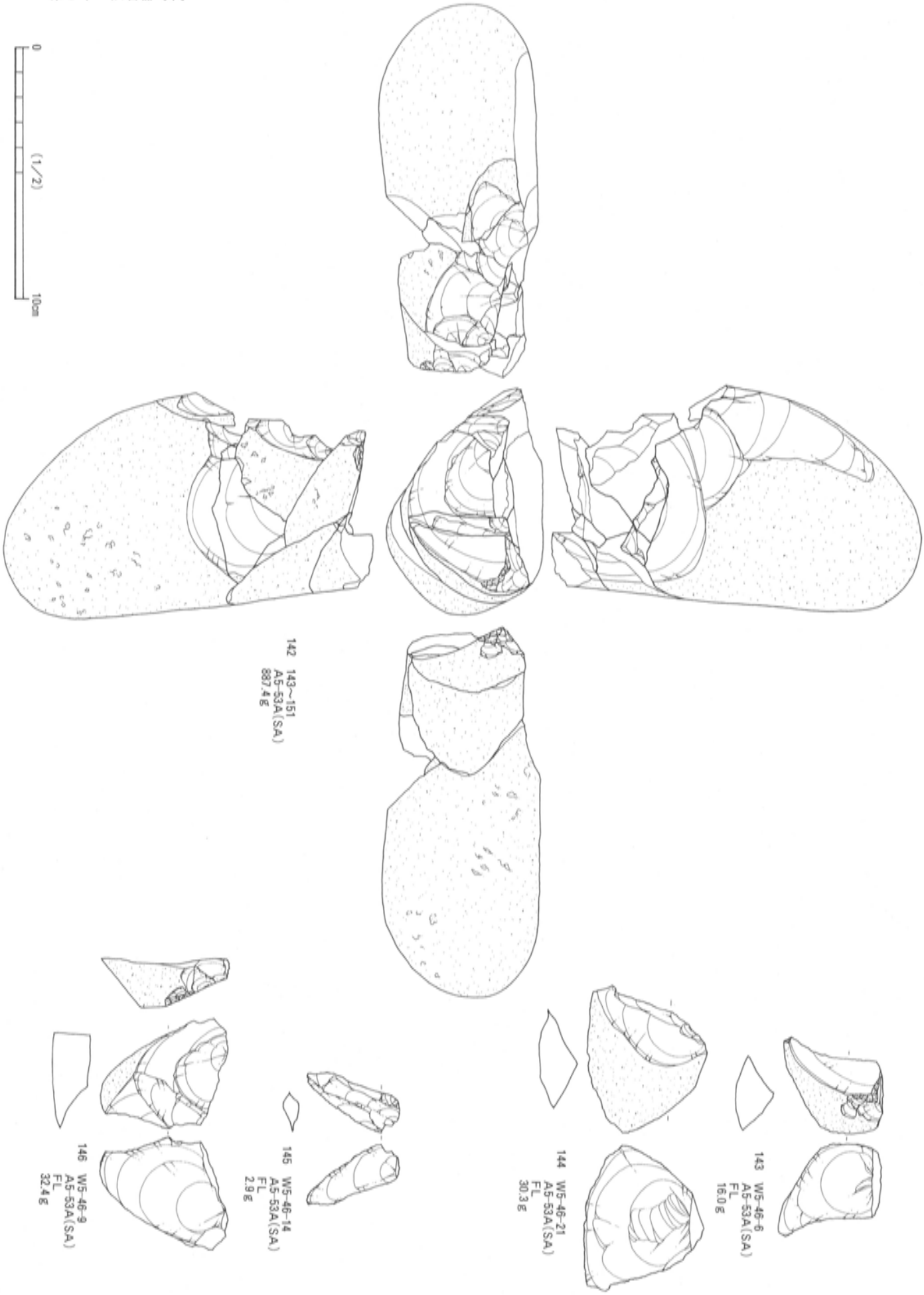
第27図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（15）



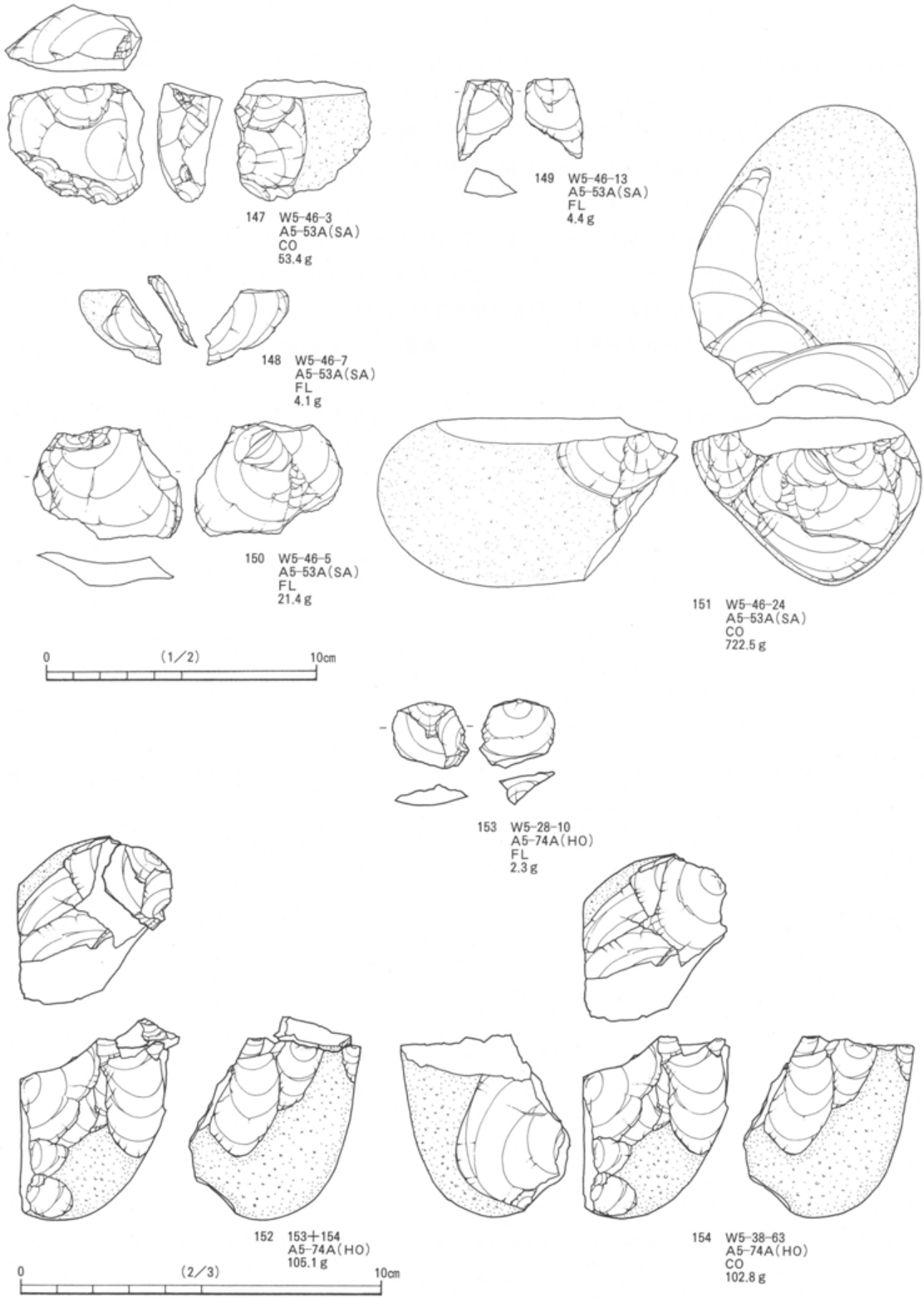
第28図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（16）



第29図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（17）



第30図　Ａ５－Ａブロック出土遺物（18）



第31図　A5－Aブロック出土遺物（19）

・**A5-18（第29図131～136）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などの凝灰岩である。剥片８点で構成される。131は剥片５点（132～136）の接合資料である。ほぼ上方向から132～136を剥離している。

・**A5-56（第29図137～141）**　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの凝灰岩である。剥片７点（６個体）で構成される。137は剥片５点（４個体；138～141）の接合資料である。自然面を打面として，138→139，140，141の順に不定型な剥片を剥離している。

・**A5-53（第30図，第31図147～151）**　灰色（7.5Y4/1）の砂岩である。剥片７点，石核２点の合計９点で構成される。142は剥片７点（143～146・148～150），石核２点（147・151）の接合資料である。断面が二等辺三角形の比較的大型の礫の底辺側に打面を作りながら，143～147→148，149→150の順に正面から裏面に向かって，不定型な剥片を剥離している。147は剥離後も，裏面側に求心的な剥離作業を行っている。

・**A5-74（第31図152～154）**　灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。152は剥片１点（153），石核１点（154）の接合資料である。拳大の楕円礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，153など不定型な剥片を剥離している。

第１表　Ａ５－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A5-1(CC)																		4(3)		3					7(6)
A5-3(CH)																		5		1					6
A5-4(CH)																		3(2)							3(2)
A5-5(CH)																		2							2
A5-6(CH)																		2		1					3
A5-7(CC)																				1					1
A5-8(CC)																		3							3
A5-9(CH)																		1		1					2
A5-10(CC)																		14(13)		1					15(14)
A5-11(SHC)										1	1														2
A5-12(AN)																		25		1					26
A5-13(AN)																		6							6
A5-14(AN)																		8		2(1)					10(9)
A5-15(AN)																		3		1					4
A5-16(AN)											1							3							4
A5-17(TU)											1							5							6
A5-18(TU)																		8							8
A5-19(SHE)																		2		1					3
A5-20(SHE)											1							5							6
A5-21(AN)																		3		2					5
A5-22(AN)																		5(4)							5(4)
A5-23(AN)										1								2							3
A5-24(AN)																		2(1)							2(1)
A5-25(AN)																		2							2
A5-26(AN)																		1							1
A5-27(AN)																		1							1
A5-28(AN)																				1					1
A5-29(RH)																		37(36)							37(36)
A5-30(RH)																		18(16)		2					20(18)
A5-31(RH)																		2		1					3
A5-32(RH)										1								1							2
A5-33(RH)										1								9							10
A5-34(RH)																		2							2
A5-35(RH)																		4							4
A5-37(RH)																		1							1
A5-38(RH)																		1							1
A5-39(RH)																		1							1
A5-41(CH)																1									1
A5-42(CH)																				1					1
A5-43(CH)																				1					1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A5-44(CH)																				1					1
A5-45(CH)																		1							1
A5-46(CH)																		1							1
A5-47(CH)																		1							1
A5-48(CH)																		1							1
A5-49(CH)																		1							1
A5-50(CH)																		1							1
A5-51(CH)																				1					1
A5-52(CH)										1															1
A5-53(SA)																		7		2					9
A5-54(TU)														1											1
A5-55(SHB)																				2(1)					2(1)
A5-56(TU)																		7(6)							7(6)
A5-57(SHC)																		2		2					4
A5-58(SHC)																		1		1					2
A5-59(SHC)																		2							2
A5-60(SHC)																		6							6
A5-61(SHC)																		3							3
A5-62(OBA)																		2							2
A5-63(OBA)										1								1							2
A5-64(OBA)																		2							2
A5-65(OBA)										1								2							3
A5-66(OBA)											1							1							2
A5-67(OBG)																		1							1
A5-68(OBD)																		2							2
A5-69(HO)																		4							4
A5-70(HO)																		8(7)							8(7)
A5-71(HO)																		2		1					3
A5-72(HO)																		3							3
A5-73(HO)																		4							4
A5-74(HO)																		1		1					2
A5-75(HO)																		2							2
A5-76(HO)																		7							7
A5-77(HO)																		2							2
A5-78(HO)																		2							2
A5-79(HO)																		1							1
A5-80(HO)																		1							1
A5-81(HO)																		1							1
A5-82(HO)																		1							1
A5-83(HO)																		1							1
A5-84(HO)														1											1
A5-85(HO)																		1							1
A5-86(HO)																				1					1
A5-87(HO)																		1							1
A5-88(HO)																		2							2
A5-89(HO)																		3		1					4
A5-90(SA)																		2							2
A5-91(SA)																		4							4
A5-92(SA)																		4							4
A5-93(SA)																		2							2
A5-94(SA)																		2							2
A5-95(SA)																		2							2
A5-96(SA)																		1							1
A5-97(SA)										1															1
A5-98(SA)																		1							1
A5-99(SA)																		1							1
A5-100(SA)																		1							1
A5-101(SA)																		1							1
A5-102(SA)																		1							1
A5-103(SA)																		1							1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A5-104(TO)																		7(6)							7(6)
A5-105(TO)																		12							12
A5-106(TO)																		5							5
A5-107(TO)																		1							1
A5-108(TU)																		3							3
A5-109(AN)																		2							2
A5-110(RH)																		1							1
A5-112(RH)																1									1
A5-113(AN)																1									1
A5-114(AN)																1									1
A5-115(SHC)											2							24(23)		5(4)					31(29)
A5-116(SHC)																				3(1)					3(1)
A5-117(SHC)																		1		1					2
A5-118(SHC)																		3							3
A5-119(SHC)											1							1							2
A5-120(SHC)										1	1							21(20)		4					27(26)
A5-121(SHC)																		3							3
A5-122(SHC)											1							1							2
A5-124(CH)																		2							2
A5-125(SHC)											1							2		1					4
A5-126(SHC)											1														1
A5-127(SHC)																				1					1
A5-128(SHC)																				1					1
A5-129(CH)																				1					1
A5-130(SHC)																		1							1
A5-131(SHD)																				1					1
A5-132(SHD)																		1							1
A5-133(SHB)																		1							1
A5-134(SHD)																		1							1
A5-135(SHD)																		1							1
A5-136(SHD)																		1							1
A5-137(SHC)																		1							1
A5-138(SHC)																		1							1
A5-139(SHC)																		1							1
A5-141(CC)																		4							4
A5-142(CC)																		2							2
A5-144(CC)																		1							1
A5-145(CC)																		1							1
A5-146(CC)																				1					1
A5-150(CC)																		1							1
その他(OBA)																		10	1						11
その他(OBB)																		1							1
その他(OBG)																		3							3
その他(AN)																		21							21
その他(TO)																		4							4
その他(RH)																		11							11
その他(SHC)		1								2	2							82	2	3					92
その他(SHD)																		1							1
その他(SHE)									1									18		1					20
その他(CH)																		8							8
その他(TU)																		5							5
その他(SA)																		12							12
その他(HO)																		25	1						26
その他(CC)																		6	1						7
合　計		1							1	11	14			2		4		620(607)	5	57(52)					715(697)

第２表　Ａ５－Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)										2	1							18	1						22
黒曜石Ｂ(OBB)																		1							1
黒曜石Ｄ(OBD)																		2							2
黒曜石Ｇ(OBG)																		4							4
安山岩(AN)										1	1					2		84(82)		7(6)					95(92)
安山岩(TO)																		29(28)							29(28)
流紋岩(RH)										2						1		88(85)		3					94(91)
頁岩Ｂ(SHB)																		1		2(1)					3(1)
頁岩Ｃ(SHC)		1								4	10							156(154)	2	22(20)					195(191)
頁岩Ｄ(SHD)																		5		1					6
頁岩Ｅ(SHE)									1		1							25		2					29
チャート(CH)										1						1		29(28)		8					39(38)
凝灰岩(TU)											1			1				28(27)							30(29)
砂岩(SA)										1								42		2					45
ホルンフェルス(HO)														1				72(71)	1	4					78(77)
瑪瑙・玉髄(CC)																		36(34)	1	6					43(42)
合　計		1							1	11	14			2		4		620(607)	5	57(52)					715(697)

第３表　Ａ５－Ａブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
A5R-1	CH	1	15.0
A5R-2	SA	1	56.2
A5R-3	SA	1	43.0
A5R-4	SA	1	35.8
A5R-5	SA	1	91.4
A5R-6	SA	1	3.3
A5R-7	RH	1	21.4

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	21.4
チャート(CH)	1	15.0
砂岩(SA)	5	229.6
合　計	7	266.0

2　B4-Cブロック（第32～36・199図，第４・５表，カラー図版３・17，図版３）

１）ブロックの概要

B4-Cブロックは，調査範囲南側のB4-27・28・37・38グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地の縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10ｍである。

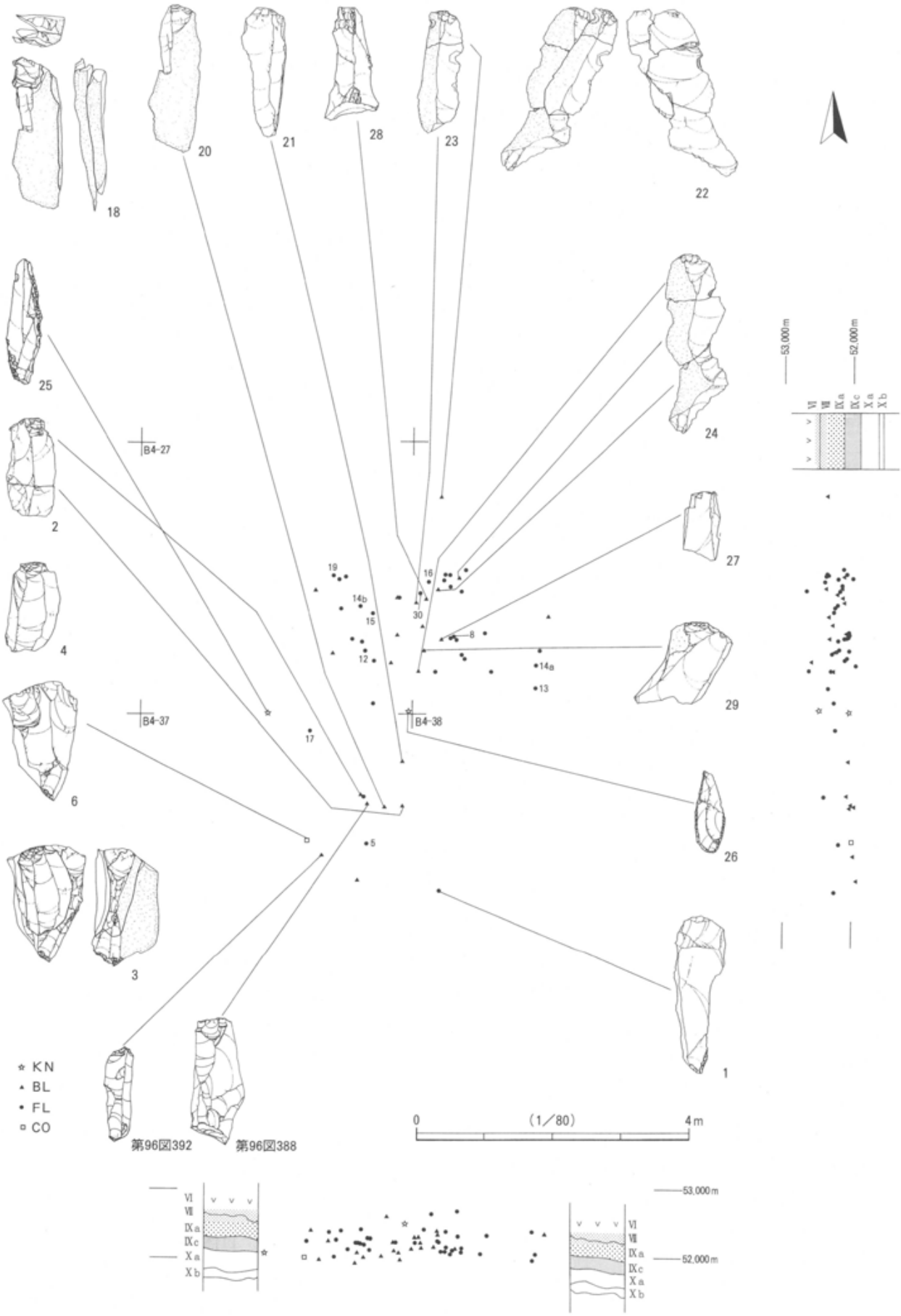
ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸４ｍの範囲に60点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸａ層からⅨｃ層を中心にⅥ層からＸａ層にかけて，80cmほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第32・33図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，石刃22点（18個体），剥片35点（33個体），石核１点の合計60点（54個体）で構成される。石器石材は，安山岩２点（１個体），頁岩Ｂ56点（51個体），凝灰岩１点，瑪瑙・玉髄１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（B4-11），頁岩Ｂ３母岩（B4-９・10・29），凝灰岩１母岩（B4-12），瑪瑙・玉髄１母岩（B4-13）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は98％（59/60点）である。

・B4-９：自然面は灰赤色（2.5YR4/2），内部は褐灰色（7.5YR4/1）の資料，自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は褐灰色（5YR4/1）の資料，自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2）が混じり，内部は褐灰色（7.5YR4/1）の資料など母岩内での変異の大きい北関東産頁岩である。色調変異については，被熱による変色の可能性もある。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点，石刃17点（14個体），剥片32点（30



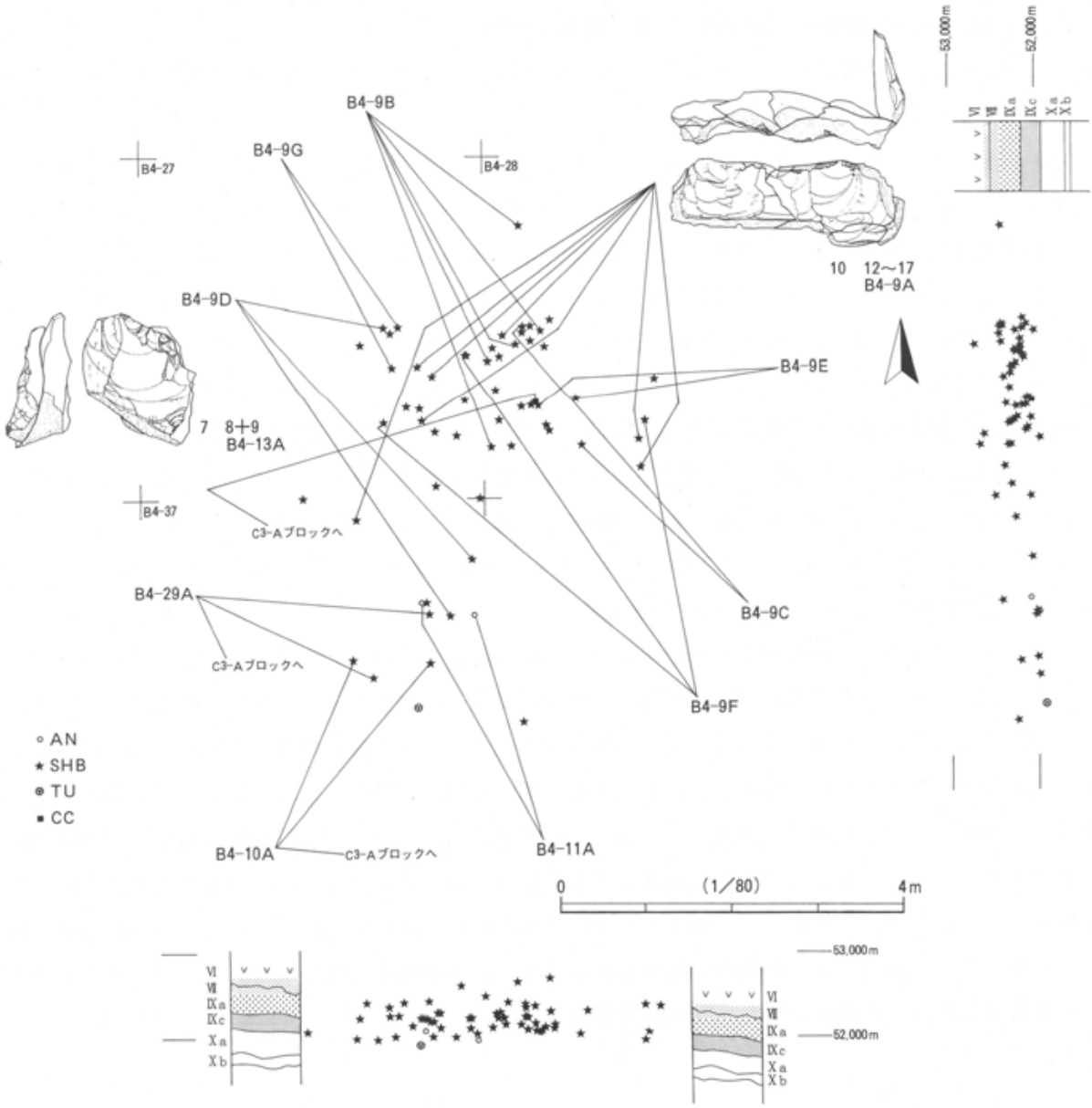
第32図　Ｂ４－Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

個体）の合計51点（46個体；196.5ｇ）である。接合資料は，７グループあり，Ａは剥片７点（６個体；38.0ｇ），Ｂは石刃５点（２個体；13.7ｇ），Ｃは剥片２点（5.6ｇ），Ｄは石刃２点，剥片１点の合計３点（16.8ｇ），Ｅは剥片２点（１個体；26.1ｇ），Ｆは石刃３点（13.8ｇ），Ｇは剥片２点（9.2ｇ）である。

・**B4-10**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3）・灰褐色（7.5YR4/2），内部は暗赤灰色（5R3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（48.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（48.9ｇ）が，C3-Ａブロックの石刃１点と接合している。その他に同一母岩がC3-Ａブロックに４点ある。

・**B4-11**：褐灰色（10YR4/1）で，新鮮な面は黒色の安山岩である。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；6.0ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体；6.0ｇ）である。

・**B4-12**：黄灰色（2.5Y5/1）・灰色（5Y4/1）の地に灰褐色（7.5YR4/2）の斑が入る珪化度の高い凝灰岩である。本ブロックでは石刃１点（10.6ｇ）の単独資料であるが，その他にD3-Ａブロックに１点ある。



第33図　Ｂ４－Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・B4-13：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部はにぶい黄橙色（10YR6/3）・灰色（5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の瑪瑙・玉髄である。あるいは硬質緻密な頁岩の可能性もある。本ブロックでは剥片１点（18.5ｇ）の単独資料であるが，C3-Aブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がC3-Aブロックに４点ある。

・B4-29：自然面は灰黄褐色（10YR4/2），内部は暗赤灰色（5R3/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（18.3ｇ）である。接合資料は，石刃２点（18.3ｇ）がC3-Aブロックの使用痕ある剥片２点，石刃２点，剥片２点，石核１点の合計７点と接合している。その他に同一母岩がC3-Aブロックに５点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，北関東産頁岩の剥片１点（0.7ｇ）がある。

３）出土遺物（第34図１）

１は凝灰岩による稜付き石刃である。右側縁の末端に細かい調整加工が行われている。

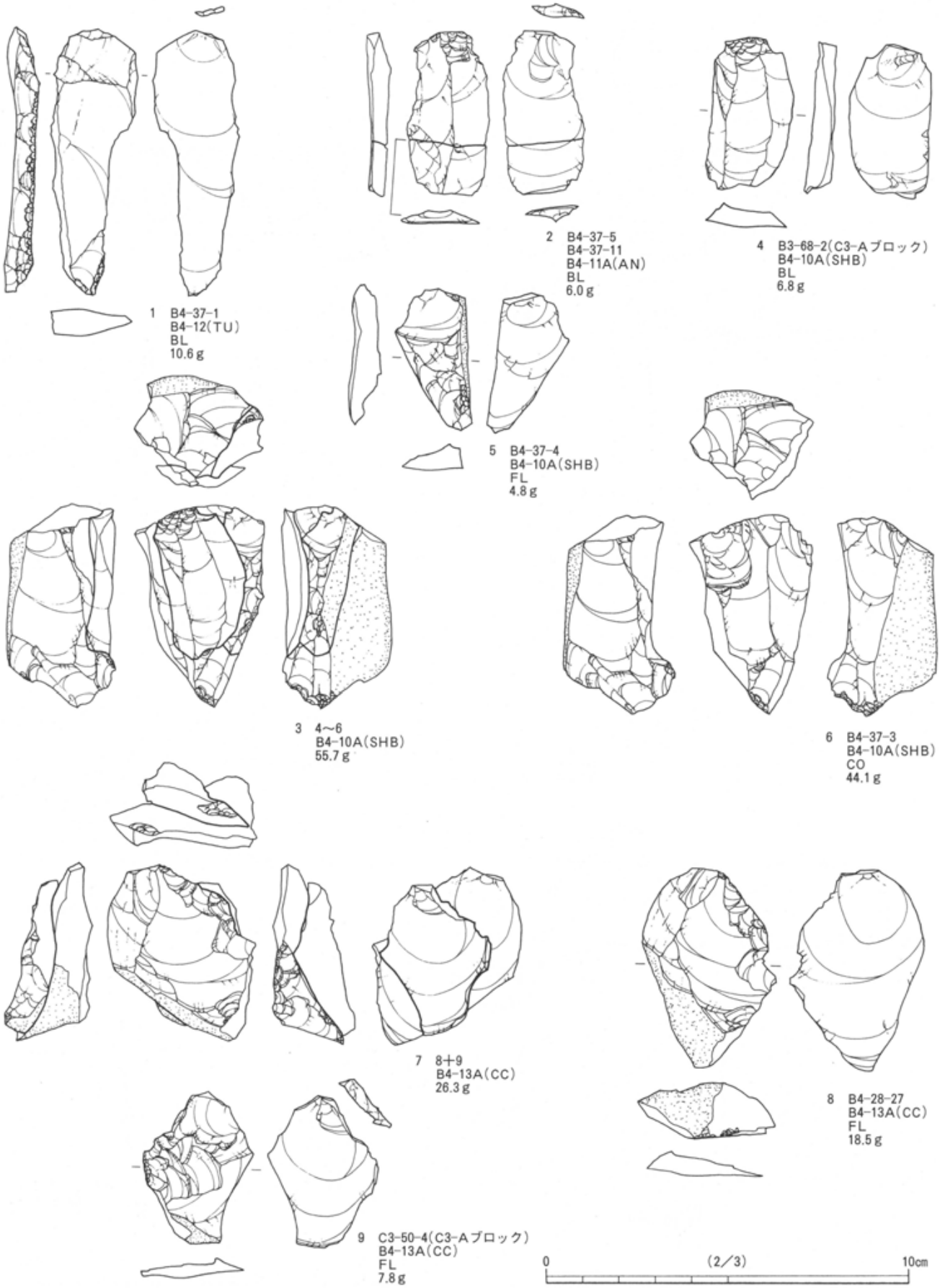
４）接合資料とその関連資料（第34図２～９，第35・36図）

・B4-11（第34図２）　褐灰色（10YR4/1）の安山岩である。石刃２点（１個体）で構成される。２は石刃２点が接合して１個体となる。

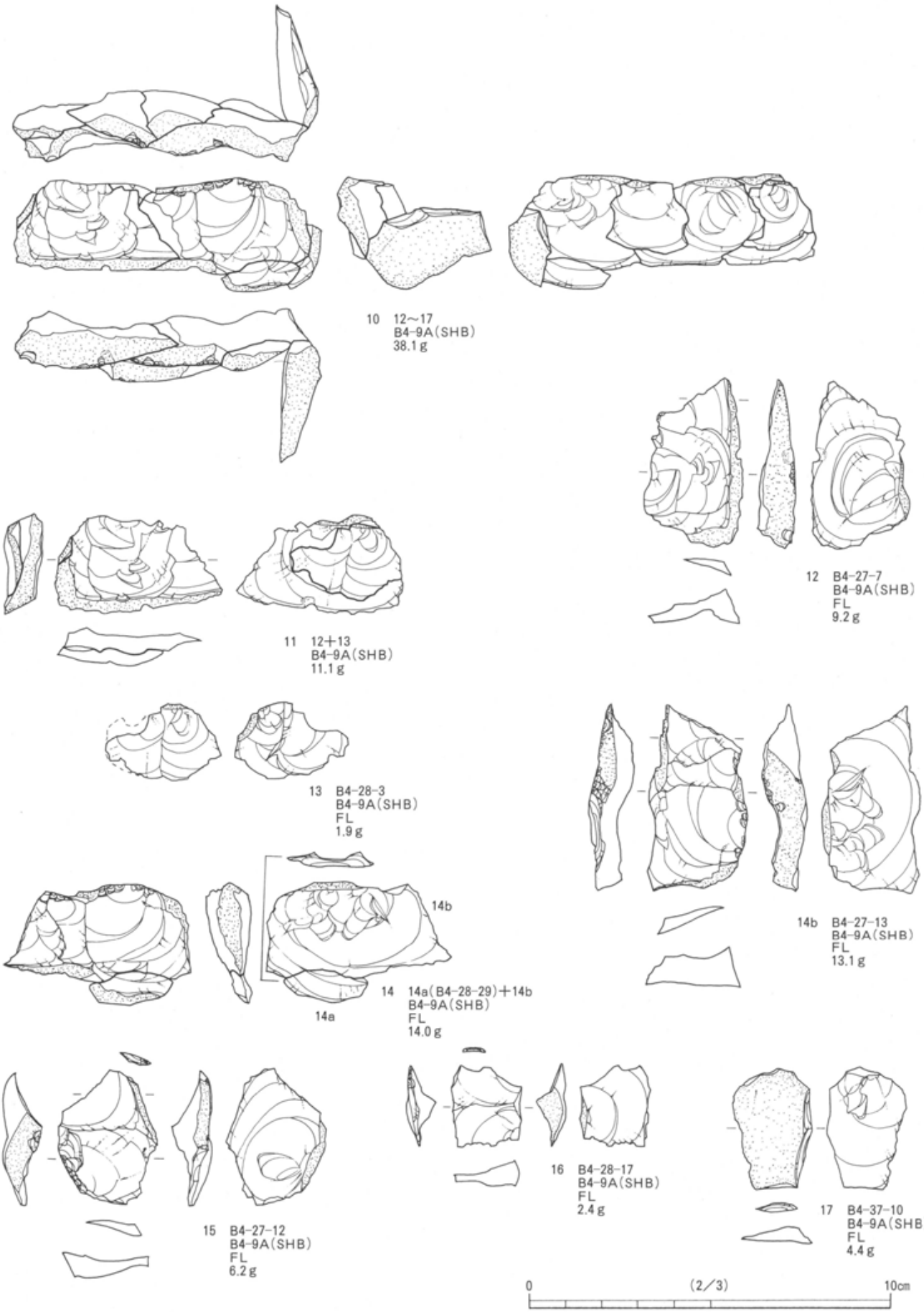
・B4-10（第34図３～６）　暗赤灰色（5R3/1）の北関東産頁岩である。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。３は石刃１点（４），剥片１点（５），石核１点（６）の接合資料である。角礫を素材として，打面調整や側面調整を行った両設打面の石核から石刃や石刃状剥片を剥離している。石刃の生産に関係する母岩と考えられる。なお，４はC3-Aブロックから出土している。

・B4-13（第34図７～９）　にぶい黄橙色（10YR6/3）などの瑪瑙・玉髄である。本ブロックでは剥片１点の単独資料である。７は剥片２点（８・９）の接合資料である。７の両側面に剥離方向と直交する剥離面が見られ，打面再生剥片の可能性がある。なお，９はC3-Aブロックから出土している。

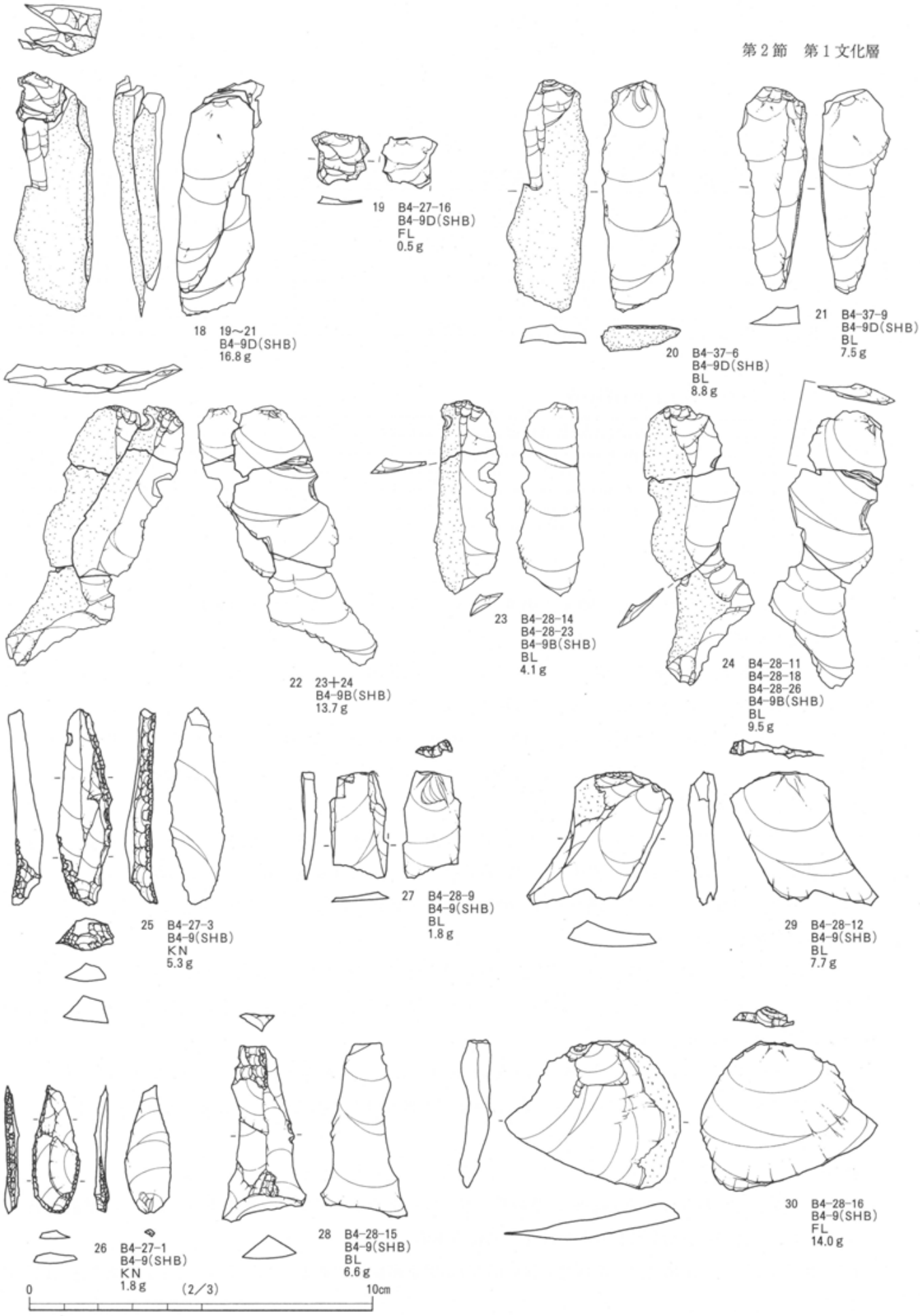
・B4-９（第35・36図）　褐灰色（7.5YR4/1）などの北関東産頁岩である。ナイフ形石器２点，石刃17点（14個体），剥片32点（30個体）の合計51点（46個体）で構成される。接合資料は，７グループある。A（10）は剥片７点（６個体；12～17）の接合資料である。角礫を素材として，12→13→14ａ→14ｂ→15→16の順に不定型な剥片を剥離した後，打面を90度転移して17を剥離している。D（18）は石刃２点（20・21），剥片１点（19）の接合資料である。19→20→21の順に石刃を剥離している。B（22）は石刃５点（２個体；23・24）の接合資料である。両設打面の石核から剥離されたもので，３点で１個体になる石刃と２点で１個体になる石刃が接合している。25～30は接合しなかった同一母岩の資料である。25・26は石刃による二側縁加工のナイフ形石器である。両者とも打面側を基部としている。27～29は石刃である。28には側面調整の剥離痕が見られる。30は剥片である。この母岩には，Aのような不定型な剥片の生産に関係するものと，B・Dのような石刃の生産に関係するものがあるが，全体としては，石刃の生産に関係する母岩と考えられる。なお，これらが同一個体から剥離されたのか，複数に分割された別個体から剥離されたものか不明である。あるいは別母岩の可能性もある。また，本母岩は色調変異が甚だしいことやクレーター状の剥離痕などから，熱処理が行われている可能性がある。



第34図　Ｂ４－Ｃブロック出土遺物（１）



第35図　Ｂ４－Ｃブロック出土遺物（２）



第36図　Ｂ４－Ｃブロック出土遺物（３）

第４表　Ｂ４－Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B4-9(SHB)	2											17(14)						32(30)							51(46)
B4-10(SHB)																		1		1					2
B4-11(AN)												2(1)													2(1)
B4-12(TU)												1													1
B4-13(CC)																		1							1
B4-29(SHB)												2													2
その他(SHB)																		1							1
合　計	2											22(18)						35(33)		1					60(54)

第５表　Ｂ４－Ｃブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)												2(1)													2(1)
頁岩Ｂ(SHB)	2											19(16)						34(32)		1					56(51)
凝灰岩(TU)												1													1
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計	2											22(18)						35(33)		1					60(54)

3　C2-Aブロック（第37～39・199図，第６～８表，カラー図版３・17，図版３）

１）ブロックの概要

C2-Ａブロックは，調査範囲北側のC2-86・87グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸２ｍの範囲に39点の石器・礫が分布するが，そのほとんどが直径２ｍの範囲に集中する。出土層位は，Ⅶ層からⅨｃ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第37・38図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，石刃１点，剥片33点（32個体），石核３点，礫１点の合計39点（38個体）で構成される。石器石材は，安山岩２点，頁岩Ｂ１点，頁岩Ｄ１点，凝灰岩４点，砂岩１点，ホルンフェルス29点（28個体）である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；1.4ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

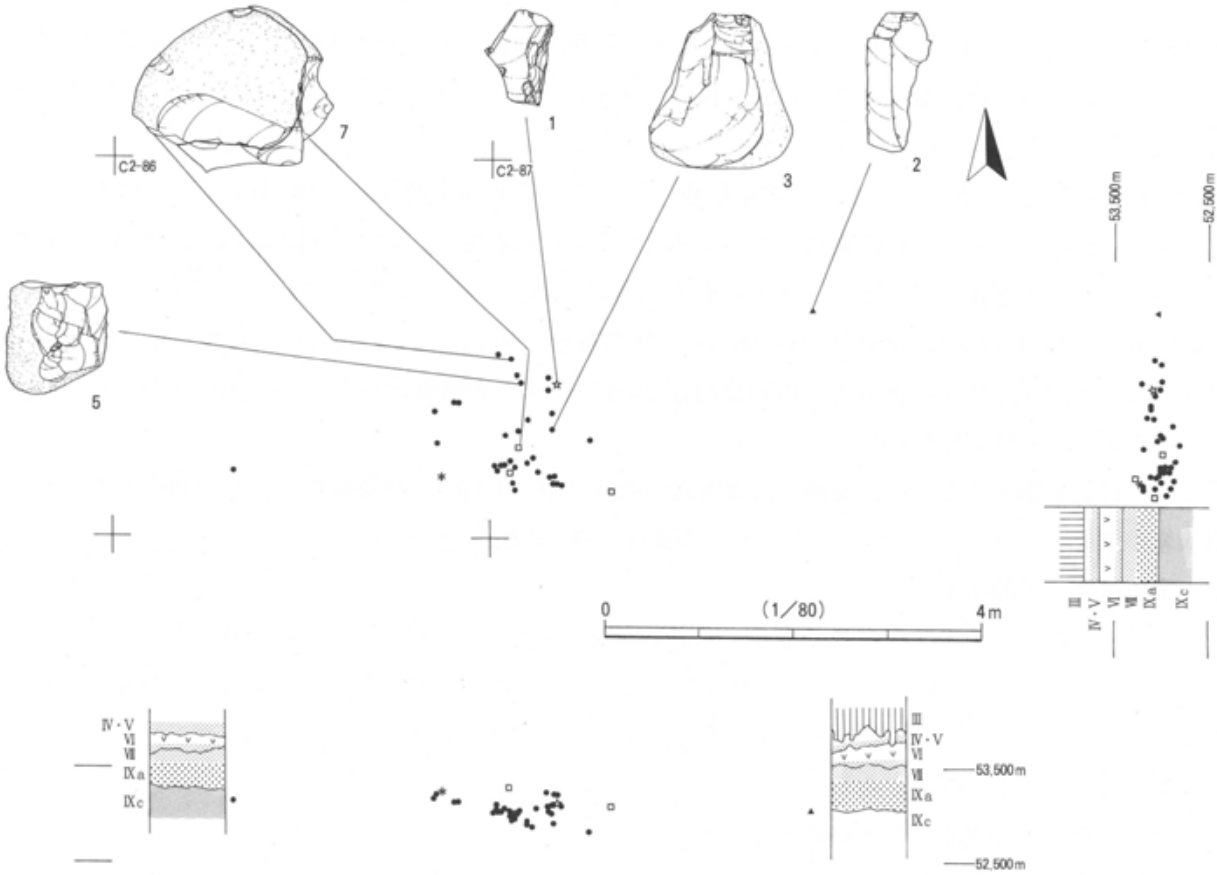
本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｂ１母岩（C3-139），凝灰岩２母岩（C3-10・14），砂岩１母岩（C3-180），ホルンフェルス２母岩（C3-146・147）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は79％（30/38点）である。

・**C3-10**：暗緑灰色（10GY4/1）・灰色（10Y5/1）の地ににぶい黄橙色（10YR6/4）の斑が入る珪化度の高い凝灰岩である。本ブロックでは石刃１点（3.8ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに７点ある。

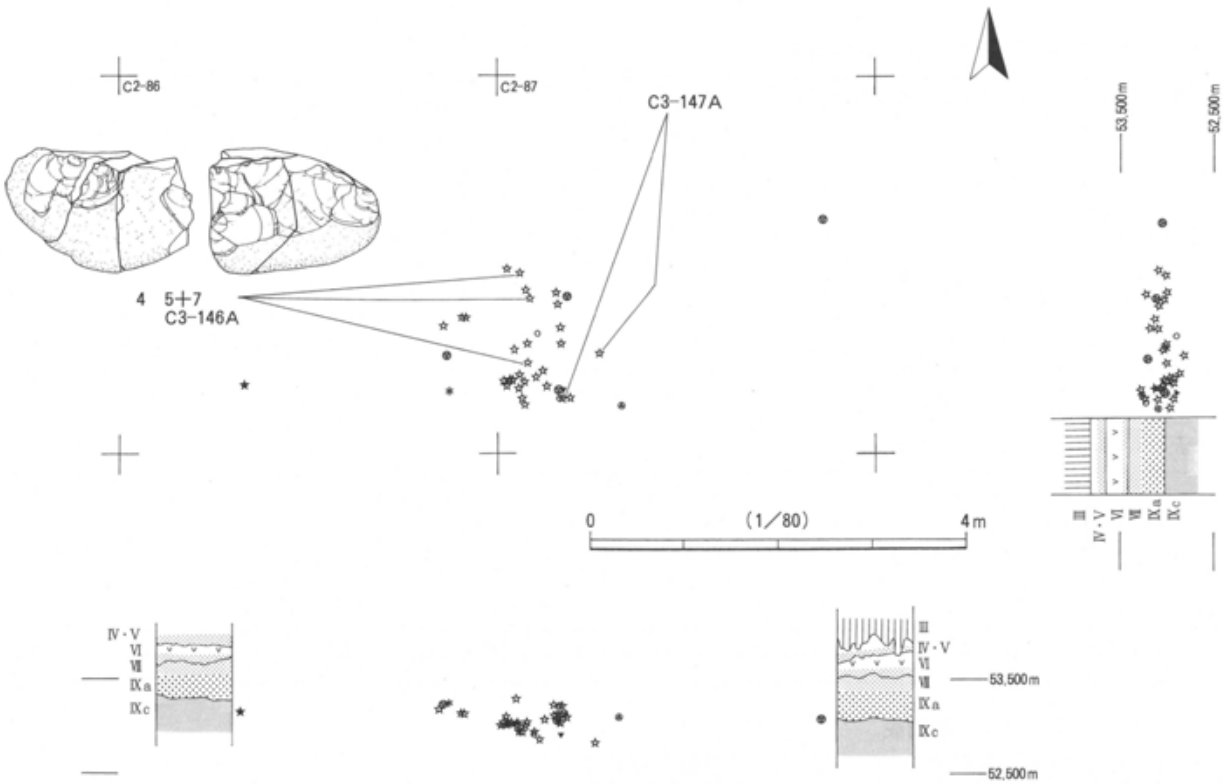
・**C3-14**：自然面はオリーブ灰色（10Y5/2），内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・暗灰色（N3/0）・灰色（7.5Y4/1）が混じる珪化度の高い凝灰岩である。本ブロックではナイフ形石器１点（5.7ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに13点ある。

・**C3-139**：暗赤灰色（5R4/1）・暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-146**：自然面は灰色（5Y4/1）の地に濃い灰色の筋が入り，内部は灰色（5Y5/1）・灰色（10Y4/1），



第37図　Ｃ２－Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第38図　Ｃ２－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

節理は褐色（10YR4/4）のホルンフェルスである。自然面は被熱のためか灰褐色（7.5YR4/2）の部分がある。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（185.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（184.6ｇ）である。

・C3-147：自然面は灰色（N4/0），内部は灰色（5Y4/1），節理は灰黄褐色（10YR4/2）のホルンフェルスである。鉄分のため赤褐色に変色している部分がある。石器群の内訳は，剥片21点（20個体），石核１点の合計22点（21個体；144.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；14.7ｇ）である。

・C3-180：自然面はにぶい赤褐色（5YR5/4）・灰黄褐色（10YR4/2）の地ににぶい黄橙色（10YR6/3）の筋が入り，内部はにぶい黄褐色（10YR5/3），節理はにぶい赤褐色（5YR4/3）の砂岩である。石核１点（77.3ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片２点（0.4ｇ），硬質緻密な頁岩の剥片１点（0.7ｇ），凝灰岩の剥片２点（0.3ｇ），ホルンフェルスの剥片３点（0.8ｇ）がある。

３）出土遺物（第39図１～３）

１は凝灰岩によるナイフ形石器である。不定型な剥片を用い，素材の打面部を基部としている。上部が欠損するため，形態は不明であるが，左側縁に90度に近い急角度の調整加工が見られ，一側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器と考えられる。２は凝灰岩による石刃である。３はホルンフェルスの亜円礫から剥離された不定型な剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第39図４～７）

・C3-146（第39図４～７）　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片３点，石核１点の合計４点で構成される。４は剥片２点（５・６），石核１点（７）の接合資料である。亜円礫を素材として，上方向から５，90度打面を転移して６を剥離している。

第６表　Ｃ２－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C3-10(TU)												1													1
C3-14(TU)	1																								1
C3-139(SHB)																		1							1
C3-146(HO)																		3		1					4
C3-147(HO)																		21(20)		1					22(21)
C3-180(SA)																				1					1
その他(AN)																		2							2
その他(SHD)																		1							1
その他(TU)																		2							2
その他(HO)																		3							3
合　計	1											1						33(32)		3					38(37)

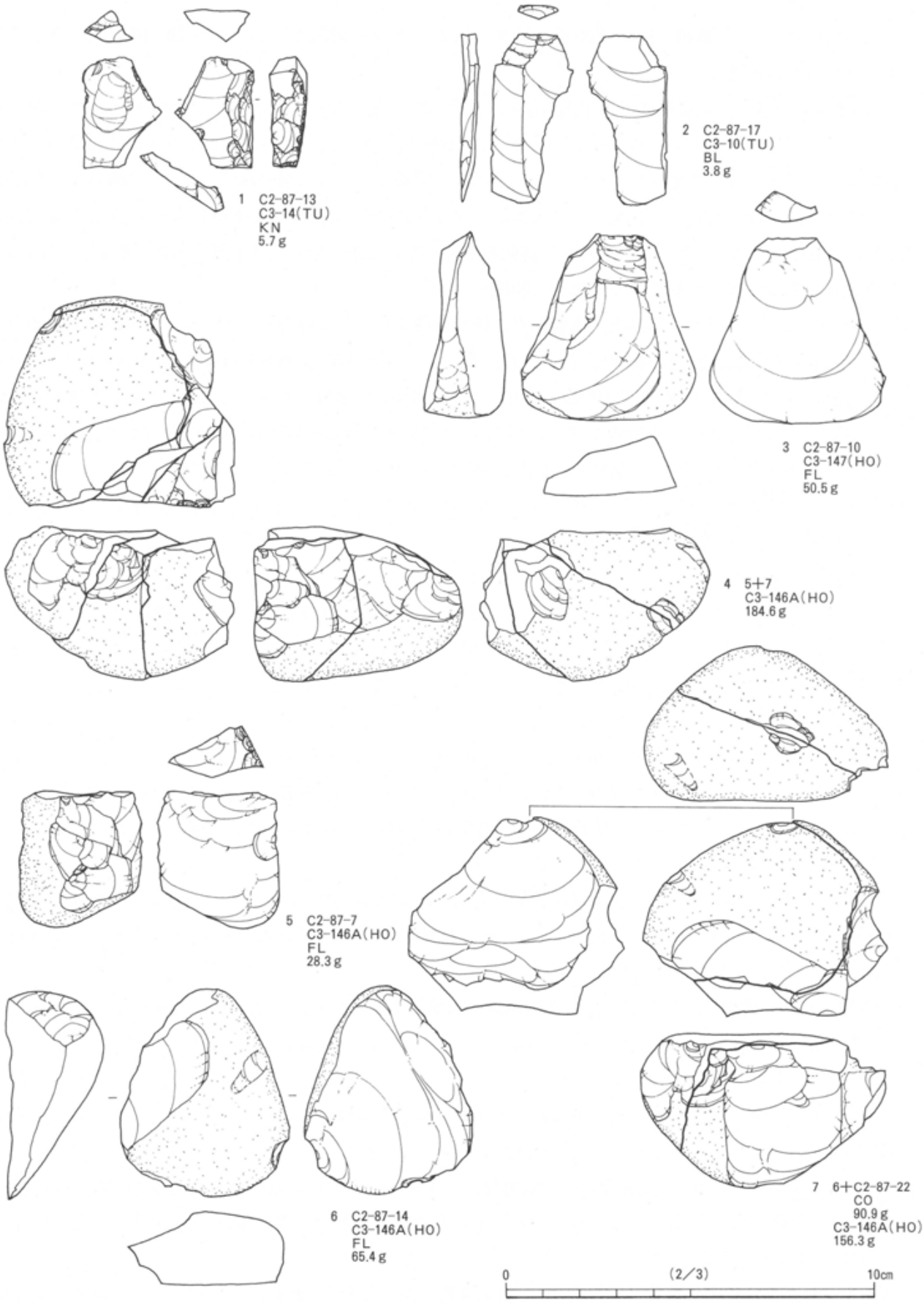
第７表　Ｃ２－Ａブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)																		2							2
頁岩B(SHB)																		1							1
頁岩D(SHD)																		1							1
凝灰岩(TU)	1											1						2							4
砂岩(SA)																				1					1
ホルンフェルス(HO)																		27(26)		2					29(28)
合　計	1											1						33(32)		3					38(37)

第８表　Ｃ２－Ａブロック礫組成

母　　岩	石　材	個数	重量
C2R-1	SA	1	1.4

石　　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	1.4
合　　計	1	1.4



第39図　Ｃ２－Ａブロック出土遺物

4　C3-Aブロック（第40～110・200図，第９～11表，カラー図版３～12・17～19，図版３・４・７）

１）ブロックの概要

C3-Aブロックは，調査範囲ほぼ中央のB3-28・29・38・39・48・49・58・59・68・69，C3-00～04・10～17・20～27・30～38・40～47・50～54・56・57・60・63・64・66・70・73・75・76・85・86グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸42m，短軸37mの範囲に1,582点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅨc層にかけてで，190cmほどの高低差をもっているが，中心はⅨa層からⅨc層で，100cmほどの高低差をもって包含されている（第40～53図）。

ブロックは，ナイフ形石器24点，掻器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片８点（７個体），使用痕ある剥片12点，石刃322点（288個体），石斧１点，敲石４点（３個体），剥片1,143点（1,086個体），砕片40点，石核25点（24個体），礫１点の合計1,582点（1,488個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ17点（15個体），黒曜石Ｂ５点（４個体），安山岩157点（138個体），軟質の安山岩６点，流紋岩32点（26個体），頁岩Ａ５点，頁岩Ｂ447点（427個体），頁岩Ｄ26点（23個体），頁岩Ｅ53点（52個体），チャート28点，凝灰岩503点（481個体），粘板岩２点，砂岩６点，瑪瑙・玉髄294点（274個体）である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；1.7ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

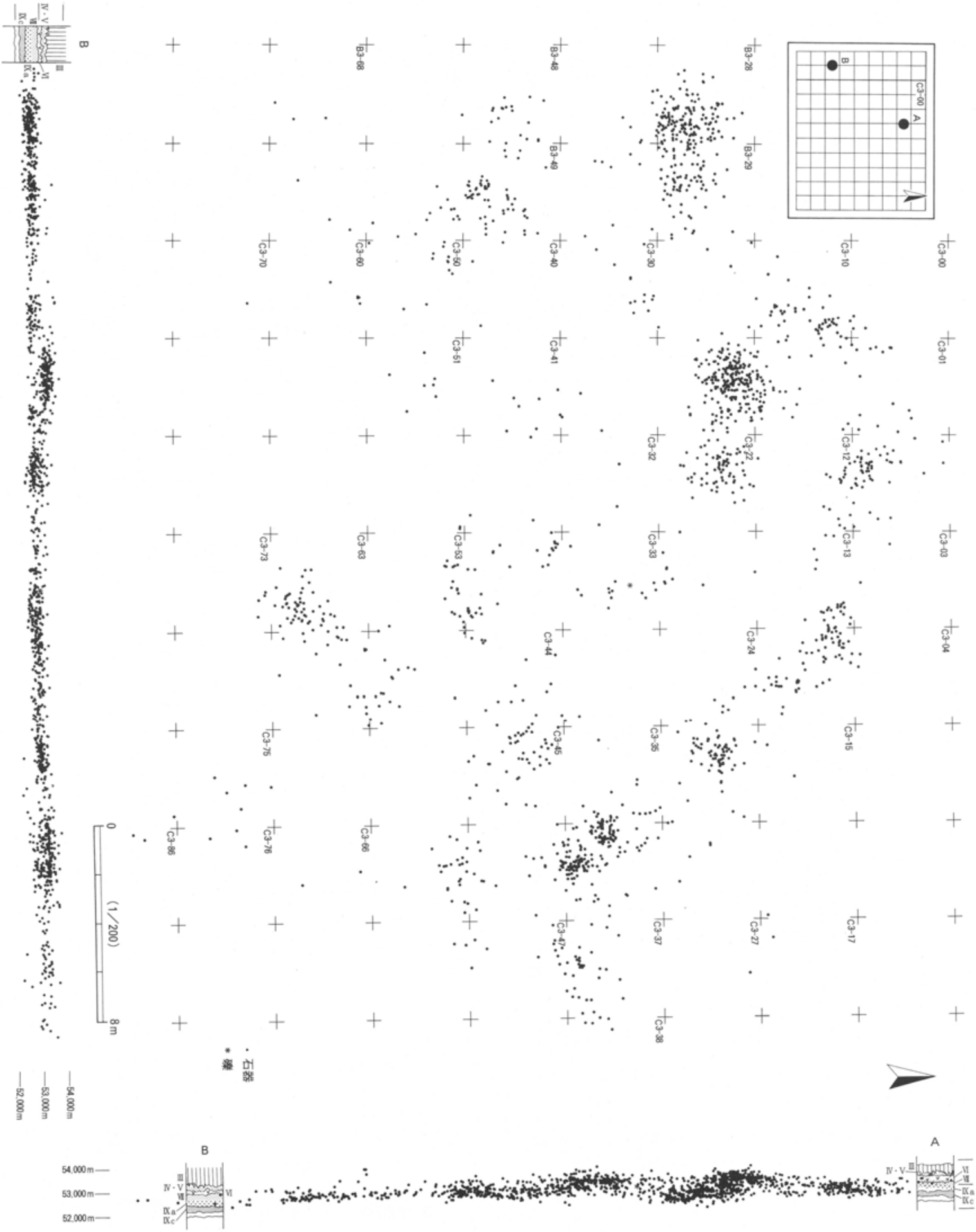
本ブロックでは174母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ５母岩（C3-166～170），黒曜石Ｂ２母岩（C3-171・172），安山岩５母岩（C3-158・159・173・189・190），流紋岩３母岩（C3-153～155），頁岩Ａ１母岩（C3-174），頁岩Ｂ56母岩（B4-10・29，C3-84～92・94～96・99～121・123～132・135～138・140～144），頁岩Ｄ１母岩（C3-97），頁岩Ｅ４母岩（C3-150・151・157・175），チャート５母岩（C3-160・161・163～165），凝灰岩67母岩（C3-１～36・39～41・43～56・58・59・61～63・65～67・69・70・98・148・149・152），粘板岩１母岩（C3-176），砂岩３母岩（C3-177・191・192），瑪瑙・玉髄21母岩（B4-13，C3-71～80・82・83・181～188）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は79％（1,248/1,581点）である。

・**B4-10**：暗赤灰色（5R3/1）の北関東産頁岩である。母岩の特徴はB4-Ｃブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，石刃５点（32.3ｇ）である。接合資料は，石刃１点（6.8ｇ）が，B4-Ｃブロックの剥片１点，石核１点の合計２点と接合している。

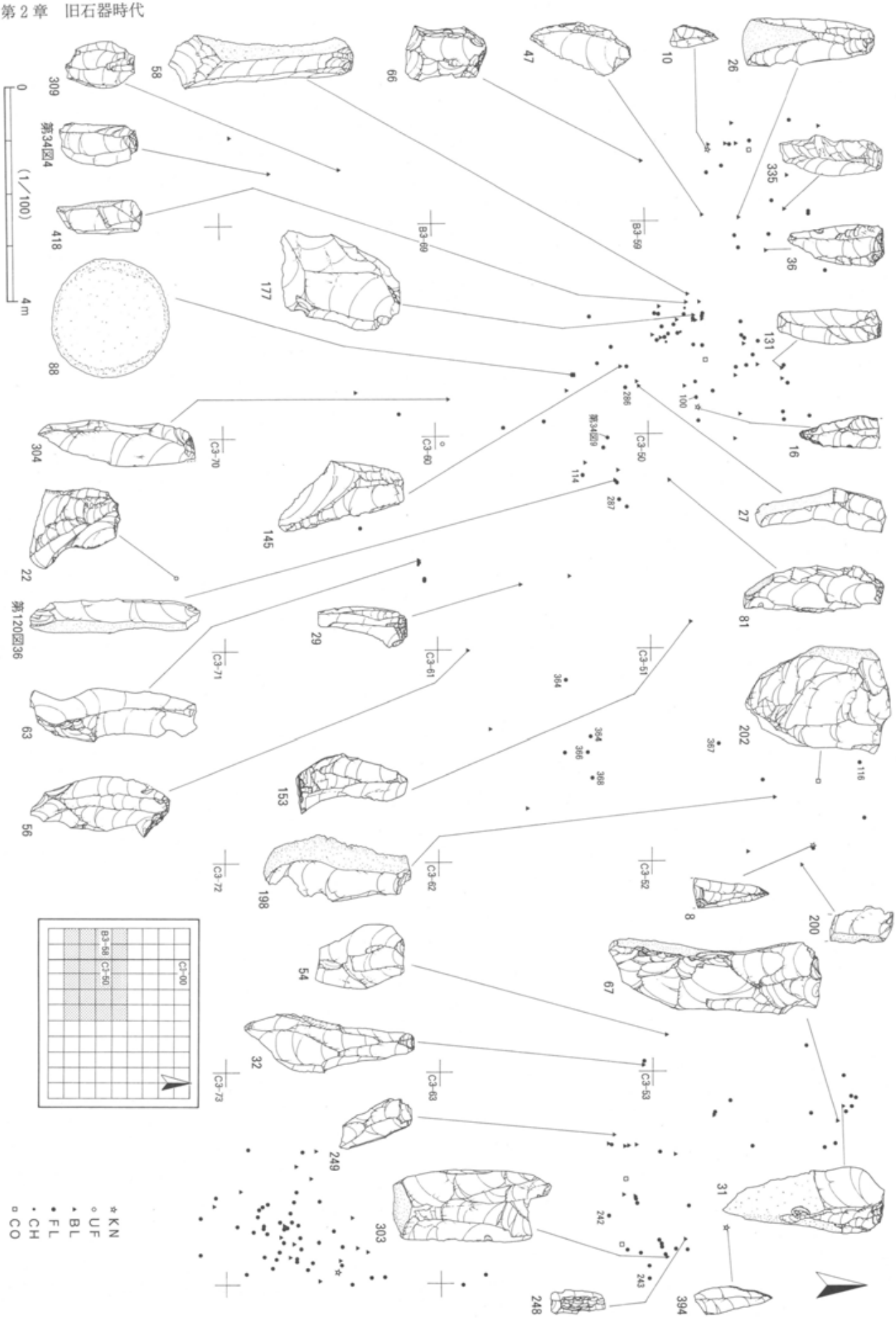
・**B4-13**：にぶい黄橙色（10YR6/3）などの瑪瑙・玉髄である。母岩の特徴はB4-Ｃブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，剥片５点（23.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点（7.8ｇ）が，B4-Ｃブロックの剥片１点と接合している。

・**B4-29**：暗赤灰色（5R3/1）の北関東産頁岩である。母岩の特徴はB4-Ｃブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片２点，石刃２点，剥片６点（５個体），石核１点の合計12点（11個体；73.8ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは使用痕ある剥片２点，石刃２点，剥片２点，石核１点の合計７点（85.1ｇ）が，B4-Ｃブロックの石刃２点と接合している。Ｂは剥片２点（１個体；2.5ｇ）である。

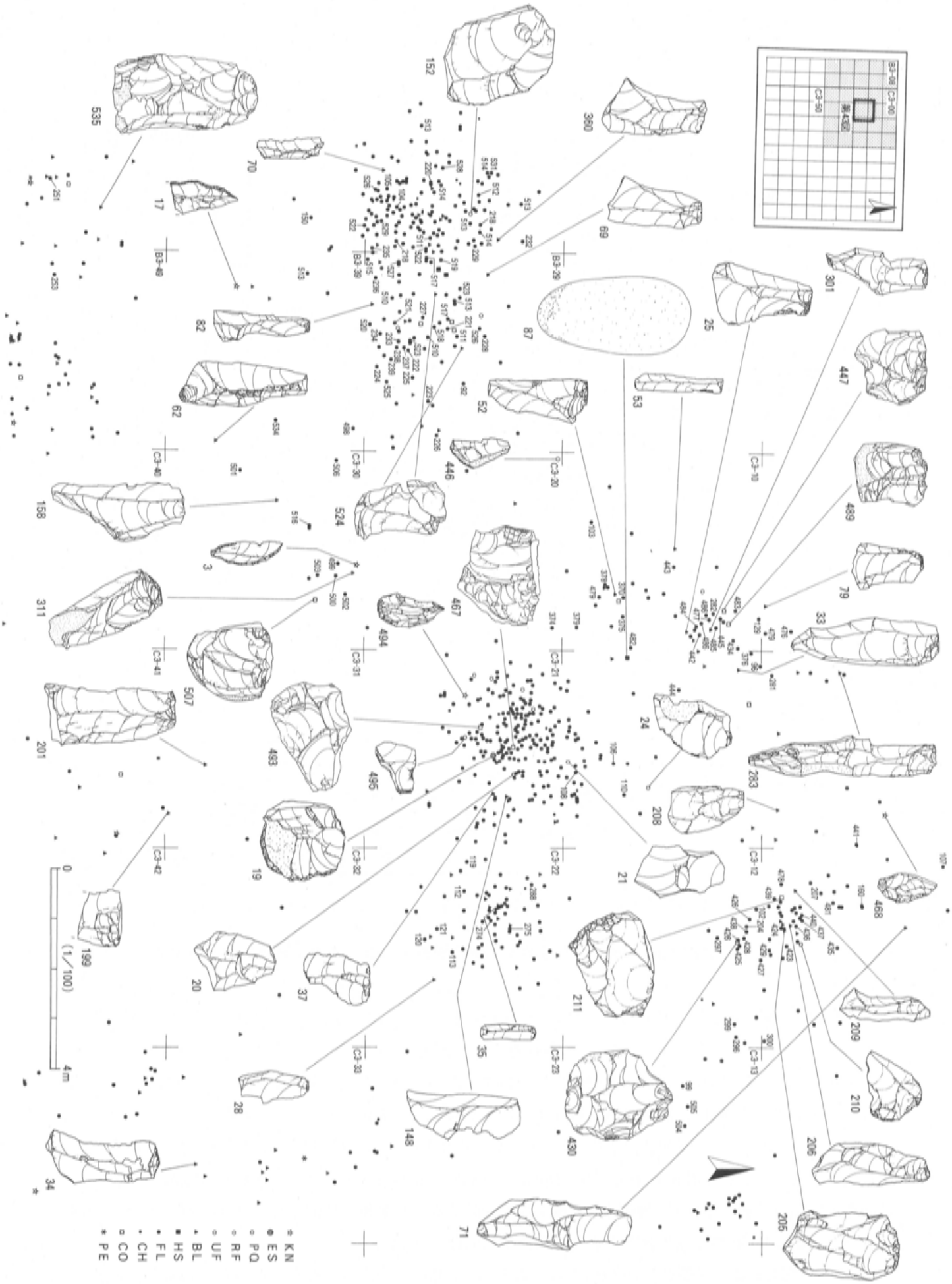
・**C3-１**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・褐灰色（10YR4/1），内部は灰赤色（2.5YR4/2）・灰色（7.5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃５点，



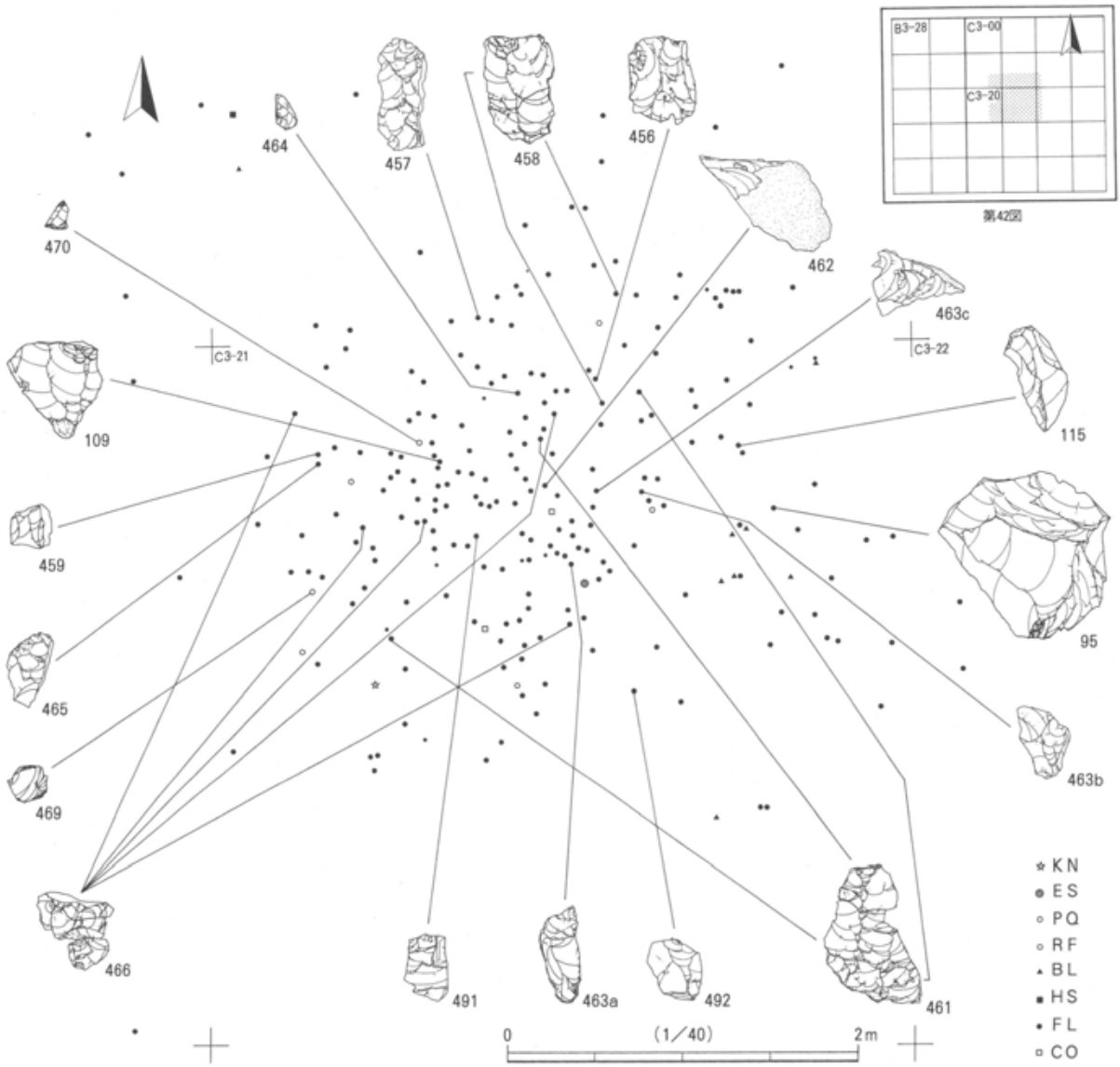
第40図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（１）



第41図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（２）－石器別分布（１）－



第42図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（３）－石器別分布（２）－



第43図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（４）－石器別分布（３）－

剥片１点，石核１点の合計７点（286.2ｇ）である。接合資料は，石刃４点，石核１点の合計５点（281.0ｇ）である。

・**C3-2**：自然面は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・暗オリーブ灰色（2.5GY4/1），内部はオリーブ灰色（10Y6/2）の地に暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の縞が入り，節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃３点（２個体），剥片２点，石核１点の合計６点（５個体；96.4ｇ）である。接合資料は，石刃３点（２個体），剥片２点，石核１点の合計６点（５個体；96.4ｇ）である。

・**C3-3**：自然面はにぶい赤褐色（2.5YR4/3）・にぶい黄褐色（10YR5/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰黄褐色（10YR4/2）・灰色（10Y4/1）・灰色（7.5Y4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片６点（５個体），石核１点の合計７点（６個体；165.3ｇ）である。接合資料は，剥片６点（５個体），石核１点の合計７点（６個体；165.3ｇ）である。

・**C3-4**：内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）の地に灰褐色（5YR4/2）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃４点，

剥片９点の合計13点（74.8ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片５点（54.8ｇ），Ｂは剥片２点（7.8ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-5**：オリーブ褐色（2.5Y4/6）・オリーブ灰色（2.5GY5/1）の地ににぶい黄色（2.5Y6/3）が部分的に混じる凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片20点の合計21点（86.8ｇ）である。接合資料は，石刃１点，剥片６点の合計７点（51.5ｇ）である。

・**C3-6**：自然面は暗赤灰色（10R4/1）・灰褐色（7.5YR4/2）・にぶい赤褐色（5YR4/3），内部は灰色（5Y4/1）・にぶい褐色（7.5YR5/3）の地に灰オリーブ色（7.5Y5/2）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）が部分的に混じる凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃６点（４個体），剥片８点（７個体）の合計14点（11個体；135.1ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片２点（１個体；40.1ｇ），Ｂは石刃２点（１個体；19.9ｇ），Ｃは石刃２点（１個体；9.3ｇ）である。

・**C3-7**：自然面は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1），内部は暗緑灰色（7.5GY4/4），新鮮な面は暗緑灰色（5G3/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃４点，剥片３点（２個体）の合計７点（６個体；169.4ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；86.7ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-8**：灰色（7.5Y4/1）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じる凝灰岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，石刃４点，剥片９点，石核１点の合計15点（210.6ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，石刃４点，剥片２点，石核１点の合計８点（198.5ｇ）である。その他に同一母岩がブロック外（C2-68グリッド）に１点ある。

・**C3-9**：灰色（10Y5/1）の地ににぶい黄色（2.5Y6/3）の筋，灰オリーブ色（5Y5/2）の斑が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃５点，剥片５点，石核１点の合計11点（73.1ｇ）である。接合資料は，石刃２点，剥片２点，石核１点の合計５点（52.6ｇ）である。

・**C3-10**：暗緑灰色（10GY4/1）などの凝灰岩である。母岩の特徴はC2-Ａブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，石刃４点，剥片３点の合計７点（92.8ｇ）である。その他に同一母岩がC2-Ａブロックに１点ある。

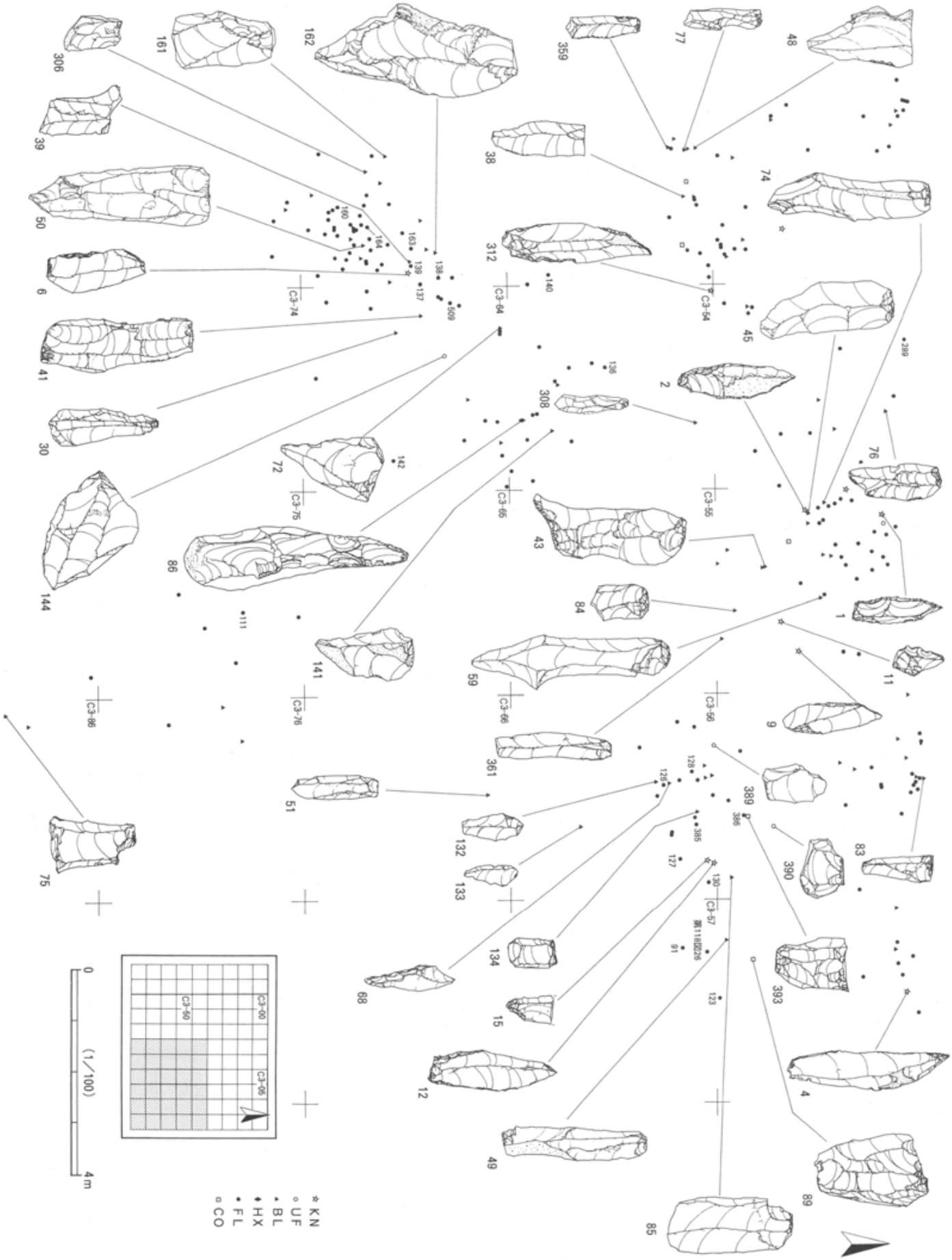
・**C3-11**：灰色（10Y5/1）の地に灰色（7.5Y6/1）の斑が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，石刃４点の合計５点（83.8ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，石刃１点の合計２点（42.7ｇ）である。

・**C3-12**：灰色（7.5Y4/1）・灰色（5Y5/1）・赤灰色（2.5YR4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片１点の合計３点（95.7ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（77.4ｇ）が，D3-Ａブロックの剥片１点と接合している。

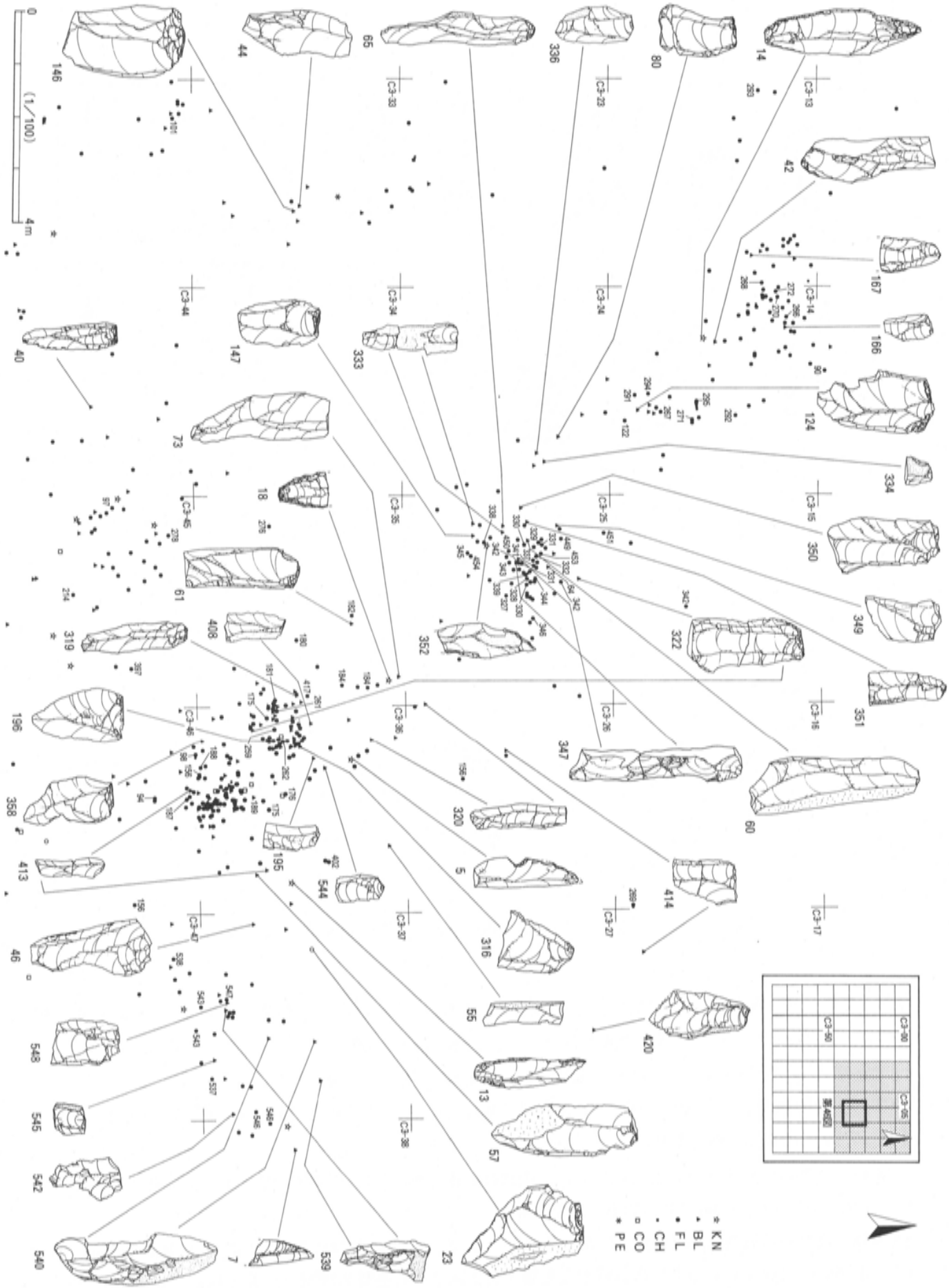
・**C3-13**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃３点（25.9ｇ）である。接合資料は，石刃２点（19.5ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-14**：オリーブ灰色（2.5GY5/2）の凝灰岩である。母岩の特徴はC2-Ａブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，石刃３点（２個体），剥片10点の合計13点（12個体；21.5ｇ）である。接合資料は，石刃２点，剥片１点の合計３点（２個体；4.8ｇ）である。その他に同一母岩がC2-Ａブロックに１点ある。

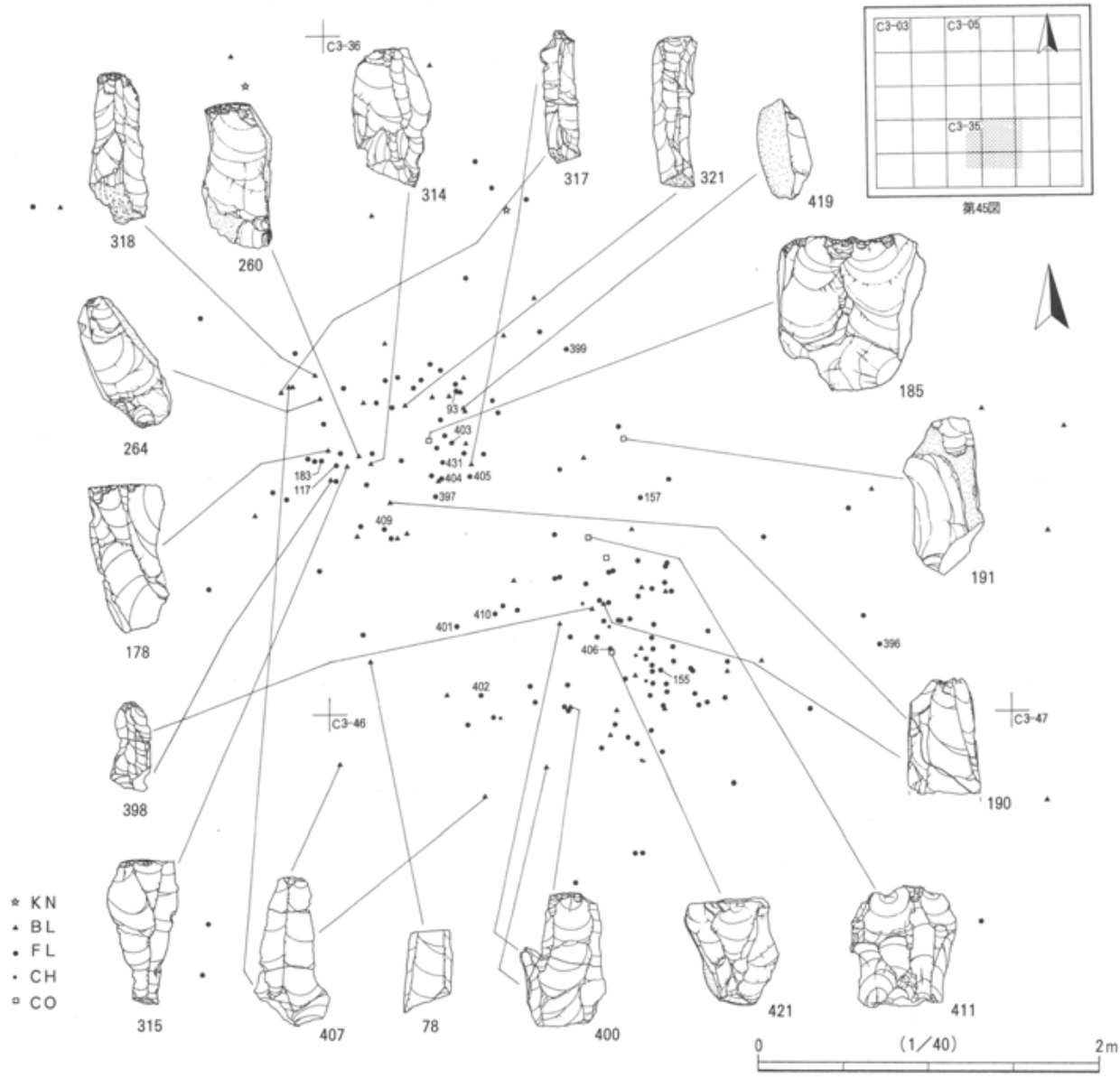
・**C3-15**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2）・暗赤灰色（2.5YR3/1），内部は暗灰色（N3/0）・にぶい黄褐色（10YR5/3）・灰色（5Y4/1）で筋が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，使用



第44図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（５）－石器別分布（４）－



第45図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（６）－石器別分布（５）－



第46図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（７）－石器別分布（６）－

痕ある剥片２点，剥片31点（30個体），石核３点（２個体）の合計36点（34個体；382.3ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは使用痕ある剥片２点，剥片20点（19個体），石核１点の合計23点（22個体；302.1ｇ），Ｂは剥片３点（2.9ｇ），Ｃは石核２点（１個体；71.6ｇ）である。

・**C3-16**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰色（10Y4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片３点（7.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（6.8ｇ）である。

・**C3-17**：自然面は灰オリーブ色（7.5Y4/2），内部は灰色（10Y4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃３点，剥片７点の合計10点（27.9ｇ）である。

・**C3-18**：自然面は灰色（5Y4/1）・にぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰色（10Y4/1）の地に暗灰色（N 3/0）が部分的に混じり，一部に白い筋が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片34点（33個体；79.1ｇ）である。接合資料は，４グループあり，Ａは剥片２点（18.4ｇ），Ｂは剥片２点（20.7ｇ），Ｃは剥片

2点（9.7g），Dは剥片3点（2個体；4.6g）である。

・**C3-19**：オリーブ黄色（5Y6/3）の粒子の粗い凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片3点の合計4点（19.4g）である。接合資料は，剥片2点（12.5g）である。

・**C3-20**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の凝灰岩である。被熱のためか部分的に灰褐色（7.5YR4/2）に変色している。石器群の内訳は，石刃3点，石核1点の合計4点（107.6g）である。接合資料は，石刃1点，石核1点の合計2点（92.5g）である。

・**C3-21**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい黄橙色（10YR7/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・灰色（7.5Y4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃2点，剥片7点の合計9点（103.3g）である。

・**C3-22**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は褐灰色（7.5YR4/1）・灰褐色（7.5YR4/2）・灰黄褐色（10YR5/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片20点（15個体）の合計21点（16個体；156.3g）である。接合資料は，4グループあり，Aは剥片5点（3個体；82.1g），Bは剥片3点（29.9g），Cは剥片3点（1個体；7.9g），Dは剥片2点（1個体；2.4g）である。

・**C3-23**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃2点，剥片4点の合計6点（30.4g）である。

・**C3-24**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は褐灰色（7.5YR4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃7点（4個体），剥片15点の合計22点（19個体；93.9g）である。接合資料は，3グループあり，Aは石刃4点（2個体；23.1g），Bは石刃3点（2個体；24.7g），Cは剥片2点（12.6g）である。

・**C3-25**：褐灰色（10YR4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片4点（3個体；14.6g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片2点（1個体；12.9g），Bは剥片2点（1.7g）である。

・**C3-26**：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）で，新鮮な面はオリーブ灰色（10Y4/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃3点（6.2g）である。接合資料は，石刃2点（5.3g）である。

・**C3-27**：内部は灰黄褐色（10YR5/2）で，新鮮な面は灰色（10Y4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点（3.2g）である。接合資料は，剥片2点（3.2g）である。

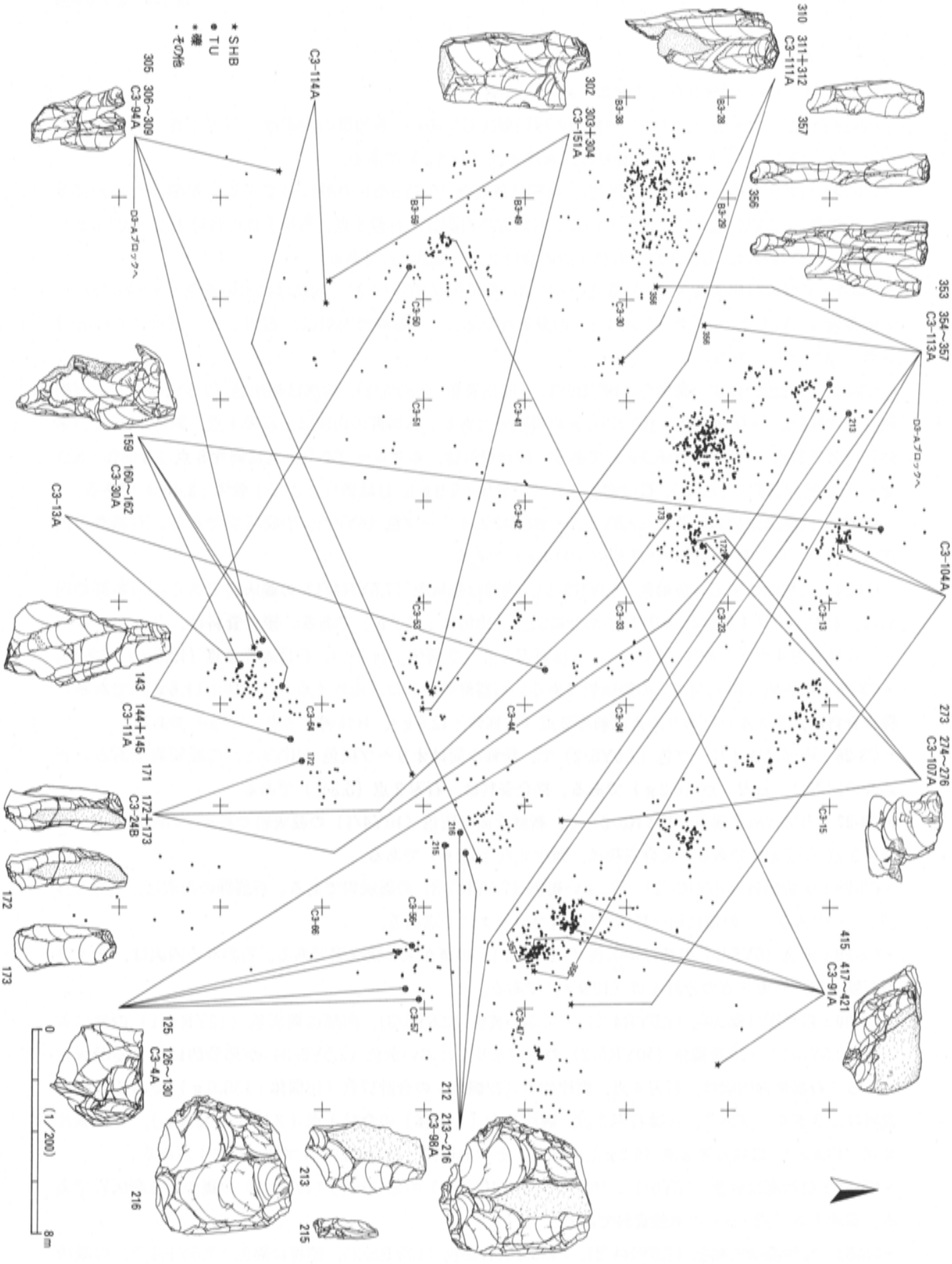
・**C3-28**：灰黄褐色（10YR5/2）・にぶい褐色（7.5YR5/3）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点（5.5g）である。その他に同一母岩がD3-Aブロックに1点ある。

・**C3-29**：灰色（5Y5/1）の地に褐灰色（7.5YR4/1）の斑が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，石刃3点の合計4点（13.9g）である。

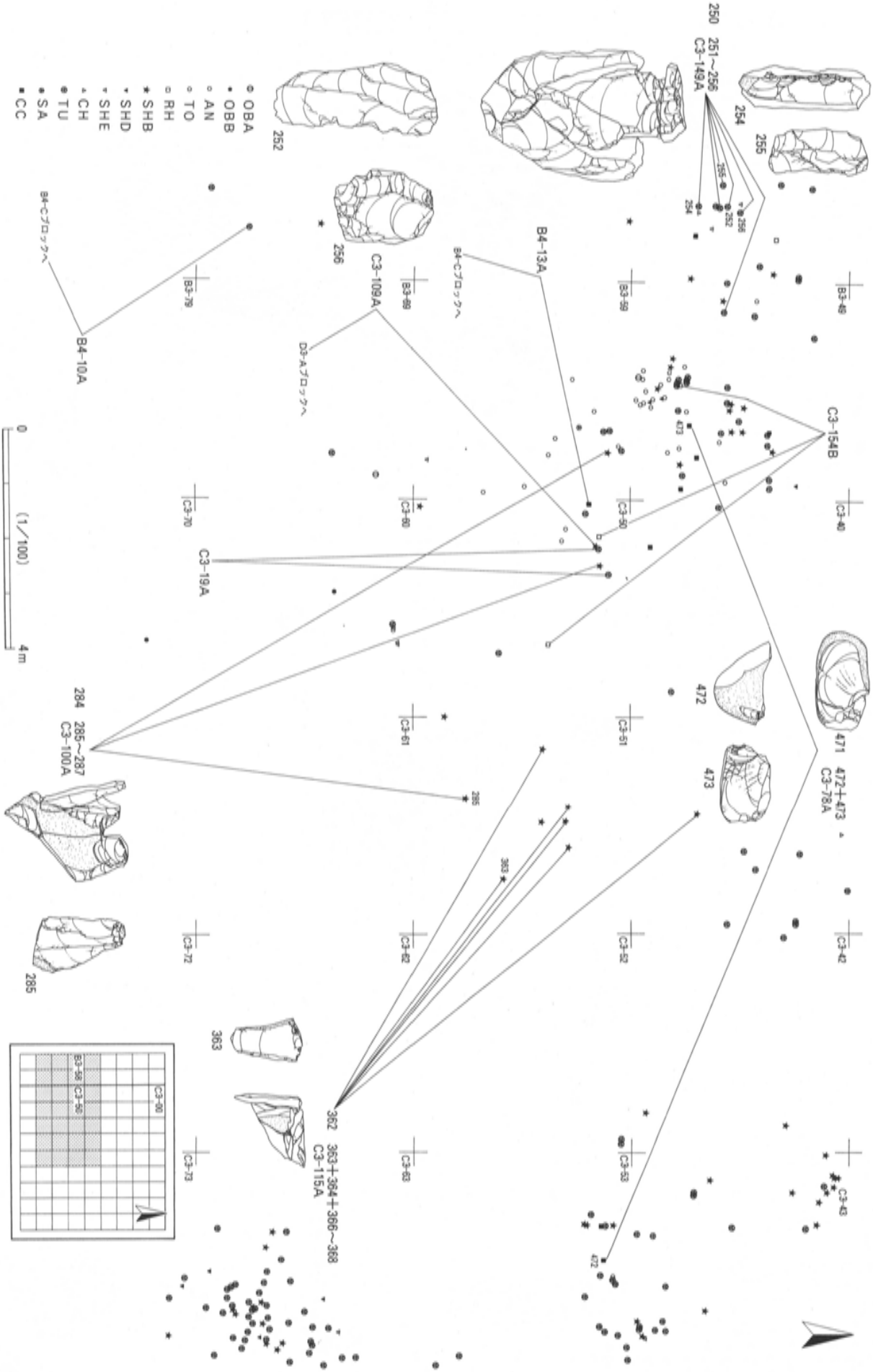
・**C3-30**：自然面は褐灰色（7.5YR4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3），内部は褐灰色（10YR4/1）の地に黄灰色（2.5Y5/1）・灰黄褐色（10YR5/2）の斑が入り，にぶい黄色（2.5Y6/3）が部分的に混じる凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃4点，剥片13点（12個体）の合計17点（16個体；158.0g）である。接合資料は，3グループあり，Aは石刃2点，剥片2点（1個体）の合計4点（3個体；92.1g），Bは剥片2点（13.3g），Cは石刃2点（9.2g）である。その他に同一母岩がD3-Aブロックに1点ある。

・**C3-31**：自然面は灰色（10Y5/1），内部は灰色（10Y5/1）の地に灰色（10Y4/1）の斑が入る凝灰岩である。剥片1点（53.1g）の単独資料である。

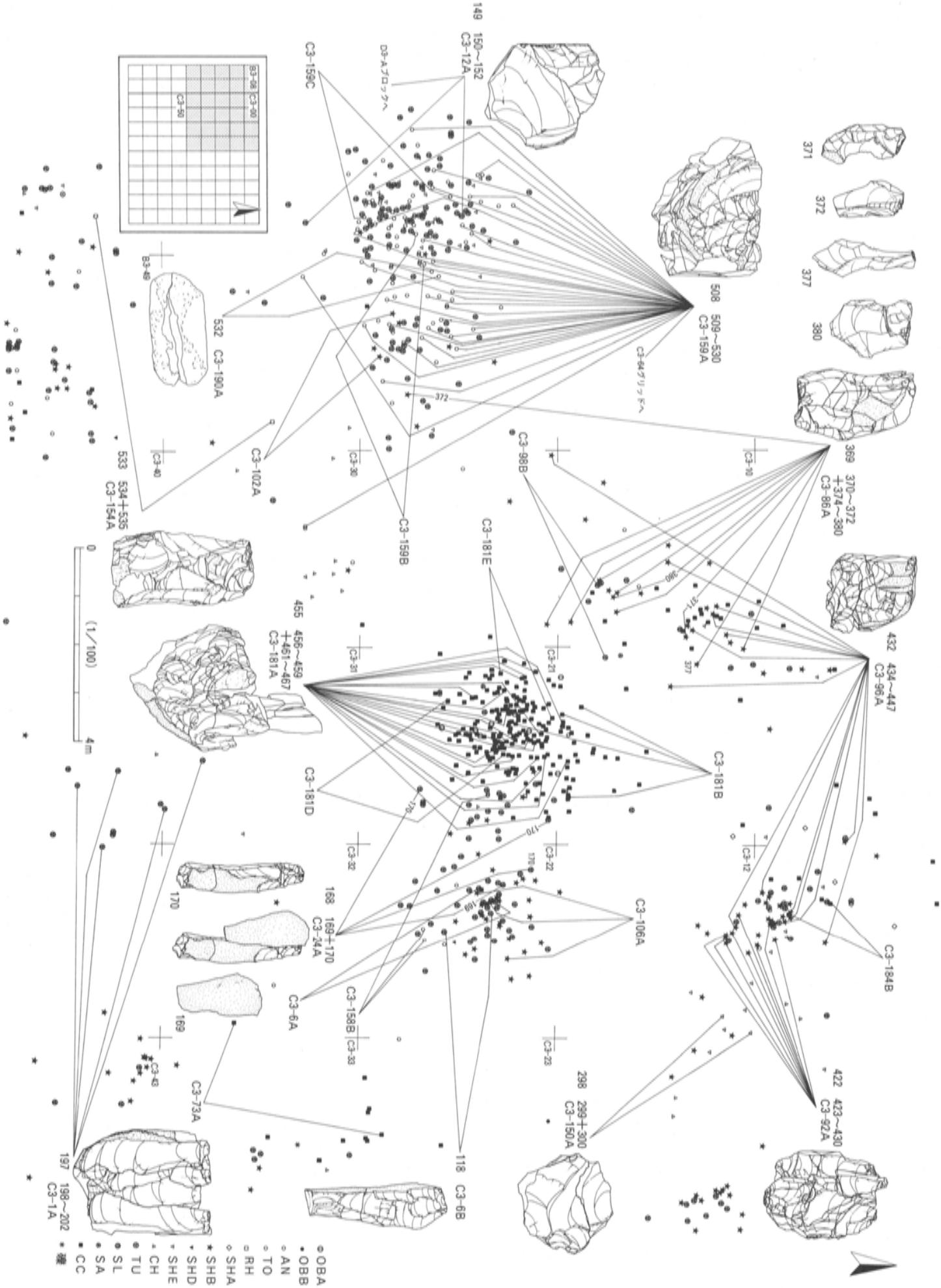
・**C3-32**：自然面は灰褐色（7.5YR4/2），内部は灰黄褐色（10YR5/2），節理は褐色（7.5YR4/3）の凝灰岩である。使用痕ある剥片1点（36.2g）の単独資料である。



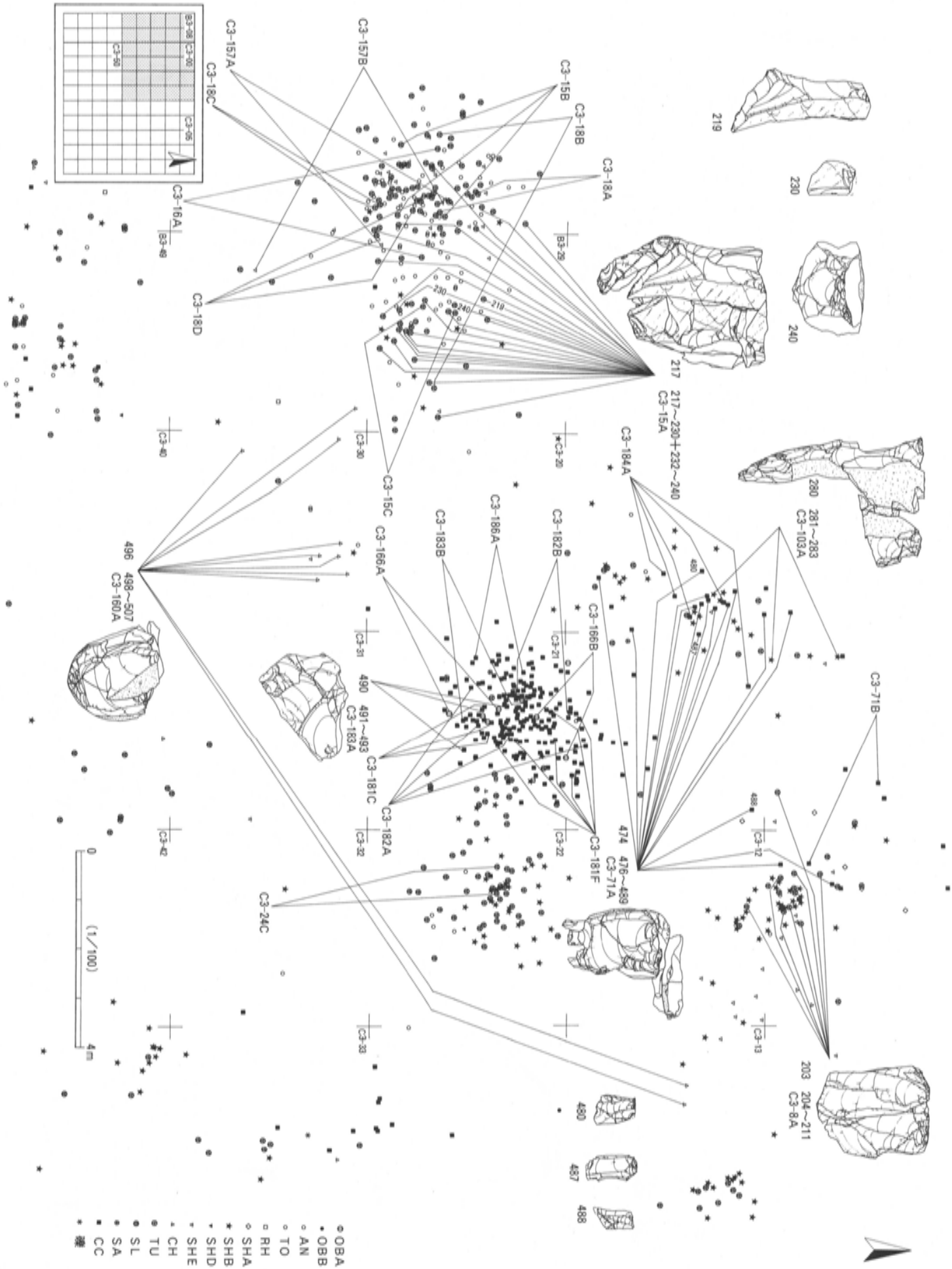
第47図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（８）－石材別分布（１）－



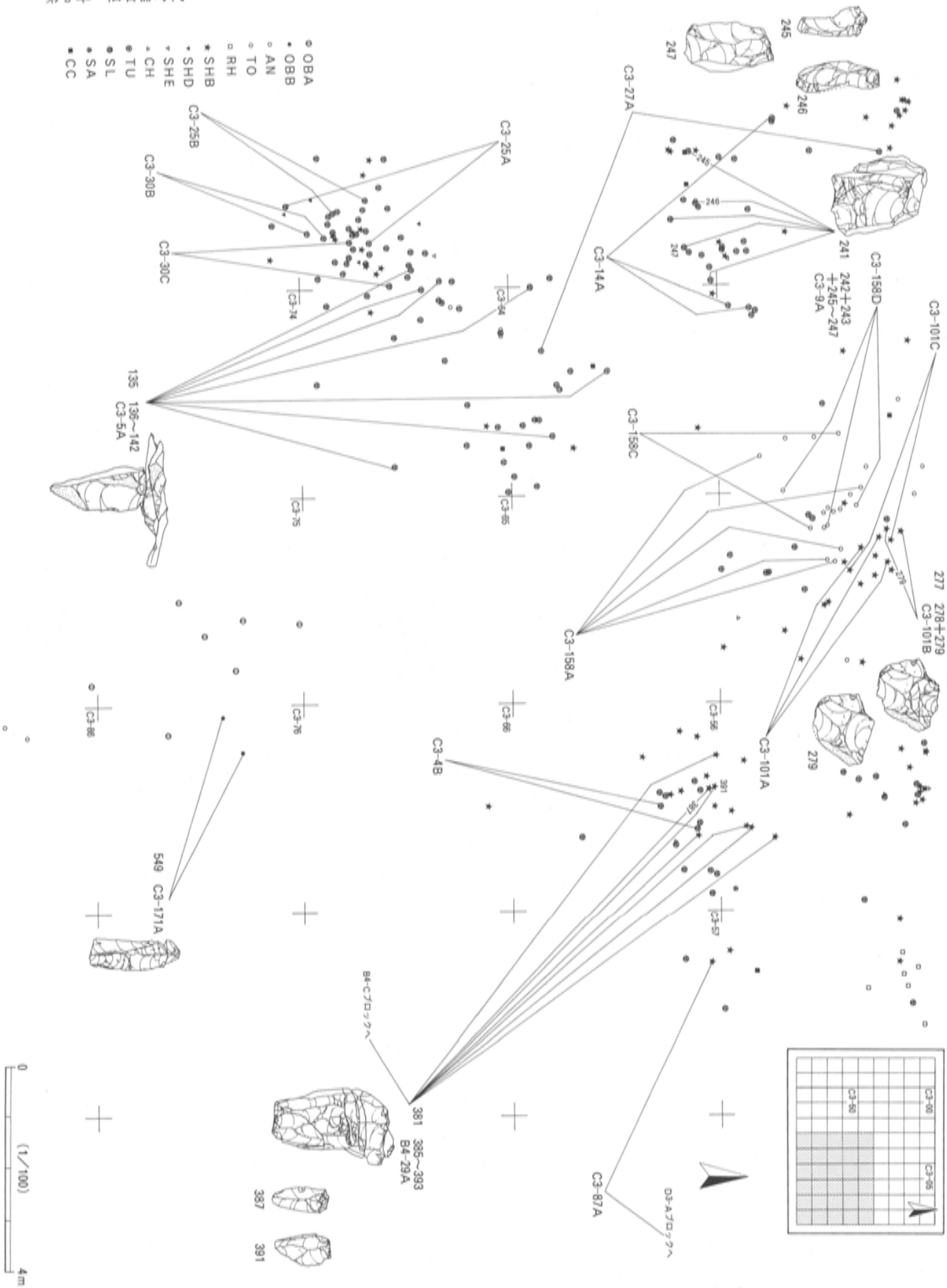
第48図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（９）－石材別分布（２）－



第49図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（10）－石材別分布（３）－



第50図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（11）－石材別分布（4）－



第51図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（12）－石材別分布（５）－

・**C3-33**：にぶい黄色（2.5Y6/3）・黄灰色（2.5Y4/1）の凝灰岩である。剥片1点（27.7ｇ）の単独資料である。

・**C3-34**：自然面は灰色（7.5Y6/1），内部は灰色（10Y6/1）の凝灰岩である。局部磨製石斧1点（89.8ｇ）の単独資料である。

・**C3-35**：自然面は灰オリーブ色（7.5Y5/2），内部は灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。剥片1点（5.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-36**：灰色（7.5Y5/1）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（7.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-39**：自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（8.5ｇ）の単独資料である。

・**C3-40**：灰色（7.5Y4/1）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（12.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-41**：内部はにぶい黄色（2.5Y6/3），節理は灰黄褐色（10YR4/2）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（4.5ｇ）の単独資料である。

・**C3-43**：オリーブ灰色（10Y5/2）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（4.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-44**：灰色（7.5Y5/1）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（2.7ｇ）の単独資料である。

・**C3-45**：灰色（10Y4/1）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（2.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-46**：灰色（10Y4/1）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（3.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-47**：内部は灰色（7.5Y5/1）の斑状で，新鮮な面はオリーブ灰色（5GY5/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点，石刃1点の合計3点（11.8ｇ）である。

・**C3-48**：内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の斑状で筋が入り，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の凝灰岩である。本ブロックではナイフ形石器1点（2.1ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD3-Aブロックに1点ある。

・**C3-49**：灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（5Y5/1）の斑が入る凝灰岩である。石刃1点（36.5ｇ）の単独資料である。

・**C3-50**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y5/2）の凝灰岩である。ナイフ形石器1点（13.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-51**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の凝灰岩である。石刃1点（27.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-52**：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・オリーブ灰色（2.5GY5/1）の地ににぶい黄褐色（10YR5/3）が部分的に混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の凝灰岩である。石刃1点（10.9ｇ）の単独資料である。

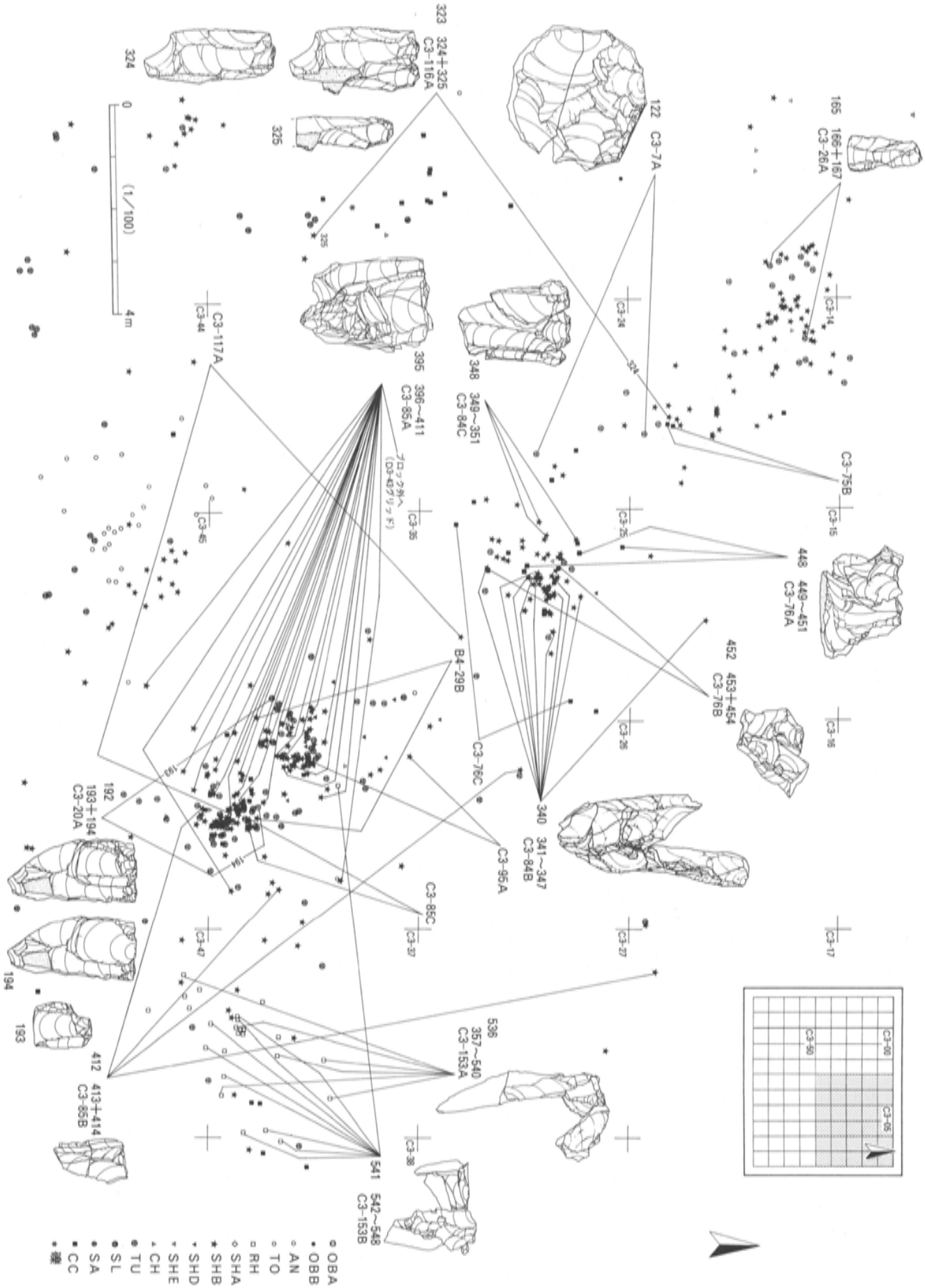
・**C3-53**：灰色（5Y4/1）・黄褐色（2.5Y5/3）の地に褐灰色（10YR5/1）が部分的に混じる凝灰岩である。石刃1点（11.6ｇ）の単独資料である。

・**C3-54**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の凝灰岩である。石刃1点（17.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-55**：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）で，新鮮な面は灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。石刃1点（13.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-56**：灰オリーブ色（5Y5/2）・オリーブ灰色（10Y5/2）の地に筋が入る凝灰岩である。石刃1点（7.9ｇ）の単独資料である。

・**C3-58**：自然面はオリーブ灰色（10Y5/2），内部は灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。石刃1点（16.5ｇ）



第52図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（13）－石材別分布（６）－

第53図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物分布（14）－石材別分布（７）－

の単独資料である。

・**C3-59**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（7.5Y5/1）の斑が入る凝灰岩である。石刃１点（5.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-61**：内部はにぶい黄橙色（10YR6/3）で，新鮮な面は暗灰黄色（2.5Y5/2）の凝灰岩である。石刃１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-62**：内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は灰オリーブ色（7.5Y4/2）の凝灰岩である。石刃１点（8.6ｇ）の単独資料である。

・**C3-63**：自然面は浅黄色（2.5Y7/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3），節理はにぶい赤褐色（5YR5/4）の凝灰岩である。石刃１点（23.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-65**：灰色（7.5Y5/1）の凝灰岩である。石刃１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-66**：灰色（7.5Y4/1）の凝灰岩である。剥片１点（14.9ｇ）の単独資料である。

・**C3-67**：内部は暗緑灰色（7.5GY4/1）が斑状に入り，新鮮な面は緑灰色（5G5/1）の凝灰岩である。石刃１点（11.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-69**：自然面は灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰白色（5Y7/2），新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）の凝灰岩である。灰褐色（7.5YR5/2）の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃２点（28.1ｇ）である。

・**C3-70**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の凝灰岩である。剥片１点（2.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-71**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3）・にぶい赤褐色（5YR4/3）・浅黄色（2.5Y7/4），内部は灰色（N4/0）・褐灰色（10YR4/1）・にぶい赤褐色（5YR4/3）の地に渦巻き状の縞が入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，石刃２点，剥片16点（14個体），石核１点の合計20点（18個体；89.4ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは使用痕ある剥片１点，石刃２点，剥片12点（10個体），石核１点の合計16点（14個体；81.3ｇ），Ｂは剥片２点（2.8ｇ）である。

・**C3-72**：にぶい黄褐色（10YR5/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片６点の合計８点（25.3ｇ）である。

・**C3-73**：にぶい黄橙色（10YR6/4）・にぶい黄橙色（10YR5/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃２点（8.0ｇ）である。接合資料は，石刃２点（8.0ｇ）である。

・**C3-74**：にぶい黄色（2.5Y6/3）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片５点の合計６点（10.9ｇ）である。

・**C3-75**：自然面はオリーブ黒色（5Y3/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に灰色（5Y4/1）の縞・同心円状の縞・点紋が入り，節理は褐色（7.5YR4/3），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY4/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃５点，剥片４点の合計９点（34.5ｇ）である。接合資料は，石刃２点（7.5ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに３点ある。

・**C3-76**：にぶい黄褐色（10YR5/3）の地に筋と点紋が入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片14点（54.0ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片３点（28.9ｇ），Ｂは剥片２点（17.3ｇ），Ｃは剥片２点（2.9ｇ）である。なお，本母岩はA5-ＡブロックのA5-150母岩に極めて類似している。もし，両ブロックの母岩が同一母岩とすれば，A5-Ａブロックとほぼ同時期あるいは近接した時期が考えられる。

・**C3-77**：自然面は褐灰色（10YR4/1），内部は灰色（5Y4/1）・灰黄褐色（10YR5/2）の地に斑が入り，新鮮な面は灰色（5Y5/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃５点，石核１点の合計６点（72.3ｇ）である。

・**C3-78**：自然面は灰色（7.5Y6/1）・にぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰黄色（2.5Y6/2）の地に暗緑灰色（7.5GY4/1）の同心円状の縞が入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石核２点（148.0ｇ）である。接合資料は，石核２点（148.0ｇ）である。

・**C3-79**：内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2）の地に斑が入り，新鮮な面は暗緑灰色（5G4/1）の瑪瑙・玉髄である。石刃１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-80**：黄褐色（2.5Y5/3）の瑪瑙・玉髄である。石刃１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・**C3-82**：自然面は黒褐色（2.5Y3/1），内部は褐色（7.5YR4/3）・灰黄褐色（10YR5/2）の地ににぶい赤褐色（5YR4/3）の縞・点紋が入る瑪瑙・玉髄である。石刃１点（12.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-83**：灰色（10Y4/1）の瑪瑙・玉髄である。石刃１点（7.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-84**：自然面はにぶい赤褐色（5YR4/3）・灰褐色（5YR4/2），内部は灰黄褐色（10YR5/2）・黄灰色（2.5Y4/1），節理は灰褐色（7.5YR4/2），新鮮な面は褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃10点（８個体），剥片34点（31個体）の合計45点（40個体；285.9ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは石刃５点（４個体），剥片11点（９個体）の合計16点（13個体；176.1ｇ），Ｂは石刃２点（１個体），剥片８点（７個体）の合計10点（８個体；51.2ｇ），Ｃは石刃３点（24.7ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-85**：内部は暗灰色（N3/0）の地に筋が入り，節理は暗オリーブ灰色（5GY3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃16点（８個体），剥片37点（35個体），石核１点の合計54点（44個体；497.0ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは石刃９点（４個体），剥片13点（11個体），石核１点の合計23点（16個体；435.3ｇ）が，ブロック外（D3-43グリッド）の剥片１点と接合している。Ｂは石刃４点（２個体；12.5ｇ），Ｃは石刃２点（１個体；3.4ｇ）である。

・**C3-86**：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は褐灰色（5YR4/1）の地に灰黄褐色（10YR5/2）が部分的に混じり，節理は黄褐色（2.5Y5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃４点，剥片７点，石核１点の合計12点（94.8ｇ）である。接合資料は，石刃３点，剥片６点，石核１点の合計10点（88.9ｇ）である。

・**C3-87**：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は褐灰色（7.5YR4/1）の地に縞が入る北関東産頁岩である。本ブロックでは剥片１点（2.9ｇ）の単独資料であるが，D3-Ａブロックの剥片６点と接合している。

・**C3-88**：自然面は黄灰色（2.5Y4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3），内部は褐灰色（10YR4/1）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じり，節理は暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃４点，剥片５点の合計９点（221.6ｇ）である。接合資料は，石刃４点，剥片３点の合計７点（197.8ｇ）である。

・**C3-89**：自然面はにぶい赤褐色（5YR4/4），内部は灰褐色（7.5YR4/2）の地に縞が入る北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃５点（8.6ｇ）である。接合資料は，石刃５点（8.6ｇ）である。

・**C3-90**：内部は黒褐色（5YR3/1）の地ににぶい黄色（2.5Y6/3）が部分的に混じり，節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（17.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点

（17.2ｇ）である。

・**C3-91**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい褐色（7.5YR5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃３点，剥片４点，石核１点の合計８点（107.4ｇ）である。接合資料は，石刃３点，剥片１点，石核１点の合計５点（104.9ｇ）である。

・**C3-92**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は赤灰色（2.5YR4/1）・にぶい褐色（7.5YR5/3）の地に点紋が入り，節理は灰赤色（2.5YR4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片９点（８個体），石核１点の合計10点（９個体；119.4ｇ）である。接合資料は，剥片８点（７個体），石核１点の合計９点（８個体；105.4ｇ）である。

・**C3-94**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は褐色（7.5YR4/3）・にぶい褐色（7.5YR5/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃３点（13.2ｇ）である。接合資料は，石刃３点（13.2ｇ）がD3-Ａブロックの石刃１点と接合している。

・**C3-95**：自然面は灰赤色（2.5YR4/2），内部は灰褐色（7.5YR4/2）・灰褐色（5YR4/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃４点（72.9ｇ）である。接合資料は，石刃２点（50.5ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-96**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片19点，石核１点の合計21点（160.1ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片12点，石核１点の合計14点（149.8ｇ）である。

・**C3-97**：自然面は灰黄色（2.5Y6/2），内部は褐灰色（10YR4/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2）が縞状に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，石刃19点（16個体），剥片３点の合計22点（19個体；149.7ｇ）である。接合資料は，石刃12点（９個体；91.0ｇ）である。その他に同一母岩がブロック外（C3-19グリッド）に１点ある。

・**C3-98**：自然面は灰オリーブ色（5Y6/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）の凝灰岩である。暗灰黄色（2.5Y4/2）の粒状の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃４点，剥片４点，石核１点の合計９点（1145.0ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃２点，剥片１点，石核１点の合計４点（1104.2ｇ），Ｂは石刃２点（26.9ｇ）である。

・**C3-99**：自然面は灰色（5Y4/1），内部は褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。暗赤褐色（5YR3/2）の鉄分が見られる。石器群の内訳は，剥片16点，砕片３点の合計19点（202.5ｇ）である。接合資料は，剥片５点（105.5ｇ）である。

・**C3-100**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄褐色（10YR4/2），内部は暗赤灰色（2.5YR3/1），節理は褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片５点の合計７点（129.0ｇ）である。接合資料は，石刃１点，剥片２点の合計３点（50.1ｇ）である。

・**C3-101**：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部は黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片14点の合計15点（62.9ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片３点（27.5ｇ），Ｂは使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（15.7ｇ），Ｃは剥片２点（9.1ｇ）である。

・**C3-102**：自然面は暗灰色（N3/0），内部はオリーブ黒色（5Y3/1）・黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面はオリーブ黒色（5Y3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（22.1ｇ）である。接合資料は，

剥片２点（8.1ｇ）である。

・**C3-103**：自然面は褐灰色（10YR4/1），内部は暗灰色（N3/0），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片２点の合計３点（43.2ｇ）である。接合資料は，石刃１点，剥片２点の合計３点（43.2ｇ）である。

・**C3-104**：黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃３点（２個体；3.6ｇ）である。接合資料は，石刃３点（２個体；3.6ｇ）である。

・**C3-105**：黒褐色（5YR3/1）・暗黄褐色（10YR4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片６点の合計８点（86.4ｇ）である。

・**C3-106**：内部は暗赤灰色（2.5YR3/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃３点，剥片３点の合計６点（6.2ｇ）である。接合資料は，石刃３点（4.4ｇ）である。

・**C3-107**：自然面は黒褐色（7.5YR3/1），内部は黒褐色（7.5YR3/1）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）の縞が入り，黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じり，節理は褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片８点（21.3ｇ）である。接合資料は，剥片３点（14.2ｇ）である。

・**C3-108**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（14.5ｇ）である。

・**C3-109**：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。本ブロックでは石刃１点（11.5ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-110**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片４点の合計６点（79.3ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-111**：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃１点の合計２点（29.9ｇ）である。接合資料は，ナイフ形石器１点，石刃１点の合計２点（29.9ｇ）である。

・**C3-112**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2）・褐灰色（10YR4/1），内部は黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片40点（195.0ｇ）である。接合資料は，４グループあり，Ａは剥片７点（152.3ｇ），Ｂは剥片２点（10.8ｇ），Ｃは剥片２点（5.6ｇ），Ｄは剥片２点（4.2ｇ）である。

・**C3-113**：暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃10点（８個体；43.3ｇ）である。接合資料は，石刃５点（３個体；16.5ｇ）がD3-Ａブロックの石刃１点と接合している。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-114**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3）・灰褐色（7.5YR4/2），内部は黒褐色（5YR3/1）の地ににぶい黄褐色（10YR5/3）が部分的に混じる北関東産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（96.0ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（59.8ｇ）である。

・**C3-115**：自然面は褐灰色（7.5YR4/1）・黄褐色（2.5Y5/3）・褐色（7.5YR4/3），内部は黒褐色（5YR3/1）・褐色（7.5YR4/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片６点（５個体）の合計７点（６個体；32.5ｇ）である。接合資料は，石刃１点，剥片５点（４個体）の合計６点（５個体；25.3ｇ）である。

・**C3-116**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（26.4ｇ）である。接合資料は，石刃２点（26.4ｇ）である。

・**C3-117**：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は灰褐色（7.5YR4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（4.9ｇ）である。接合資料は，石刃２点（4.9ｇ）である。

・**C3-118**：褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・**C3-119**：自然面は暗赤褐色（5YR3/2），内部は暗赤灰色（2.5YR3/1）の北関東産頁岩である。石刃１点（22.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-120**：褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃１点（7.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-121**：自然面は灰オリーブ色（7.5Y4/2），内部は灰色（N4/0）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の北関東産頁岩である。石刃１点（28.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-123**：自然面は褐灰色（10YR4/1），内部は暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃１点（12.9ｇ）の単独資料である。

・**C3-124**：暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-125**：灰褐色（7.5YR4/2）の北関東産頁岩である。石刃１点（12.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-126**：暗オリーブ灰色（5GY3/1）・黄褐色（2.5Y5/3）の地に縞が入る北関東産頁岩である。石刃１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-127**：灰褐色（7.5YR4/2）の北関東産頁岩である。石刃１点（10.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-128**：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の北関東産頁岩である。石刃１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・**C3-129**：暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃１点（13.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-130**：自然面はオリーブ黒色（7.5Y3/2），内部はオリーブ黒色（10Y3/2）・暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃１点（27.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-131**：暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃１点（23.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-132**：褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃１点（3.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-135**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は褐灰色（5YR4/1），節理は赤灰色（2.5YR4/1）の北関東産頁岩である。剥片１点（61.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-136**：褐灰色（10YR4/1）の地に縞が入る北関東産頁岩である。剥片１点（24.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-137**：自然面は褐灰色（10YR4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に部分的に斑紋が入る北関東産頁岩である。剥片１点（23.5ｇ）の単独資料である。

・**C3-138**：内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰褐色（5YR4/2）が混じり，新鮮な面は褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃１点（11.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-140**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1）・暗灰色（N3/0）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じる北関東産頁岩である。剥片１点（15.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-141**：自然面は黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の地に太い筋が入る北関東産頁岩である。剥片１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・**C3-142**：自然面は灰黄褐色（10YR5/2），内部は黒褐色（5YR3/1）の北関東産頁岩である。剥片１点（12.5ｇ）の単独資料である。

・**C3-143**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の北関東産頁岩である。剥片１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・**C3-144**：黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。剥片１点（15.6ｇ）の単独資料である。

・**C3-148**：内部は灰白色（5Y7/1）の地に灰色（7.5Y6/1）の斑が入り，節理は明黄褐色（10YR6/6）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃７点，剥片19点（18個体）の合計26点（25個体；157.7ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；55.9ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-149**：内部は灰白色（5Y7/1）の地に灰色（7.5Y5/1）の斑が入り，節理は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は青灰色（5B6/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃３点，剥片４点，石核１点の合計８点（225.9ｇ）である。接合資料は，石刃３点，剥片２点，石核１点の合計６点（221.9ｇ）である。

・**C3-150**：内部は灰色（5Y5/1），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3），新鮮な面は黒褐色（7.5YR3/1）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片８点の合計９点（74.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（57.1ｇ）である。

・**C3-151**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰黄色（2.5Y6/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（61.5ｇ）である。接合資料は，石刃２点（61.5ｇ）である。

・**C3-152**：内部はにぶい赤褐色（5YR4/4），新鮮な面は灰白色（10Y7/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃２点（１個体），剥片４点の合計６点（５個体；35.3ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体；10.3ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-153**：自然面は浅黄色（2.5Y7/3），内部は褐灰色（7.5YR5/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2）が縞状及び部分的に混じる流紋岩である。石器群の内訳は，石刃８点（６個体），剥片18点（16個体）の合計26点（22個体；225.1ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃４点（２個体），剥片２点の合計６点（４個体；107.7ｇ），Ｂは石刃４点，剥片５点（３個体）の合計９点（７個体；86.1ｇ）である。その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-154**：内部は浅黄色（2.5Y8/3），節理は明褐色（7.5YR5/6），新鮮な面は灰白色（2.5Y8/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，石刃４点（２個体），剥片１点の合計５点（３個体；130.3ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃１点，剥片１点の合計２点（116.1ｇ），Ｂは石刃３点（１個体；14.2ｇ）である。

・**C3-155**：灰白色（5Y8/2）の流紋岩である。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-157**：内部はにぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は褐灰色（7.5YR4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃10点（９個体），剥片14点の合計24点（23個体；68.9ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃２点（１個体；13.3ｇ），Ｂは石刃２点（9.1ｇ）である。

・**C3-158**：内部は黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃10点（７個体），剥片17点（16個体）の合計28点（24個体；210.4ｇ）である。接合資料は，４グループあり，Ａは石刃３点（２個体），剥片２点の合計５点（４個体；61.1ｇ），Ｂは石刃３点（２個体；43.6ｇ），Ｃは石刃２点（１個体；13.5ｇ），Ｄは剥片３点（２個体；9.6ｇ）である。

・**C3-159**：自然面は黄灰色（2.5Y4/1），内部は暗灰色（N3/0）の地に白色の鉱物が入り，節理は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗青灰色（5PB3/1）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃３点（２個体），剥

片66点（53個体）の合計69点（55個体；484.7ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは石刃３点（２個体），剥片32点（20個体）の合計35点（22個体；385.6ｇ），Ｂは剥片２点（8.5ｇ），Ｃは剥片２点（１個体；7.9ｇ）である。

・**C3-160**：自然面は黄灰色（2.5Y4/1），内部は灰色（10Y4/1）のチャートである。礫面に砂が付着していることから，上総丘陵砂礫層産と思われる。石器群の内訳は，剥片９点，石核１点の合計10点（159.3ｇ）である。接合資料は，剥片９点，石核１点の合計10点（159.3ｇ）である。

・**C3-161**：自然面は灰色（5Y5/1）の地に褐色（7.5YR4/3）が部分的に混じり，内部は褐灰色（10YR5/1）の地に褐灰色（10YR4/1）の点紋が入るチャートである。本ブロックでは剥片１点（9.9ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD3-Ａブロックに３点ある。

・**C3-163**：灰オリーブ色（5Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，剥片３点（2.8ｇ）である。

・**C3-164**：褐灰色（10YR4/1）の地に点紋が入るチャートである。石器群の内訳は，石刃２点，剥片１点の合計３点（28.3ｇ）である。

・**C3-165**：暗灰色（N3/0）のチャートである。ナイフ形石器１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・**C3-166**：黒色不透明の地に灰色を部分的に含む黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片６点（４個体；23.8ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（１個体；11.8ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；4.3ｇ）である。

・**C3-167**：黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（9.7ｇ）である。Ⅲ層から出土しており，異なる文化層の可能性もある。

・**C3-168**：黒灰色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（3.7ｇ）である。

・**C3-169**：黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（2.3ｇ）である。

・**C3-170**：黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（13.9ｇ）の単独資料である。

・**C3-171**：自然面は黒灰色のスリガラス状で，内部は黒灰色半透明の黒曜石である。φ２㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；12.5ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体；12.5ｇ）である。

・**C3-172**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（13.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-173**：自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃14点，剥片10点の合計25点（78.3ｇ）である。

・**C3-174**：灰褐色（7.5YR5/2）・にぶい褐色（7.5YR5/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片４点の合計５点（37.4ｇ）である。

・**C3-175**：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石刃１点（5.6ｇ）の単独資料である。

・**C3-176**：暗灰色（N3/0）の粘板岩である。石刃１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・**C3-177**：灰色（10Y4/1）の地に筋が入る砂岩である。石刃１点（20.9ｇ）の単独資料である。

・**C3-181**：自然面はにぶい黄橙色（10YR7/2），内部は浅黄色（5Y7//3）・灰色（N4/0）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片88点（76個体），石核１点の合計92点（80個体；1,035.1ｇ）である。接合資料は，６グループあり，Ａは剥片19点（10個体），石核１点の合計20点（11個体；743.8ｇ），Ｂは剥片４点（17.8ｇ），Ｃは剥片３点（45.9ｇ），Ｄは剥片２点（１個体；16.4ｇ），Ｅは剥片２点（１個体；4.7ｇ），Ｆは剥片６点（５個体；41.3ｇ）である。

・**C3-182**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰白色（5Y7/2）の地に黒褐色（5YR3/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2）が混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片31点（27個体）の合計33点（29個体；85.1ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片４点（１個体；9.3ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；3.8ｇ）である。

・**C3-183**：灰白色（7.5Y7/1）・灰白色（2.5Y8/2）が混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片12点，石核１点の合計15点（121.2ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点，石核１点の合計３点（72.5ｇ），Ｂは剥片２点（12.1ｇ）である。

・**C3-184**：自然面及び内部は黄褐色（10YR5/6）の地ににぶい黄橙色（10YR7/4）が混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片６点（５個体），石核１点の合計７点（６個体；157.9ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片４点（３個体），石核１点の合計５点（４個体；152.2ｇ），Ｂは剥片２点（5.6ｇ）である。

・**C3-185**：自然面は黄褐色（10YR5/8）・明黄褐色（10YR6/6）・灰白色（2.5Y8/2），内部は浅黄色（2.5Y7/3）の瑪瑙・玉髄である。本ブロックでは剥片１点（42.3ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-186**：灰黄色（2.5Y7/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体；3.3ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片２点（１個体；3.3ｇ）である。

・**C3-187**：自然面は浅黄橙色（10YR8/3），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）の地に灰白色（5Y7/1）が混じるの瑪瑙・玉髄である。掻器１点（39.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-188**：自然面はにぶい黄橙色（10YR7/3），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），節理は黄橙色（10YR5/8）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（26.1ｇ）の単独資料である。

・**C3-189**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/3），内部は黄灰色（2.5Y6/1）の安山岩である。敲石１点（478.2ｇ）の単独資料である。

・**C3-190**：自然面及び内部は灰褐色（7.5YR6/2）の安山岩である。石器群の内訳は，敲石２点（１個体；318.1ｇ）である。接合資料は，敲石２点（１個体；318.1ｇ）である。

・**C3-191**：自然面は灰色（5Y4/1），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の砂岩である。敲石１点（289.4ｇ）の単独資料である。

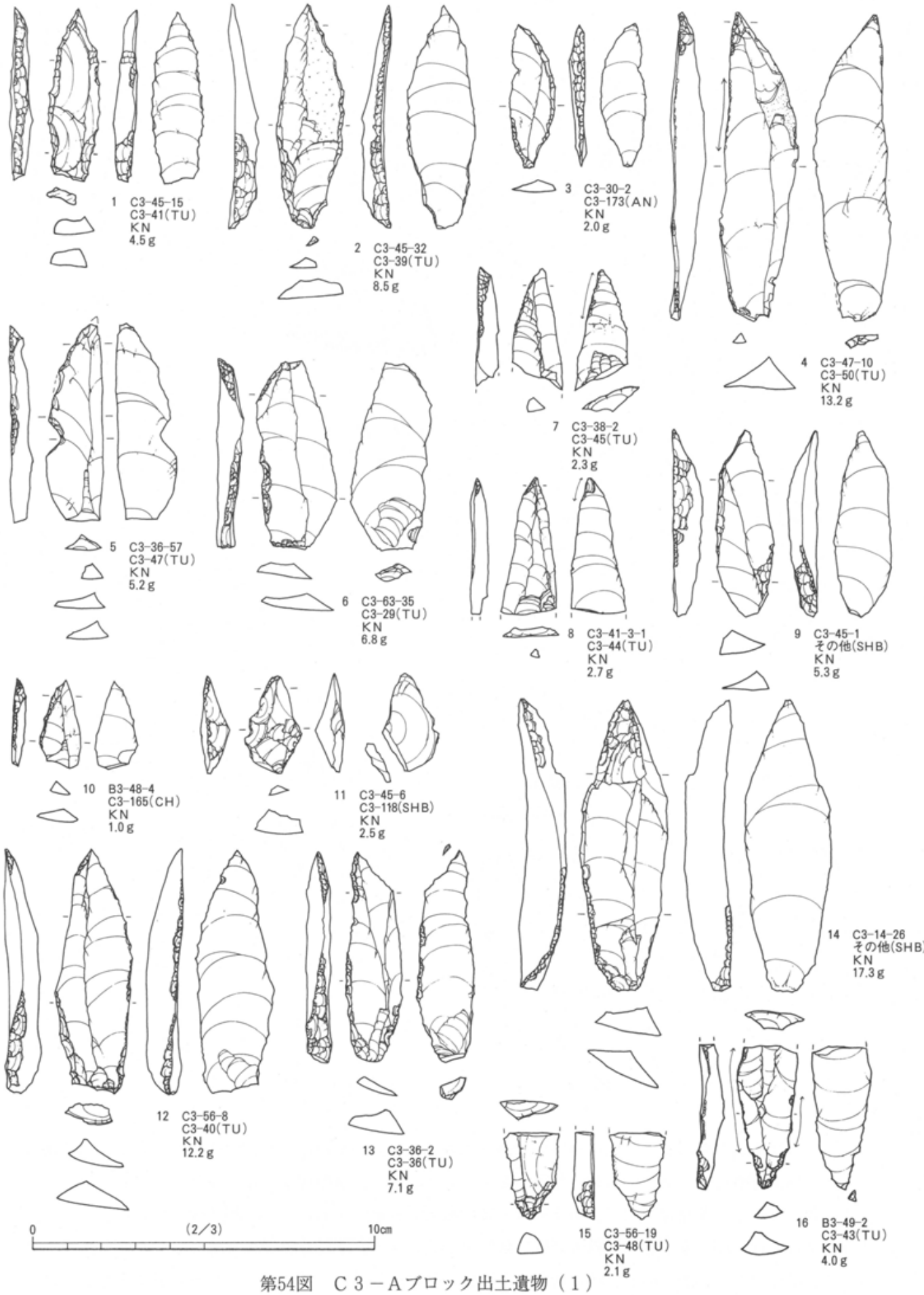
・**C3-192**：自然面は暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片２点（35.9ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の剥片３点（5.1ｇ），信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片２点（0.6ｇ），安山岩の剥片23点，砕片９点の合計32点（5.4ｇ），軟質の安山岩の剥片６点（1.0ｇ），北関東産頁岩のナイフ形石器２点，石刃９点，剥片68点，砕片６点の合計85点（156.7ｇ），硬質緻密な頁岩の剥片４点（4.2ｇ），頁岩の石刃３点，剥片12点，砕片２点の合計17点（15.9ｇ），チャー

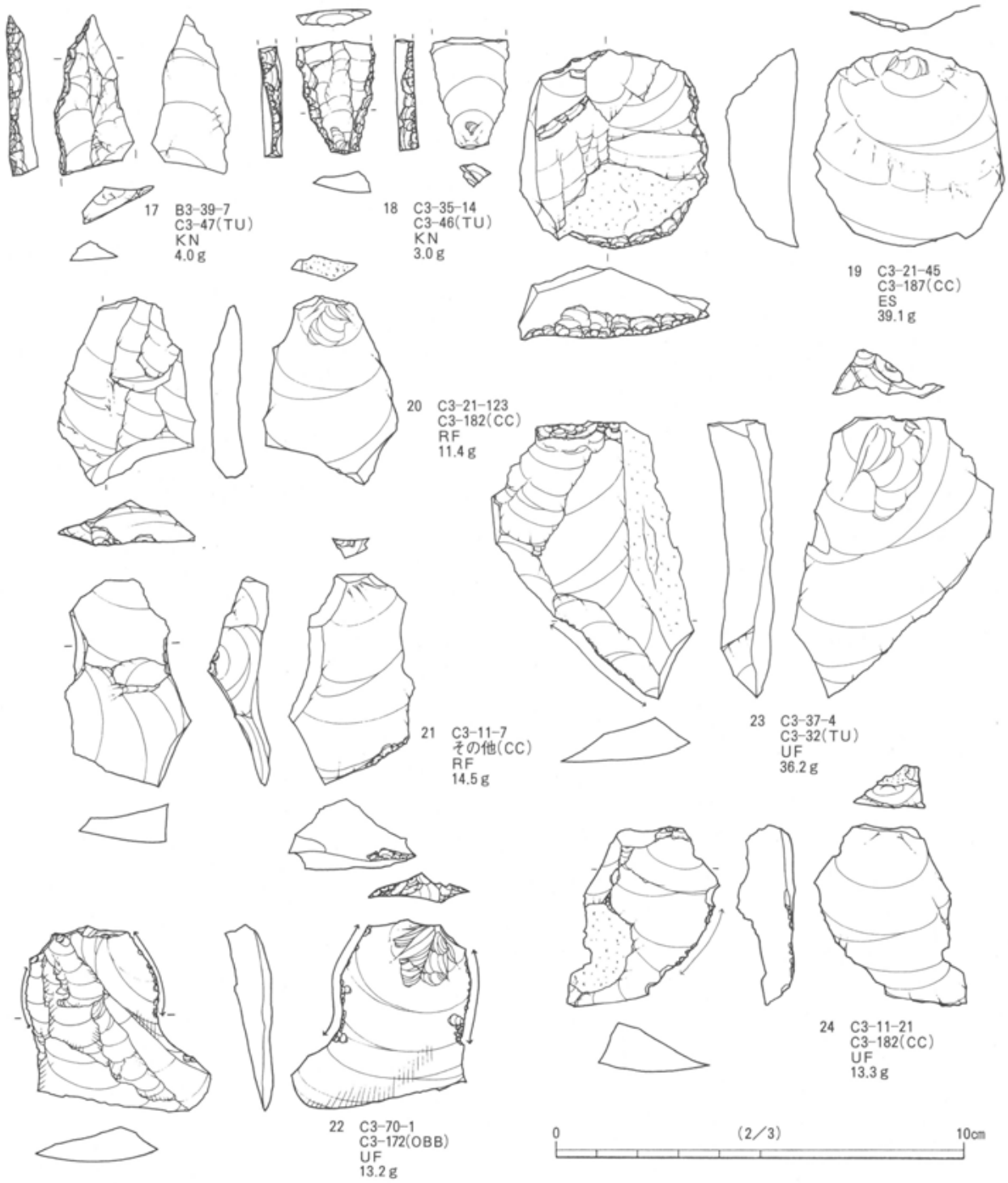
トの剥片10点（12.0ｇ），凝灰岩の石刃１点，剥片94点，砕片10点の合計105点（141.2ｇ），砂岩の剥片２点（1.0ｇ），粘板岩の剥片１点（8.1ｇ），瑪瑙・玉髄の加工ある剥片１点，剥片55点，砕片10点の合計66点（86.7ｇ）がある。

３）出土遺物（第54～64図）

１・２は凝灰岩，３は安山岩による二側縁加工のナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。４～８は凝灰岩による部分加工のナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。４～６は先端部を中心に細かい調整加工を行っている。７・８は下半部が欠損するため形態は不明だが，先端部に細かい調整加工を行った部分加工のナイフ形石器であると考えられる。４は表面左側縁，７・８は裏面左側縁の先端部に刃こぼれが見られる。９は北関東産頁岩による部分加工のナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。左側縁と右側縁の基部に細かい調整加工を行っている。10はチャート，11は北関東産頁岩による一側縁加工あるいは部分加工ナイフ形石器である。両者とも剥片を用い，左側縁に細かい調整加工を行っている。12～14は基部加工のナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。基部を中心に細かい調整加工を行っている。15・16は上半部が欠損するため形態は不明だが，基部に細かい調整加工を行った基部加工のナイフ形石器であると考えられる。石刃を用い，素材の末端部を基部としている。16は両側縁に刃こぼれが見られる。12・13・15・16は凝灰岩，14は北関東産頁岩である。17・18は凝灰岩によるナイフ形石器である。下半部と上半部が欠損するため，形態は不明である。石刃を用い，素材の末端部を基部としている19は瑪瑙・玉髄による掻器である。不定型な剥片の末端に急角度の調整加工を行っている。20・21は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。不定型な剥片の末端に細かい調整加工を行っている。22は信州和田峠周辺産の黒曜石，23は凝灰岩，24は瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材とし，22は両面両側縁，23は左側縁下部，24は右側面に刃こぼれが見られる。25～45は凝灰岩による石刃である。26・27及び28・29は，それぞれ同一母岩である。頭部調整が顕著で，30・35・40～43を除いて，単設打面の石核から剥離されている。25・40は右側縁に刃こぼれが見られる。38・39は上部を欠損する。41～43は石核の底面が末端に残っており，41・42はいわゆる「し」の状剥片である。44は稜上調整，45は正面に剥離方向と直交する剥離面が見られる。46～68は北関東産頁岩，69・70は頁岩による，71は東北産頁岩石刃である。50・54及び67・68は，それぞれ同一母岩である。頭部調整が顕著なもの（49・52・56～59・61・65・66・70）とほとんど行われないもの（46・47・50・51・54・60・67・68・71）があり，46・47・50～55・65～68・69は単設打面，48・49・56～63・70・71は両設打面の石核から剥離されている。44～48は刃こぼれが見られる。49は末端の切断面から垂直方向の細かい調整加工が行われている。53は上部，54・61は下部，55・70は両端を欠損する。62～64・67は稜上調整，65・66は正面に剥離方向と直交する剥離面が見られる。あるいは66は打面再生剥片かもしれない。68の右側面にはポジティブな剥離面が残っており，有樋尖頭器の削片に類似している。削器等の石器の刃部再生剥片の可能性がある。71は石核の底面が末端に残る，いわゆる「し」の状剥片である。両側面には剥離方向に直交する剥離面が見られる。72～75は安山岩，76～82は瑪瑙・玉髄，83・84はチャート，85は砂岩による石刃である。73・74，79・80，76～78，83・84は，それぞれ同一母岩である。頭部調整が顕著なもの（74・76・77・79～85）とほとんど行われないもの（72・75）があり，72・73・77・79～85は単設打面，74～76は両設打面の石核から剥離されている。76は右側縁に刃こぼれが見られる。84は末端に急角度の調整加工が行われており，下部を欠損する。78は両端を欠損する。81は正面に剥離方向



第54図　C３－Aブロック出土遺物（１）



第55図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（２）

に直交する剥離面が見られる。82は石核の底面が末端に残る，いわゆる「し」の状剥片である。86は凝灰岩による局部磨製石斧である。打面と作業面を入れ替えながら，調整加工を行っており，正面の末端の一部を研磨している。素材は不明で，あるいは石核の転用の可能性もある。87・88は敲石である。87は砂岩の楕円礫の末端，88は安山岩の円礫の周縁に敲打痕が見られる。88は分割礫を素材としたのか，使用中に２つに欠損したのか不明である。89は瑪瑙・玉髄による両設打面の石核である。石刃を剥離したと考えら

れる。90～96は凝灰岩による剥片である。90・91は石刃状の剥片，92～96の側面には頭部調整と考えられる細かい剥離痕，正面には打面調整と考えられる細かい剥離痕などが見られることから，打面再生剥片などの可能性がある。なお，96の正面図については，一部を除いて自然面として図示したが，人為的な剥離面あるいはほぼ全面が自然面の可能性がある。97～103は北関東産頁岩，104・105は頁岩による剥片である。97～99・104・105は不定型な剥片，100～102の側面には頭部調整と考えられる細かい剥離痕，正面には打面調整と考えられる細かい剥離痕などが見られることから，打面再生剥片などの可能性がある。103は末端に残る剥離面から，打面再生剥片あるいは90度の打面転移の痕跡を残す剥片が考えられる。106～110は瑪瑙・玉髄，111は栃木県高原山産の黒曜石，112～114は安山岩，115は流紋岩，116・117はチャートによる剥片である。115・116を除いて不定型な剥片である。115・116は石刃状の縦長剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第65～83図）

・C3-6（第65図118～121）　灰色（5Y4/1）などの凝灰岩である。石刃6点（4個体），剥片8点（7個体）の合計14点（11個体）で構成される。接合資料は，3グループある。B（118）は石刃2点が接合して1個体となる。下部には表面方向からの剥離痕が見られるが，側面調整かどうか不明である。119～121は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。

・C3-7（第65図122～124）　暗緑灰色（7.5GY4/4）の凝灰岩である。石刃4点，剥片3点（2個体）の合計7点（6個体）で構成される。122は剥片2点が接合して1個体となる。打面再生剥片と考えられる。123・124は接合しなかった同一母岩の石刃状の縦長剥片・石刃である。

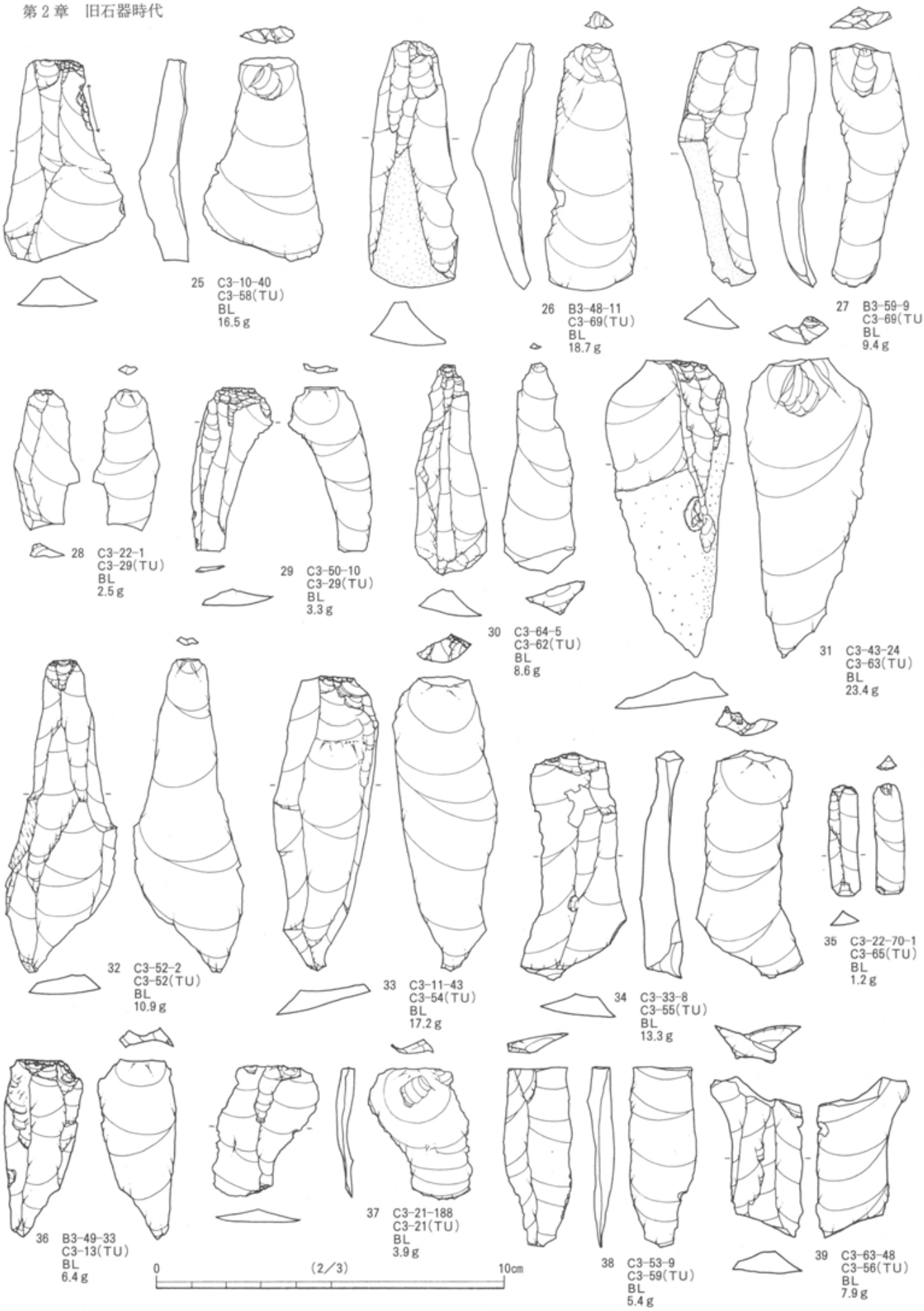
・C3-4（第66図）　にぶい黄褐色（10YR5/3）などの凝灰岩である。石刃4点，剥片9点の合計13点で構成される。接合資料は，2グループある。A（125）は剥片5点（126～130）の接合資料である。126を剥離した後，127を剥離して打面を再生し，128→129の順に石刃状のやや縦長の剥片を剥離している。126・128には刃こぼれが見られるが，使用によるものか不明である。131～134は接合しなかった同一母岩の石刃である。131の両側縁に刃こぼれが見られる。

・C3-5（第67図）　オリーブ褐色（2.5Y4/6）などの凝灰岩である。石刃1点，剥片20点の合計21点で構成される。135は石刃1点（141），剥片6点（136～140・142）の接合資料である。136→140の順に求心的な剥離作業によって打面を作り，141を剥離した後，再び142を剥離して打面を作っている。

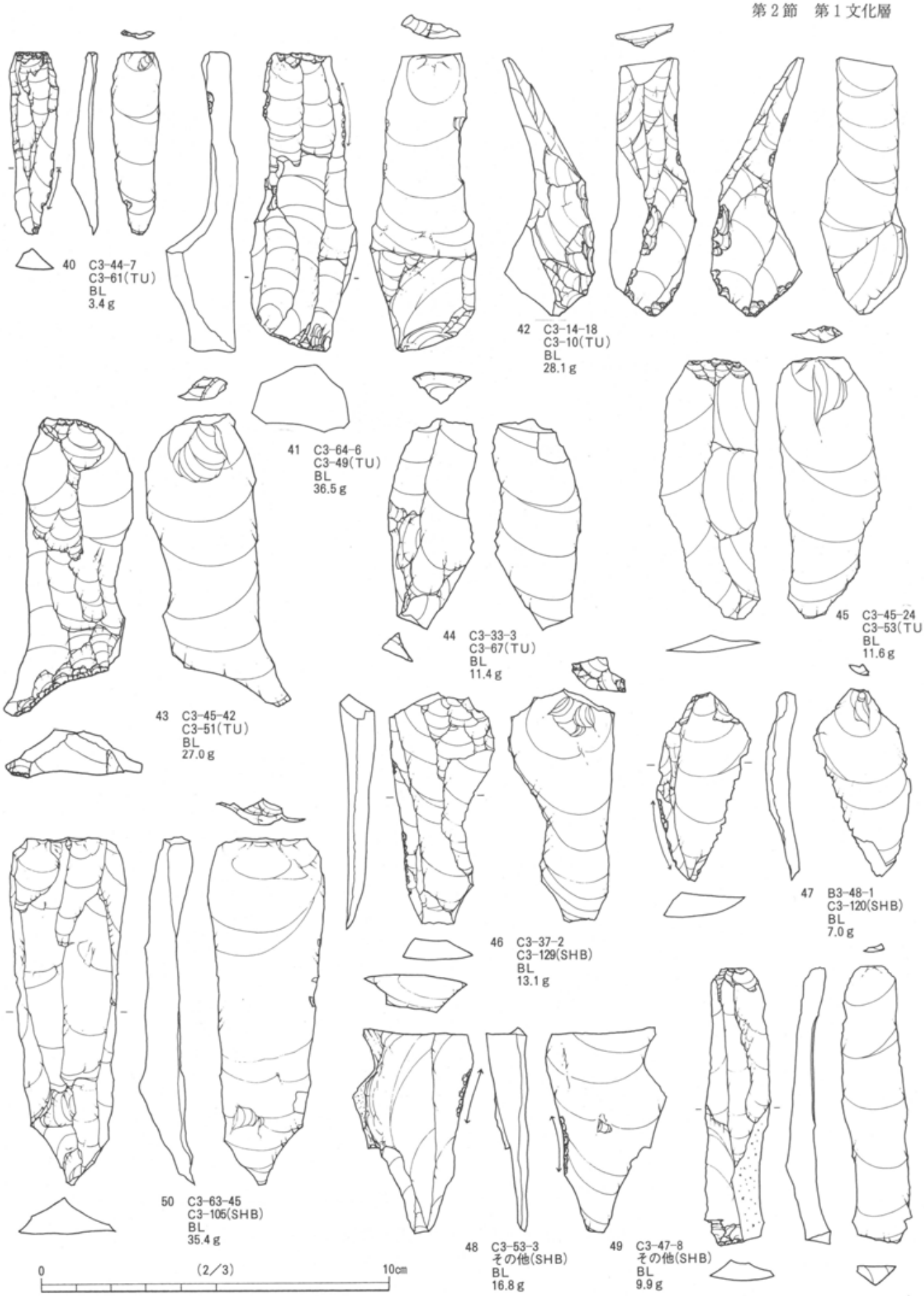
・C3-11（第68図）　灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。使用痕ある剥片1点，石刃4点の合計5点で構成される。143は使用痕ある剥片1点（144），石刃1点（145）の接合資料である。144を剥離した後，90度打面を転移して145を剥離している。144の両面の下部に刃こぼれが見られる。146～148は接合しなかった同一母岩の石刃である。

・C3-12（第69図）　灰色（7.5Y4/1）などの凝灰岩である。使用痕ある剥片1点，石刃1点，剥片1点の合計3点で構成される。149は使用痕ある剥片1点（152），剥片1点（150），D3-Aブロックの剥片1点（151）の接合資料である。150→152の順に上方向から打面調整剥片あるいは打面再生剥片を剥離している。149は右側面に刃こぼれが見られる。153は接合しなかった同一母岩の石刃である。下部に石核の底面が残っている。

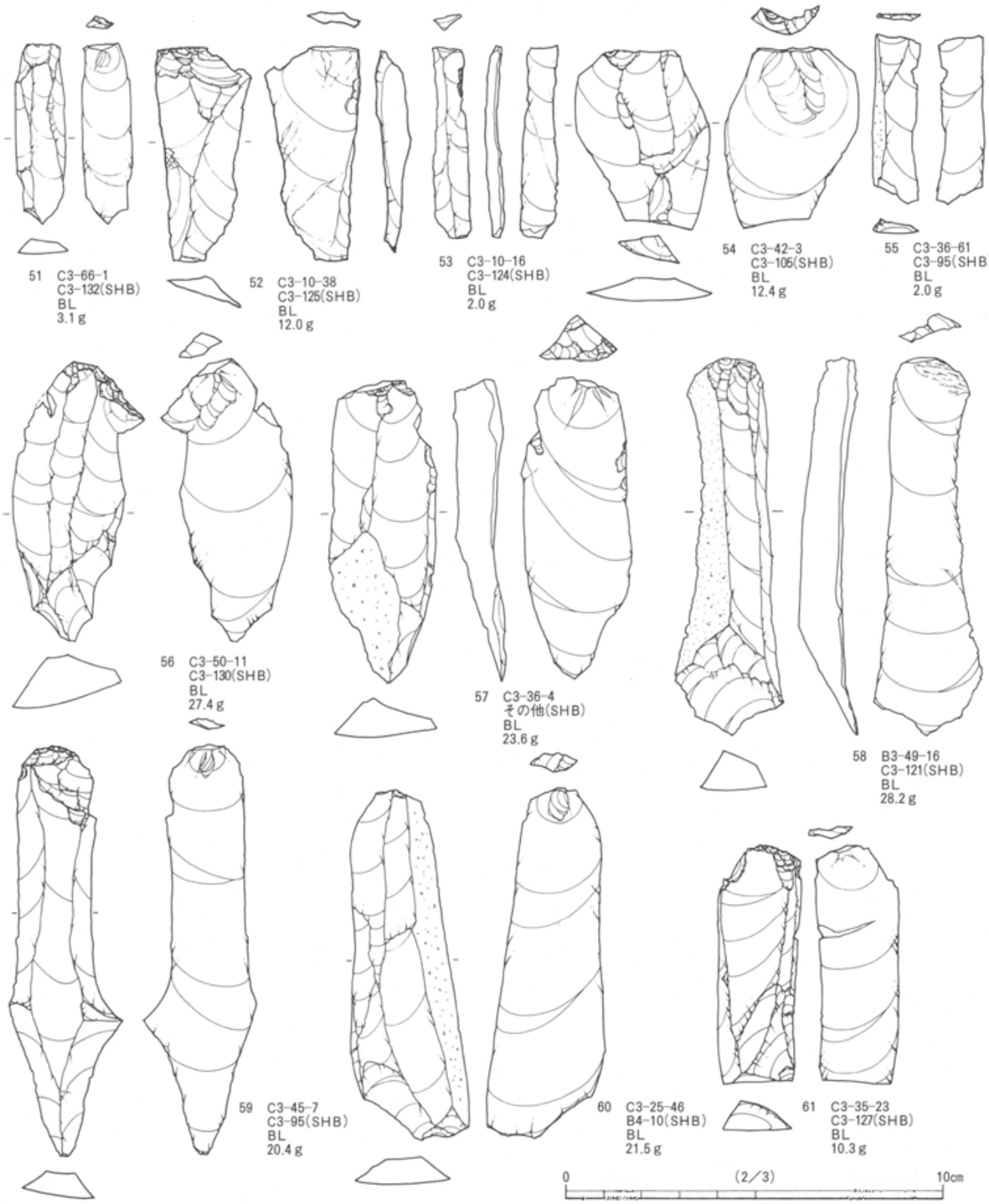
・C3-22（第70図）　褐灰色（7.5YR4/1）などの凝灰岩である。石刃1点，剥片20点（15個体）の合計21点（16個体）で構成される。接合資料は，4グループある。A（154）は剥片5点（3個体；155～157）の接合資料である。155→157の順に上方向から不定型な剥片を剥離している。158は接合しなかった同一



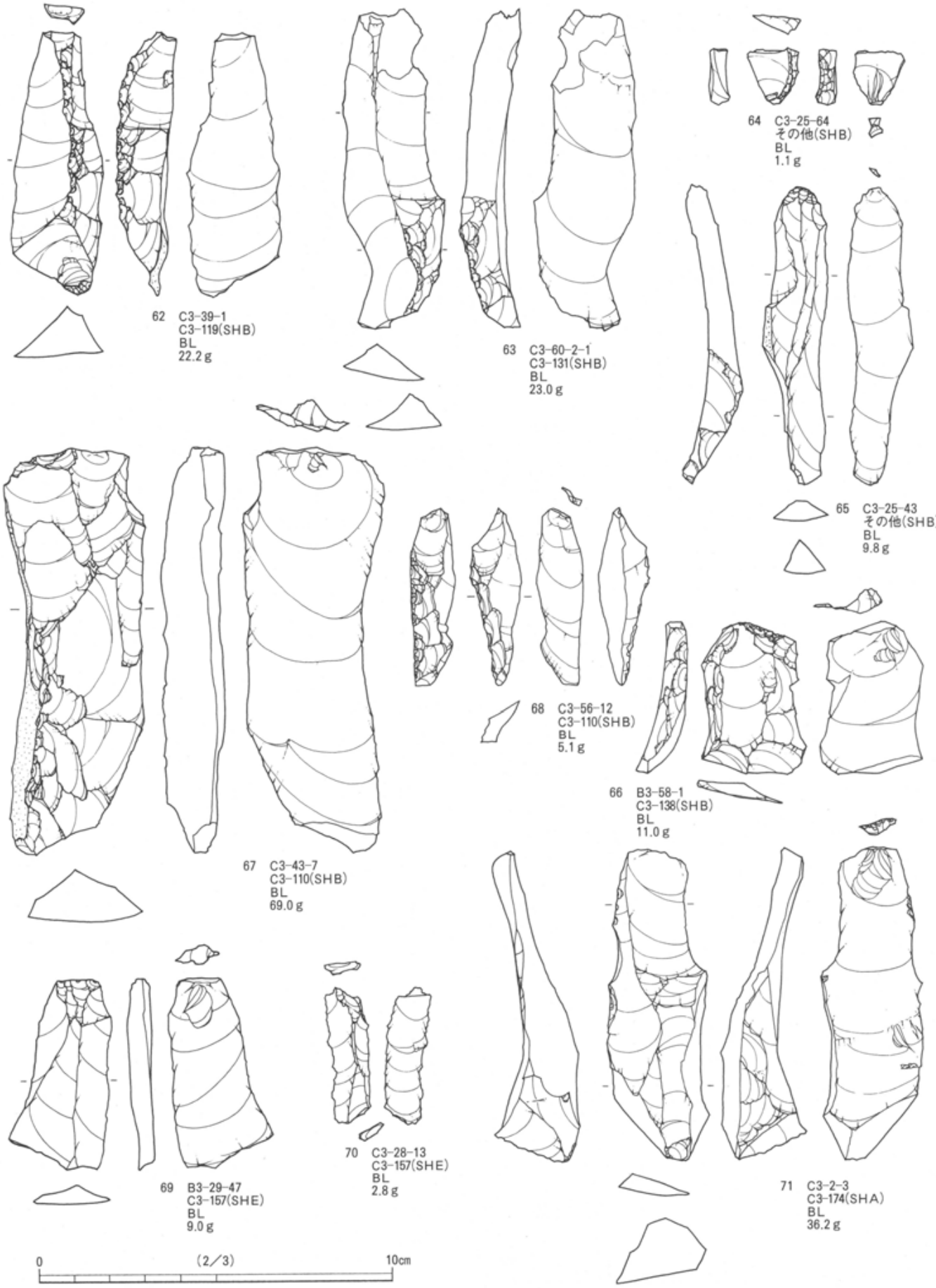
第56図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（３）



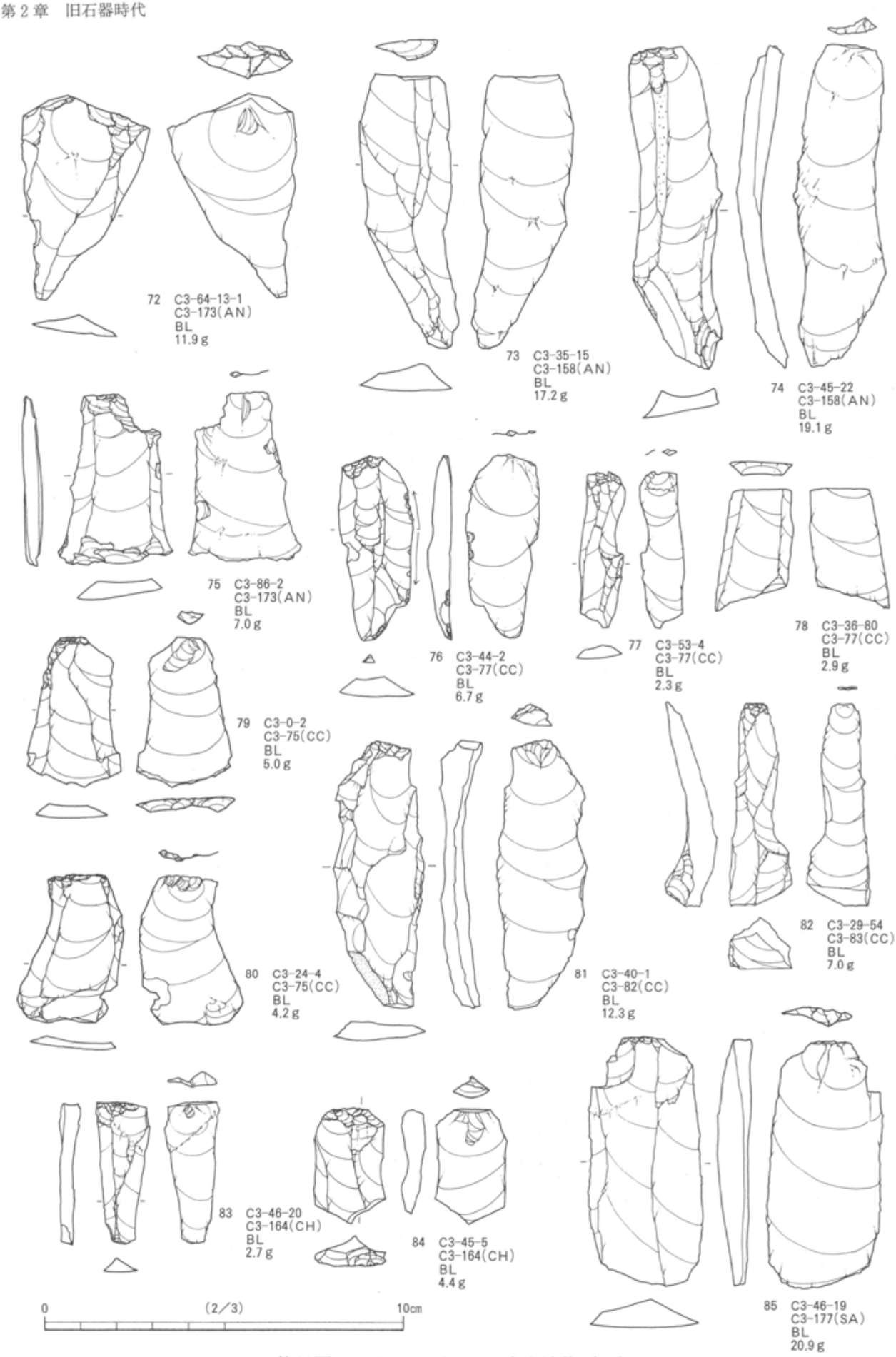
第57図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（４）



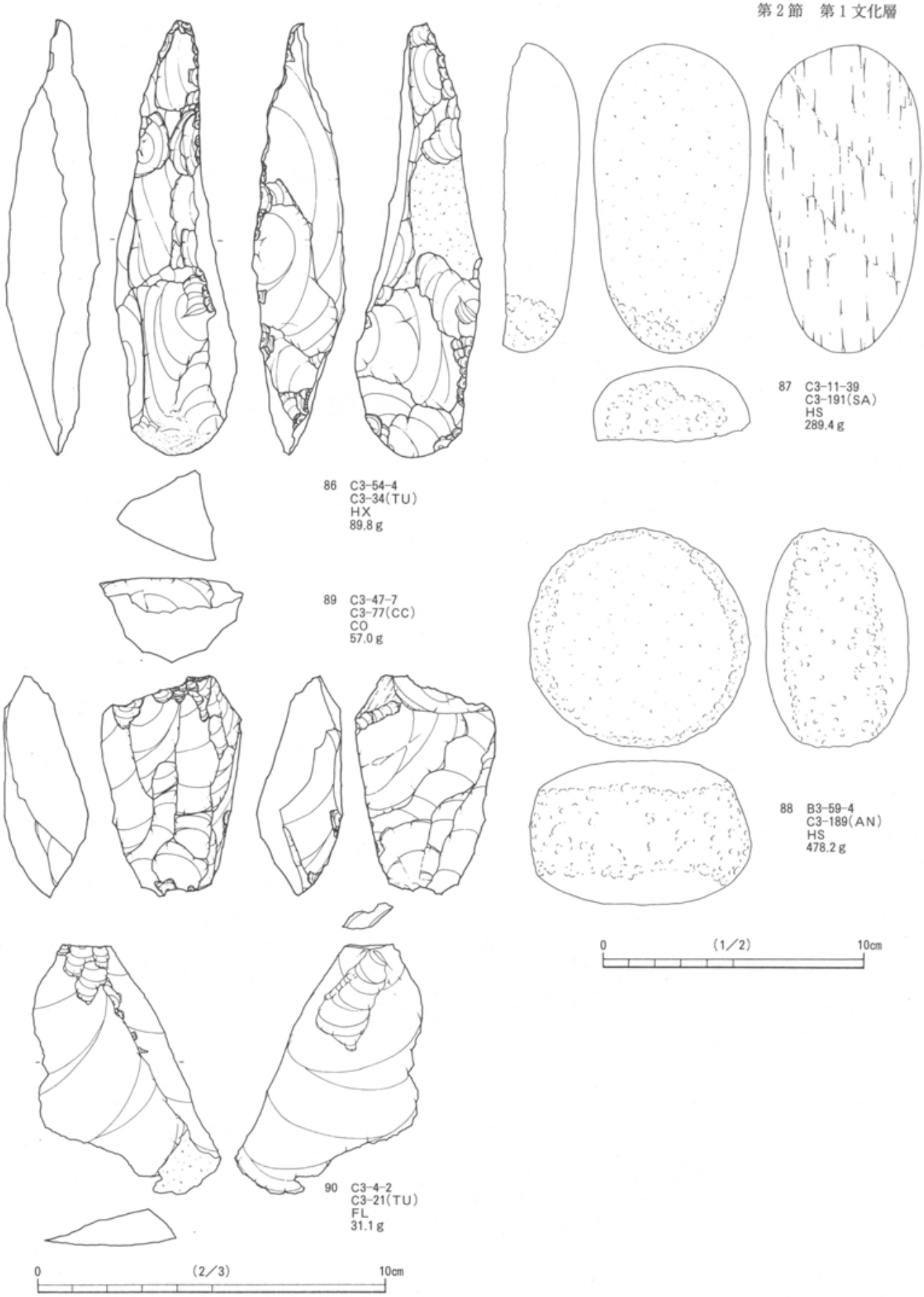
第58図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（５）



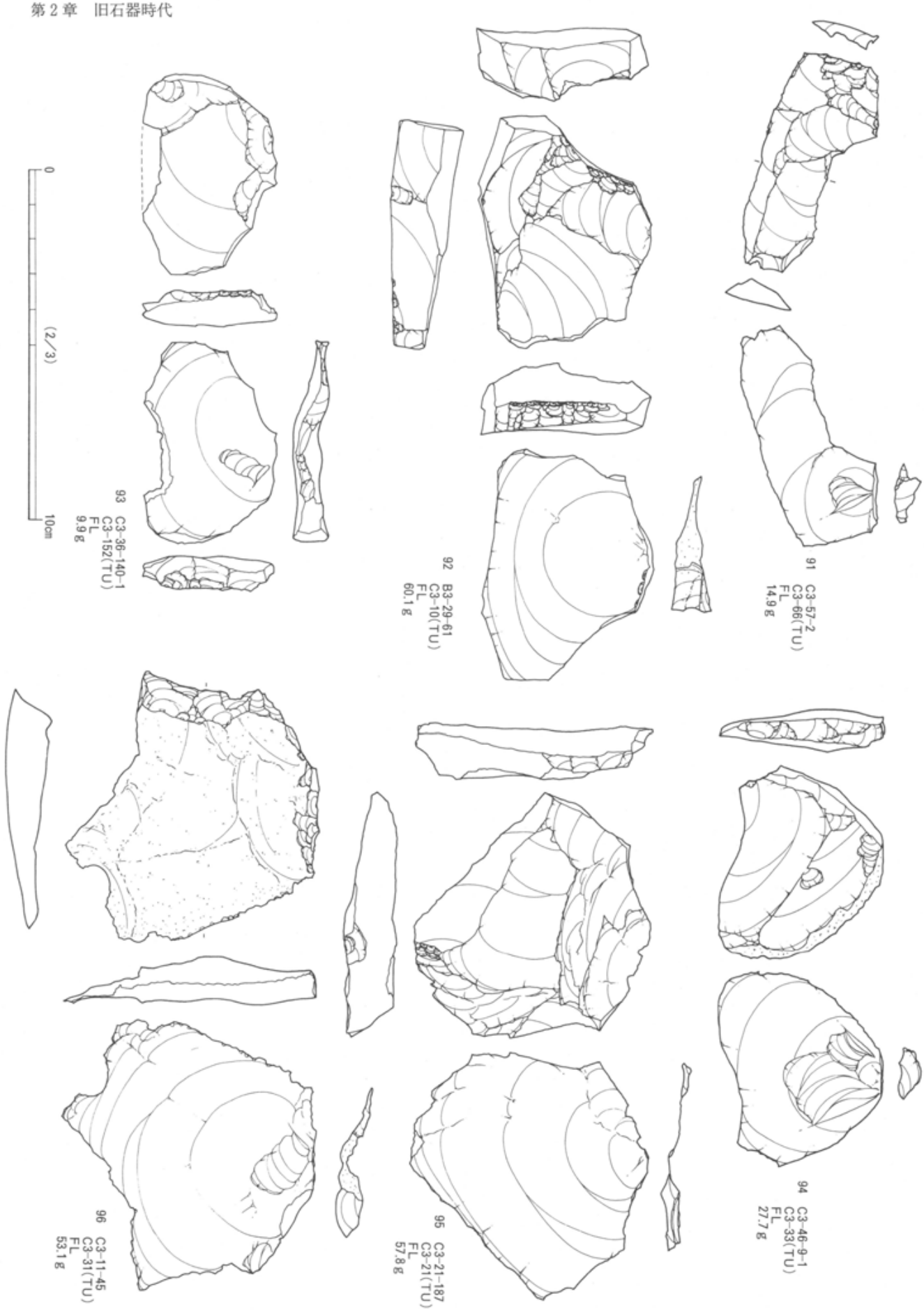
第59図　C3－Aブロック出土遺物（6）



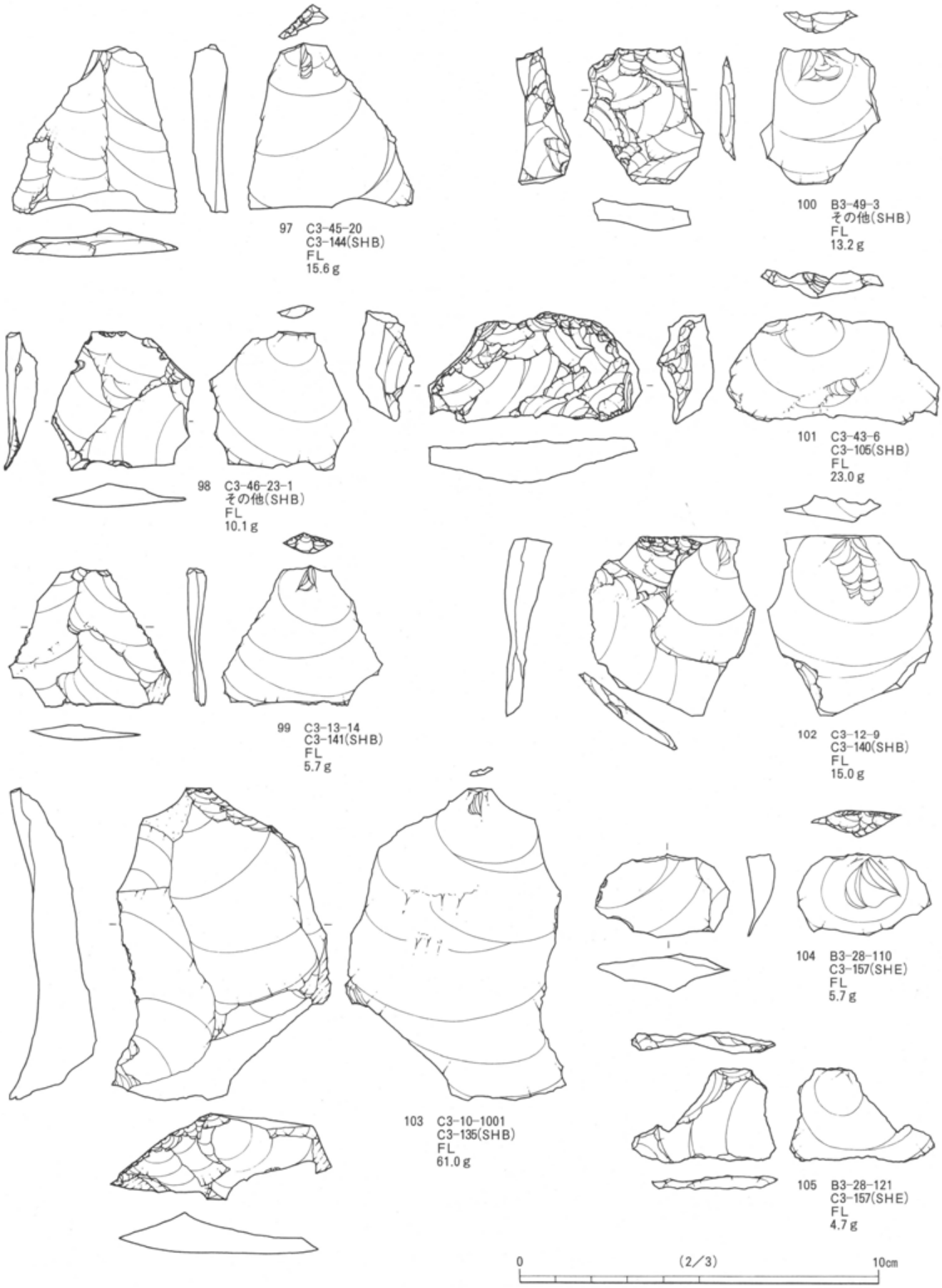
第60図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（７）



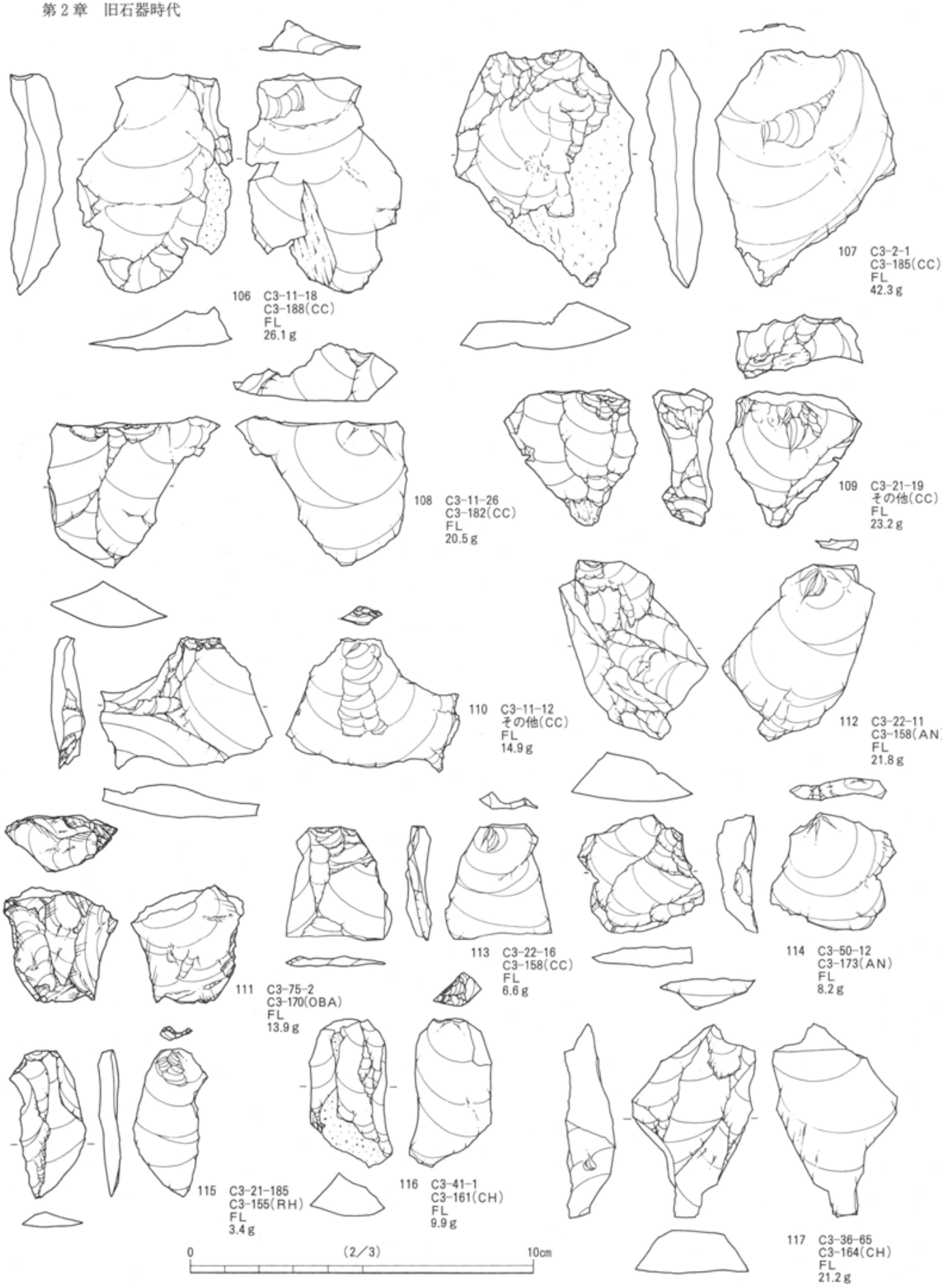
第61図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（８）



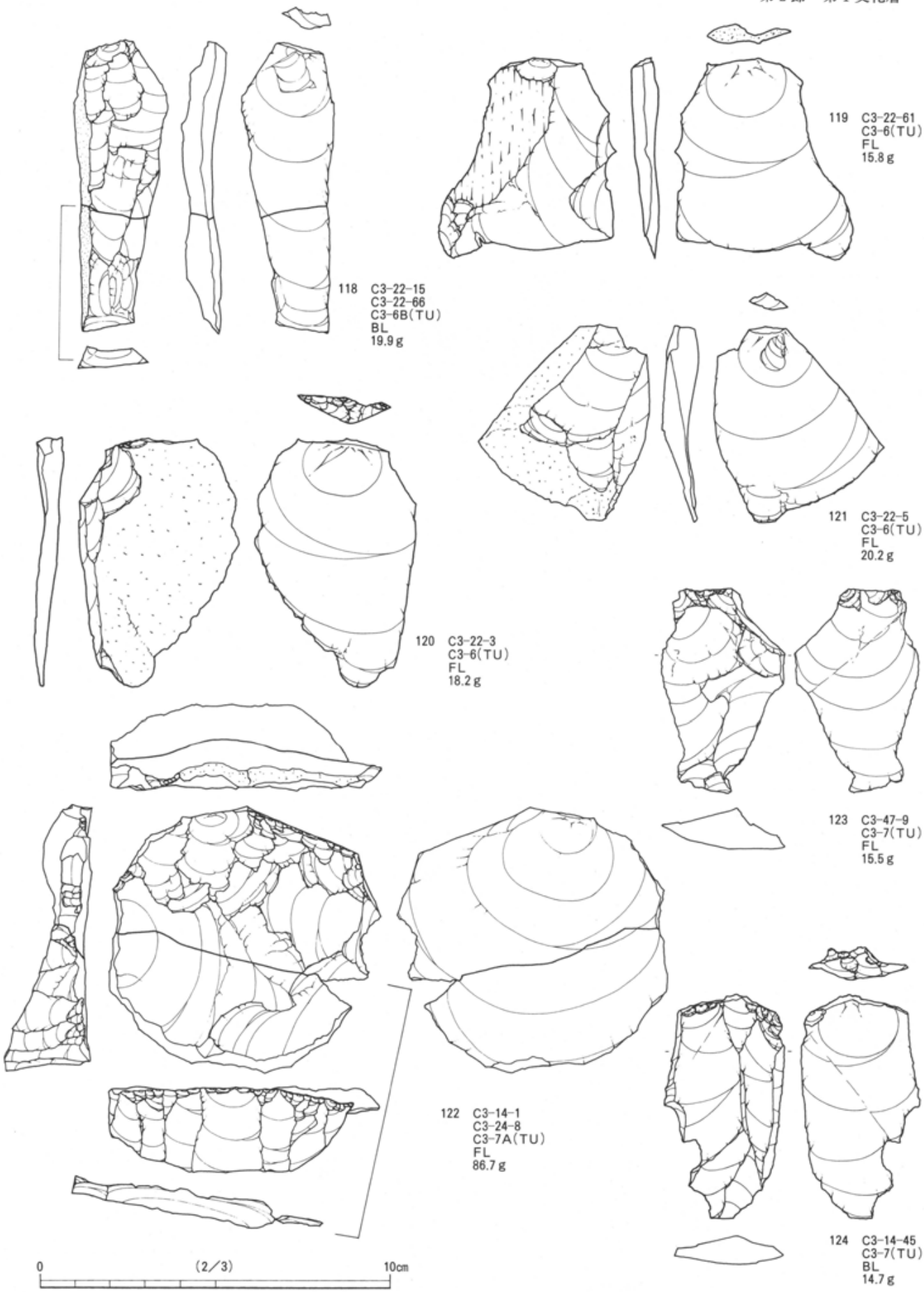
第62図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（９）



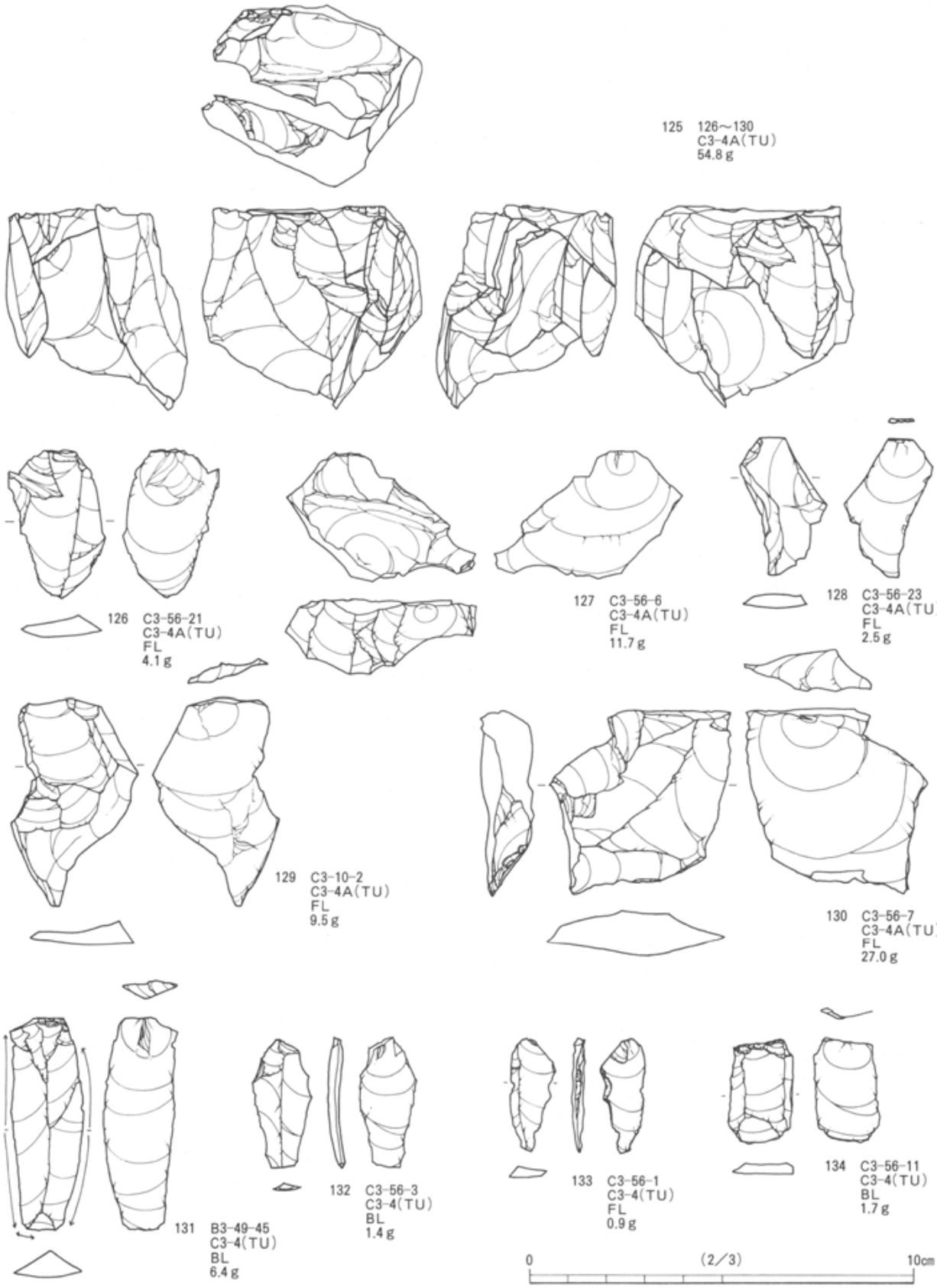
第63図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（10）



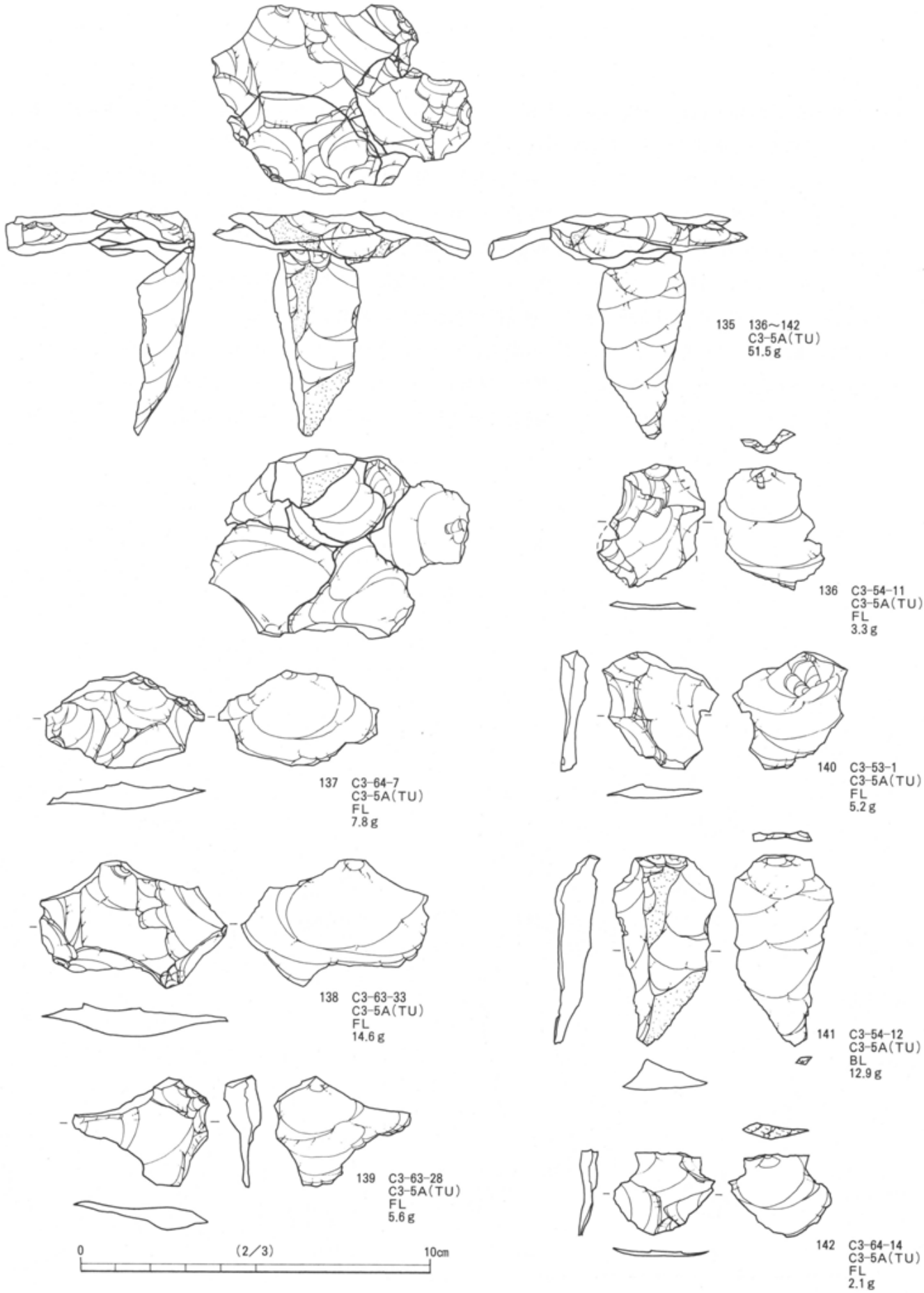
第64図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（11）



第65図　C3－Aブロック出土遺物（12）



第66図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（13）



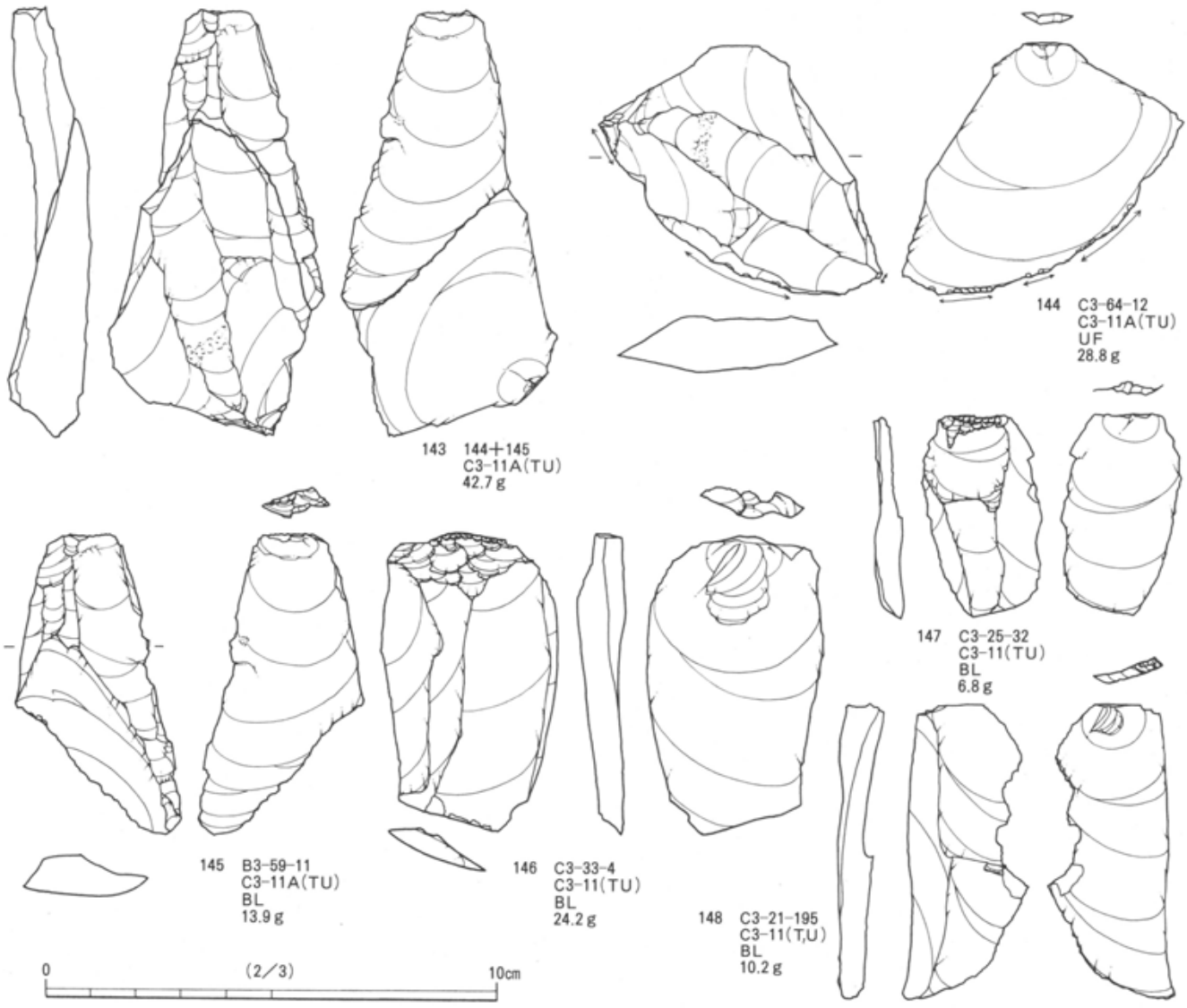
第67図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（14）

母岩の石刃である。

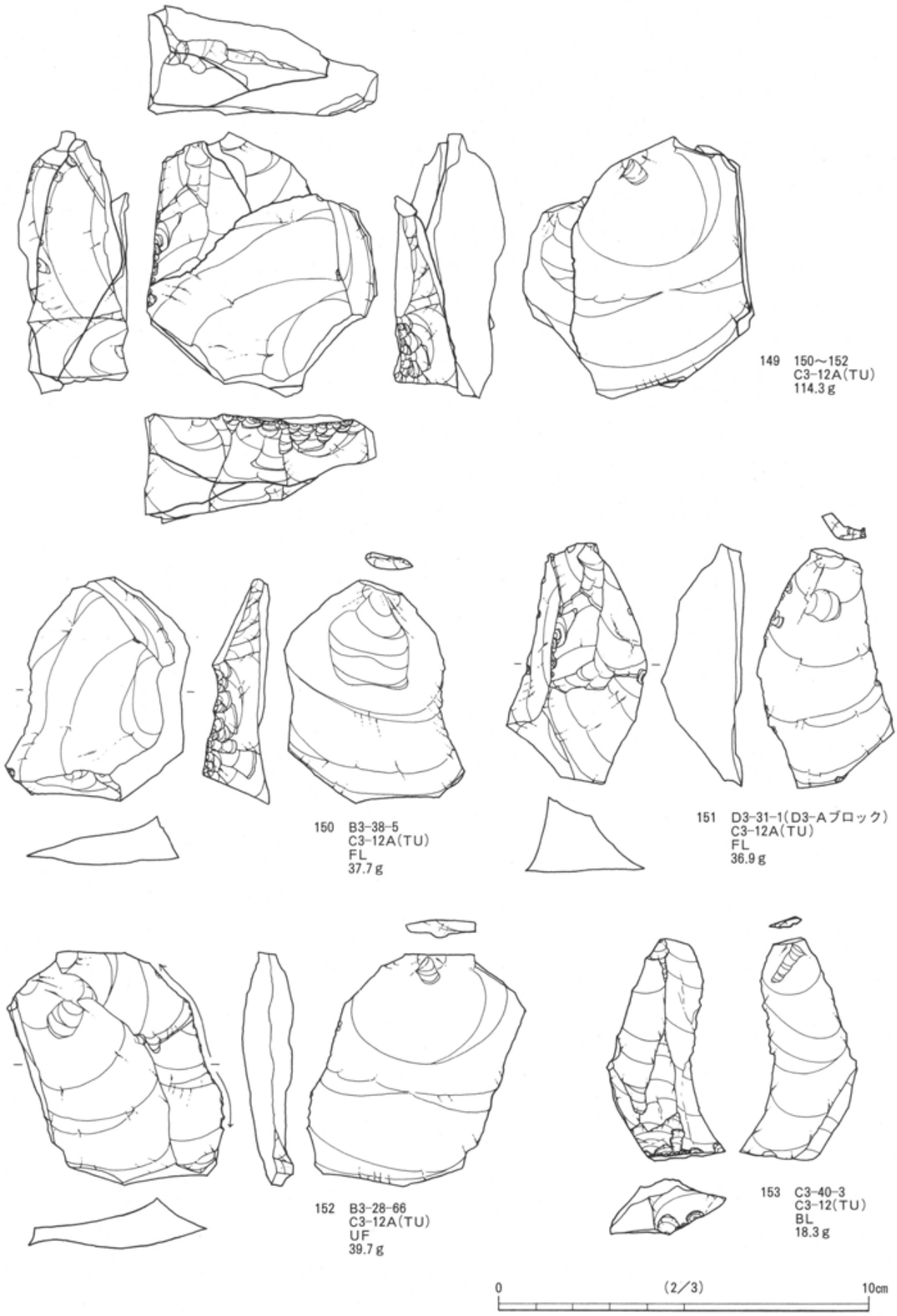
・C3-30（第71図159～164）　褐灰色（10YR4/1）の凝灰岩である。石刃４点，剥片13点（12個体）の合計17点（16個体）で構成される。接合資料は，３グループある。A（159）は石刃２点（161・162），剥片２点（１個体；160）の接合資料である。160を剥離した後，さらに稜上調整を行って，90度打面を転移して，161→162を剥離している。163・164は接合しなかった同一母岩の剥片である。163は打面調整に関わる剥片，164は稜付き石刃，打面再生剥片あるいは160の様な剥片かもしれない。

・C3-26（第71図165～167）　灰オリーブ色（7.5Y5/2）の凝灰岩である。石刃３点で構成される。165は石刃２点（167・167）の接合資料である。両設打面の石核から剥離されている。

・C3-24（第72図）　褐灰色（7.5YR4/1）の凝灰岩である。石刃７点（４個体），剥片15点の合計22点（19個体）で構成される。接合資料は，３グループある。A（168）は石刃４点（２個体；169・170），B（171）は石刃３点（２個体；172・173）の接合資料である。170の下部には石核の底面が残っている。両



第68図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（15）

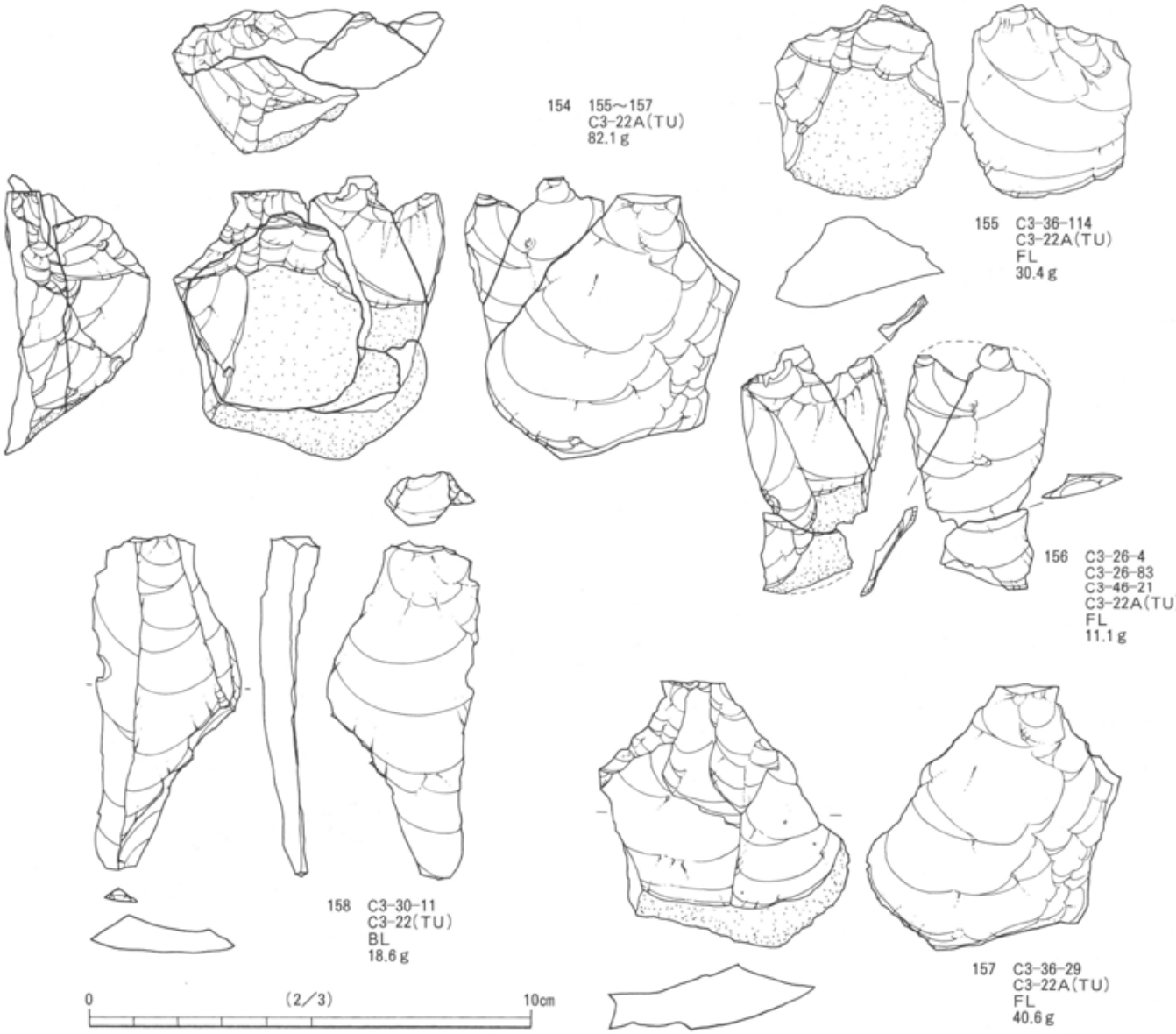


第69図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（16）

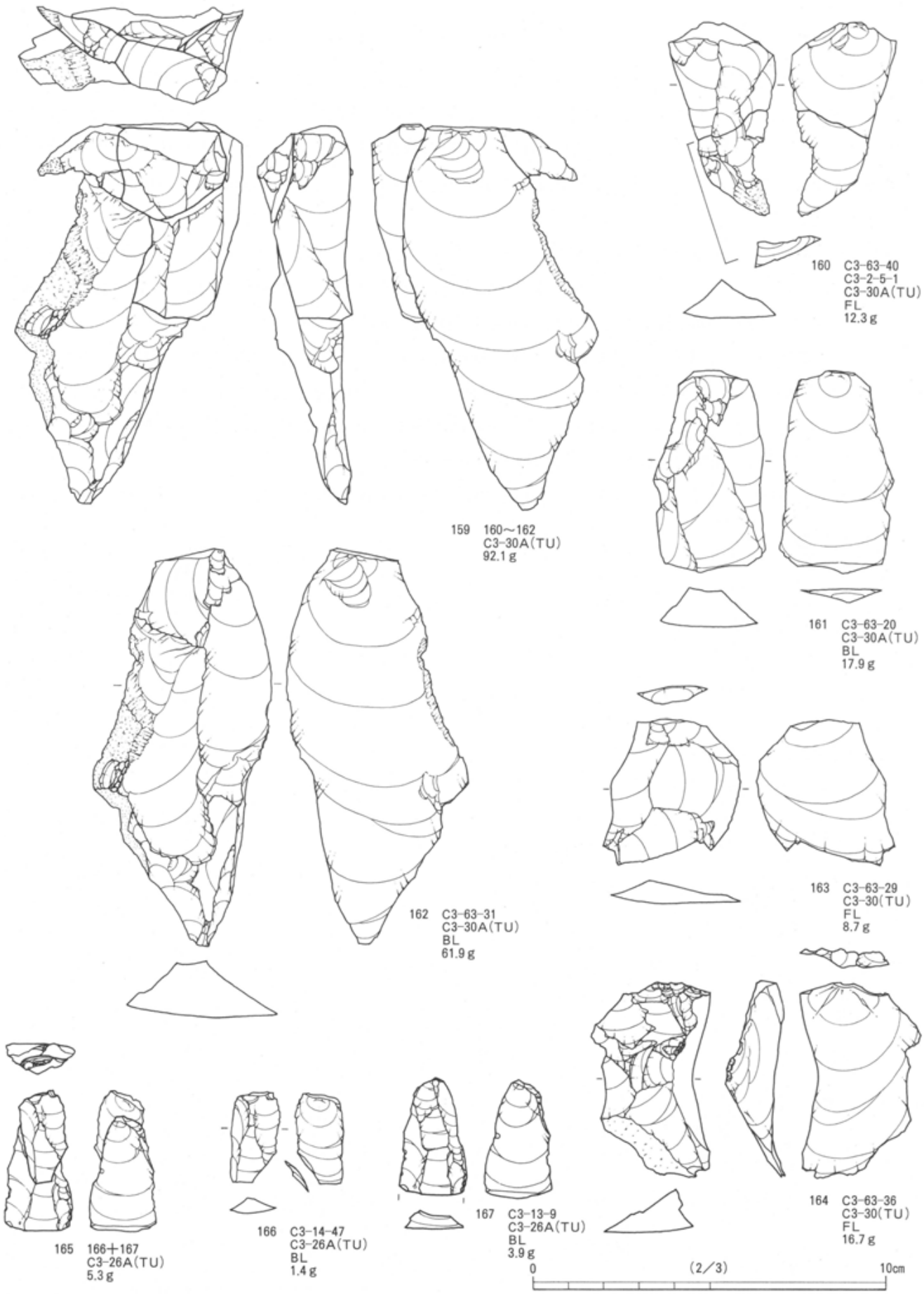
設打面の石核から剥離されている。

・**C3-148（第73図）**　灰白色（5Y7/1）の凝灰岩である。石刃７点，剥片19点（18個体）の合計26点（25個体）で構成される。174は剥片３点（２個体；175・176）の接合資料で，打面再生剥片である。175を剥離後，打面を90度転移して，176を剥離している。作業面は，175の段階では左右に，176の段階では上下に設定されている。177・178は接合しなかった同一母岩の石刃である。

・**C3-３（第74図）**　灰黄褐色（10YR4/2）などの凝灰岩である。剥片６点（５個体），石核１点の合計７点（６個体）で構成される。179は剥片６点（５個体；180～184），石核１点（185）の接合資料である。拳大の礫を素材として，平坦な打面を作り，頭部調整を行いながら，上方向から180→184の順に剥片を剥離している。接合資料では，単一の打面から連続して石刃状の縦長剥片を剥離しているが，90度の打面転移を行って不定型な剥片を剥離している様子も窺われる。



第70図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（17）



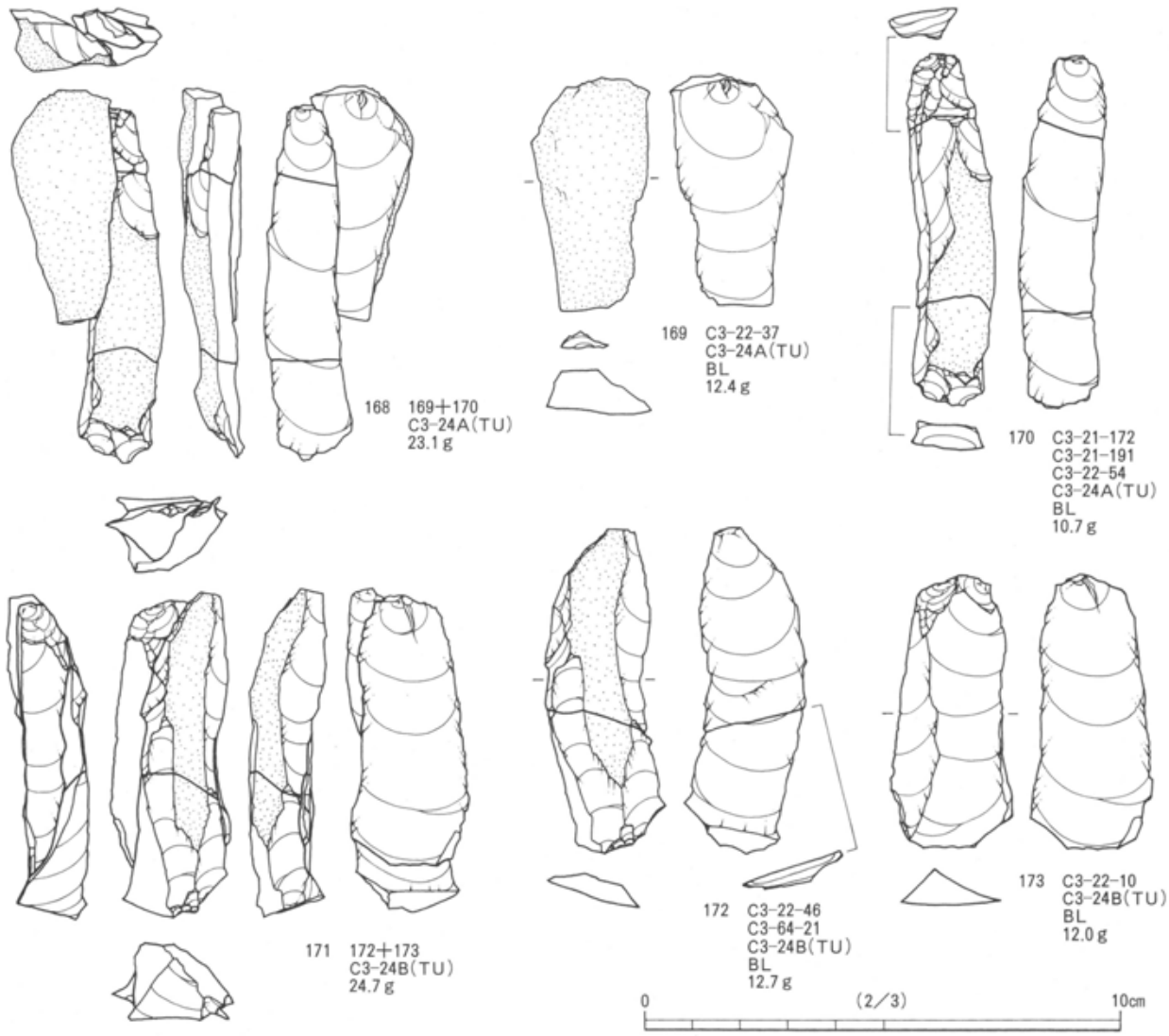
第71図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（18）

・**C3-２（第75図186～191）**　オリーブ灰色（10Y6/2）の凝灰岩である。石刃３点（２個体），剥片２点，石核１点の合計６点（５個体）で構成される。186は石刃３点（２個体；189・190），剥片２点（187・188），石核１点（191）の接合資料である。187→188の順に打面調整剥片を剥離した後，189→190の順に石刃を剥離している。191の裏面には作業面と直交する剥離面が見られるが，石核の側面調整か横長の剥片の作出を意図したものか不明である。

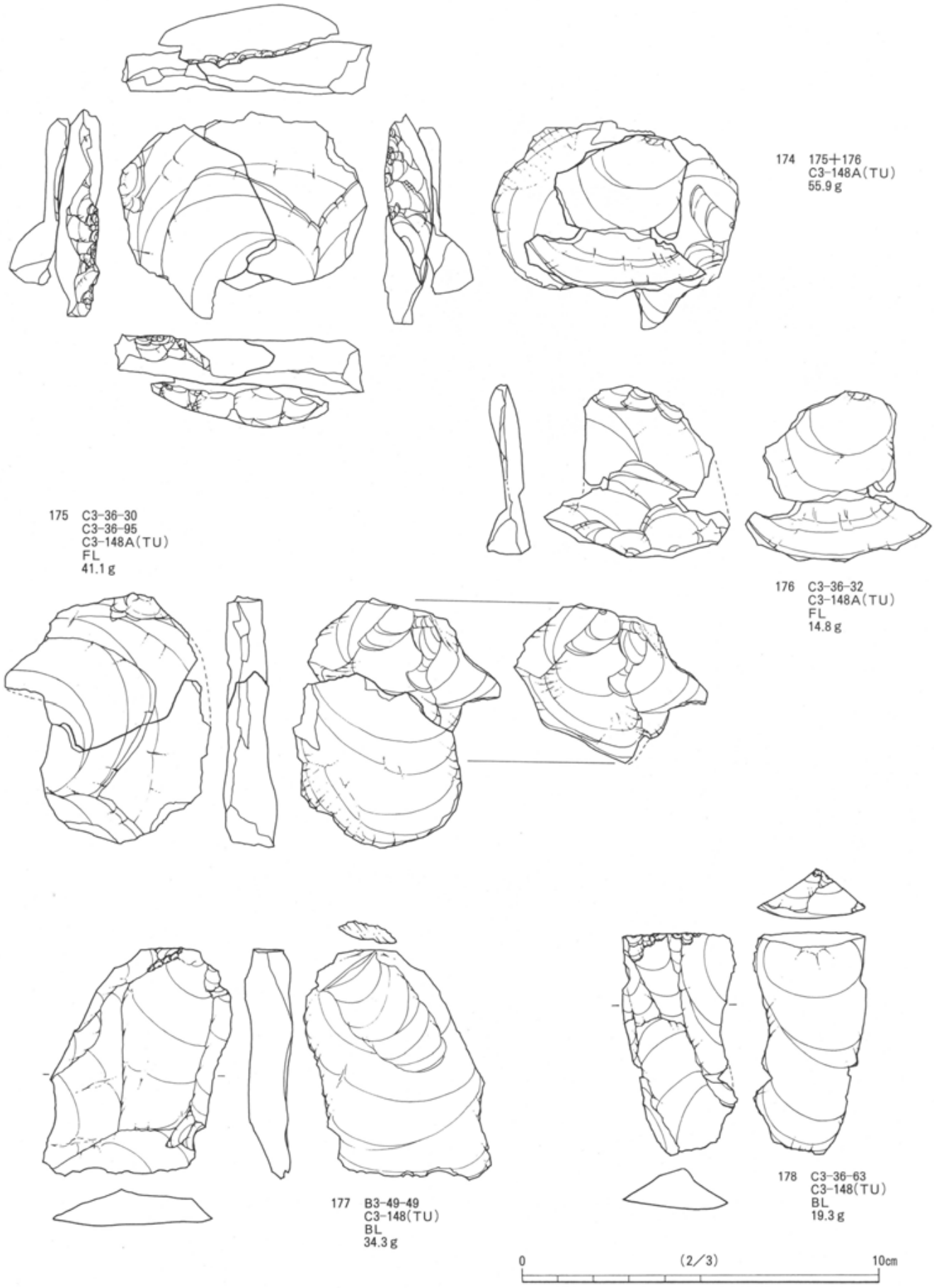
・**C3-20（第75図192～196）**　黄褐色（2.5Y5/3）の凝灰岩である。石刃３点，石核１点の合計４点で構成される。192は石刃１点（193），石核１点（194）の接合資料である。裏面側の下部には側面調整の剥離面が見られる。195・196は接合しなかった同一母岩の石刃である。

・**C3-１（第76図）**　灰赤色（2.5YR4/2）などの凝灰岩である。石刃５点，剥片１点，石核１点の合計７点で構成される。197は石刃４点（198～201），石核１点（202）の接合資料である。198→199，200→201の順に石刃を剥離しているが，199と200の新旧関係は不明である。珪化度は高いが，若干質が悪いためか，生産される石刃は，途中で欠損したり，末端が蝶番状になるものが多い。

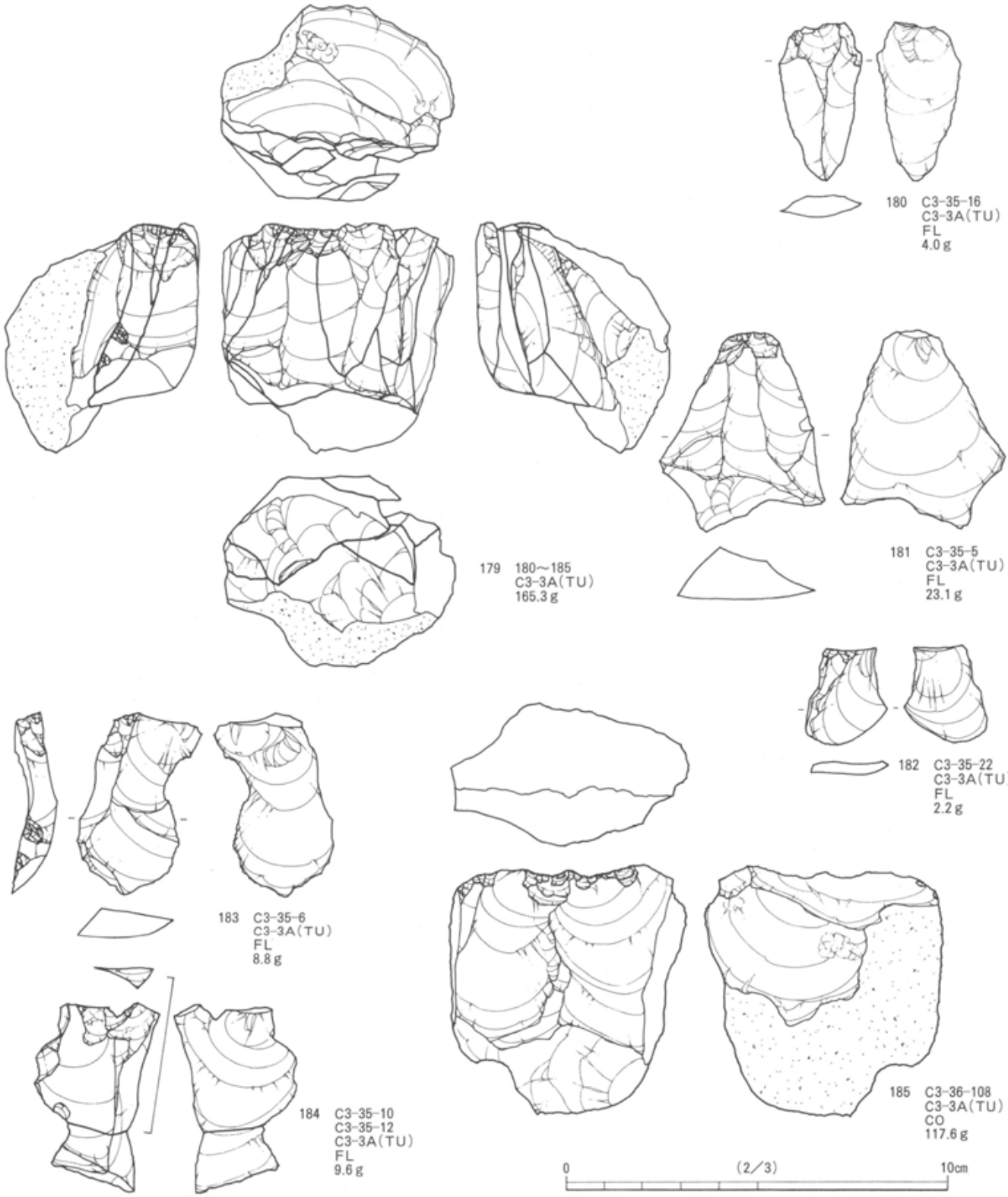
・**C3-８（第77図）**　灰色（7.5Y4/1）の凝灰岩である。加工痕ある剥片１点，石刃４点，剥片９点，石



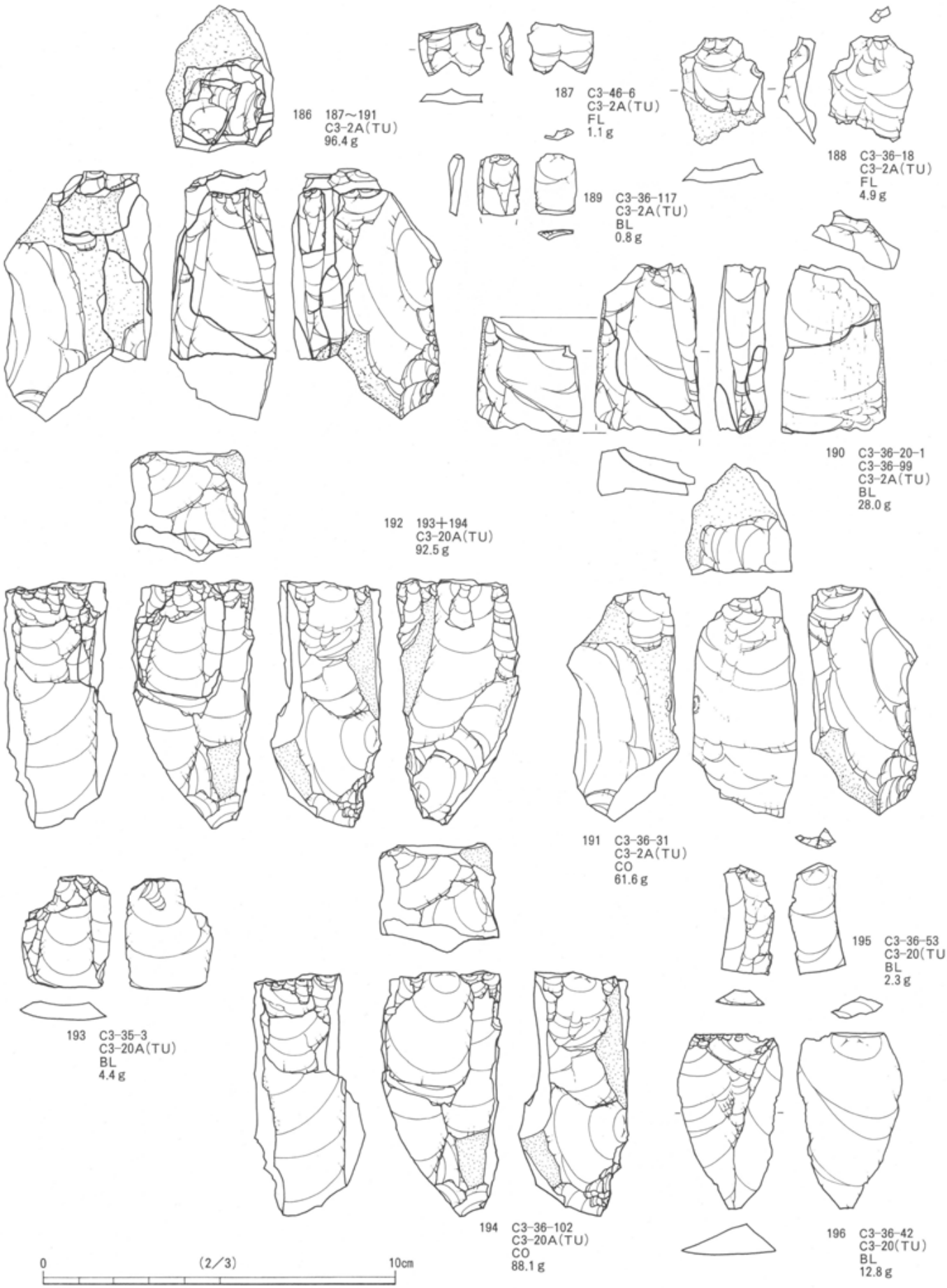
第72図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（19）



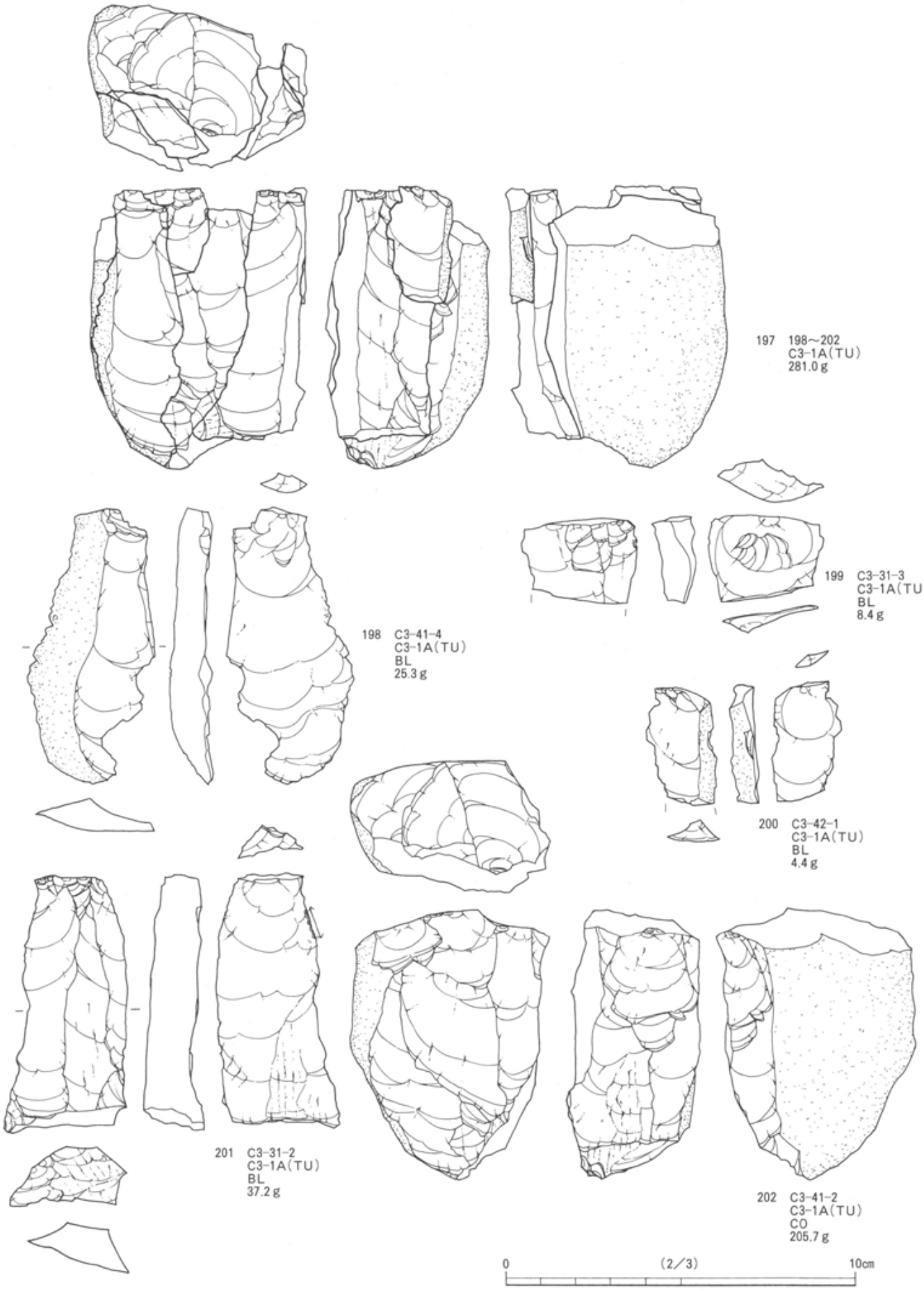
第73図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（20）



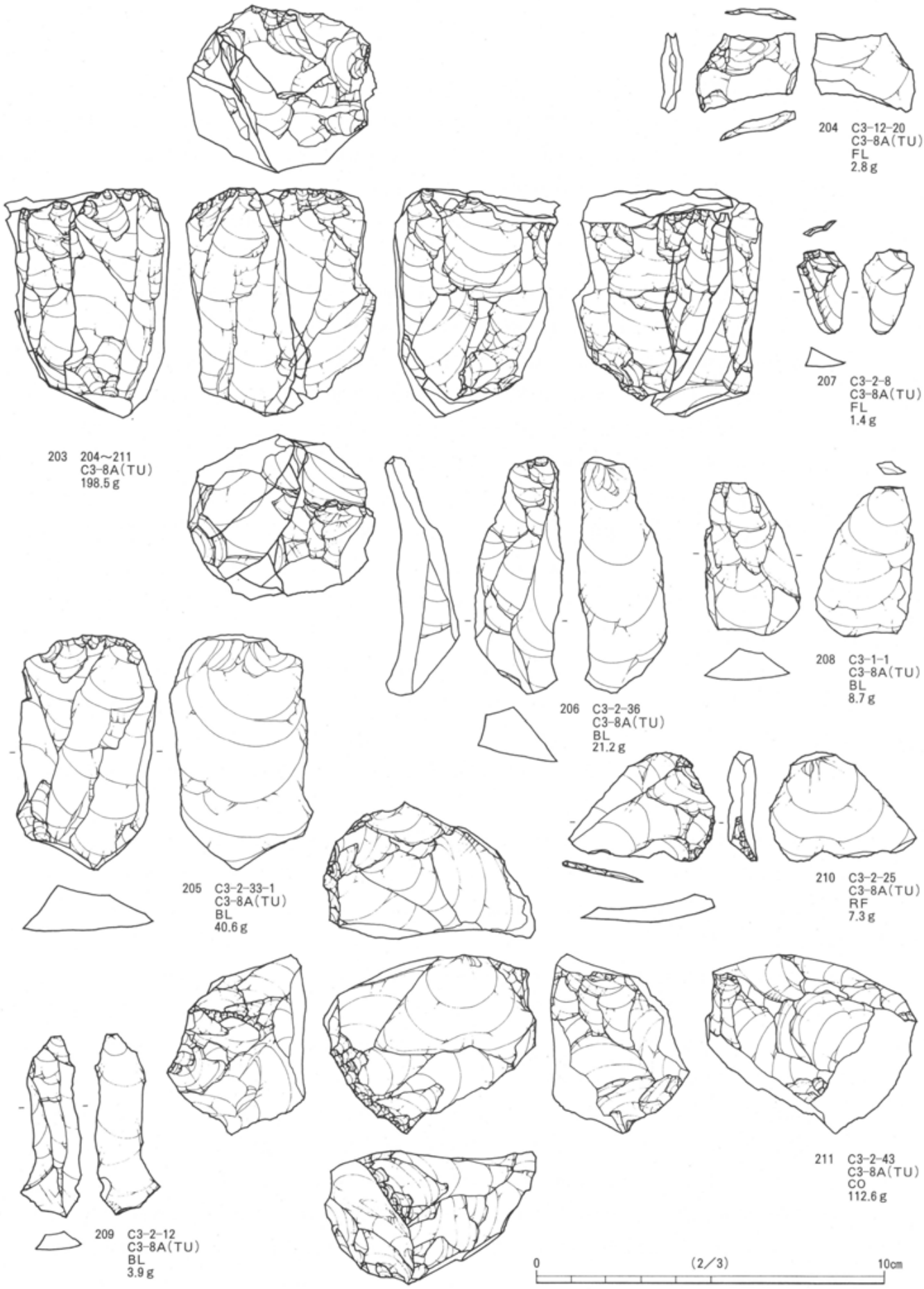
第74図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（21）



第75図　C３－Aブロック出土遺物（22）



第76図　C３－Aブロック出土遺物（23）



第77図　C３－Aブロック出土遺物（24）

核１点の合計15点で構成される。203は加工痕ある剥片１点（210），石刃４点（205・206・208・209），剥片２点（204・207），石核１点（211）の接合資料である。204を剥離して打面調整を行い，上方向から205→209の順に石刃や石刃状の縦長剥片を剥離した後，打面を90度転移して，211から210のような不定型な剥片を剥離している。210は右側縁下部に調整加工を行っている。

・**C3-98（第78図）**　灰オリーブ色（7.5Y5/2）の凝灰岩である。石刃４点，剥片４点，石核１点の合計９点で構成される。接合資料は，２グループある。A（212）は石刃２点（213・215），剥片１点（214），石核１点（216）の接合資料である。213を剥離後，打面を90度転移して，214→215の順に剥片，石刃を剥離している。90度打面を転移しながら，石刃や石刃状の縦長剥片を生産している。

・**C3-15（第79図，第80図，第81図240）**　暗灰色（N3/0）などの凝灰岩である。使用痕ある剥片２点，剥片31点（30個体），石核３点（２個体）の合計36点（34個体）で構成される。接合資料は，３グループある。A（217）は使用痕ある剥片２点（219・230），剥片20点（19個体；218・220～229・232～239），石核１点（240）の接合資料である。218を剥離して打面再生を行い，上方向から219→221の順に縦長剥片を剥離し，222を剥離して打面再生を行い，上方向から223→225の順に縦長剥片を剥離し，226を剥離して打面再生を行い，上方向から227を剥離している。一方，221の剥離後，下方向から228→230の順に縦長剥片を剥離し，表面方向から232→234の順に縦長剥片を剥離している。その後，打面を180度転移して，235→239の順に小型の縦長剥片を剥離している。219の表面の右側縁上部及び末端，裏面左側縁，230の裏面の右側縁の上部に刃こぼれが見られる。

・**C3-９（第81図241～249）**　灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。石刃５点，剥片５点，石核１点の合計11点で構成される。241は石刃２点（245・246），剥片２点（242・243），石核１点（247）の接合資料である。242を剥離後，243を剥離して打面再生を行い，上方向から245→246の順に石刃を剥離している。248・249は接合しなかった同一母岩の石刃である。248は稜付き石刃である。このことから，石核の側面調整が，念入りに行われていたことが窺われる。

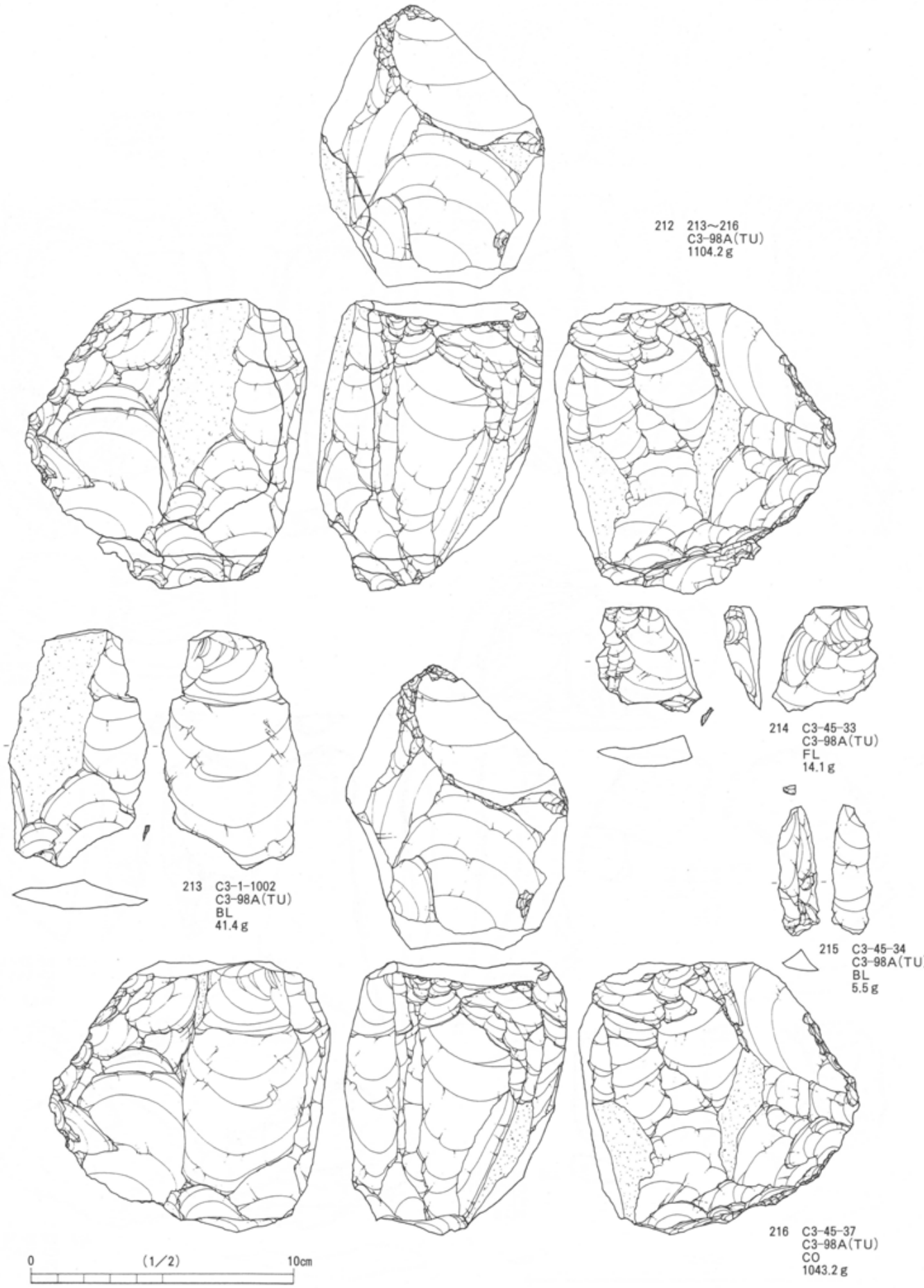
・**C3-149（第82図，第83図）**　灰白色（5Y7/1）の凝灰岩である。石刃３点，剥片４点，石核１点の合計８点で構成される。250は石刃３点（252・254・255），剥片２点（251・253），石核１点（256）の接合資料である。下方向から251→上方向から252を剥離した後，253を剥離して打面再生を行い，上方向から254→255の順に石刃を剥離している。

・**C3-88（第84図）**　褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃４点，剥片５点の合計９点で構成される。257は石刃４点（258・260・263・264），剥片３点（259・261・262）の接合資料である。上方向から258→259，180度打面転移して260を剥離した後，261・262を剥離して打面再生を行い，上方向から263→264の順に石刃や石刃状の縦長剥片を剥離している。

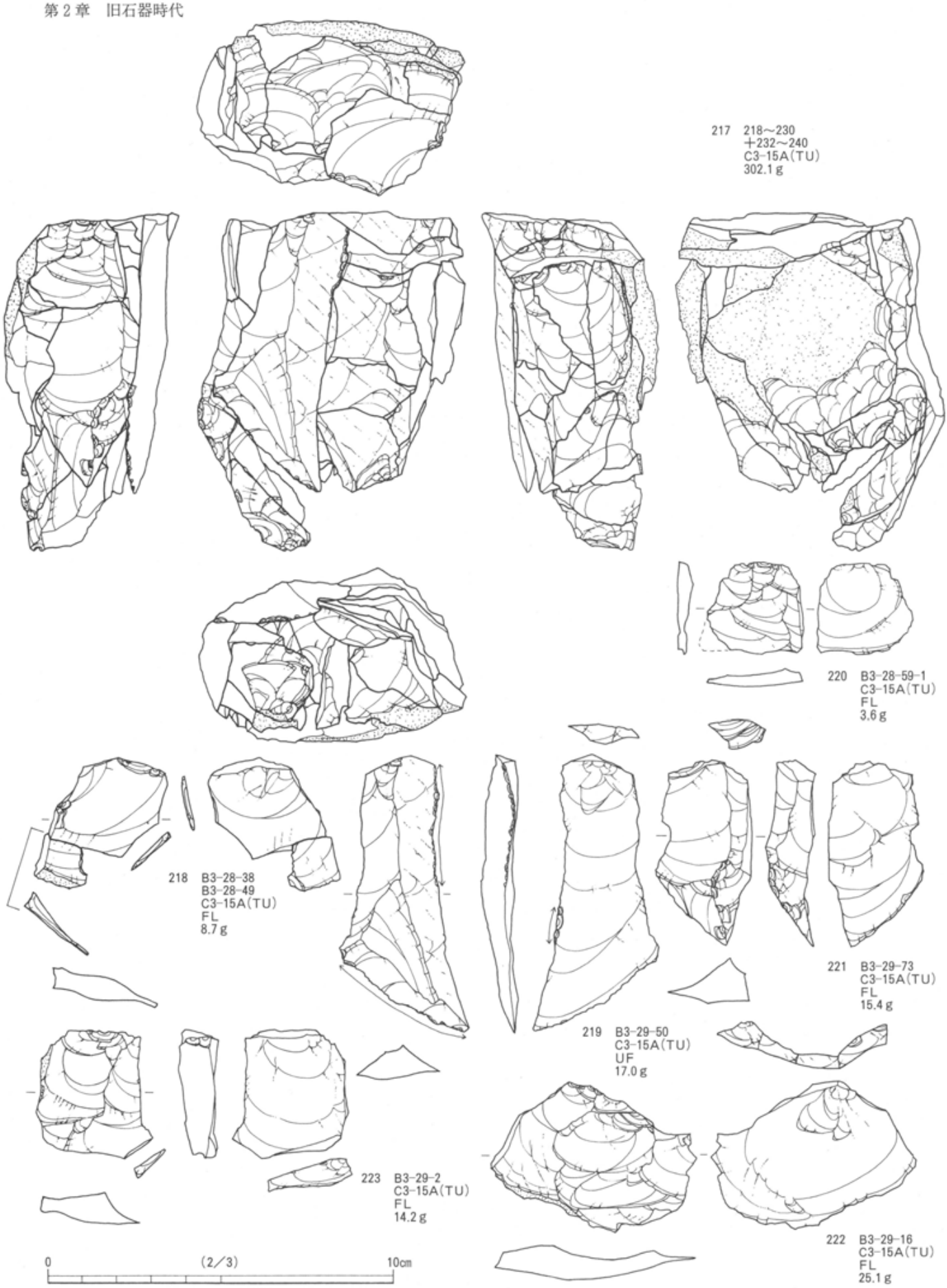
・**C3-112（第85図）**　黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。剥片40点で構成される。接合資料は，４グループある。A（265）は剥片７点（266～272）の接合資料である。裏面方向からの266を除いて，267～272を上方向から剥離している。打面再生あるいは打面調整に関係する剥片であろうか。

・**C3-107（第86図273～276）**　黒褐色（7.5YR3/1）の北関東産頁岩である。剥片８点で構成される。273は剥片３点（274～276）の接合資料である。上方向から274→276の順に剥離している。打面調整に関係する剥片と思われる。

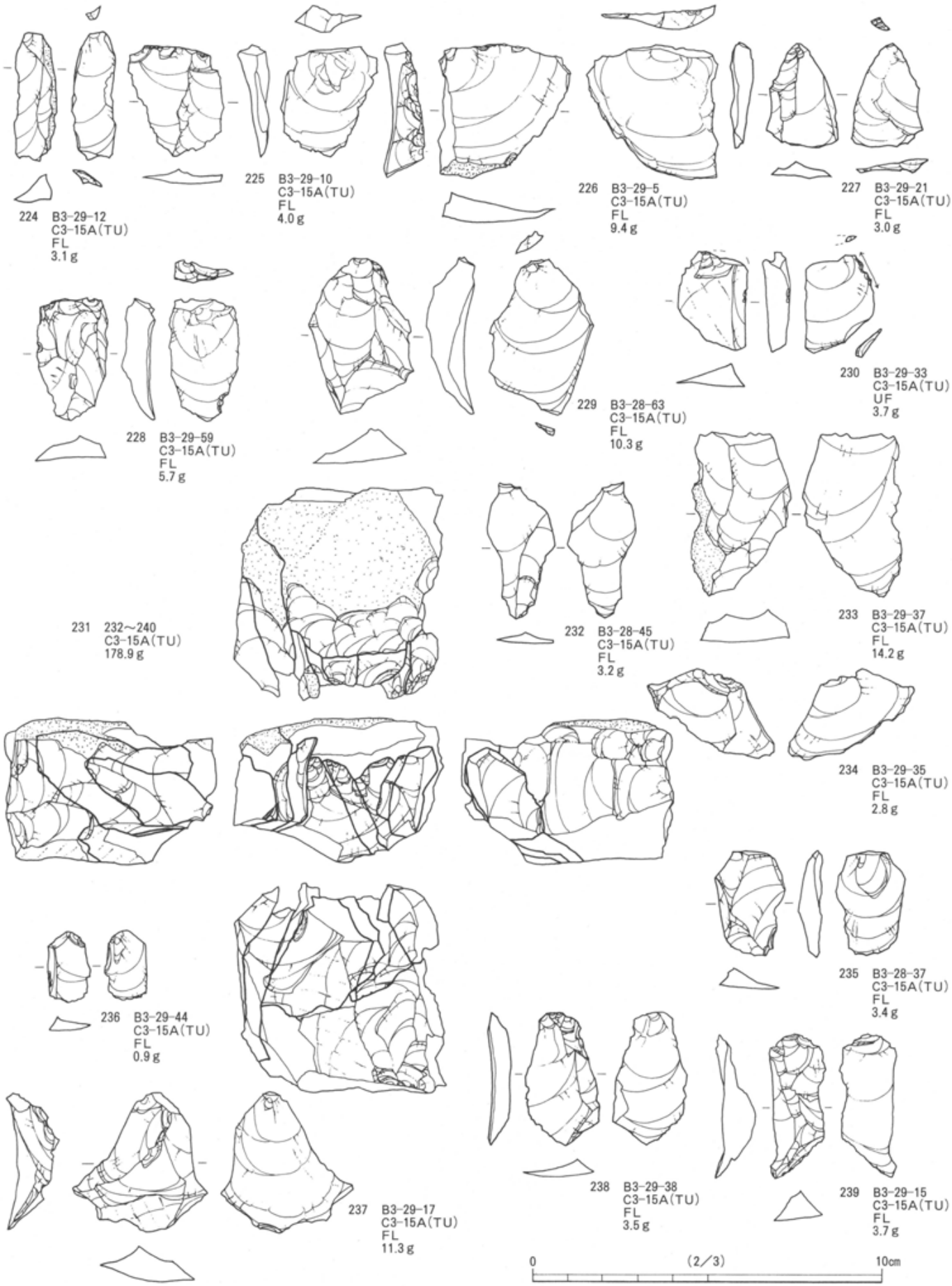
・**C3-101（第86図277～279）**　黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片１点，剥片



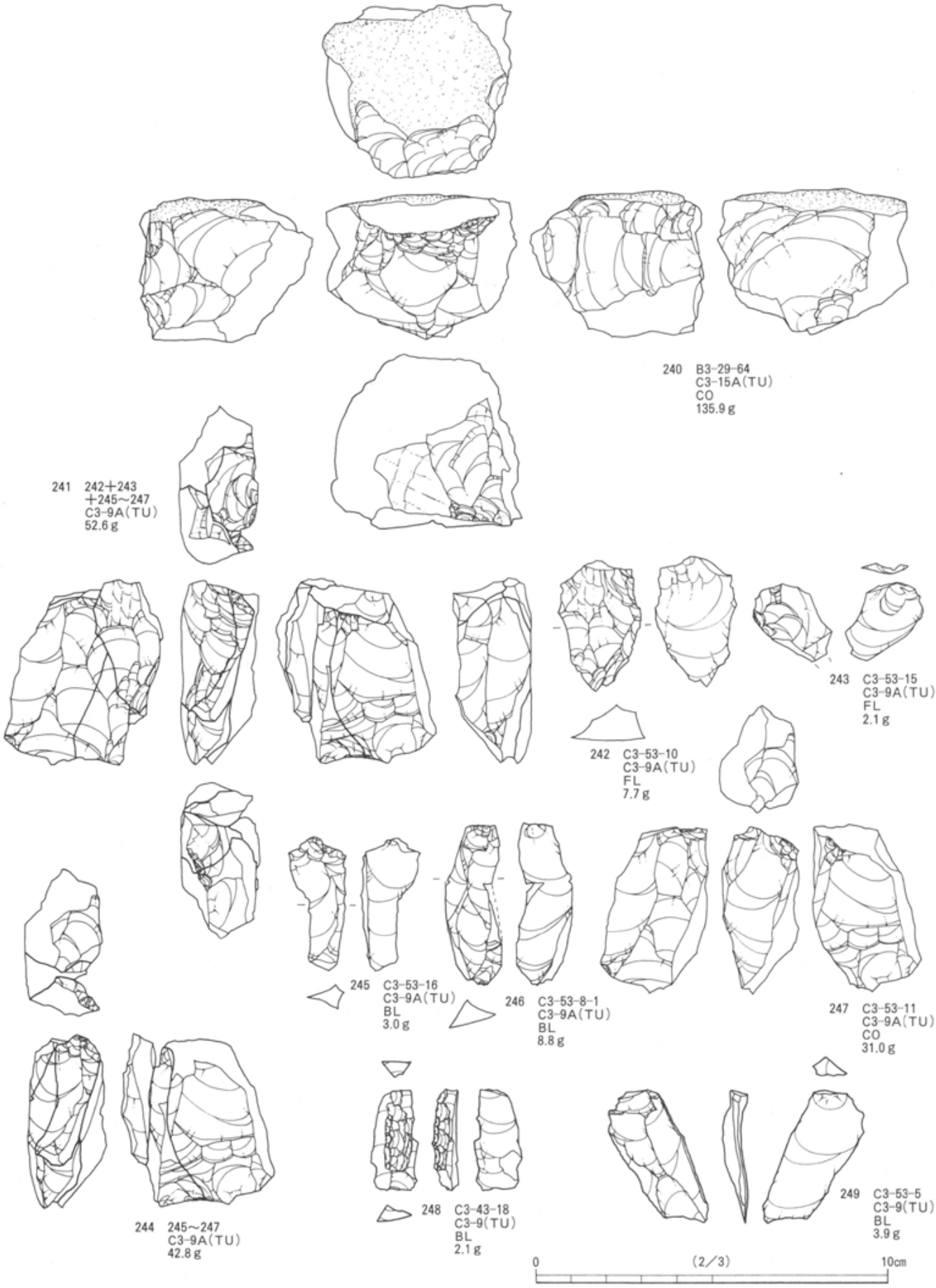
第78図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（25）



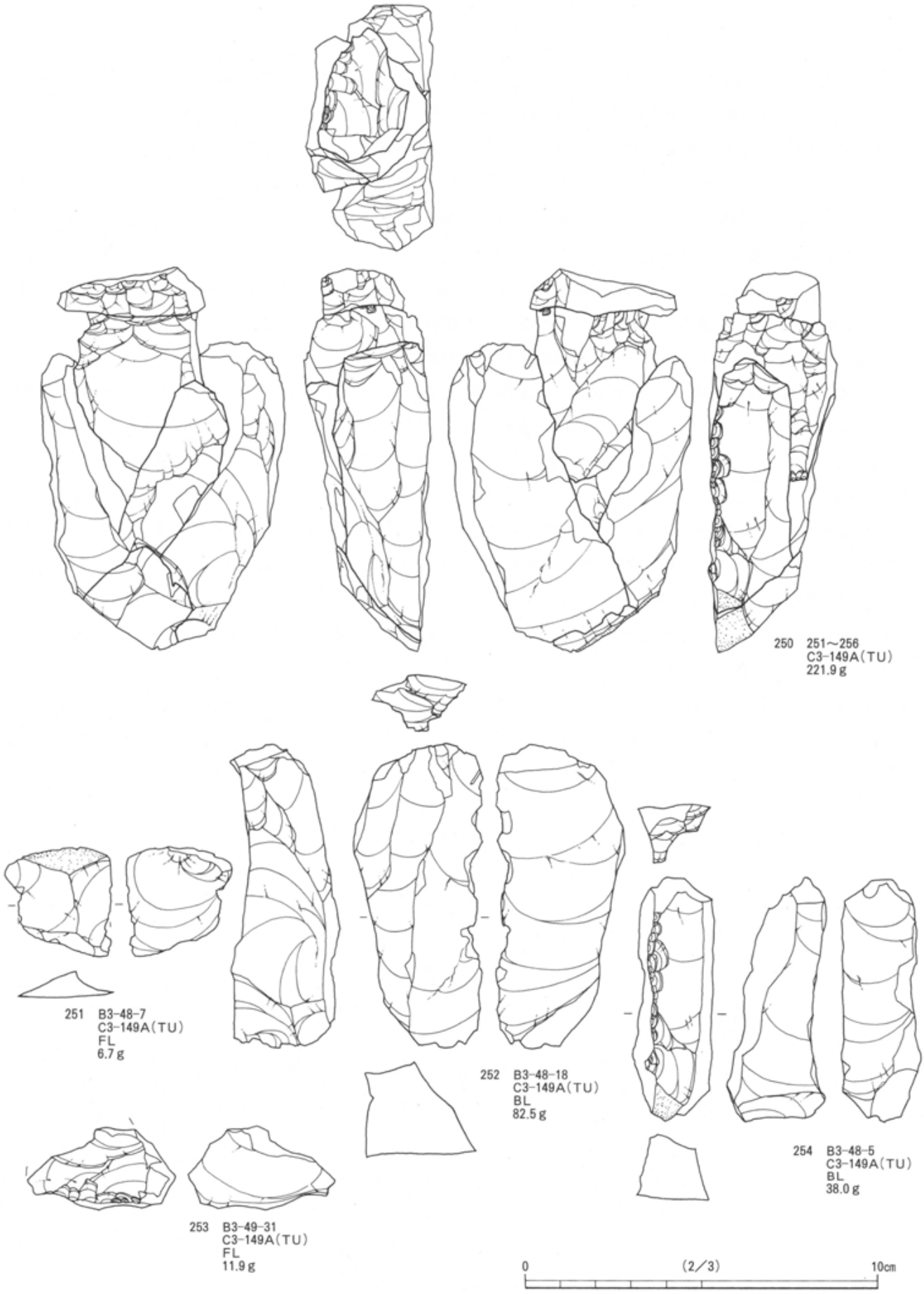
第79図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（26）



第80図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（27）



第81図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（28）



第82図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（29）

14点の合計15点で構成される。接合資料は，３グループある。B（277）は使用痕ある剥片１点（279），剥片１点（278）の接合資料である。279は末端に刃こぼれが見られる。

・C3-103（第86図280～283）　暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃１点，剥片２点の合計３点で構成される。280は石刃１点（283），剥片２点（281・282）の接合資料である。上方向から281→283の順に石刃や剥片を剥離している。283は稜付き石刃である。

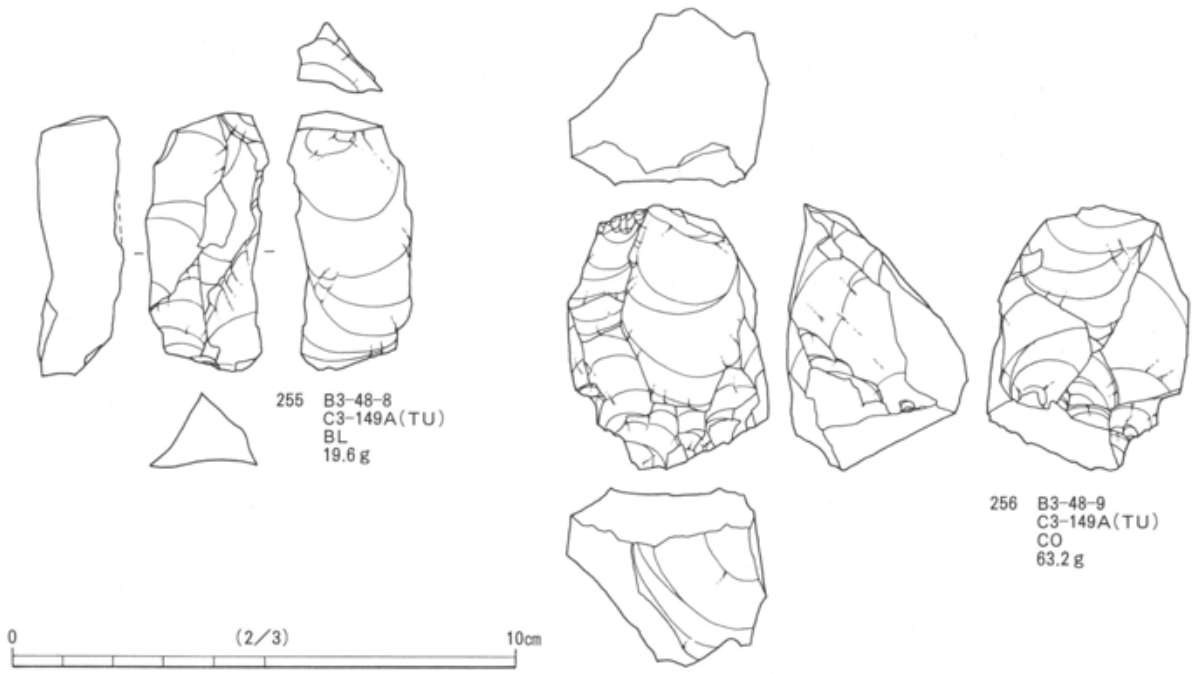
・C3-100（第87図）　暗赤灰色（2.5YR3/1）の北関東産頁岩である。石刃２点，剥片５点の合計７点で構成される。284は石刃１点（285），剥片２点（286・287）の接合資料である。285・286→287の順に石刃や石刃状の縦長剥片を剥離している。285の裏面の左側縁に刃こぼれが見られる。288・289は接合しなかった同一母岩の剥片である。288の微細な剥離痕は，偶発的なものと思われる。

・C3-99（第88図）　褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。剥片16点，砕片３点の合計19点で構成される。290は剥片５点（291～295）の接合資料である。291→292を剥離後，90度ほど方向を変えて293を剥離し，その後，さらに45度ほど方向を変えて，294→295を剥離している。296・297は接合しなかった同一母岩の剥片である。

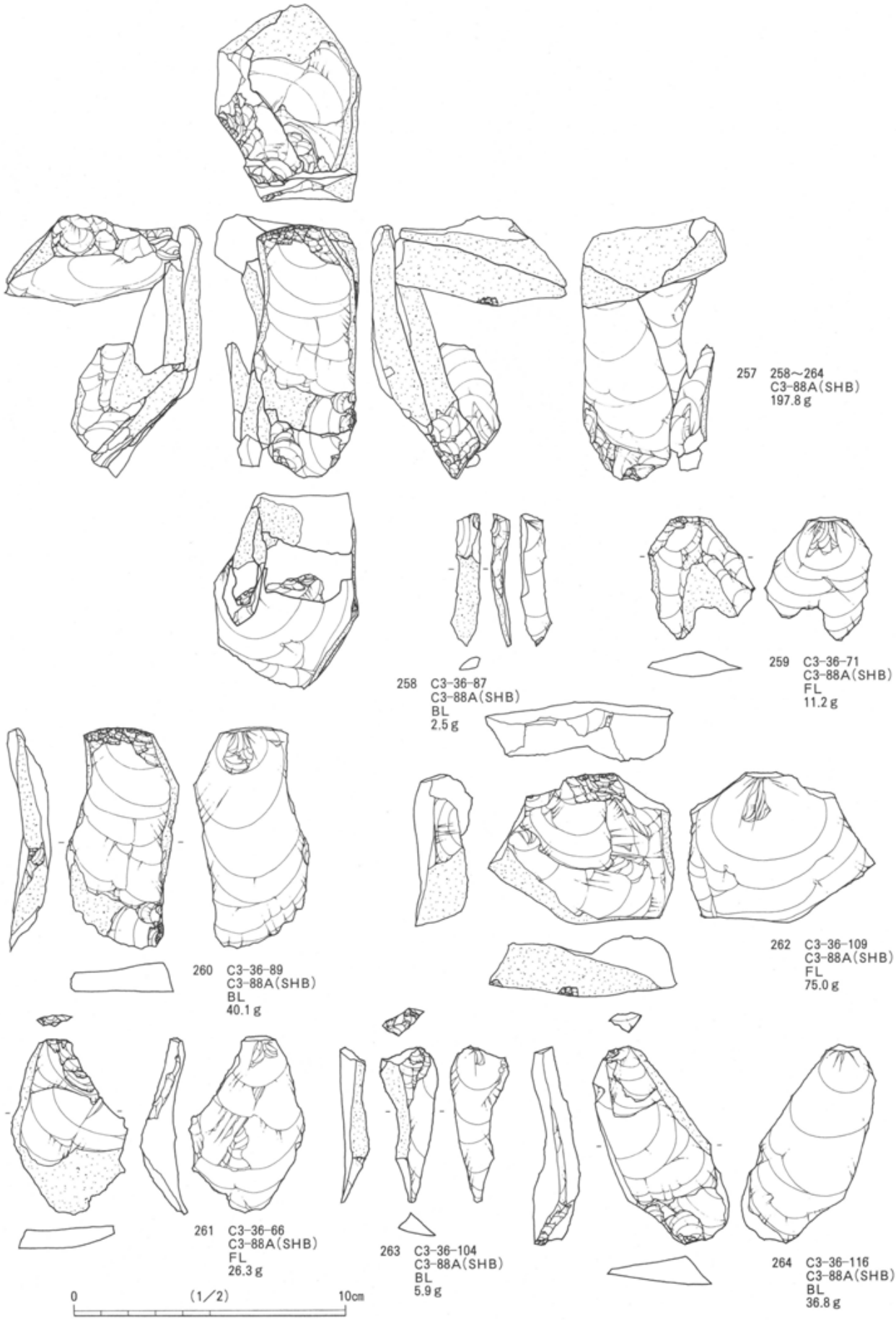
・C3-150（第89図）　灰色（5Y5/1）の頁岩である。石刃１点，剥片８点の合計９点で構成される。298は剥片２点（299・300）の接合資料で，打面再生剥片と考えられる。301は接合しなかった同一母岩の稜付き石刃である。

・C3-151（第90図302～304）　灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩である。石刃２点で構成される。302は石刃２点（303・304）の接合資料である。

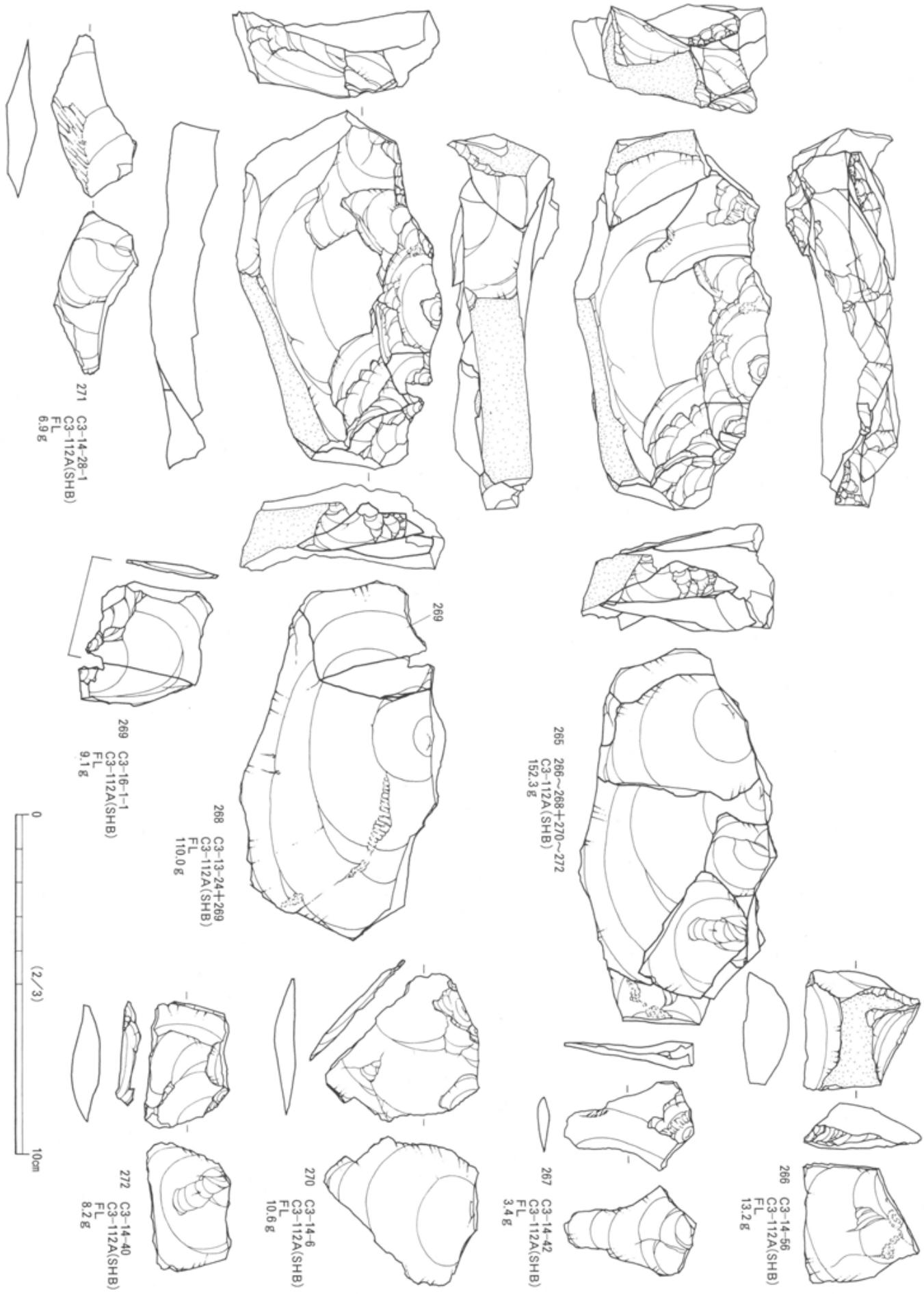
・C3-94（第90図305～309）　褐色（7.5YR4/3）などの北関東産頁岩である。石刃３点で構成される。305は石刃３点（306・308・309），D3-Aブロックの石刃１点（307）の接合資料である。上方向から306→309



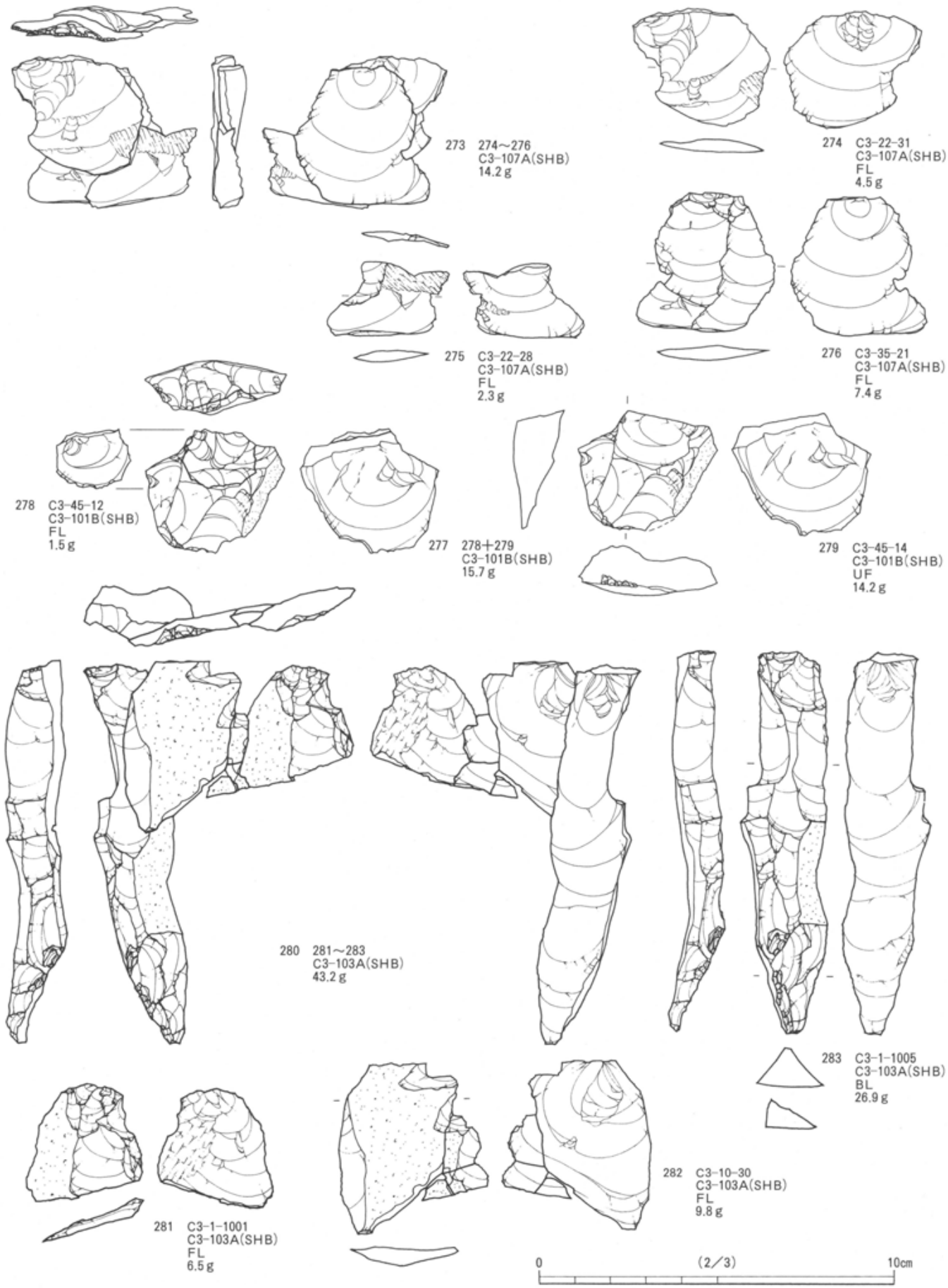
第83図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（30）



第84図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（31）



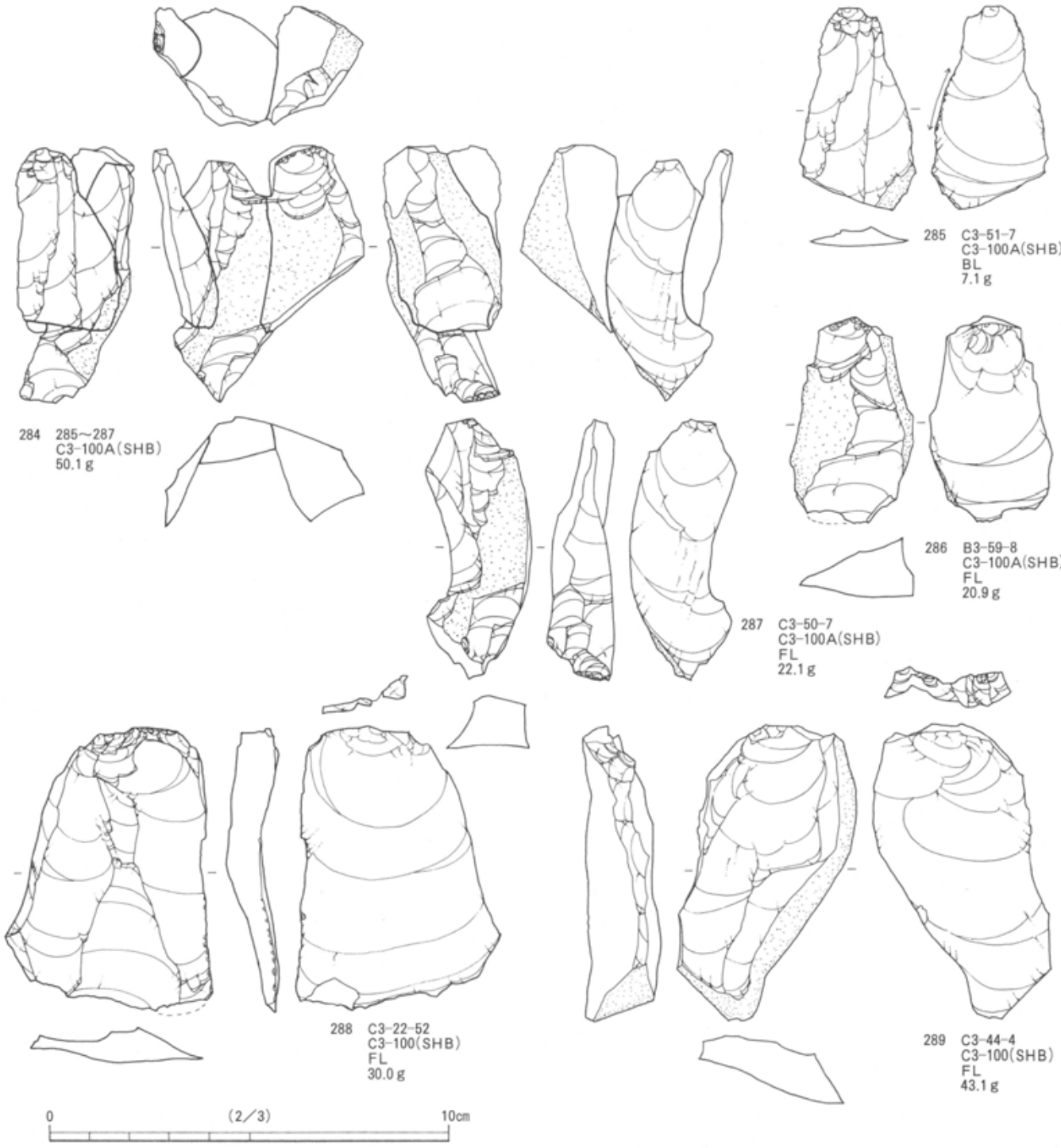
第85図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（32）



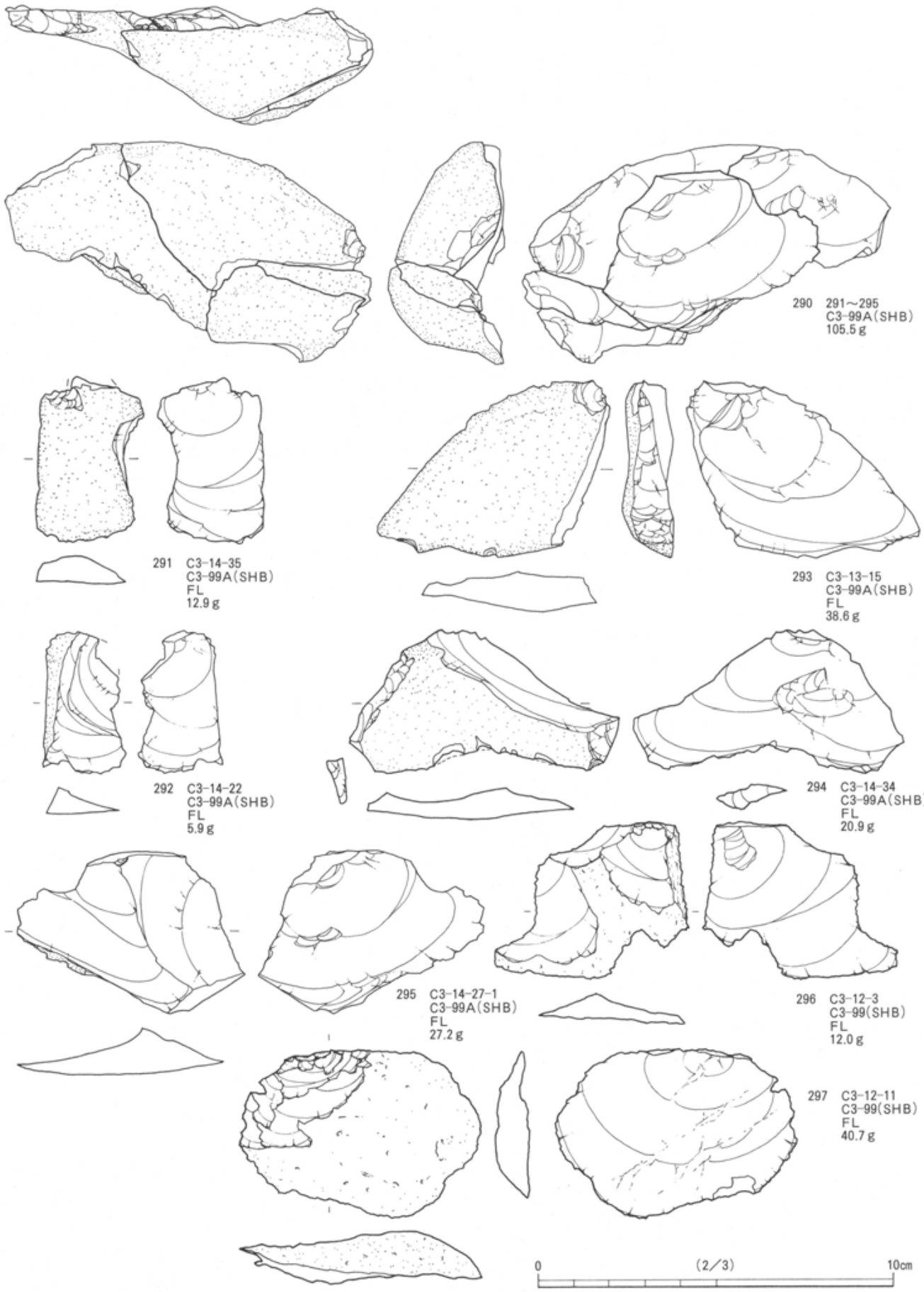
第86図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（33）

の順に石刃を剥離している。

・C3-111（第90図310～312）　褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点，石刃１点の合計２点で構成される。310はナイフ形石器１点（312），石刃１点（311）の接合資料である。両設打面の石核から剥離されている。310は石刃の打面側を基部として，基部及び左側縁先端部に細かい調整加工を行った基部加工あるいは二側縁加工のナイフ形石器である。



第87図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（34）

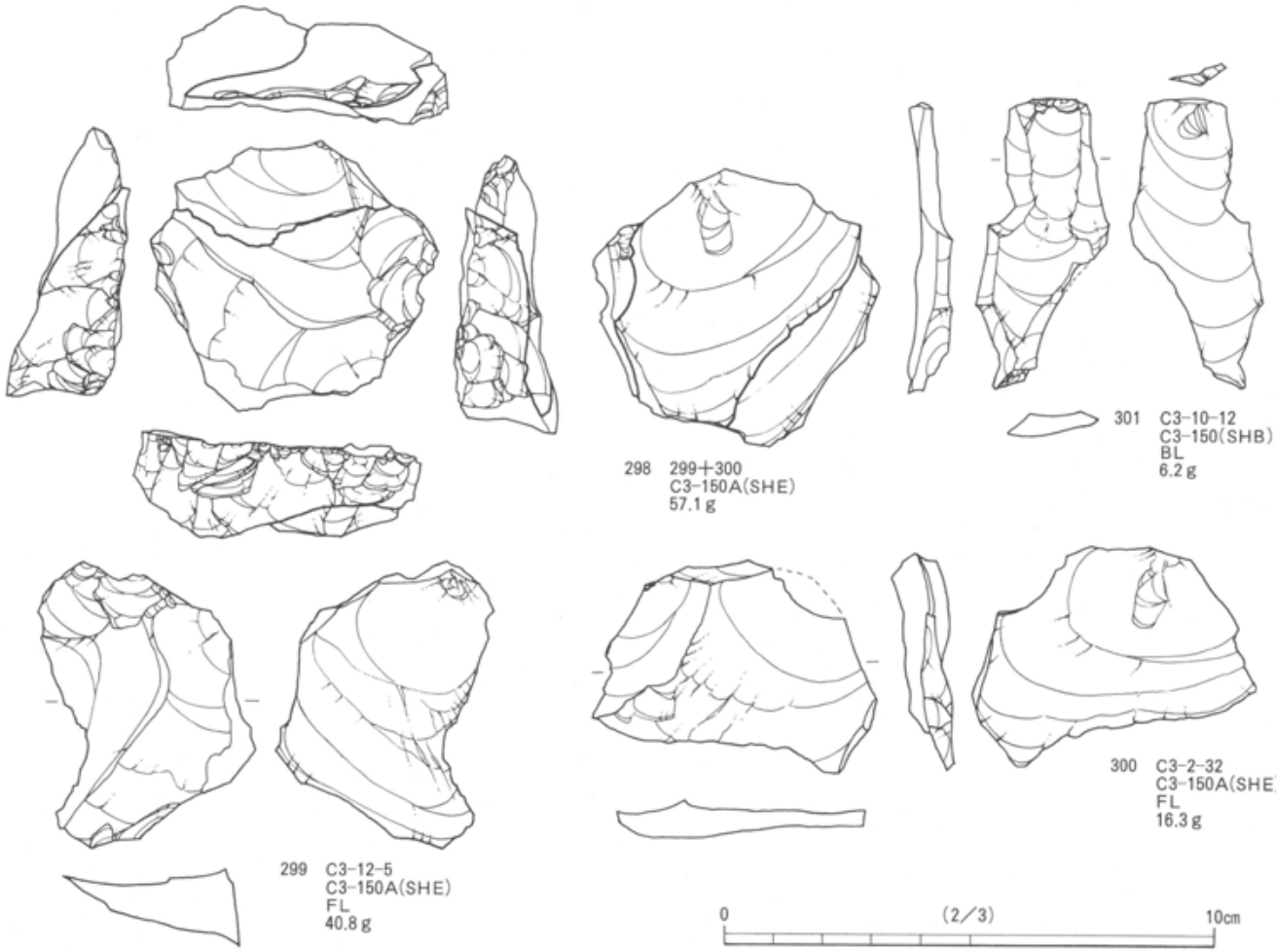


第88図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（35）

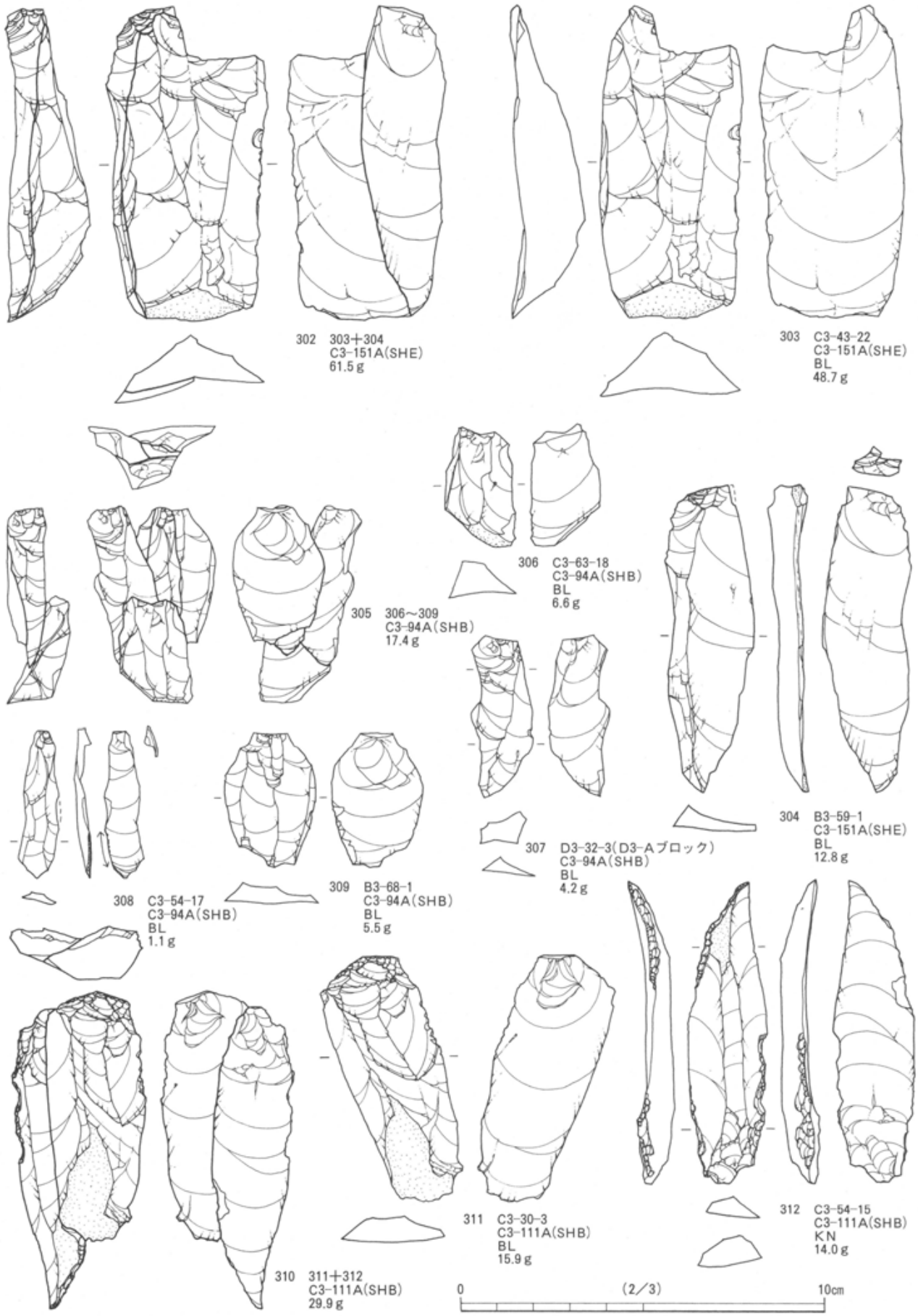
・C3-97（第91図313～322）　褐灰色（10YR4/1）などの硬質緻密な頁岩である。石刃19点（16個体），剥片３点の合計22点（19個体）で構成される。313は石刃12点（９個体；314～322）の接合資料である。314→322の順に，316を除いてすべて上方向から剥離している。

・C3-116（第91図323～325）　褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃２点で構成される。323は石刃２点（324・325）の接合資料である。

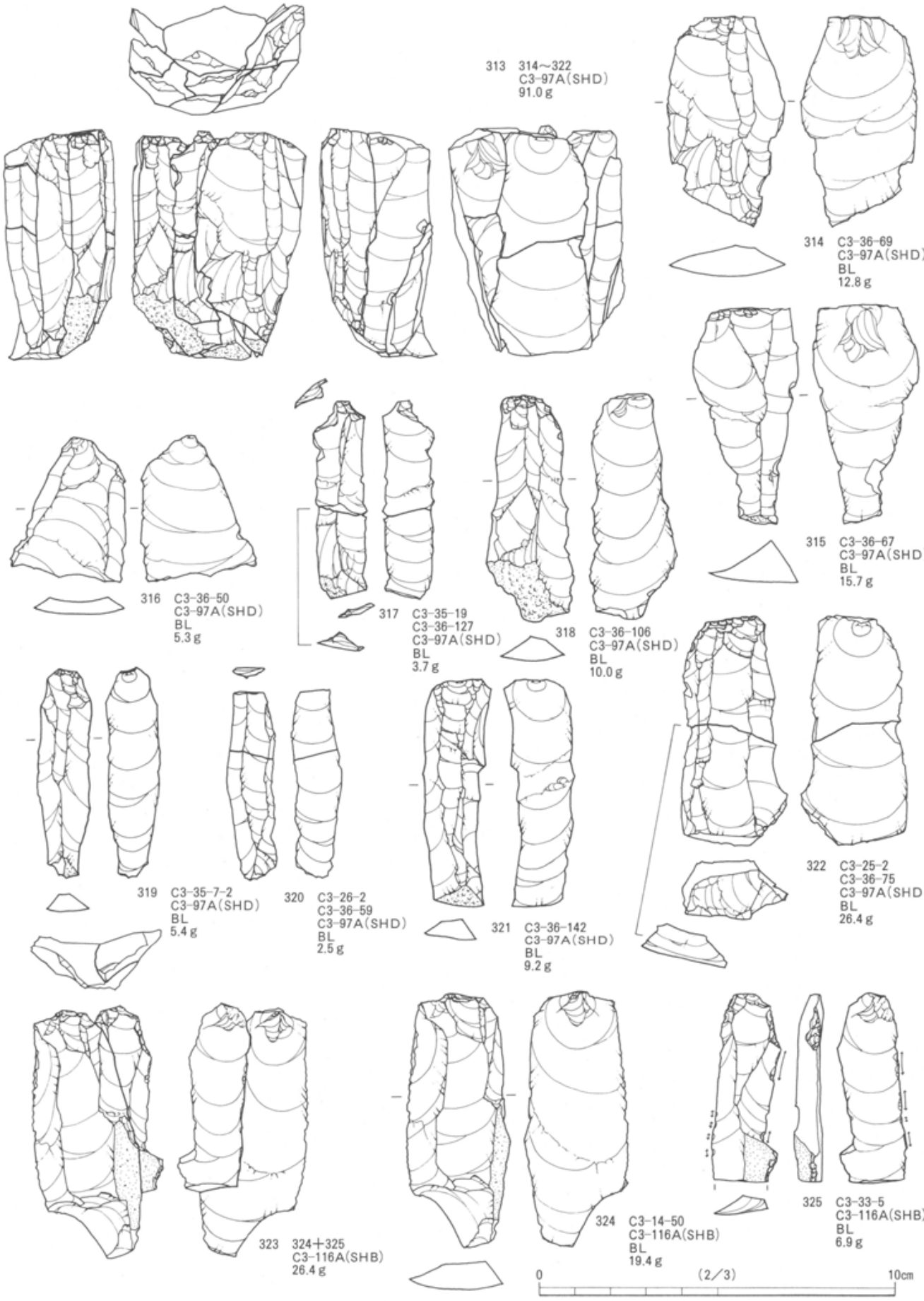
・C3-84（第92図，第93図）　灰黄褐色（10YR5/2）などの北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点，石刃10点（８個体），剥片34点（31個体）の合計45点（40個体）で構成される。接合資料は，３グループある。A（326）は石刃５点（４個体；333～336），剥片11点（９個体；327～332・337～339）の接合資料である。裏面側から327～330，表面側から331・332を剥離して打面再生を行い，上方向から333→336の順に石刃を剥離した後，表面側から337・338，裏面側から339を剥離して打面再生を行っている。335の右側縁に刃こぼれが見られる。B（340）は石刃２点（１個体；347），剥片８点（７個体；341～346）の接合資料である。341～343は概ね右方向から左方向にかけて，344～346は左方向から右方向にかけて，稜形成のためと考えられる石核の側面調整を行い，上方向から347を剥離している。C（348）は石刃３点（349～351）の接合資料である。352は接合しなかった同一母岩のナイフ形石器である。石刃の打面側を基部とし



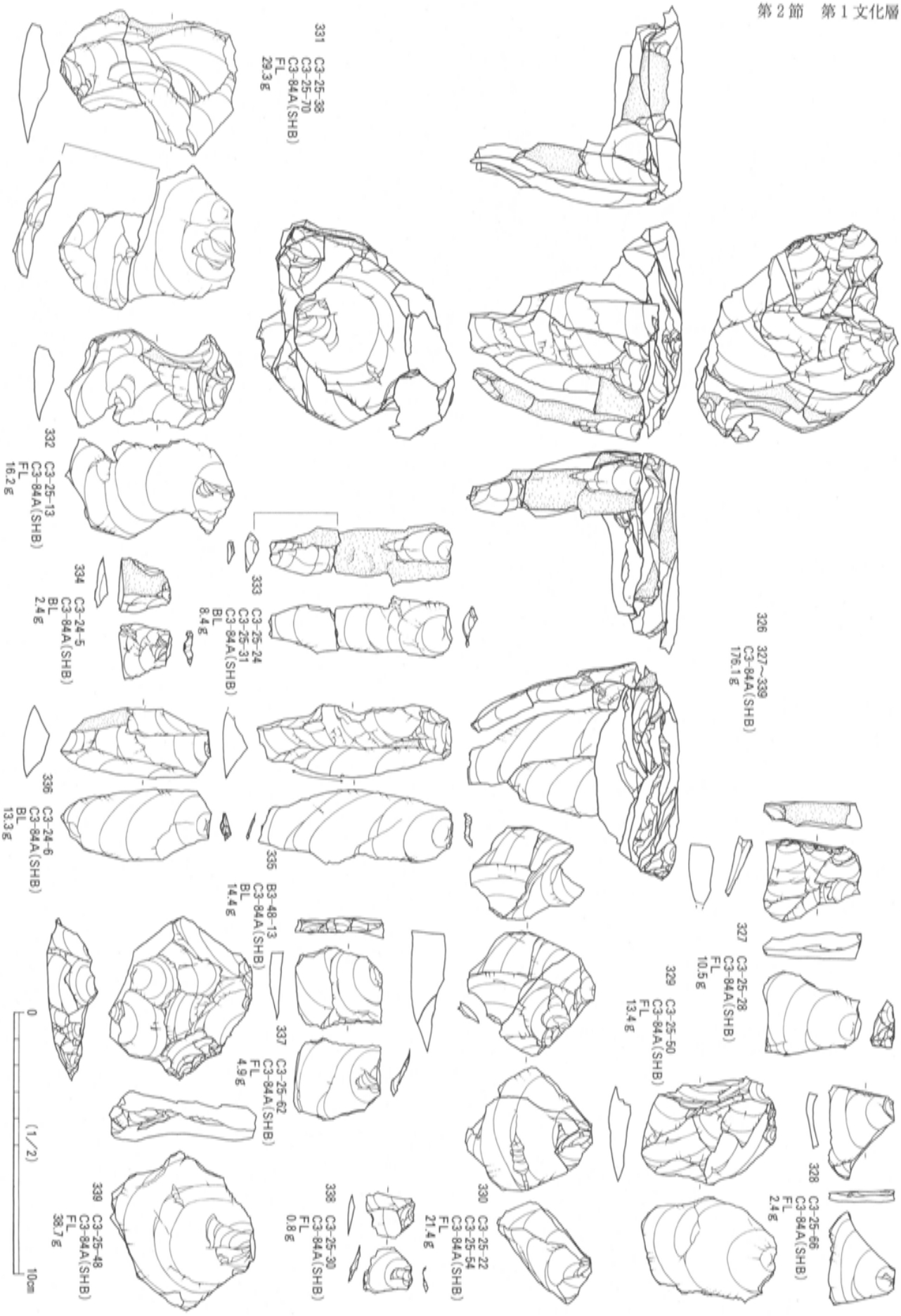
第89図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（36）



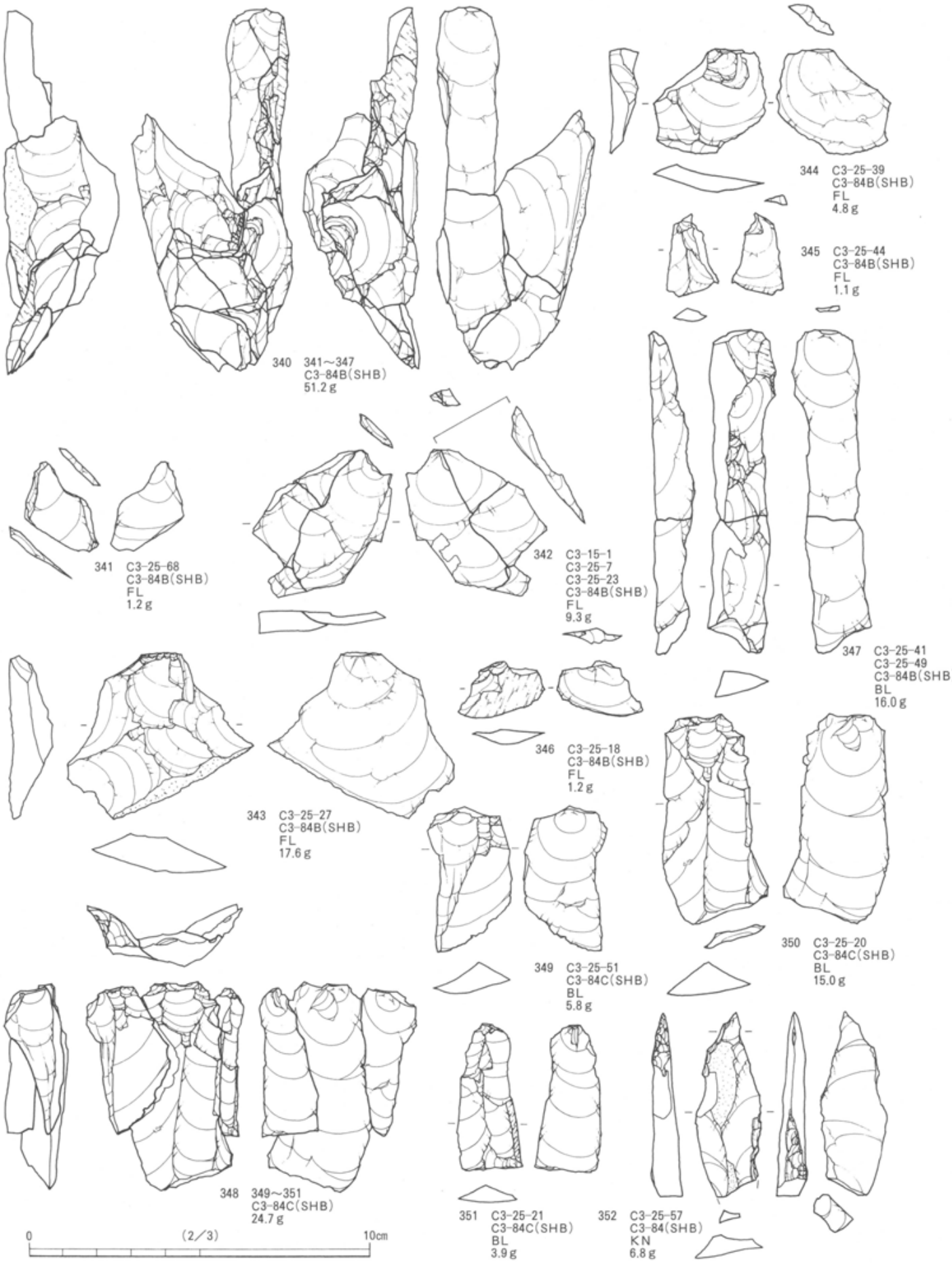
第90図　C3－Aブロック出土遺物（37）



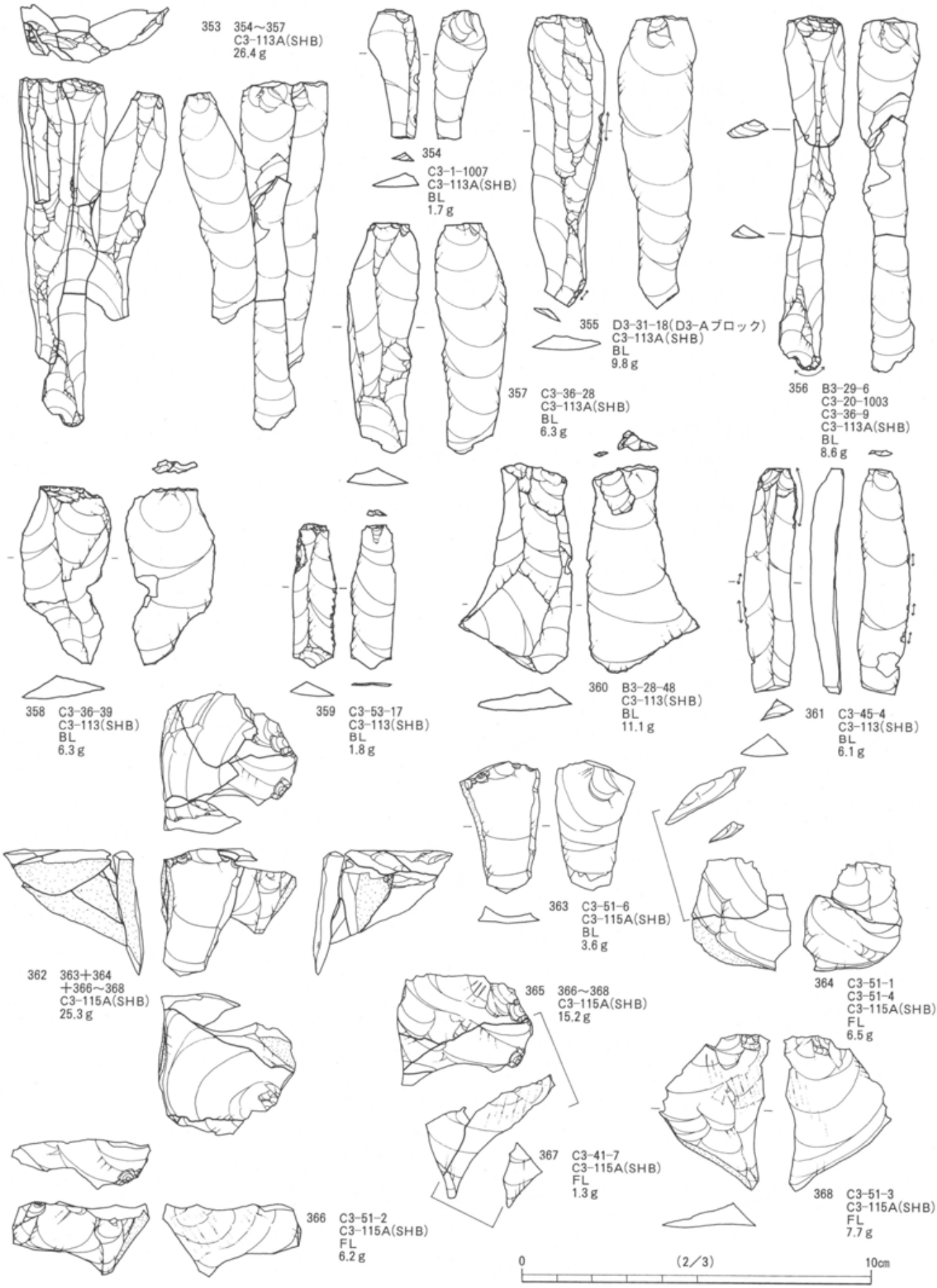
第91図　C３－Aブロック出土遺物（38）



第92図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（39）



第93図　C３－Aブロック出土遺物（40）

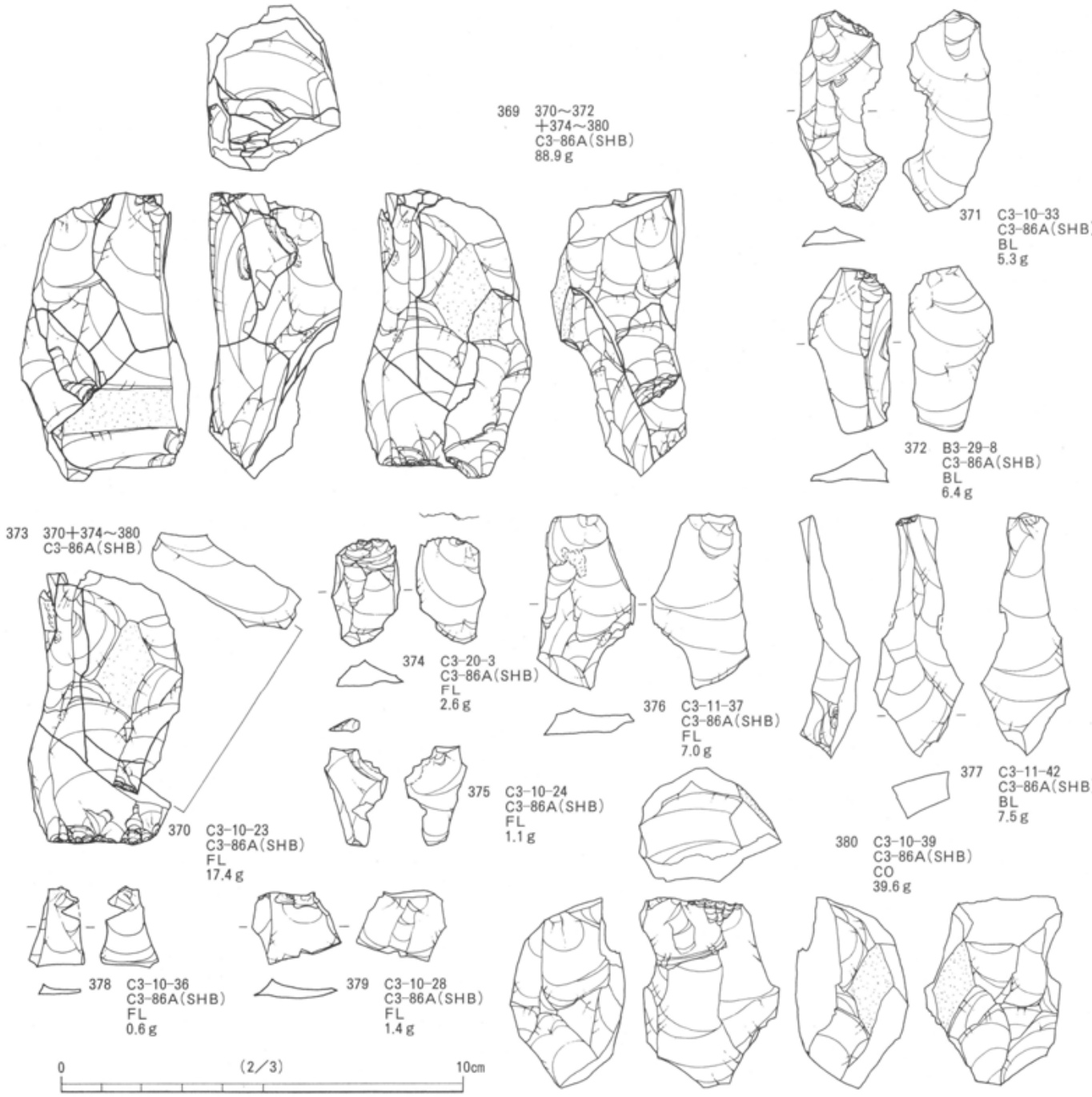


第94図　C３－Aブロック出土遺物（41）

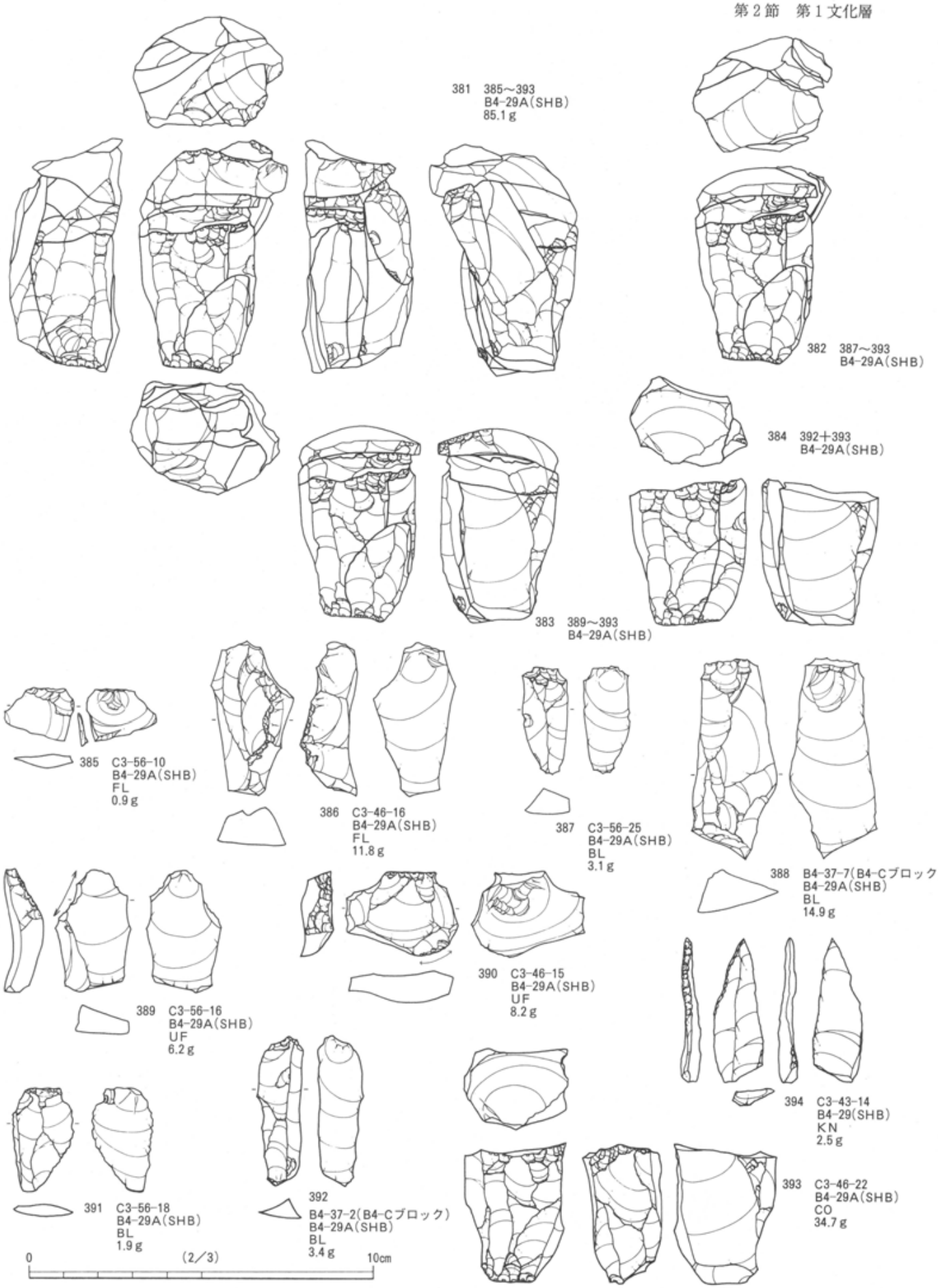
て，右側縁下部及び左側縁先端部に細かい調整加工を行った部分加工のナイフ形石器である。

・C3-113（第94図353～361）　暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃10点（８個体）で構成される。353は石刃５点（３個体；354・356・357），D3-Aブロックの石刃１点（355）の接合資料である。上方向から354→357の順に石刃を剥離している。355の右側縁，356の末端に刃こぼれが見られる。358～361は接合しなかった同一母岩の石刃である。359・361の両側縁に刃こぼれが見られる。

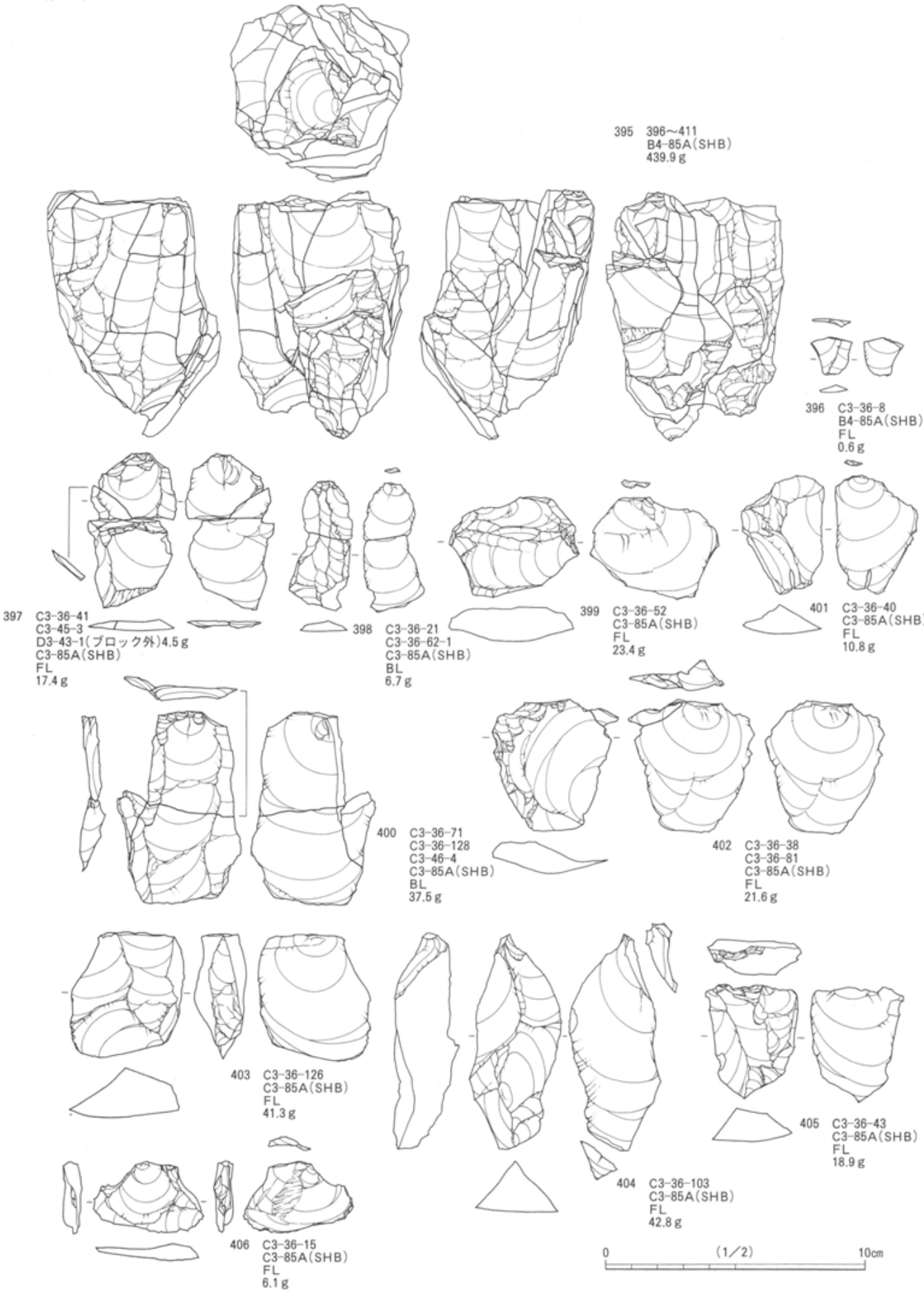
・C3-115（第94図362～368）　黒褐色（5YR3/1）などの北関東産頁岩である。石刃１点，剥片６点（５個体）の合計７点（６個体）で構成される。362は石刃１点（363），剥片５点（４個体；364・366・367・



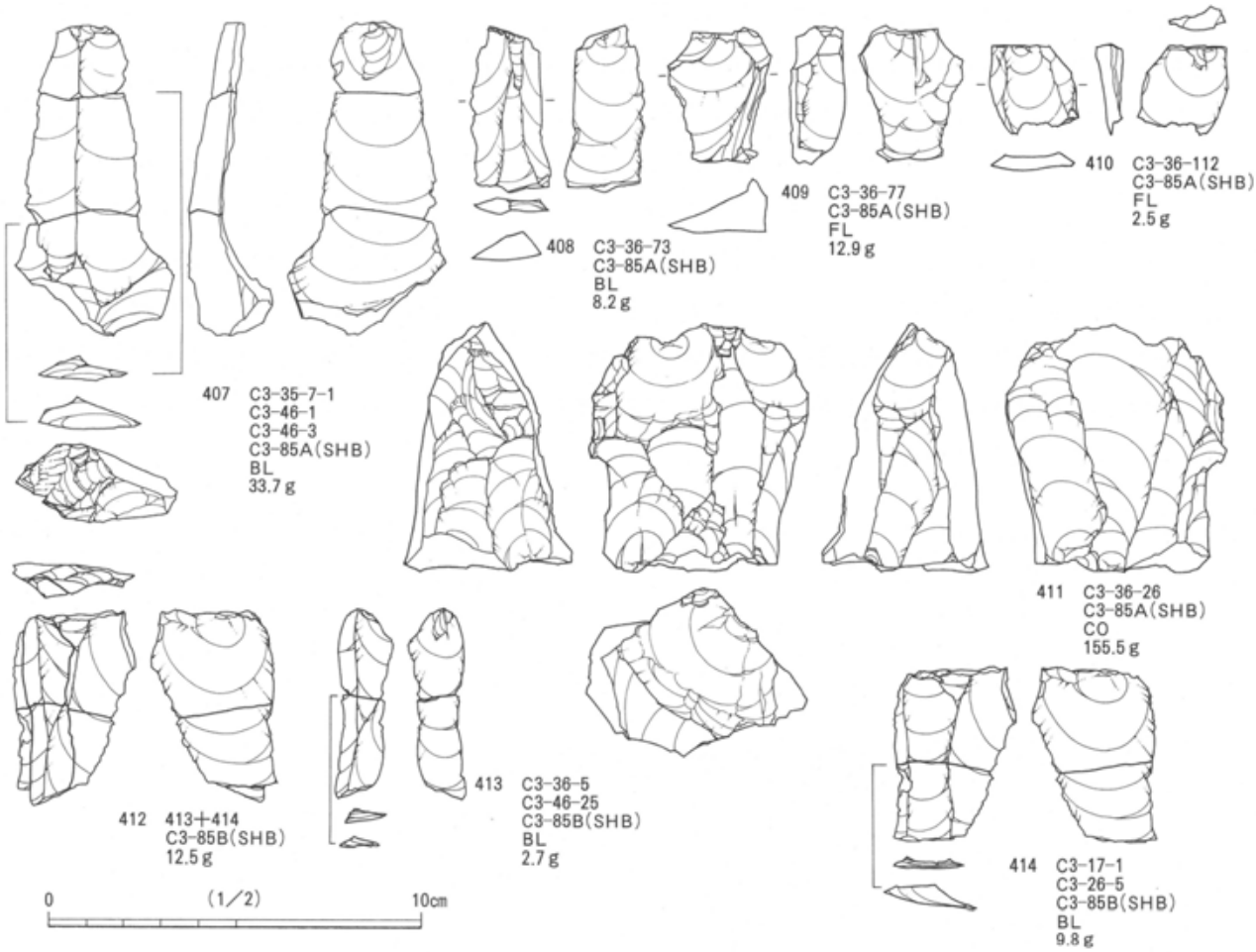
第95図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（42）



第96図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（43）



第97図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（44）



第98図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（45）

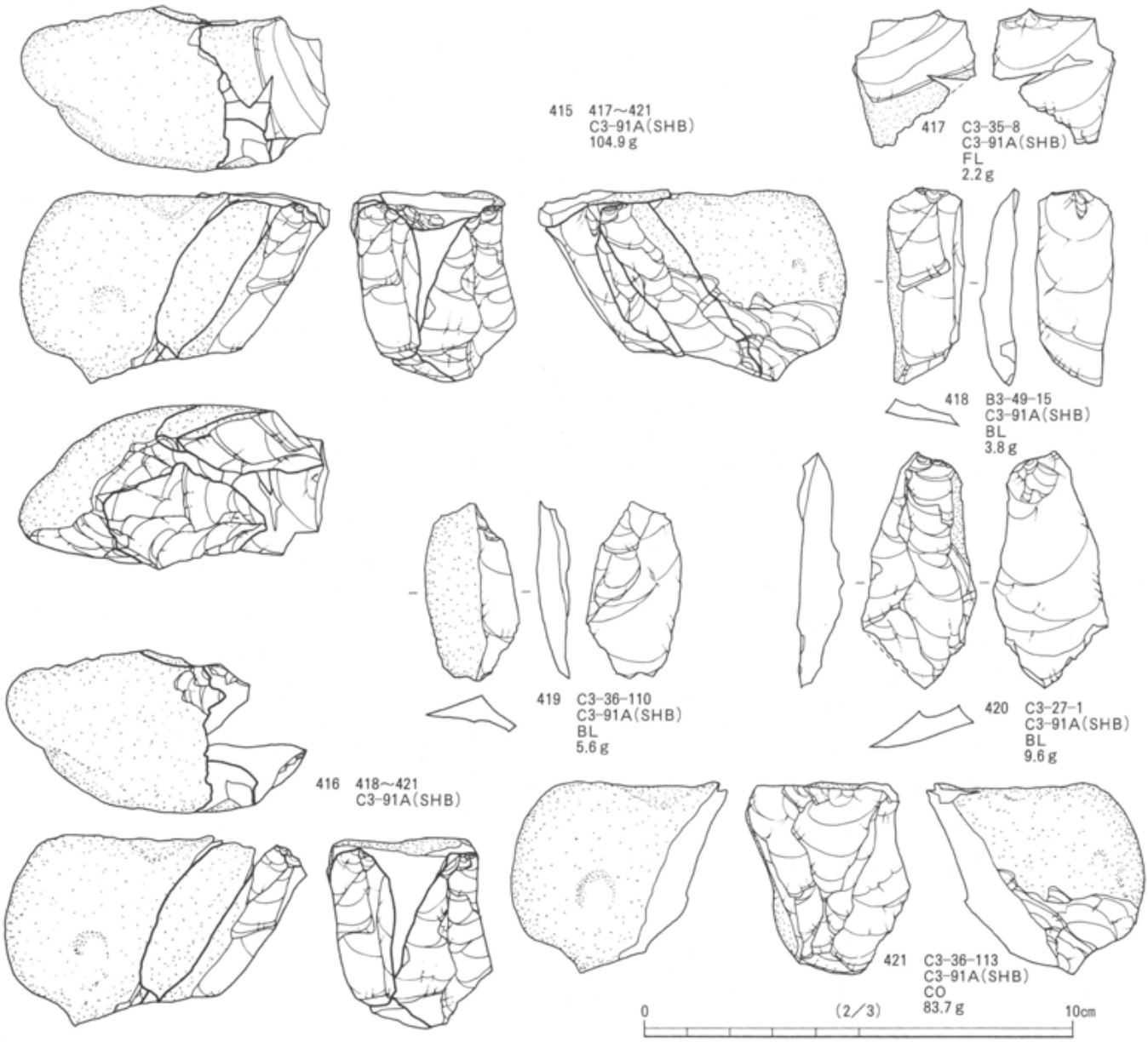
368）の接合資料である。上方向から362→右方向から364→上方向から366→367→右方向から368を剥離している。364・368については打面調整に関係する剥片と思われるが，366・367については性格は不明である。

・C3-86（第95図）　褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃４点，剥片７点，石核１点の合計12点で構成される。369は石刃３点（371・372・377），剥片６点（370，374～376・378・379），石核１点（380）の接合資料である。両設打面の石核の下方向から371を剥離後，打面を180度転移し，372・373を剥離している。これらは２個体としたが，石核の底面をもついわゆる「し」の字状剥片の１個体と考えた方が良いかもしれない。その後も，作業面長の減じた石核の下方向から374，上方向から375～379を剥離しているが，377の剥離により，さらに石核の作業面長は減じている。頭部調整が顕著である。

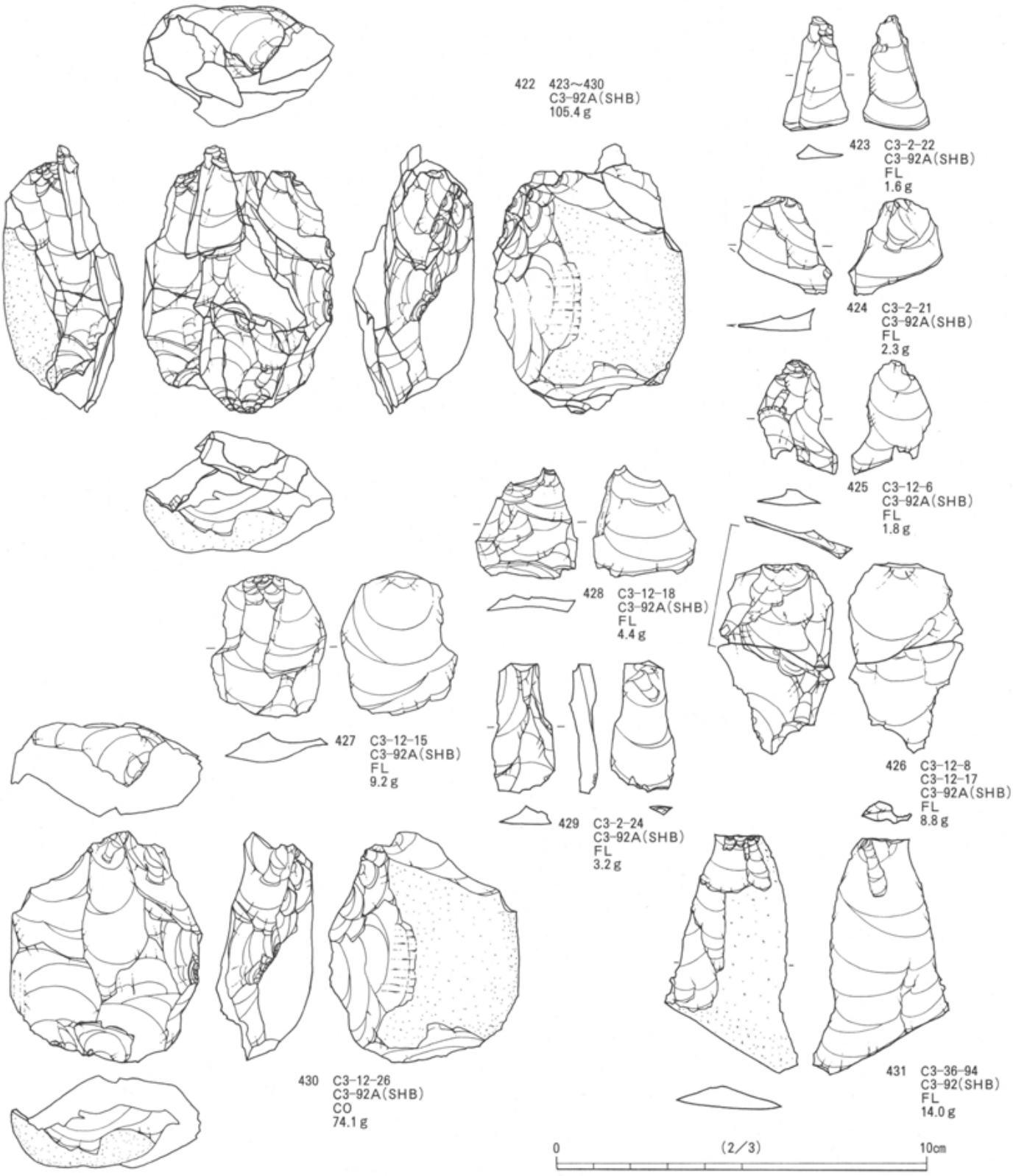
・B4-29（第96図）　暗赤灰色（5R3/1）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片２点，石刃２点，剥片６点（５個体），石核１点の合計12点（11個体）で構成される。接合資料は，２グループある。Ａ（381）は使用痕ある剥片２点（389・390），石刃２点（387・391），剥片２点（385・386），石核１点（393），B4-Ｃブロックの石刃２点（388・392）の接合資料である。385・386を剥離して打面調整・再生を行い，上方向から387→388の順に石刃を剥離した後，左方向から389・390を剥離して打面再生を行い，180度打面を転移して，391→392の順に石刃を剥離している。頭部調整が顕著である。394は接合しなかった同一母岩のナイフ形石器である。石刃の打面側を基部として，右側縁下部及び左側縁先端部に細か

い調整加工を行った部分加工のナイフ形石器である。

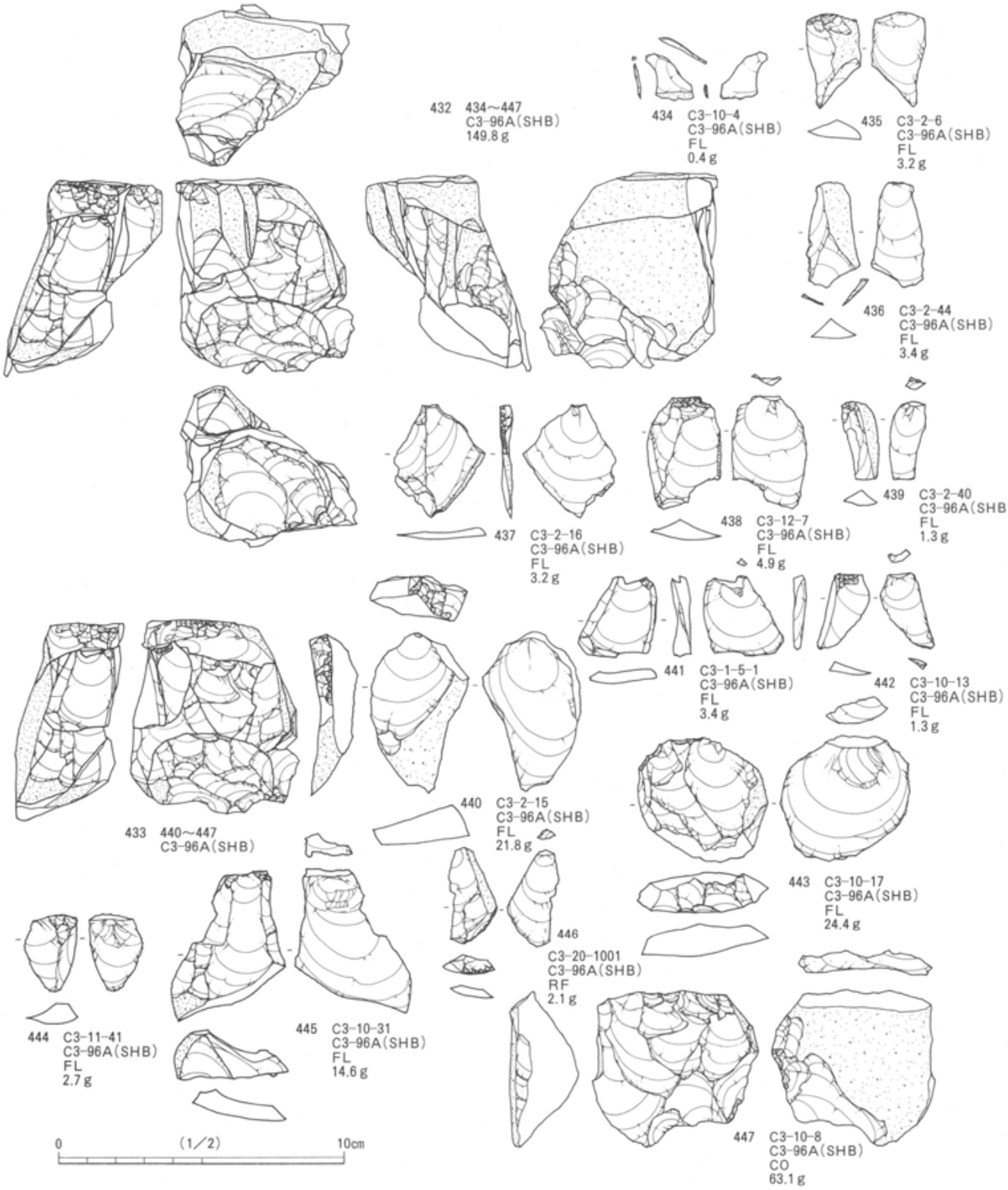
・C3-85（第97図，第98図）　暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃16点（８個体），剥片37点（35個体），石核１点の合計54点（44個体）で構成される。接合資料は，３グループある。A（395）は石刃９点（４個体；398・400・407・408），剥片13点（11個体；396・397・399・401～406・409・410），石核１点（411），ブロック外（D3-43グリッド）の剥片１点（397）の接合資料である。裏面側の上方向から396→397，90度打面を転移して398→399，裏面側の上方向から400，90度打面を転移して401→402，表面側から裏面側（D3-43グリッド）にかけて上方向から403→404→405を剥離した後，406を剥離して打面調整を行い，表面側から裏面側にかけて上方向から407→408・409の順に石刃や石刃状の縦長剥片を剥離し，180度打面を転移して410を剥離している。頭部調整が顕著である。B（412）は石刃４点（２個体；413・414）の接合資料である。



第99図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（46）



第100図　C３－Aブロック出土遺物（47）

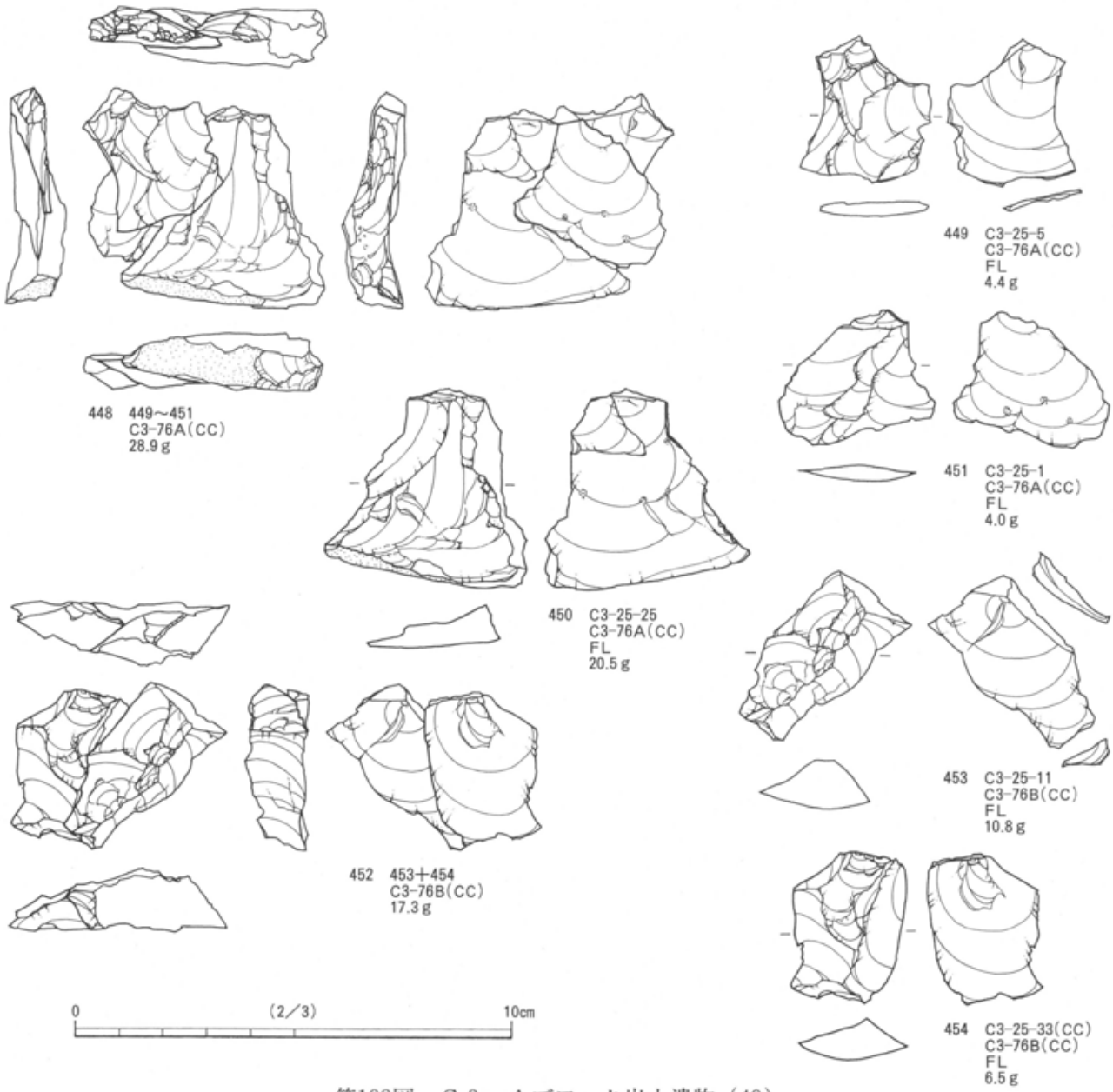


第101図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（48）

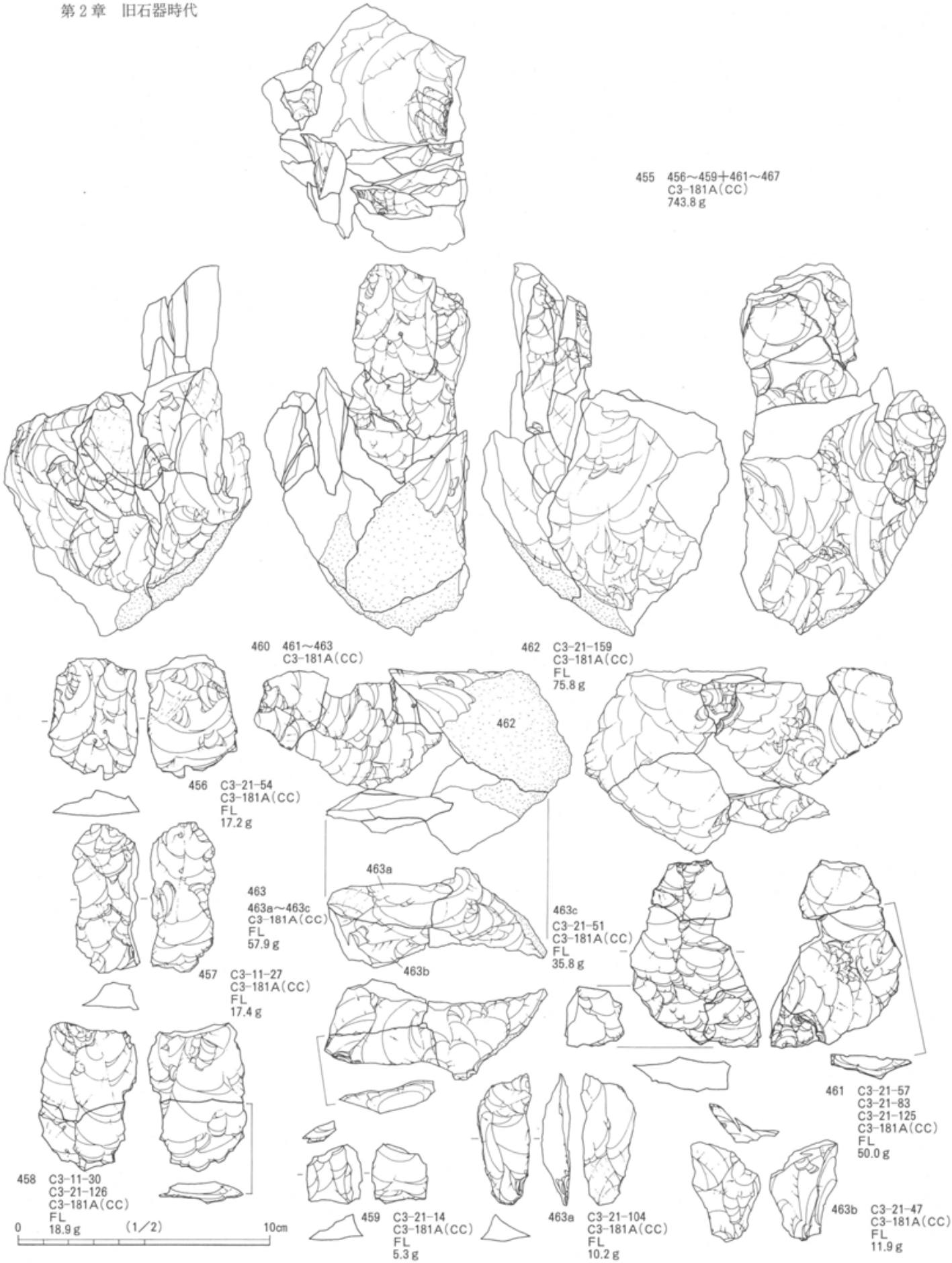
・**C3-91（第99図）**　暗灰黄色（2.5Y4/2）の北関東産頁岩である。石刃３点，剥片４点，石核１点の合計８点で構成される。415は石刃３点（418～420），剥片１点（417），石核１点（421）の接合資料である。礫を素材として，417を剥離して打面を作出し，418～420の順に石刃を剥離している。頭部調整が顕著である。

・**C3-92（第100図）**　赤灰色（2.5YR4/1）などの北関東産頁岩である。剥片９点（８個体），石核１点の合計10点（９個体）で構成される。422は剥片８点（７個体；423～429），石核１点（430）の接合資料である。上方向から423，424を剥離し，180度打面転移して425→426，180度打面転移して427，180度打面転移して428，180度打面転移して429を剥離している。本母岩は，頻繁に打面を180度転移して，石刃状の縦長剥片や寸詰まりの剥片など各種剥片を生産している。431は接合しなかった同一母岩の剥片である。

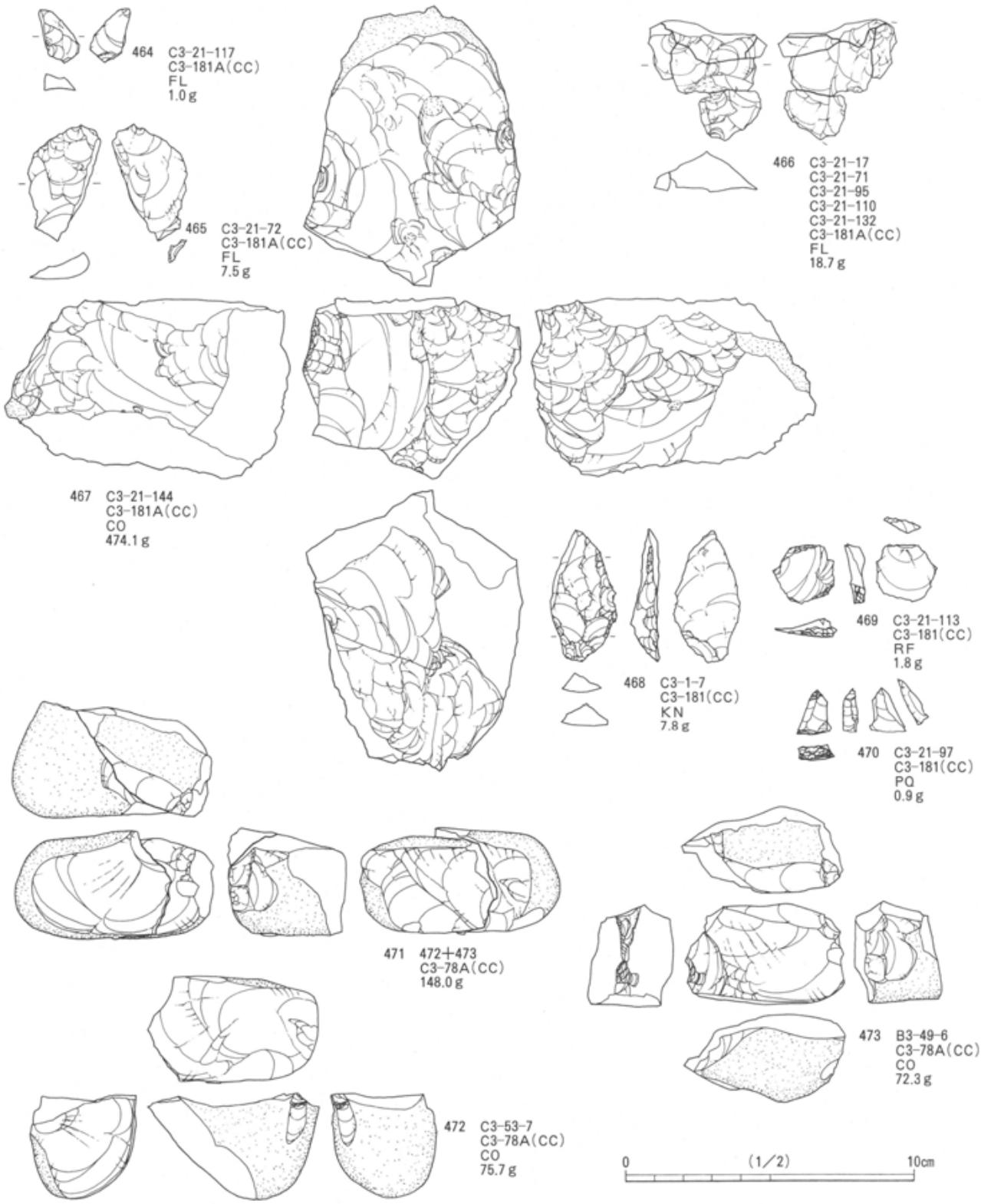
・**C3-96（第101図）**　黄褐色（2.5Y5/3）の北関東産頁岩である。加工痕ある剥片１点，剥片19点，石核



第102図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（49）



第103図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（50）



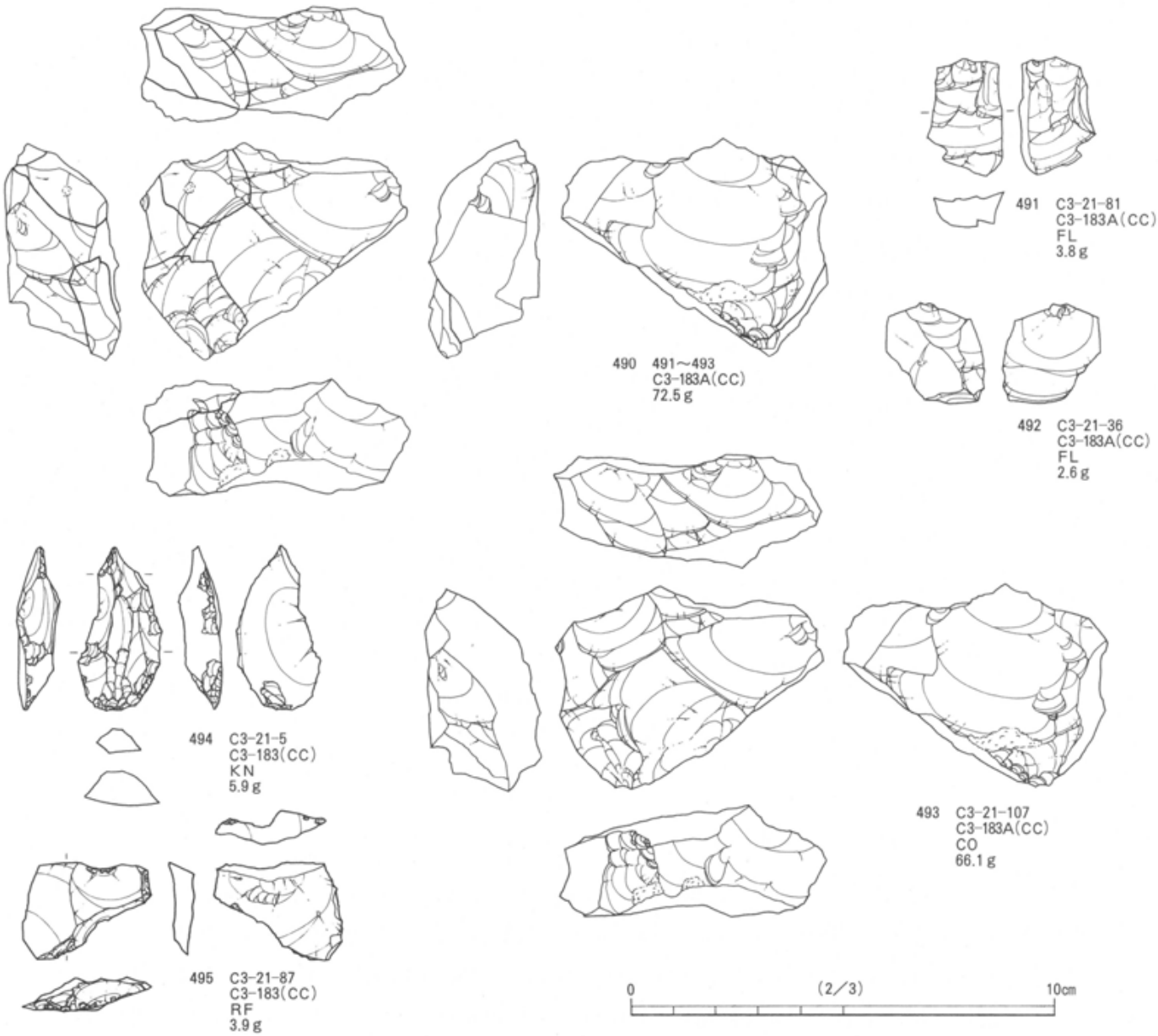
第104図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（51）

第105図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（52）

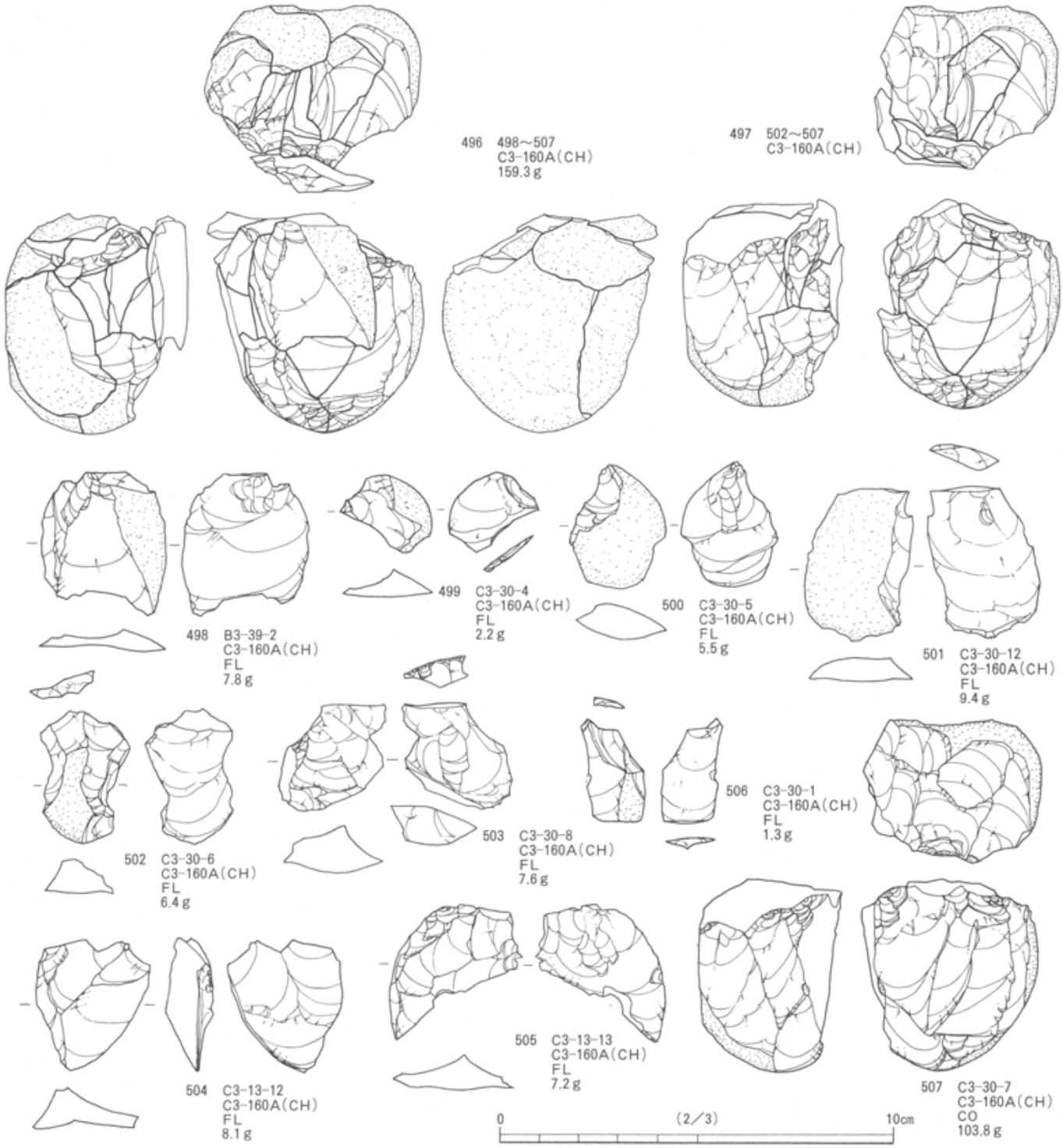
１点の合計21点で構成される。432は加工痕ある剥片１点（446），剥片12点（434～445），石核１点（447）の接合資料である。434を下方向から剥離し，180度打面を転移して上方向から435→436を剥離し，437を剥離して打面再生を行い，上方向から438→439を剥離し，440を剥離して打面再生を行い，上方向から441→442を剥離し，90度打面を転移して443→444を剥離し，再び90度打面を転移して上方向から445→446を剥離している。447は求心的な剥離作業により，小型で不定型な剥片を生産して作業を終了している。

・C3-76（第102図）　にぶい黄褐色（10YR5/3）の瑪瑙・玉髄である。剥片14点で構成される。接合資料は，３グループある。A（448）は剥片３点（449～451）の接合資料である。打面調整・再生剥片と考えられる。B（452）は剥片２点（453・454）の接合資料である。452の下部は石核の底面の可能性があり，453は稜付き剥片と思われる。

・C3-181（第103図，第104図464～470）　浅黄色（5Y7/3）などの瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器１点，



第106図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（53）



第107図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（54）

楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片88点（76個体），石核１点の合計92点（80個体）で構成される。接合資料は，６グループある。Ａ（455）は剥片19点（10個体；456～459，461～466），石核１点（467）の接合資料である。同一の打面の上方向から456～461，90度打面を転移して462，再び90度打面を転移して463を剥離し，さらに90度打面を転移して464→465→467を剥離している。468～470は接合しなかった同一母岩の石器である。468は剥片の打面側を基部として，両側縁に調整加工を行った二側縁加工のナイフ

形石器である。469は剥片の末端に調整加工を行った加工痕ある剥片である。台形石器の未製品の可能性がある。470は上下両端に剥離痕の見られる楔形石器である。

・**C3-78（第104図471～473）**　灰黄色（2.5Y6/2）の瑪瑙・玉髄である。石核2点で構成される。471は石核2点（472・473）の接合資料である。拳大の礫を2分割して，それぞれの個体から不定型な剥片を剥離している。

・**C3-71（第105図）**　灰色（N4/0）の瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片1点，石刃2点，剥片16点（14個体），石核1点の合計20点（18個体）で構成される。接合資料は，2グループある。A（474）は使用痕ある剥片1点（480），石刃2点（487・488），剥片12点（10個体；476～479・481～486），石核1点（489）の接合資料である。扁平な礫を素材として，476→477を剥離し，90度打面を転移して478，90度打面を転移して479，90度打面を転移して480，90度打面を転移して481→482，90度打面を転移して483，90度打面を転移して484～488を剥離している。480の右側縁に刃こぼれが見られる。打面を90度あるいは180度転移して，石刃や石刃状の縦長剥片を生産した母岩である。

・**C3-183（第106図）**　灰白色（7.5Y7/1）などの瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片12点，石核1点の合計15点で構成される。接合資料は，2グループある。A（490）は剥片2点（491・492），石核1点（493）の接合資料である。求心的な剥離作業により，491→492を剥離している。494・495は接合しなかった同一母岩の石器である。494は横長剥片を横位に用い，基部と両側縁の一部に細かい調整加工を行った基部加工あるいは部分加工のナイフ形石器である。495は不定型な剥片の末端に調整加工を行った加工痕ある剥片である。

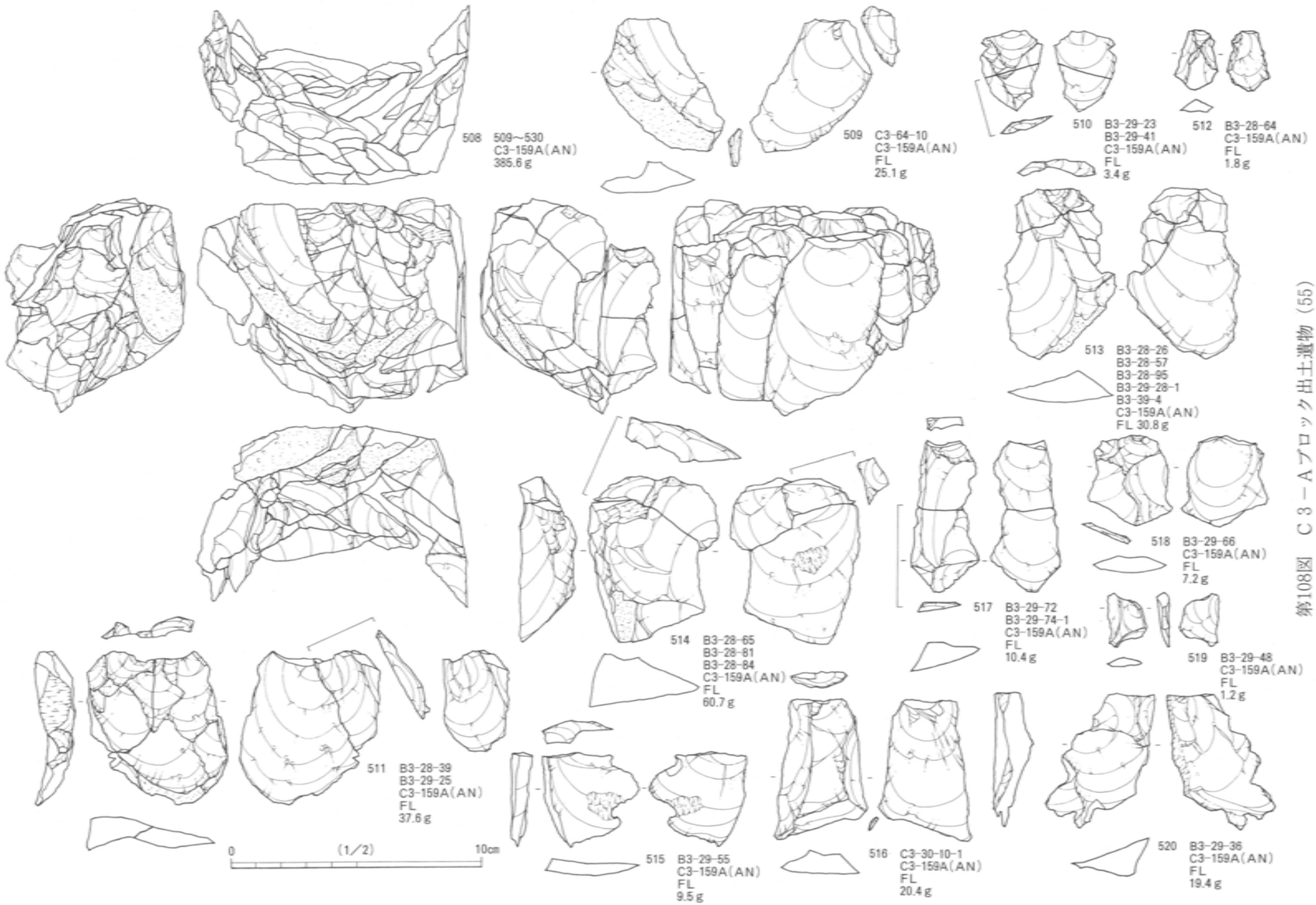
・**C3-160（第107図）**　灰色（10Y4/1）のチャートである。剥片9点，石核1点の合計10点で構成される。496は剥片9点（498～506），石核1点（507）の接合資料である。子供の拳大の円礫を素材として，上方向から498を剥離し，499→500を剥離して打面調整を行い，上方向から501を剥離し，90度打面転移して502を剥離し，再び503を剥離して打面調整を行い，上方向から504→505を剥離している。その後も506を剥離して打面調整を行っている。打面を固定して，打面調整を頻繁に行いながら，石刃あるいは縦長剥片の生産を目的とした母岩と考えられるが，結果的には寸詰まりの不定型な剥片が多い。

・**C3-159（第108図，第109図521～531）**　暗灰色（N3/0）の安山岩である。石刃3点（2個体），剥片66点（53個体）の合計69点（55個体）で構成される。接合資料は，3グループある。A（508）は石刃3点（2個体；524・530），剥片32点（20個体；509～523・525～529）の接合資料である。打点を正面側から右側面側に移動しながら509，510～517を剥離し，次に打点を左側面側に移動して518～521を剥離し，若干正面側に打点を戻して522，523，524，525～530を剥離している。正面を中心に打点を左右に移動しながら，縦長剥片を生産している。531は接合しなかった同一母岩の剥片である。

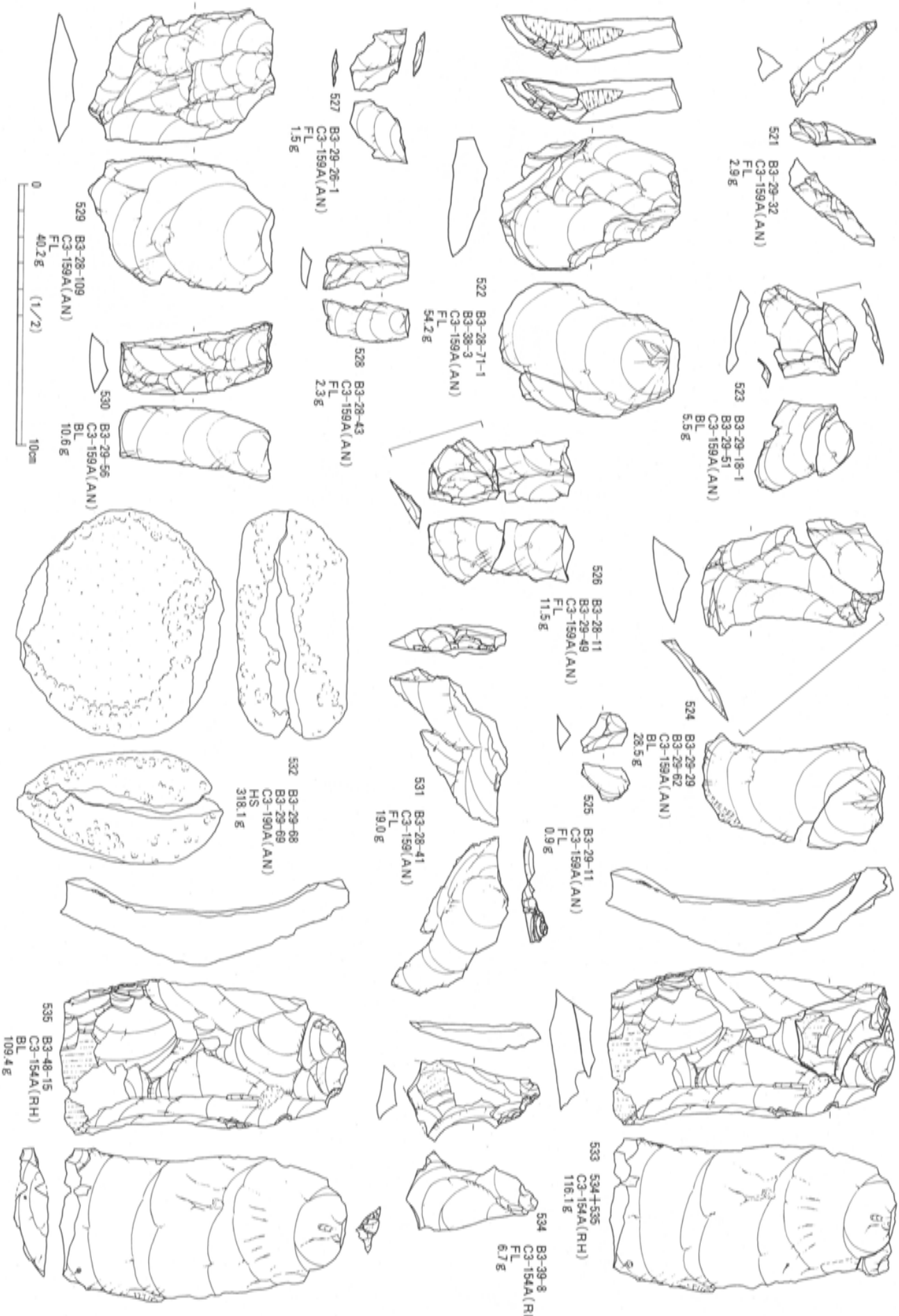
・**C3-190（第109図532）**　灰褐色（7.5YR6/2）の安山岩である。敲石2点（1個体）で構成される。532は敲石2点が接合して1個体となる。拳大の扁平な礫の周縁に敲打痕が見られる。

・**C3-154（第109図533～535）**　浅黄色（2.5Y8/3）の流紋岩である。石刃4点（2個体），剥片1点の合計5点（3個体）で構成される。接合資料は，2グループある。A（533）は石刃1点（535），剥片1点（534）の接合資料である。

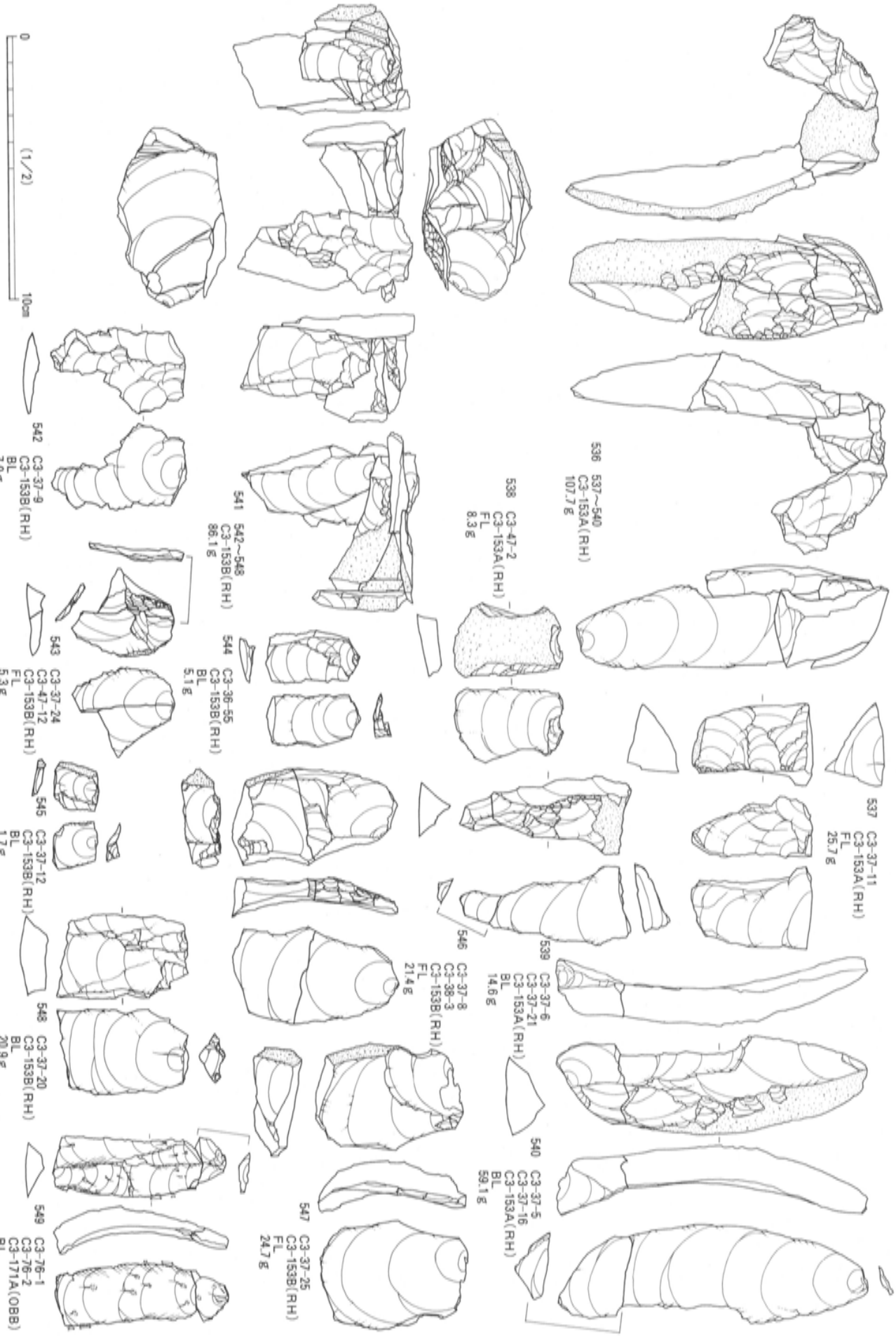
・**C3-153（第110図536～548）**　褐灰色（7.5YR5/1）などの流紋岩である。石刃8点（6個体），剥片18点（16個体）の合計26点（22個体）で構成される。接合資料は，2グループある。A（536）は石刃4点



第108図　C3－Aブロック出土遺物（55）



第109図　Ｃ３－Ａブロック出土遺物（56）



第110図　C３－Aブロック出土遺物（57）

第９表　Ｃ３－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B4-10(SHB)												5													5
B4-13(CC)																		5							5
B4-29(SHB)	1										2	2						6(5)		1					12(11)
C3-1(TU)												5						1		1					7
C3-2(TU)												3(2)						2		1					6(5)
C3-3(TU)																		6(5)		1					7(6)
C3-4(TU)												4						9							13
C3-5(TU)												1						20							21
C3-6(TU)												6(4)						8(7)							14(11)
C3-7(TU)												4						3(2)							7(6)
C3-8(TU)										1		4						9		1					15
C3-9(TU)												5						5		1					11
C3-10(TU)												4						3							7
C3-11(TU)											1	4													5
C3-12(TU)											1	1						1							3
C3-13(TU)												3													3
C3-14(TU)												3(2)						10							13(12)
C3-15(TU)											2							31(30)		3(2)					36(34)
C3-16(TU)																		3							3
C3-17(TU)												3						7							10
C3-18(TU)																		34(33)							34(33)
C3-19(TU)												1						3							4
C3-20(TU)												3								1					4
C3-21(TU)												2						7							9
C3-22(TU)												1						20(15)							21(16)
C3-23(TU)												2						4							6
C3-24(TU)												7(4)						15							22(19)
C3-25(TU)																		4(3)							4(3)
C3-26(TU)												3													3
C3-27(TU)																		2							2
C3-28(TU)																		2							2
C3-29(TU)	1											3													4
C3-30(TU)												4						13(12)							17(16)
C3-31(TU)																		1							1
C3-32(TU)											1														1
C3-33(TU)																		1							1
C3-34(TU)														1											1
C3-35(TU)																		1							1
C3-36(TU)	1																								1
C3-39(TU)	1																								1
C3-40(TU)	1																								1
C3-41(TU)	1																								1
C3-43(TU)	1																								1
C3-44(TU)	1																								1
C3-45(TU)	1																								1
C3-46(TU)	1																								1
C3-47(TU)	2											1													3
C3-48(TU)	1																								1
C3-49(TU)												1													1
C3-50(TU)	1																								1
C3-51(TU)												1													1
C3-52(TU)												1													1
C3-53(TU)												1													1
C3-54(TU)												1													1
C3-55(TU)												1													1
C3-56(TU)												1													1
C3-58(TU)												1													1
C3-59(TU)												1													1
C3-61(TU)												1													1
C3-62(TU)												1													1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C3-63(TU)												1													1
C3-65(TU)												1													1
C3-66(TU)																		1							1
C3-67(TU)												1													1
C3-69(TU)												2													2
C3-70(TU)																		1							1
C3-71(CC)											1	2						16(14)		1					20(18)
C3-72(CC)												2						6							8
C3-73(CC)												2													2
C3-74(CC)												1						5							6
C3-75(CC)												5						4							9
C3-76(CC)																		14							14
C3-77(CC)												5								1					6
C3-78(CC)																				2					2
C3-79(CC)												1													1
C3-80(CC)												1													1
C3-82(CC)												1													1
C3-83(CC)												1													1
C3-84(SHB)	1											10(8)						34(31)							45(40)
C3-85(SHB)												16(8)						37(35)		1					54(44)
C3-86(SHB)												4						7		1					12
C3-87(SHB)																		1							1
C3-88(SHB)												4						5							9
C3-89(SHB)												5													5
C3-90(SHB)																		2							2
C3-91(SHB)												3						4		1					8
C3-92(SHB)																		9		1					10
C3-94(SHB)												3													3
C3-95(SHB)												4													4
C3-96(SHB)										1								19		1					21
C3-97(SHD)												19(16)						3							22(19)
C3-98(TU)												4						4		1					9
C3-99(SHB)																		16	3						19
C3-100(SHB)												2						5							7
C3-101(SHB)											1							14							15
C3-102(SHB)																		4							4
C3-103(SHB)												1						2							3
C3-104(SHB)												3(2)													3(2)
C3-105(SHB)												2						6							8
C3-106(SHB)												3						3							6
C3-107(SHB)																		8							8
C3-108(SHB)																		2							2
C3-109(SHB)												1													1
C3-110(SHB)												2						4							6
C3-111(SHB)	1											1													2
C3-112(SHB)																		40							40
C3-113(SHB)												10(8)													10(8)
C3-114(SHB)											1							2							3
C3-115(SHB)												1						6(5)							7(6)
C3-116(SHB)												2													2
C3-117(SHB)												2													2
C3-118(SHB)	1																								1
C3-119(SHB)												1													1
C3-120(SHB)												1													1
C3-121(SHB)												1													1
C3-123(SHB)												1													1
C3-124(SHB)												1													1
C3-125(SHB)												1													1
C3-126(SHB)												1													1
C3-127(SHB)												1													1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C3-128(SHB)												1													1
C3-129(SHB)												1													1
C3-130(SHB)												1													1
C3-131(SHB)												1													1
C3-132(SHB)												1													1
C3-135(SHB)																		1							1
C3-136(SHB)																		1							1
C3-137(SHB)																		1							1
C3-138(SHB)												1													1
C3-140(SHB)																		1							1
C3-141(SHB)																		1							1
C3-142(SHB)																		1							1
C3-143(SHB)																		1							1
C3-144(SHB)																		1							1
C3-148(TU)												7						19(18)							26(25)
C3-149(TU)												3						4		1					8
C3-150(SHE)												1						8							9
C3-151(SHE)												2													2
C3-152(TU)												2(1)						4							6(5)
C3-153(RH)												8(6)						18(16)							26(22)
C3-154(RH)												4(2)						1							5(3)
C3-155(RH)																		1							1
C3-157(SHE)												10(9)						14							24(23)
C3-158(AN)	1											10(7)						17(16)							28(24)
C3-159(AN)												3(2)						66(53)							69(55)
C3-160(CH)																		9		1					10
C3-161(CH)																		1							1
C3-163(CH)																		3							3
C3-164(CH)												2						1							3
C3-165(CH)	1																								1
C3-166(OBA)																		6(4)							6(4)
C3-167(OBA)																		2							2
C3-168(OBA)																		2							2
C3-169(OBA)																		3							3
C3-170(OBA)																		1							1
C3-171(OBB)												2(1)													2(1)
C3-172(OBB)											1														1
C3-173(AN)	1											14						10							25
C3-174(SHA)												1						4							5
C3-175(SHE)												1													1
C3-176(SL)												1													1
C3-177(SA)												1													1
C3-181(CC)	1								1	1								88(76)		1					92(80)
C3-182(CC)										1	1							31(27)							33(29)
C3-183(CC)	1									1								12		1					15
C3-184(CC)																		6(5)		1					7(6)
C3-185(CC)																		1							1
C3-186(CC)										2(1)															2(1)
C3-187(CC)					1																				1
C3-188(CC)																		1							1
C3-189(AN)																1									1
C3-190(AN)																2(1)									2(1)
C3-191(SA)																1									1
C3-192(SA)																		2							2
その他(OBA)																		3							3
その他(OBB)																		2							2
その他(AN)																		23	9						32
その他(TO)																		6							6
その他(SHB)	2											9						68	6						85
その他(SHD)																		4							4

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
その他(SHE)												3						12	2						17
その他(CH)																		10							10
その他(TU)												1						94	10						105
その他(SA)																		2							2
その他(SL)																		1							1
その他(CC)										1								55	10						66
合　計	24				1				1	8(7)	12	322(288)		1		4(3)		1143(1086)	40	25(24)					1581(1487)

第10表　Ｃ３－Ａブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)																		17(15)							17(15)
黒曜石Ｂ(OBB)											1	2(1)						2							5(4)
安山岩(AN)	2											27(23)				3(2)		116(102)	9						157(138)
安山岩(TO)																		6							6
流紋岩(RH)												12(8)						20(18)							32(26)
頁岩Ａ(SHA)												1						4							5
頁岩Ｂ(SHB)	6									1	4	109(96)						312(305)	9	6					447(427)
頁岩Ｄ(SHD)												19(16)						7							26(23)
頁岩Ｅ(SHE)												17(16)						34	2						53(52)
チャート(CH)	1											2						24		1					28
凝灰岩(TU)	13									1	5	110(102)		1				352(339)	10	11(10)					503(481)
粘板岩(SL)												1						1							2
砂岩(SA)												1				1		4							6
瑪瑙・玉髄(CC)	2				1				1	6(5)	2	21						244(225)	10	7					294(274)
合　計	24				1				1	8(7)	12	322(288)		1		4(3)		1143(1086)	40	25(24)					1581(1487)

第11表　Ｃ３－Ａブロック礫組成

母　　岩	石　材	個数	重量
C3R-1	SA	1	1.7

石　　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	1.7
合　　計	1	1.7

（２個体；539・540），剥片２点（537・538）の接合資料である。537→538を剥離して打面調整を行い，下方向から539→540を剥離している。539・540は稜付き石刃である。Ｂ（541）は石刃４点（542・544・545・548），剥片５点（３個体；543・546・547）の接合資料である。上方向から542を剥離後，543を剥離して打面調整を行い，上方向から544→545，再び546→547を剥離して打面再生を行い，548を剥離している。

・C3-171（第110図549）　黒灰色半透明の黒曜石で信州和田峠周辺産と考えられる。石刃２点（１個体）で構成される。549は石刃２点が接合して１個体となる。表面の右側縁及び裏面の両側縁の一部に刃こぼれが見られる。

5　C4-Aブロック（第111～113・199図，第12・13表，カラー図版13，図版４）

１）ブロックの概要

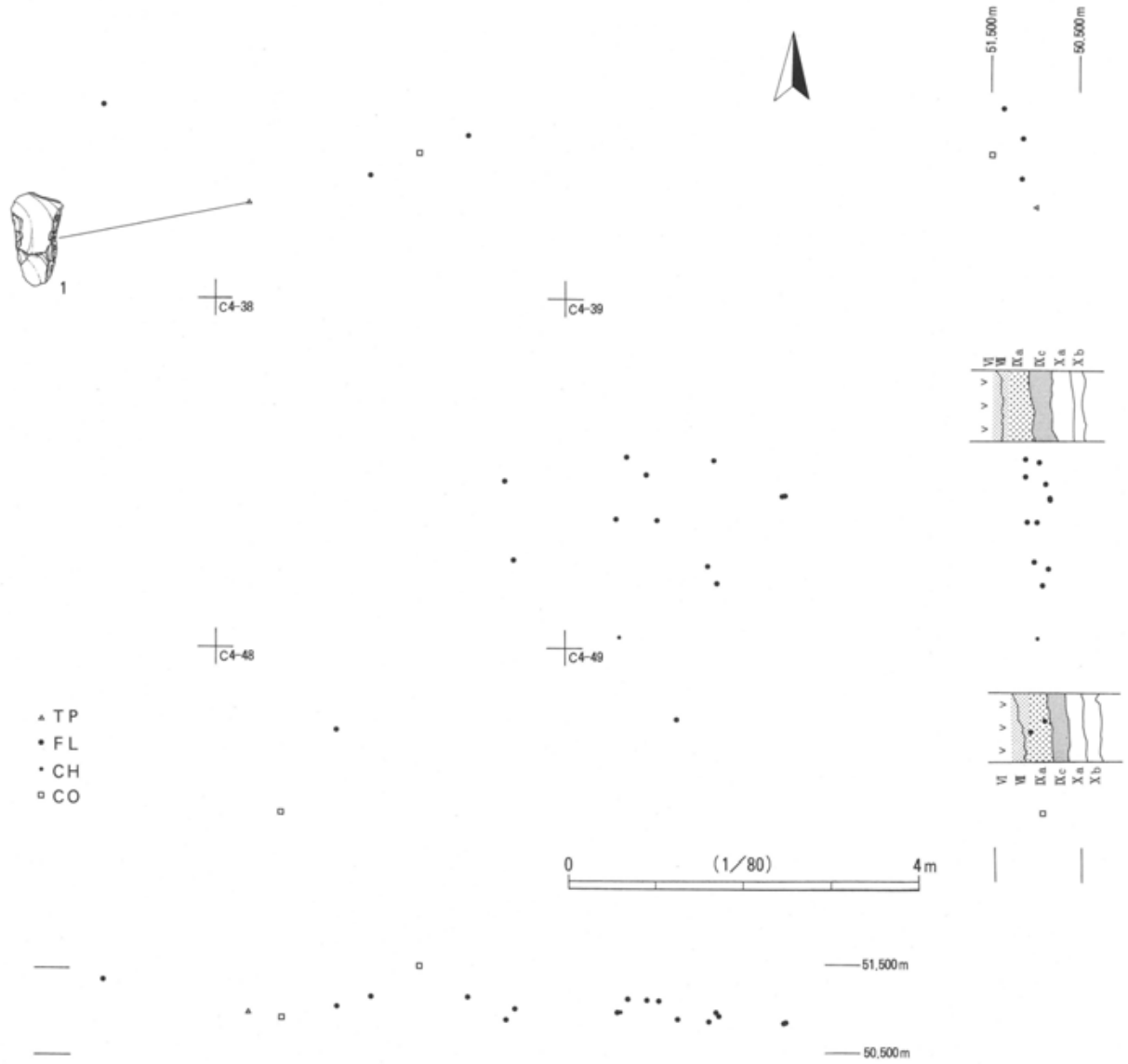
C4-Aブロックは，調査範囲南側のC4-27・28・38・39・48・49グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸10ｍ，短軸７ｍの範囲に20点の石器が散漫な状態で分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨｃ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されている（第111・112図）。

ブロックは，台形石器１点，剥片16点，砕片１点，石核２点の合計20点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ17点，頁岩Ｅ２点，ホルンフェルス１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ２母岩（C4-７・８），頁岩Ｅ２母岩（C4-１・５），

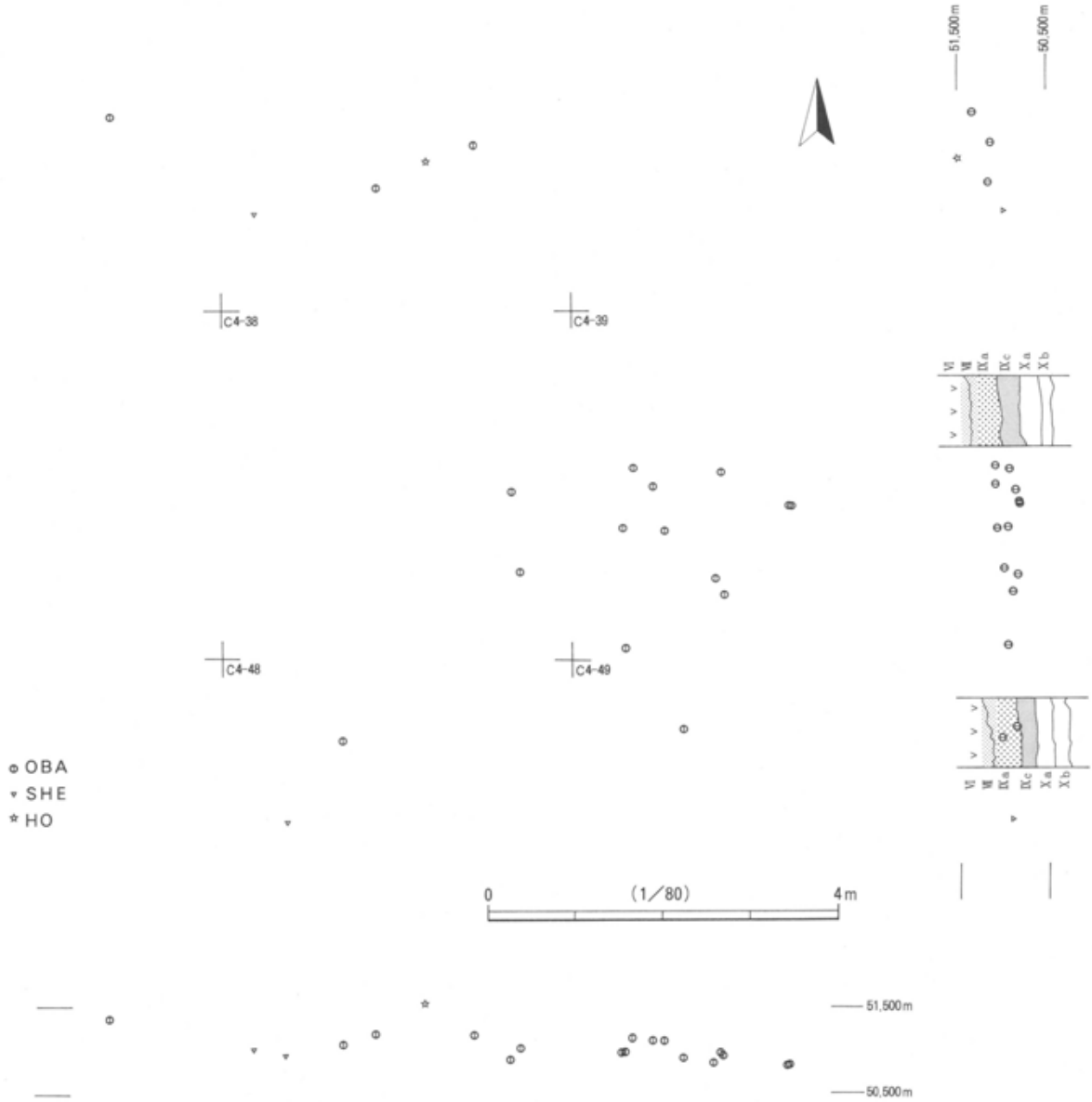


第111図　Ｃ４－Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

第12表　Ｃ４－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C4-1(SHE)		1																							1
C4-4(HO)																				1					1
C4-5(SHE)																				1					1
C4-7(OBA)																		10	1						11
C4-8(OBA)																		3							3
その他(OBA)																		3							3
合　計		1																16	1	2					20

ホルンフェルス１母岩（C4-４）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は85％（17/20点）である。



第112図　Ｃ４－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

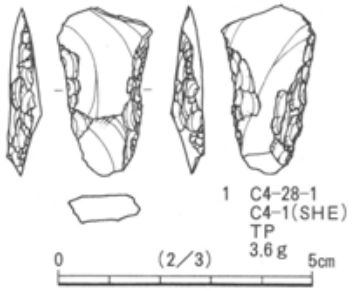
第13表　Ｃ４－Ａブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)																		16	1						17
頁岩Ｅ(SHE)		1																		1					2
ホルンフェルス(HO)																				1					1
合　計		1																16	1	2					20

・**C4-1**：灰色（10Y4/1）の頁岩である。台形石器１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・**C4-4**：自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は緑黒色（7.5GY2/1）のホルンフェルスである。石核１点（9.2ｇ）の単独資料である。

・**C4-5**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y5/1）の頁岩である。石核１点（2.9ｇ）の単



第113図　Ｃ４－Ａブロック出土遺物

独資料である。

・**C4-7**：淡黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの淡黄色と灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片10点，砕片１点の合計11点（4.9ｇ）である。

・**C4-8**：黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（3.5ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の剥片３点（0.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第113図）

１は頁岩による台形石器である。剥片を素材として，両面の両側縁に，末端が蝶番状となる平坦な調整加工を行っている。図示していないが，その他の剥片についても不定型なものである。

６　D3-Aブロック（第114～120・199図，第14・15表，カラー図版13・20，図版４・７）

１）ブロックの概要

D3-Ａブロックは，調査範囲ほぼ中央のD3-12・21・22・30～32グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸９ｍ，短軸６ｍの範囲に54点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨｃ層にかけて，60㎝ほどの高低差をもって包含されている（第114・115図）。

ブロックは，ナイフ形石器５点，石刃26点，剥片21点，石核２点の合計54点で構成される。石器石材は，安山岩１点，流紋岩１点，頁岩Ｂ22点，頁岩Ｅ１点，チャート７点，凝灰岩17点，瑪瑙・玉髄５点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは36母岩を識別した。内訳は，流紋岩１母岩（C3-153），頁岩Ｂ12母岩（C3-84・87・93～95・109・110・113・133・134・145・178），頁岩Ｅ１母岩（C3-179），チャート２母岩（C3-161・162），凝灰岩17母岩（B4-12，C3-４・７・12・13・28・30・37・38・42・48・57・60・64・68・148・152），瑪瑙・玉髄３母岩（C3-75・81・185）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94％（51/54点）である。

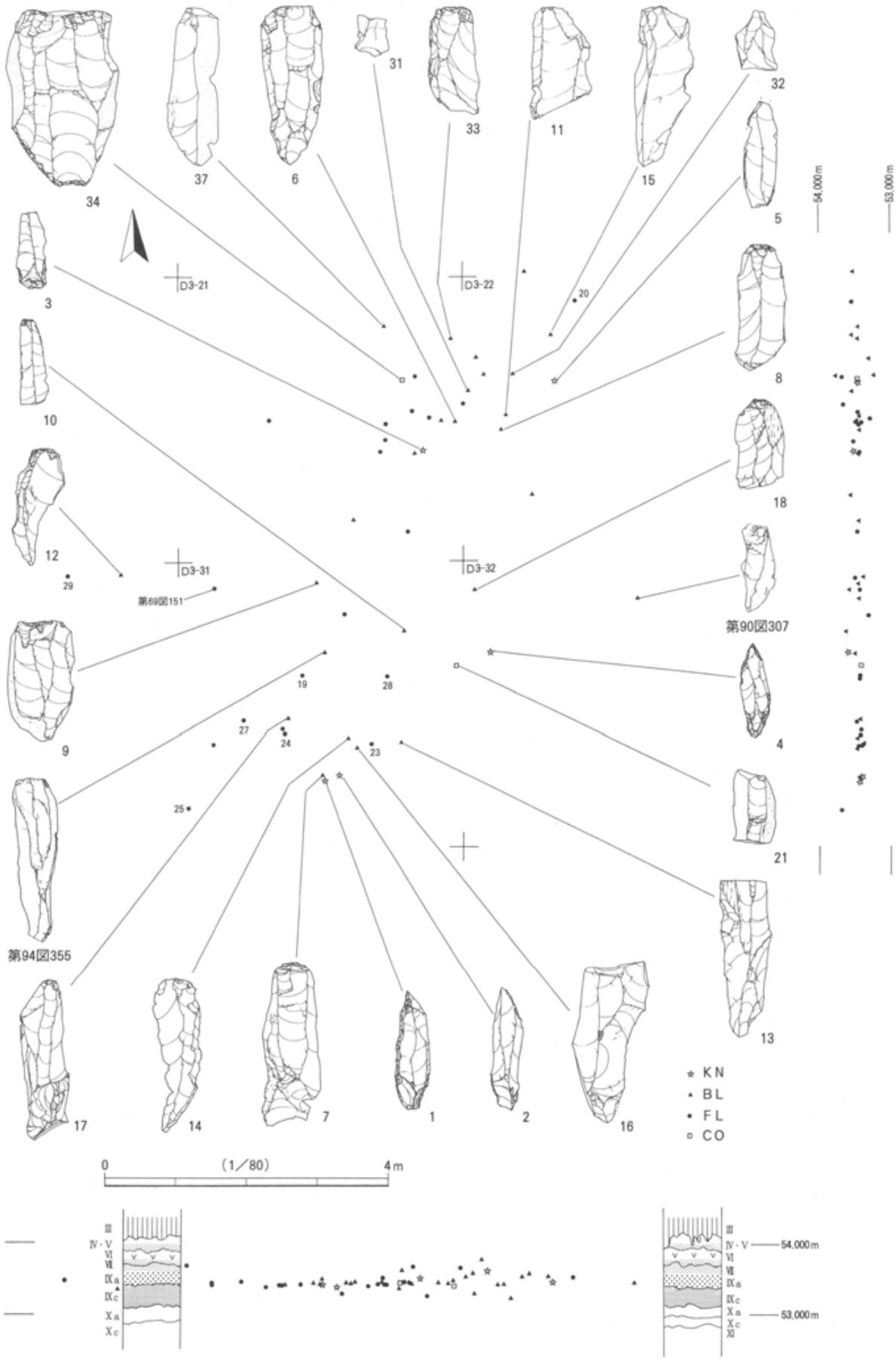
・**B4-12**：黄灰色（2.5Y5/1）などの凝灰岩である。母岩の特徴はB4-Ｃブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（43.2ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がB4-Ｃブロックに１点ある。

・**C3-4**：にぶい黄褐色（10YR5/3）などの凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.5ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに13点ある。

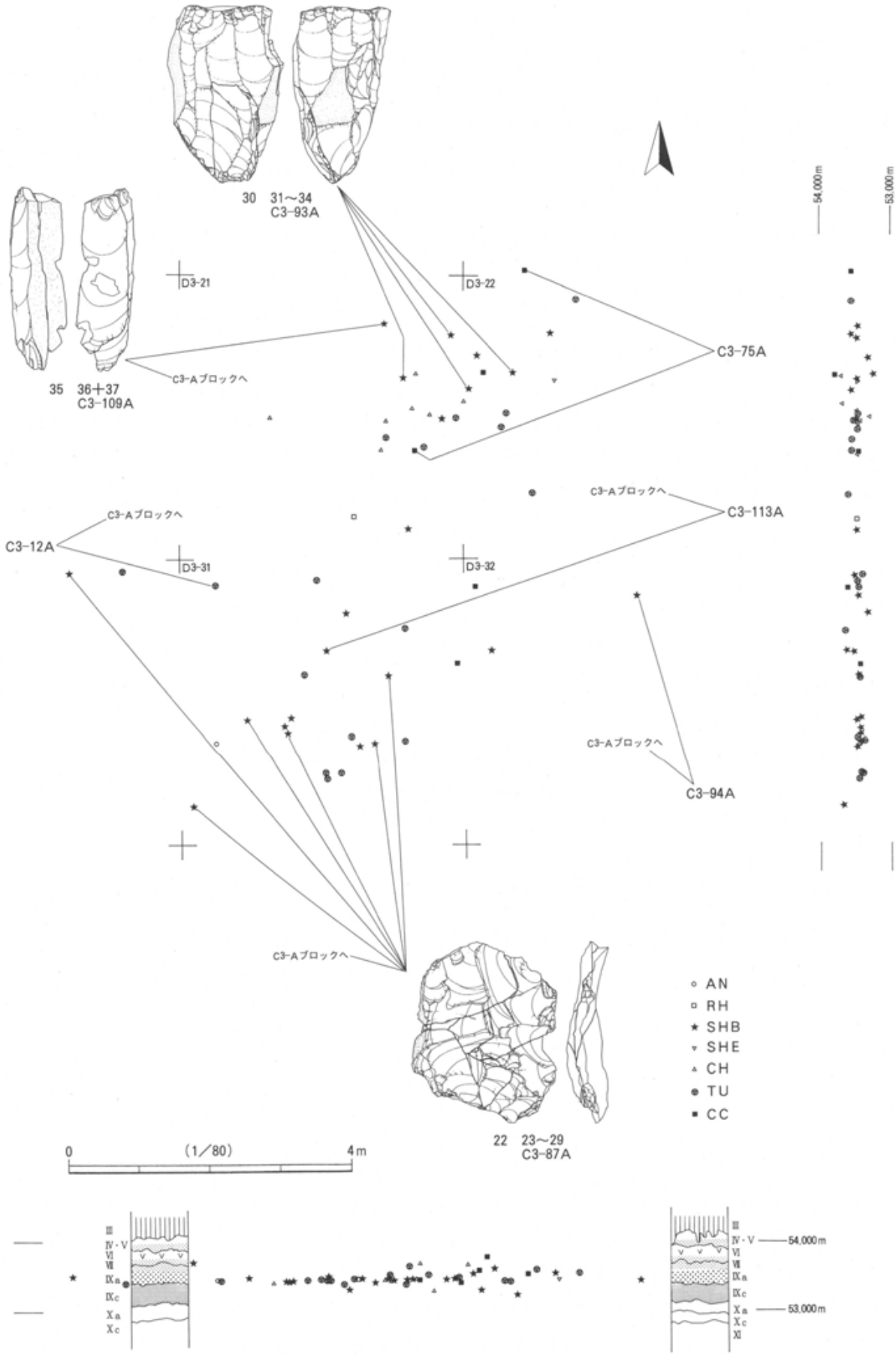
・**C3-7**：暗緑灰色（7.5GY4/1）の凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（10.6ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに７点ある。

・**C3-12**：灰色（7.5Y4/1）などの凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（36.9ｇ）の単独資料であるが，C3-Ａブロックの使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点と接合している。その他に同一母岩がC3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-13**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）などの凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりで



第114図　Ｄ３－Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第115図　Ｄ３－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

ある。本ブロックでは石刃１点（5.2ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに３点ある。

・**C3-28**：灰黄褐色（10YR5/2）などの凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（20.1ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに２点ある。

・**C3-30**：褐灰色（10YR4/1）の凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（38.8ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに17点ある。

・**C3-37**：灰オリーブ色（5Y5/2）の凝灰岩である。ナイフ形石器１点（9.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-38**：灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。ナイフ形石器１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・**C3-42**：灰オリーブ色（5Y5/2）の凝灰岩である。ナイフ形石器１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-48**：灰オリーブ色（5Y6/2）の凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（6.1ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに１点ある。

・**C3-57**：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・灰色（7.5Y4/1）の地に筋が入り，節理は灰褐色（7.5YR4/2）の凝灰岩である。石刃１点（23.4ｇ）の単独資料である。

・**C3-60**：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面はオリーブ黒色（10Y3/2）の凝灰岩である。石刃１点（15.6ｇ）の単独資料である。

・**C3-64**：暗緑灰色（10GY4/1）の凝灰岩である。石刃１点（2.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-68**：自然面は灰オリーブ色（7.5Y6/2），内部はオリーブ黄色（5Y6/3）の地に灰オリーブ色（7.5Y5/2）が混じる凝灰岩である。石刃１点（27.3ｇ）の単独資料である。

・**C3-75**：黄灰色（2.5Y4/1）などの瑪瑙・玉髄である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃３点（19.9ｇ）である。接合資料は，石刃２点（12.3ｇ）である。その他に同一母岩がC3-Ａブロックに９点ある。

・**C3-81**：にぶい褐色（7.5YR5/3）・オリーブ灰色（10Y5/2）の瑪瑙・玉髄である。石刃１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・**C3-84**：灰黄褐色（10YR5/2）などの北関東産頁岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（3.9ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに45点ある。

・**C3-87**：褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，剥片６点（84.6ｇ）である。接合資料は，剥片６点が，C3-Ａブロックの剥片１点と接合している。

・**C3-93**：自然面は暗赤褐色（10R3/2）・暗灰色（N3/0）が混じり，内部は灰褐色（7.5YR4/2）・暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃３点，石核１点の合計４点（258.4ｇ）である。接合資料は，石刃３点，石核１点の合計４点（258.4ｇ）である。

・**C3-94**：褐色（7.5YR4/3）などの北関東産頁岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（4.2ｇ）の単独資料であるが，C3-Ａブロックの石刃３点と接合している。

・**C3-95**：灰褐色（7.5YR4/2）などの北関東産頁岩である。母岩の特徴はC3-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（27.1ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Ａブロックに

4点ある。

・**C3-109**：褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。母岩の特徴はC3-Aブロックで記したとおりである。本ブロックでは石刃1点（13.1g）の単独資料であるが，C3-Aブロックの石刃1点と接合している。

・**C3-110**：灰黄褐色（10YR5/2）の北関東産頁岩である。母岩の特徴はC3-Aブロックに記したとおりである。本ブロックではナイフ形石器1点（3.4g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Aブロックに6点ある。

・**C3-113**：暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。母岩の特徴はC3-Aブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，石刃2点（11.8g）である。接合資料は，石刃1点（9.8g）が，C3-Aブロックの石刃5点と接合している。その他に同一母岩がC3-Aブロックに5点ある。

・**C3-133**：暗灰色（N3/0）・灰褐色（7.5YR4/2）の北関東産頁岩である。石刃1点（21.1g）の単独資料である。

・**C3-134**：褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。石刃1点（16.9g）の単独資料である。

・**C3-145**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰黄褐色（10YR4/2），内部は黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。剥片1点（19.5g）の単独資料である。

・**C3-148**：灰白色（5Y7/1）の凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃1点（24.2g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Aブロックに26点ある。

・**C3-152**：にぶい赤褐色（5YR4/4）の凝灰岩である。母岩の特徴はC3-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃1点（9.0g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Aブロックに6点ある。

・**C3-153**：褐灰色（7.5YR5/1）などの流紋岩である。母岩の特徴はC3-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃1点（2.3g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Aブロックに26点ある。

・**C3-161**：褐灰色（10YR5/1）のチャートである。母岩の特徴はC3-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片3点（2.5g）である。その他に同一母岩がC3-Aブロックに1点ある。

・**C3-162**：自然面はにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰色（5Y6/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片3点（3.4g）である。

・**C3-178**：暗灰色（N3/0）の北関東産頁岩である。石刃1点（2.1g）の単独資料である。

・**C3-179**：内部は灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY3/1）の頁岩である。ナイフ形石器1点（5.0g）の単独資料である。

・**C3-185**：浅黄色（2.5Y7/3）の瑪瑙・玉髄である。母岩の特徴はC3-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石核1点（22.4g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC3-Aブロックに1点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片1点（0.1g），北関東産頁岩の剥片1点（0.7g），チャートの剥片1点（1.2g）がある。

3）出土遺物（第116・117図）

1～5はナイフ形石器で，1～3は凝灰岩，4・5は北関東産頁岩・頁岩である。石刃を用い，2を除いて打面側を基部としている。1の二側縁加工のナイフ形石器を除いて基部加工あるいは部分加工のナイフ形石器である。6～18は石刃で，6～14は凝灰岩，15～17は北関東産頁岩，18は瑪瑙・玉髄である。8には石核の側面が残っており，17は稜付き石刃である。両設打面の石核から剥離されたもの（6・7・13・

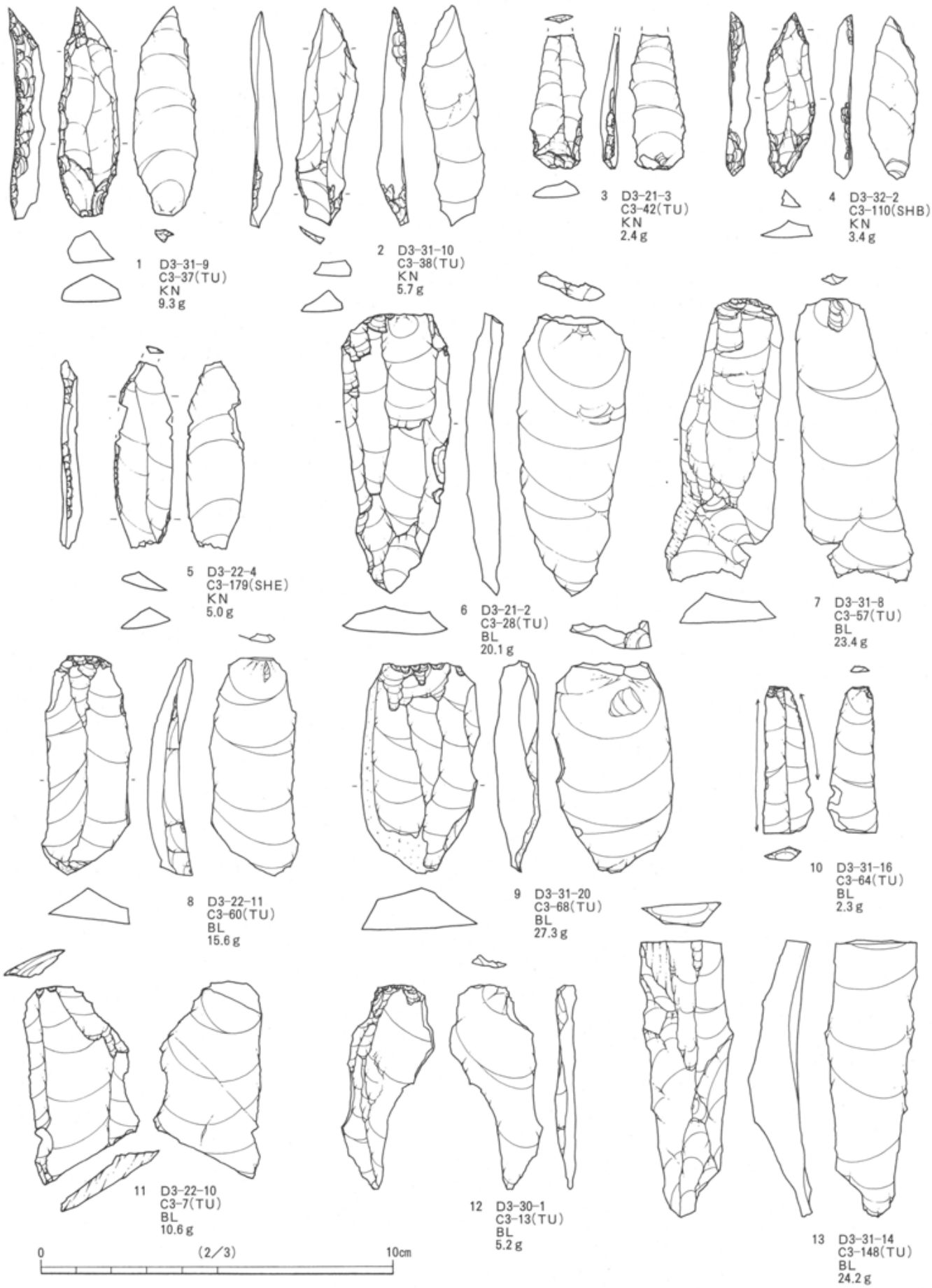
16）と単設打面の石核から剥離されたもの（８～12・14・15・17）がある。平坦打面が多く，頭部調整は顕著である。また，10の両側縁に刃こぼれが見られる。19・20は凝灰岩による剥片である。20の末端や左側縁に見られる浅いノッチ状の剥離痕は，人為的なものか偶発的なものか不明である。21は瑪瑙・玉髄による石核である。角礫から剥離された剥片を用い，末端側を打面として打面調整を行い，石核から小型の小石刃を剥離している。

第14表　Ｄ３－Ａブロック母岩別石器組成

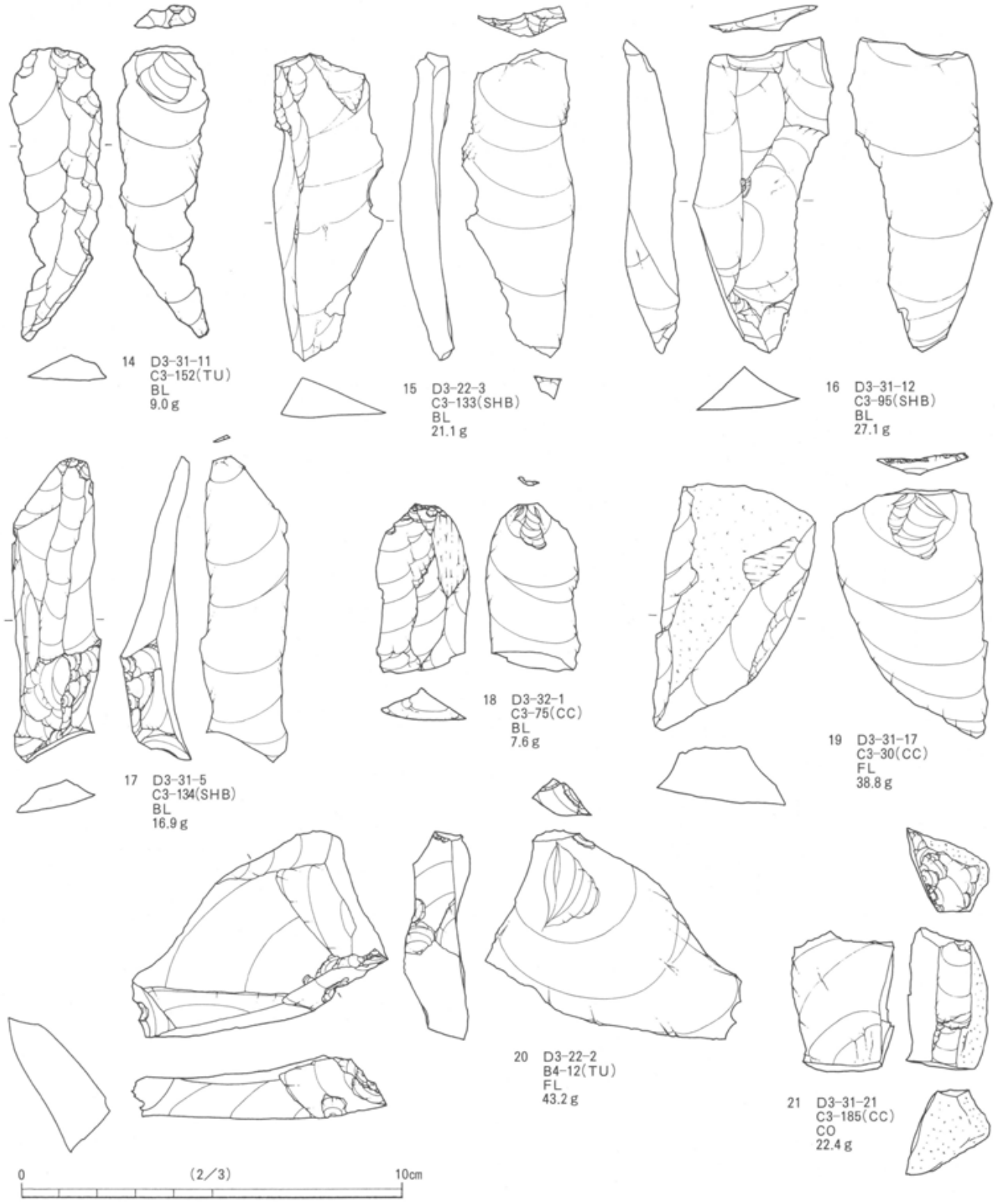
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B4-12(TU)																		1							1
C3-4(TU)																		1							1
C3-7(TU)												1													1
C3-12(TU)																		1							1
C3-13(TU)												1													1
C3-28(TU)												1													1
C3-30(TU)																		1							1
C3-37(TU)	1																								1
C3-38(TU)	1																								1
C3-42(TU)	1																								1
C3-48(TU)												1													1
C3-57(TU)												1													1
C3-60(TU)												1													1
C3-64(TU)												1													1
C3-68(TU)												1													1
C3-75(CC)												3													3
C3-81(CC)												1													1
C3-84(SHB)																		1							1
C3-87(SHB)																		6							6
C3-93(SHB)												3								1					4
C3-94(SHB)												1													1
C3-95(SHB)												1													1
C3-109(SHB)												1													1
C3-110(SHB)	1																								1
C3-113(SHB)												2													2
C3-133(SHB)												1													1
C3-134(SHB)												1													1
C3-145(SHB)																		1							1
C3-148(TU)												1													1
C3-152(TU)												1													1
C3-153(RH)												1													1
C3-161(CH)																		3							3
C3-162(CH)																		3							3
C3-178(SHB)												1													1
C3-179(SHE)	1																								1
C3-185(CC)																				1					1
その他(AN)																		1							1
その他(SHB)																		1							1
その他(CH)																		1							1
合　計	5											26						21		2					54

第15表　Ｄ３－Ａブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)																		1							1
流紋岩(RH)												1													1
頁岩Ｂ(SHB)	1											11						9		1					22
頁岩Ｅ(SHE)	1																								1
チャート(CH)																		7							7
凝灰岩(TU)	3											10						4							17
瑪瑙・玉髄(CC)												4								1					5
合　計	5											26						21		2					54



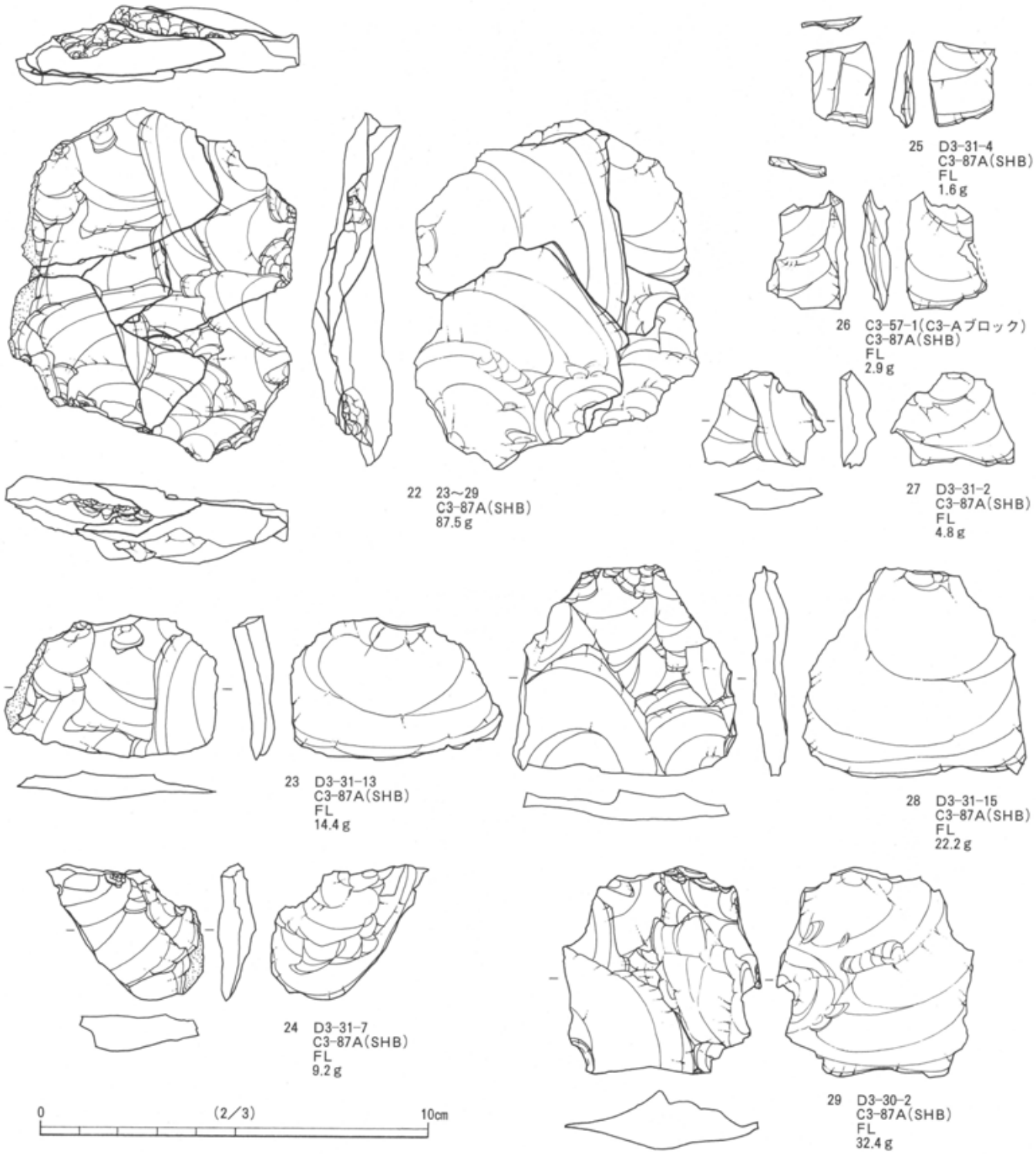
第116図　Ｄ３－Ａブロック出土遺物（１）



第117図　Ｄ３－Ａブロック出土遺物（２）

４）接合資料とその関連資料（第118～120図）

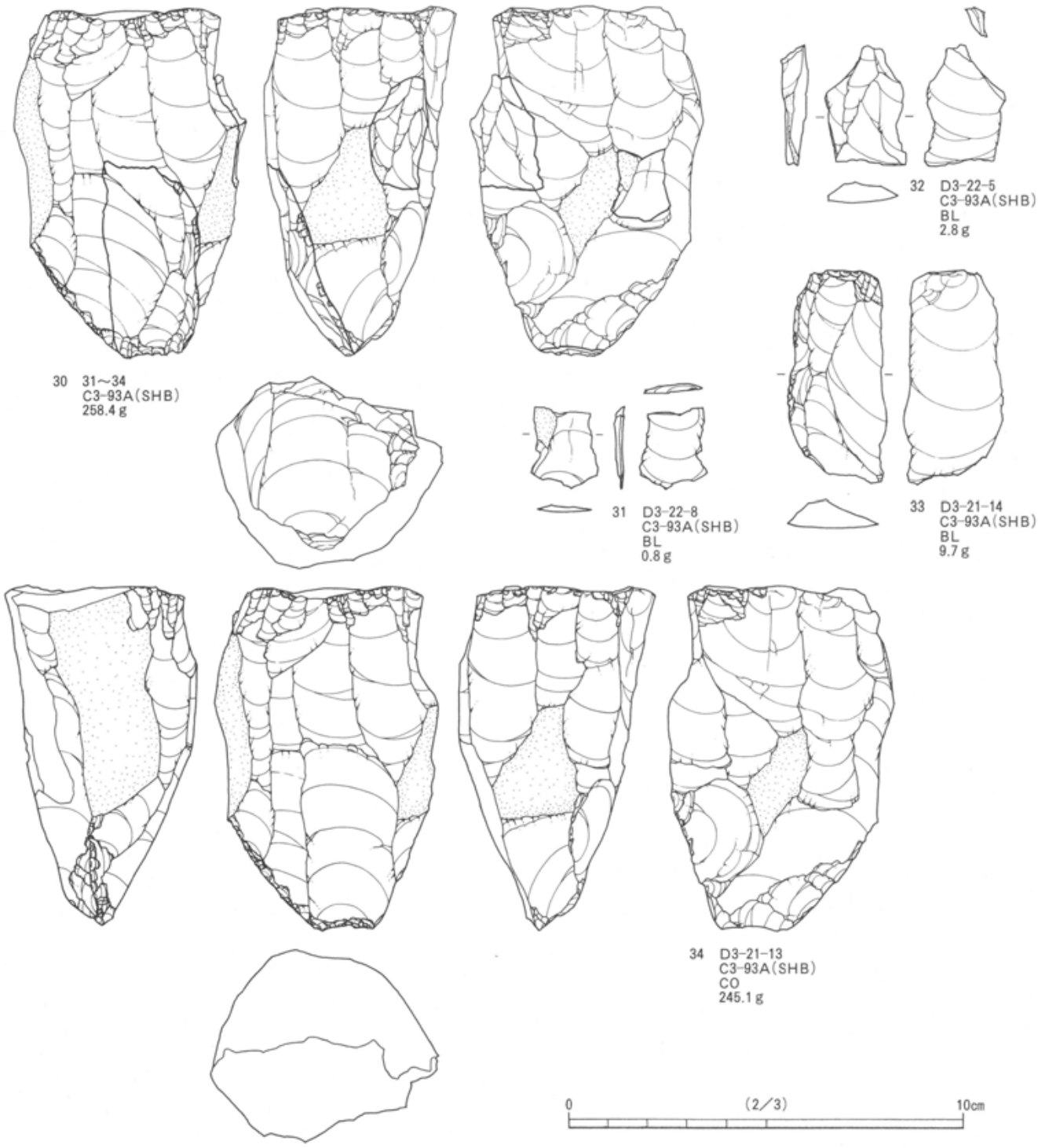
・C3-87（第118図）　褐灰色（7.5YR4/1）の北関東産頁岩である。剥片６点で構成される。22は剥片６点（23～25・27～29），C3-Ａブロックの剥片１点（26）の接合資料である。上方向から23→下方向から24・25→左方向26→下方向から27→右方向から28→下方向から29の順に，石核の周縁を移動しながら求心的な剥離作業を行って，不定型な剥片を剥離している。なお，24・25は剥離時の同時欠損である。本ブロッ



第118図　Ｄ３－Ａブロック出土遺物（３）

クは石刃の生産に関係する資料が主体であることから，本母岩についても大型の石刃石核の打面調整に伴う剥片の可能性がある。

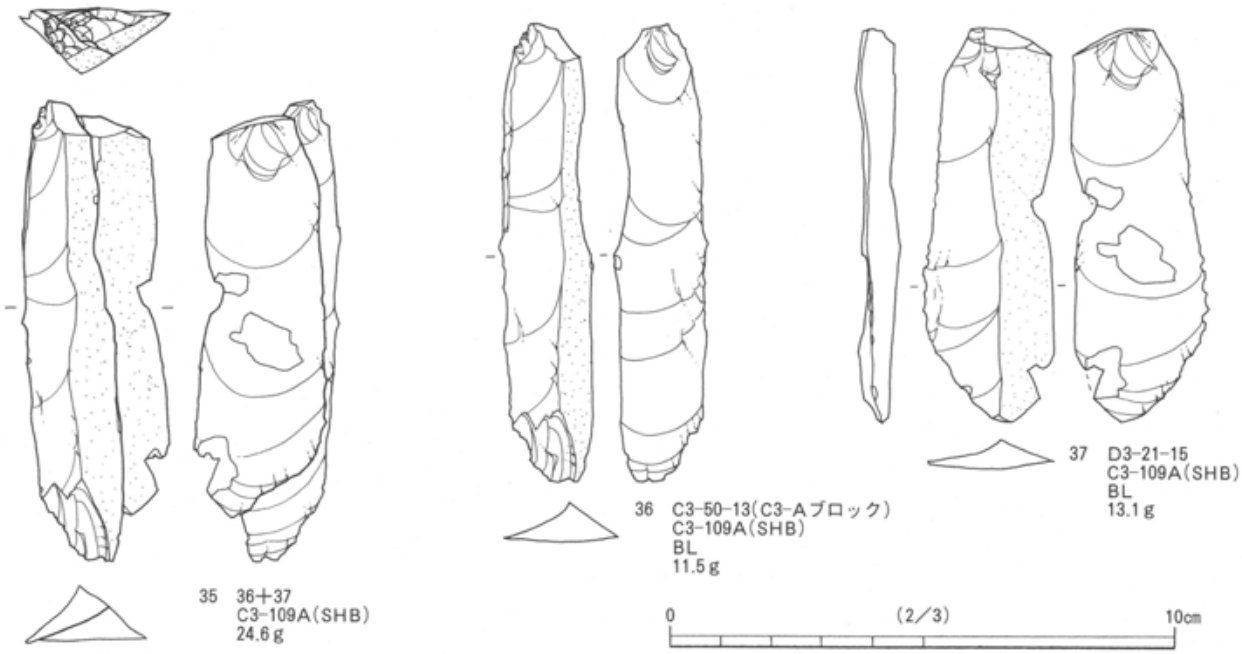
・C3-93（第119図）　灰褐色（7.5YR4/2）などの北関東産頁岩である。石刃３点，石核１点の合計４点で構成される。30は石刃３点（31～33），石核１点（34）の接合資料である。亜角礫を素材とした両設打面の石核の上方向から31→32→下方向から33を剥離している。31・32は上半部が欠損している。33の左側



第119図　Ｄ３－Ａブロック出土遺物（４）

縁には刃こぼれが見られる。石刃の生産に関係する母岩である。

・C3-109（第120図）　褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。本ブロックでは石刃１点の単独資料である。35は石刃２点（36・37）の接合資料である。打面調整が顕著である。なお，36はC3-Ａブロックから出土している。



第120図　Ｄ３－Ａブロック出土遺物（５）

7　C2-Bブロック（第121～123・199図，第16・17表，カラー図版13，図版２）

１）ブロックの概要

C2-Ｂブロックは，調査範囲北側のC2-29・39，D2-30グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径４ｍの範囲に13点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨｃ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第121・122図）。

ブロックは，剥片13点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ａ３点，頁岩Ｂ４点，頁岩Ｅ１点，凝灰岩４点である。

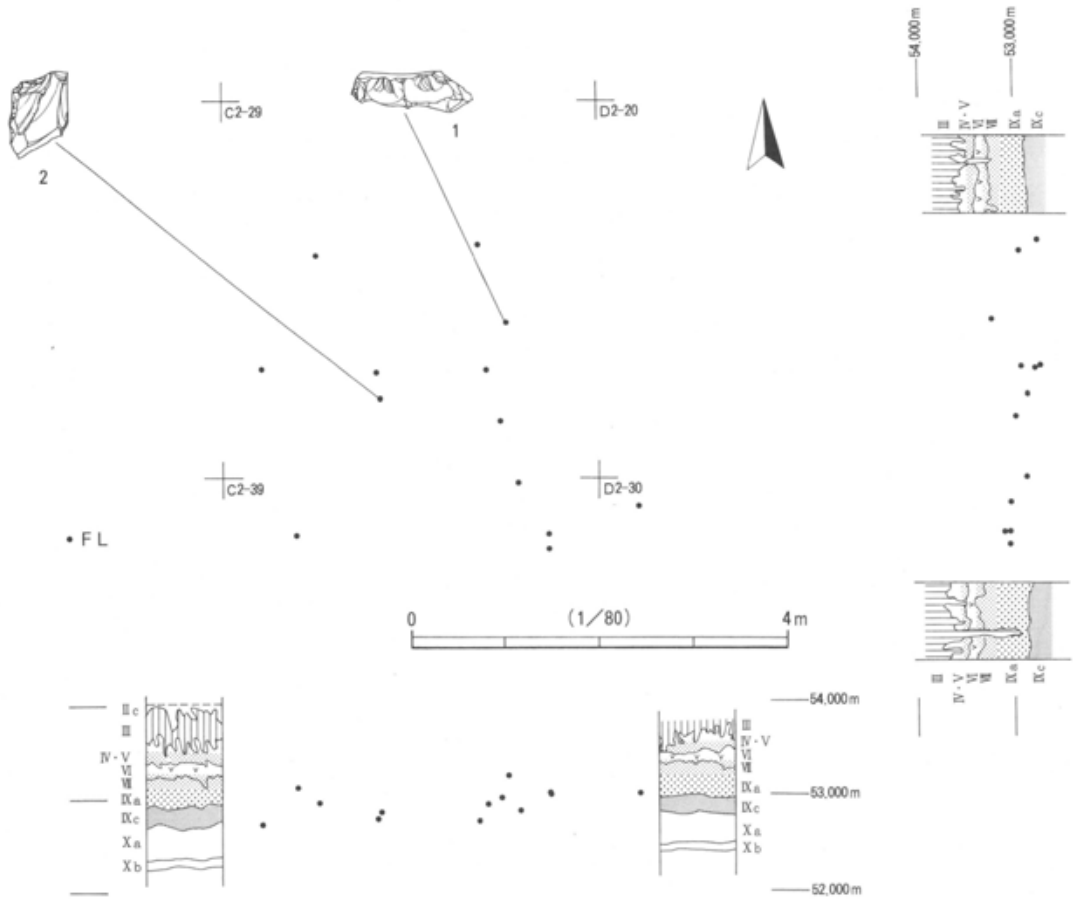
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，頁岩Ａ１母岩（C2-１），頁岩Ｂ１母岩（C2-２），頁岩Ｅ１母岩（C2-４），凝灰岩１母岩（C2-３）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は92％（12/13点）である。

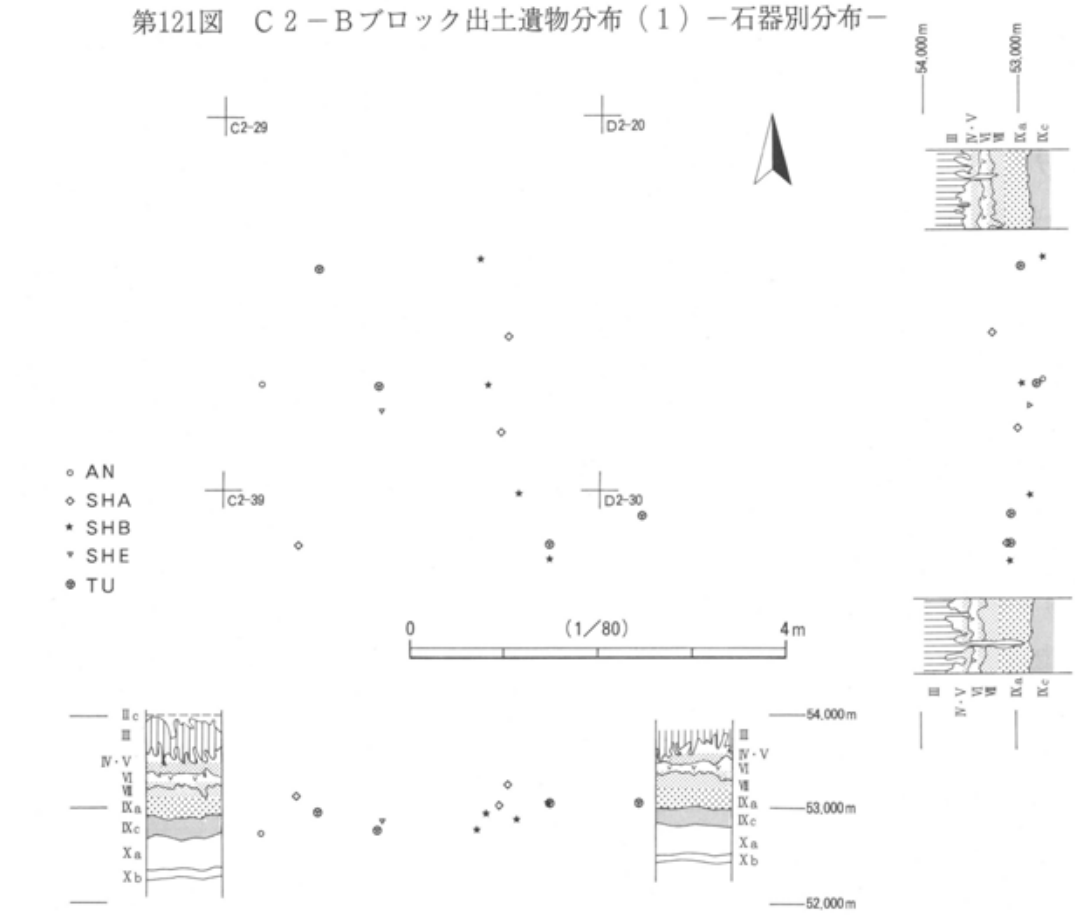
・C2-１：黒褐色（10YR2/2）・灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（6.5ｇ）である。

・C2-２：灰白色（5Y7/2）・灰オリーブ色（7.5Y4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（6.3ｇ）である。

・C2-３：暗緑灰色（7.5GY4/1）の地に夾雑物が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片４点（4.9ｇ）



第121図　Ｃ２－Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第122図　Ｃ２－Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

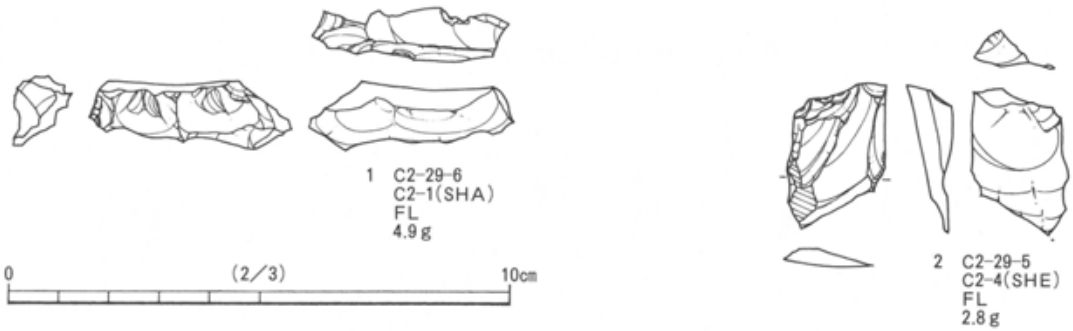
である。

・**C2-４**：黄灰色（2.5Y5/1）・にぶい褐色（7.5YR5/4）の北関東産頁岩である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片１点（3.8ｇ）がある。

３）出土遺物（第123図）

１は東北産頁岩による剥片である。２は頁岩による剥片である。両面にクレーター状の小剥落が見られる。図示しなかったその他の剥片も小型で不定型なものである。



第123図　Ｃ２－Ｂブロック出土遺物

第16表　Ｃ２－Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C2-1(SHA)																		3							3
C2-2(SHB)																		4							4
C2-3(TU)																		4							4
C2-4(SHE)																		1							1
その他(AN)																		1							1
合　計																		13							13

第17表　Ｃ２－Ｂブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)																		1							1
頁岩A(SHA)																		3							3
頁岩B(SHB)																		4							4
頁岩E(SHE)																		1							1
凝灰岩(TU)																		4							4
合　計																		13							13

８　D2-Aブロック（第124～126・199図，第18・19表，カラー図版13）

１）ブロックの概要

D2-Aブロックは，調査範囲北側のD2-76グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は50ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径３ｍの範囲に７点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨａ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第124・125図）。

ブロックは，剥片６点，石核１点の合計７点で構成される。石器石材は，頁岩Ｄ４点，チャート１点，凝灰岩２点である。

２）母岩の特徴と内容

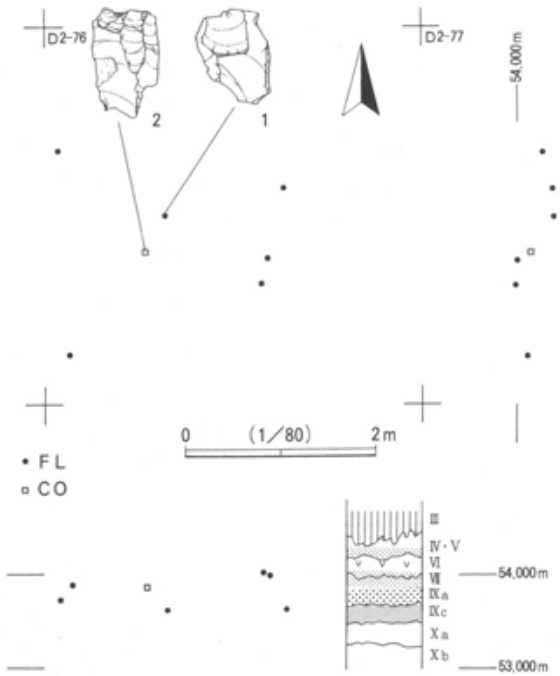
本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｄ１母岩（D2-１），チャート１母岩（D2-３），凝灰岩１母岩（D2-２）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は86％（6/7点）である。

・**D2-１**：褐灰色（10YR4/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（12.7ｇ）である。

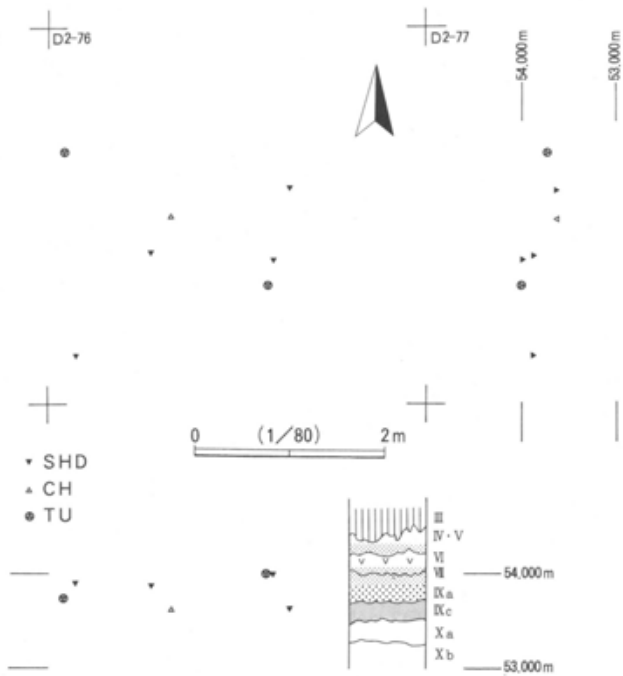
・**D2-２**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の凝灰岩である。剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・**D2-３**：灰色（7.5Y4/1）・にぶい黄橙色（10YR6/4）のチャートである。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

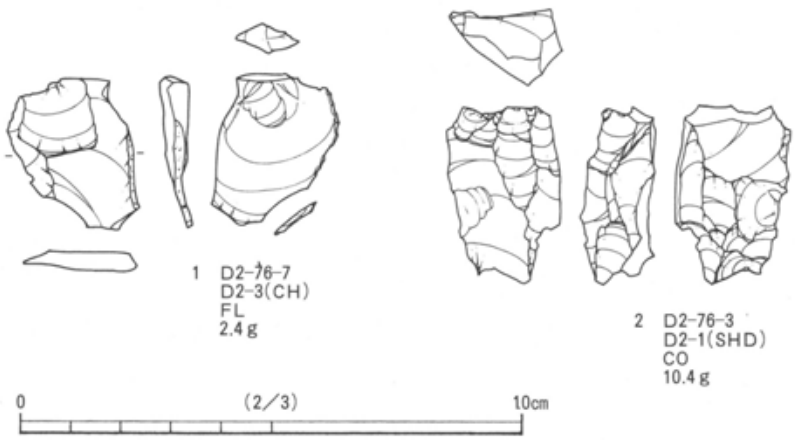
なお，母岩分類できなかった資料に，凝灰岩の剥片１点（0.9ｇ）がある。



第124図　Ｄ２－Ａブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第125図　Ｄ２－Ａブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第126図　Ｄ２－Ａブロック出土遺物

第18表　Ｄ２－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D2-1(SHD)																		3		1					4
D2-2(TU)																		1							1
D2-3(CH)																		1							1
その他(TU)																		1							1
合　計																		6		1					7

第19表　Ｄ２－Ａブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
頁岩D(SHD)																		3		1					4
チャート(CH)																		1							1
凝灰岩(TU)																		2							2
合　計																		6		1					7

３）出土遺物（第126図）

１はチャートによる不定型な剥片である。２は硬質緻密な頁岩による石核である。剥片を用い，主に素材の末端部を打面として小石刃状の縦長剥片を剥離している。図示しなかったその他の剥片は不定型なものである。

９　D3-Bブロック（第127～129・199図，第20・21表，カラー図版13，図版７）

１）ブロックの概要

D3-Ｂブロックは，調査範囲ほぼ中央のD3-39・49グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は60ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸２ｍ，短軸１ｍの範囲に４点の石器が散漫に分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨａ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第127・128図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，台石１点，剥片２点の合計４点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｅ１点，砂岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（D3-３），頁岩Ｃ１母岩（D3-１），頁岩Ｅ１母岩（D3-２），砂岩１母岩（D3-４）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（4/4点）である。

・**D3-１**：黄褐色（2.5Y5/3）・オリーブ褐色（2.5Y4/6）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

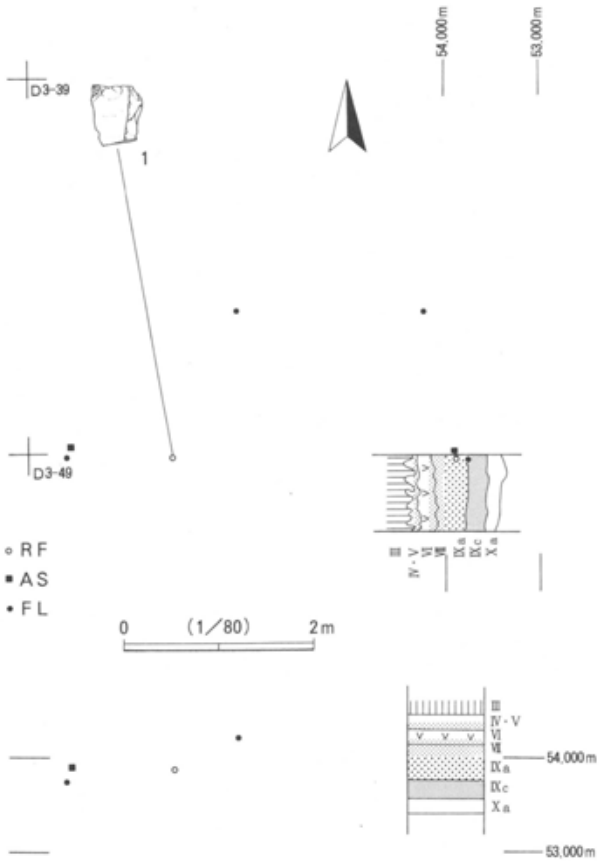
・**D3-２**：浅黄色（2.5Y7/4）の頁岩である。加工痕ある剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・**D3-３**：褐灰色（10YR5/1）の安山岩である。剥片１点（6.7ｇ）の単独資料である。

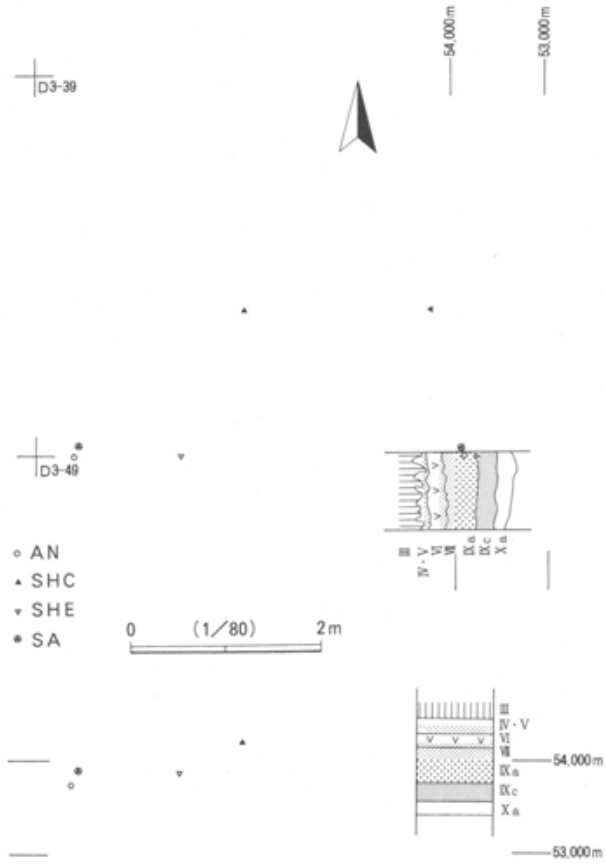
・**D3-４**：自然面は黄褐色（2.5Y5/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の砂岩である。台石１点（1,930.9ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第129図）

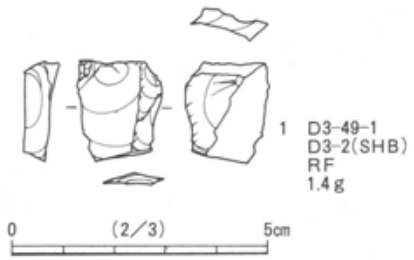
１は頁岩による加工痕ある剥片である。末端と左側面が欠損している。左側縁上部に細かい剥離痕が見られるが，剥離時ないし欠損時に生じた可能性もある。また，図示していないが，台石は長さ15.6cm，幅10.5cm，厚さ8.1cm，重量1,930.9ｇで，1/4ほど欠損している。一部，表面が剥落している箇所もあるが，



第127図　Ｄ３－Ｂブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第128図　Ｄ３－Ｂブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第129図　Ｄ３－Ｂブロック出土遺物

第20表　Ｄ３－Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D3-1(SHC)																		1							1
D3-2(SHE)										1															1
D3-3(AN)																		1							1
D3-4(SA)																	1								1
合　計										1							1	2							4

第21表　Ｄ３－Ｂブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)																		1							1
頁岩C(SHC)																		1							1
頁岩E(SHE)										1															1
砂岩(SA)																	1								1
合　計										1							1	2							4

明瞭な敲打痕は見られなかった。被熱の痕跡がないことや他に礫群が検出されなかったことから，台石と考えた。図版に出土状況を掲載した。

10　D4-Cブロック（第130・131・199図，第22・23表）

１）ブロックの概要

D4-Cブロックは，調査範囲南側のD4-62・72・73グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地の縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸５ｍ，短軸２ｍの楕円形の範囲に７点の石器が散漫に分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨｃ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第130・131図）。第４文化層のD4-Bブロックが近接しているが，平面分布・垂直分布・石材等に相違があり，ブロックを分けた。

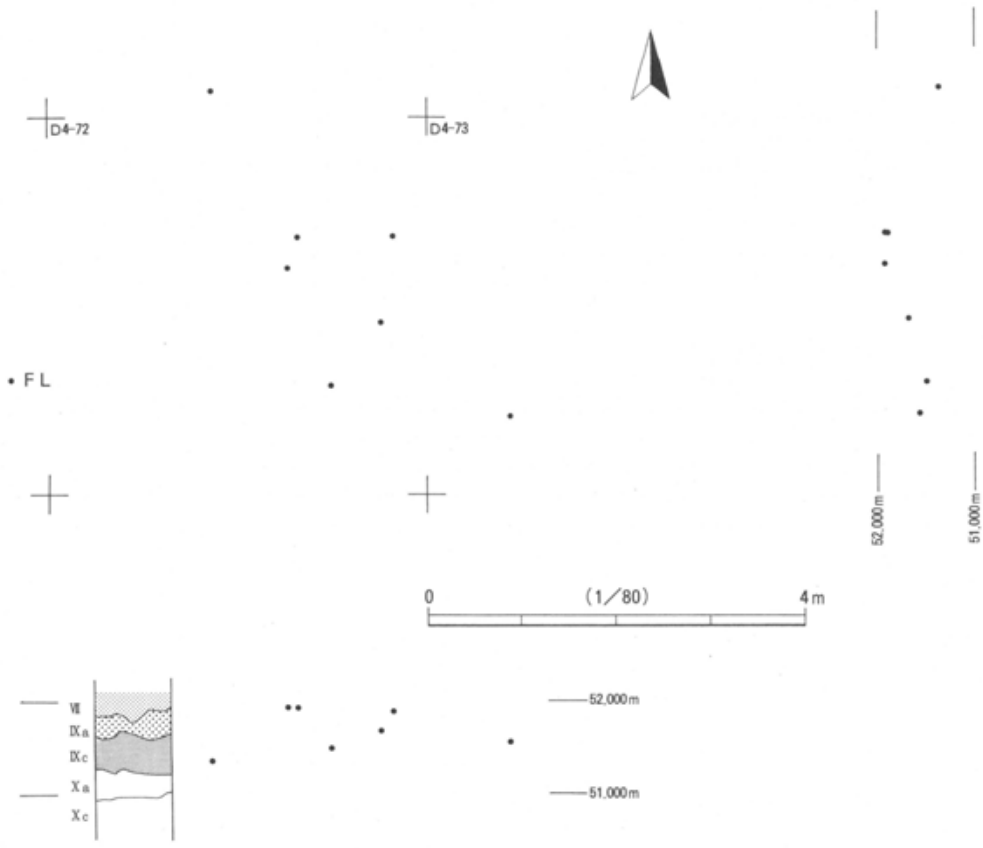
ブロックは，剥片７点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ３点，黒曜石Ｂ２点，黒曜石Ｇ２点である。

２）母岩の特徴と内容

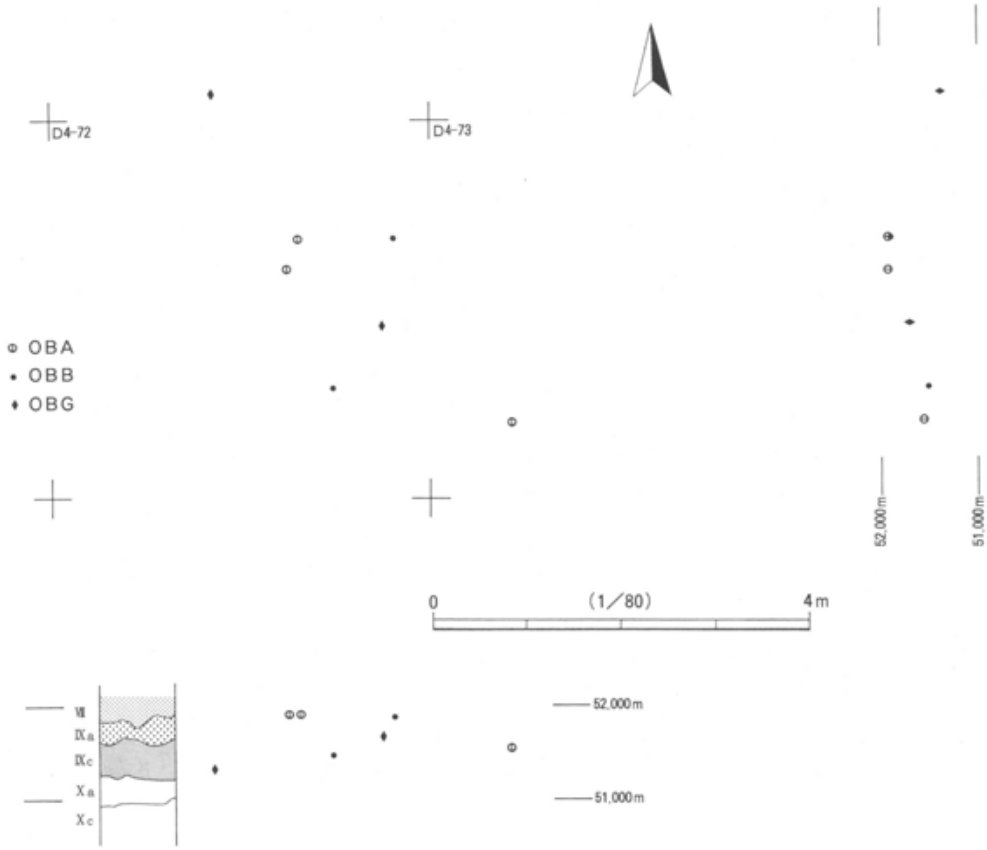
本ブロックでは１母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（D4-1）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は43％（3/7点）である。

・D4-1：漆黒色不透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色と淡橙色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，長さ１㎝～２㎝，幅１㎝の不定型な剥片３点（4.6ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片２点（0.7ｇ），産地不明の黒曜石の剥片２点（0.5ｇ）がある。



第130図　Ｄ４－Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第131図　Ｄ４－Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

第22表　Ｄ４－Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D4-1(OBA)																		3							3
その他(OBB)																		2							2
その他(OBG)																		2							2
合　計																		7							7

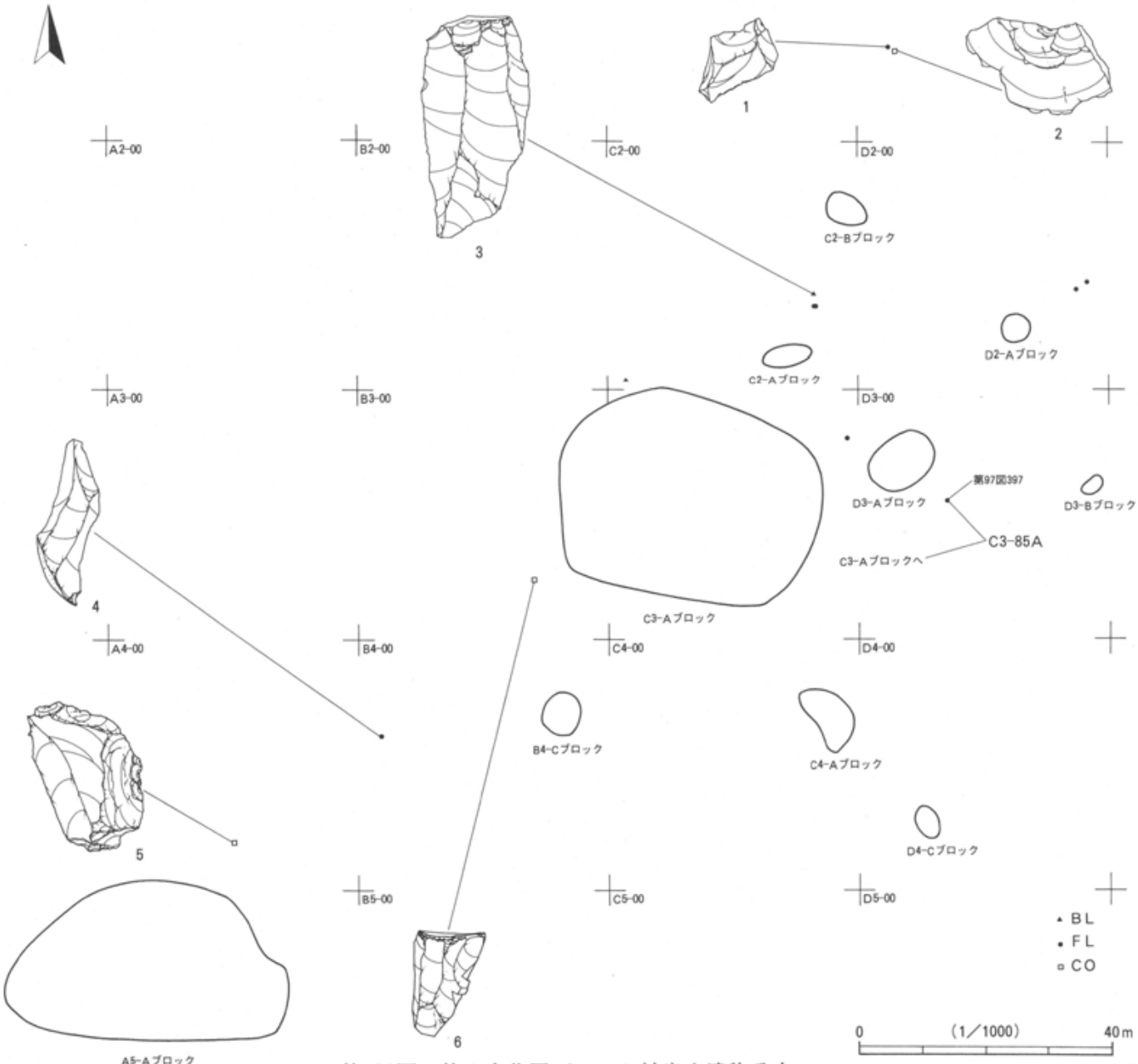
第23表　Ｄ４－Ｃブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)																		3							3
黒曜石Ｂ(OBB)																		2							2
黒曜石Ｇ(OBG)																		2							2
合　計																		7							7

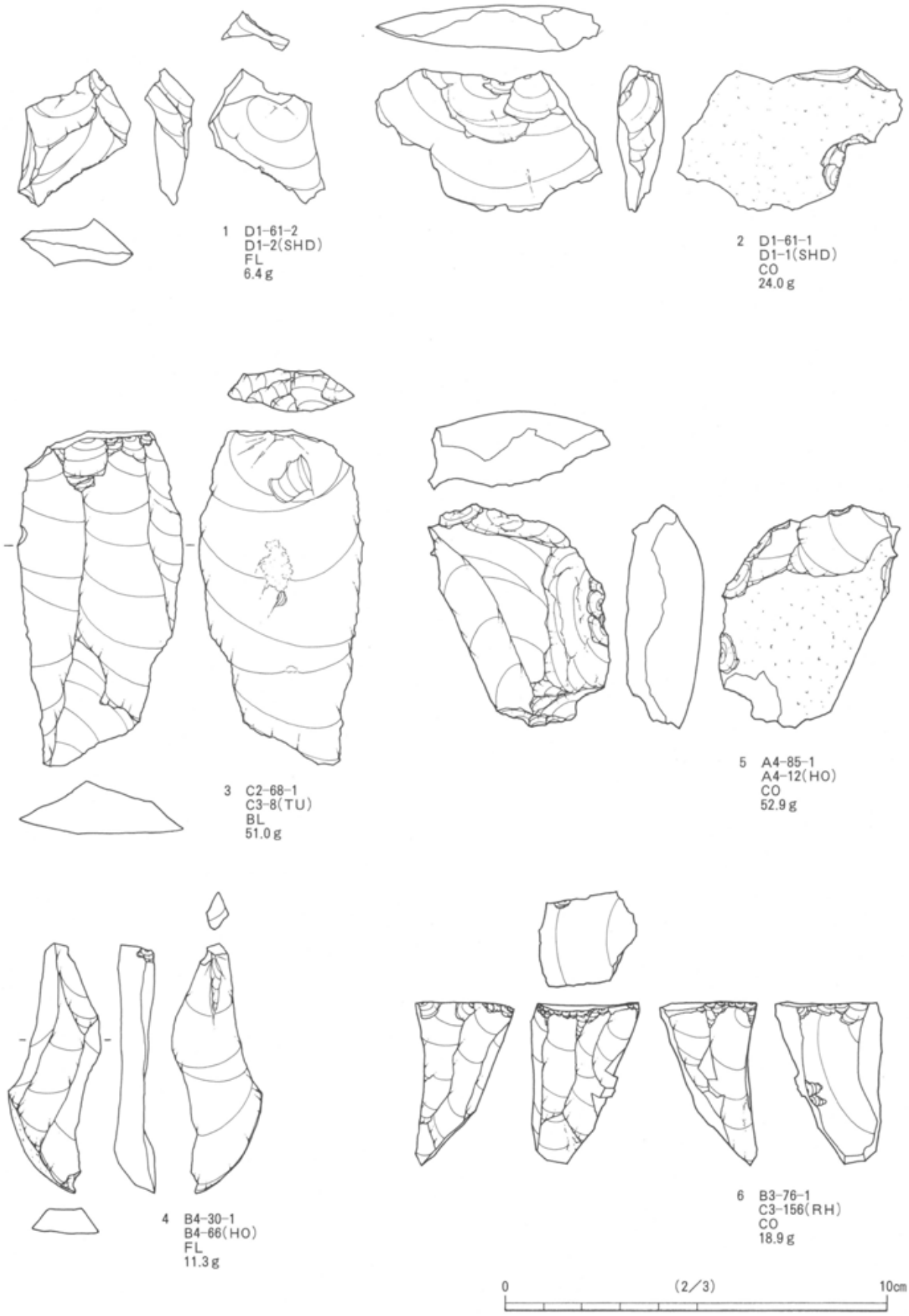
11　ブロック外（第132・133図，カラー図版13，図版４）

ここでは第１文化層のブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物について記述する。

１は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（7.5Y5/3）・灰色（N4/0）が混じる硬質緻密な頁岩による剥片である。D1-61グリッドのⅦ層～Ⅸａ層から出土した。２は自然面はオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部は灰色（10Y4/1）・黄褐色（10YR5/6）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩による石核である。不定型な剥片を素材として，正面の上部から小型で不定型な剥片を剥離している。裏面の右側縁に細かい剥離痕が見られるが，調整加工の可能性がある。あるいは石核を転用した削器かもしれない。D1-61グリッドのⅨｃ層から出土した。３は内部は灰色（7.5Y4/1）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）の地ににぶい黄褐色（10YR4/3）が部分的に混じり，新鮮な面はオリーブ黒色（7.5Y3/1）の凝灰岩による石刃である。



第132図　第１文化層ブロック外出土遺物分布



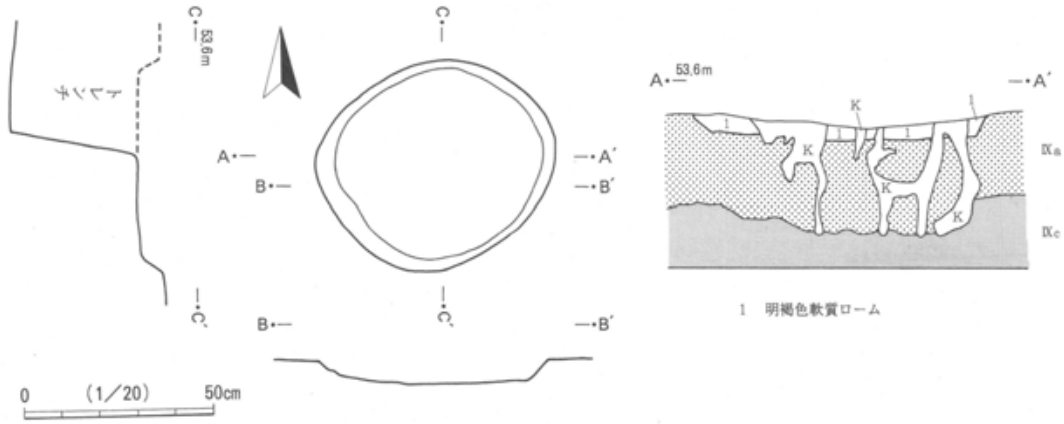
第133図　第１文化層ブロック外出土遺物

打面調整及び頭部調整が顕著で，両設打面の石核から剥離されている。C2-68グリッドのⅦ層～Ⅸａ層から出土した。４は自然面は黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスによる石刃状の剥片である。B4-30グリッドのⅦ層～Ⅸａ層から出土した。５は自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスによる石核である。不定型な剥片を素材として，交互剥離と求心的な剥離によって小型で不定型な剥片を剥離している。A4-85グリッドのⅨｃ層から出土した。６は淡黄色（2.5Y8/4）・灰白色（5Y8/1）の流紋岩による石核である。剥片を素材として，平坦打面から頭部調整を行いながら，石刃を剥離している。B3-76グリッドのⅦ層～Ⅸａ層から出土した。

12　土坑

233号土坑（第134図，図版５）

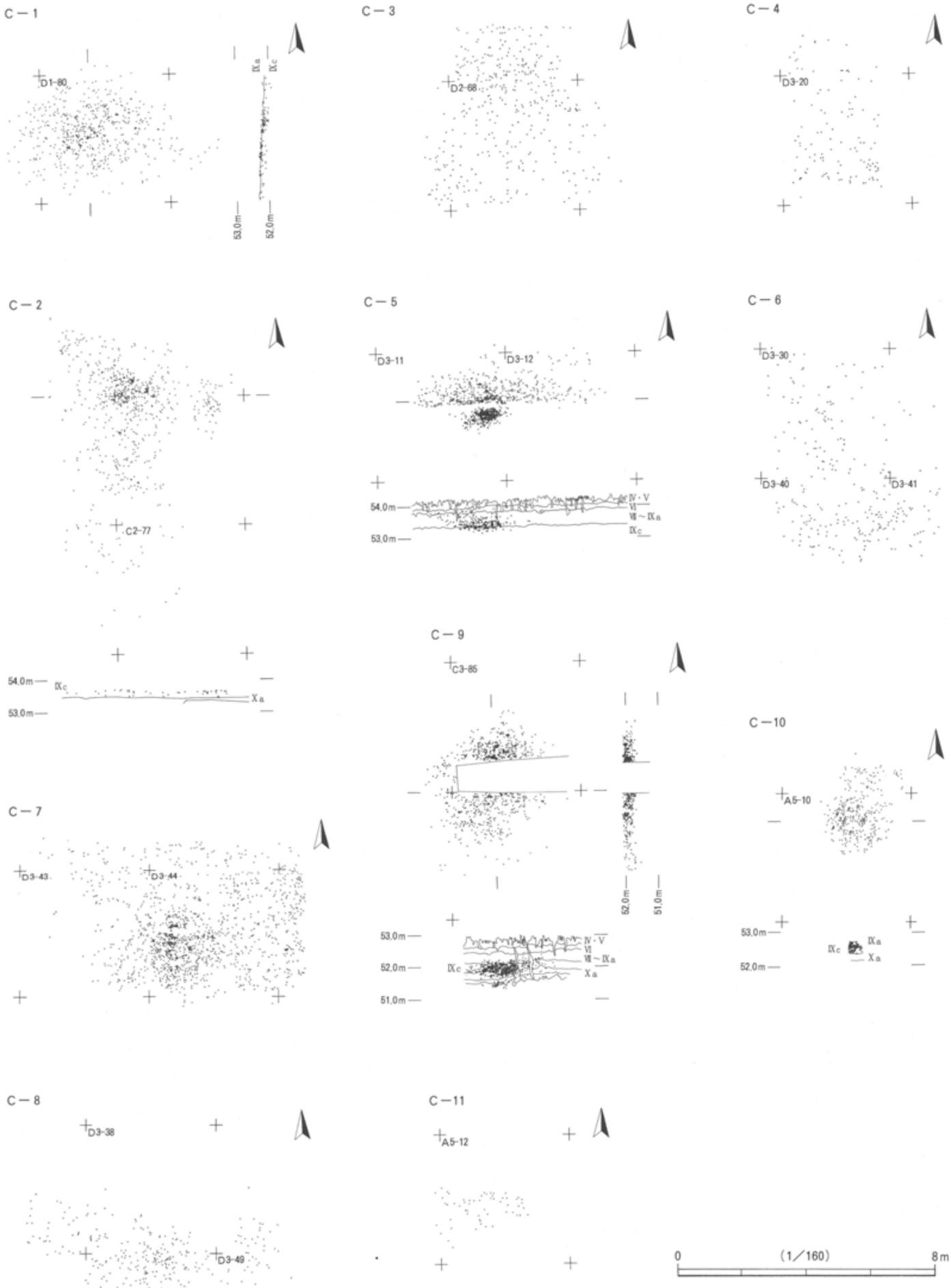
台地のほぼ中央部のD3-44グリッドで，長軸65cm，短軸55cm，深さ５cmの楕円形の土坑を１基検出した。検出面は，第２黒色帯下部のⅨａ層上部から中部と思われるが，本来の掘り込み面は，不明である。D3-Ａブロックが近接し，隣接するD3-43グリッドのⅦ層～Ⅸａ層からは，C3-Ａブロックの遺物と接合する剥片が単独で出土しているが，土坑内では遺物は発見されていない。攪乱が激しく，人為的に掘り込まれたのかどうかは不明である。



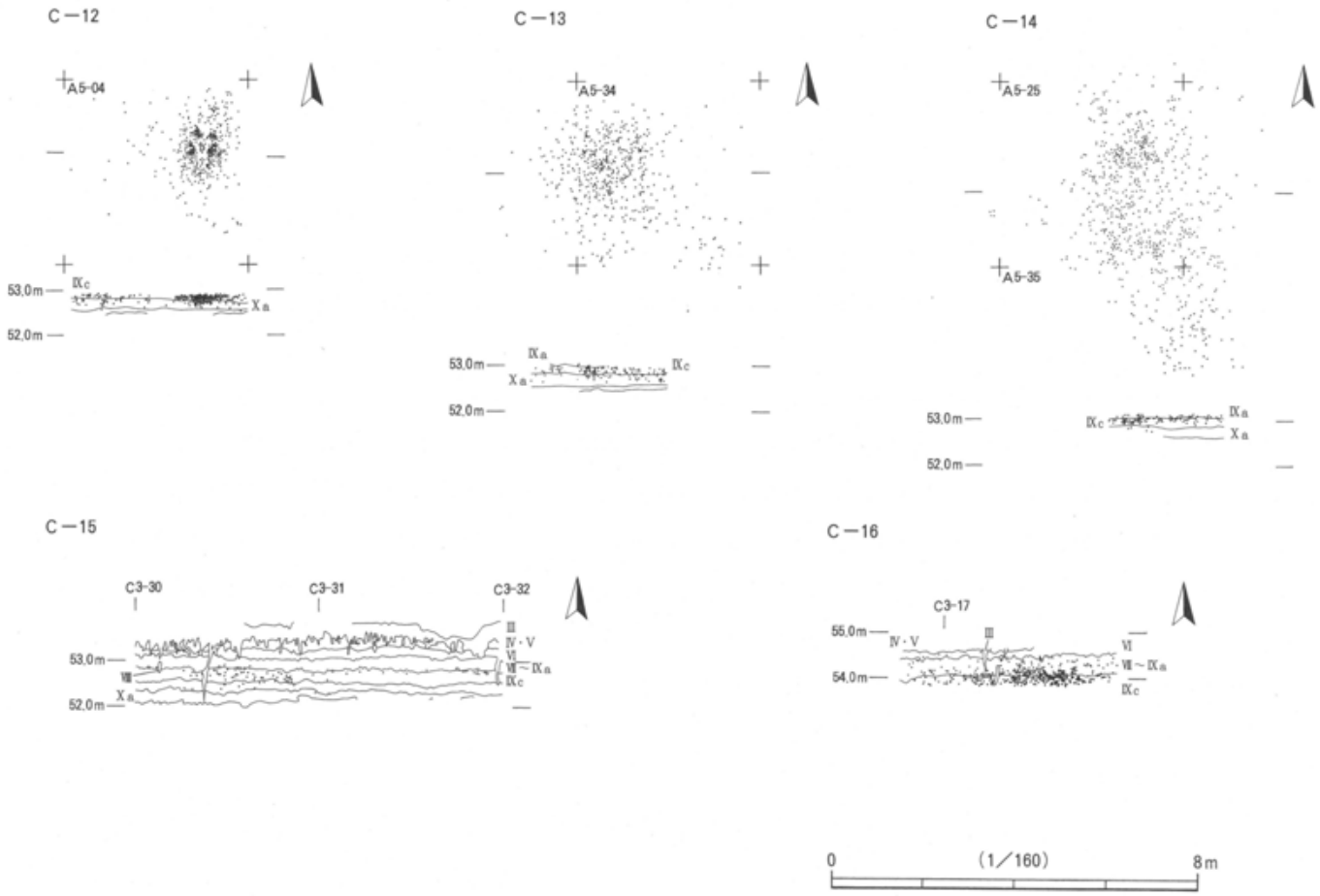
第134図　233号土坑

13　炭化物集中地点（第135・136図，図版５・６）

本遺跡では立川ローム層第２黒色帯（Ⅶ層～Ⅸｃ層）中で，炭化物が集中して16か所発見された。成因については，人為的か自然的要因か未だに確定していないという問題があるが，これらの炭化物の集中分布に対して，炭化物集中地点（C-１～C-16）と呼称し，記載した。この内，C-15とC-16は平面的な分布状況は不明であるが，その分布状況には一定の傾向が見られる。①単独出土の石器も含めた石器群との関係では，全体が重複するものが６か所（C-７・10・11・13～15），一部が重複するものが４か所（C-３・６・８・12），近接するものが４か所（C-２・４・５・９），４ｍ以上離れるものが１か所（C-１）で，概ね石器群の分布と重なる。②全体の分布状況は，若干南北に偏る傾向は見られるが，概ね台地全体に広がる。③個々の分布状況は，長径４ｍ～８ｍ，短径２ｍ～４ｍの規模で，深さは0.3ｍ～1.2ｍとばらつきがあるが，概ねⅨａ層を中心として0.4ｍほどに収まる。分布密度は，Ａ；全体的に散漫に広がるもの５か所（C-３・４・６・８・11），Ｂ；散漫な広がりの中に密度の高いまとまりを示すもの９か所（C-１・２・５・７・９・10・12～14）の２種類に分けられる。



第135図　第１文化層炭化物集中地点（１）



第136図　第１文化層炭化物集中地点（２）

第３節　第２文化層

第２文化層は，立川ローム層ハードローム最上層（Ⅳ・Ⅴ層）を中心に包含されている石器群である。A4-A，A5-B・C・D，B4-A・B，C4-Bブロックの７か所が該当する。C4-Bブロックを除いてこれらのブロック間には接合関係や母岩の共有関係がある。武蔵野台地のⅤ層ないしⅣ層下部の石器群に相当すると考えられるが，礫はA5-D，C4-Bブロックを除いて，ほとんどあるいは全く伴わない。

１　A4-Aブロック（第137～143・200図，第24・25表，カラー図版14・20，図版６・７）

１）ブロックの概要

A4-Aブロックは，調査範囲南側のA4-78・79・88・89・97・98，B4-70グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸13ｍ，短軸４ｍの範囲に117点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層下部を中心にⅢ層からⅥ層にかけて，70㎝ほどの高低差をもって包含されている（第137・138図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，掻器１点，加工痕ある剥片３点（２個体），使用痕ある剥片１点，剥片103点（102個体），砕片２点，石核５点の合計117点（115個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ２点，黒曜石Ｅ２点，黒曜石Ｇ10点，軟質の安山岩２点，頁岩Ｂ57点（55個体），頁岩Ｃ１点，頁岩Ｅ８点，チャート２点，瑪瑙・玉髄33点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｅ１母岩（A4-11），軟質の安山岩１母岩（A4-９），頁岩Ｂ３母岩（A4-１～３），頁岩Ｃ１母岩（A4-５），頁岩Ｅ１母岩（A4-７），チャート１母岩（A4-６），瑪瑙・玉髄２母岩（A4-13・14）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は84％（98/117点）である。

・**A4-１**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4）・浅黄色（2.5Y7/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）の地に明褐色（7.5YR5/6）の縞，明黄褐色（10YR6/6）の砂質部，明赤褐色（5YR5/6）が部分的に混じる北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片３点（２個体），剥片48点（47個体）の合計52点（50個体；357.6ｇ）である。接合資料は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片３点（２個体），剥片23点（22個体）の合計27点（25個体；283.6ｇ）である。

・**A4-２**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3），内部はにぶい黄橙色（10YR6/3），新鮮な面は褐灰色（5YR4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（17.9ｇ）である。

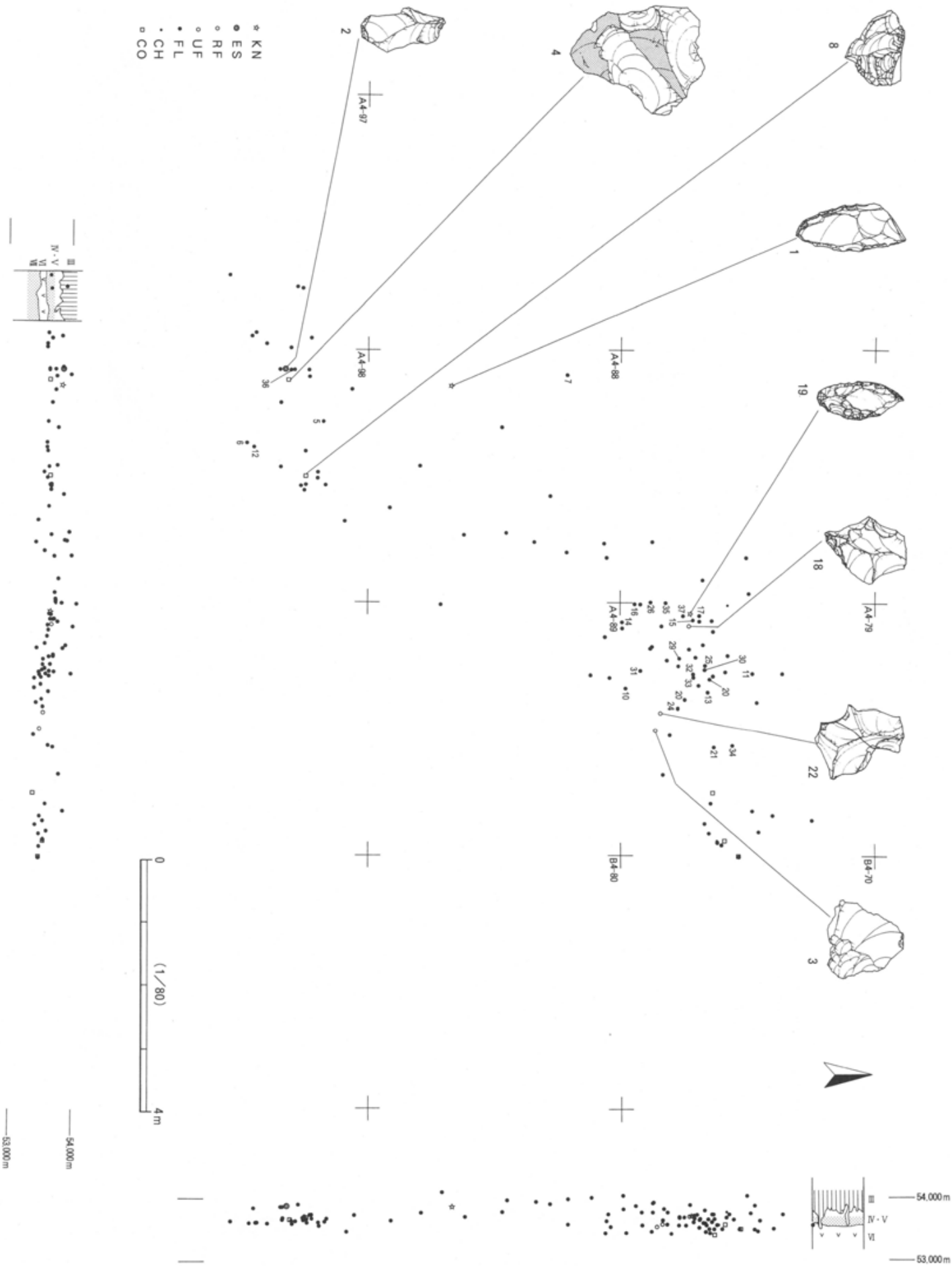
・**A4-３**：自然面は灰褐色（5YR4/2），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・にぶい赤褐色（2.5YR4/4）の北関東産頁岩である。剥片１点（14.9ｇ）の単独資料である。

・**A4-５**：黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（15.3ｇ）の単独資料である。

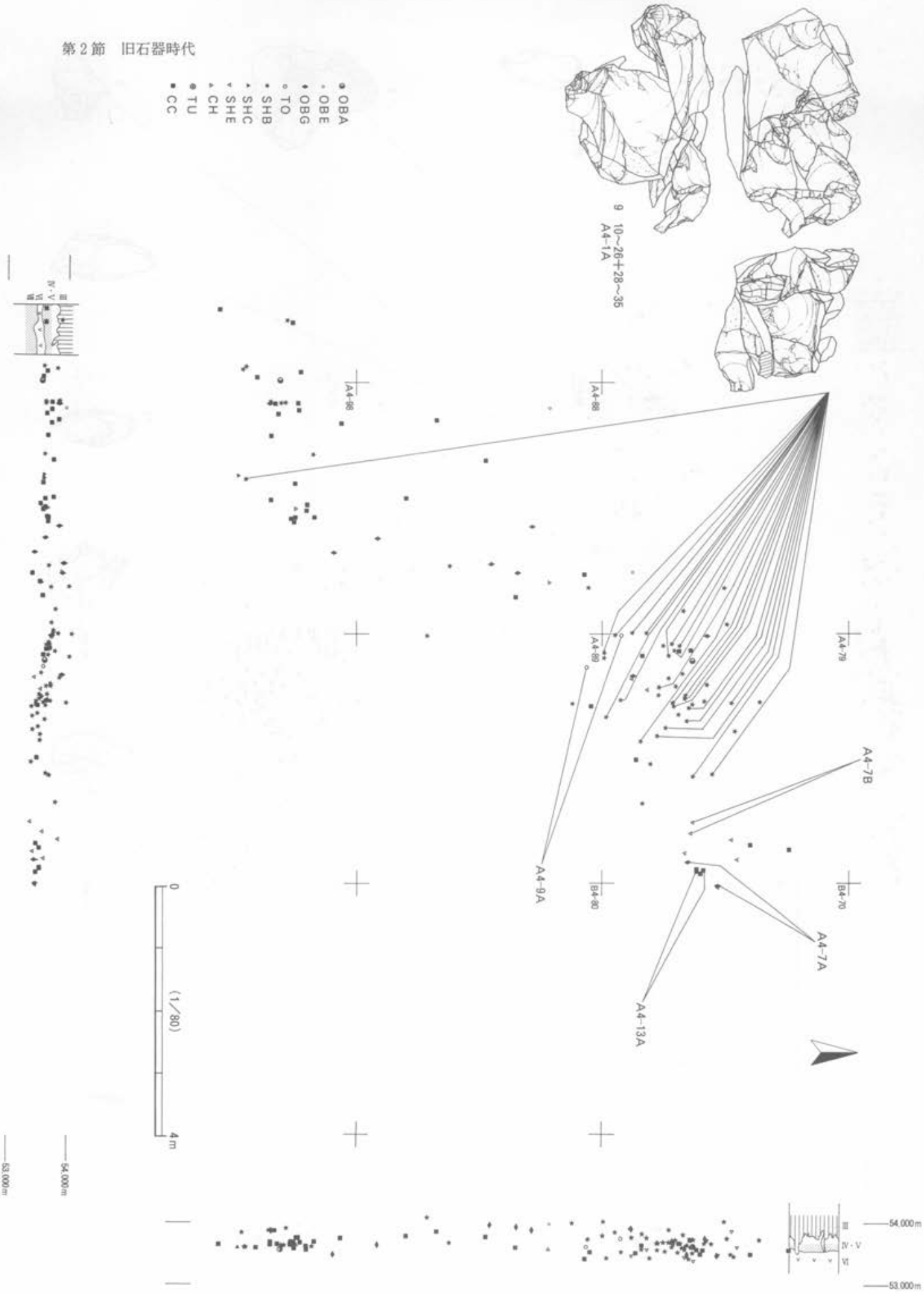
・**A4-６**：暗緑灰色（7.5GY4/1）のチャートである。石核１点（19.4ｇ）の単独資料である。

・**A4-７**：自然面はにぶい赤褐色（2.5YR4/4）の地に黒色の粒，筋が入り，内部はにぶい赤褐色（7.5R4/3）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点，石核２点の合計６点（25.4ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片１点，石核１点，合計２点（7.9ｇ），Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（7.4ｇ）の接合である。その他に同一母岩がB4-Ｂブロックに２点ある。

・**A4-９**：自然面及び内部は灰色（7.5Y6/1）の地に灰白色（2.5Y8/2）の斑が入る軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（32.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（32.8ｇ）である。小型で扁平な楕



第137図　Ａ４－Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第138図　Ａ４－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

円礫を素材とした剥片が接合している。

・**A4-11**：自然面は黒色・黒灰色，スリガラス状で，内部は黒色でやや半透明な地に黒灰色の縞・モヤが入る黒曜石である。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（12.1ｇ）である。

・**A4-13**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/3）の地に黒色の粒が入り，内部は浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，掻器１点，使用痕ある剥片１点，剥片22点，砕片１点，石核２点の合計27点（260.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（51.3ｇ）である。

・**A4-14**：にぶい黄橙色（10YR6/4）の地に明褐色（7.5YR5/8）・淡黄色（2.5Y8/4）が混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点（14.7ｇ）である。

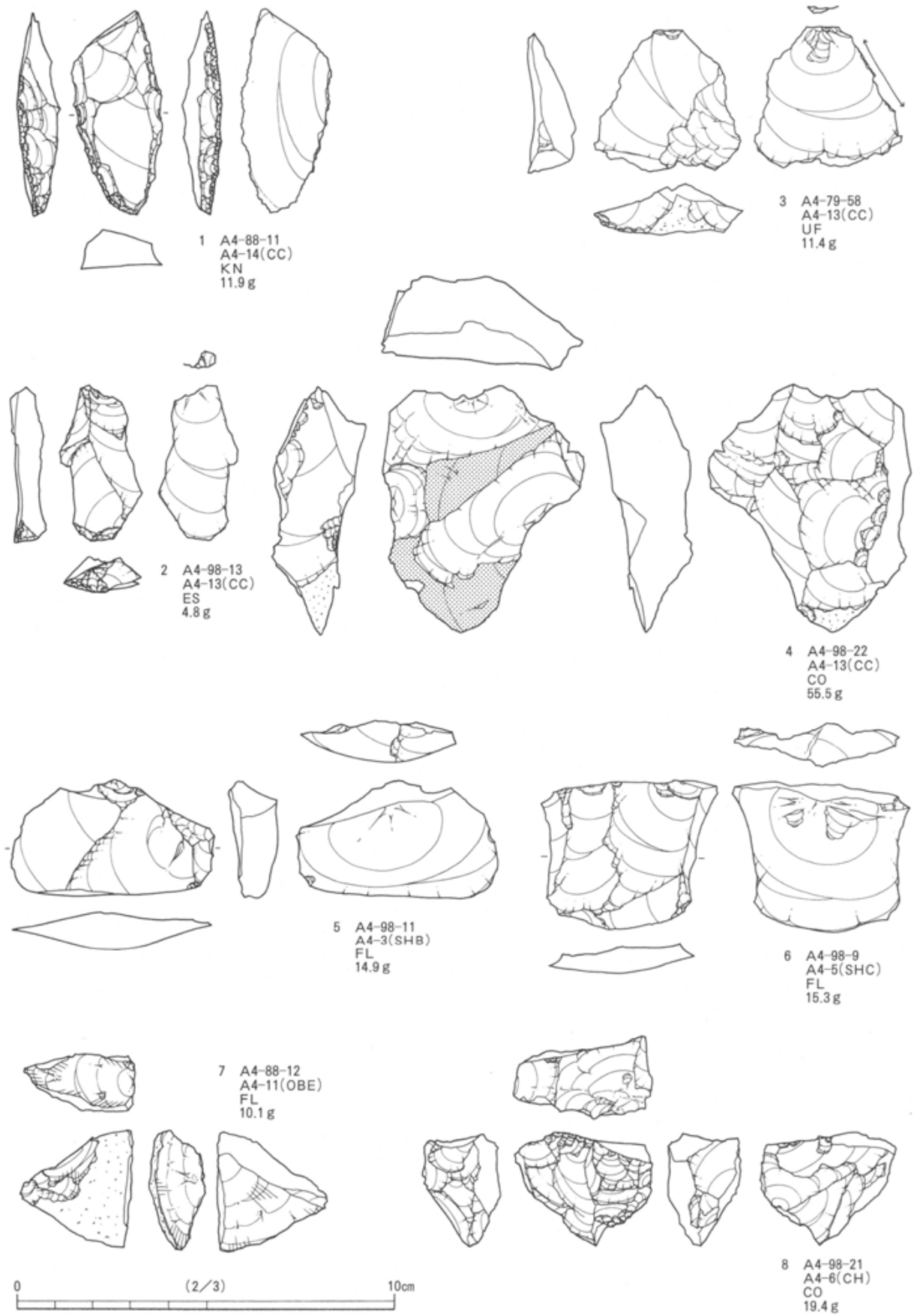
なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の剥片２点（6.1ｇ），産地不明の黒曜石の剥片９点（8.2ｇ），剥片１点（0.1ｇ），頁岩の剥片２点（2.3ｇ），チャートの剥片１点（4.2ｇ），瑪瑙・玉髄の剥片４点（17.0ｇ）がある。

３）出土遺物（第139図）

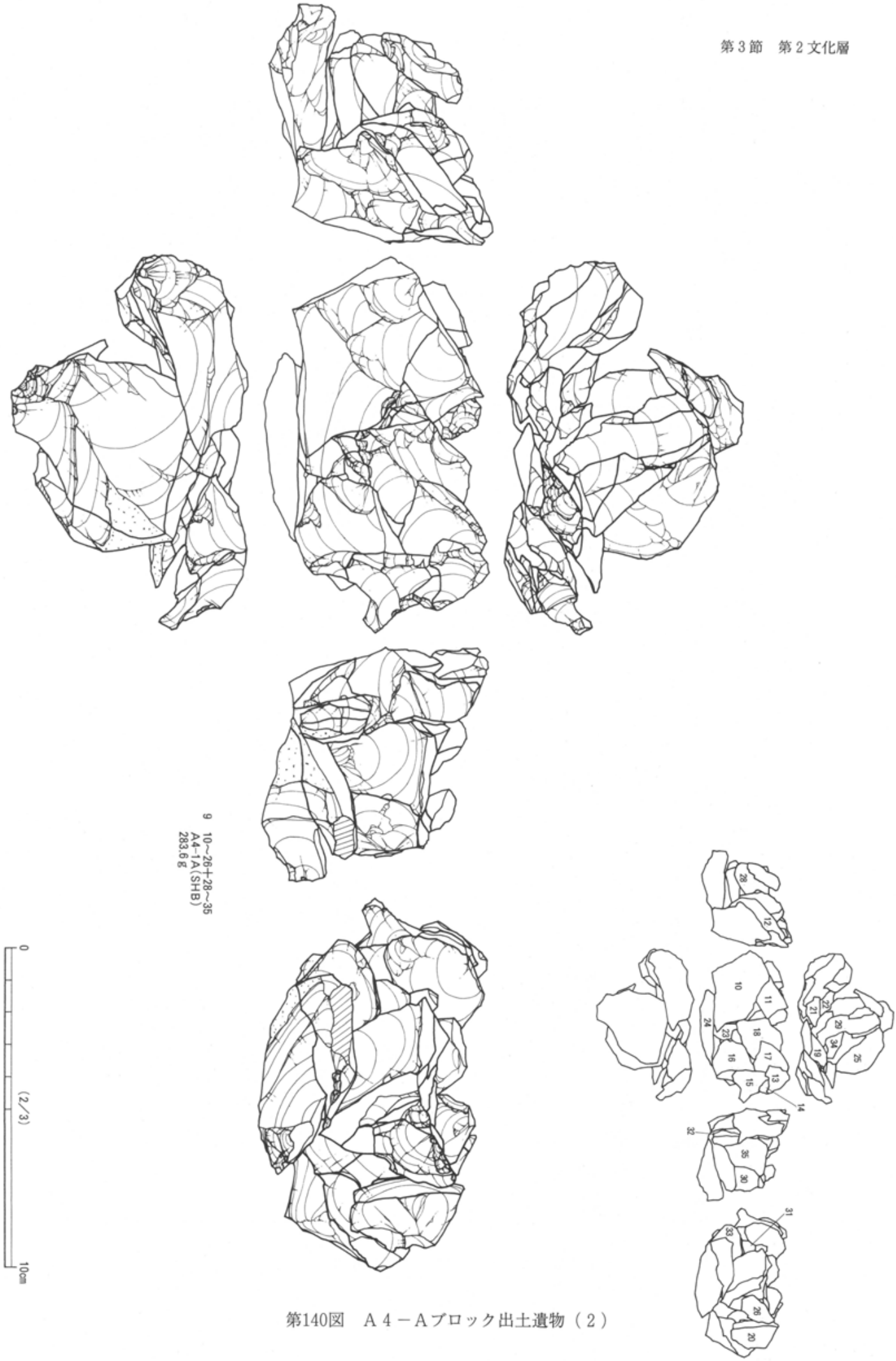
１は瑪瑙・玉髄によるナイフ形石器である。横長剥片を素材として，両側縁に急角度の調整加工を行って切出形に仕上げている。２～４は同一母岩の瑪瑙・玉髄による石器である。２は掻器である。縦長剥片の末端に急角度の調整加工を行っている。３は使用痕ある剥片である。裏面右側縁に刃こぼれが見られる。末端の微細な剥離痕は偶発的なものと思われる。４は石核である。表面の一部にポジティブな剥離面が残っており，剥片を素材として，求心的な剥離作業を行っている。左側面は石核の底面と考えられる。５は北関東産の頁岩による剥片，６は嶺岡産頁岩による剥片である。７は伊豆半島周辺産の黒曜石による剥片である。上面及び右側面が欠損しており，前者については意図的な切断の可能性がある。８はチャートによる石核である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離しており，最終的には上面を打面として，小型の剥片を剥離して，作業を終了している。

４）接合資料とその関連資料（第140～143図）

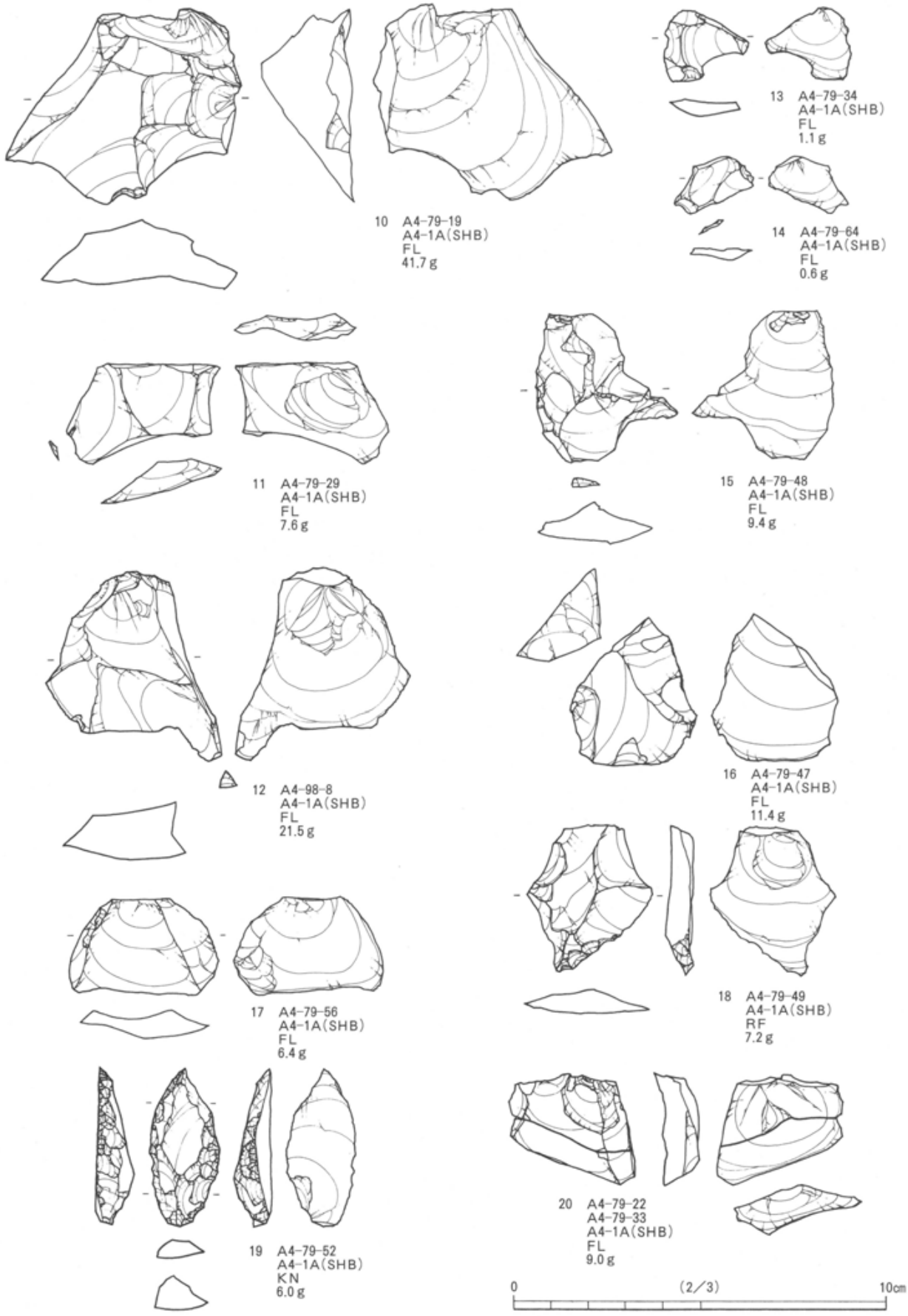
・**A4-１（第140～143図）**　にぶい黄色（2.5Y6/3）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片３点（２個体），剥片48点（47個体）の合計52点（50個体）で構成される。９はナイフ形石器１点（19），加工痕ある剥片３点（２個体；18・22），剥片23点（22個体；10～17・20・21・23～26・28～35）の接合資料である。９の正面図を基準に剥離作業の行程をみると，左方向から10→上方向から11→左方向から12→上方向から13～19→左方向から20→上方向から21～23→左方向から24→25→上方向から26→下方向から28→ほぼ下方向から29～35の順に，不定型な剥片を剥離している。こうして得られた剥片の中から，19は打面側を基部として，二側縁に細かい調整加工を行ってナイフ形石器に仕上げている。また，18は右側縁下部に細かい調整加工を行っている。22は右側縁上部にノッチ状の調整加工を行っているが，この調整加工により２つに欠損したものと考えられる。36・37は接合しなかった同一母岩の剥片である。表面に自然面を残す。これらのことから，比較的大型の礫を素材として，90度の打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離した後，石核は他地点へ持ち出して引き続き剥離作業を行ったものと考えられる。



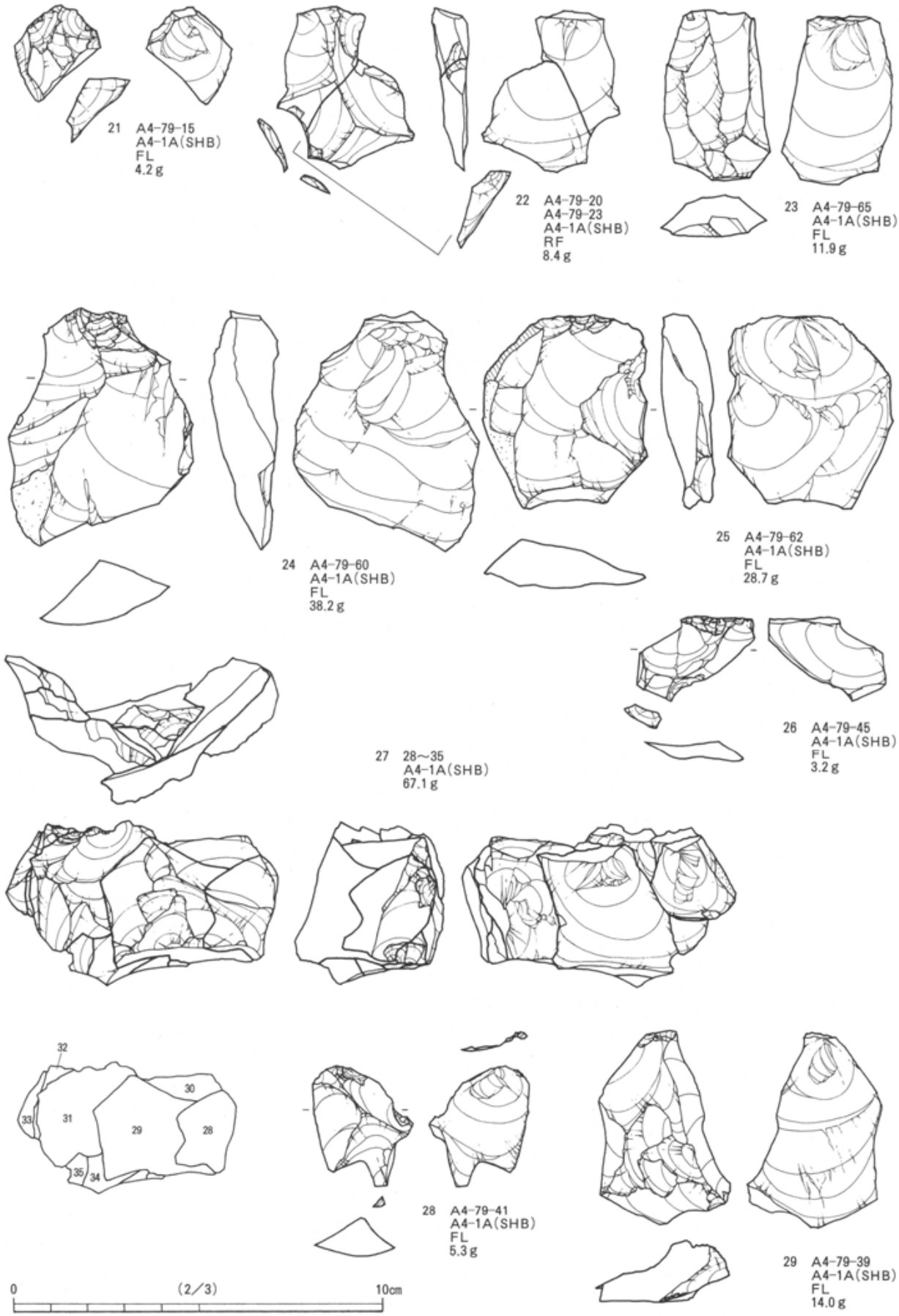
第139図　Ａ４－Ａブロック出土遺物（１）



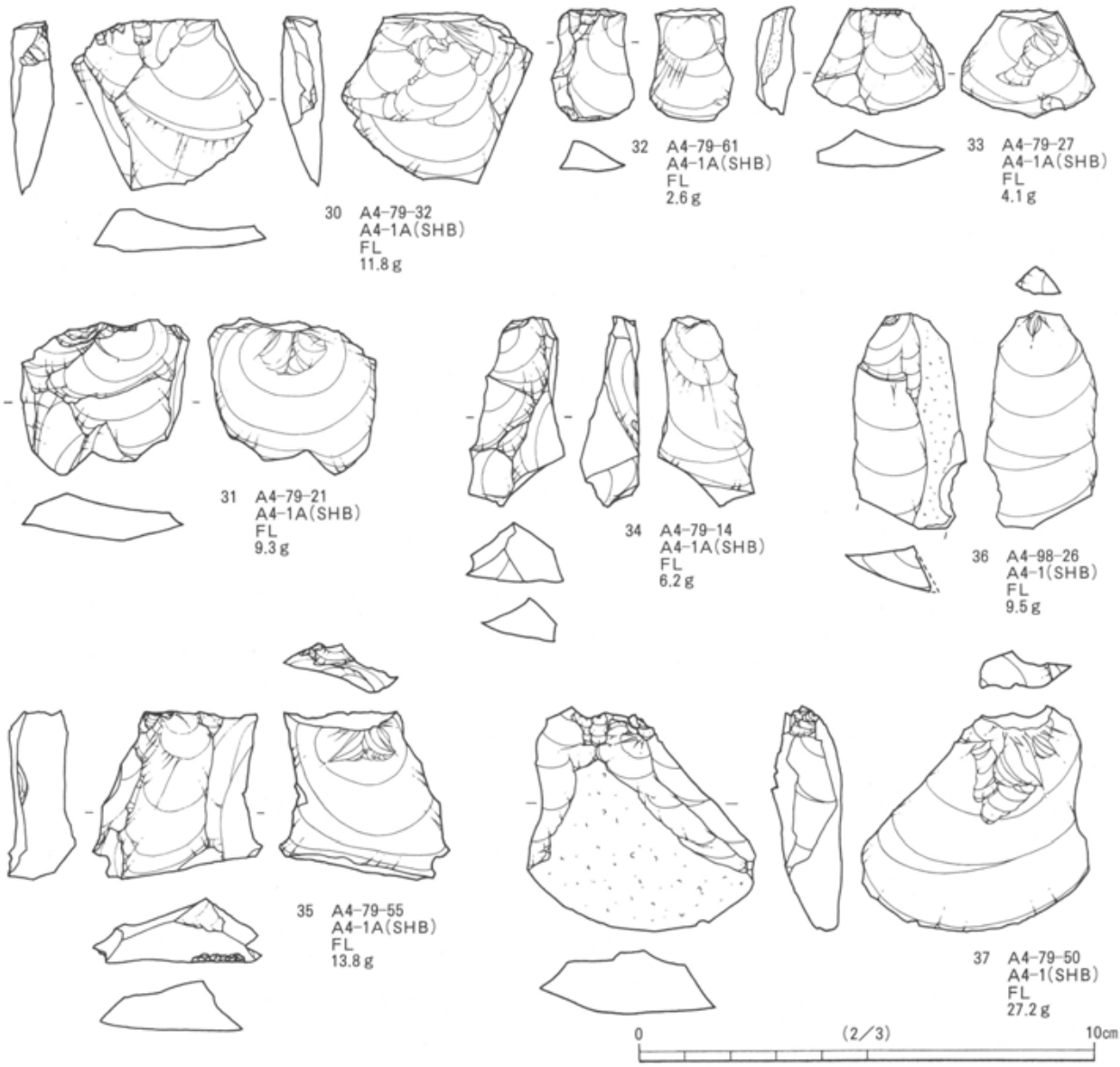
第140図　Ａ４－Ａブロック出土遺物（２）



第141図　Ａ４－Ａブロック出土遺物（３）



第142図　Ａ４－Ａブロック出土遺物（４）



第143図　Ａ４－Ａブロック出土遺物（５）

第24表　Ａ４－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A4-1(SHB)	1									3(2)								48(47)							52(50)
A4-2(SHB)																		4							4
A4-3(SHB)																		1							1
A4-5(SHC)																		1							1
A4-6(CH)																				1					1
A4-7(SHE)																		4		2					6
A4-9(TO)																		2							2
A4-11(OBE)																		2							2
A4-13(CC)					1						1							22	1	2					27
A4-14(CC)	1																	1							2
その他(OBA)																		2							2
その他(OBG)																		9	1						10
その他(SHE)																		2							2
その他(CH)																		1							1
その他(CC)																		4							4
合　計	2				1					3(2)	1							103(102)	2	5					117(115)

第25表　Ａ４－Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)																		2							2
黒曜石Ｅ(OBE)																		2							2
黒曜石Ｇ(OBG)																		9	1						10
安山岩(TO)																		2							2
頁岩Ｂ(SHB)	1									3(2)								53(52)							57(55)
頁岩Ｃ(SHC)																		1							1
頁岩Ｅ(SHE)																		6		2					8
チャート(CH)																		1		1					2
瑪瑙・玉髄(CC)	1				1						1							27	1	2					33
合　計	2				1					3(2)	1							103(102)	2	5					117(115)

2　A5-Bブロック（第144～146・200図，第26～28表，カラー図版14・20，図版６）

１）ブロックの概要

A5-Ｂブロックは，調査範囲南側のA5-06・07・17グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸４ｍの範囲に24点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層下部を中心に50㎝ほどの高低差をもって包含されている（第144・145図）。

ブロックは，削器１点，剥片17点，砕片１点，石核２点，礫３点の合計24点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，黒曜石Ｅ２点，黒曜石Ｇ２点，頁岩Ｂ５点，チャート３点，瑪瑙・玉髄８点である。礫石材は，チャート１点（１母岩；185.8ｇ），砂岩１点（１母岩；6.6ｇ），不明１点（１母岩；900.1ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｅ１母岩（A5-149），頁岩Ｂ２母岩（A5-147，B4-3），チャート１母岩（A5-40），瑪瑙・玉髄１母岩（A5-148）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は76％（16/21点）である。

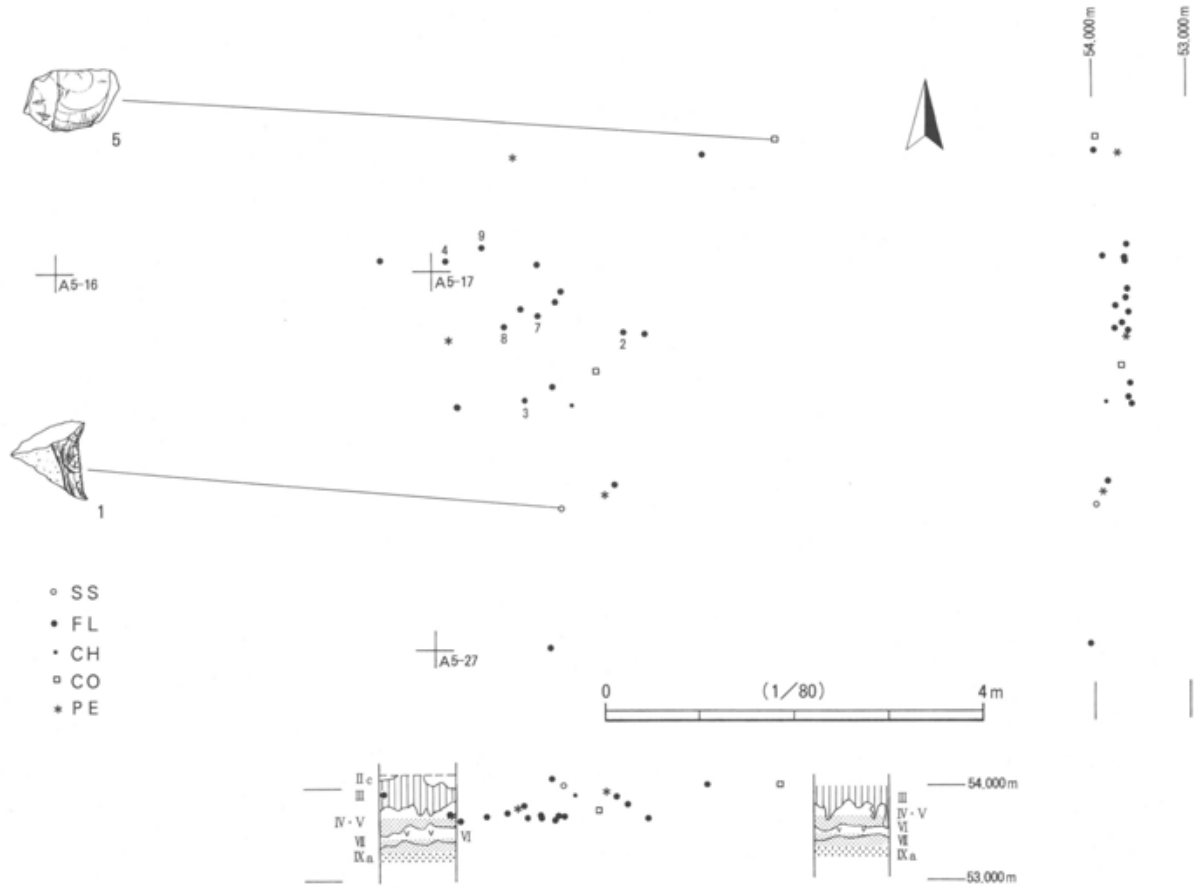
・**A5-40**：自然面は暗灰色（N3/0），内部は暗緑灰色（10GY3/1）の地に暗赤褐色（10R3/3）が部分的に混じり，節理は褐灰色（10YR4//1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（18.9ｇ）である。その他に同一母岩がA5-Ｃブロックに31点ある。

・**A5-147**：自然面は暗褐色（7.5YR3/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）・明褐色（7.5YR5/6）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（28.1ｇ）である。接合資料は，剥片３点の合計３点（25.7ｇ）である。

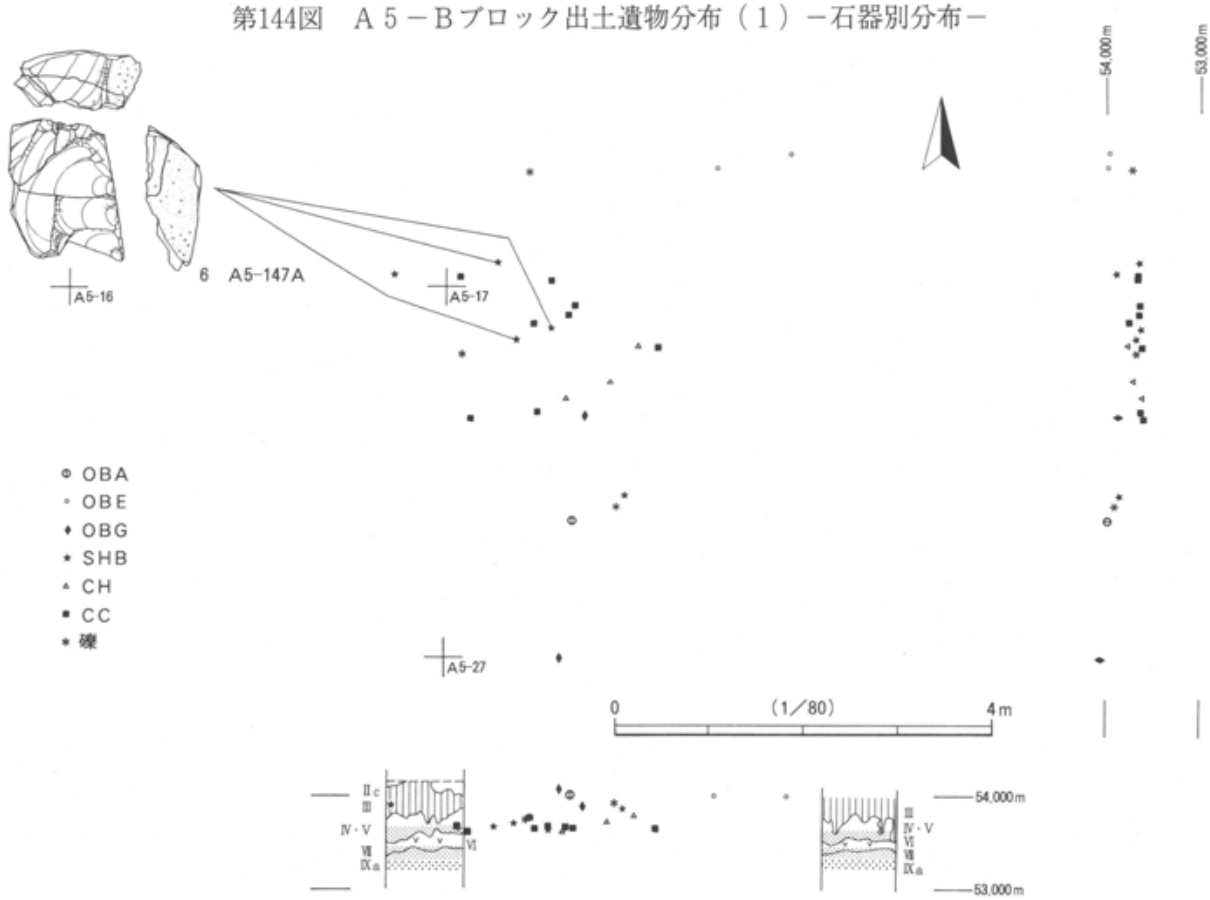
・**A5-148**：自然面は灰白色（2.5Y8/1），内部は浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片６点（37.1ｇ）である。

・**A5-149**：自然面は黒灰色，スリガラス状で，内部は灰色と黒灰色が多数縞状に入る不透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（16.4ｇ）である。その他に同一母岩がA5-Ｄブロックに１点ある。

・**B4-３**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/3）・灰黄褐色（10YR5/2）の地に黒色の粒が入り，節理は黄褐色（10YR5/6），新鮮な面はオリーブ黒色（5Y3/1）の北関東産頁岩である。本ブロックでは，剥片１点（18.7ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がA5-Ｃブロックに２点，B4-Ｂブロックに２点ある。



第144図　Ａ５－Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第145図　Ａ５－Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の削器１点（4.2ｇ），産地不明の黒曜石の剥片１点，砕片１点の合計２点（10.8ｇ），瑪瑙・玉髄の剥片２点（7.2ｇ）がある。

３）出土遺物（第146図１～５）

１は栃木県高原山産の黒曜石による削器である。切断剥片を用い，右側縁に急角度の調整加工を行っている。２はチャートによる不定型な剥片である。図示していないが，同一母岩の石核は加工痕ある剥片の可能性もある。３・４は同一母岩の瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。５は伊豆半島周辺産の黒曜石による石核である。剥片を素材として不定型な剥片を剥離している。

砂岩とチャートの礫は赤化している。石材不明の礫は，破損しているが，閃緑岩による台石の可能性もある。

４）接合資料とその関連資料（第146図６～９）

・A5-147（第146図６～９）　にぶい黄橙色（10YR6/4）の北関東産頁岩である。剥片４点で構成される。６は剥片３点（７～９）の接合資料である。右方向から比較的大型の剥片を剥離した後，90度打面転移して上方向から７→８，また90度打面転移して右方向から数枚の不定型な剥片を剥離した後，９を継続している。右側面は90度打面転移した際の旧打面と考えられる。なお，右側面の自然面は，節理の可能性もある。

第26表　Ａ５－Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A5-40(CH)																		2		1					3
A5-147(SHB)																		4							4
A5-148(CC)																		6							6
A5-149(OBE)																		1		1					2
B4-3(SHB)																		1							1
その他(OBA)						1																			1
その他(OBG)																		1	1						2
その他(CC)																		2							2
合　計						1												17	1	2					21

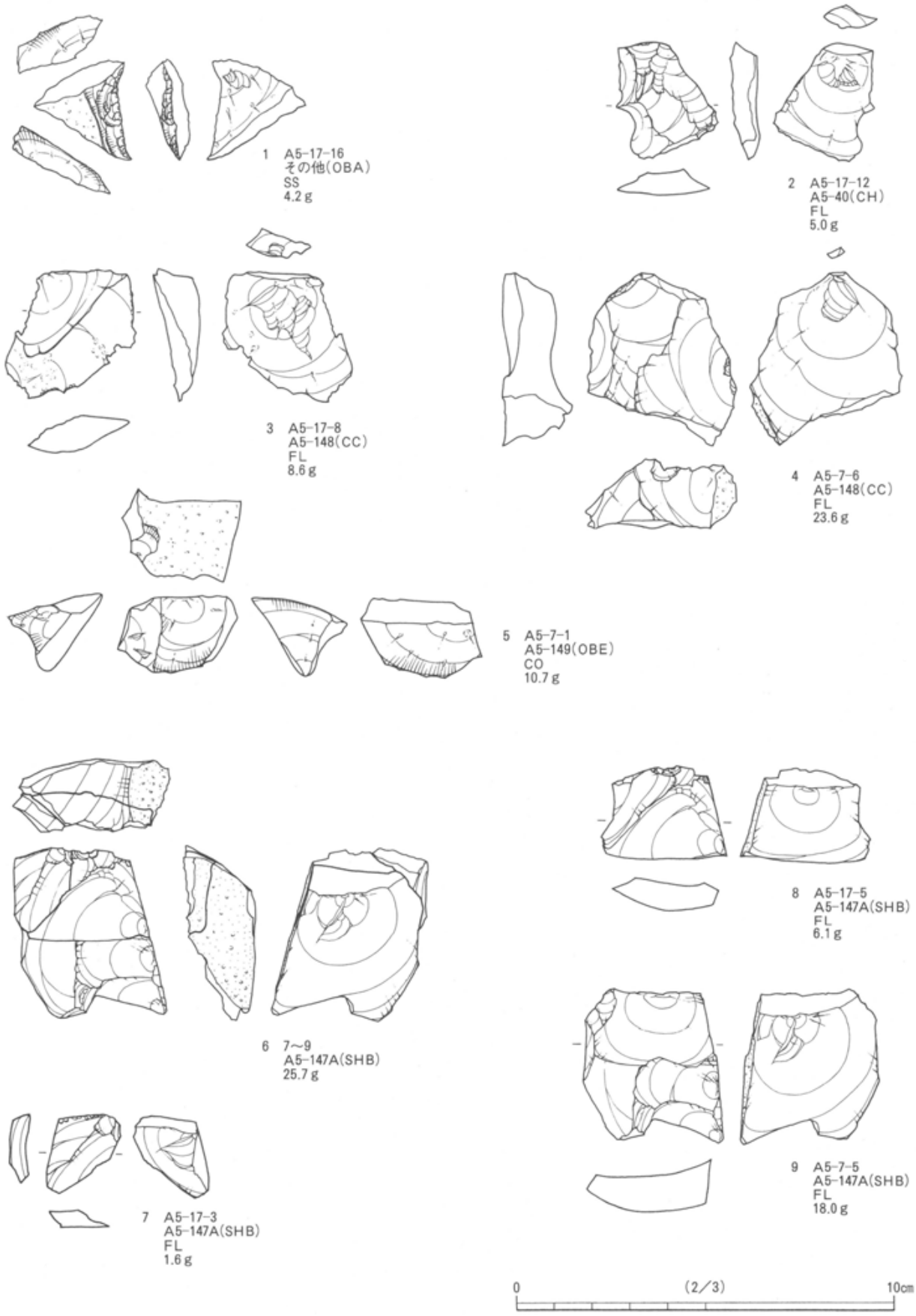
第27表　Ａ５－Ｂブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)						1																			1
黒曜石Ｅ(OBE)																		1		1					2
黒曜石Ｇ(OBG)																		1	1						2
頁岩Ｂ(SHB)																		5							5
チャート(CH)																		2		1					3
瑪瑙・玉髄(CC)																		8							8
合　計						1												17	1	2					21

第28表　Ａ５－Ｂブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
A5R-14	SA	1	6.6
A5R-22	CH	1	185.8
A5R-26	UK	1	900.1

石　材	個数	重量
チャート（CH）	1	185.8
砂岩(SA)	1	6.6
不明(UK)	1	900.1
合　計	3	1092.4



第146図　Ａ５－Ｂブロック出土遺物

３　A5-Cブロック（第147～150・200図，第29・30表，カラー図版14・15・20）

１）ブロックの概要

A5-Cブロックは，調査範囲南側のA5-13～15・23・24・34グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸９ｍ，短軸６ｍの範囲に102点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層下部を中心に60cmほどの高低差をもって包含されている（第147・148図）。第１文化層のA5-Aブロックと重複しているが，石器群の内容・出土層位等に相違があり，ブロックを分けた。

ブロックは，ナイフ形石器３点，削器１点，加工痕ある剥片５点，使用痕ある剥片１点，敲石１点，剥片74点（71個体），砕片６点，石核11点（10個体）の合計102点（98個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ８点，安山岩１点，流紋岩１点，頁岩Ｂ２点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｅ１点，チャート62点（59個体），ホルンフェルス１点，瑪瑙・玉髄25点（24個体）である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（A5-111），流紋岩１母岩（A5-36），頁岩Ｂ１母岩（B4-３），チャート３母岩（A5-40・123・140），瑪瑙・玉髄２母岩（A5-２・143）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は58％（59/102点）である。

・**A5-２**：自然面が暗赤褐色（5YR3/3），内部がにぶい黄橙色（10YR7/3）・灰白色（10YR8/1）が混じる資料，内部が灰白色（5Y7/1）の地に灰白色（7.5Y8/1）が混じる資料，灰白色（5Y8/2）の資料など母岩内での変異の大きい瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片５点，石核７点（６個体）の合計12点（11個体；422.0ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは石核２点（１個体；92.3ｇ），Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（24.2ｇ），Ｃは剥片１点，石核１点の合計２点（45.4ｇ）である。

・**A5-36**：自然面がにぶい黄橙色（10YR6/4）の地に黒色の粒が入り，内部が灰白色（2.5Y8//2）の流紋岩である。石核１点（88.0ｇ）の単独資料である。

・**A5-40**：暗緑灰色（10GY3/1）のチャートである。母岩の特徴はA5-Ｂに記したとおりである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片５点，剥片24点（21個体），石核１点の合計31点（28個体；81.8ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片４点（１個体；19.5ｇ），Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（9.3ｇ）である。その他に同一母岩がA5-Ｂブロックに３点ある。

・**A5-111**：自然面が浅黄色（2.5Y7/4）の地に黒色の粒が入る安山岩である。敲石１点（287.2ｇ）の単独資料である。

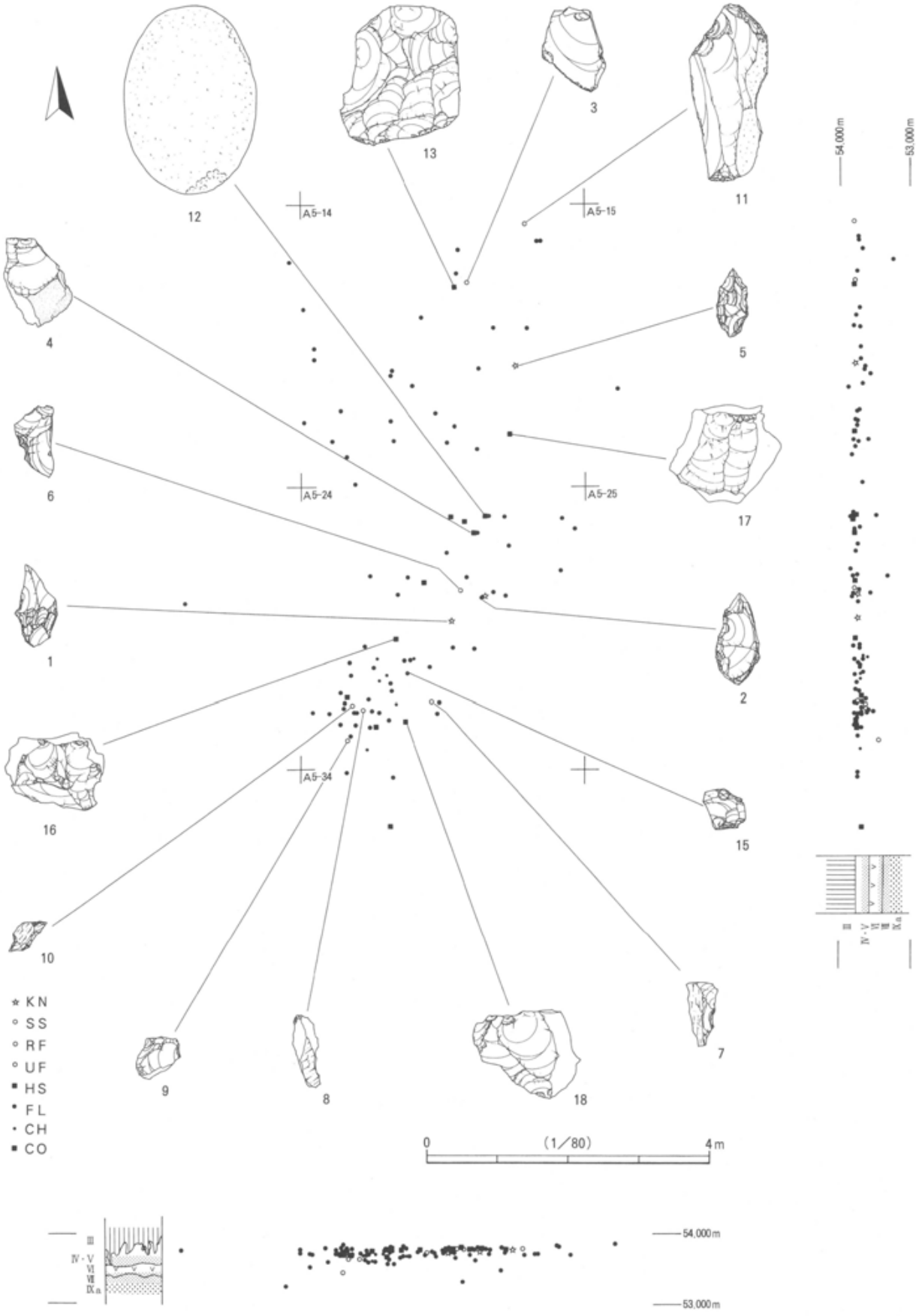
・**A5-123**：自然面はオリーブ黒色（5Y3/1），内部は暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の地に黒色の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（2.6ｇ）である。

・**A5-140**：自然面はにぶい赤褐色（5YR4/4），内部は灰色（10Y4/1），節理は黄灰色（2.5Y4/1）のチャートである。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・**A5-143**：浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（2.5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点，使用痕ある剥片１点，剥片５点，石核１点の合計９点（70.5ｇ）である。

・**B4-３**：にぶい黄橙色（10YR6/3）などの北関東産頁岩である。石器群の内訳は，削器１点，剥片１点の合計２点（43.8ｇ）である。その他に同一母岩がA5-Ｂブロックに１点，B4-Ｂブロックに２点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の剥片３点，砕片５点の合計８点（2.8

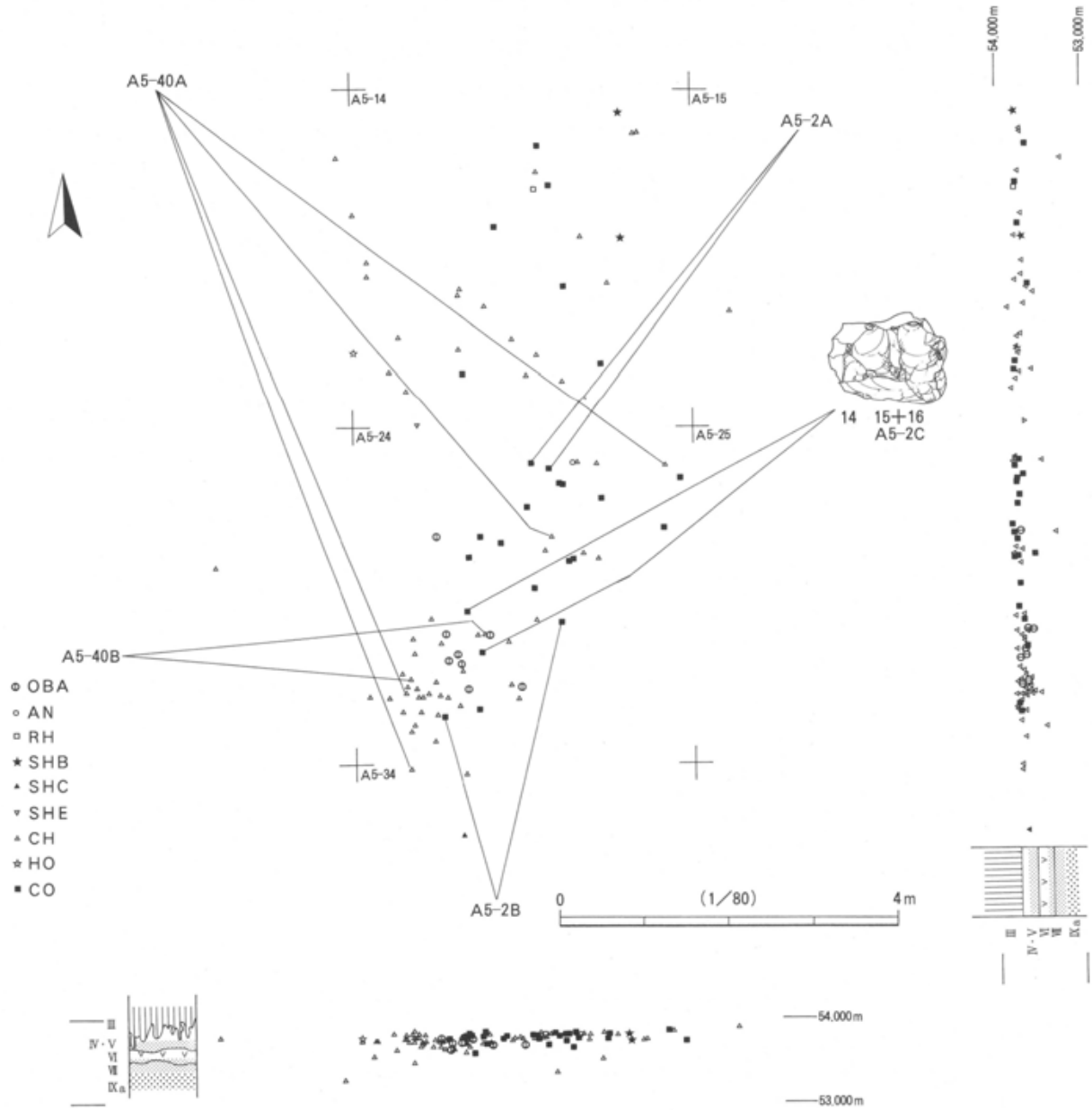


第147図　Ａ５－Ｃブロック出土遺物分布（１）

ｇ），嶺岡産頁岩の石核１点（17.5ｇ），頁岩の剥片１点（5.0ｇ），チャートの剥片26点，砕片２点の合計28点（7.4ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（0.4ｇ），瑪瑙・玉髄の剥片４点（1.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第149図，第150図13）

１～４は同一母岩の瑪瑙・玉髄による石器である。１・２はナイフ形石器である。１は不定型な剥片の打面側を基部として，両側縁の下半部に急角度の調整加工を行っている。２は横長剥片を素材として，先端部を除いてほぼ全周に細かい調整加工を行っている。裏面左側縁の上部には刃こぼれが見られる。３は使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材として，末端と右側縁に刃こぼれが見られる。４は石核である。小型の礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。５～10は同一母岩のチャートによる石器である。５はナイフ型石器である。横長剥片を素材として，右側縁の先端部



第148図　Ａ５－Ｃブロック出土遺物分布（２）

のごく一部を除いて急角度の調整加工を行っており，角錐状石器に類似する。６～10は加工痕ある剥片である。６～８は横長剥片などを素材にして，粗い急角度の調整加工を行っており，ナイフ形石器の未製品の可能性もある。９・10は不定型な剥片を素材として，細かい調整加工を行っており，６～８とは異なる。11は北関東産頁岩による削器である。比較的大型で不定型な剥片を素材として，右側縁上部と末端に細かい調整加工を行っている。表面両側縁及び裏面右側面に刃こぼれが見られる。12は安山岩による敲石である。扁平な礫の右側面上部と末端に敲打痕が見られる。13は流紋岩による石核である。作業面を打面として，求心的な剥片剥離を行っている。

４）接合資料とその関連資料（第150図14～18）

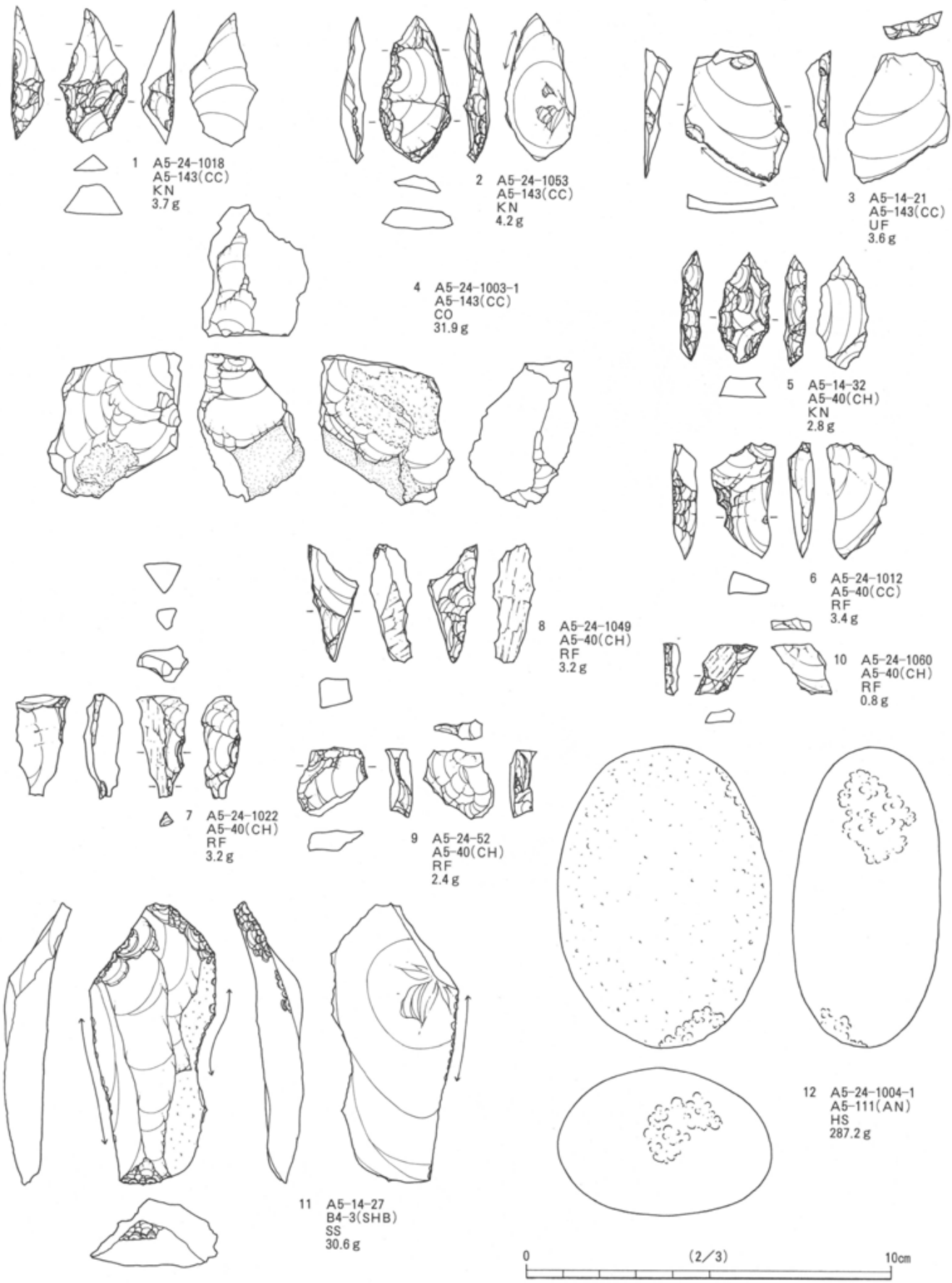
・A5-２（第150図14～18）　にぶい黄橙色（10YR7/3）などの瑪瑙・玉髄である。剥片５点，石核７点（６個体）の合計12点（11個体）で構成される。接合資料は，３グループある。C（14）は剥片１点（15），石核１点（16）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。17・18は接合しなかった同一母岩の石核である。これらの個体も，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。この母岩は石核が７点もあることからも分かる様にかなり大型の礫をチャンク状に数個体に分割した後，90度の打面転移を基本として，打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を剥離したものと考えられる。

第29図　Ａ５－Ｃブロック母岩別石器組成

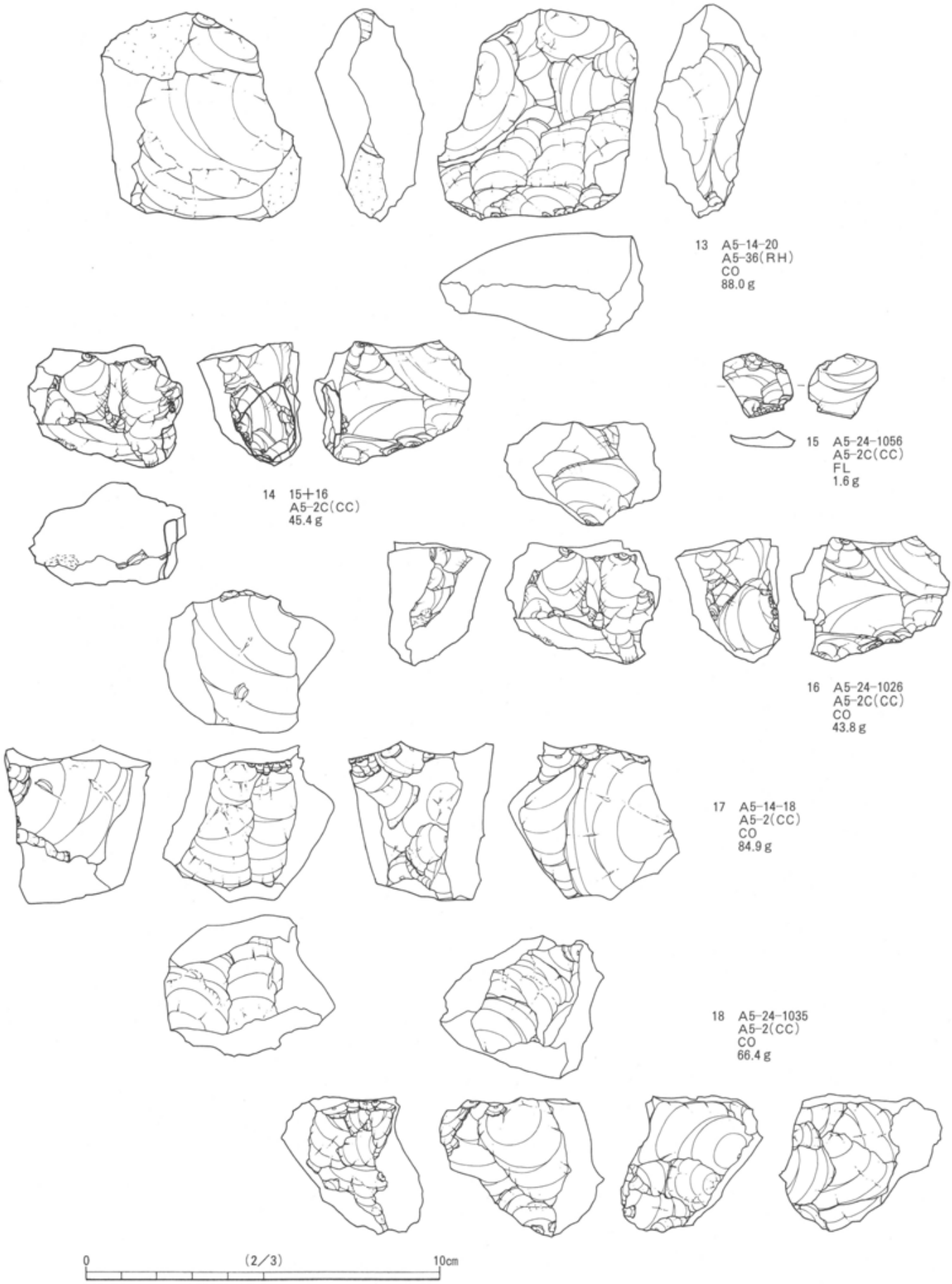
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A5-2(CC)																		5		7(6)					12(11)
A5-36(RH)																				1					1
A5-40(CH)	1									5								24(21)		1					31(28)
A5-111(AN)																1									1
A5-123(CH)																		2							2
A5-140(CH)																		1							1
A5-143(CC)	2										1							5		1					9
B4-3(SHB)						1												1							2
その他(OBA)																		3	5						8
その他(SHC)																				1					1
その他(SHE)																		1							1
その他(CH)																		27	1						28
その他(HO)																		1							1
その他(CC)																		4							4
合　計	3					1				5	1					1		74(71)	6	11(10)					102(98)

第30図　Ａ５－Ｃブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)																		3	5						8
安山岩(AN)																1									1
流紋岩(RH)																				1					1
頁岩Ｂ(SHB)						1												1							2
頁岩Ｃ(SHC)																				1					1
頁岩Ｅ(SHE)																		1							1
チャート(CH)	1									5								54(51)	1	1					62(59)
ホルンフェルス(HO)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)	2										1							14		8(7)					25(24)
合　計	3					1				5	1					1		74(71)	6	11(10)					102(98)



第149図　Ａ５－Ｃブロック出土遺物（１）



第150図　Ａ５－Ｃブロック出土遺物（２）

４　A5-Dブロック（第151～153・200図，第31～33表，カラー図版15）

１）ブロックの概要

A5-Dブロックは，調査範囲南側のA5-26グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30ｍである。

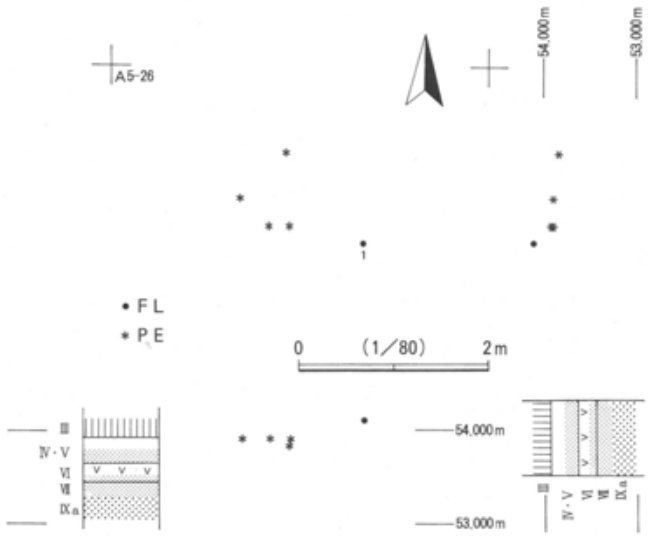
ブロックの規模と形状は，長軸２ｍ，短軸１ｍの範囲に５点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅣ・Ⅴ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第151・152図）。第１文化層のA5-Aブロックとほぼ重複しているが，石器群の内容・出土層位等に相違があり，ブロックを分けた。

ブロックは，剥片１点，礫４点の合計５点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｅ１点である。礫石材は，流紋岩２点（２母岩；1,132.8ｇ），砂岩２点（２母岩；344.6ｇ）で，識別率は100％である。

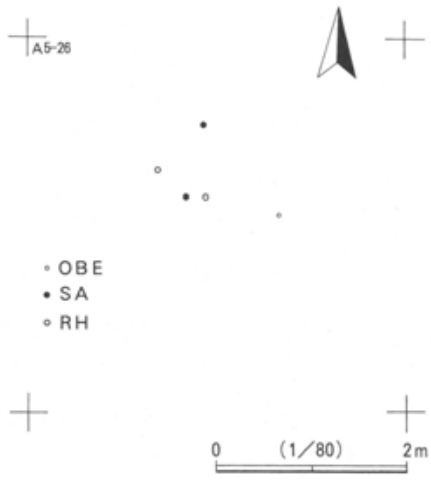
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは１母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｅ１母岩（A5-149）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（1/1点）である。

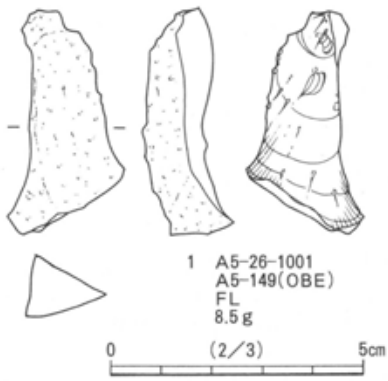
・**A5-149**：灰色と黒灰色が縞状に入る不透明な黒曜石である。伊豆半島周辺産と考えられる。本ブロックでは，剥片１点（8.5ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がA5-Ｂに２点ある。



第151図　Ａ５－Ｄブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第152図　Ａ５－Ｄブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第153図　Ａ５－Ｄブロック出土遺物

３）出土遺物（第153図）

１は伊豆半島周辺産の黒曜石による剥片である。

礫は流紋岩の礫の小型の破片を除いて，被熱の痕跡が顕著である。砂岩の礫は中型だが，流紋岩の礫は1,000ｇを越える大型のものである。

第31表　Ａ５－Ｄブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A5-149(OBE)																		1							1
合　計																		1							1

第32表　Ａ５－Ｄブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ｅ(OBE)																		1							1
合　計																		1							1

第33表　Ａ５－Ｄブロック礫組成

母　　岩	石　材	個数	重量
A5R-8	SA	1	178.1
A5R-9	SA	1	166.5
A5R-24	RH	1	1125.8
A5R-25	RH	1	7.0

石　　材	個数	重量
流紋岩（RH）	2	1132.8
砂岩(SA)	2	344.6
合　　計	4	1477.4

５　B4-Aブロック（第154～156・200図，第34・35表，カラー図版15・20，図版６）

１）ブロックの概要

B4-Aブロックは，調査範囲南側のB4-13・23・24グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸４ｍの範囲に179点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅣ・Ⅴ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第154・155図）。

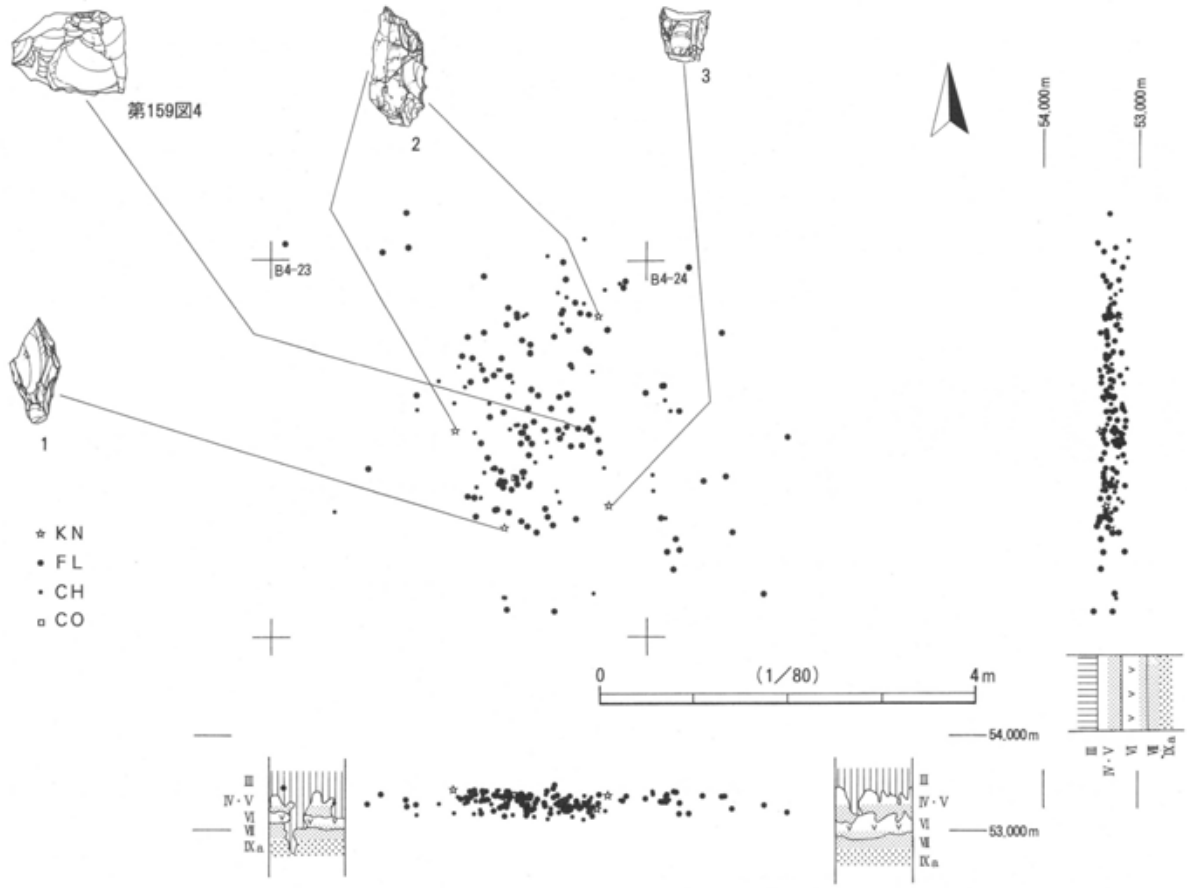
ブロックは，ナイフ形石器４点（３個体），剥片118点，砕片56点，石核１点の合計179点（178個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ174点（173個体），安山岩１点，凝灰岩１点，ホルンフェルス１点，瑪瑙・玉髄２点である。

２）母岩の特徴と内容

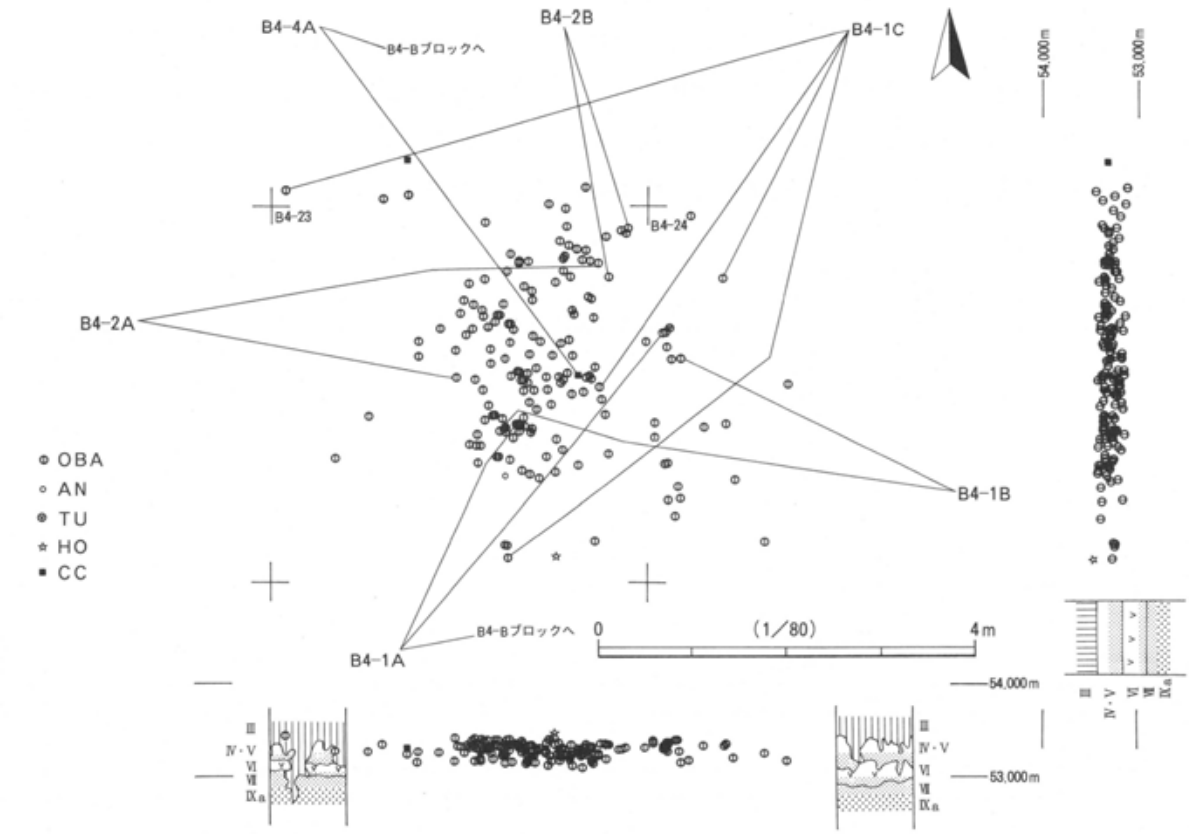
本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ２母岩（B4-１・２），瑪瑙・玉髄２母岩（B4-４・７）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は74％（132/179点）である。

・B4-１：黒灰色不透明の黒曜石である。φ１mmほどの淡黄色と灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片46点，砕片１点，石核１点の合計48点（87.3ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片１点，石核１点の合計２点（26.3ｇ）がB4-Ｂの剥片１点と接合しており，Ｂは剥片２点（19.8ｇ），Ｃは剥片４点（11.4ｇ）の接合である。厚みのあるチャンク状の不定型な剥片である。その他に同一母岩がB4-Ｂブロックに３点ある。

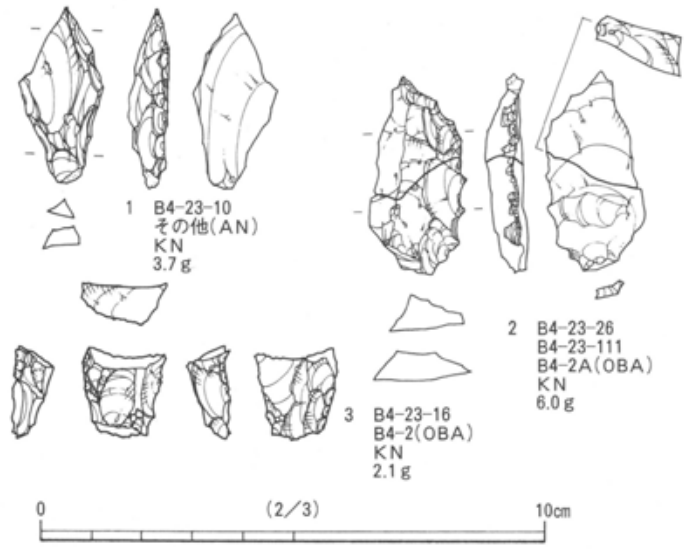
・B4-２：黒灰色半透明の黒曜石である。φ１mmほどの黄白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器３点（２個体），剥片65点，砕片14点の合計82点（81個体；65.3ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａはナイフ形石器２点（１個体；6.0ｇ），Ｂは剥片２点（14.9ｇ）の接合である。



第154図　Ｂ４－Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第155図　Ｂ４－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第156図　Ｂ４－Ａブロック出土遺物

・B4-４：明赤褐色（5YR5/6）・灰白色（2.5Y8/2）の地に暗紫灰色（5P3/1）が混じる瑪瑙・玉髄である。本ブロックでは剥片１点（11.3ｇ）であるが，B4-Ｂブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がB4-Ｂブロックに１点ある。

・B4-７：灰黄色（2.5Y6/2）・赤褐色（5YR4/6）の地に灰白色（2.5Y7/1）の斑が入る瑪瑙・玉髄である。剥片１点（12.2ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の剥片４点，砕片40点の合計44点（2.0ｇ），安山岩のナイフ形石器１点（3.7ｇ），凝灰岩の砕片１点（0.1ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（0.2ｇ）がある。

３）出土遺物（第156図１）

１は安山岩による二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を素材として両側縁に粗い急角度の調整加工を行っている。

４）接合資料とその関連資料（第156図２・３）

・B4-２（第156図２・３）　黒灰色半透明の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。ナイフ形石器３点（２個体），剥片65点，砕片14点の合計82点（81個体）で構成される。接合資料は，２グループある。Ａ（２）はナイフ形石器２点が接合して１個体となる。縦長剥片を素材として，右側縁に粗い急角度の調整加工を行っている。３は接合しなかった同一母岩のナイフ形石器である。上部が欠損するため，形態は不明であるが，基部と考えられる。表裏両面の両側縁に急角度の調整加工を行っている。

第34表　Ｂ４－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B4-1(OBA)																		46	1	1					48
B4-2(OBA)	3(2)																	65	14						82(81)
B4-4(CC)																		1							1
B4-7(CC)																		1							1
その他(OBA)																		4	40						44
その他(AN)	1																								1
その他(TU)																			1						1
その他(HO)																		1							1
合　計	4(3)																	118	56	1					179(178)

第35表　Ｂ４－Ａブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)	3(2)																	115	55	1					174(173)
安山岩(AN)	1																								1
凝灰岩(TU)																			1						1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)																		2							2
合　計	4(3)																	118	56	1					179(178)

6　B4-Bブロック（第157～159・201図，第36～38表，カラー図版15・20，図版６）

１）ブロックの概要

B4-Ｂブロックは，調査範囲南側のB4-15・25・26グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸４ｍの範囲に30点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層下部を中心に50cmほどの高低差をもって包含されている（第157・158図）。

ブロックは，掻器１点，剥片28点，礫１点の合計30点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ４点，頁岩Ｂ２点，頁岩Ｅ２点，瑪瑙・玉髄21点である。礫石材は，安山岩１点（１母岩；30.8ｇ）で，識別率は100％である。本ブロックは，瑪瑙・玉髄による不定型な剥片を主体としており，石核はない。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（B4-１），頁岩Ｂ１母岩（B4-３），頁岩Ｅ１母岩（A4-７），瑪瑙・玉髄３母岩（B4-４～６）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は79％（23/29点）である。

・A4-７：にぶい赤褐色（7.5YR4/3）の頁岩である。母岩の特徴はA4-Ａブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片２点（22.9ｇ）である。その他に同一母岩がA4-Ａブロックに６点ある。

・B4-１：黒灰色不透明の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。母岩の特徴はB4-Ａブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片４点（38.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点（35.7ｇ）がB4-Ａブロックの剥片１点，石核１点の合計２点と接合している。その他に同一母岩がB4-Ａブロックに46点ある。

・B4-３：にぶい黄橙色（10YR6/3）などの北関東産頁岩である。母岩の特徴はA5-Ｂブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片２点（13.8ｇ）である。その他に同一母岩がA5-Ｂブロックに１点，A5-Ｃブロックに２点ある。

・B4-４：明赤褐色（5YR5/6）などの瑪瑙・玉髄である。母岩の特徴はB4-Ａブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片２点（14.3ｇ）である。接合資料は，剥片１点（1.4ｇ）がB4-Ａブロックの剥片１点と接合している。

・B4-５：自然面は明黄褐色（10YR6/6），内部は灰白色（2.5Y8/2）の地に暗灰褐色（5YR3/6）の縞，灰白色（5Y8/2）の夾雑物が入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片10点（87.6ｇ）である。

・B4-６：内部は灰黄色（2.5Y7/2），節理は褐色（10YR4/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点（11.9ｇ）である。

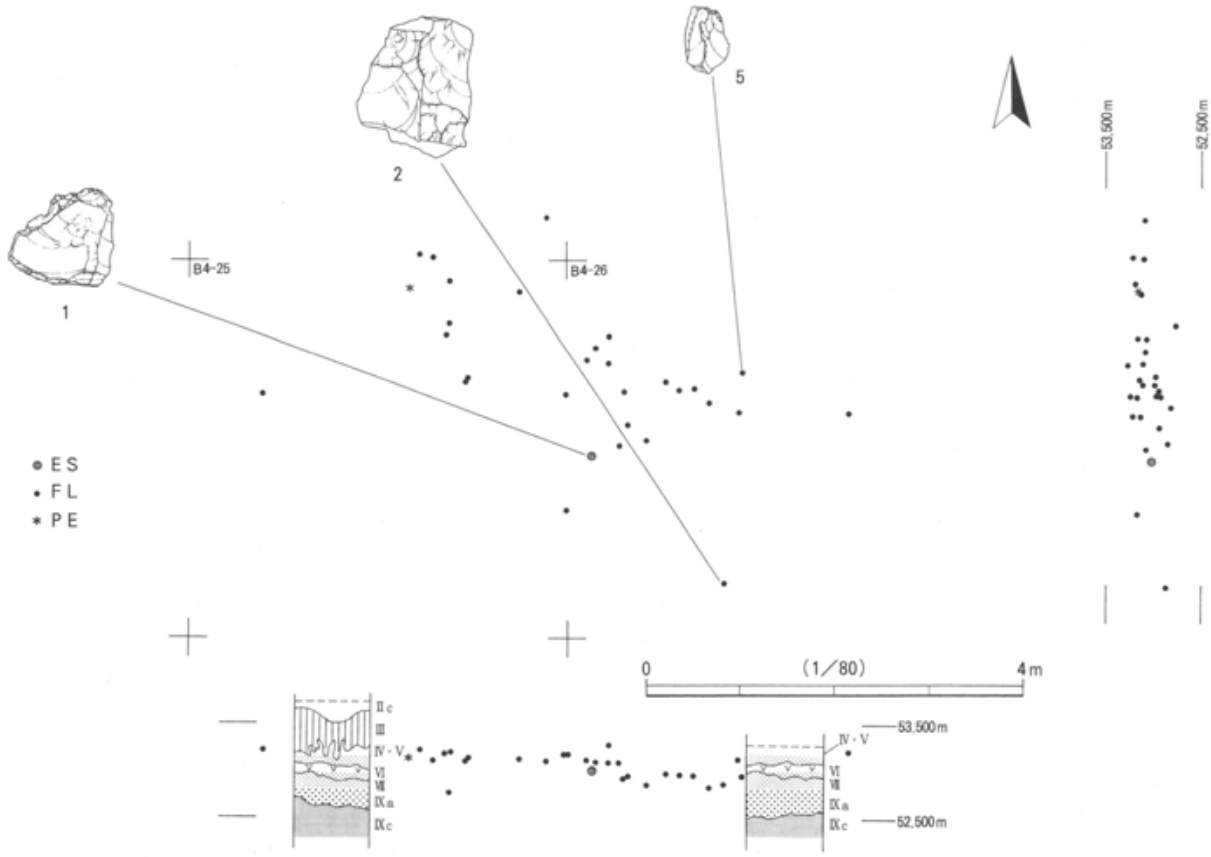
なお，母岩分類できなかった資料に，瑪瑙・玉髄の掻器１点，剥片５点の合計６点（62.8ｇ）がある。

３）出土遺物（第159図１・２）

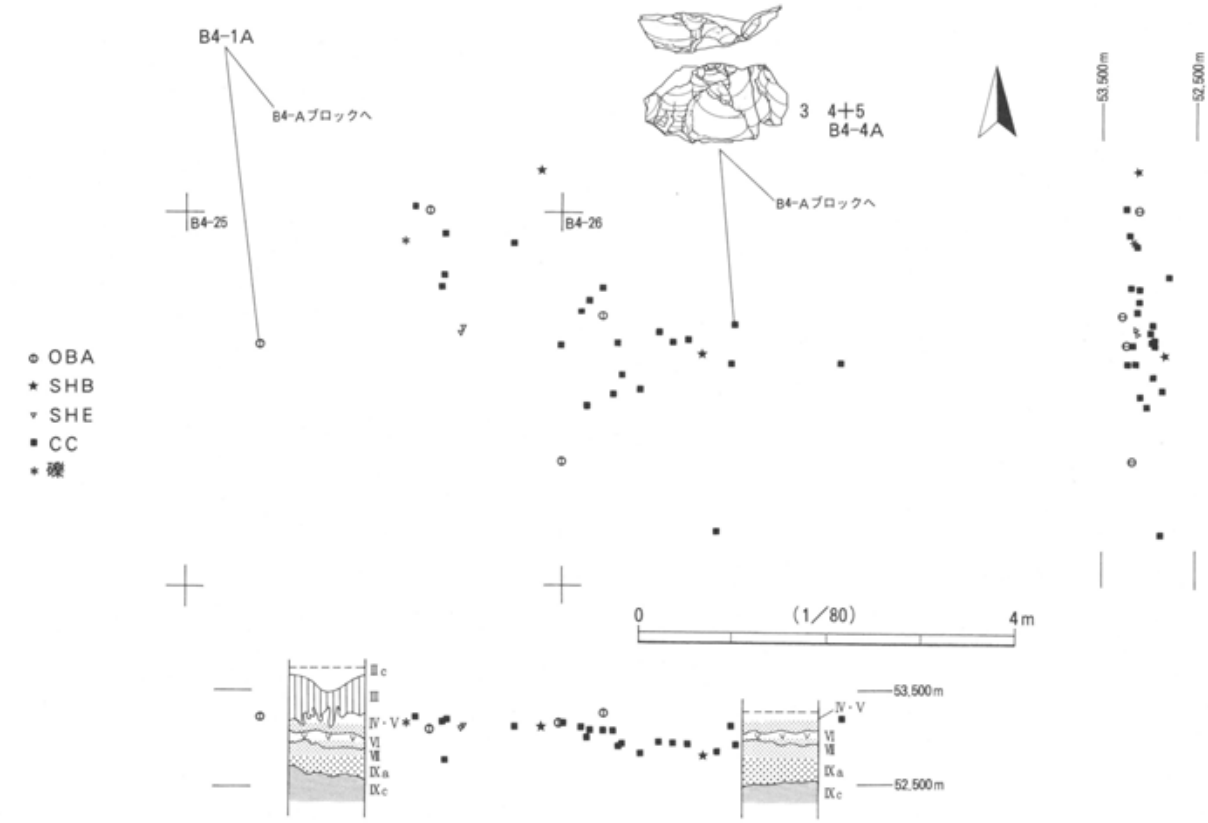
１は瑪瑙・玉髄による掻器である。不定型な剥片を素材として，末端に急角度の調整加工を行っている。２は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。下面は90度打面を転移した際の旧作業面か両設打面の石核の旧打面の可能性が考えられるが，不明である。

４）接合資料とその関連資料（第159図３～５）

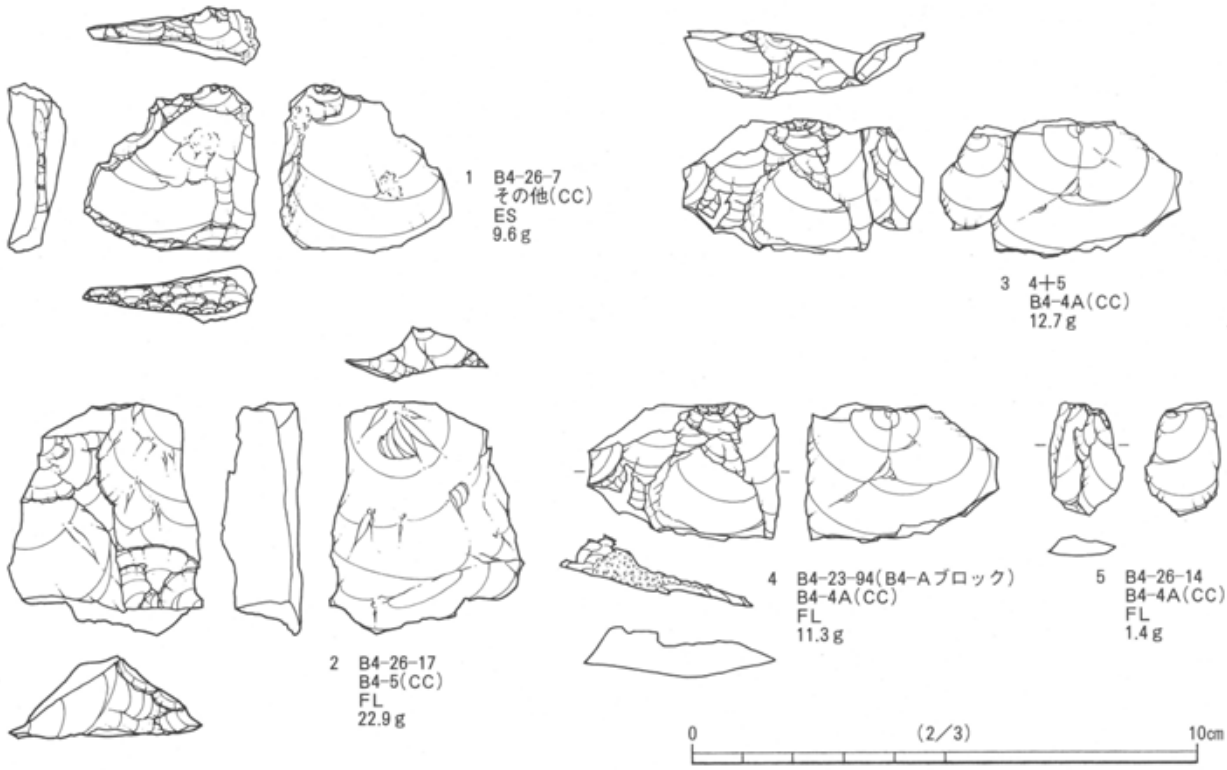
・B4-４（第159図３～５）　明赤褐色（5YR5/6）などの瑪瑙・玉髄である。剥片２点で構成される。３は剥片２点（４・５）の接合資料である。なお，４はB4-Ａブロックから出土している。



第157図　Ｂ４－Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第158図　Ｂ４－Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第159図　Ｂ４－Ｂブロック出土遺物

第36表　Ｂ４－Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A4-7(SHE)																		2							2
B4-1(OBA)																		4							4
B4-3(SHB)																		2							2
B4-4(CC)																		2							2
B4-5(CC)																		10							10
B4-6(CC)																		3							3
その他(CC)					1													5							6
合　計					1													28							29

第37表　Ｂ４－Ｂブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ａ(OBA)																		4							4
頁岩Ｂ(SHB)																		2							2
頁岩Ｅ(SHE)																		2							2
瑪瑙・玉髄(CC)					1													20							21
合　計					1													28							29

第38表　Ｂ４－Ｂブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
B4R-1	AN	1	30.8

石　材	個数	重量
安山岩（AN）	1	30.8
合　計	1	30.8

7　C4-Bブロック（第160・161・201図，第39～41表）

１）ブロックの概要

C4-Ｂブロックは，調査範囲南側のC4-38・48グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸４ｍ，短軸１ｍの範囲に５点の石器・礫が散漫な状態で分布する。出土層位は，調査時の所見によれば，Ⅲ層からⅤ層にかけてであり，20cmほどの高低差をもって包含されている（第160・161図）。第１文化層のC4-Ａブロックが近接しているが，石器群の内容・出土層位・平面分布等に相違があり，ブロックを分けた。

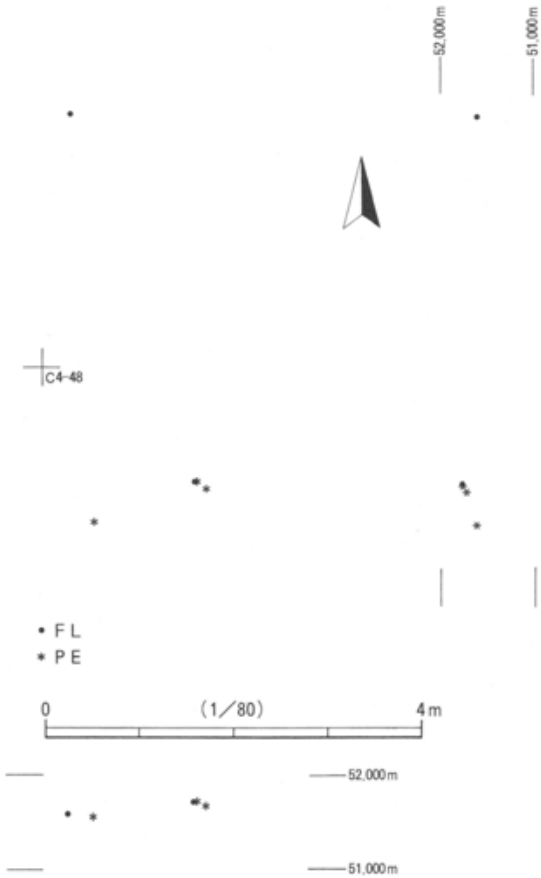
ブロックは，剥片２点，礫３点の合計５点で構成される。石器石材は，チャート１点，瑪瑙・玉髄１点である。礫石材は，チャート２点（２母岩；76.9ｇ），流紋岩１点（１母岩；8.6ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

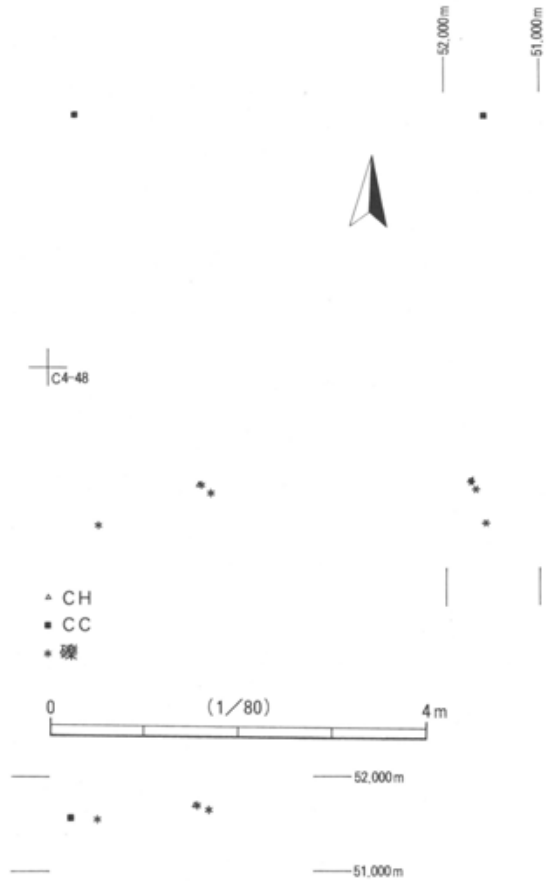
本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，チャート１母岩（C4-２），瑪瑙・玉髄１母岩（C4-３）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（2/2点）である。

・**C4-２**：自然面は褐灰色（5YR4/1），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理は赤褐色（10R4/4）のチャートである。剥片１点（6.7ｇ）の単独資料である。

・**C4-３**：灰白色（2.5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（7.5ｇ）の単独資料である。



第160図　Ｃ４－Ｂブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第161図　Ｃ４－Ｂブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

３）出土遺物

図示していないが，２点の剥片は不定型なものである。また，礫については，赤化したチャートの完形礫の１点を除いて，残り２点の破砕礫はイモ石の可能性がある。

第39表　Ｃ４－Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C4-2(CH)																		1							1
C4-3(CC)																		1							1
合　計																		2							2

第40表　Ｃ４－Ｂブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
チャート(CH)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計																		2							2

第41表　Ｃ４－Ｂブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
C4R-1	CH	1	70.9
C4R-2	CH	1	6.0
C4R-3	RH	1	8.6

石　　材	個数	重量
流紋岩（RH）	1	8.6
チャート(CH)	2	76.9
合　　計	3	85.5

第４節　第３文化層

第３文化層は，立川ローム層ソフトローム層下層を中心に包含されている石器群である。B4-Ｄ・Ｅブロックの２か所が該当し，両ブロック間には接合関係や母岩の共有関係がある。他に単独地点１か所を検出した。武蔵野台地のⅣ層上部のいわゆる「砂川期」の石器群に相当すると考えられる。

１　B4-Dブロック（第162～172・201図，第42～44表，カラー図版15・16・20，図版７）

１）ブロックの概要

B4-Ｄブロックは，調査範囲南側のB4-55・56・65・66グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸７ｍ，短軸４ｍの範囲に221点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部を中心にⅡｃ層からⅣ・Ⅴ層にかけて，70㎝ほどの高低差をもって包含されている（第162～164図）。

ブロックは，掻器２点，削器２点（１個体），使用痕ある剥片１点，石刃42点（41個体），剥片156点（155個体），砕片８点，石核９点，礫１点の合計221点（218個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ１点，安山岩３点，軟質の安山岩12点，頁岩Ｃ６点，頁岩Ｄ２点，頁岩Ｅ89点（87個体），チャート15点，凝灰岩44点，砂岩８点，ホルンフェルス28点，瑪瑙・玉髄12点（11個体）である。礫石材は砂岩１点（１母岩；31.8ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

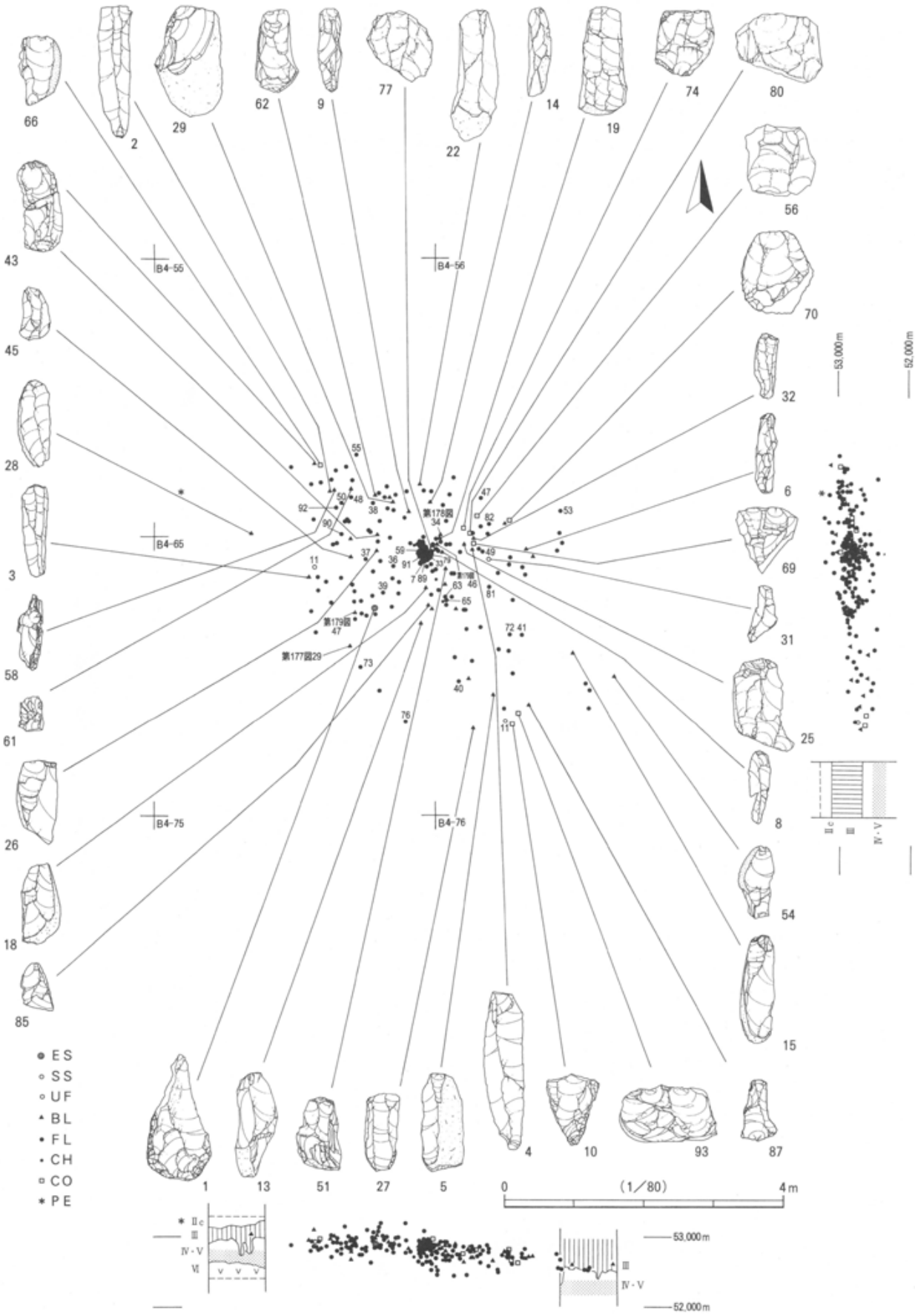
本ブロックでは39母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（B4-43），軟質の安山岩１母岩（B4-41），頁岩Ｃ１母岩（B4-46），頁岩Ｄ１母岩（B4-44），頁岩Ｅ13母岩（B4-14～22・30～32・45），チャート４母岩（B4-23・47～49），凝灰岩６母岩（B4-33・35・36・42・53・54），砂岩１母岩（B4-24），ホルンフェルス４母岩（B4-28・38～40），瑪瑙・玉髄７母岩（B4-25～27・37・50～52）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80％（177/220点）である。

・**B4-14**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地に淡黄色（2.5Y8/3）が縞状に入る頁岩である。鉄分のため変色している部分がある。石器群の内訳は，剥片９点（83.0ｇ）である。接合資料は，剥片６点（72.7ｇ）である。

・**B4-15**：自然面は暗灰色（N3/0），内部は暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の地ににぶい黄橙色（10YR7/2）の斑が入る頁岩である。鉄分のため変色している部分がある。石器群の内訳は，石刃５点（４個体），剥片７点，石核１点の合計13点（12個体；76.8ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは石刃１点，剥片２点，石核１点の合計４点（47.3ｇ），Ｂは石刃３点（２個体；8.9ｇ）でB4-Ｅブロックの石刃１点と接合している。Ｃは石刃１点，剥片４点の合計５点（13.2ｇ）である。

・**B4-16**：自然面は灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（10Y5/1）・灰色（N4/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃４点，剥片９点の合計13点（30.1ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃２点（6.2ｇ）が，B4-Ｅブロックの石刃３点，ブロック外（B4-81グリッド）の石刃１点の合計４点と接合している。Ｂは石刃２点（17.4ｇ）である。

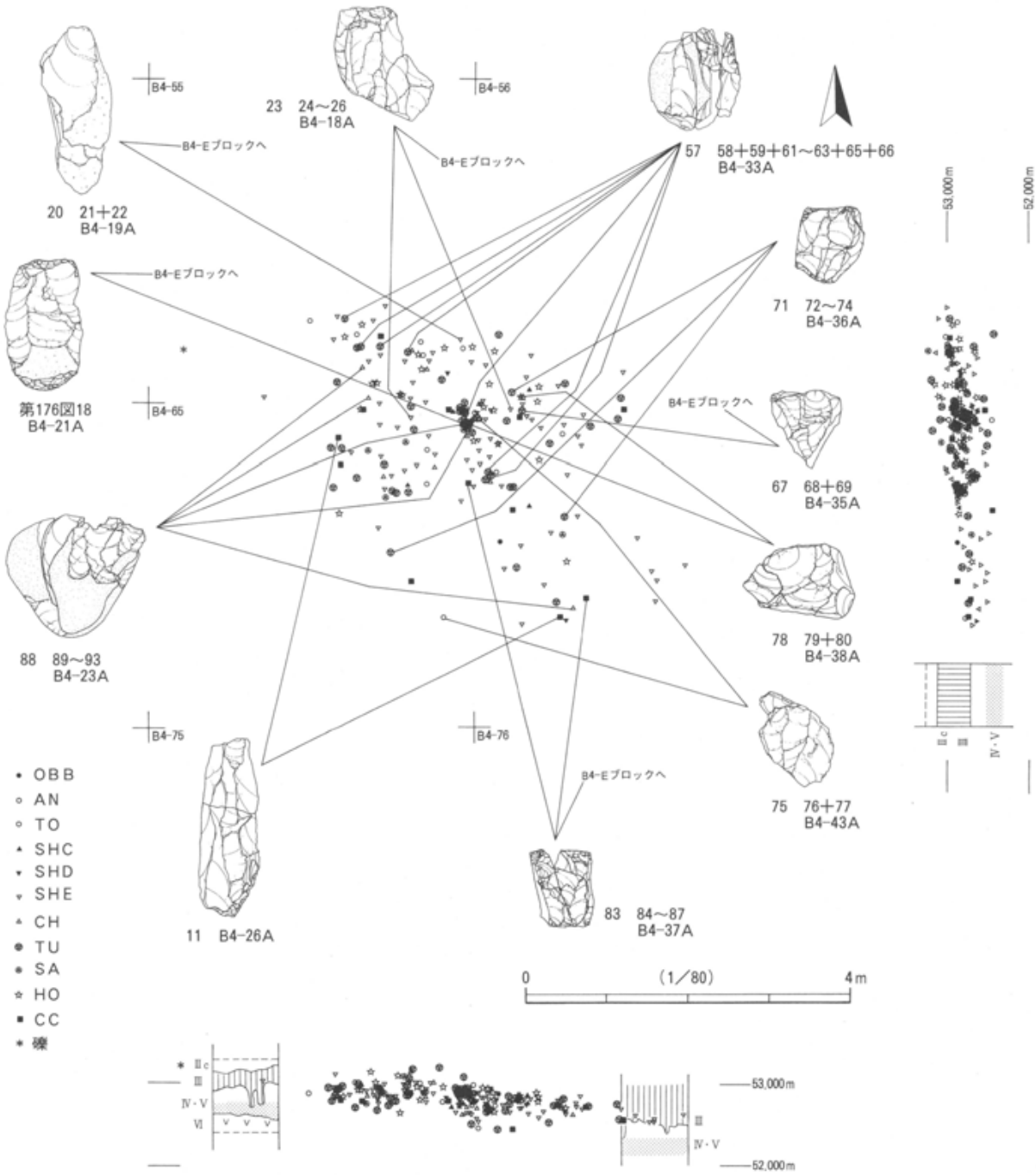
・**B4-17**：自然面はにぶい黄橙色（10YR7/4）の地にオリーブ褐色（2.5Y4/3）の点紋が入り，内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）・灰白色（2.5Y8/2）の地に黒い粒が入る頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（14.1ｇ）である。接合資料は，石刃２点（14.1ｇ）が，B4-Ｅブロックの石刃５点，剥片５点，石核１点の合計11点と接合している。



第162図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

・**B4-18**：自然面は灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃５点（49.7ｇ）である。接合資料は，石刃２点（19.9ｇ）が，B4-Ｅブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに３点ある。

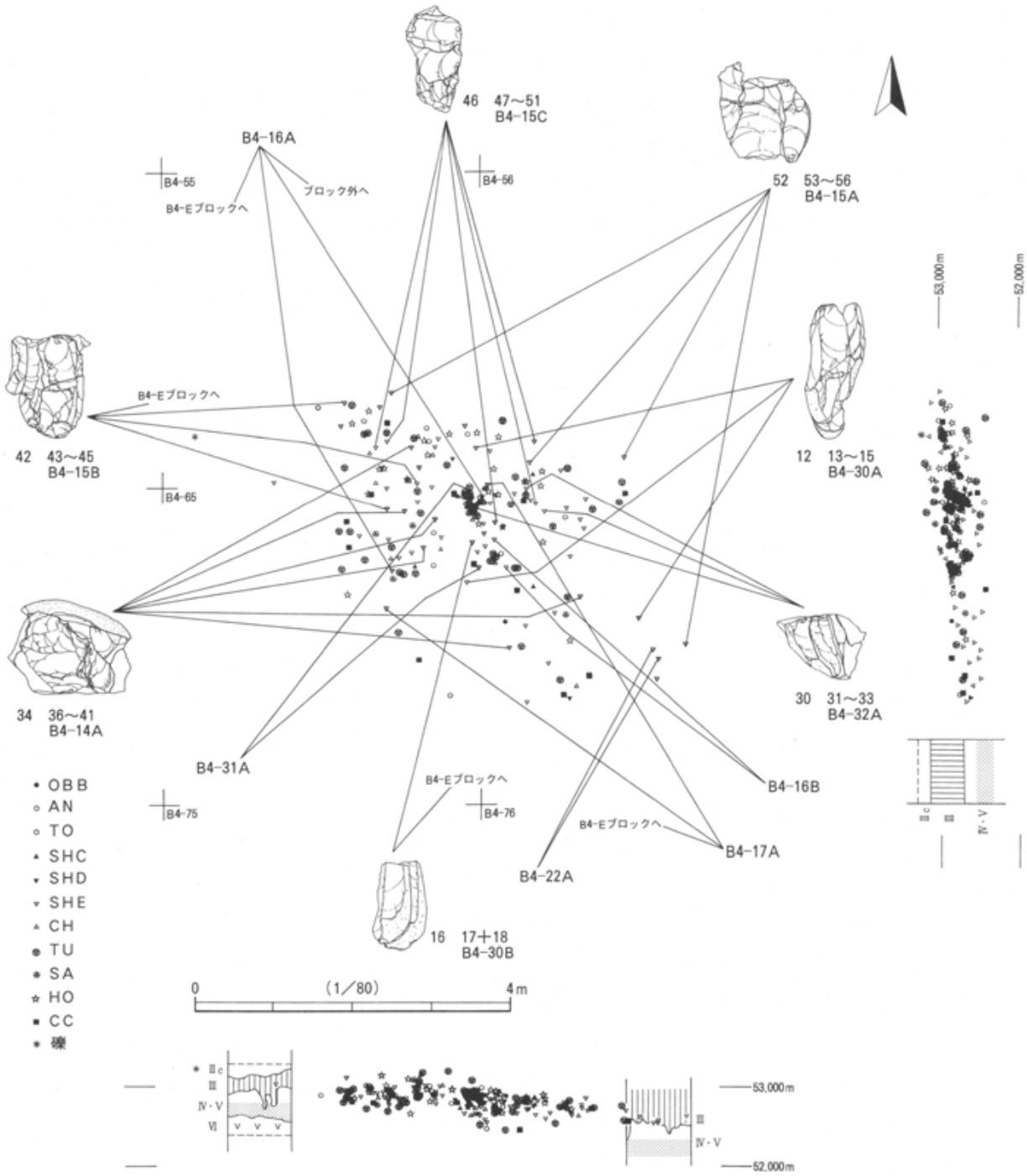
・**B4-19**：自然面はにぶい黄橙色（10YR7/4），内部は灰褐色（7.5YR5/2）の地に黒褐色（7.5YR3/2）の斑が入る頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片４点の合計６点（29.6ｇ）である。接合資料は，石刃１点（8.6ｇ）が，B4-Ｅブロックの石刃１点と接合している。



第163図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物分布（２）－石材別分布（１）－

・**B4-20**：自然面は灰白色（5Y7/2）の地に黒い粒が入り，内部は灰黄色（2.5Y6/2）の地に黄灰色（2.5Y 5/1）の斑，明黄褐色（10YR6/6）が部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，石刃３点，剥片６点の合計９点（29.3ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに１点ある。

・**B4-21**：自然面は灰色（7.5Y5/1），内部は灰色（10Y4/1）の頁岩である。鉄分のため変色している部分がある。石器群の内訳は，掻器１点，石刃２点，剥片１点の合計４点（46.1ｇ）である。接合資料は，掻器１点（30.9ｇ）が，B4-Ｅブロックの剥片２点と接合している。その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに１点ある。



第164図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物分布（３）－石材別分布（２）－

・**B4-22**：内部は灰黄色（2.5Y6/2），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は黒褐色（5YR3/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片５点（４個体；3.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；1.3ｇ）である。

・**B4-23**：自然面はオリーブ黒色（7.5Y3/1）の地に橙色（7.5YR6/6）の同心円状の縞が入り，内部はオリーブ黒色（7.5Y3/1）・橙色（7.5YR6/6），節理は明黄褐色（10YR6/6）のチャートである。石器群の内訳は，剥片８点，石核１点の合計９点（86.1ｇ）である。接合資料は，剥片４点，石核１点の合計５点（83.3ｇ）である

・**B4-24**：灰白色（7.5Y7/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片８点（13.7ｇ）である。

・**B4-25**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部はにぶい黄橙色（10YR6/3）・灰色（N4/0）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点（6.7ｇ）である。

・**B4-26**：橙色（7.5YR6/6）・にぶい黄橙色（10YR7/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，削器２点（１個体；25.5ｇ）である。

・**B4-27**：灰黄色（2.5Y7/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃１点（14.7ｇ）の単独資料である。

・**B4-28**：自然面はにぶい黄橙色（10YR7/3），内部は浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片７点（18.3ｇ）である。

・**B4-30**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4）の地に黒色の粒が入り，内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）の地に灰黄色（2.5Y6/2）の縞，黒色の粒が入る頁岩である。石器群の内訳は，石刃４点，剥片２点の合計６点（22.6ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃３点（18.1ｇ），Ｂは石刃１点（3.7ｇ）が，B4-Ｅブロックの石刃１点と接合している。

・**B4-31**：自然面はにぶい褐色（7.5YR5/3）の地に黒色の粒が入り，内部は黄褐色（10YR5/6）の地に黒色の粒が入る頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（4.7ｇ）である。接合資料は，石刃２点が，接合している。

・**B4-32**：自然面はにぶい褐色（7.5YR6/3）・黄灰色（2.5Y5/1），内部はにぶい橙色（7.5YR7/4）・灰褐色（7.5YR5/2）・黄灰色（2.5Y5/1）の頁岩である。石核は全体ににぶい褐色に変色しているが，被熱による可能性がある。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片１点の合計３点（26.2ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片１点の合計３点（26.2ｇ）が接合している。

・**B4-33**：自然面はオリーブ褐色（2.5Y4/4）・灰黄色（2.5Y6/2），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）の珪化度の高い凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃４点，剥片３点，石核１点の合計８点（39.3ｇ）である。接合資料は，石刃３点，剥片３点，石核１点の合計７点（38.5ｇ）が接合している。

・**B4-35**：自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に褐色（7.5YR4/4）が部分的に混じり，節理は黄褐色（10YR5/6）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃１点，石核２点の合計３点（76.3ｇ）である。接合資料は，石核１点（19.7ｇ）が，B4-Ｅブロックの剥片１点と接合している。

・**B4-36**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に黒色の点紋が入り，内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・オリーブ灰色（10Y4/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片４点，石核１点の合計５点（20.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（17.2ｇ）が接合している。

・**B4-37**：浅黄色（2.5Y7/4）の地に黄褐色（10YR5/8）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の

内訳は，石刃２点，剥片１点の合計３点（5.9ｇ）である。接合資料は，石刃２点（4.0ｇ）が，B4-Ｅブロックの石刃２点と接合している。

・**B4-38**：灰色（5Y4/1）の地に黄灰色（2.5Y5/1）・明黄褐色（2.5Y6/6）の縞が入るホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片12点，砕片１点，石核１点の合計14点（102.5ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（62.9ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに２点ある。

・**B4-39**：灰色（10Y5/1）の地にオリーブ黄色（7.5Y6/3）・オリーブ褐色（2.5Y4/6）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（5.1ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに２点ある。

・**B4-40**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）の地に黒褐色（7.5YR3/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点（44.1ｇ）である。

・**B4-41**：自然面は黄色（2.5Y8/6）・にぶい黄褐色（10YR5/3）・オリーブ黄色（5Y6/3），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）の軟質な安山岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片11点の合計12点（43.9ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに３点ある。

・**B4-42**：自然面は灰色（7.5Y4/1），内部はオリーブ黄色（5Y6/3）の凝灰岩である。本ブロックでは，剥片１点（3.7ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに２点ある。

・**B4-43**：自然面は灰色（5Y4/1）の地に浅黄色（2.5Y7/4）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（31.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（28.4ｇ）である。

・**B4-44**：自然面はオリーブ黒色（7.5Y3/2）・褐色（10YR4/4），内部は灰色（7.5Y4/1），灰オリーブ色（5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，石核１点の合計２点（24.1ｇ）である。

・**B4-45**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は浅黄色（2.5Y7/4）の地に黄褐色（10YR5/6）が部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（21.2ｇ）である。

・**B4-46**：黄灰色（2.5Y6/1）の地に褐灰色（10YR4/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。本ブロックでは掻器１点（17.4ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がB4-Ｅブロックに１点ある。

・**B4-47**：暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の地ににぶい橙色（7.5YR7/4）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片３点（3.6ｇ）である。

・**B4-48**：自然面は黄褐色（2.5Y5/4），内部は灰色（5Y4/1）のチャートである。剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・**B4-49**：黒色（7.5Y2/1）・オリーブ褐色（2.5Y4/6）のチャートである。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・**B4-50**：浅黄色（2.5Y7/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・**B4-51**：自然面は黄褐色（2.5Y5/4），内部は暗赤灰色（7.5R3/1）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（12.1ｇ）の単独資料である。

・**B4-52**：浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（0.1ｇ）の単独資料である。

・**B4-53**：灰オリーブ色（7.5Y6/2）の凝灰岩である。石刃１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・**B4-54**：灰白色（5Y7/2）・灰黄褐色（10YR5/2）の珪化度の高い凝灰岩である。石刃１点（7.2ｇ）の

単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片１点（0.2ｇ），嶺岡産頁岩の剥片３点，砕片２点の合計５点（4.8ｇ），頁岩の剥片６点，砕片４点の合計10点（3.4ｇ），チャートの剥片１点（0.3ｇ），凝灰岩の剥片24点，砕片１点の合計25点（39.4ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（0.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第165図１～10）

１は嶺岡産頁岩による掻器である。石刃を素材として表面下端部及び裏面左側縁に調整加工を行っている。２・３は凝灰岩による石刃で，２は左側縁に刃こぼれが見られる。４は瑪瑙・玉髄による石刃，５は頁岩による石刃である。６～８は同一母岩の頁岩による石器で，６・８は石刃，７は剥片である。６・７は石核の側面調整の剥離痕が見られ，さらに７には石核の底面が残っている。９・10は同一母岩の硬質緻密な頁岩による石刃・石核である。両者とも側面調整の剥離痕が見られる。

４）接合資料とその関連資料（第165図11～15，第166～172図）

・B4-26（第165図11）　橙色（7.5YR6/6）などの瑪瑙・玉髄である。削器２点（１個体；11）で構成される。11は欠損した削器同士が接合して１個体となったものである。石刃を素材として表面右側面下部及び裏面右側縁下部に調整加工を行っている。

・B4-30（第165図12～15，166図16～18）　にぶい黄色（2.5Y6/3）の頁岩である。石刃４点，剥片２点の合計６点で構成される。接合資料は，２グループある。A（12）は石刃３点（13～15）の接合資料である。13には側面調整の剥離痕が見られる。また，13・15には刃こぼれが見られる。B（16）は石刃１点（18），B4-Eブロックの石刃１点（17）の接合資料である。両者とも刃こぼれが見られる。石刃の生産に関係する母岩である。

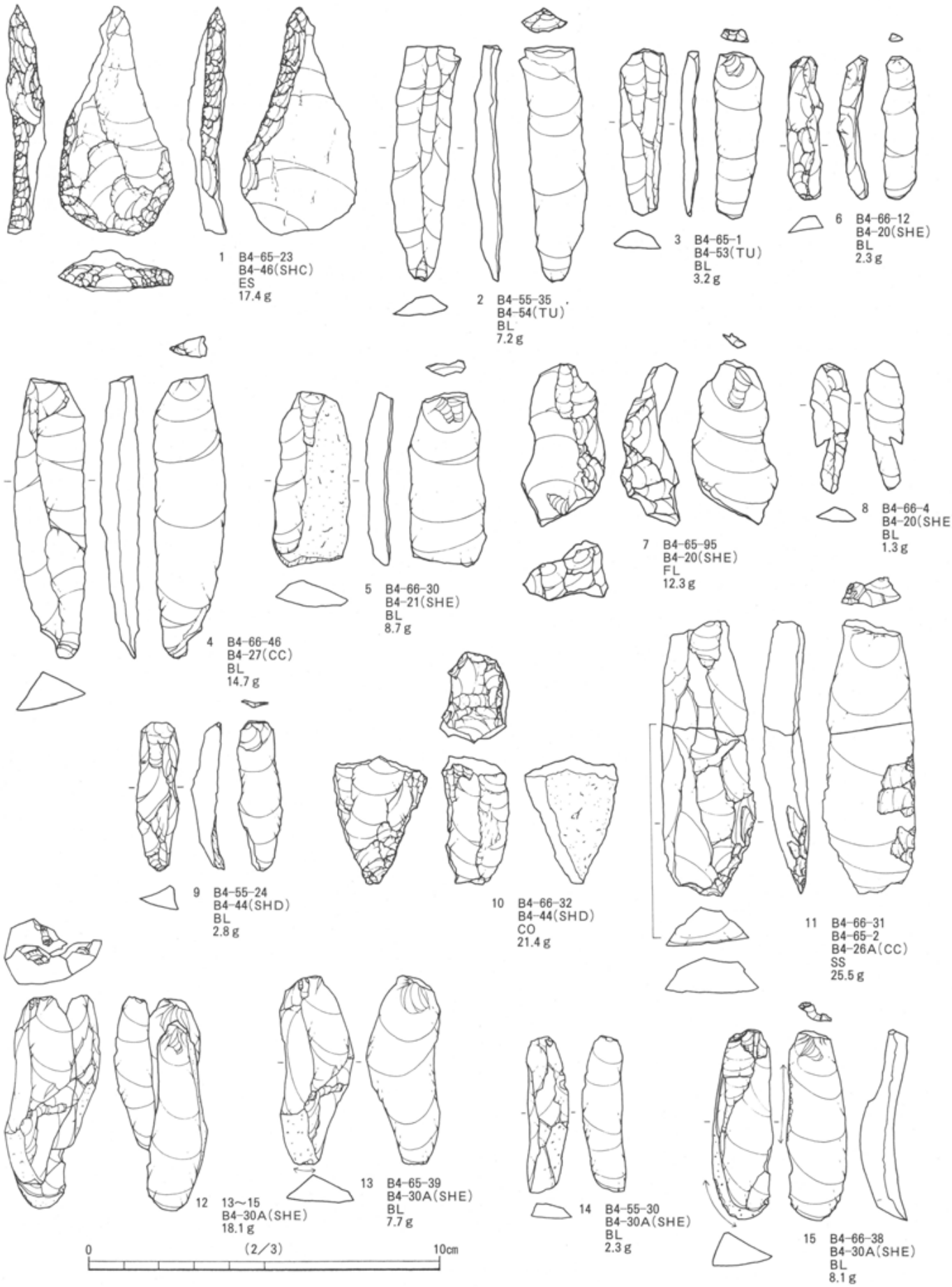
・B4-19（第166図19～22）　灰褐色（7.5YR5/2）の頁岩である。石刃２点，剥片４点の合計６点で構成される。20は石刃１点（22），B4-Eブロックの石刃１点（21）の接合資料である。19は接合しなかった同一母岩の石刃である。石刃の生産に関係する母岩である。

・B4-18（第167図23～29）　灰オリーブ色（5Y5/2）の頁岩である。石刃５点で構成される。23は石刃２点（25・26），B4-Eブロックの剥片１点（24）の接合資料である。両設打面の石核から石刃を剥離している。27～29は接合しなかった同一母岩の石刃である。27・29には刃こぼれないし微細な剥離痕が見られる。石刃の生産に関係する母岩である。

・B4-32（第167図30～33）　にぶい褐色（7.5YR7/4）などの頁岩である。使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片１点の合計３点で構成される。30は使用痕ある剥片１点（31），石刃１点（32），剥片１点（33）の接合資料である。33は節理で剥離しており，新旧関係が明確ではないことから，石核の可能性もある。また，被熱のためか，赤化しており，他の２点とは異なる。31には刃こぼれが見られる。石刃の生産に関係する母岩である。

・B4-14（第168図）　灰オリーブ色（5Y4/2）の頁岩である。剥片９点で構成される。34は剥片６点（36～41）の接合資料である。34の正面図の下方向から36→90度の打面転移を繰り返しながら，長幅比がほぼ1/1の37→38→40→41を剥離している。

・B4-15（第169図）　暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の頁岩である。石刃５点（４個体），剥片７点，石核１点の合計13点（12個体）で構成される。接合資料は，３グループある。B（42）は石刃３点（２個体；

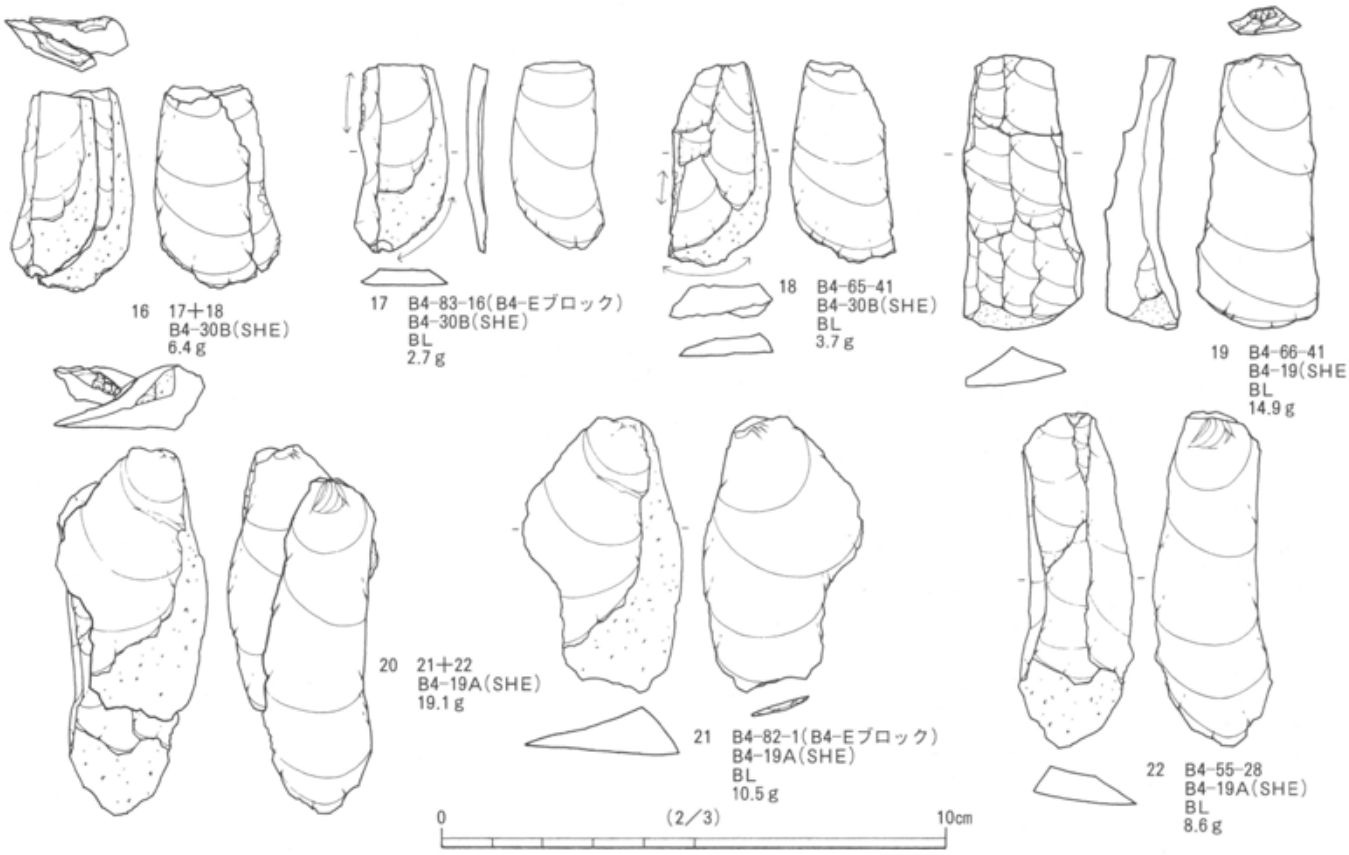


第165図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（１）

43・45），B4-Eブロックの石刃１点（44）の接合資料である。43を剥離後，180度打面を転移して44→45を剥離している。C（46）は石刃１点（51），剥片４点（47～50）の接合資料である。46は47→48を左方向から剥離し，90度打面転移して，49→50→51の石刃ないし石刃状剥片を剥離している。47・48は石核の側面調整剥片と考えられる。A（52）は石刃１点（54），剥片２点（53・55），石核１点（56）の接合資料である。両設打面の石核から55を剥離した後，打面調整や側面調整を行いながら，53を剥離して打面調整した後，数枚の石刃状の剥片を剥離している。その後，180度打面転移して石刃状の54を剥離している。その後も，56は打面調整を行いながら，下方向から数枚の石刃を剥離して作業を終了している。55には刃こぼれが見られる。石刃ないし石刃状剥片の生産に関係する母岩である。

・B4-33（第170図57～66）　にぶい黄色（2.5Y6/3）の凝灰岩である。石刃４点，剥片３点，石核１点の合計８点で構成される。57は石刃３点（58・61・62），剥片３点（59・63・65），石核１点（66）の接合資料である。拳の半分程度の楕円礫を素材として，側面調整の施された58→90度打面転移して側面調整剥片と考えられる59を剥離し，90度打面転移して61→62を剥離している。その後も，180度打面転移して63を剥離して打面調整した後，数枚の石刃を剥離している。石刃ないし石刃状剥片の生産に関係する母岩である。

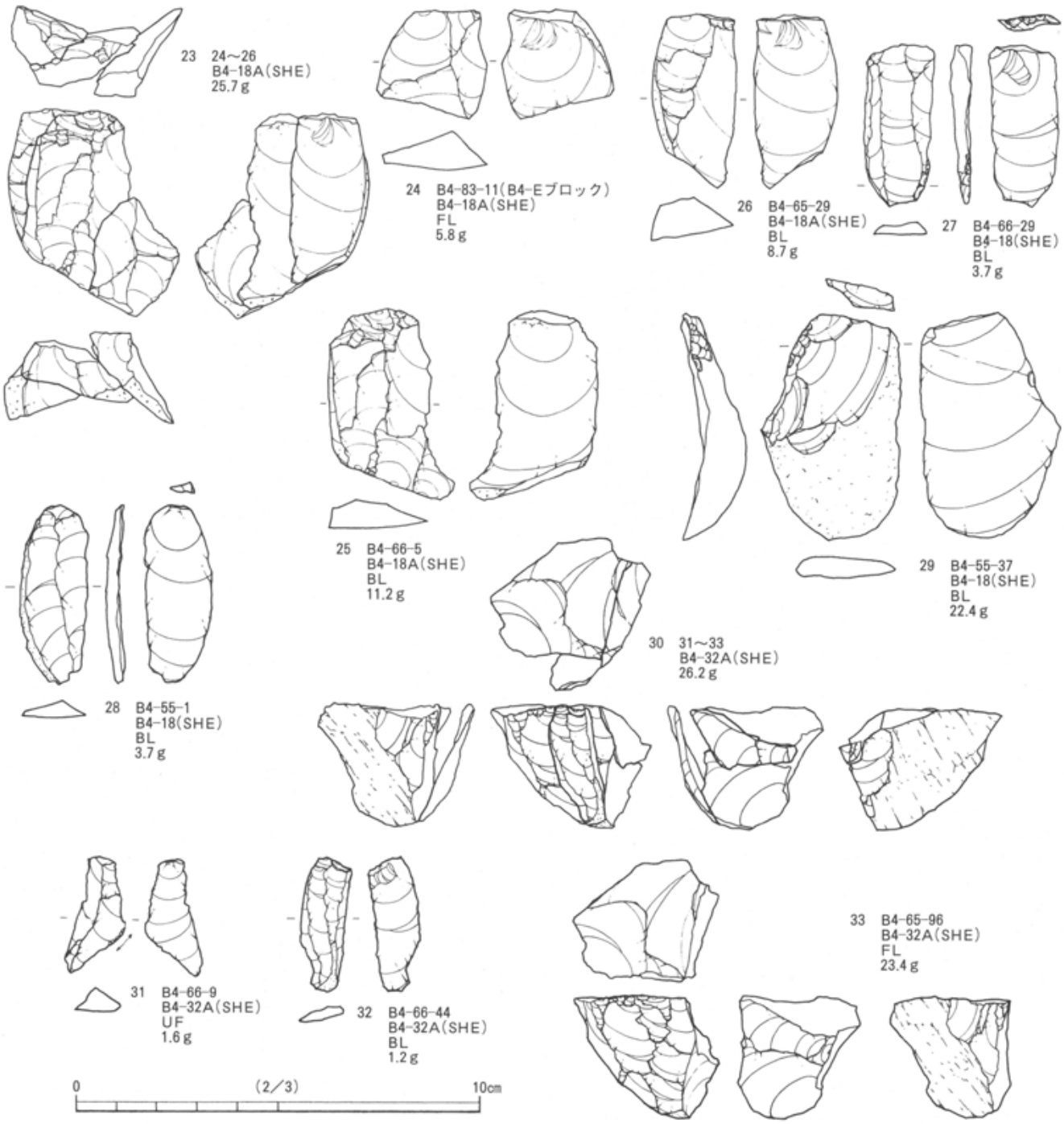
・B4-35（第170図67～70）　灰オリーブ色（5Y5/2）の凝灰岩である。石刃１点，石核２点の合計３点で構成される。67は石核１点（69），B4-Eブロックの剥片１点（68）の接合資料である。67は複数に分割された拳大の不定型な礫を素材にして，両設打面の石核から小型で不定型な寸詰まりの剥片を剥離している。68は打面調整剥片である。70は接合しなかった同一母岩の石核である。両個体とも残核の状態ではあるが，打面がほぼ上下に固定されていることから，石刃ないし石刃状剥片の生産に関係する個体の可能性もある。



第166図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（２）

・B4-36（第170図71～74）　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの凝灰岩である。剥片４点，石核１点の合計５点で構成される。71は剥片２点（72・73），石核１点（74）の接合資料である。不定型な礫を素材にして，両設打面の石核から小型で不定型な寸詰まりの剥片を剥離している。残核の状態ではあるが，打面がほぼ上下に固定されていることから，石刃ないし石刃状剥片の生産に関係する母岩の可能性もある。

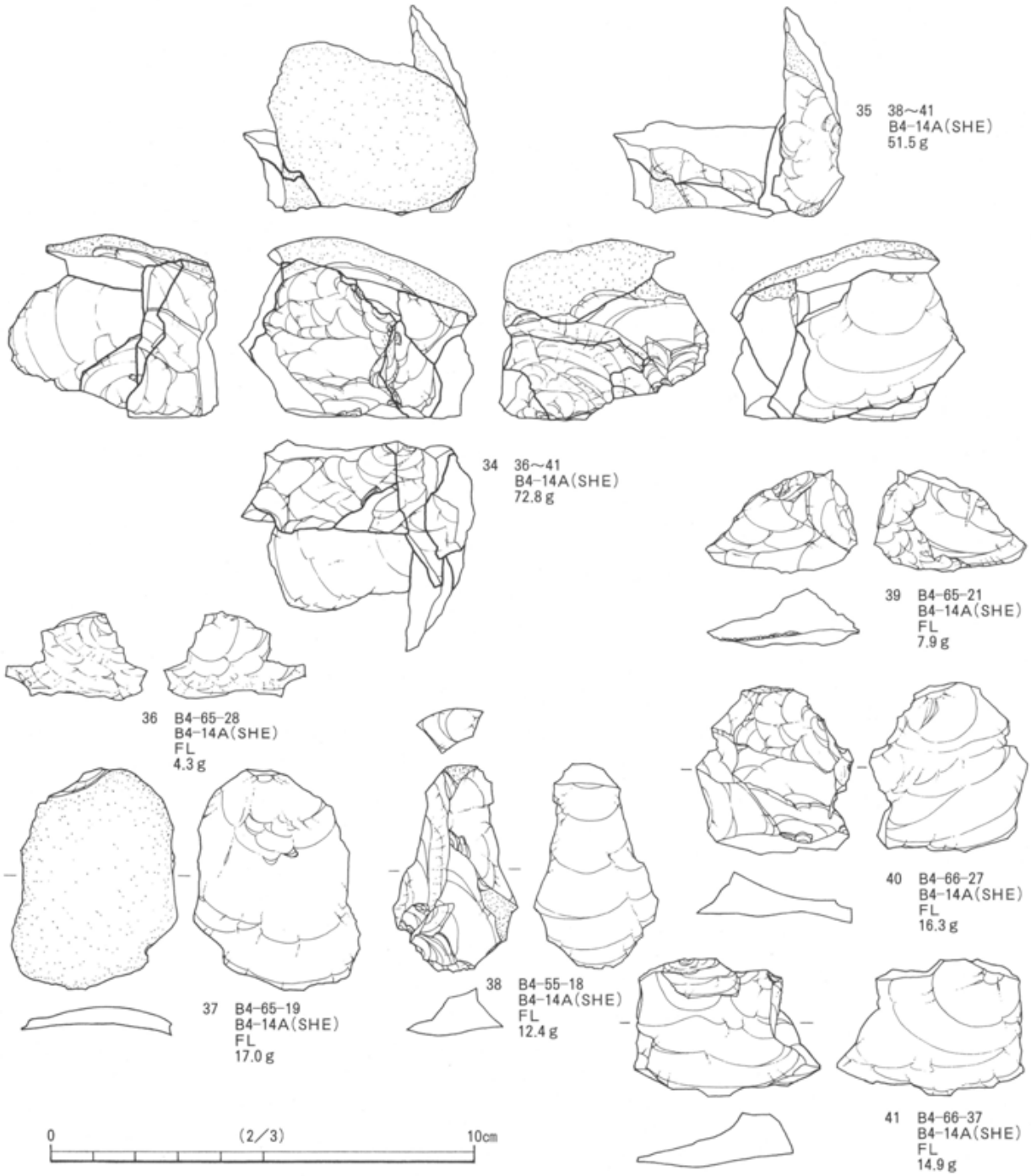
・B4-43（第171図75～77）　灰色（5Y4/1）の安山岩である。剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。75は剥片１点（76），石核１点（77）の接合資料である。小型の円礫ないし楕円礫を素材として，90度の打面転移を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。



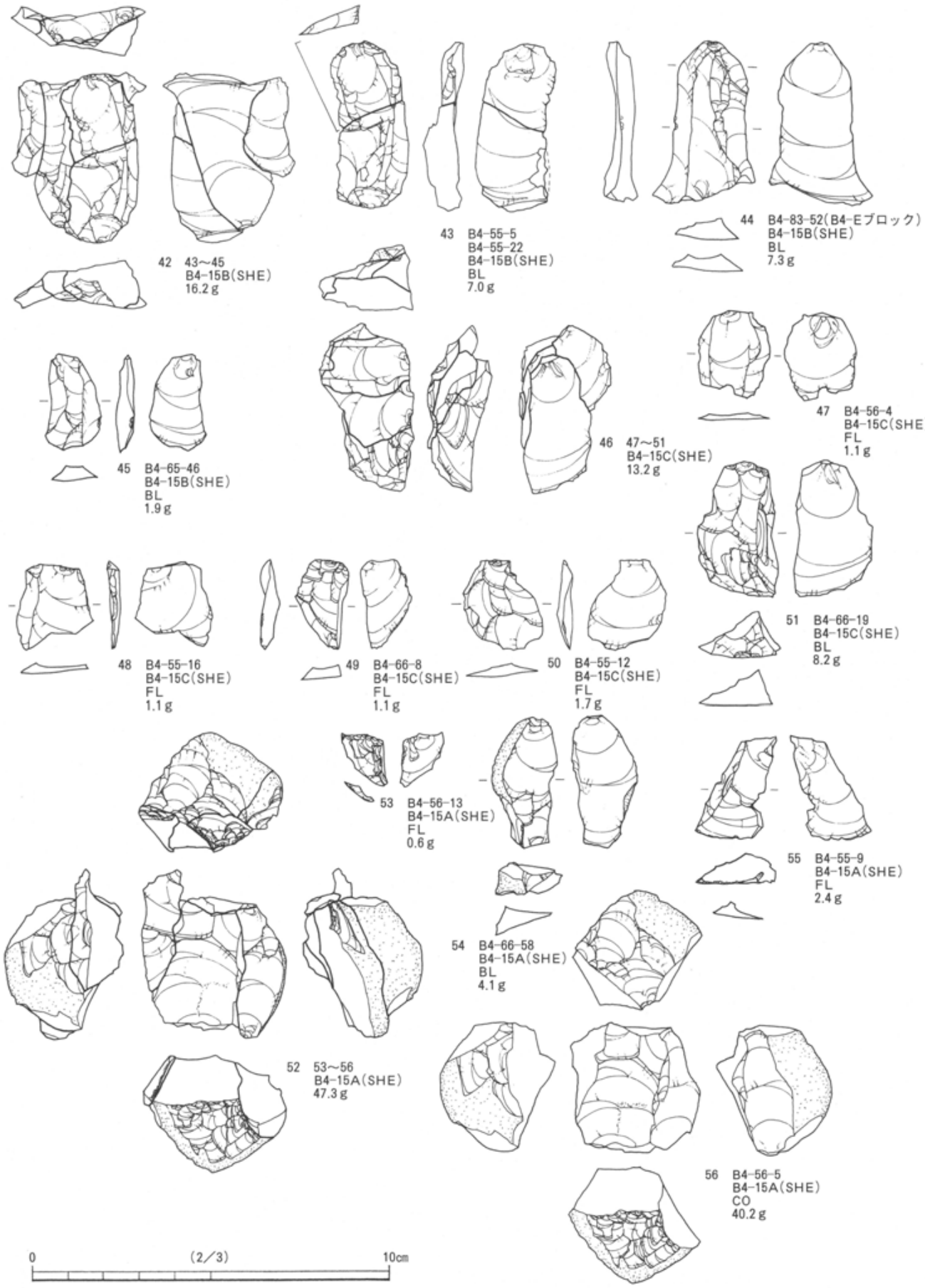
第167図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（３）

・**B4-38（第171図78～82）**　灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片12点，砕片１点，石核１点の合計14点で構成される。78は剥片１点（79），石核１点（80）の接合資料である。90度の打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離している。81・82は接合しなかった同一母岩の剥片である。

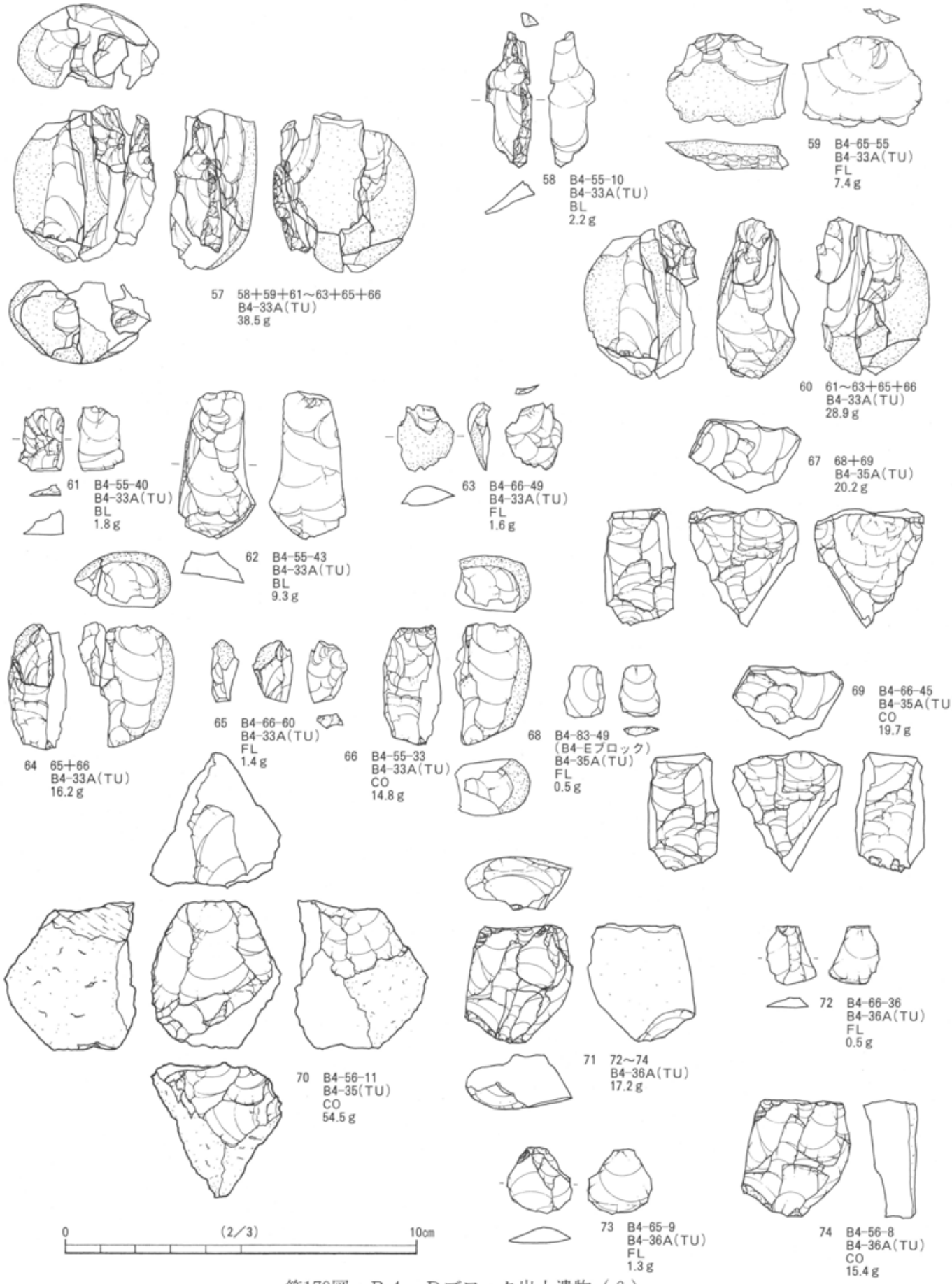
・**B4-37（第171図83～87）**　浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。石刃２点，剥片１点の合計３点で構成される。83は石刃２点（85・87），B4-Eブロックの石刃２点（84・86）の接合資料である。両設打面の石核から打面調整，頭部調整，側面調整を行いながら，下方向から84→上方向から85→86→下方向から87を剥離している。石刃の生産に関係する母岩である。



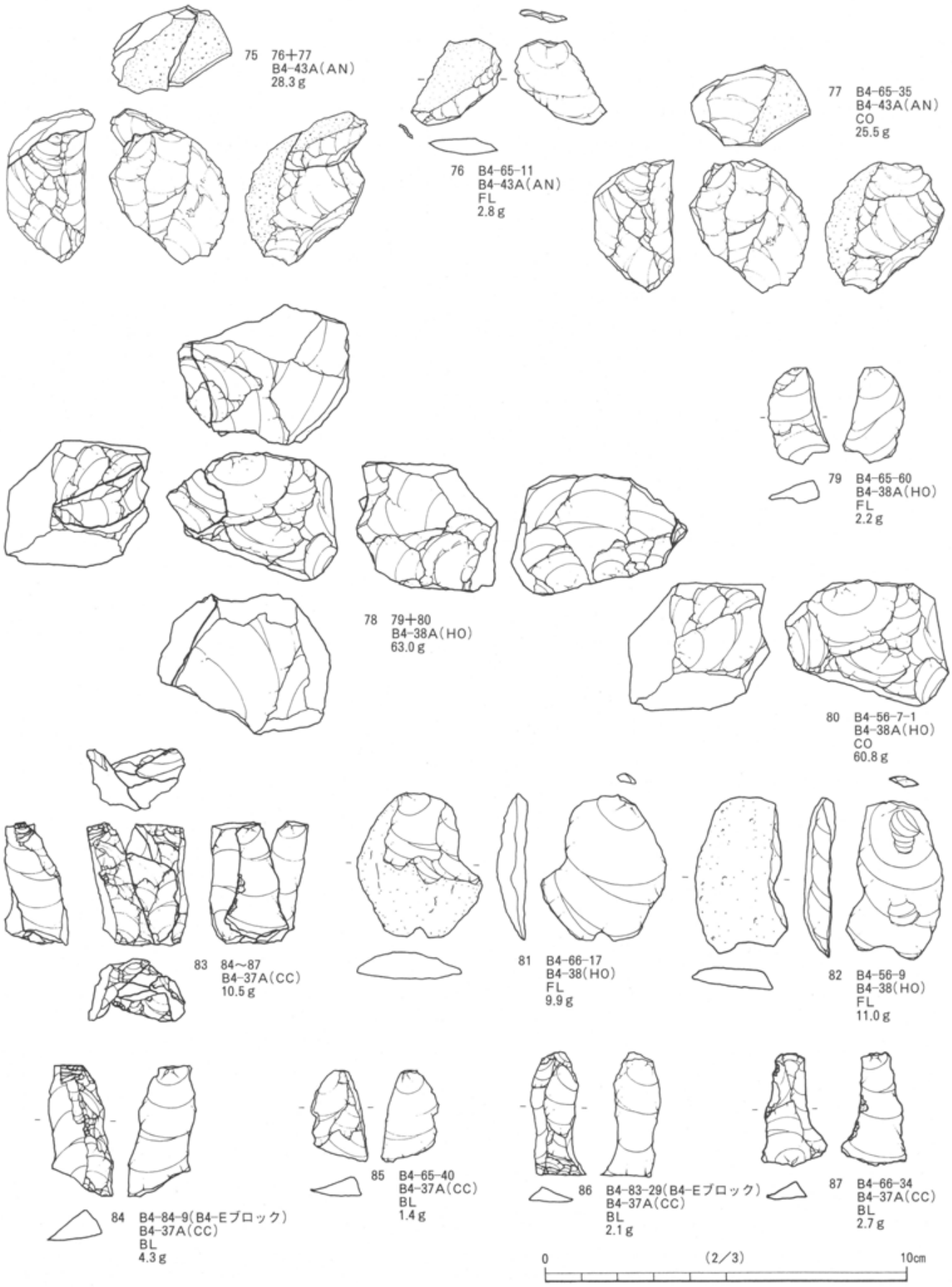
第168図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（４）



第169図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（５）



第170図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（６）



第171図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（７）

・B4-23（第172図）　オリーブ黒色（7.5Y3/1）などのチャートである。剥片８点，石核１点の合計９点で構成される。88は剥片４点（89～92），石核１点（93）の接合資料である。子供の拳ほどの礫を素材として，89→90→91・92を上方向から剥離している。原礫の1/2～1/3の大きさになった段階で，打面を転移して，なおも石刃状の縦長剥片を剥離しようとしたが，途中で欠損したため，最終的に90度打面を転移し，自然面を打面として，不定型な剥片を剥離したものと考えられる。石刃ないし石刃状剥片の生産に関係する母岩の可能性もある。

第42表　Ｂ４－Ｄブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B4-14(SHE)																		9							9
B4-15(SHE)												5(4)						7		1					13(12)
B4-16(SHE)												4						9							13
B4-17(SHE)												2													2
B4-18(SHE)												5													5
B4-19(SHE)												2						4							6
B4-20(SHE)												3						6							9
B4-21(SHE)					1							2						1							4
B4-22(SHE)																		5(4)							5(4)
B4-23(CH)																		8		1					9
B4-24(SA)																		8							8
B4-25(CC)																		3							3
B4-26(CC)						2(1)																			2(1)
B4-27(CC)												1													1
B4-28(HO)																		7							7
B4-30(SHE)												4						2							6
B4-31(SHE)												2													2
B4-32(SHE)											1	1						1							3
B4-33(TU)												4						3		1					8
B4-35(TU)												1								2					3
B4-36(TU)																		4		1					5
B4-37(CC)												2						1							3
B4-38(HO)																		12	1	1					14
B4-39(HO)																		2							2
B4-40(HO)																		4							4
B4-41(TO)												1						11							12
B4-42(TU)																		1							1
B4-43(AN)																		2		1					3
B4-44(SHD)												1								1					2
B4-45(SHE)																		2							2
B4-46(SHC)					1																				1
B4-47(CH)																		3							3
B4-48(CH)																		1							1
B4-49(CH)																		1							1
B4-50(CC)																		1							1
B4-51(CC)																		1							1
B4-52(CC)																		1							1
B4-53(TU)												1													1
B4-54(TU)												1													1
その他(OBB)																		1							1
その他(SHC)																		3	2						5
その他(SHE)																		6	4						10
その他(CH)																		1							1
その他(TU)																		24	1						25
その他(HO)																		1							1
合　計					2	2(1)					1	42(41)						156(155)	8	9					220(217)

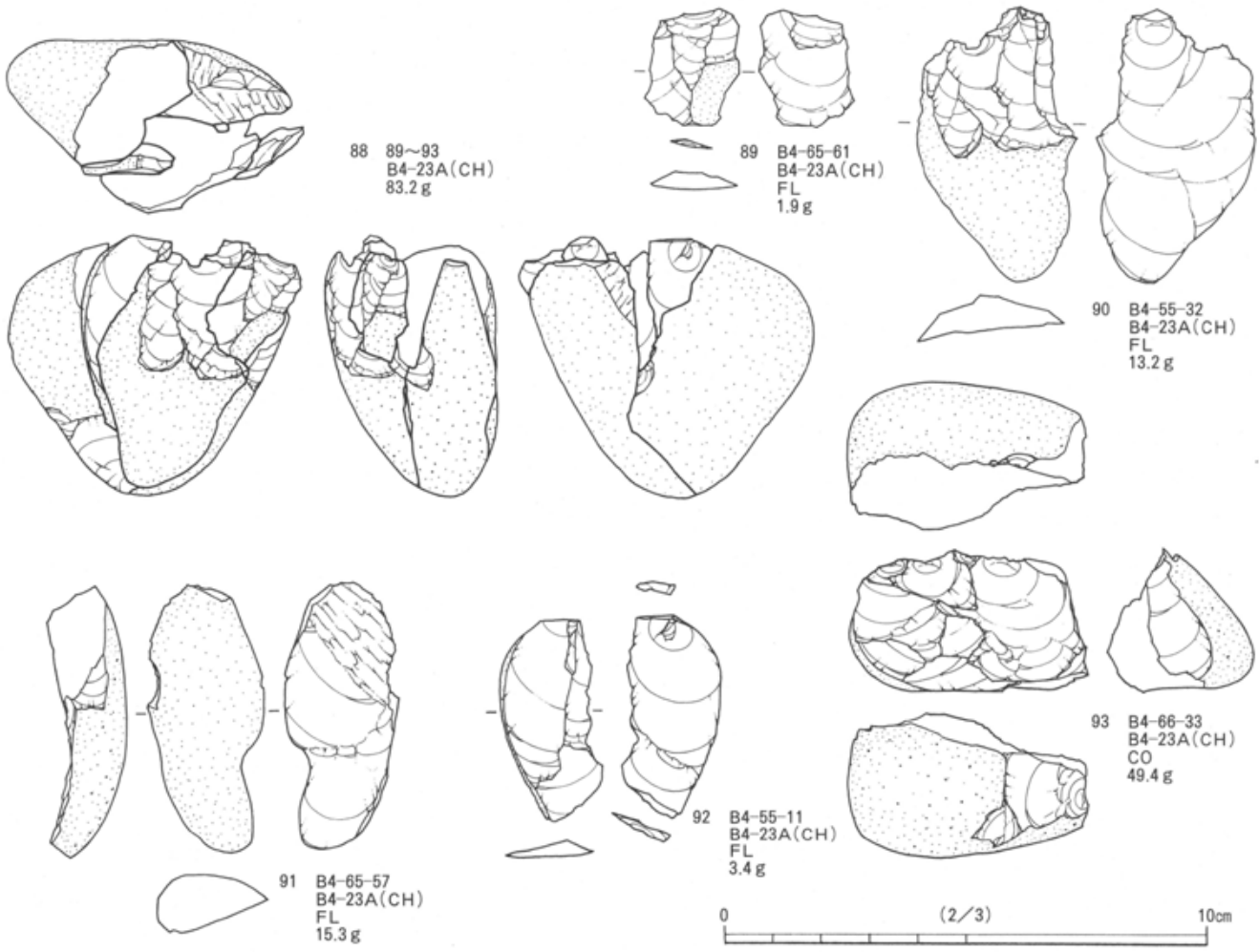
第43表　B4－Dブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)																		1							1
安山岩(AN)																		2		1					3
安山岩(TO)												1						11							12
頁岩C(SHC)					1													3	2						6
頁岩D(SHD)												1								1					2
頁岩E(SHE)					1						1	30(29)						52(51)	4	1					89(87)
チャート(CH)																		14		1					15
凝灰岩(TU)												7						32	1	4					44
砂岩(SA)																		8							8
ホルンフェルス(HO)																		26	1	1					28
瑪瑙・玉髄(CC)						2(1)						3						7							12(11)
合　計					2	2(1)					1	42(41)						156(155)	8	9					220(217)

第44表　B4－Dブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
B4R-2	SA	1	31.8

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	31.8
合　計	1	31.8



第172図　Ｂ４－Ｄブロック出土遺物（８）

２ B4-Eブロック（第173～179・201図，第45・46表，カラー図版16・20，図版７）

１）ブロックの概要

B4-Eブロックは，調査範囲南側のB4-73・83・84・93グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸５mの範囲に100点の石器が分布するが，そのほとんどが長軸５m，短軸４mの範囲に集中する。出土層位は，Ⅲ層を中心としており，50cmほどの高低差をもって包含されている（第173・174図）。

ブロックは，ナイフ形石器４点，掻器１点，石刃22点（21個体），剥片67点（66個体），砕片２点，石核４点の合計100点（98個体）で構成される。石器石材は，軟質の安山岩３点，流紋岩10点，頁岩Ｃ10点（９個体），頁岩Ｅ41点（40個体），チャート９点，凝灰岩８点，砂岩４点，ホルンフェルス12点，瑪瑙・玉髄３点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは26母岩を識別した。内訳は，軟質の安山岩１母岩（B4-41），流紋岩１母岩（B4-57），頁岩Ｃ４母岩（B4-46・60・63・64），頁岩Ｅ10母岩（B4-15～21・30・61・65），チャート２母岩（B4-56・62），凝灰岩３母岩（B4-35・42・55），砂岩１母岩（B4-58），ホルンフェルス３母岩（B4-38・39・59），瑪瑙・玉髄１母岩（B4-37）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80％（80/100点）である。

・**B4-15**：暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（7.3ｇ）の単独資料であるが，B4-Dブロックの石刃３点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに10点ある。

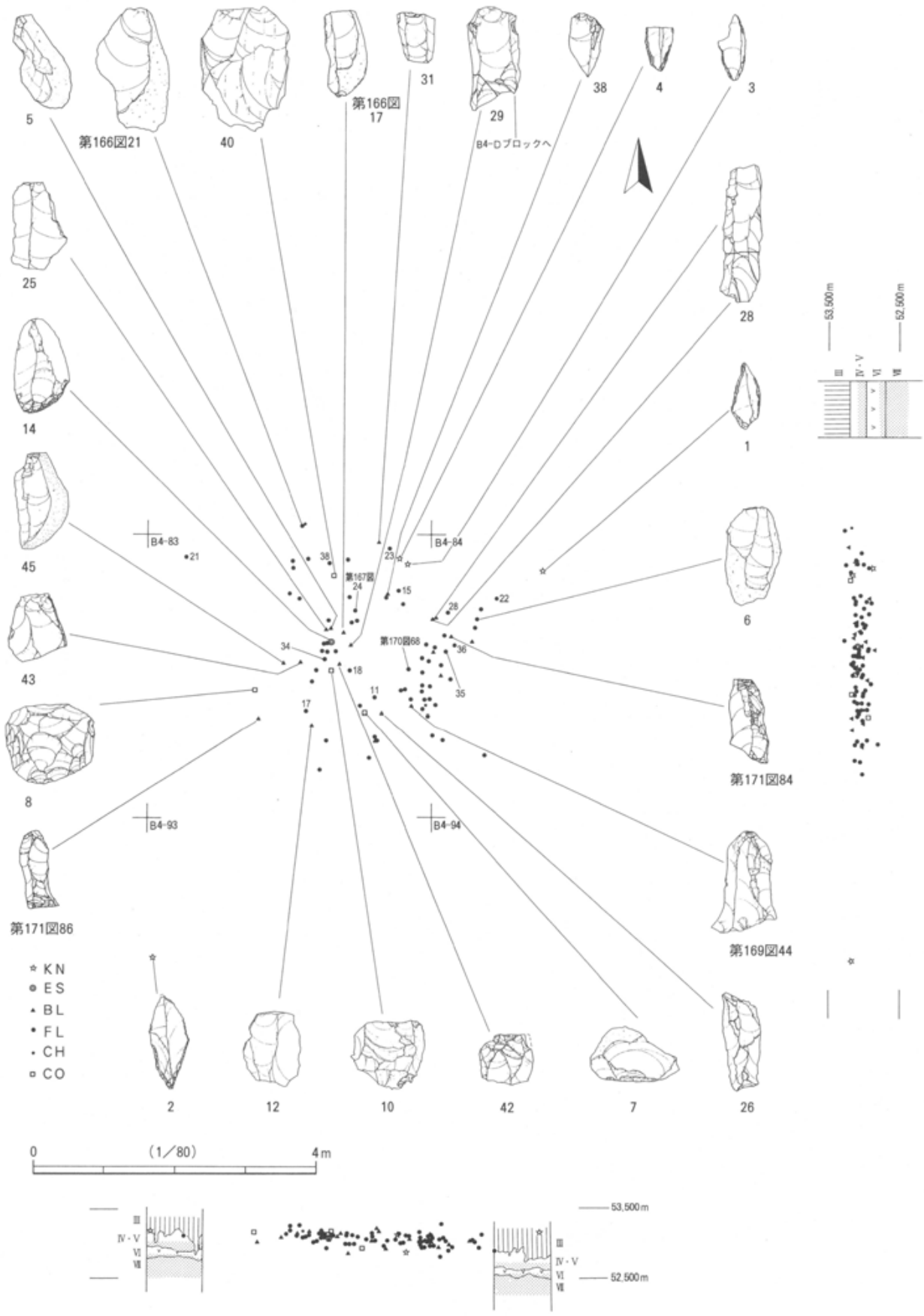
・**B4-16**：灰色（10Y5/1）などの頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃４点，剥片１点の合計５点（21.9ｇ）である。接合資料は，石刃３点（14.6ｇ）が，B4-Dブロックの石刃２点，ブロック外（B4-81グリッド）の石刃１点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに11点ある。

・**B4-17**：にぶい黄橙色（10YR6/4）などの頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃５点（４個体），剥片６点，石核１点の合計12点（11個体；141.7ｇ）である。接合資料は，石刃５点（４個体），剥片５点，石核１点の合計11点（10個体；140.1ｇ）が，B4-Dブロックの石刃２点と接合している。

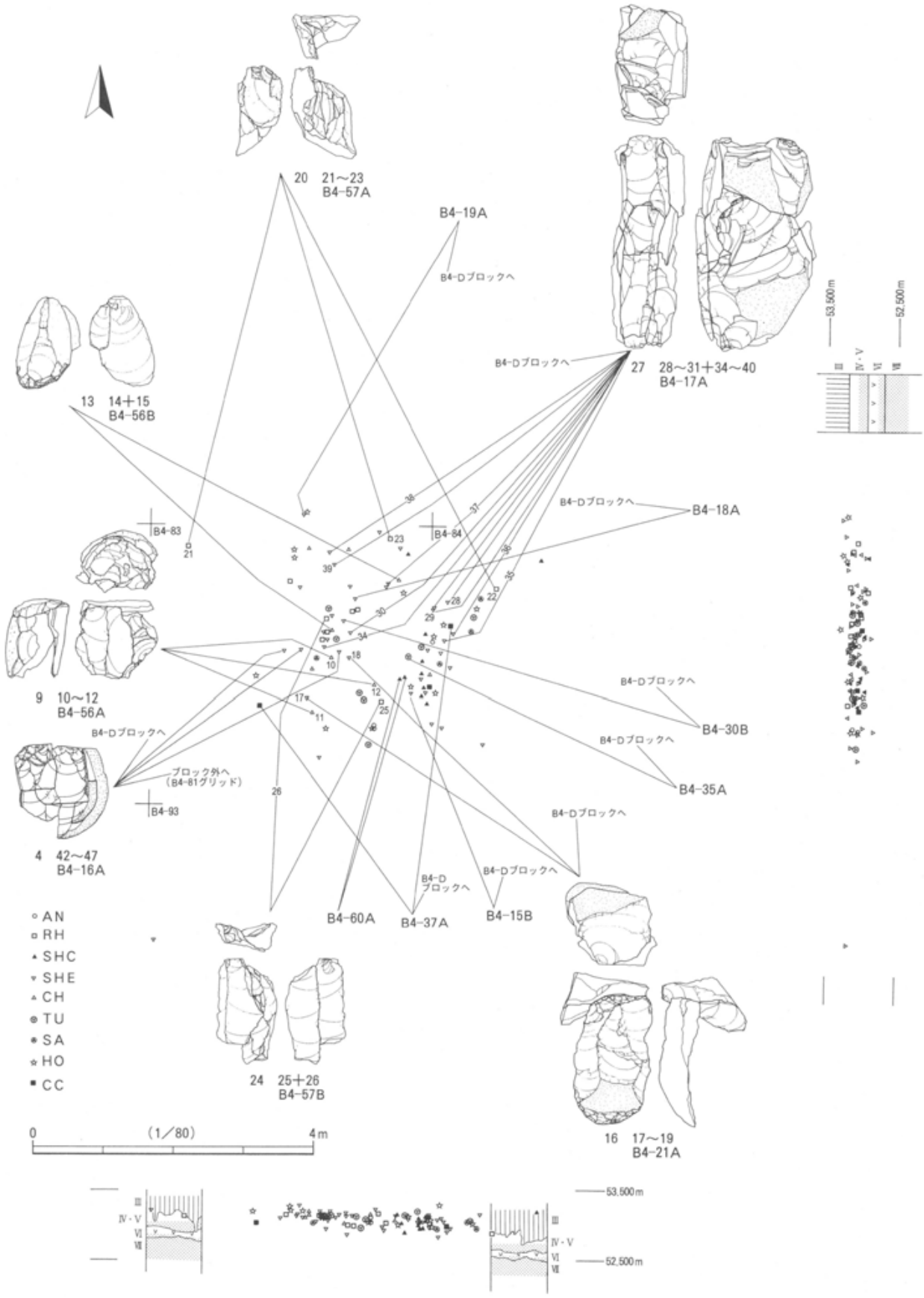
・**B4-18**：灰オリーブ色（2.5Y5/2）の頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃１点，剥片２点の合計４点（18.6ｇ）である。接合資料は，剥片１点（5.8ｇ）が，B4-Dブロックの石刃２点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに３点ある。

・**B4-19**：灰褐色（7.5YR5/2）の頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（10.5ｇ）の単独資料であるが，B4-Dブロックの石刃１点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに５点ある。

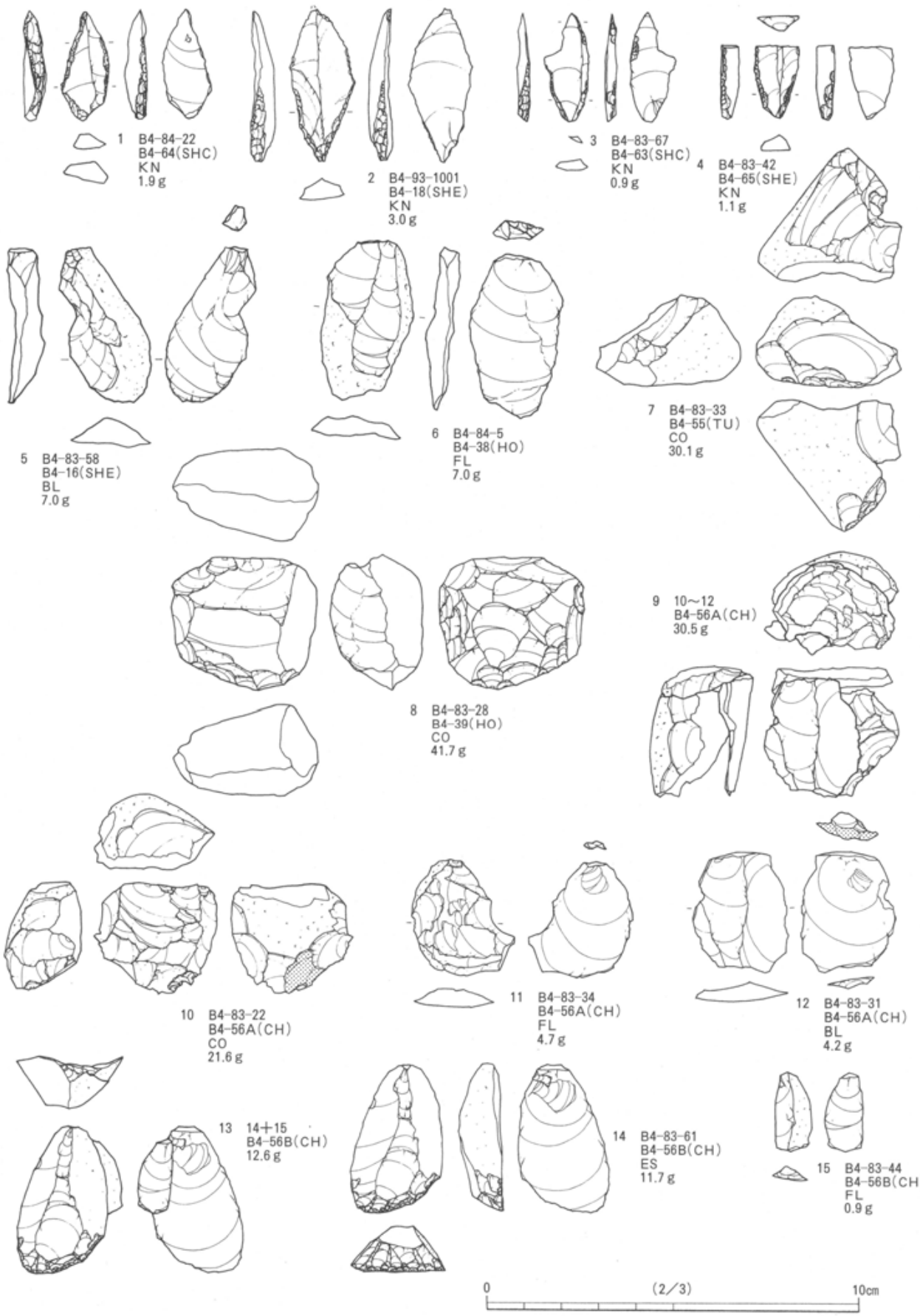
・**B4-20**：灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.0ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がB4-Dブロックに９点ある。



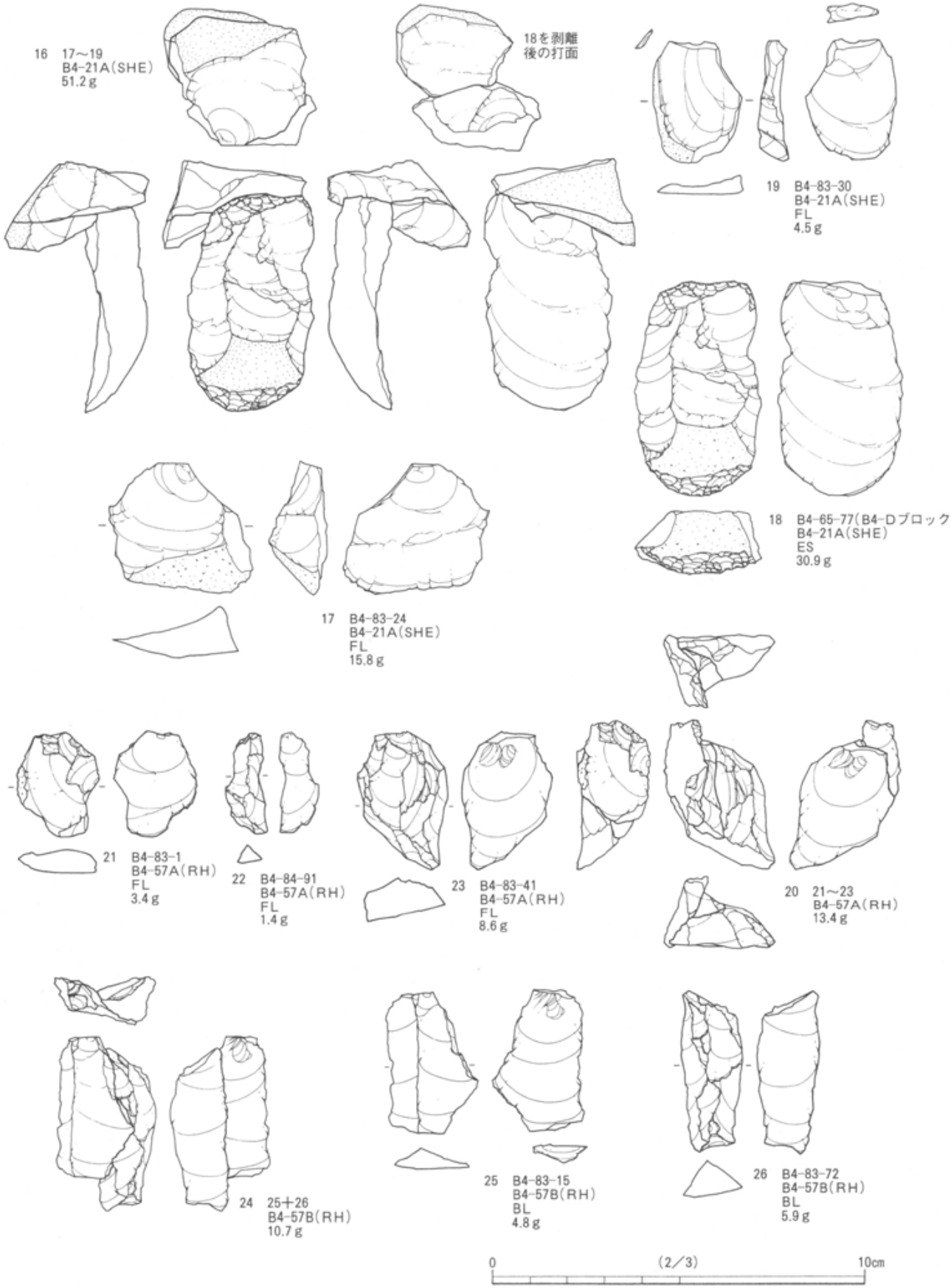
第173図　Ｂ４－Ｅブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



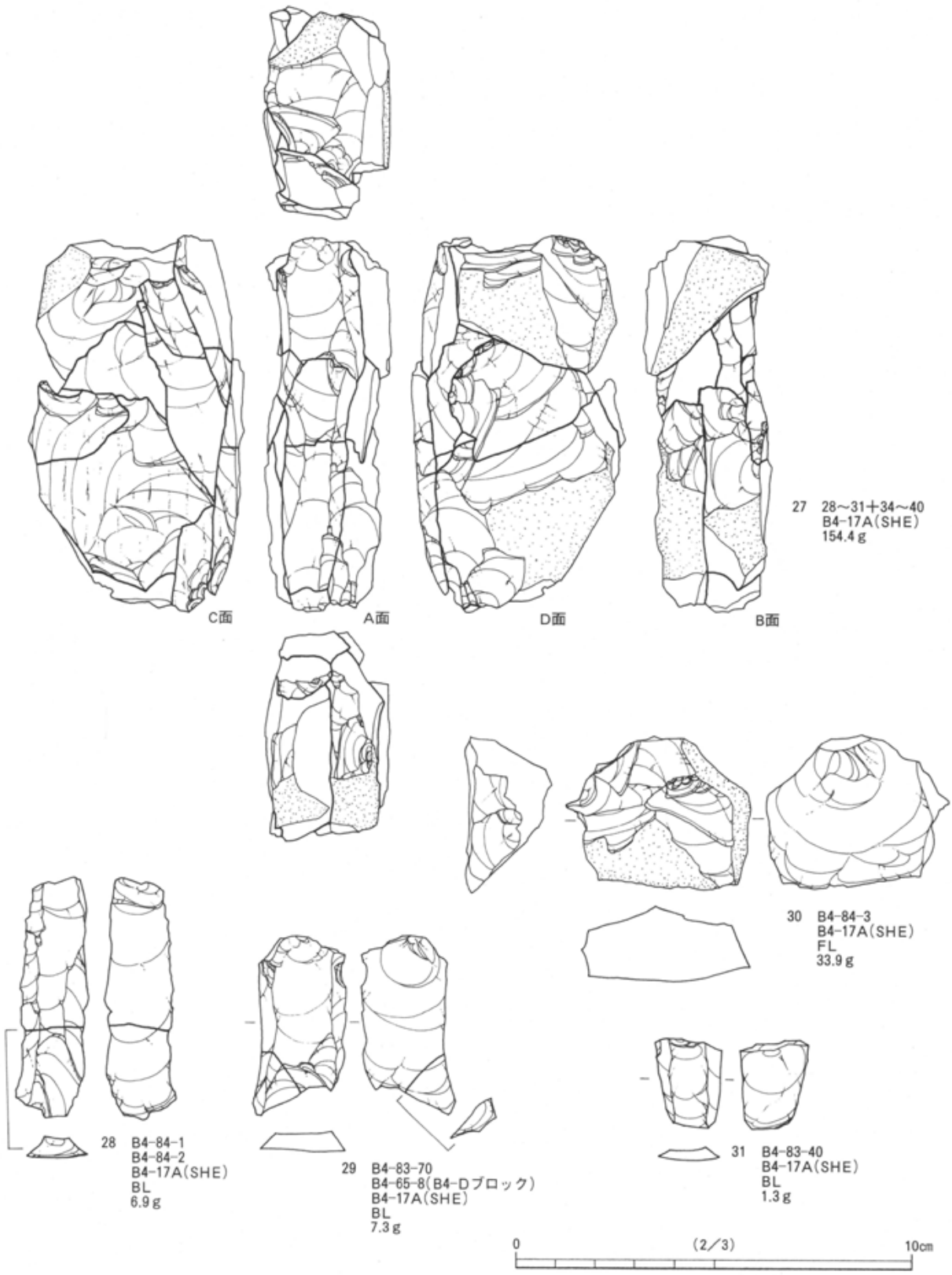
第174図　Ｂ４－Ｅブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第175図　Ｂ４－Ｅブロック出土遺物（１）



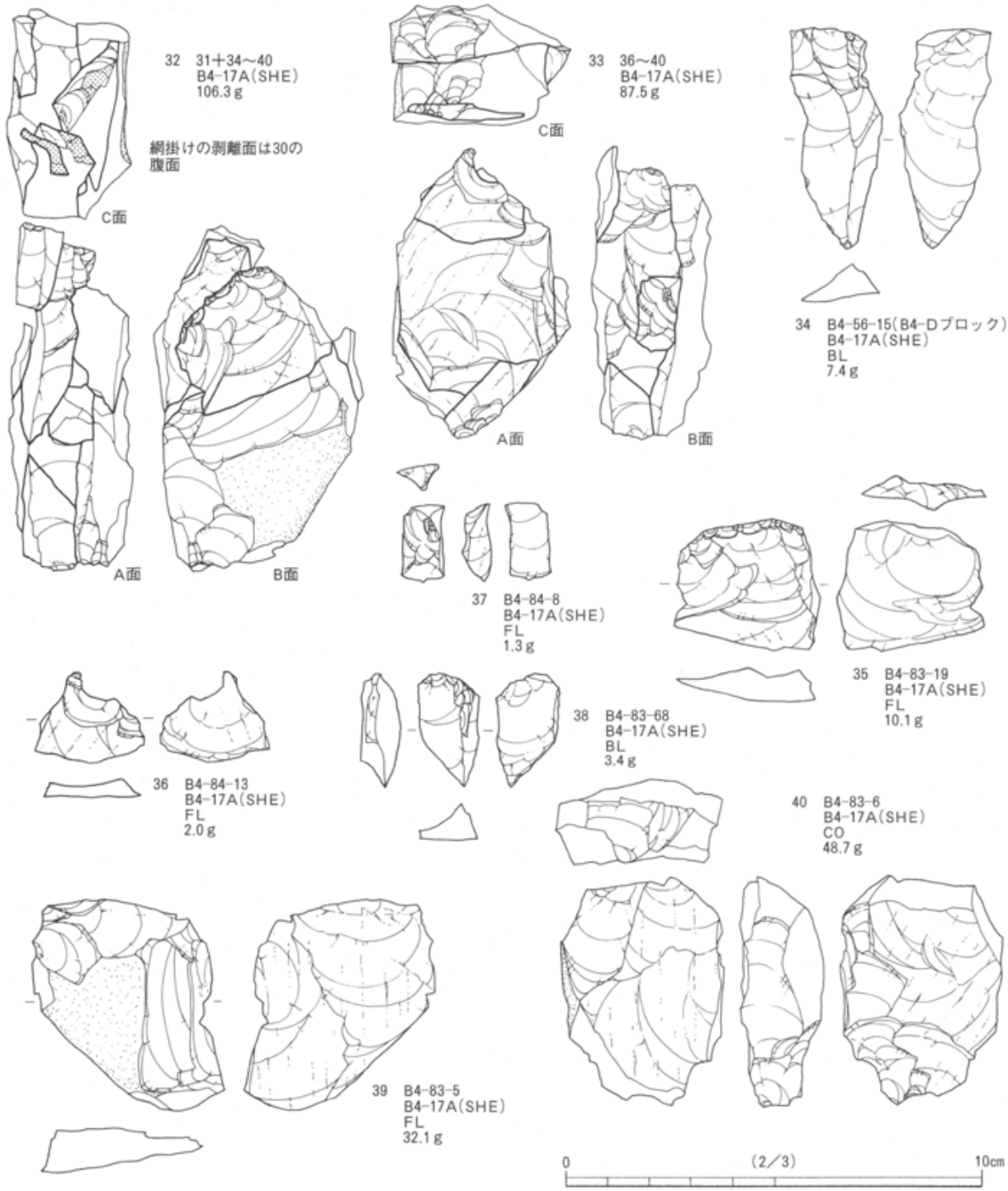
第176図　Ｂ４－Ｅブロック出土遺物（２）



第177図　Ｂ４－Ｅブロック出土遺物（３）

・**B4-21**：灰色（10Y4/1）の頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片３点（20.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点（20.2ｇ）が，B4-Dブロックの掻器１点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに３点ある。

・**B4-30**：にぶい黄色（2.5Y6/3）の頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（2.7ｇ）の単独資料であるが，B4-Dブロックの石刃１点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに５点ある。



第178図　Ｂ４－Ｅブロック出土遺物（４）

・**B4-35**：灰オリーブ色（5Y5/2）の凝灰岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（0.5ｇ）の単独資料であるが，B4-Dブロックの石核１点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに２点ある。

・**B4-37**：浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃２点（6.4ｇ）である。接合資料は，石刃２点（6.4ｇ）が，B4-Dブロックの石刃２点と接合している。その他に同一母岩がB4-Dブロックに１点ある。

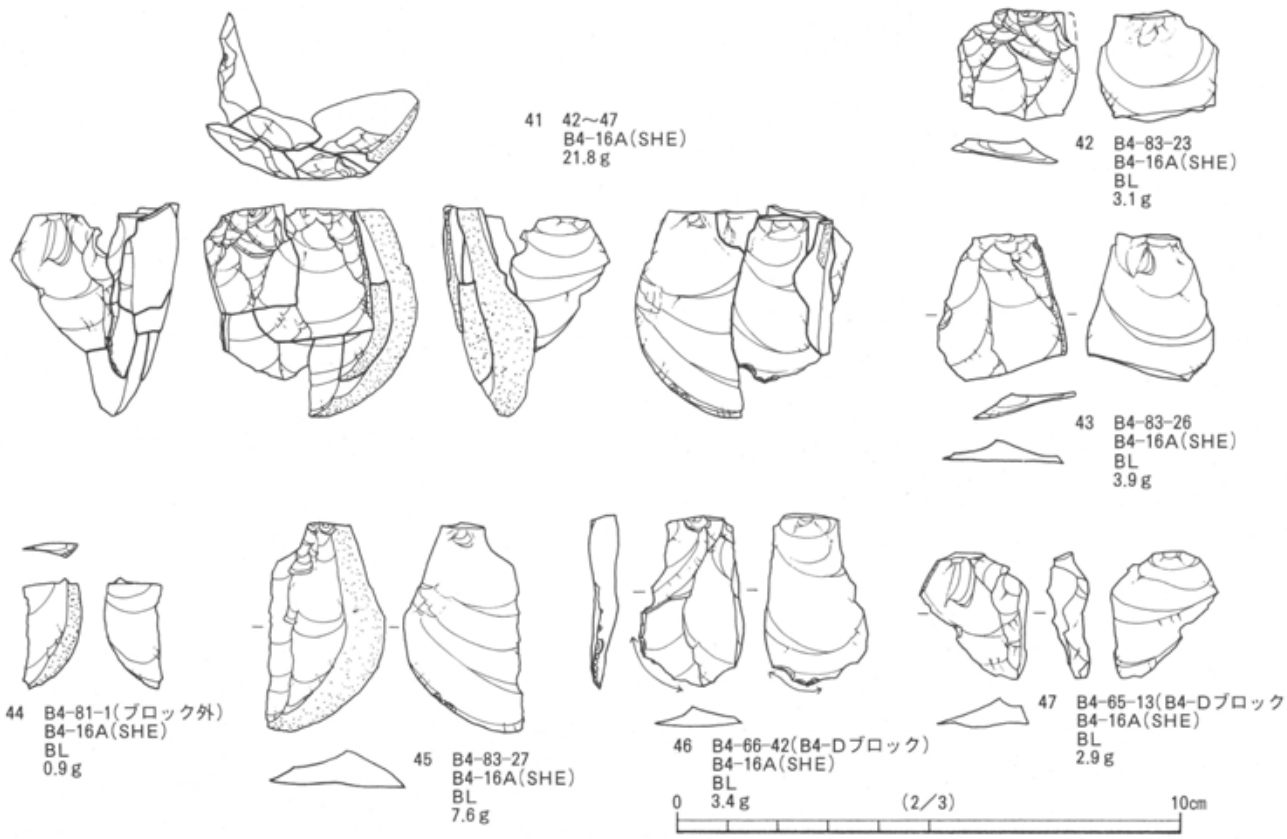
・**B4-38**：灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片２点（11.6ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Dブロックに14点ある。

・**B4-39**：灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（43.7ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Dブロックに２点ある。

・**B4-41**：にぶい黄色（2.5Y6/4）の軟質な安山岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃２点，剥片１点の合計３点（5.6ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Dブロックに12点ある。

・**B4-42**：オリーブ黄色（5Y6/3）の凝灰岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片２点（2.0ｇ）である。その他に同一母岩がB4-Dブロックに１点ある。

・**B4-46**：黄灰色（2.5Y6/1）の嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はB4-Dブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（0.8ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がB4-Dブロックに１点ある。



第179図　Ｂ４－Ｅブロック出土遺物（５）

・**B4-55**：自然面は灰白色（7.5Y7/2）・オリーブ黄色（5Y6/4），内部は灰白色（7.5Y7/2），節理は暗赤褐色（5YR3/6）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（76.0ｇ）である。

・**B4-56**：自然面は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y4/2），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）のチャートである。石器群の内訳は，掻器１点，石刃１点，剥片２点，石核１点の合計５点（43.1ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃１点，剥片１点，石核１点の合計３点（30.5ｇ），Ｂは掻器１点，剥片１点の合計２点（12.6ｇ）である。

・**B4-57**：自然面は淡黄色（2.5Y8/4），内部は灰黄色（2.5Y7/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に２㎜～３㎜ほどの石英の結晶を含む流紋岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片８点の合計10点（31.4ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片３点（13.3ｇ），Ｂは石刃２点（10.8ｇ）である。

・**B4-58**：自然面は浅黄色（2.5Y7/3）の地ににぶい黄褐色（10YR5/3）が混じり，内部は浅黄色（2.5Y7/3）の砂岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片２点の合計４点（8.7ｇ）である。

・**B4-59**：自然面は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y6/1）・灰白色（5Y7/2），新鮮な面は灰色（10Y5/1）の脆弱なホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（24.0ｇ）である。

・**B4-60**：自然面は黒褐色（10YR3/1）・にぶい赤褐色（5YR5/4），内部はにぶい赤褐色（5YR5/4）・にぶい黄橙色（10YR6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片５点（４個体；23.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；8.6ｇ）である。

・**B4-61**：自然面は明黄褐色（10YR6/6），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・浅黄色（2.5Y7/3）の地に黄褐色（10YR5/6）の砂質部が部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（93.9ｇ）である。

・**B4-62**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（2.5Y5/3）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（2.4ｇ）である。

・**B4-63**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の地に暗緑灰色（10GY4/1）の太い筋が入る嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・**B4-64**：自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・**B4-65**：暗灰黄色（2.5Y5/2）・浅黄色（5Y7/3）の地に細い筋が入る頁岩である。ナイフ形石器１点（1.1ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，嶺岡産頁岩の剥片２点（1.0ｇ），頁岩の剥片７点，砕片１点の合計８点（12.0ｇ），チャートの剥片２点（3.3ｇ），凝灰岩の剥片１点（0.9ｇ），ホルンフェルスの剥片５点，砕片１点の合計６点（7.4ｇ），瑪瑙・玉髄の剥片１点（0.1ｇ）がある。

３）出土遺物（第175図１～８）

１・３は嶺岡産頁岩による，２・４は頁岩によるナイフ形石器である。すべて石刃を素材としており，１を除いて打面側を基部にしている。１は二側縁加工，２は基部加工である。３は基部加工ないし二側縁加工である。裏面左側縁の細かい剥離痕は，使用による可能性がある。４は上半部を欠損するが，基部加工と考えられる。５は頁岩による石刃，６はホルンフェルスによる剥片である。７は凝灰岩，８はホルンフェルスによる石核である。７は小型で不定型な礫を素材として交互剥離によって剥離作業を行っている。８は両面に求心的な剥離作業を行っており，右側面には切断面と考えられる大きな剥離面が見られる。

４）接合資料とその関連資料（第175図９～15，第176～179図）

・B4-56（第175図９～15）　暗灰黄色（2.5Y4/2）のチャートである。掻器１点，石刃１点，剥片２点，石核１点の合計５点で構成される。接合資料は，２グループある。Ａ（９）は石刃１点（12），剥片１点（11），石核１点（10）の接合資料である。９は円礫ないし楕円礫を素材として，11を剥離して打面を作出した後，12を含む縦長剥片状の石刃を剥離している。その後，10は求心的な剥離により不定型な剥片を剥離している。Ｂ（13）は掻器１点（14），剥片１点（15）の接合資料である。両設打面の石核から14，15を剥離している。14は石刃状の剥片を素材として，末端に急角度の調整加工を行って刃部を作り出している。石刃ないし石刃状の剥片の生産に関係する母岩と考えられる。

・B4-21（第176図16～19）　灰色（10Y4/1）の頁岩である。剥片３点で構成される。16は，掻器１点（18），剥片２点（17・19）の接合資料である。16は17を剥離して打面を作出した後，打面調整や頭部調整を行って18を剥離し，打点を移動して19を剥離している。17・19は打面調整ないし再生に関わる剥片である。18は石刃を素材として，末端に急角度の調整加工を行って刃部を作り出している。なお，本資料は，B4-Ｄブロックから出土している。石刃石器群に関係する母岩と考えられる。

・B4-57（第176図20～26）　灰黄色（2.5Y7/2）などの流紋岩である。石刃２点，剥片８点の合計10点で構成される。接合資料は，２グループある。Ａ（20）は剥片３点（21～23）の接合資料である。20は上方向から21を剥離した後，90度打面を転移して小型で不定型な剥片を数枚剥離し，再び上方向から22，23を剥離している。22・23は石核の側面調整等に関係する可能性がある。Ｂ（24）は石刃２点（25・26）の接合資料である。25は打面調整が顕著である。石刃の生産に関係する母岩と考えられる。

・B4-17（第177図，第178図）　にぶい黄橙色（10YR6/4）などの頁岩である。木の葉の化石と思われる破片を含む。石刃５点（４個体），剥片６点，石核１点の合計12点（11個体）で構成される。27は，石刃５点（４個体；28・29・31・34・38），剥片５点（30・35・36・37・39），石核１点（40）の接合資料である。27は拳ほどの角礫を素材として，27のＡ面の下方向から28→上方向から29→27のＤ面の右上方向から30→32のＡ面の上方向から31→34→32のＢ面の左上方向から35を剥離した後，32のＢ面の左下方向から39が節理で剥落してしまった。その後も，33のＡ面の上方向から36，32のＡ面の上方向から37，33のＢ面の下方向から38など小型で不定型な剥片を剥離している。なお，29の上部・34はB4-Ｄブロックから出土している。石刃の生産に関係する母岩と考えられる。

・B4-16（第179図）　灰色（10Y5/1）などの頁岩である。石刃４点，剥片１点の合計５点で構成される。41は，石刃６点（42～47）の接合資料である。平坦打面の石刃石核から42→43→44→45→46→47の順に石刃ないし石刃状の剥片を剥離している。なお，46・47はB4-Ｄブロック，44はブロック外（B4-81グリッド）から出土している。石刃ないし石刃状の剥片の生産に関係する母岩と考えられる。

第45表　Ｂ４－Ｅブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B4-15(SHE)												1													1
B4-16(SHE)												4						1							5
B4-17(SHE)												5(4)						6		1					12(11)
B4-18(SHE)	1											1						2							4
B4-19(SHE)												1													1
B4-20(SHE)																		1							1
B4-21(SHE)																		3							3
B4-30(SHE)												1													1
B4-35(TU)																		1							1
B4-37(CC)												2													2
B4-38(HO)																		2							2
B4-39(HO)																		1		1					2
B4-41(TO)												2						1							3
B4-42(TU)																		2							2
B4-46(SHC)																		1							1
B4-55(TU)																		3		1					4
B4-56(CH)					1							1						2		1					5
B4-57(RH)												2						8							10
B4-58(SA)												2						2							4
B4-59(HO)																		2							2
B4-60(SHC)																		5(4)							5(4)
B4-61(SHE)																		4							4
B4-62(CH)																		2							2
B4-63(SHC)	1																								1
B4-64(SHC)	1																								1
B4-65(SHE)	1																								1
その他(SHC)																		2							2
その他(SHE)																		7	1						8
その他(CH)																		2							2
その他(TU)																		1							1
その他(HO)																		5	1						6
その他(CC)																		1							1
合　計	4				1							22(21)						67(66)	2	4					100(98)

第46表　Ｂ４－Ｅブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(TO)												2						1							3
流紋岩(RH)												2						8							10
頁岩Ｃ(SHC)	2																	8(7)							10(9)
頁岩Ｅ(SHE)	2											13(12)						24	1	1					41(40)
チャート(CH)					1							1						6		1					9
凝灰岩(TU)																		7		1					8
砂岩(SA)												2						2							4
ホルンフェルス(HO)																		10	1	1					12
瑪瑙・玉髄(CC)												2						1							3
合　計	4				1							22(21)						67(66)	2	4					100(98)

第5節　第4文化層

第4文化層は，立川ローム層ソフトローム層を中心に包含されている石器群である。A4-B，D4-A・Bブロックの3か所が該当する。他に，単独出土地点2か所を検出した。D4-Bブロックから小型幾何形ナイフ形石器と有樋尖頭器のスポールの可能性のある剥片が発見されており，いわゆる「砂川期」に後続する旧石器時代終末期の石器群と考えられる。なお，本文化層については，D4-A・Bブロックは，ブロック間に接合関係はないが，石器組成や石材構成が類似していることから，同時期と考えられるが，A4-Bブロックは，D4-A・Bブロックとの間に石器群の内容等に若干相違があり，2時期に細分される可能性もある。

1　A4-Bブロック（第180～182・201図，第47・48表，カラー図版16）

1）ブロックの概要

A4-Bブロックは，調査範囲南側のB4-86・96グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に舌状に伸びる台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸2m，短軸1mの範囲に6点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心に20cmほどの高低差をもって包含されている（第180・181図）。第2文化層のA4-Aブロックが近接しているが，石器群の内容・出土層位・平面分布等に相違があり，ブロックを分けた。また，D4-A・Bブロックとも相違点があり，時期差も考えられる。

ブロックは，槍先形石器1点，剥片5点の合計6点で構成されており，石器石材は，安山岩5点，凝灰岩1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，安山岩3母岩（A4-8・10・15），凝灰岩1母岩（A4-4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（6/6点）である。

・**A4-4**：自然面は褐色（7.5YR4/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）の比較的珪化度の高い凝灰岩である。本ブロックでは剥片1点（1.1g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がブロック外（A4-99グリッド）に1点ある。

・**A4-8**：オリーブ黒色（5Y3/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（2.1g）である。

・**A4-10**：自然面及び内部が黄褐色（2.5Y5/4）の地に灰色（5Y4/1）の縞が入る安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（19.2g）である。

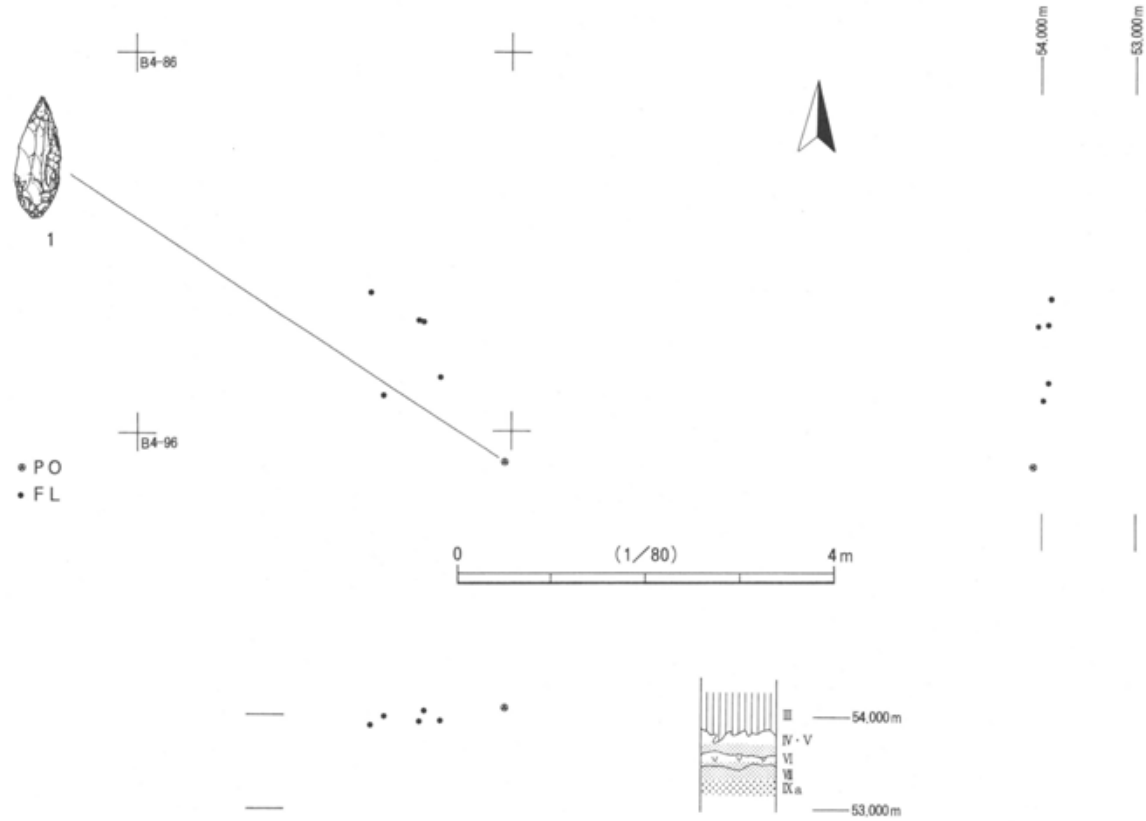
・**A4-15**：オリーブ黒色（7.5Y3/1）の安山岩である。石器群の内訳は，槍先形石器1点（3.4g）の単独資料である。

3）出土遺物（第182図）

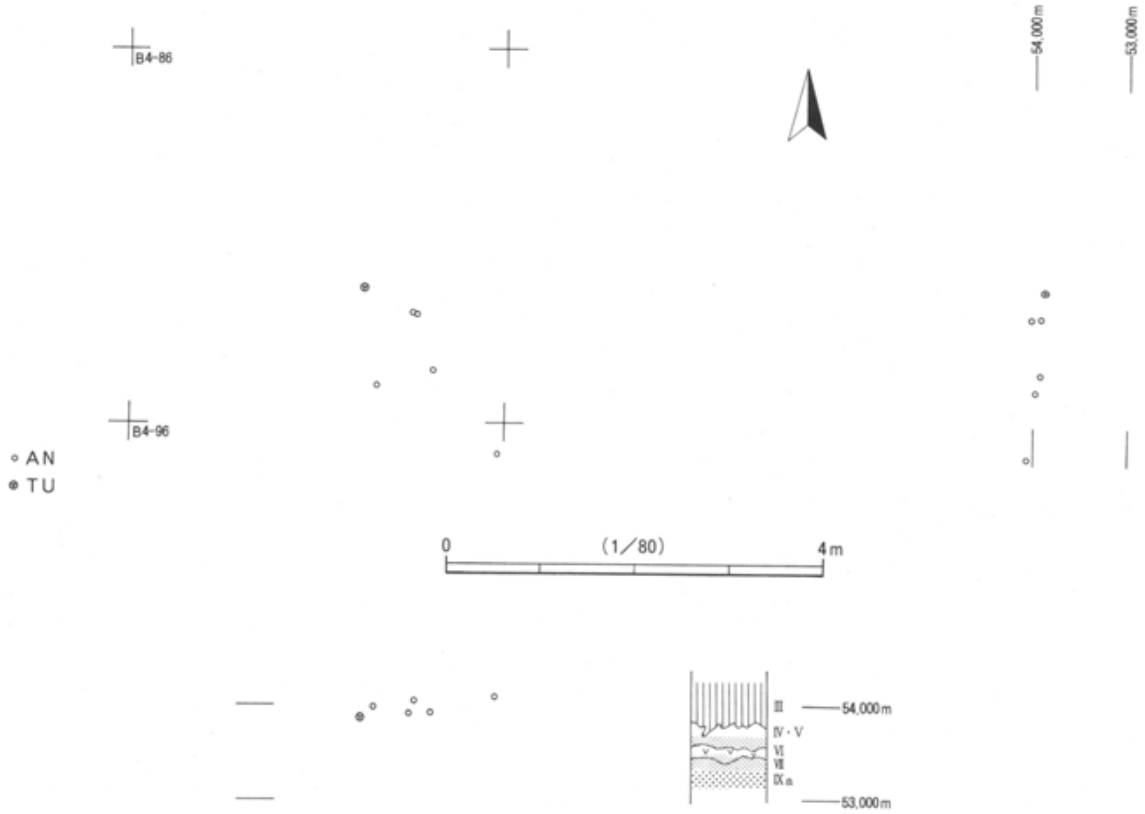
1は安山岩による細身の木葉形の槍先形石器である。縦長剥片を素材として打面側を基部にして，表裏両面に細かい周辺加工を行っている。両面とも右側縁に調整加工が集中している。

第47表　A4－Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
A4-4(TU)																		1							1
A4-8(AN)																		2							2
A4-10(AN)																		2							2
A4-15(AN)			1																						1
合　計			1															5							6



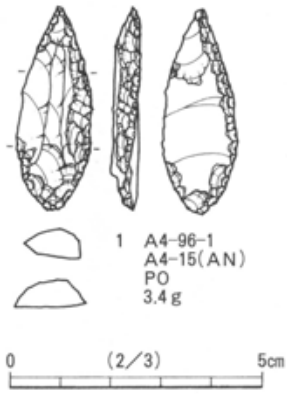
第180図　Ａ４－Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第181図　Ａ４－Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

第48表　Ａ４－Ｂブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)			1															4							5
凝灰岩(TU)																		1							1
合　計			1															5							6



第182図　Ａ４－Ｂブロック出土遺物

2　D4-Aブロック（第183～185・201図，第49～51表，図版７）

１）ブロックの概要

D4-Aブロックは，調査範囲南側のC4-69，D4-50・51・60・61・70グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸７ｍ，短軸６ｍの範囲に98点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱｃ層からⅨａ層にかけてで，100cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層で，60cmほどの高低差をもって包含されている（第183～185図）。

ブロックは，槍先形石器１点，楔形石器３点，剥片７点，砕片６点，削片２点の合計19点と礫79点で構成されており，礫が主体のブロックである。石器石材は，黒曜石Ｇ５点，安山岩12点，頁岩Ａ１点，砂岩１点，礫石材は，安山岩７点，流紋岩２点，頁岩７点，チャート20点，砂岩34点，ホルンフェルス２点，石英６点，不明１点である。礫は，母岩分類できたものが73点（39母岩；1,230.8ｇ），母岩分類できなかったものが６点（15.0ｇ）で，識別率は92％である。

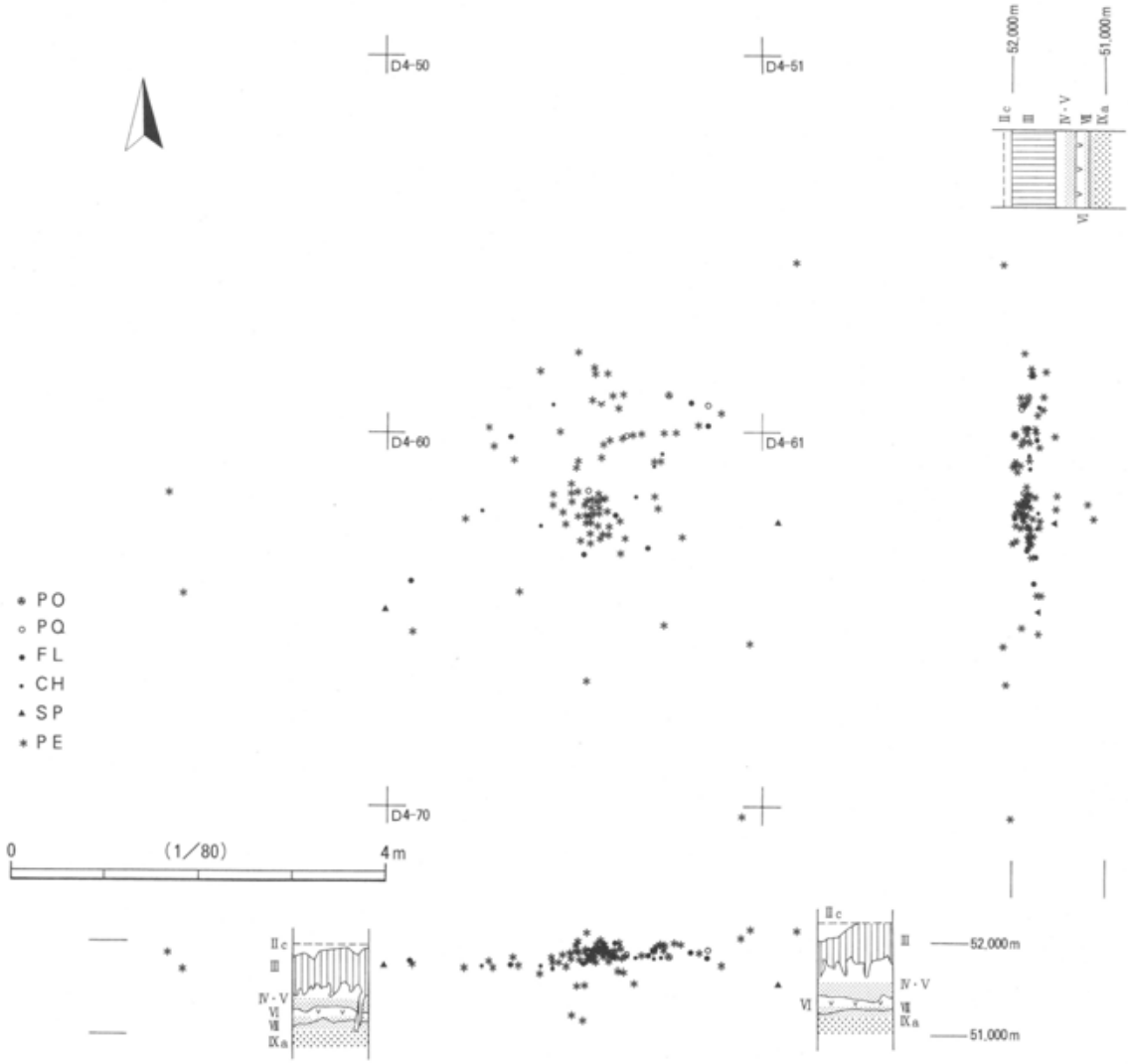
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは，小型の資料や似た石材が多く，母岩を識別することができなかった。母岩分類できなかった資料の内訳は，産地不明の黒曜石の槍先形石器１点，剥片２点，砕片１点，削片１点の合計５点（1.9ｇ），安山岩の楔形石器２点，剥片４点，砕片５点，削片１点の合計12点（10.3ｇ），東北産頁岩の楔形石器１点（0.8ｇ），砂岩の剥片１点（1.0ｇ）である。

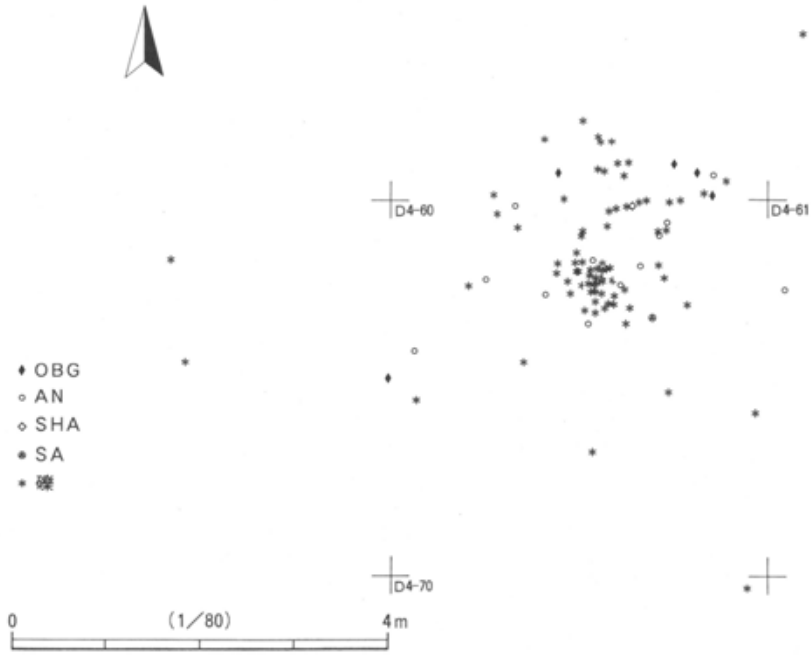
３）出土遺物

図示していないが，槍先形石器は，両面加工で基部と考えられる。削片は，有樋尖頭器に関係するものと考えられる。

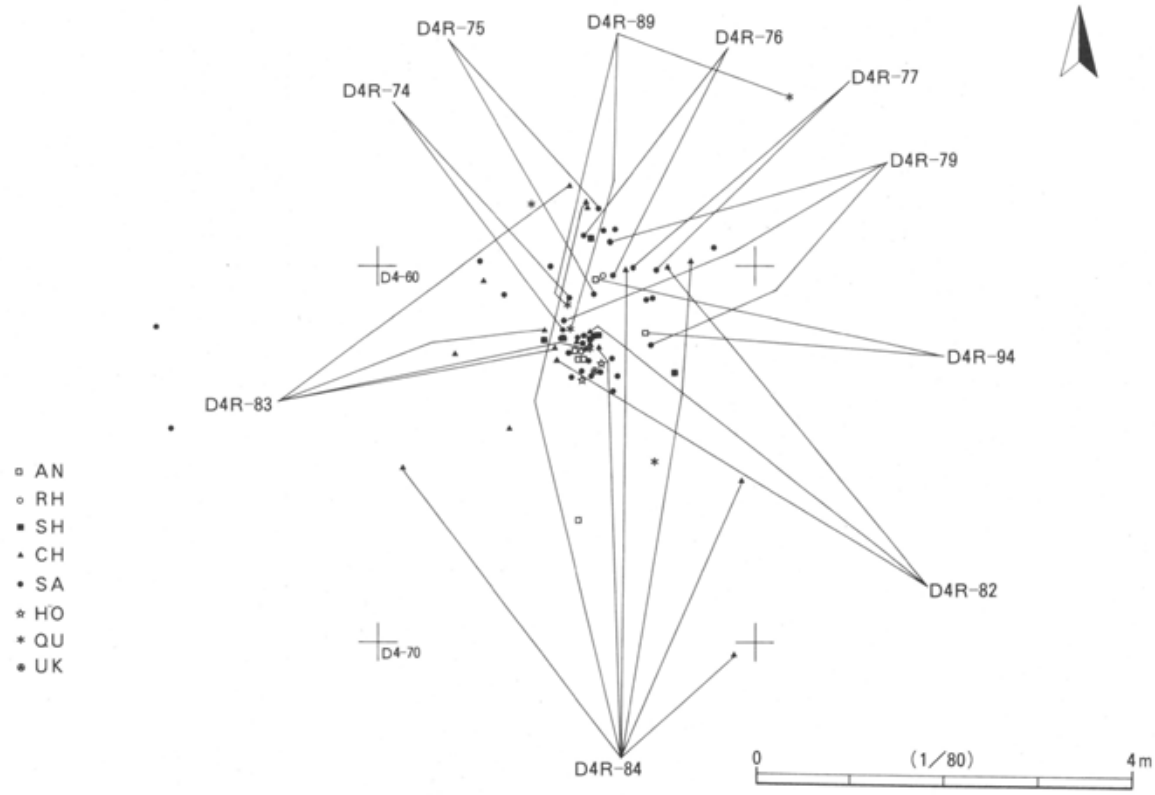
礫は長さ３cm～８cmの単独資料が主体で，破損品がほとんどである。また，明確に被熱の痕跡を示すものは多くない。



第183図　Ｄ４－Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第184図　Ｄ４－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第185図　Ｄ４－Ａブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

第49表　Ｄ４－Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
その他(OBG)			1															2	1			1			5
その他(AN)									2									4	5			1			12
その他(SHA)									1																1
その他(SA)																		1							1
合　計			1						3									7	6			2			19

第50表　Ｄ４－Ａブロック石材別石器組成

石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ｇ(OBG)			1															2	1			1			5
安山岩(AN)									2									4	5			1			12
頁岩Ａ(SHA)									1																1
砂岩(SA)																		1							1
合　計			1						3									7	6			2			19

第51表　Ｄ４－Ａブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
D4R-59	SA	1	14.6
D4R-60	SA	1	16.5
D4R-61	SA	1	14.9
D4R-62	SA	1	16.2
D4R-63	SA	1	29.8
D4R-64	SA	1	16.6
D4R-65	SA	1	15.6
D4R-66	SA	1	13.3
D4R-67	SA	1	6.7
D4R-68	SA	1	21.5
D4R-69	SA	1	37.7
D4R-70	SA	1	20.8
D4R-71	SA	1	10.5
D4R-72	SA	1	13.2
D4R-73	SA	1	45.5
D4R-74	SA	2	35.3
D4R-75	SA	2	13.4
D4R-76	SA	2	91.7
D4R-77	SA	5	52.0
D4R-78	SA	2	38.5
D4R-79	SA	3	34.4
D4R-80	CH	1	21.9
D4R-81	CH	1	23.2
D4R-82	CH	5	24.8
D4R-83	CH	4	68.0
D4R-84	CH	9	67.3
D4R-85	HO	1	25.7
D4R-86	HO	1	7.3
D4R-87	SH	1	15.8
D4R-88	SH	3	6.6
D4R-89	QU	6	12.9
D4R-90	AN	1	147.4
D4R-91	AN	1	19.7
D4R-92	AN	1	14.9
D4R-93	AN	2	115.4
D4R-94	AN	2	16.8
D4R-95	RH	1	37.7
D4R-96	RH	1	15.6
D4R-97	UK	1	31.1
その他	SH	3	5.6
その他	SA	3	9.4

石　材	個数	重量
安山岩（AN）	7	314.3
流紋岩（RH）	2	53.2
頁岩（SH）	7	28.0
チャート(CH)	20	205.2
砂岩(SA)	34	568.0
ホルンフェルス(HO)	2	33.0
石英（QU）	6	12.9
不明(UK)	1	31.1
合　計	79	1245.8

3　D4-Bブロック（第186～193・201図，第52～54表，カラー図版16，図版７）

１）ブロックの概要

D4-Ｂブロックは，調査範囲南側のD4-73・83グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸３ｍの範囲に360点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱｃ層からⅥ層にかけてで，90cmほどの高低差をもっているが，中心はⅣ層で，50cmほどの高低差をもって包含されている（第186～192図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，掻器３点，楔形石器11点，加工痕ある剥片３点，使用痕ある剥片２点，剥片76点，砕片22点の合計118点と礫242点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ８点，黒曜石Ｇ18点，安山岩65点，流紋岩８点，頁岩Ａ４点，頁岩Ｅ３点，ホルンフェルス２点，石英１点，瑪瑙・玉髄９点，礫石材は，安山岩４点，流紋岩25点，チャート45点，砂岩159点，ホルンフェルス６点，礫岩３点である。礫は，母岩分類できたものが208点（58母岩；3,222.6ｇ），母岩分類できなかったものが34点（86.2ｇ）で，識別率は86％である。なお，D4-73グリッドを中心に多数の砕片が出土したため，砕片の検出面からハードローム上面まで，50cmメッシュにより，土壌が採集されていたが，その後に紛失したため，詳細は不明である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（D4-２），流紋岩１母岩（D4-４），頁岩Ａ２母岩（D4-５・６），頁岩Ｅ１母岩（D4-３），石英１母岩（D4-７）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は19％（23/118点）である。

・**D4-2**：暗灰黄色（2.5Y4/2）で，緻密な部分とやや空隙のある部分が層状になっている安山岩である。石器群の内訳は，楔形石器３点，剥片４点の合計７点（8.5ｇ）である。

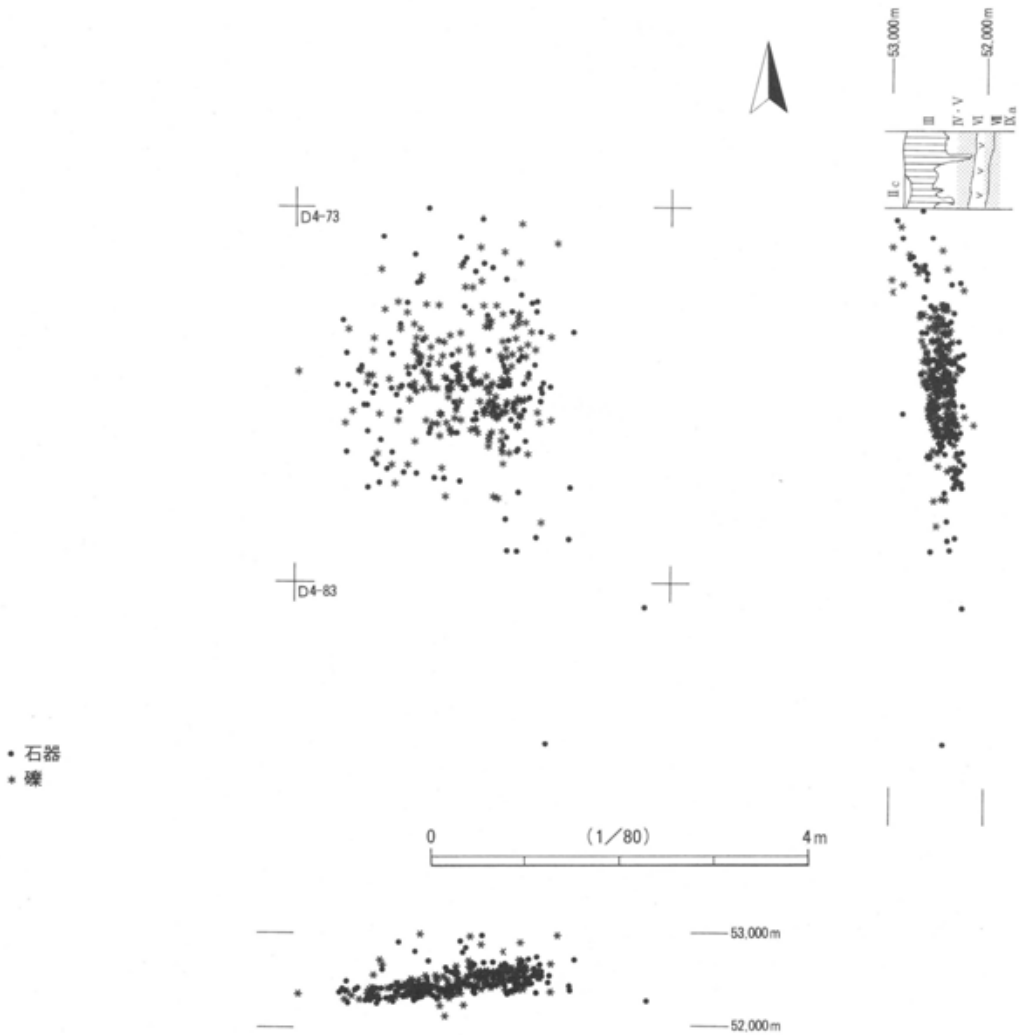
・**D4-3**：灰白色（5Y7/2）・灰白色（5Y7/1）の頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（1.0ｇ）である。

・**D4-4**：自然面は黄褐色（10YR5/6）の地にオリーブ黒色（5Y3/1）の粒が入り，内部は淡黄色（2.5Y 8/3）の地に黄褐色（10YR5/6）の粒が入る流紋岩である。石器群の内訳は，剥片８点（7.5ｇ）である。ほとんどが，打面調整の顕著な小型で不定型な剥片であるが，１点，石刃状の剥片がある。上部の一部しか残存していないため，詳細は不明である。

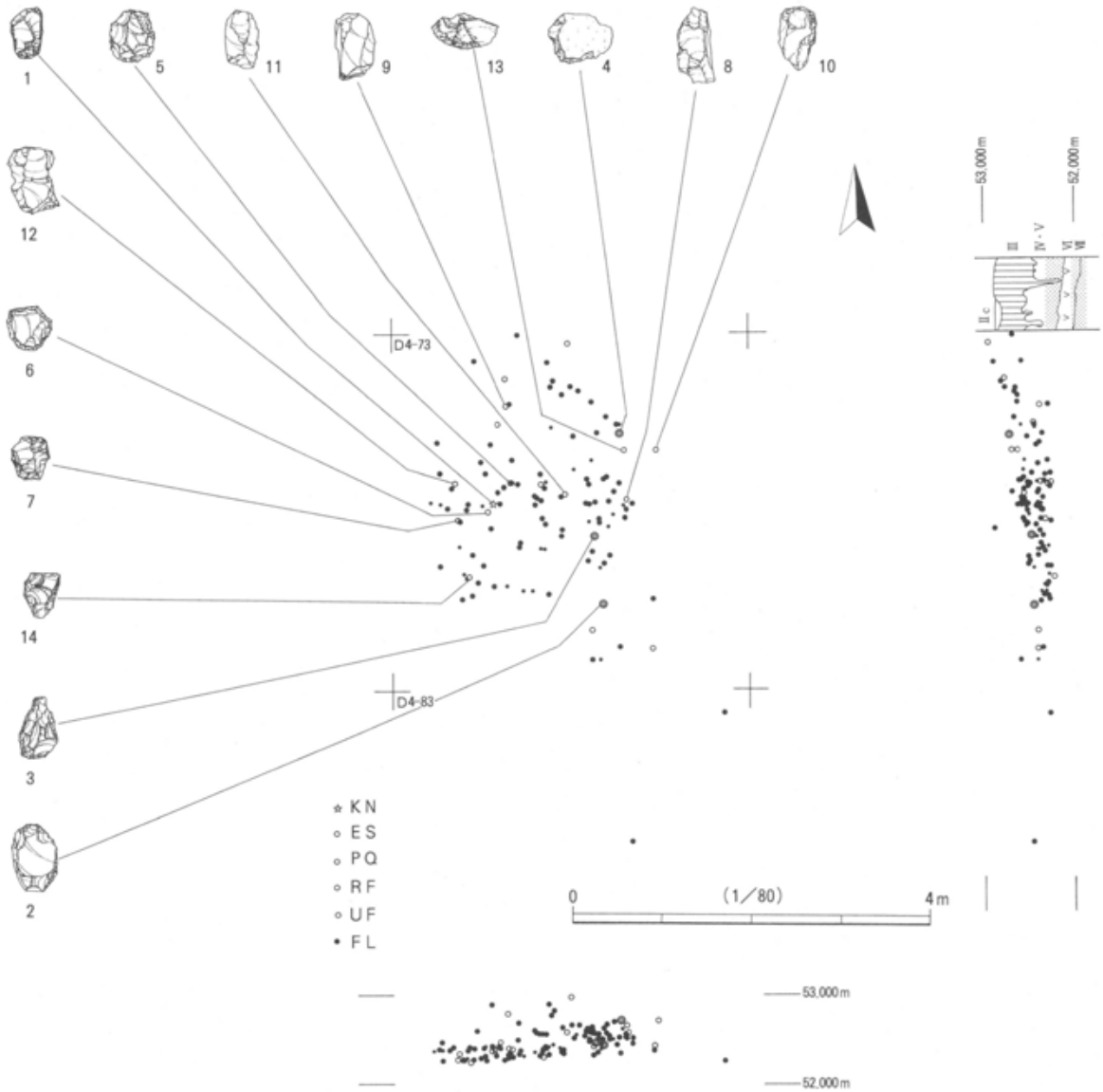
・**D4-5**：黄褐色（2.5Y5/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・**D4-6**：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（0.5ｇ）である。

・**D4-7**：無色透明な石英である。剥片１点（0.1ｇ）の単独資料である。



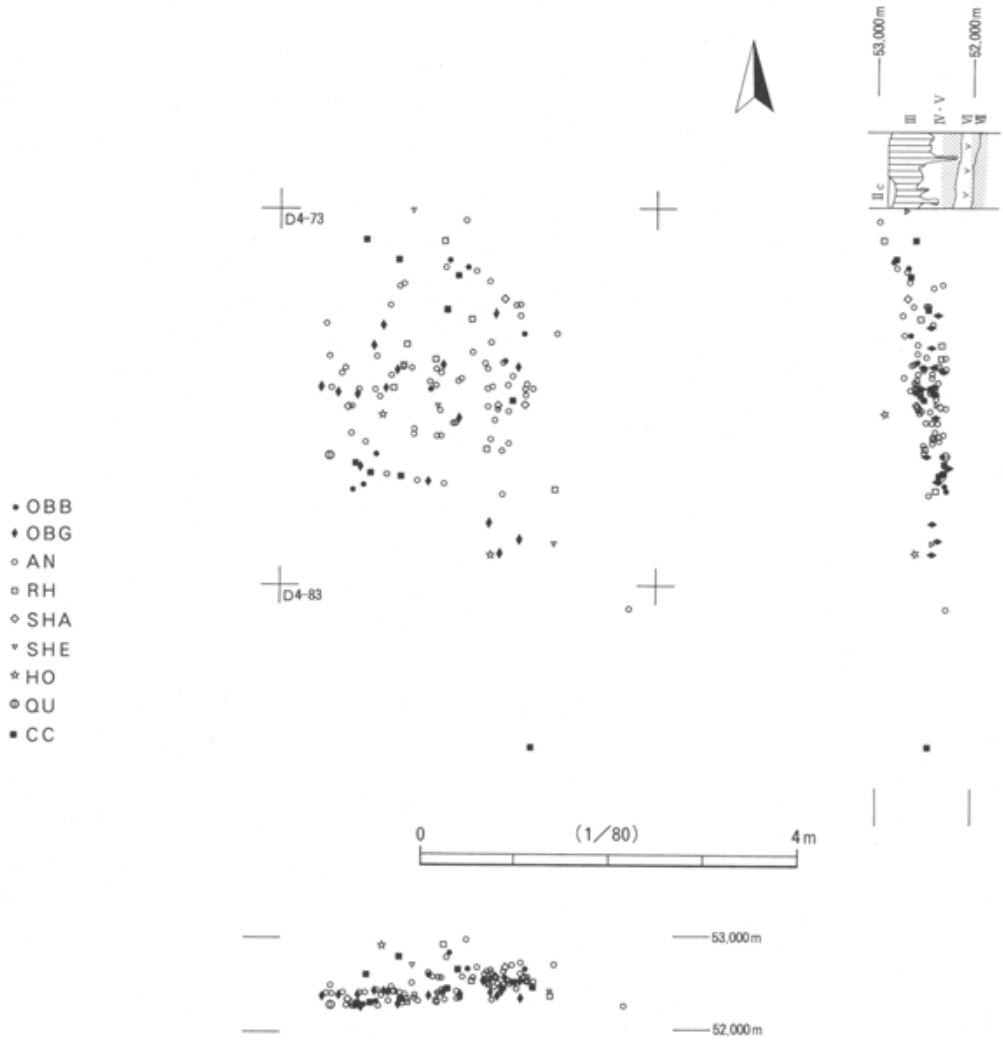
第186図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器・礫分布－



第187図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物分布（２）－石器別分布－

第52表　Ｄ４－Ｂブロック母岩別石器組成

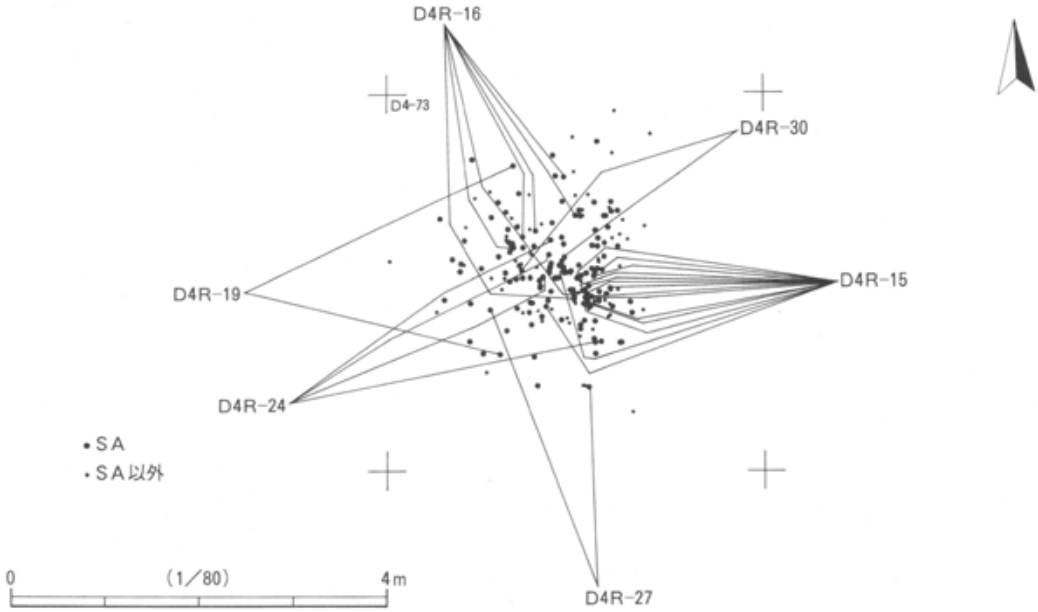
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D4-2(AN)									3									4							7
D4-3(SHE)										1								2							3
D4-4(RH)																		8							8
D4-5(SHA)									1																1
D4-6(SHA)																		3							3
D4-7(QU)																		1							1
その他(OBB)										1								7							8
その他(OBG)	1									1	1							10	5						18
その他(AN)					3				7									35	13						58
その他(HO)																		2							2
その他(CC)											1							4	4						9
合　計	1				3				11	3	2							76	22						118



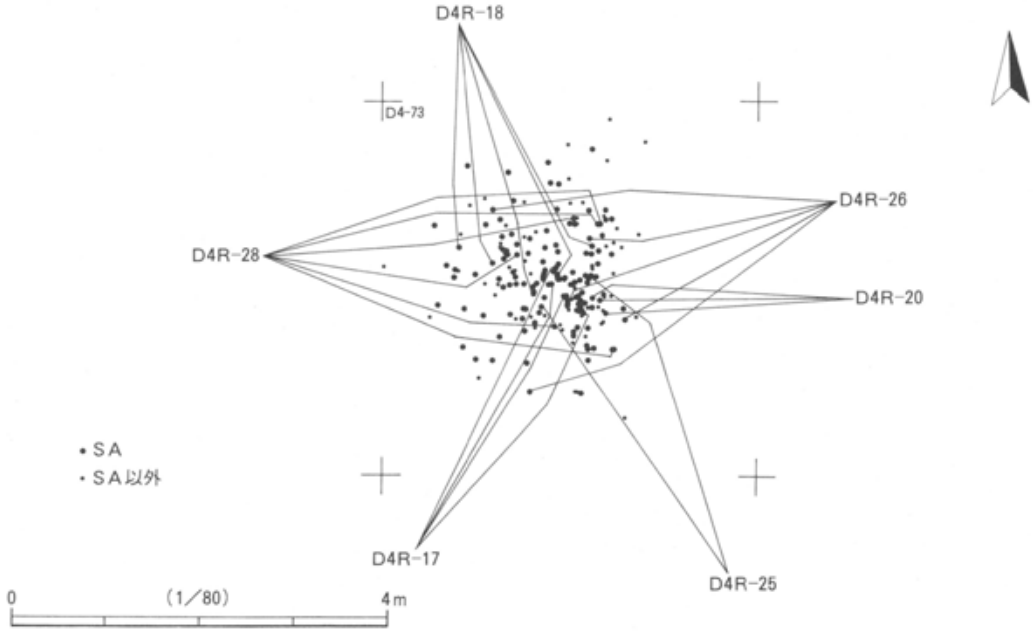
第188図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物分布（３）－石材別分布－

第53表　Ｄ４－Ｂブロック石材別石器組成

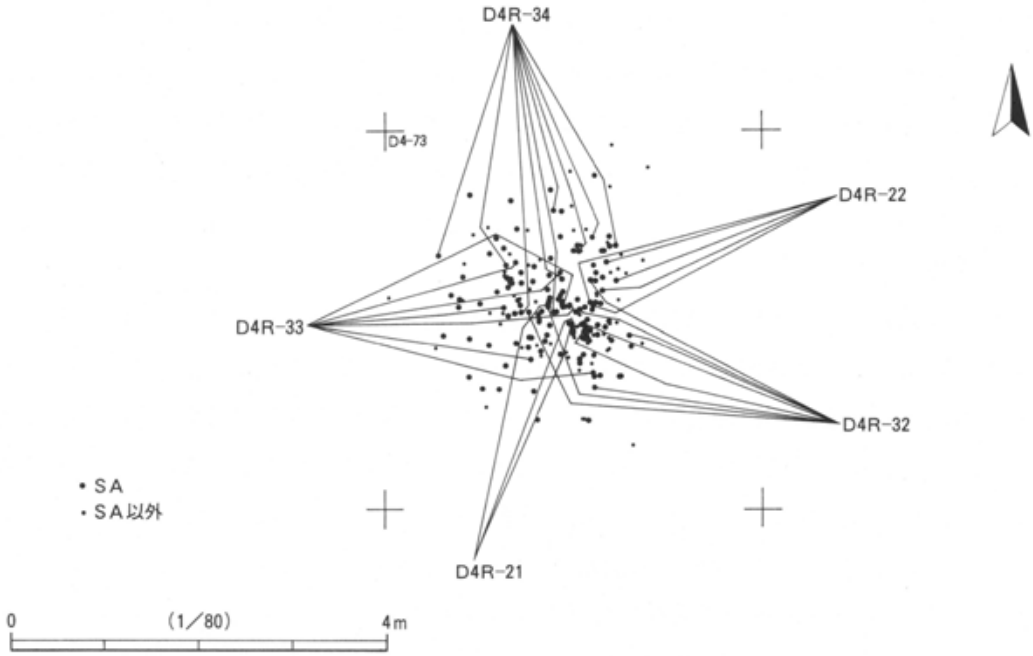
石　　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石Ｂ(OBB)										1								7							8
黒曜石Ｇ(OBG)	1									1	1							10	5						18
安山岩(AN)					3				10									39	13						65
流紋岩(RH)																		8							8
頁岩Ａ(SHA)									1									3							4
頁岩Ｅ(SHE)										1								2							3
ホルンフェルス(HO)																		2							2
石英(QU)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)											1							4	4						9
合　計	1				3				11	3	2							76	22						118



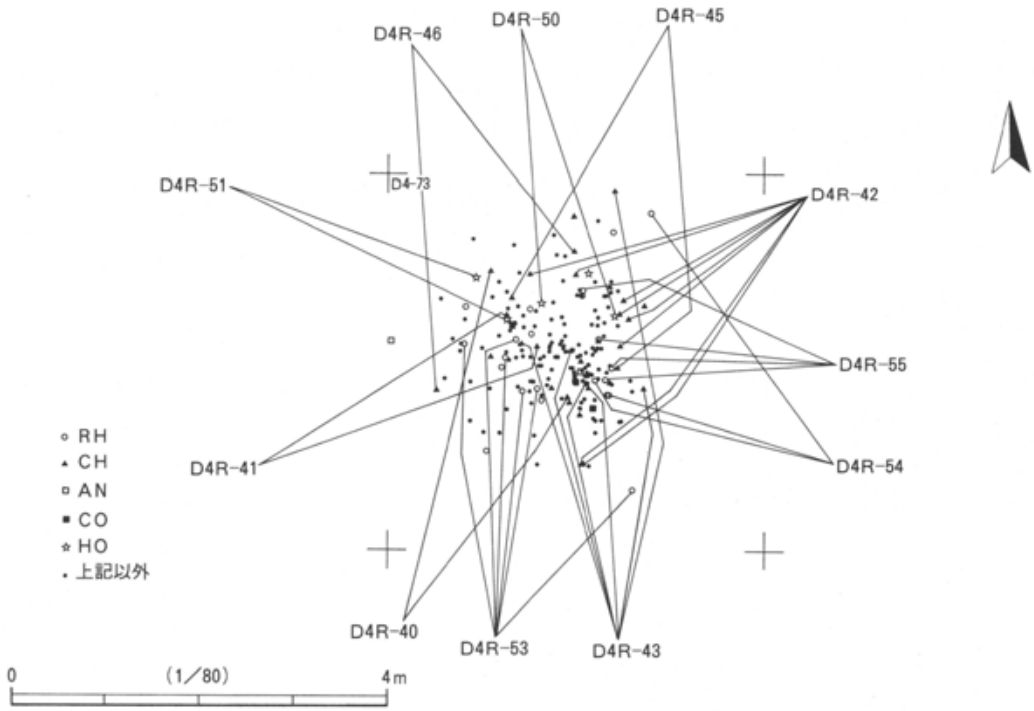
第189図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（１）－



第190図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物分布（５）－礫石材別分布（２）－



第191図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物分布（６）－礫石材別分布（３）－

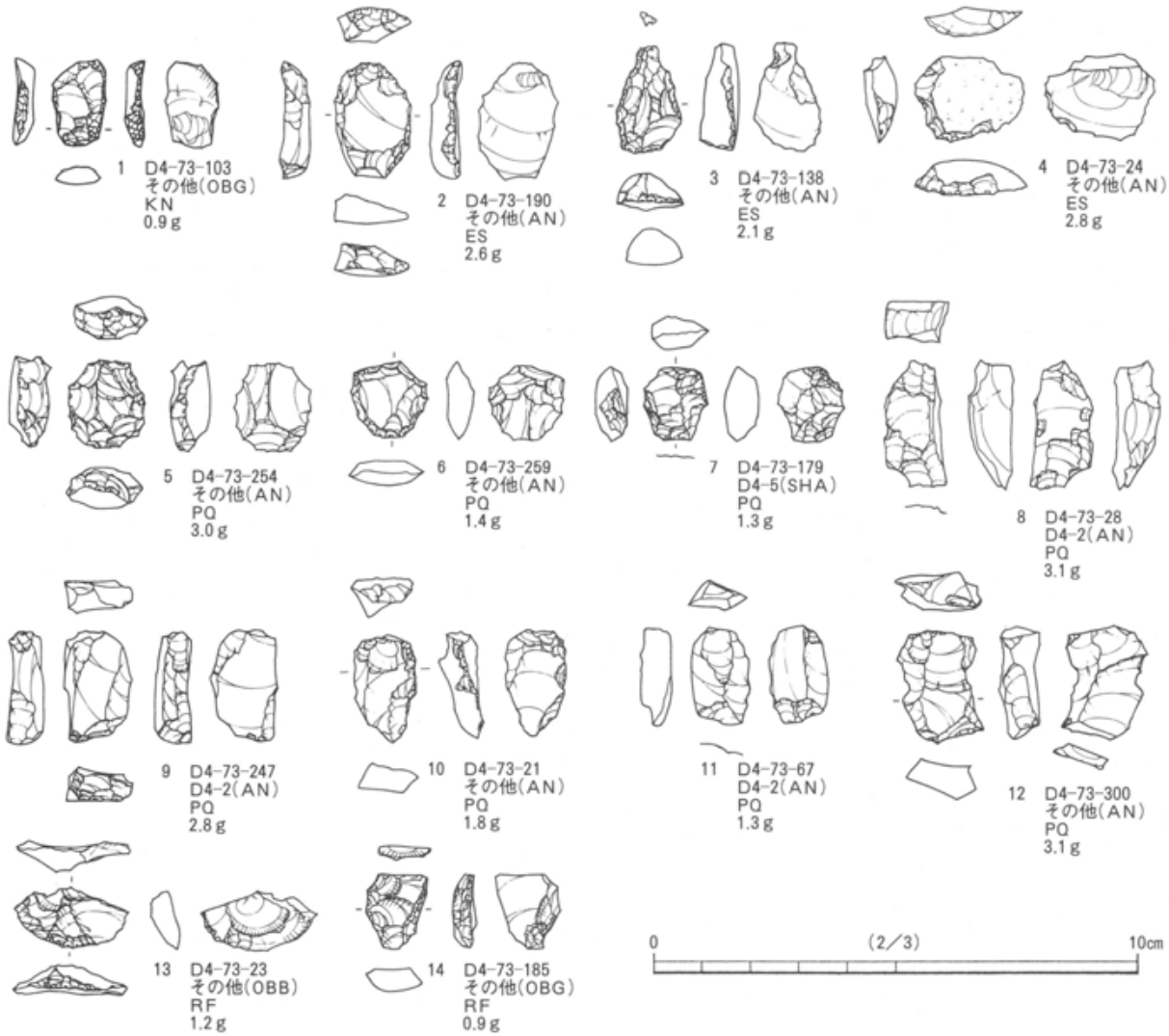


第192図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物分布（７）－礫石材別分布（４）－

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の加工痕ある剥片１点，剥片７点の合計８点（2.7ｇ），産地不明の黒曜石のナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片10点，砕片５点の合計18点（5.2ｇ），安山岩の掻器３点，楔形石器７点，剥片35点，砕片13点の合計58点（40.4ｇ），ホルンフェルスの剥片２点（4.2ｇ），瑪瑙・玉髄の使用痕ある剥片１点，剥片４点，砕片４点の合計９点（1.1ｇ）がある。

３）出土遺物（第193図）

１は産地不明の黒曜石によるナイフ形石器である。剥片の打面側を基部として，両側縁に細かい調整加工を行っている。終末期の小型幾何形ナイフ形石器の範疇でとらえることが可能であろうか。また，被熱か風化のためか不明だが，表面が白濁している。２～４は安山岩による掻器である。２・３はほぼ全周に，４は左側縁から下端部にかけて調整加工を行っている。なお，２・３は槍先形石器やナイフ形石器の可能性もある。５～８，９～12は安山岩による，７は東北産頁岩による楔形石器である。全周に対向する剥離面が見られるもの（５・６），上下に対向する剥離面が見られるもの（７～12）がある。なお，D4-２母岩（８・９・11・12）による石器を除いて掻器や削器の可能性もある。13・14は加工痕ある剥片である。13は信州和田峠周辺産の黒曜石による不定型な剥片の末端に細かい調整加工を行っている。14は産地不明の黒曜石による不定型な剥片の表面両側縁及び裏面右側縁に細かい調整加工を行っている。また，14は１と



第193図　Ｄ４－Ｂブロック出土遺物

同様，表面が白濁している。なお，13・14は槍先形石器やナイフ形石器の未製品の可能性もある。他に，図示していないが，D4-3母岩の加工痕ある剥片は，有樋尖頭器の削片を素材にしているものと考えられる。

礫は長さ3㎝～14㎝の単独資料が主体で，破損品がほとんどである。明確に被熱の痕跡を示すものが多くないなどD4-Aブロックと共通点が多い。

第54表　D4－Bブロック礫組成

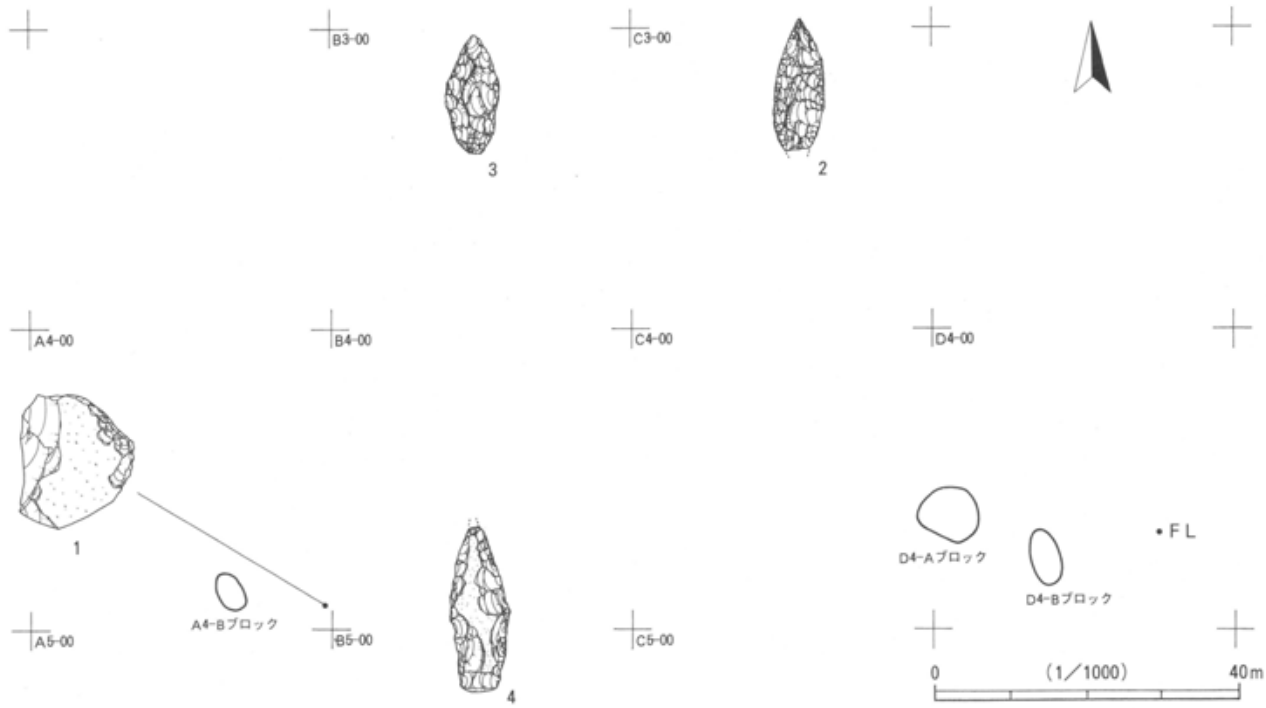
母　岩	石　材	個数	重量
D4R-1	SA	1	52.6
D4R-2	SA	1	23.9
D4R-3	SA	1	43.6
D4R-4	SA	1	56.1
D4R-5	SA	1	27.4
D4R-6	SA	1	16.3
D4R-7	SA	1	11.4
D4R-8	SA	1	313.6
D4R-9	SA	1	26.5
D4R-10	SA	1	22.1
D4R-11	SA	1	46.9
D4R-12	SA	1	46.4
D4R-13	SA	3	168.0
D4R-14	SA	4	52.5
D4R-15	SA	16	297.8
D4R-16	SA	9	91.6
D4R-17	SA	5	115.9
D4R-18	SA	5	55.3
D4R-19	SA	3	23.9
D4R-20	SA	3	59.7
D4R-21	SA	6	67.4
D4R-22	SA	5	171.2
D4R-23	SA	2	21.5
D4R-24	SA	4	32.8
D4R-25	SA	5	24.4
D4R-26	SA	5	60.4
D4R-27	SA	2	11.8
D4R-28	SA	7	46.4
D4R-29	SA	2	19.1
D4R-30	SA	2	26.5
D4R-31	SA	3	63.1
D4R-32	SA	11	82.4
D4R-33	SA	8	115.2
D4R-34	SA	9	31.7
D4R-35	CH	1	31.2
D4R-36	CH	1	32.6
D4R-37	CH	1	9.1
D4R-38	CH	1	6.6
D4R-39	CH	1	6.5
D4R-40	CH	2	20.0
D4R-41	CH	2	23.9
D4R-42	CH	8	27.7
D4R-43	CH	7	26.4
D4R-44	CH	6	11.4
D4R-45	CH	8	37.4
D4R-46	CH	2	10.8
D4R-47	CH	5	21.8
D4R-48	CO	1	12.8
D4R-49	CO	1	32.3
D4R-50	HO	2	59.7
D4R-51	HO	2	22.9
D4R-52	HO	2	25.7
D4R-53	RH	10	271.2
D4R-54	RH	4	13.1
D4R-55	RH	6	23.1
D4R-56	AN	1	9.2
D4R-57	AN	1	66.0
D4R-58	AN	2	95.2
その他	RH	5	2.2
その他	SA	28	81.2
その他	CO	1	2.8

石　材	個数	重量
安山岩（AN）	4	170.4
流紋岩（RH）	25	309.7
チャート(CH)	45	265.3
砂岩(SA)	159	2406.2
ホルンフェルス(HO)	6	108.2
礫岩(CO)	3	48.9
合　計	242	3308.8

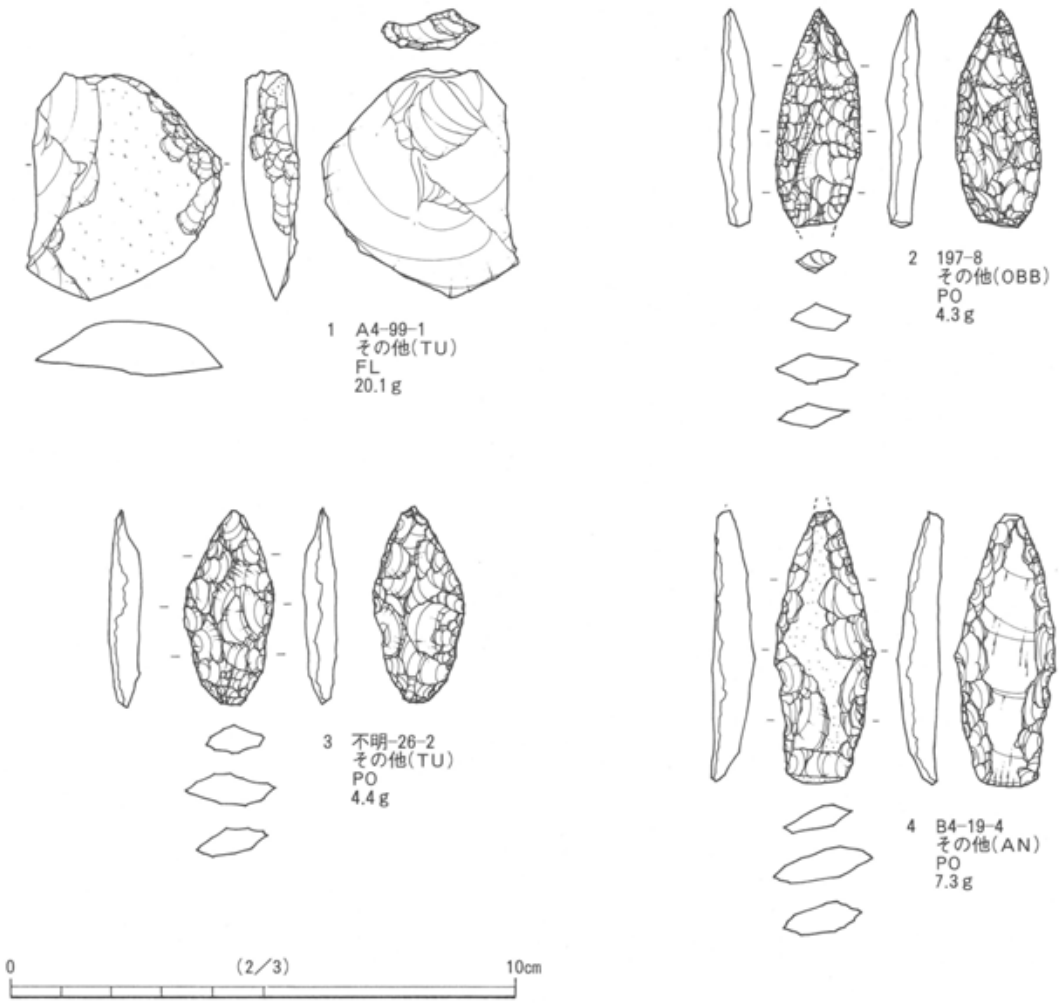
4　ブロック外（第194・195図，カラー図版16）

ここでは第4文化層のブロックを形成していないグリッド単独（2点以下）出土の遺物，同じく第4文化層の上層遺構等に混在していた遺物について記述する。

1はグリッド単独出土で，自然面は黄褐色（2.5Y5/3）・にぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（10Y6/1）の比較的珪化度の高い凝灰岩による不定型な剥片である。表面に自然面が大きく残る。同一母岩がA4-Bブロックにある。A4-99グリッドのⅢ層から出土している。2～4は上層遺構等に混在していた槍先形石器である。第4文化層として扱ったが，第3文化層の可能性もある。2は黒褐色・暗褐色の部分と透明な部分が混じる黒曜石によるものである。両面加工による木葉形で，横断面形は凸レンズ状である。表裏に細かな調整加工を行っている。素材時の剥離面は，残されていない。下端部を欠損する。本資料は，蛍光X線による理化学的な分析により信州小深沢産と推定された。上層遺構から出土している。3は内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）の比較的珪化度の高い凝灰岩によるものである。両面加工による木葉形で，横断面形は凸レンズ状である。表裏に細かな調整加工を行っている。素材時の剥離面は，残されていない。グリッド出土であるが，注記等の不備により，出土地点は不明である。4は自然面は暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰黄褐色（10YR4/2），新鮮な面は黒色（N2/0）の安山岩によるものである。周辺加工あるいは両面加工による木葉形で，横断面形は凸レンズ状である。表裏に細かな調整加工を行っている。表面には自然面が残る。素材時の剥離面が，裏面に残されており，縦長剥片



第194図　第４文化層ブロック外出土遺物分布



第195図　第４文化層ブロック外出土遺物

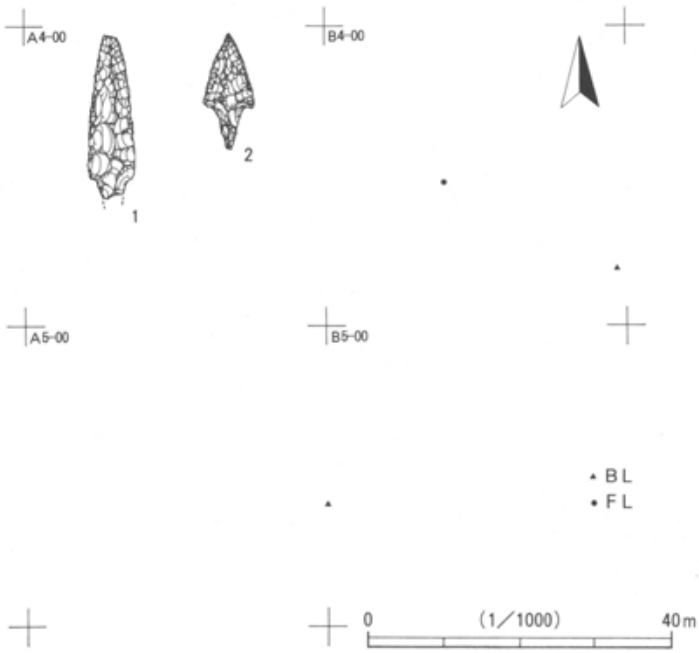
を縦位に用いたことがわかる。B4-19グリッドから出土している。

第6節　時期不明・その他

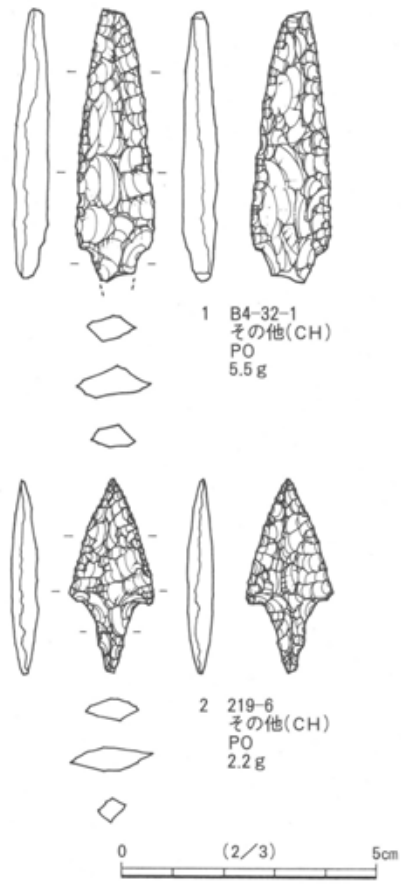
ここでは，上層遺構等に混在していた縄文時代草創期の有茎尖頭器，帰属文化層の不明な炭化物集中地点について記述する。

1　ブロック外（第196・197図，カラー図版16）

1・2は上層遺構等に混在していた有茎尖頭器である。1は暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）のチャートによるものである。最終的な剥離痕は，表裏両面に集中している。側縁は，鋸歯状を呈している。先端部及び基部を欠損する。B4-32グリッドから出土している。2は灰色（N4/0）のチャートによるものである。基部の加工を行った後に，上半部の加工を行っている。最終的な剥離痕は，胴部から先端部にかけては概ね表面に集中し，茎部は表裏両面に集中している。斜並行剥離が特徴的で，側縁は，若干鋸歯状を呈している。なお，全長に占める茎部の長さなどから，上半部については欠損品等の再加工の可能性もある。上層遺構から出土している。



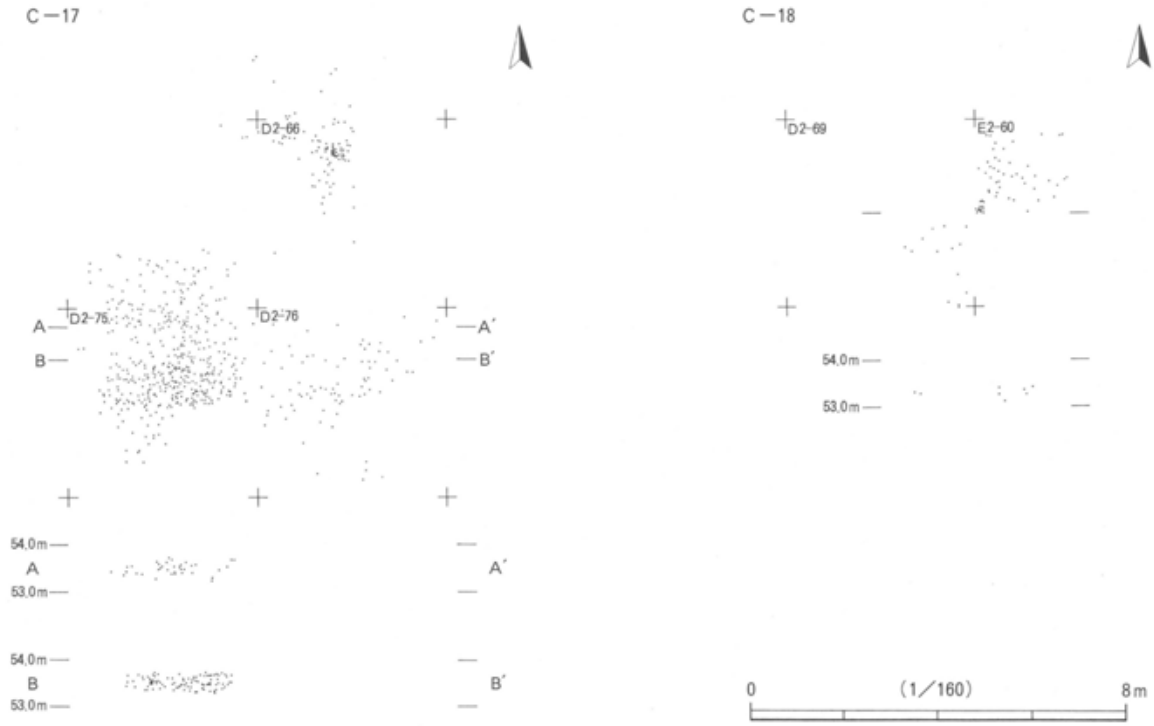
第196図　時期不明出土遺物分布



第197図　時期不明出土遺物

2　炭化物集中地点（第198図）

本遺跡では，第１文化層の16か所の炭化物集中地点（C-１～C-16）以外に，２か所の炭化物集中地点（C-17，C-18）が発見されている。出土層準が不明なため，帰属時期を決定することができなかったが，周辺の状況等から第１文化層に帰属するものと思われる。①全体の分布状況は，台地の北東側にまとまり，C-17は第１文化層のD2-Aブロックに，C-18はC-３に近接している。②個々の分布状況は，直径８ｍの規模と長径４ｍ，短径２ｍの規模の２種類あり，深さは両者とも0.4ｍほどである。分布密度は，第１文化層の炭化物集中地点のBタイプと同様，散漫な広がりの中に密度の高いまとまりを示すが，平面形は，若干相違があるようである。



第198図　時期不明炭化物集中地点

第3章　ま　と　め

押沼大六天遺跡では，22か所のブロックから約3,800点の石器が出土した。これらは，立川ローム層第2黒色帯下部から立川ローム層最上部にかけての各層準から出土しており，石器群の内容とその出土層準から4枚の文化層に区分したが，本章では，代表的なブロックを取り上げながら，文化層ごとにまとめたいと思う。

第1文化層

第1文化層は，立川ローム層第2黒色帯下部（Ⅸa～Ⅸc層）を中心として出土した石器群で，①；定型的な石器が見られないC2-B，D2-A，D3-B，D4-Cブロック，②；剥片を素材とする小型の台形石器を伴うC4-Aブロック，③；凝灰岩，北関東産頁岩，瑪瑙・玉髄，安山岩などの石材による石刃素材のナイフ形石器，刃部磨製石斧，石刃などを伴うB4-C，C2-A，C3-A，D3-Aブロック，④；嶺岡産頁岩，安山岩，流紋岩，ホルンフェルスなどの石材による剥片素材の台形石器，刃部磨製石斧などを伴うA5-Aブロックの計10か所が該当し，台地の全体に分布する。この内，C3-AブロックやA5-Aブロックは広範囲に多数のブロック群がまとまる大規模なブロックである。なお，本文化層は出土層位に幅があり，石器群の内容も一様ではないことから，2～3時期に細分される可能性もあるが，B4-C・C2-A・C3-A・D3-Aブロック間には接合関係や母岩の共有関係があることからほぼ同時期に形成されたと考えられる。また，A5-Aブロックについても，C3-Aブロックに極めて類似した母岩があり，別母岩としたが，もし同一母岩であれば，ほぼ同時期あるいは近接した時期が考えられる。他に，土坑1基や炭化物集中地点16か所が検出されているが，明確に人為的な要因によるものか不明である。

第2文化層

第2文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部（Ⅴ・Ⅳ層）を中心として出土した石器群で，武蔵野台地における立川ローム層のⅤ層ないしⅣ層下部から出土する石器群に対応すると考えられる。A4-A，A5-B・C・D，B4-A・B，C4-Bブロックの計7か所が該当し，台地の中央に分布する。C4-Bブロックを除いてこれらのブロック間には，接合関係や母岩の共有関係がみられることから，ほぼ同時期に形成されたと考えられる。また，①石器を主体とし，焼け礫をほとんどあるいは全く伴わないA4-A，A5-B・C，B4-A・Bブロックと②礫を主体として，剥片が伴う小規模なA5-D，C4-Bブロックに分けられる。また，①については，ブロック毎に石器組成や石材組成の差が顕著で，1：北関東産頁岩による剥片を主体として，栃木県高原山産や伊豆半島周辺産の黒曜石，瑪瑙・玉髄などの石材によるナイフ形石器などの石器が伴うA4-Aブロック，2：栃木県高原山産の黒曜石による剥片を主体として，同石材によるナイフ形石器が伴うB4-Aブロック，3：瑪瑙・玉髄による剥片を主体とするB4-Bブロック，4：チャートによる剥片や使用痕ある剥片を主体として，瑪瑙・玉髄によるナイフ形石器や石核が伴うA5-Cブロック，5：栃木県高原山産や伊豆半島周辺産の黒曜石，北関東産頁岩，チャート，瑪瑙・玉髄などの上記石材による剥片を主体とするA5-Bブロックがある。これらの状況は，近接する草刈遺跡第6文化層と比べると多少様相が異なる。

第3文化層

第3文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）下部を中心として出土した石器群で，武蔵野台

地におけるいわゆる「砂川期」の石器群に相当すると考えられる。B4-D・Eブロックの計２か所が該当し，台地の中央に分布する。両ブロック間には，接合関係や母岩の共有関係がみられることから，ほぼ同時期に形成されたと考えられる。B4-Dブロックは掻器，石刃などを伴い，B4-Eブロックは石刃素材のナイフ形石器，掻器，石刃などを伴う。両ブロックとも産地不明の頁岩，嶺岡産頁岩，チャート，凝灰岩，ホルンフェルスなどの石材を用いて，石刃ないし石刃状の剥片の生産からナイフ形石器を中心とした石器の製作に関係する石器群である。ナイフ形石器の有無が大きな違いといえるが，石器組成や石材組成などで類似点が多い。これらの状況は，近接する草刈遺跡第７文化層と比べると様相が異なる。

第４文化層

第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心として出土した石器群で，旧石器時代終末期の石器群と考えられる。①；槍先形石器と小型幾何形ナイフ形石器，さらに有樋尖頭器のスポールの可能性のある剥片を伴うD4-A・Bブロック，②；周辺加工で細身の木葉形による槍先形石器を伴うA4-Bブロックの計３か所が該当し，台地の中央に分布する。なお，D4-A・Bブロックは，ブロック間に接合関係はないが，石器組成や石材構成が類似していることから，同時期と考えられるが，A4-Bブロックは，D4-A・Bブロックとの間に石器群の内容等に若干相違があり，２時期に細分される可能性がある。

石器石材について

本遺跡では，草刈遺跡（下層）と同様に，東北産頁岩，北関東及び東関東方面と考えられる頁岩，県南嶺岡産の頁岩，上総丘陵砂礫層ほかのチャート，砂岩，凝灰岩，瑪瑙・玉髄，信州産，栃木県高原山産，伊豆半島周辺産などの黒曜石，産地の特定できない安山岩などが用いられていた。

頁岩類については，田村　隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており，その実態も判明しつつある。なお，本報告では，珪化度の高いものも頁岩に区分し，「珪質頁岩」を用いていない。理化学的な分析について，黒曜石の石器については，千葉県文化財センター研究紀要22号の中で東京学芸大学二宮修治氏が本遺跡出土の槍先形石器に対する蛍光Ｘ線分析を行っている。

遺物データ管理システムについて

押沼大六天遺跡のデータ管理については，株式会社パスコの遺物データ管理システムPADRAS-T3Diにより，グリッド・遺物番号・器種・石材・母岩番号・ブロック・重量・Ｘ座標・Ｙ座標・標高の10項目についてExel形式で保存されており，今後の活用に備えている。

参考文献

加納　実ほか　2003　「房総の石器石材２　－白滝層の珪質頁岩－」『千葉県史料研究財団だより』第14号

（財）千葉県文化財センター　1987　『千葉県文化財センター研究紀要』11号

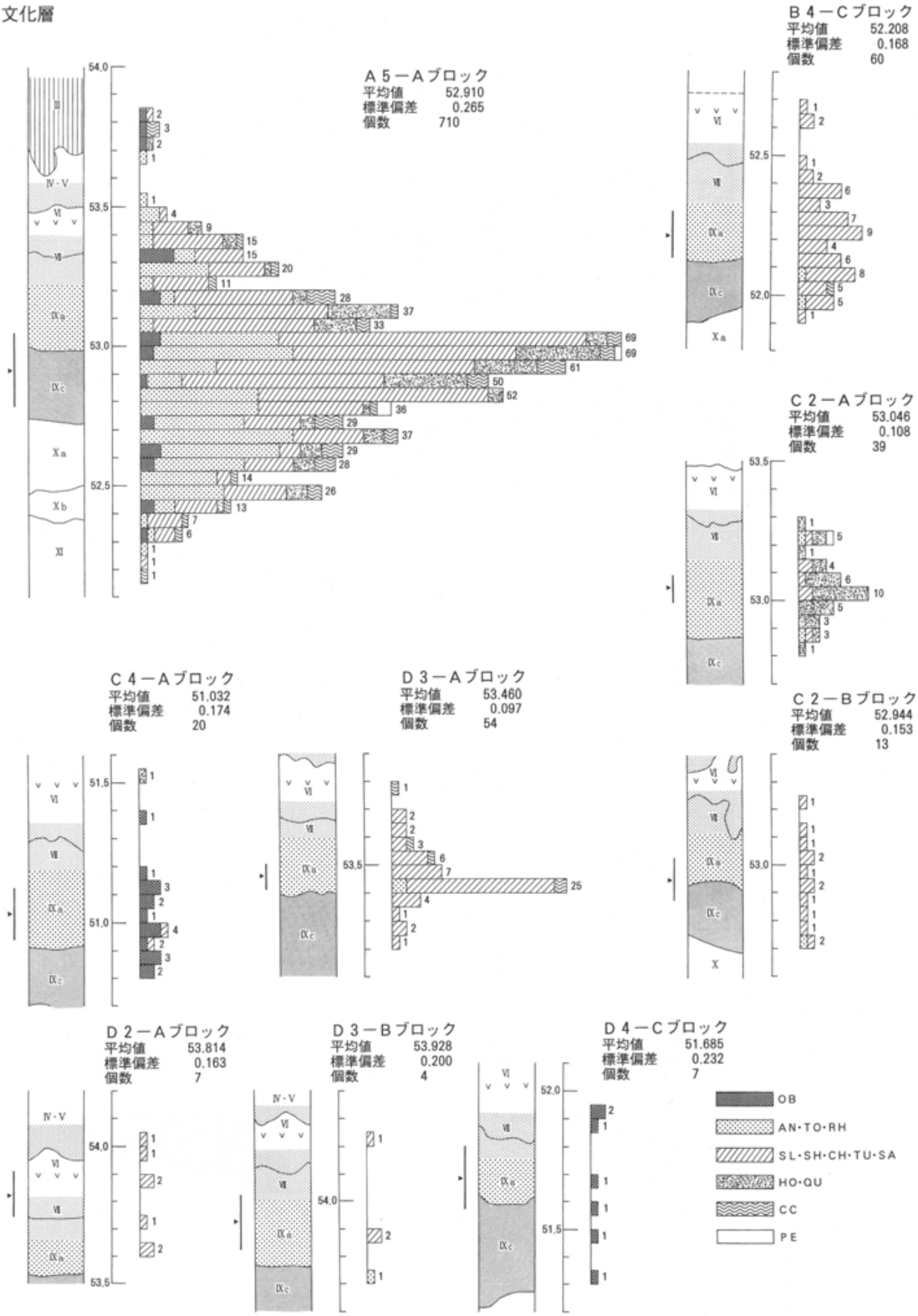
（財）千葉県文化財センター　2001　『千葉県文化財センター研究紀要』22号

（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンⅩ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』

（財）千葉県文化財センター　2005　『千原台ニュータウンⅫ　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』

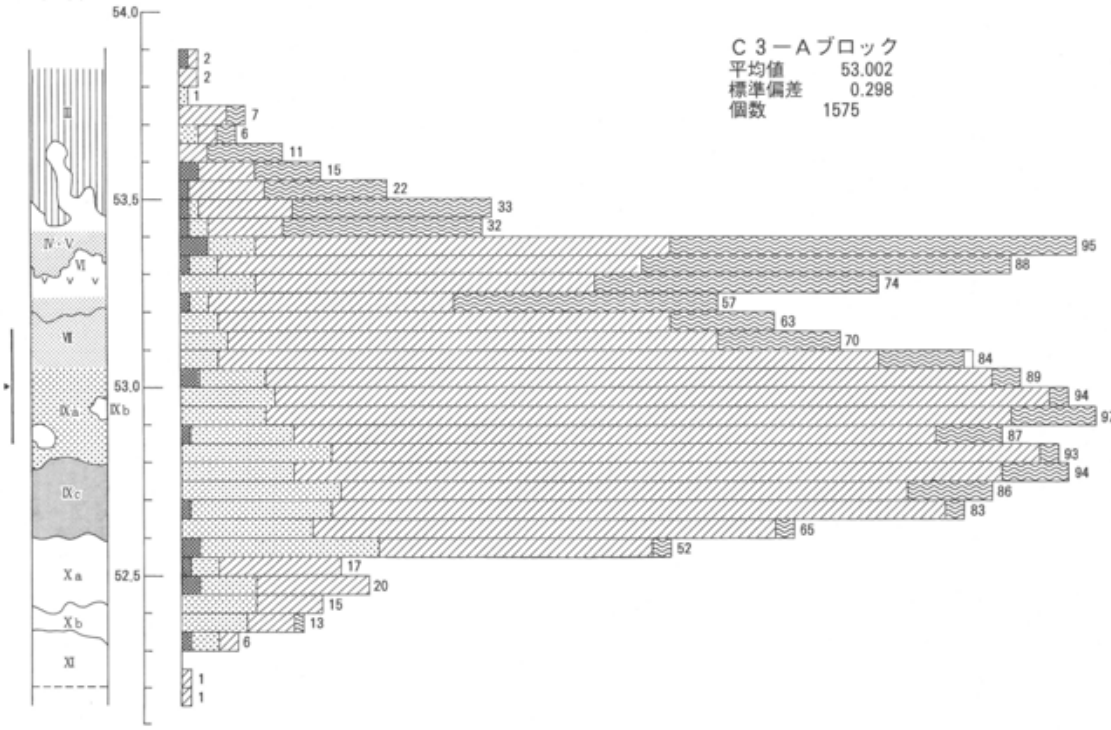
田村　隆ほか　2003　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第１報）　－特に珪質頁岩の分布と産状について－」『千葉県史研究』第11号

田村　隆ほか　2004　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第２報）」『千葉県史研究』第12号

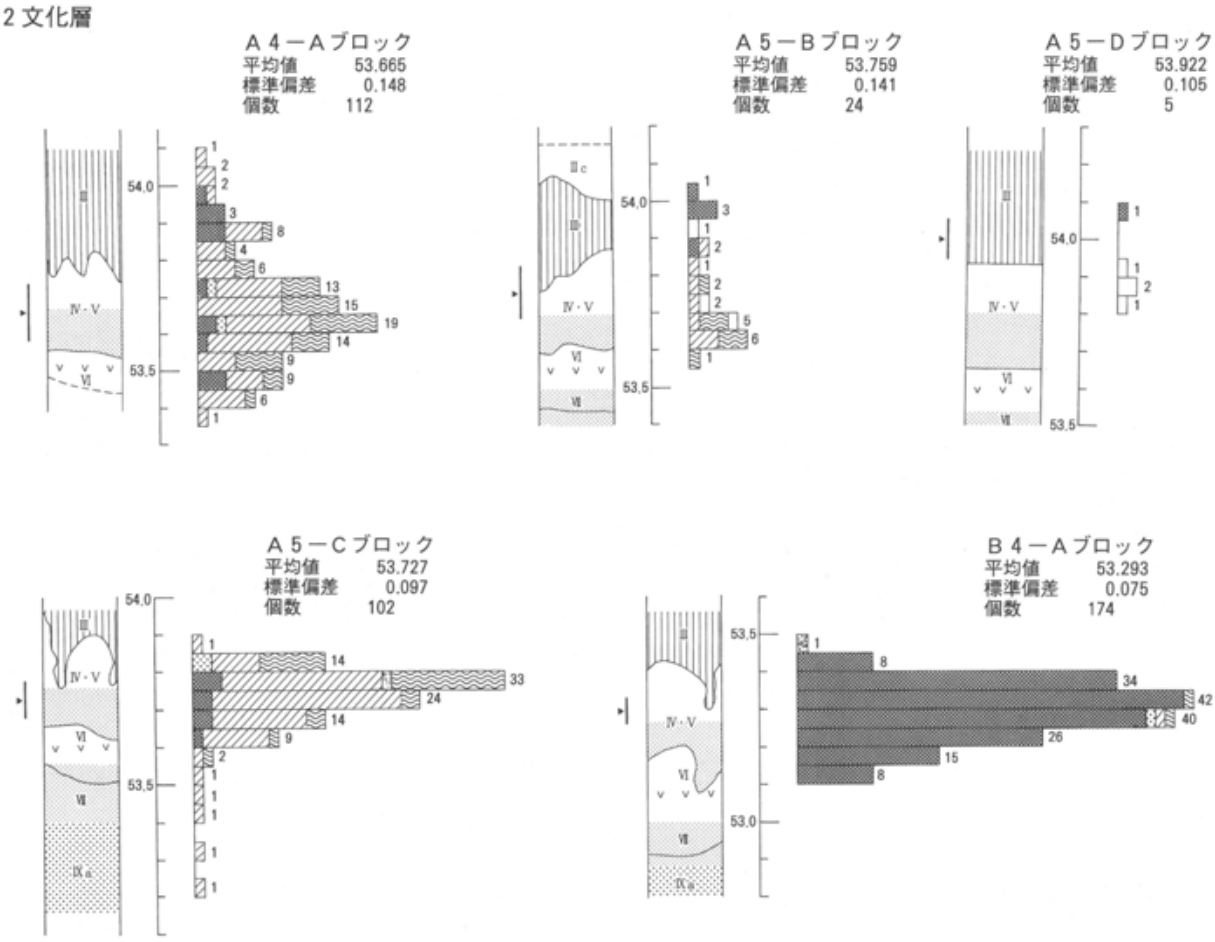


第199図　ブロック別石器垂直分布グラフ（１）

第１文化層

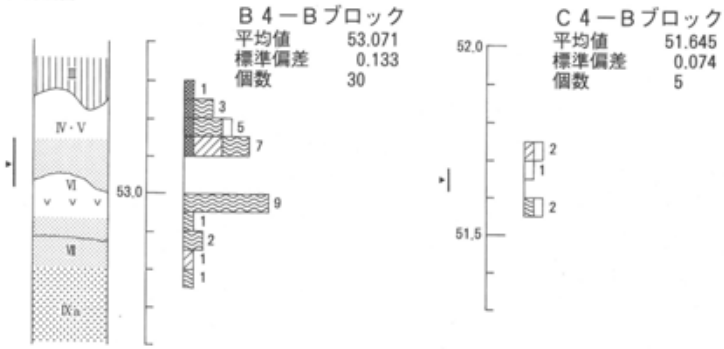


第２文化層

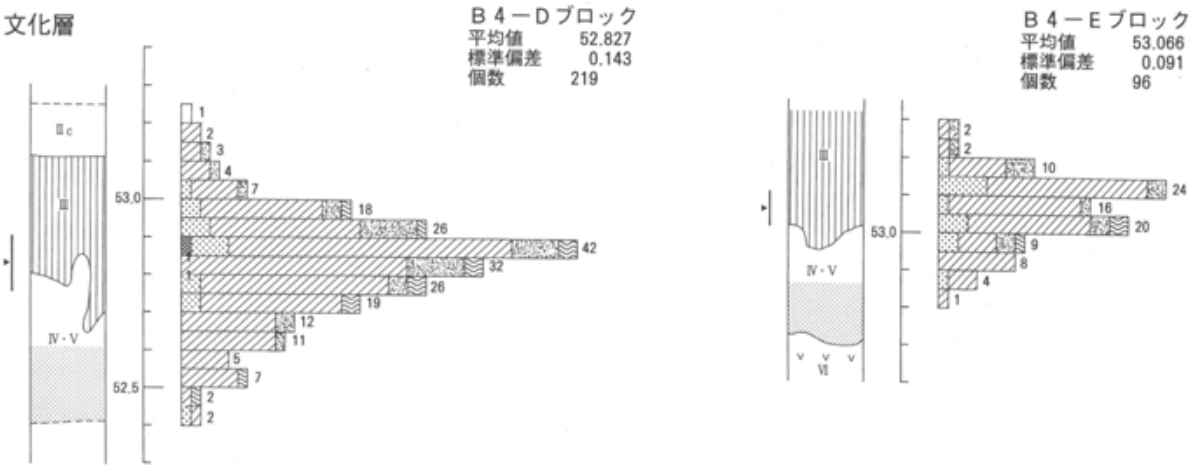


第200図　ブロック別石器垂直分布グラフ（２）

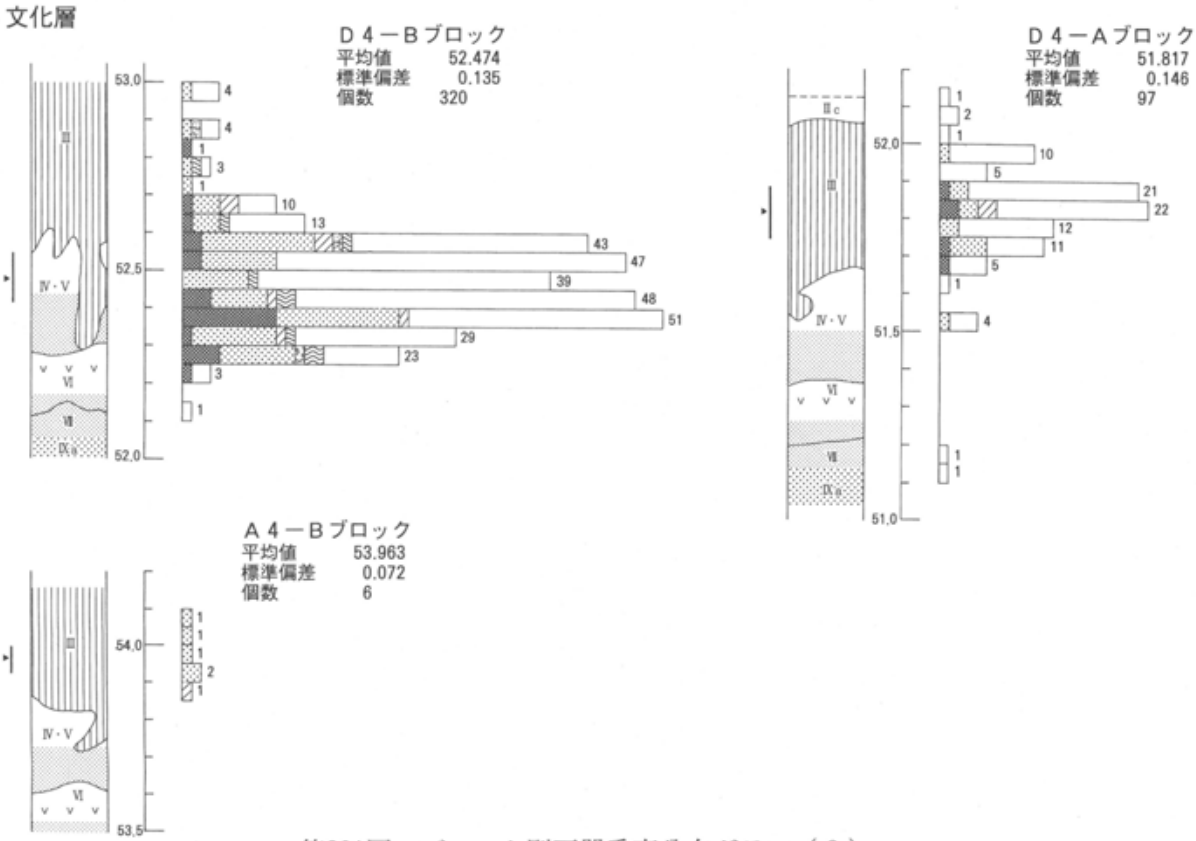
第２文化層



第３文化層



第４文化層



第201図　ブロック別石器垂直分布グラフ（３）

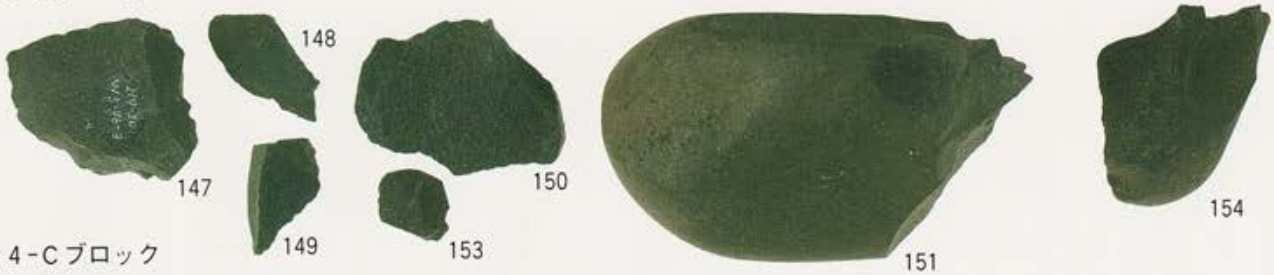
写 真 図 版

A 5-Aブロック

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
46
47
48
50
51
52
54
55
57

2．第１文化層出土遺物２

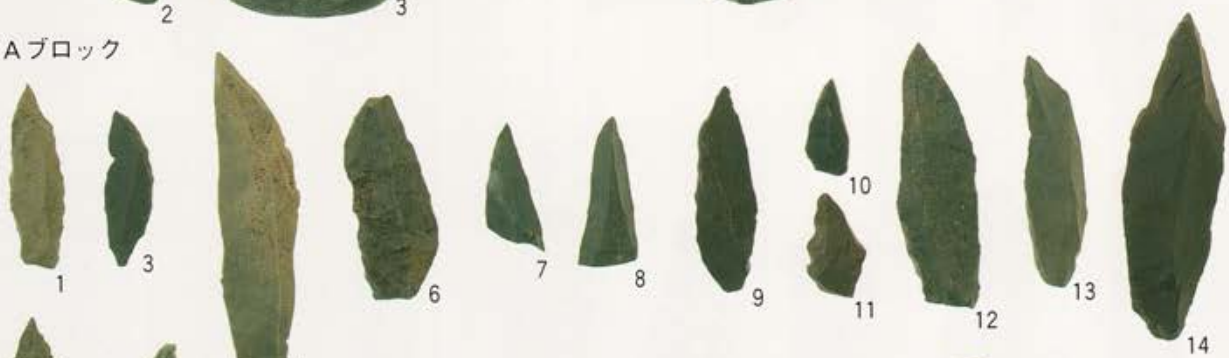
A 5-Aブロック



B 4-Cブロック

C 2-Aブロック

C 3-Aブロック



C３-Aブロック
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67

C３-Aブロック
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109

Ｃ３-Ａブロック

110
111
112
113
114
115
116
117
119
120
121
123
124
126
128
127
129
130
131
132
133
134
136
137
138
139
140
141
142
144
145
146
147
148
150
151
152
153
155
156
157
158
160
161
163
162

C 3-Aブロック

164
166
167
169
170
172
173
175
176
177
178
180
181
182
183
184
185
187
188
189
190
191
193
194
195
196
198
199
200
201
202
204
205
206
207
208
209
214
215
218
213
211
220
210
219
216

C３-Aブロック

221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
232
233
234
235
236
237
238
239
240
242
243
245
246
247
248
249
251
252
253
254
255
256
258
259
260
261
262
263
264
268・269
266
267
270
271
272
274
275
278
276
279
281
282
285
283

C３-Aブロック

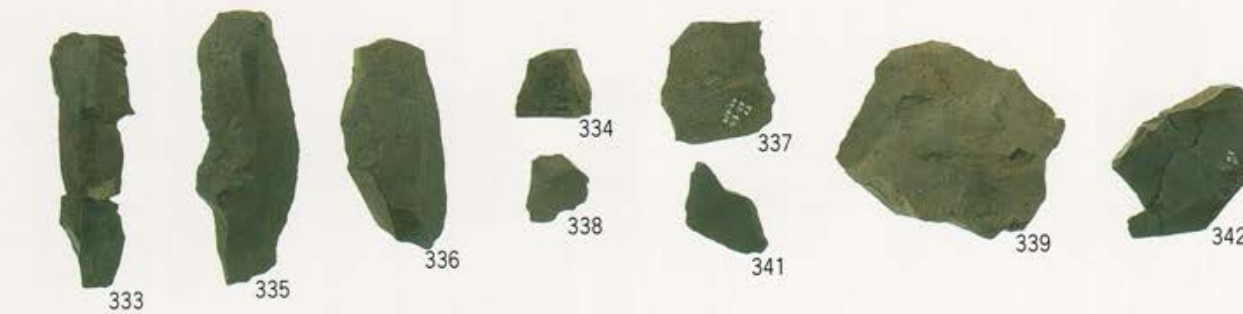
286
287
288
289
291
292
293

294
295
296
297
299

300
301
303
304
306
307
308
309
311
312

314
315
316
317
318
319
320
321
322
324

325
327
329
328
330
331
332


333
335
336
334
338
337
341
339
342

C 3-Aブロック

343
344
345
346
347
349
350
351
352
354
355
356
357
358
359
360
361
363
364
366
367
368
370
371
372
374
375
376
377
378
379
380
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411

C 3-Aブロック

413
414
417
418
419
420
421
423
424
425
426
427
428
429
430
431
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
449
450
451
453
454
456
457
458
459
460
464
465
466
467
468
469
470
472
473
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485

C３-Aブロック

486
487
488
489
491
492
493
494
495
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
534
535
537
538
539
540
542
543
544
545
546
547
548

C 4-Aブロック
D 3-Aブロック
1
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
23
24
25
26
27
28
29
31
32
33
34
36
37
C 2-Bブロック
1
2
D 2-Aブロック
1
2
D 3-Bブロック
1
ブロック外
1
2
4
5
6
3

14．第２文化層出土遺物１

Ａ４-Ａブロック

Ａ５-Ｂブロック

Ａ５-Ｃブロック

A５-Cブロック
12
13
15
16
17
18
A５-Dブロック
1
B４-Aブロック
1
3
B４-Bブロック
1
2
4
5
B４-Dブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
13
14
15
17
18
19
21
22
24
25
26
27
28
29
31
32
33
36
37
38
39
40
41
43
44
45
47
48
49
50
51
53
54
55
56
58
59
61
62
63
65
66
68
69
70

B４-Dブロック
72
73
74
76
77
79
80
81
82
84
85
86
87
89
90
91
92
93
B４-Eブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
10
11
12
14
15
17
18
19
21
22
23
25
26
28
29
30
31
34
35
36
37
38
39
40
42
43
44
45
46
47
A４-Bブロック
1
D４-Bブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
ブロック外
1
2
3
4
時期不明ブロック外
1
2

A 5-Aブロック

A5-116A

A5-21A

A5-12A

A5-14A

A5-15A

A5-33A

A5-29A

A5-29B

A5-31A

A5-30A

A5-55A

A5-59A

A5-60A

A5-120B

A5-117A

A5-115A

A5-57A

A5-20A

A5-19A

A5-4A

A5-3A

A5-9A

A5-17A

A5-18A

A5-56A

A5-53A

A5-74A

B 4-Cブロック

B4-11A

B4-10A

B4-13A

B4-9A

B4-9D

B4-9B

C 2-Aブロック

C3-146A

C3-6B

C3-7A

C3-4A

C3-5A

C３-Aブロック
C3-11A
C3-12A
C3-22A
C3-30A
C3-26A
C3-24A
C3-24B
C3-148A
C3-3A
C3-2A
C3-20A
C3-1A
C3-8A
C3-98A
C3-15A
C3-149A
C3-9A
C3-88A
C3-112A
C3-107A
C3-101B
C3-99A
C3-100A
C3-103A
C3-150A
C3-94A
C3-151A

C3-Aブロック

C3-111A
C3-97A
C3-116A
C3-84A
C3-84B
C3-84C
C3-113A
C3-115A
B4-29A
C3-86A
C3-85A
C3-85B
C3-92A
C3-91A
C3-96A
C3-76A
C3-76B
C3-78A
C3-183A
C3-181A
C3-71A
C3-160A
C3-159A
C3-171A
C3-154A
C3-190A
C3-153B
C3-153A

D３-Aブロック

C3-87A

C3-93A

C3-109A

A４-Aブロック

A4-1A

A５-Bブロック

A5-147A

A５-Cブロック

A5-2C

B４-Aブロック

B4-2A

B４-Bブロック

B4-4A

B４-Dブロック

B4-26A

B4-30A

B4-30B

B4-19A

B4-18A

B4-32A

B4-14A

B4-15B

B4-15C

B4-15A

B4-33A

B4-35A

B4-43A

B4-36A

B4-38A

B4-37A

B4-23A

B４-Eブロック

B4-56A

B4-56B

B4-21A

B4-57A

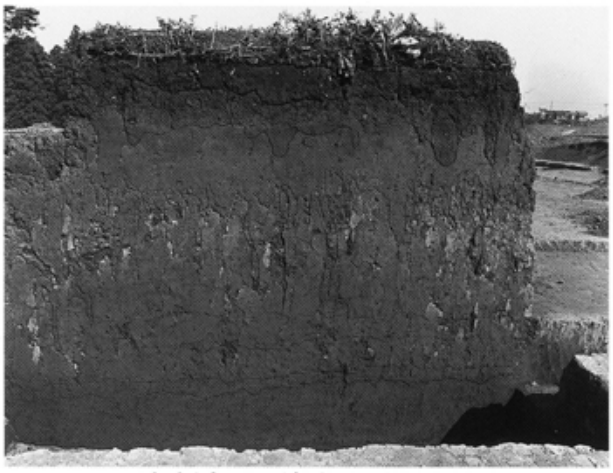
B4-57B

B4-16A

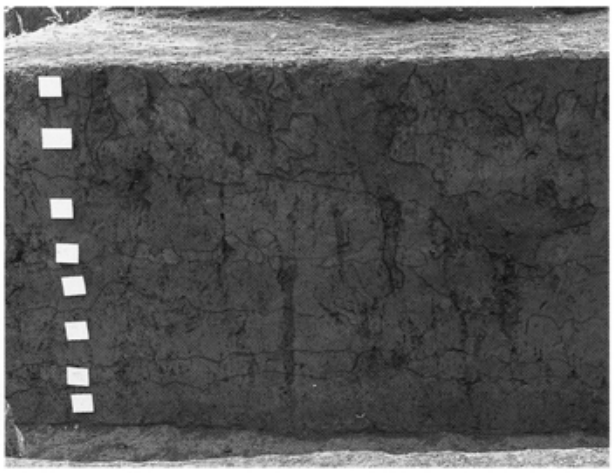
B4-17A

押沼遺跡群周辺航空写真（1／10,000）

図版２　　土層断面，第１文化層遺物出土状況１



押沼大六天遺跡　土層断面

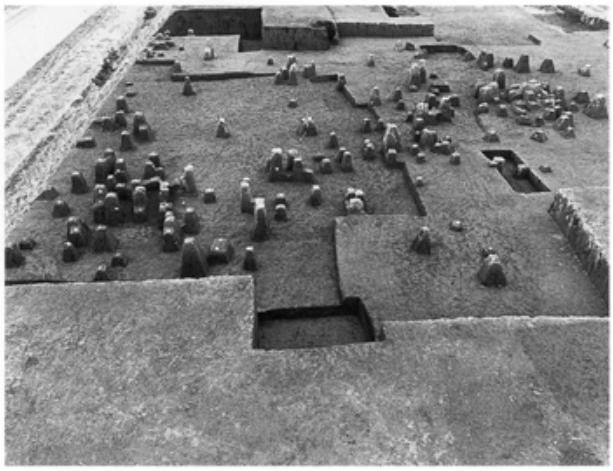


Ａ５－42グリッド　西壁土層断面

第１文化層　Ａ５－Ａブロック　東から

第１文化層　Ａ５－Ａブロック　北東から

第１文化層　Ａ５－Ａブロック　北から

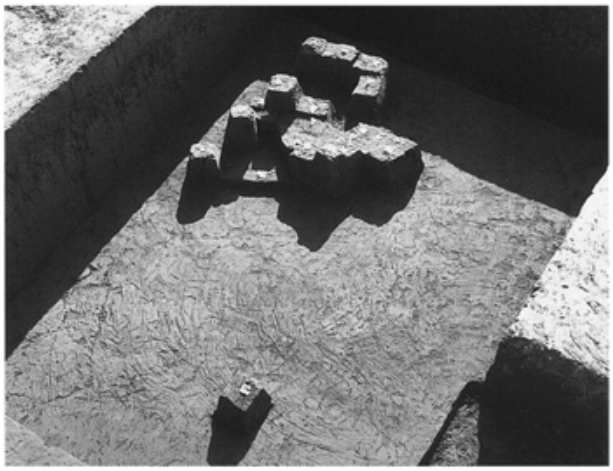


第１文化層　Ａ５－Ａブロック　東から

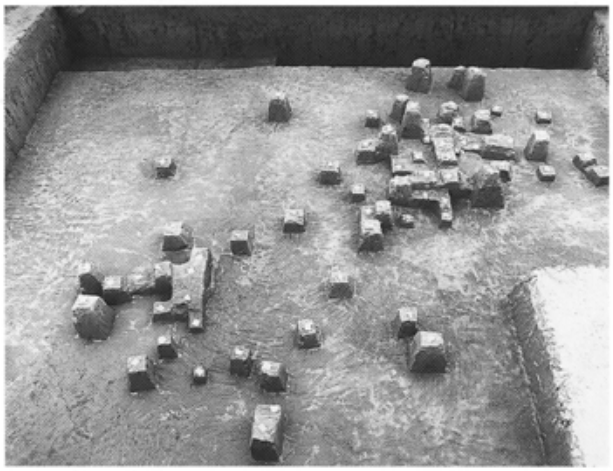
第１文化層　Ａ５－Ａブロック　東から

第１文化層　Ｃ２－Ｂブロック　北西から

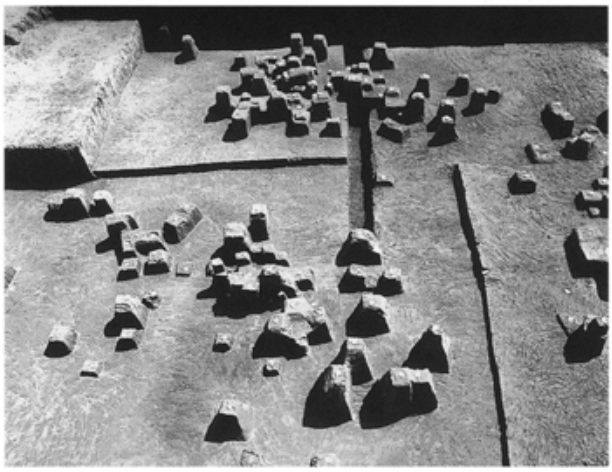
第１文化層　Ｂ４－Ｃブロック　南から



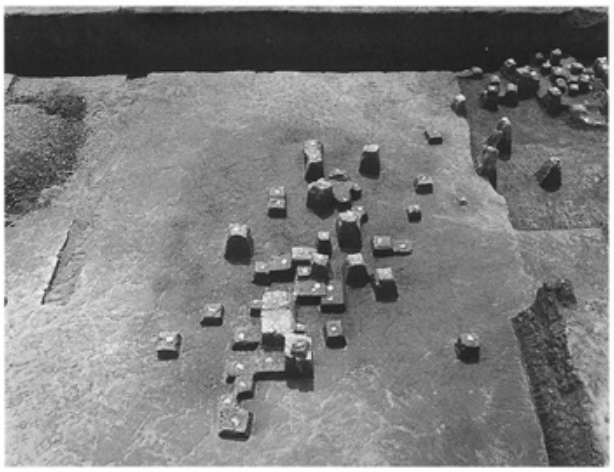
第１文化層　Ｃ２－Ａブロック　北東から



第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　北から

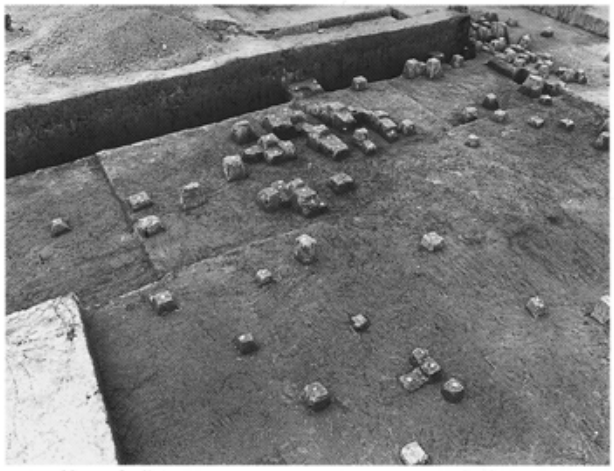


第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　北から



第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　北から

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　西から



第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　南東から

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　南東から

図版４　　第１文化層遺物出土状況３

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　北西から

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　西から

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　北東から

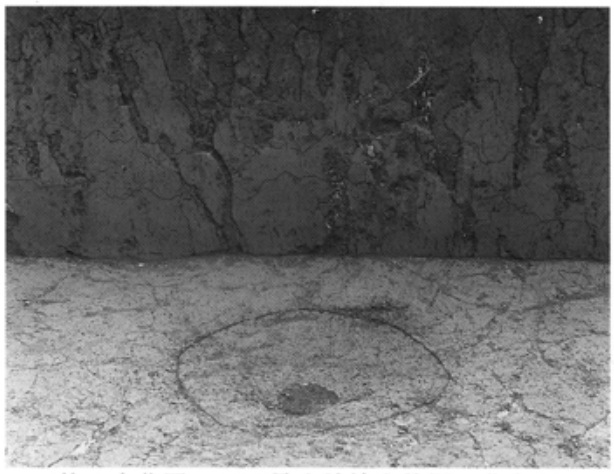
第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　北西から

第１文化層　Ｃ４－Ａブロック　南東から

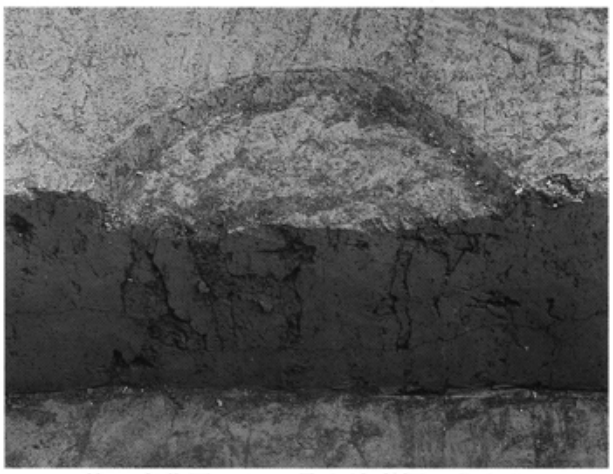
第１文化層 Ｄ３－Ａブロック　南から

第１文化層　Ｃ３－19グリッド　西から

第１文化層　Ｄ１－61グリッド　南から



第１文化層　233号土坑検出状況　北から



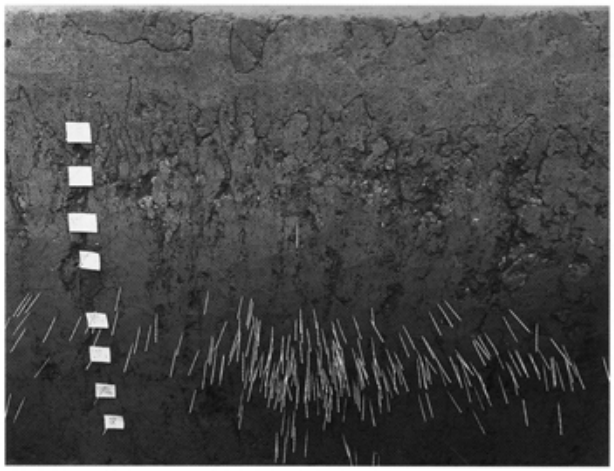
第１文化層　233号土坑完掘　北から

第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－１　北東から

第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－２　南から

第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－３　南西から

第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－３　南東から

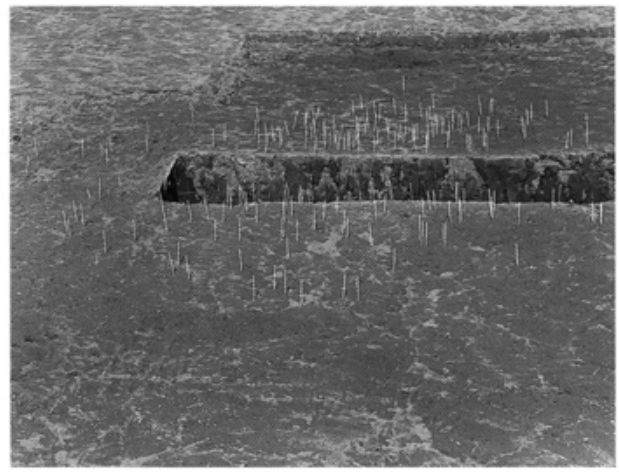


第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－５　南から

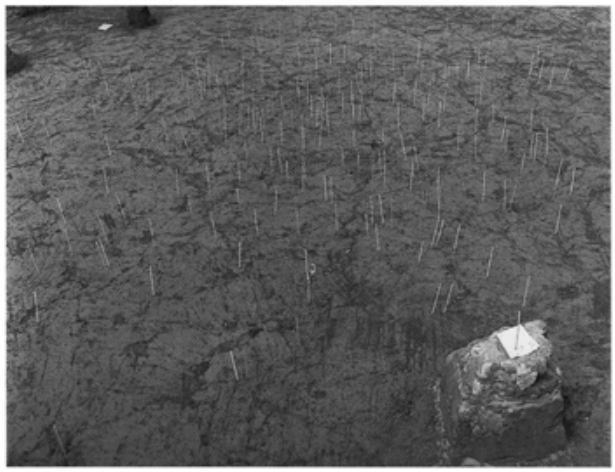
第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－７　北から

図版６　　第１文化層炭化物集中地点２，第２文化層遺物出土状況

第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－８　南西から



第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－９　南から



第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－13　東から

第１文化層　炭化物集中地点Ｃ－12　北から

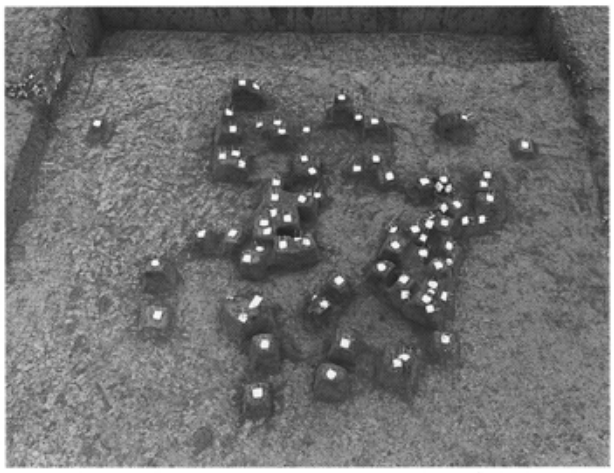
第２文化層　Ａ５－Ｂブロック　南から

第２文化層　Ａ４－Ａブロック　南から

第２文化層　Ｂ４－Ａブロック　西から

第２文化層　Ｂ４－Ｂブロック　西から

第３文化層　Ｂ４－Ｄブロック　東から



第３文化層　Ｂ４－Ｅブロック　南から

第４文化層　Ｄ４－Ａブロック　東から

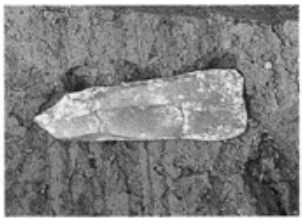
第４文化層　Ｄ４－Ｂブロック　西から

第１文化層　Ｄ３－Ｂブロック　台石

第１文化層　Ａ５－Ａブロック　石斧

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　ナイフ形石器

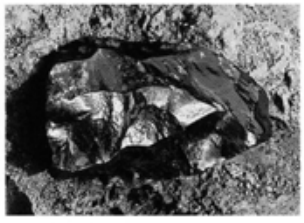
第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　ナイフ形石器



第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　石刃

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　石核

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　敲石



第１文化層　Ｄ３－Ａブロック　石核

第２文化層　Ａ４－Ａブロック　ナイフ形石器

第１文化層　Ｃ３－Ａブロック　石核

第１文化層　Ｄ３－Ａブロック　ナイフ形石器

第３文化層　Ｂ４－Ｄブロック　石刃

第３文化層　Ｂ４－Ｄブロック　石刃

報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゅーたうん
書名	千原台ニュータウン　XV
副書名	市原市押沼大六天遺跡（下層）
巻次	15
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第536集
編著者名	田島　新
編集機関	財団法人　千葉県教育振興財団
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地2　　Tel 043-422-8811
発行年月日	西暦2006年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
押沼大六天遺跡 （大六天） （斜面部） （林　谷）	千葉県市原市 ちはら台東4丁目	219	020 021 022	35度 32分 16秒	140度 11分 48秒	1983.04.27 ～ 1984.09.30	33,700	千原台地区土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
押沼大六天遺跡 （大六天） （斜面部） （林　谷）	包蔵地	旧石器時代	遺物集中地点22か所	台形石器・石斧・ナイフ形石器・槍先形石器・掻器・削器・楔形石器・石刃	立川ローム層下部～立川ローム層最上部で4枚の文化層を確認した。第2黒色帯から，石刃石器群を含む大規模な集中地点を検出し，多数の接合資料が得られた。ソフトロームから，「砂川期」の石刃石器群が発見されている。

千葉県教育振興財団調査報告第536集

千原台ニュータウンXV

－市原市押沼大六天遺跡（下層）－

平成18年3月24日発行

編　集　財団法人　千葉県教育振興財団

発　行　独立行政法人都市再生機構
千葉地域支社
千葉県千葉市美浜区中瀬1-3
財団法人　千葉県教育振興財団
千葉県四街道市鹿渡809-2

印　刷　大和美術印刷株式会社
千葉県木更津市潮浜2-1-10